下ノ大窪遺跡

第二東名No.146地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-2

2008

中日本高速道路株式会社 財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

下ノ大窪遺跡

第二東名No.146地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-2

2008

中日本高速道路株式会社

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



縄文時代早期集落全景(南東より)



埋納された諸磯b式土器



打越式土器

第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査によって多くの遺跡が発掘 されました。裾野市では昨年度、佛ヶ尾遺跡の調査成果が報告されたばかりで すが、隣に所在する下ノ大窪遺跡の成果もここに報告させていただくことにな りました。これまでにも知られてきた通り、愛鷹山麓地域では旧石器時代か ら縄文時代の遺跡が数多く発見されています。同じ時代、同じ時期の遺跡は、 日本列島はもちろん愛鷹山麓地域でも大量に発見されていますが、しかし個々 の遺跡には、一口に同じ時期だと言いにくいと感じるほど、それぞれ違った性 格があります。この下ノ大窪遺跡もそのような遺跡のひとつであります。かつ てそこに暮らした人々の生活の全体像を詳らかにするためには、場所によって 違う個性的な遺跡を関係づける作業が欠かせません。わたしたちは、常にこう した作業を念頭におきながら、発掘調査と整理報告を行っています。本遺跡の 調査成果は、愛鷹山麓地域を舞台とした歴史の一部に過ぎませんが、さりとて 無視することのできない重要な情報をもっているはずです。この一連の調査成 果が、優れた研究者の方々のみならず、広く一般の人々の目に触れ、地域の歴 史をより深く考える材料の一つとなることを祈念してやみません。最後になり ましたが、中日本高速道路株式会社横浜支社、静岡県教育委員会ほか、各関係 諸機関のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

平成20年3月

例 言

- 1. 本書は静岡県裾野市大畑字下ノ大窪他に所在する下ノ大窪遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 本調査は平成15・16年度第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本道路高速 道路株式会社横浜支社沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法 人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成15年4月から同年5月まで行った確認調査の結果を受け、同年 6月から平成17年3月まで実施した。
- 3. 整理作業は、平成17年4月から平成20年3月まで実施した。
- 4. 調査体制は以下の通りである。

平成15年度(確認調査・本調査 I 期)

所長 斎藤忠

副所長 飯田英夫

常務理事 粂田徳幸

調査研究部長 山本昇平 調査研究一課長 中嶋郁夫 主任調査研究員 前嶋秀張

調査研究員 中村雅昭

平成16年度(本調査Ⅱ期)

所長 斎藤忠

副所長 飯田英夫

常務理事 平松公夫

調査研究部長 山本昇平 調査研究一課長 中嶋郁夫

主任調査研究員 前嶋秀張 柴田睦

調査研究員 岩崎しのぶ 成田修一 稲葉渉

平成17年度(整理作業)

所長 斎藤忠

常務理事 平松公夫 調査研究部長 石川素久

調査研究一課長 中嶋郁夫 主任調査研究員 前嶋秀張 調査研究員 岩崎しのぶ

平成18年度(整理作業)

所長 斎藤忠

常務理事 平松公夫

調査研究部長 石川素久

調査研究部次長 佐野五十三 調査研究部次長兼課長 及川司

調査研究部係長 前嶋秀張 中鉢賢治

調査研究員 岩崎しのぶ

平成19年度(整理作業)

所長 斎藤忠

常務理事兼事務局長 清水哲 総務課長兼事務局次長 大場正夫

事務局次長兼調查課長 及川司 事務局次長 佐野五十三 稲葉保幸

調查課係長 笹原千賀子 常勤嘱託員 阿部敬

5. 現地作業においては、掘削業務、測量業務を以下の業者に委託した。

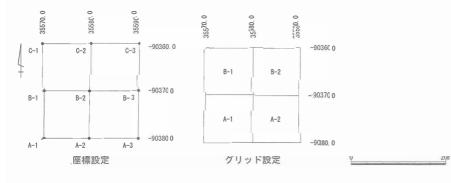
平成15年度(確認調査) 掘削業務(株)静山園 測量業務(株)岡三リビック 平成15年度(本調査 I 期)掘削業務(株)河西建設 測量業務(株)岡三リビック 平成16年度(本調査Ⅱ期)掘削業務(株)河西建設 測量業務(株)岡三リビック

- 6.黒曜石の蛍光X線分析は望月明彦氏(独立行政法人沼津工業高等専門学校教授)に委託した。その 分析結果は附編に収録した。
- 7. 炭化物の放射性炭素年代測定は(株)加速器分析研究所に委託した。その分析結果は附編に収録し
- 8. 木質資料の樹種同定は(株)パレオ・ラボに委託した。その分析結果は附編に収録した。
- 9. 石器実測及びトレースは(株)シン技術コンサルに委託したものと、静岡県埋蔵文化財調査研究所 で行ったものがある。

- 10. 本書の編集は阿部と岩崎が行った。執筆分担は以下の通りである。 第1章 及川司・野田正人 (2007を改変)、第2章 阿部、第3章 岩崎、第4章 阿部、 第5章 阿部、第6章 岩崎、第7章 阿部
- 11. 発掘調査および整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。 安斎正人 池谷信之 尾田織好 国武貞克 小崎晋 佐藤宏之 澁谷昌彦 下島健弘 戸田哲也 中村雄紀 役重みゆき (五十音順・敬称略)。
- 12. 発掘調査資料はすべて静岡県教育委員会が保管している。

凡例

- 1. 調査区の方眼設定は、国土座標(日本測地系平面直角座標㎞系)を基準に、国土座標 (-90380.35570)=(A.1) と設定した(座標は平成15年度改訂以前の旧座標を使用している)。グリッドは10 m×10mで、各グリッドの呼称は、該当グリッド南西角の座標名称を採用している。下図を参照のこと。
- 2. 出土遺物は5桁の通し番号を付して取り上げ、これを遺物番号とした。報告書中の掲載番号とは同一でない。遺物番号と掲載番号の対応関係は各章の出土石器属性表を参照。
- 3. 石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。
- 4. 出土遺物の縮尺は、原則として、土器が1/2、剥片石器類と石核が4/5、礫石器類が1/3とした。但しこれと異なる場合は別に縮尺を付した。
- 5. 出土遺物以外の縮尺は各図に付した。
- 6. 本文中もしくは観察表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』(農林水産省技術 会議事務局監修1992) に準拠した。
- 7. 石器のブロックは、個体別資料や接合資料の検討と無関係に、5点以上の石器が集中して検出されていることを原則として設定した。ブロック番号は、旧石器時代第 I 文化層から第 V 文化層までに、通し番号を用いた。
- 8. 本文中の遺構に関する略号表記は以下のとおり。
 - RG: 礫群 SY: 集石 PF: 土坑 SB: 竪穴住居跡 TA: 竪穴住居状遺構 FP: 焼土 CB: 炭化物集中
- 9. 石器石材は森嶋富士夫が岩石学的に分類した。岩石名および黒曜石産地の略号については次頁の表を参照。
- 10. 層位名の略号は「第3章 基本層序と文化層」を参照。



石材略号凡例

岩石和名	岩石英名	略号
角閃石安山岩	Hornblade-Andesite	An (Ho)
輝石安山岩	Pyroxene-Andesite	An (Py)
アプライト	Aplite	Ap
玄武岩	Basalt	Ва
チャート	Chert	Ch
結晶片岩	Crystalline Schist	CSc
砂岩(粗粒)	Corse Sandstone	CSS
デイサイト	Dacite	Da
閃緑岩	Diorote	Di
輝緑岩	Diabase	Dia
細粒安山岩	Fine Andesite	FAn
細粒斑レイ岩	Fine Gabbro	FG
砂岩 (細粒)	Fine Sandstone	FSS
細粒凝灰岩	Fine Tuff	FT
斑レイ岩	Gabbro	Ga
ガラス質黒色安山岩	Grassy black Andesite	GAn
緑色凝灰岩	Green Tuff	GT
硬質細粒凝灰岩	Hard Fine Tuff	HFT
ホルンフェルス	Hornfels	Hor
ホルンフェルス(凝灰質)	Tuff-Hornfels	Hor(Tu)

岩石和名	岩石英名	略号
硬質頁岩	Hard Shale	HS
硬質砂岩	Hard Sandstone	HSS
火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	LT
砂岩 (中粒)	Medium Sandstone	MSS
黒曜石	Obsidian	Ûb
石英	Quartz	Qt
水晶	Rock Crystal	RC
流紋岩	Rhyolite	Rhy
赤玉	Red Jasper	RJa
赤色頁岩	Red Shale	RSh
頁岩	Shale	Sh
石英岩	Silexite	Si
珪質頁岩	Síliceous Shale	SSh
珪質粘板岩	Siliceous Slate	SSI
輝緑凝灰岩	Schalstein	Sst
滑石	Talc	Та
凝灰岩	Tuff	Tu
多孔質安山岩	Vesicular Andesite	VAn
多孔質玄武岩	Vesicular Basalt	VBa

黒曜石分類群

AGKT	天城柏峠群				
KZOB	神津島恩馳島群				
TSTY	蓼科冷山群				
HNHJ	箱根畑宿群				

HNKI	箱根黒岩橋群	
SWHD	諏訪星ヶ台群	
WDTY	和田鷹山群	
WDKB	和田小深沢群	

目次

巻頭写真 序 例言・凡例 目次	
第1章 調査概要	
第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2節 調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
I 調査の方法 ······	2
2 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第3節 報告書の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第 2 章 遺跡環境 第 1 節 遺跡の立地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3章 基本層序と文化層	
1 堆積状況 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
2 基本層序	
3 層序と文化層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
第4章 旧石器時代の遺構と遺物	
概要	
第Ⅰ節 第Ⅰ文化層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
概要	
1 石器集中 •••••	
2 出土石器の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3 接合資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4 礫群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節 第Ⅱ文化層	
概要	31

 1 石器集中
 31

 2 出土石器の検討
 35

 3 接合資料
 38

 4 礫群
 38

 第 3節 第Ⅲ文化層
 42

 概要
 42

 1 石器集中
 42

2 出土石器の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3 接合資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
4 礫群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
第 4 節 第IV文化層 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	78
概要	78
第5節 第Ⅴ文化層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	78
概要	78
1 石器集中 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	83
2 出土石器の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
3 接合資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
4 礫群	84
第5章 縄文時代の遺構と遺物	
概要 ••••••	95
第 l 節 土器分類 ······	103
第 2 節 縄文時代草創期 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	105
概要	105
第3節 縄文時代早期 •••••••	106
概要	106
1 竪穴住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	106
2 竪穴住居状遺構	168
3 遺構外出土土器	185
第 4 節 縄文時代前期 ······	225
概要	225
1 土器埋納土坑 ************************************	225
2 遺構外出土土器	229
第 5 節 縄文時代中期・後期 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	241
概要	241
1 Ⅲ群 縄文時代中期の土器 ····································	241
2 IV群 縄文時代後期の土器 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	241
第6節 その他の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	243
l 集石 ······	243
2 土坑 ······	270
3 焼土	275
第7節 遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	277
1 石器群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	277
2 出土石器の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	277
第6章 その他の時代の遺物	345
第7章 まとめ	
第 1 節 旧石器時代 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	347
第 2 節 縄文時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

附編

下ノ大窪遺跡(第二東名No. 146地点)黒曜石産地分析	(望月明彦) 357
年代測定結果報告書	(加速器分析研究所) · · · · · · 369
下ノ大窪遺跡(第二東名No. 146地点)出土炭化材の樹種同定	(植田弥生) · · · · · · · · · · · 375

写真図版

挿図目次

第1図	調査範囲 ・・・・・・ 3	第 30 図	第Ⅱ文化層ブロック7 石材別分布・・・・35
第2図	調査区グリッド配置 ・・・・・ 3	第31図	第Ⅱ文化層の石器群(1) ・・・・・・ 36
第 3 図	下ノ大窪遺跡と周辺の地形 ・・・・・・ 9	第 32 図	第Ⅱ文化層の石器群 (2) ・・・・・・・ 37
第 4 図	周辺遺跡の分布 ・・・・・・・・・・・ 10	第 33 図	第Ⅱ文化層の石器群(3) 接合資料・・39
第 5 図	遺跡の堆積状況・・・・・・・・・13	第 34 図	第Ⅱ文化層 礫分布 ・・・・・・・・・ 39
第 6 図	層序と文化層 ・・・・・・・・・・・ 14	第 35 図	第Ⅱ文化層の礫群・・・・・・・・・・・40
第7図	第 I 文化層 器種別分布 · · · · · 16	第 36 図	第Ⅲ文化層 器種別分布 · · · · · 43
第8図	第 I 文化層 石材別分布 · · · · · 17	第 37 図	第Ⅲ文化層 石材別分布 · · · · 43
第 9 図	第 I 文化層ブロック l 器種別分布 ・・・ 19	第 38 図	第Ⅲ文化層ブロック8 器種別分布・・・・44
第 10 図	第 I 文化層ブロック I 石材別分布 ・・・ 20	第 39 図	第Ⅲ文化層ブロック8 石材別分布・・・・45
第 11 図	第 I 文化層ブロック 2 器種別分布 ・・・ 21	第 40 図	第Ⅲ文化層ブロック8 接合資料分布・45
第 12 図	第 I 文化層ブロック 2 石材別分布 ・・・ 21	第 41 図	第Ⅲ文化層ブロック9 器種別分布・・・・4€
第13図	第 I 文化層ブロック 3 器種別分布 (上)	第 42 図	第Ⅲ文化層ブロック9 石材別分布・・・・46
	石材別分布(下) 22	第 43 図	第Ⅲ文化層ブロック9 接合資料分布・46
第14図	第 I 文化層ブロック 4 器種別分布 ・・・ 23	第 44 図	第Ⅲ文化層ブロック10 器種別分布 ・・・ 47
第 15 図	第 I 文化層ブロック 4 石材別分布 ・・・ 23	第 45 図	第Ⅲ文化層ブロック10 石材別分布 ・・・ 47
第16図	第 I 文化層ブロック 5 器種別分布 ・・・ 23	第 46 図	第Ⅲ文化層ブロック11 器種別分布 ・・・ 48
第17図	第 I 文化層ブロック 5 石材別分布 ・・・ 23	第 47 図	第Ⅲ文化層ブロック11 石材別分布 ・・・ 48
第 18 図	第 I 文化層の石器群 (1) ・・・・・・・ 25	第 48 図	第Ⅲ文化層ブロック11 接合資料分布・49
第19図	第 I 文化層の石器群 (2) ・・・・・・・ 26	第 49 図	第Ⅲ文化層ブロック12 器種別分布(上)
第20図	第 I 文化層の石器群 (3) 接合資料 ・・ 27		石材別分布(下) 50
第21図	第 I 文化層の石器群 (4) 接合資料 ・・ 28	第50図	第Ⅲ文化層ブロック12 接合資料分布・51
第22図	第 I 文化層の石器群 (5) 接合資料・・29	第51図	第Ⅲ文化層ブロック13 器種別分布 ・・・ 52
第23図	第 I 文化層 礫分布 ····· 30	第 52 図	第Ⅲ文化層ブロック13 石材別分布 ・・・ 53
第24図	第 I 文化層の礫群 ・・・・・・ 30	第 53 図	第Ⅲ文化層ブロック13 接合資料分布・54
第25図	第Ⅱ文化層 器種別分布 ・・・・・・・ 32	第 54 図	第Ⅲ文化層ブロック14 器種別分布 ・・・ 55
第26図	第Ⅱ文化層 石材別分布 ・・・・・・ 32	第 55 図	第Ⅲ文化層ブロック14 石材別分布・・・ 55
第27図	第Ⅱ文化層ブロック6 器種別分布・・・・33	第 56 図	第皿文化層ブロック15 器種別分布 ・・・ 56
第 28 図	第Ⅱ文化層ブロック6 石材別分布・・・・34	第 57 図	第Ⅲ文化層ブロック15 石材別分布 ・・・ 56
第 29 図	第Ⅱ文化層ブロック7 器種別分布・・・・35	第 58 図	第Ⅲ文化層の石器群 (1) ・・・・・・・ 57

第59図	第Ⅲ文化層の石器群(2)・・・・・・・・・・5	58	第95図	縄文時代の土器型式別分布(5)	
第60図	第Ⅲ文化層の石器群(3)・・・・・・・・・・ 5	59		早期 ・・・・・・・・・・]	11
第61図	第Ⅲ文化層の石器群 (4) ・・・・・・・・・・ 6	60	第96図	2 号竪穴住居跡の検出状況 ・・・・・・ I	.12
第62図	第Ⅲ文化層の石器群 (5) ・・・・・・・・・ 6	61	第 97 図	2 号竪穴住居跡の遺物分布 ・・・・・・・ 1	.13
第 63 図	第Ⅲ文化層の石器群 (6) ・・・・・・・・・・6	62	第 98 図	2 号竪穴住居跡の遺物接合状況 ・・・・・ I	14
第64図	第Ⅲ文化層の石器群(7)・・・・・・・・・・6	63	第99図	2 号竪穴住居跡に伴う遺物 (I)・・・・・ I	115
第65図	第Ⅲ文化層 接合資料分布 ・・・・・・・・・・ 6	35	第100図	2 号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・ I	16
第66図	第Ⅲ文化層の石器群(8) 接合資料・・6	66	第101図	2 号竪穴住居跡に伴う遺物 (3)・・・・・1	.17
第67図	第Ⅲ文化層の石器群(9) 接合資料・・6	67	第102図	2 号竪穴住居跡に伴う遺物 (4)・・・・・1	.18
第 68 図	第Ⅲ文化層の石器群(10) 接合資料・・・6	88	第103図	2 号竪穴住居跡に伴う遺物 (5)・・・・・ 1	.19
第69図	第Ⅲ文化層の石器群(11) 接合資料・・・6	69	第104図	2号竪穴住居跡に伴う遺物 (6)・・・・・ I	.20
第70図	第Ⅲ文化層の石器群(12) 接合資料・・・7	70	第105図	2号竪穴住居跡に伴う遺物 (7)・・・・・ I	21
第71図	第Ⅲ文化層の石器群(13) 接合資料・・・7	71	第106図	2号竪穴住居跡に伴う遺物(8)・・・・・ I	.22
第72図	第Ⅲ·Ⅳ文化層 礫接合資料分布 ····· 7	73	第107図	3 号竪穴住居跡の検出状況(上)と	
第73図	第Ⅲ文化層の礫群(1)・・・・・・・・ 7	74		遺物分布 (下)	.23
第74図	第Ⅲ文化層の礫群 (2) ・・・・・・・・・ 7	75	第108図	3 号竪穴住居跡の接合状況 ・・・・・・・・ 1	.24
第75図	第Ⅲ文化層の礫群(3)・・・・・・・・ 7	76	第109図	3 号竪穴住居跡に伴う遺物 (1)・・・・・ 1	.25
第76図	第Ⅲ文化層の礫群 (4) ・・・・・・・・ 7	77	第110図	3 号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・ I	.26
第77図	第IV文化層の礫群・・・・・・・・ 7	78	第111図	4 号竪穴住居跡の検出状況 ・・・・・・・ 1	.27
第 78 図	第V文化層 器種別分布 · · · · · · · · · 7	79	第112図	4 号竪穴住居跡の遺物分布 ・・・・・・・ 1	28
第79図	第V文化層 石材別分布 ······ 8	30	第113図	6 号竪穴住居跡の検出状況(上)と	
第80図	第V文化層ブロック16 器種別分布・・・・ 8	31		遺物接合状況(下)・・・・・・・・ [29
第81図	第V文化層ブロック16 石材別分布・・・・ 8	31	第114図	6 号竪穴住居跡に伴う遺物 ・・・・・・・ I	30
第82図	第V文化層ブロック17 器種別分布・・・ 8	32	第115図	8号竪穴住居跡の検出状況(上)と	
第83図	第V文化層ブロック17 石材別分布・・・ 8	32		遺物接合状況 (下) ・・・・・・・・・1	31
第84図	第V文化層の石器群 (1) ・・・・・・・・・ 8	35	第116図	8号竪穴住居跡に伴う遺物(1)・・・・・1	.32
第85図	第V文化層の石器群 (2) ・・・・・・・・・・ 8	36	第117図	8号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・1	.33
第86図	第V文化層の石器群 (3) ・・・・・・・・・ 8	37	第118図	10号竪穴住居跡の検出状況・・・・・・・・1	34
第87図	第V文化層 礫分布 ······ 8	37	第119図	10号竪穴住居跡の遺物接合状況 ・・・・・ I	.35
第88図	縄文時代の遺構分布(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98	第120図	10号竪穴住居跡に伴う遺物 (1)・・・・・ I	36
第89図	有舌尖頭器の分布・・・・・・・・・・・・ [[)5	第121図	10号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・ 1	.37
第90図	縄文時代の遺構分布 (2)		第122図	12号竪穴住居跡の検出状況(上)と	
	竪穴住居跡・竪穴住居状遺構・・・・・・ 10	06		遺物接合状況(下)・・・・・・・・・・・・	.38
第91図	縄文時代の土器型式別分布(1)		第123図	12号竪穴住居跡に伴う遺物 ・・・・・・・ [.39
	早期····· IC)7	第124図	14号竪穴住居跡の検出状況 ・・・・・・・ [40
第92図	縄文時代の土器型式別分布(2)		第125図	14号竪穴住居跡の遺物分布・・・・・・・・ [.41
	早期・・・・・・・・・・・・ 10)8	第126図	14号竪穴住居跡の接合状況・・・・・・・・ [.42
第93図	縄文時代の土器型式別分布(3)		第127図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (1)・・・・・ し	43
	早期・・・・・・・・・ 10	9	第128図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・ し	44
第94図	縄文時代の土器型式別分布(4)		第129図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (3)・・・・・ [45
	早期	0	第130図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (4)・・・・・ [46
			第131図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (5)・・・・・ [47

第132図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (6) ・・・・・ 148	第163図	早期土器群 (4)
第133図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (7) ・・・・・ 149	第164図	早期土器群 (5) 190
第134図	14号竪穴住居跡に伴う遺物 (8) ・・・・・ 150	第165図	早期土器群 (6)191
第135図	15号竪穴住居跡の検出状況(上)と	第166図	早期土器群 (7)192
	遺物接合状況 (下) 151	第167図	早期土器群 (8) 193
第136図	15号竪穴住居跡に伴う遺物 (1)・・・・・ 152	第168図	早期土器群 (9) 195
第137図	15号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)・・・・・ 153	第169図	早期土器群 (10) 196
第138図	15号竪穴住居跡に伴う遺物 (3)・・・・・ 154	第170図	早期土器群 (11) 197
第139図	18号竪穴住居跡の検出状況(上)と	第171図	早期土器群 (12) 198
	遺物分布(下) および出土石器 ・・・・・・ 155	第172図	早期土器群 (13) 199
第140図	19号竪穴住居跡の検出状況 ・・・・・・・ 156	第173図	早期土器群 (14) 200
第141図	19号竪穴住居跡の遺物分布(左)と	第174図	早期土器群 (15) 201
	接合状況(右) 156	第175図	早期 上器群 (16) 202
第142図	19号竪穴住居跡に伴う遺物(1)・・・・・ 157	第176図	早期土器群 (17) 203
第143図	19号竪穴住居跡に伴う遺物 (2) ・・・・・ 158	第177図	早期土器群 (18) 204
第144図	2号竪穴住居状遺構の検出状況と	第178図	早期土器群 (19) 205
	遺物接合状況 · · · · · 168	第179図	早期土器群 (20) 206
第145図	2号竪穴住居状遺構に伴う遺物(1)・169	第180図	早期土器群 (21) 207
第146図	2号竪穴住居状遺構に伴う遺物 (2)・170	第181図	早期土器群 (22) 208
第147図	2号竪穴住居状遺構に伴う遺物 (3)・171	第182図	早期土器群 (23) 209
第148図	3号竪穴住居状遺構の検出状況と	第183図	早期土器群 (24) 210
	遺物接合状況 172	第184図	早期土器群 (25) ・・・・・・・・・ 211
第149図	3号竪穴住居状遺構に伴う遺物 (1)・173	第185図	早期土器群 (26) ・・・・・・・・・ 212
第150図	3号竪穴住居状遺構に伴う遺物 (2)・174	第186図	早期土器群 (27) 213
第151図	4 号竪穴住居状遺構の検出状況と	第187図	早期土器群 (28) 214
	遺物接合状況175	第188図	早期土器群 (29) 215
第152図	4号竪穴住居状遺構に伴う遺物(1)・176	第189図	早期土器群 (30) 216
第153図	4号竪穴住居状遺構に伴う遺物(2)・177	第190図	早期土器群 (31) 217
第154図	4号竪穴住居状遺構に伴う遺物(3)・178	第191図	早期土器群 (32) 218
第155図	5 号竪穴住居状遺構の検出状況と	第192図	早期土器群 (33) 219
	遺物分布	第193図	早期土器群 (34) 220
第156図	5 号竪穴住居状遺構に伴う遺物 ・・・・・ 179	第194図	早期土器群 (35) 221
第157図	6 号竪穴住居状遺構の検出状況と	第195図	縄文時代の土器型式別分布(6)
	遺物接合状況 · · · · · 180		前期 ・・・・・・・・・・・ 225
第158図	6 号竪穴住居状遺構に伴う遺物(1)・180	第196図	土坑の検出状況 (1) 7号 225
第159-1図	3 6 号竪穴住居状遺構に伴う遺物	第197図	7号土坑に伴う遺物 (1) ・・・・・・ 227
	(2)	第198図	7号土坑に伴う遺物 (2) ・・・・・・ 228
第159-2図	3 6 号竪穴住居状遺構に伴う遺物	第199図	前期土器群 (I) · · · · · 230
	(3) 182	第200図	前期土器群(2) 231
第160図	早期土器群 (1) 186	第201図	前期土器群 (3) 232
第161図	早期土器群 (2) 187	第202図	前期土器群 (4) 233
第162図	早期土器群 (3) 188	第203図	前期土器群 (5)234

第204図	前期土器群(6)	235	第240図	縄文時代の石器器種別分布
第205図	前期土器群 (7) ······	236		(黒曜石、礫・礫石器を除く)・・・・・・ 279
第206図	前期土器群 (8) ·····	237	第241図	縄文時代の石器石材別分布
第207図	前期土器群 (9) ·····	238		(黒曜石、礫・礫石器を除く)・・・・・・ 280
第208図	前期土器群 (10) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	239	第242図	縄文時代の黒曜石製石器器種別分布
第209図	前期土器群 (11)	240		(産地分析済み) ・・・・・・・・・ 281
第210図	縄文時代の土器型式別分布(7)		第243図	縄文時代の黒曜石製石器産地別分布
	中期・後期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	241		(産地分析済み) ・・・・・・・・・ 282
第211図	中期・後期土器群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	242	第244図	縄文時代の黒曜石製石器器種別分布
第212図	縄文時代の礫分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	244		(産地未分析) 283
第213図	縄文時代の集石・土坑分布 ・・・・・・・・・・・	245	第245図	縄文時代の石器(1)
第214図	集石の検出状況 (1) 1-3号 ・・・・・・	246		有舌尖頭器・石鏃 ・・・・・・・ 284
第215図	集石の検出状況 (2) 4・5号・・・・・・	247	第246図	縄文時代の石器(2)
第216図	集石の検出状況 (3) 6・7号・・・・・・	250		有舌尖頭器・石鏃・有茎石鏃・石匙 ・・ 286
第217図	集石の検出状況 (4) 8-10号 ・・・・・・	251	第247図	縄文時代の石器 (3)
第218図	集石の検出状況 (5) 11-13号 ・・・・・・	252		石匙・削器類 ・・・・・・・ 287
第219図	集石の検出状況 (6) 14号 ・・・・・・・・・・	253	第248図	縄文時代の石器 (4)
第220図	集石の検出状況 (7) 15号 ・・・・・・・・・・	254		削器類 288
第221図	集石の検出状況 (8)		第249図	縄文時代の石器 (5) 削器類 289
	16・18・20・21・23-25号	255	第250図	縄文時代の石器 (6) 削器類 ・・・・・・・ 290
第222図	集石の検出状況 (9) 17・19・22号・・	256	第251図	縄文時代の石器 (7)
第223図	集石の検出状況 (10) 26号 ・・・・・・・・・・	257		削器類・錐・楔形石器 ・・・・・・・・・・ 291
第224図	集石の検出状況 (11) 27-30号 ・・・・・・	258	第252図	縄文時代の石器 (8) 楔形石器 ・・・・・ 292
第225図	集石の検出状況 (12) 31・35号・・・・・・	259	第253図	縄文時代の石器 (9) 使用痕剥片 ・・・・ 293
第226図	集石の検出状況 (13)		第254図	縄文時代の石器 (10)
	32-34・36・37号 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	260		二次加工剥片・使用痕剥片 ・・・・・・・ 294
第227図	集石に伴う土器 (1)	261	第255図	縄文時代の石器(11)二次加工剥片 ・・ 295
第228図	集石に伴う土器 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	262	第256図	縄文時代の石器 (12)
第229図	集石に伴う土器 (3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	263		石核 296
第230図	集石に伴う石器 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	264	第257図	縄文時代の石器 (13) 石核 ・・・・・・・ 297
第231図	集石に伴う石器 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	265	第258図	縄文時代の石器 (14)
第232図	集石・土坑・焼土に伴う石器・・・・・・・	266		石核・剥片・楔形石器 298
第233図	集石に伴う石器 (3) ・・・・・・・・・・・・	267	第259図	縄文時代の石器 (15)
第234図	土坑の検出状況 (2)			剥片・搬入石材・打製石斧・・・・・・ 299
	4 · 6 · 8 · 10号 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	271	第260図	縄文時代の石器 (16) 打製石斧・・・・・・ 300
第235図	土坑の検出状況 (3)		第261図	縄文時代の石器 (17) 打製石斧 ・・・・・・ 301
	2 · 11-13 · 20号 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	272	第262図	縄文時代の石器 (18) 礫器 ・・・・・・ 302
第236図	土坑の検出状況 (4) 5・15・16号・・	273	第263図	縄文時代の石器 (19) 敲石 303
第237図	土坑の検出状況 (5) 3・14・17号・・	274	第264図	縄文時代の石器 (20) 敲石 304
第238図	焼土の検出状況 13・15・16号 ・・・・・・	275	第265図	縄文時代の石器 (21)
育239図	縄文時代の石器器種別分布 (礫石器)・	278		敲石・磨-敲石・・・・・・・ 305

第266図	縄文時代の石器 (22)	第271図	縄文時代の石器 (27) 石皿 ・・・・・・・ 311
	磨-敲石・磨石・・・・・・・・・ 306	第272図	縄文時代の石器 (28) 石皿・台石 ・・・・ 312
第267図	縄文時代の石器 (23)	第273図	縄文時代の石器 (29) 垂飾 ・・・・・・・ 313
	磨石・凹石・敲石・磨-敲石・・・・・・ 307	第274図	土師器 · · · · · 345
第268図	縄文時代の石器 (24) 石皿 ・・・・・・ 308	第275図	下ノ大窪遺跡における旧石器時代から
第269図	縄文時代の石器 (25) 石皿 ・・・・・・ 309		縄文時代の主要石器群の編年 ・・・・・・ 348
第270図	縄文時代の石器 (26) 石皿 ・・・・・・ 310	第276図	縄文時代 調査区東部の石器 ・・・・・・ 352

挿表目次

表I	旧石器時代各文化層の棚	观要 ·····	15	表30	調査区全体	石器石材組成	• 95
表 2	第 I 文化層 石器石材和	」成	18	表31	竪穴住居跡内	石器石材組成	• 97
表 3	第I文化層ブロックI	石器石材組成 · · · ·	20	表32	竪穴住居跡内	黒曜石製石器産地別組成	97
表 4	第Ⅰ文化層ブロック2	石器石材組成 · · · ·	21	表33	各竪穴住居跡	内 石器石材組成(I) ··	99
表 5	第Ⅰ文化層ブロック3	石器石材組成 · · · ·	21	表34	各竪穴住居跡	内 石器石材組成(2) ・・	• 100
表 6	第 I 文化層ブロック 4	石器石材組成 · · · ·	24	表35	竪穴住居跡外	石器石材組成	• 101
表 7	第 I 文化層ブロック 5	石器石材組成 · · · ·	24	表36	竪穴住居跡外	- 黒曜石製石器産地別組成	• 102
表 8	第Ⅰ文化層ブロック外	石器石材組成 · · · ·	24	表37	竪穴住居跡属	性 •••••	• 158
表 9	第Ⅱ文化層 石器石材組	且成 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	31	表38	竪穴住居跡出	土土器属性	• 159
表10	第Ⅱ文化層ブロック 6	石器石材組成 · · · ·	33	表39	竪穴住居跡出	土石器属性	• 166
表II	第Ⅱ文化層ブロック 7	石器石材組成 · · · ·	35	表40	竪穴住居状遺	構属性	· 182
表12	第Ⅱ文化層ブロック外	石器石材組成 · · · ·	35	表41	竪穴住居状遺	構出土土器属性	• 182
表13	第Ⅲ文化層 石器石材組	」成 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	42	表42	竪穴住居状遺	構出土石器属性	· 184
表14	第Ⅲ文化層ブロック8	石器石材組成 · · · ·	44	表43	7号土坑の属	<u>⊭</u> ·····	• 226
表15	第Ⅲ文化層ブロック9	石器石材組成 · · · ·	46	表44	7号土坑出土	土:器属性 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	226
表16	第Ⅲ文化層ブロック10	石器石材組成 · · · ·	48	表45	集石属性 · · ·	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• 268
表17	第Ⅲ文化層ブロック11	石器石材組成 · · · ·	48	表46	集石出土土器	属性	268
表18	第Ⅲ文化層ブロック12	石器石材組成 · · · ·	51	表47	土坑属性 •••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	275
表19	第Ⅲ文化層ブロック13	石器石材組成 · · · ·	51	表48	焼土属性		<u>275</u>
表20	第Ⅲ文化層ブロック14	石器石材組成 · · · ·	54	表49	集石・土坑・	焼土出土石器属性	276
表21	第Ⅲ文化層ブロック15	石器石材組成 · · · ·	56	表50	遺構外出土土	器属性	313
表22	第Ⅲ文化層ブロック外	石器石材組成 · · · ·	56	表51	遺構外出土石	器属性	339
表23	第V文化層 石器石材組	成 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	81	表52	縄文時代 遺	構・遺物の概要 ・・・・・・・・・・・	349
表24	第V文化層ブロック16	石器石材組成 · · · ·	81	表53	調査区西部	石器石材組成	350
表25	第V文化層ブロック17	石器石材組成 · · · ·	83	表54	調査区西部	礫石器石材組成	350
表26	第V文化層ブロック外	石器石材組成 · · · ·	83	表55	調査区西部	黒曜石製石器産地別組成 •••	351
表27	旧石器時代 掲載石器属	性	88	表56	調査区東部	石器石材組成	351
表28	礫群属性		92	表57	調査区東部	黒曜石製石器産地別組成	351
表29	調査区全体 黒曜石製石	器產地別組成 · · · ·	95	表58	調査区東部	礫石器石材組成 · · · · · · · ·	351

写真図版目次

巻頭図版 縄文時代早期集落全景(南東より)/埋納された諸磯b式土器/打越式土器

図版 1	第 I 文化層 石器検出状況 (1)・(2)	図版22	20号集石 21号集石 23号集石 24号集石
図版 2	第 I 文化層 石器検出状況 (3)		25号集石 27号集石 28号集石 29号集石
	第 I 文化層 礫群検出状況(1)・(2)	図版23	26号集石 30号集石
図版 3	第Ⅱ文化層 礫群検出状況(1)・(2)・(3)	図版24	32号集石 33号集石 34号集石 36号集石
図版 4	第Ⅲ文化層 石器検出状況		37号集石 17号集石 22号集石 31号集石
	第Ⅲ文化層 礫群検出状況(1)	図版25	19号集石 19号集石完掘状况 35号集石
図版 5	第Ⅲ文化層 礫群検出状況(2)・(3)		35号集石完掘状況
図版 6	第Ⅲ文化層 礫群検出状況(4)・(5)	図版26	4号土坑 6号土坑 8号土坑 10号土坑
図版7	第Ⅲ文化層 礫群検出状況 (6)・(7)		2 号土坑 11号土坑 12号土坑 13号土坑
図版 8	第Ⅲ文化層 礫群検出状況(8)・(9)	図版27	20号土坑 5号土坑 15号土坑 16号土坑
図版 9	第Ⅲ文化層 礫群検出状況 (10)		3 号土坑 17号土坑 14号土坑
	第V文化層 礫群検出状況	図版28	7号土坑遺物出土状況(1)・(2)
図版10	2 号竪穴住居跡遺物出土状況	図版29	第I文化層出土石器・接合資料
	2号竪穴住居跡完掘状況	図版30	第Ⅱ文化層出土石器・接合資料
図版11	3 号竪穴住居跡完掘状況	図版31	第Ⅲ文化層出土石器 (1)
	4号竪穴住居跡完掘状況	図版32	第Ⅲ文化層出土石器 (2)
図版12	6 号竪穴住居跡遺物出土状況	図版33	第Ⅲ文化層接合資料
	6 号竪穴住居跡完掘状況	図版34	第V文化層出土石器
図版13	8 号竪穴住居跡遺物出土状況	図版35	2号竪穴住居跡出土土器(1)・(2)
	8 号竪穴住居跡完掘状況	図版36	2号竪穴住居跡出土土器(3)
図版14	10号竪穴住居跡完掘状況		3 号竪穴住居跡出土土器
	12号竪穴住居跡完掘状況	図版37	6・8・10号竪穴住居跡出土土器
図版15	14号竪穴住居跡遺物出土状況		14号竪穴住居跡出土土器 (1)
	14号竪穴住居跡完掘状況	図版38	14号竪穴住居跡出土土器 (2)・(3)
図版16	15号竪穴住居跡完掘状況		15号竪穴住居跡出土土器 (1)・(2)
	縄文時代遺構検出状況		19号竪穴住居状遺構出土土器 (1)・(2)
図版17	19号竪穴住居跡遺物出土状況	図版39	2号竪穴住居状遺構出土土器(1)・(2)
	19号竪穴住居跡完掘状況		3 号竪穴住居状遺構出土土器
図版18	3号竪穴住居状遺構遺物出土状況		4 号竪穴住居状遺構出土土器(1)・(2)・(3)
	4 号竪穴住居状遺構遺物出土状況		14号集石出土土器
図版19	5 号竪穴住居状遺構遺物出土状況	図版40	集石出土土器
	6号竪穴住居状遺構遺物出土状況		7号土坑埋納土器 7号土坑出土土器
図版20	1-4号集石集合	図版41	I 群A類土器 I 群B類土器 I 群C類土器
	5号集石 6号集石 7号集石 8号集石	図版42	I 群F類土器 I 群H類土器 (1)・(2)
図版21	9 号集石 10号集石 11号集石 12・13号集	図版43	I 群H類土器 (3)·(4)
	石集合 14号集石 15号集石 16号集石 18	図版44	I 群H類土器 (5)・(6)
	号集石		

図版45	I 群H類土器 (7)	図版50	I 群K・L類土器 I 群K類土器 II 群A類
	I 群 I 類土器 I 群 J 類 2 種 - I 土器 (1)		土器
図版46	I 群 J 類 2 種- 1 土器 (2)・(3)	図版51	Ⅱ群B類土器 (1)・(2)
	I群J類2種-2土器(1)	図版52	II 群 B 類 土器 (3) · (4) · (5)
図版47	I群J類2種-2土器(2)	図版53	Ⅱ群B類土器(6)·(7) 土師器(表採資料)
	I群J類3種-1土器(1)		垂飾
図版48	I 群 J 類 3 種 - 1 土器 (2)	図版54	Ⅲ群土器
	I群J類3種-2土器	図版55	縄文時代遺構出上石器
	I 群 J 類 4 種 - I 土器	図版56	縄文時代遺構外出土石器 (1)
図版49	I群J類4種-2土器	図版57	縄文時代遺構外出土石器 (2)
	I 群 J 類 4 種 - 2 ・ 3 土器	図版58	縄文時代遺構外出土石器 (3)
	I 群 J 類 5 ・ 6 種土器	図版59	縄文時代遺構外出土石器 (4)
		図版60	縄文時代遺構外出土石器 (5)

第1章 調査概要

第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

混雑する東名・名神高速道路の抜本的な対策として昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。その後、第4次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道路建設法の一部改正等を経て、平成元年1月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において飛島村〜神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市に至る延長約270kmの第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170kmに及ぶ。この基本計画の策定を受けて静岡県は平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、教育委員会文化課もメンバーとして参加した。

その後、第二東名の基本計画については、文化財を含む環境影響調査等が行われ、ほかの公共事業や 地域開発計画との調整をはかった上、平成3年9月24日には静岡県長泉町~引佐町の都市計画決定告示 がなされた。

こうした環境影響調査と並行する形で、埋蔵文化財の分布状況の把握作業もなされている。第二東名建設に関する調査の指示を受けた日本道路公団は平成4年2月17日付けで文化庁へ通知を行うとともに、平成4年5月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、長泉町~引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。また、平成4年8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務局長から静岡県教区委員会教育長宛に、「第二東名自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けて県教育委員会は平成4年9月29日に関係市町村教育委員会を集めて第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。踏査結果については、各市町村教育委員会からの回答をもとに協議を行い、県教育委員会が取りまとめたものを平成5年3月18日付けで静岡県教育委員会教育長から日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所等宛に回答がなされている。この時点での調査対象箇所は136カ所、調査対象総面積が1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町~引佐町間については、平成5年11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について協議されるとともに、発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所へ委託することが確認された。しかしながら、第二東名建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が想定されるため調査体制をどのように確保するかが大きな課題となった。

さらに平成6年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年に示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告ととりまとめがなされた。こうした状況調査や新たな踏査結果をもとに見直しがされた結果、この段階での調査対象地点は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成7年度後半には、路線の一部では幅杭の打設が開始され、埋蔵文化財の調査の開始についてもかなり見通しが出てきた。こうした状況の中で、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いを協議する場として、日本道路公団静岡建設所(平成6年2月設置)と県教育委員会文化課による「第二東名関連

埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第1回の協議が平成7年12月13日に行われた。これ以降、細かい埋蔵文化財の取り扱いについてはこの会議で協議することとなった。なお、日本道路公団静岡建設所は平成8年7月1日をもって日本道路公団静岡建設局に改組された。

平成8年度には、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、平成8年度9月24日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての確認書を締結した。さらに調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた3者は平成8年9月25日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半には、掛川市倉真のNo.94地点、浜北市大平のNo.136地点およびNo.137地点の確認調査が実施された。その後、平成9年度からは、発掘調査も本格化し、県内各地において確認調査から順次着手した。

一方、長泉町〜御殿場市間についても日本道路公団に対し、平成9年1月31日付けで施行命令が出されている。この区間については、建設省の居合いにより平成6年度後半に踏査が行われ、調査対象地点のリストアップが行われたが、調査開始を受けて再度、平成10年9月2日付けで日本道路公団静岡建設局より静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされた。これをうけて、県教育委員会文化課は、関係する市町村教育委員会に平成10年9月25日付で再踏査の依頼をするとともに、10月2日には踏査の実施に関する打ち合わせを行った。11月上旬には長泉町、裾野市、御殿場市教育委員会から踏査結果についての報告がなされ、県教育委員会文化課がそれを取りまとめ、平成10年12月17日付けで県教育長から日本道路公団静岡建設局長宛の回答を行った。この区間で埋蔵文化財調査の対象となった箇所は21地点、調査総面積は108,734㎡であった。関係者協議の結果、これらの調査対象地点についても、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとし、平成11年3月5日付けで協定変更を行った。

なお、第二東名にかかる埋蔵文化財の調査は関係者協議の結果、基本的には本線およびサービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路および取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかないため、本線部分の一部についても沼津市や静岡市、浜北市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応していただくとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、裾野市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、下ノ大 窪遺跡(第二東名No.146地点)の調査も行われた(及川・野田)。

第2節 調査の方法と経過

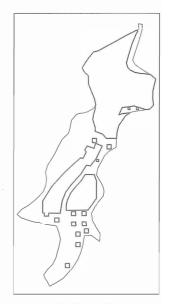
1 調査の方法(第2図)

道路工事の工程の関係上、調査対象地の東半部を平成16年度に引き渡すことになったため、上り線センターラインに沿って引き渡しラインを設定し、これを境に調査区を東半部と西半部に区分した。さらに調査区内を東西に縦断する裾野市道2143号線を境に、東半部の北側を1区、南側を2区とした。西半部についても同じ市道を境に、北側を3区、南側を4区とした。

調査区の方眼設定は、国家座標(日本測地系 平面直角座標第V皿系)旧基準(X. Y)= (-90380, 35570) 上を原点(A. 1) とし、X軸(南北)方向にアルファベット、Y軸(東西)方向にアラビア数字を付し、遺跡全体に10mの方眼を設定してグリッドとした。第二東名沼津工区内の遺跡を同一座標





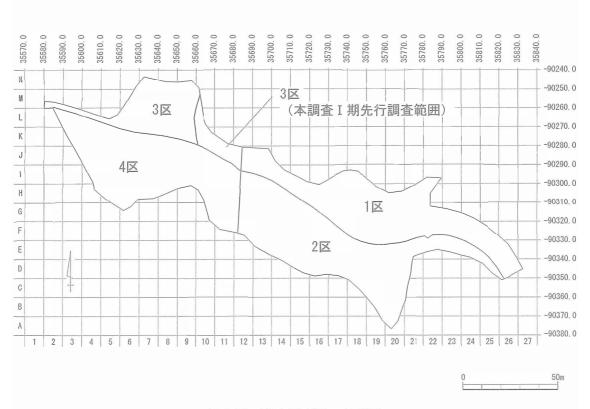


SC皿s1層上面

SC I 層上面

YLU層上面

第1図 調査範囲 (旧石器時代)



第2図 調査区グリッド配置

で管理する必要性から、すべての遺構、遺物に関しては、国家座標のX、Y座標と水準値を記録した。なお、本報告書では、調査区設定のための座標名称(例えば座標(X, Y)= (A, I))は、この座標を南西角とする I 辺10mの正方形のグリッド名称としても用いる。

2 調査の経過 (第1-5図)

確認調査

確認調査は調査区全域を対象として、平成15年4月に開始した。

調査区内にテストピット27箇所を設定した。設定した範囲内の樹根と表土を重機で除去した後、人力で掘削した。掘削後、各テストピットについて写真と図面による記録保存を行った。これらの作業終了後、同年5月に重機で埋め戻し作業を行い、確認調査を終了した。確認調査の結果、縄文時代と旧石器時代の遺構・遺物が出土したため本調査を行うことになった。

本調査 | 期

1・2区全体と3区の縄文時代遺構面までを本調査 I 期の調査対象地とした。平成15年6月から重機で1・2区の抜根と表土除去を行った。同月から人力掘削作業を開始した。表土直下にある縄文時代遺構面については全面を掘削し、遺構・遺物の調査及び写真と図面による記録保存を行った。旧石器時代に相当する休場層以下については、テストピットを10mグリッドごとに設定し、人力で掘削した。第皿黒色帯で遺構の分布が確認されたため、中間層を重機で除去した後、全面を第Ⅲスコリア層上面まで人力で掘削した。調査終了後、再びテストピットを10mグリッドごとに設定し、中部ローム上面まで人力で掘削した。掘削終了後、すべてのテストピットを10mグリッドごとに設定し、中部ローム上面まで人力で掘削した。掘削終了後、すべてのテストピットの記録保存を行った。11月から1・2区と並行して、3区の調査に着手した。重機で抜根と表土除去を行った後、1・2区と同様、表土直下にある縄文時代遺構面については全面を人力で掘削し、遺構・遺物の調査及び写真と図面による記録保存を行った。3区の休場層以下の調査は本調査 II 期の調査対象地としたが、裾野市道2143号線切り替え部分に含まれる範囲については、先行して本調査 I 期で調査を実施した。この範囲で休場層直下黒色帯と第Ⅲ黒色帯で旧石器時代の遺構を検出したため、各々の面で調査を実施した。掘削終了後、各遺構面でラジコンへリによる空中写真撮影を行った。重機で1・2区のテストピットを埋め戻して、平成16年3月に本調査 I 期の調査を終了した。

本調査 || 期

本調査II期の調査対象地は3区の市道切り替え部分以外の休場層以下と4区とした。4月に重機で4区の抜根と表土除去を行った。同月から人力掘削作業を開始した。縄文時代遺構面については1~3区と同じく調査区全域を人力で掘削した。これに並行して、3区はテストピットを10mグリッドごとに設定し、ニセローム層上面まで人力で掘削した。第I黒色帯で旧石器時代の礫群が確認されたため、中間層を重機で除去した後、全面をニセローム層上面まで人力で掘削した。掘削終了後、3区と4区を併せてラジコンへりによる空中写真撮影を行った。撮影終了後、4区は竪穴住居跡等の遺構・遺物の調査及び写真と図面による記録保存を実施した。3区はさらにテストピットを掘り進めたところ、第Ⅲ黒色帯で遺物が検出された。遺物が出土したテストピットの周辺の中間層を重機で除去した後、第Ⅲスコリア層上面まで人力で掘削した。すべての遺構・遺物、テストピットの調査と記録保存を実施し、9月で3区の調査は終了した。4区も9月から旧石器時代の調査に着手した。3区と同様、テストピットを10mでリッドごとに設定し、第Iスコリア層上面まで人力で掘削した。休場層中で遺構及び遺物が検出され

たテストピットは随時拡張して掘削した。休場層直下黒色帯で礫群が密に分布していることが明らかになったため、調査区の一部の中間層を重機で除去した後、全面を第Iスコリア層上面まで人力で掘削し、遺構・遺物の調査と記録保存を実施した。調査終了後、ラジコンへりによる空中写真撮影を行った。さらにテストピットを掘削すると、第皿黒色帯で遺物が検出されたため、中間層を重機で除去した後、全面を第皿スコリア層上面まで人力で掘削した。遺構・遺物の調査と記録保存の終了後、ラジコンへりによる空中写真撮影を行った。調査終了後、テストピットを中部ローム層上面まで掘削した。この後、4区中央部約1,000㎡の中間層を重機で除去した後、テストピット1箇所を設定し、中部ローム層以下の土層の堆積の確認を行った。すべてのテストピットの記録保存を実施し、平成17年3月に発掘調査の全工程を終了した。

第3節 報告書の作成

資料整理は平成17年4月から平成20年3月まで実施した。縄文時代の出土礫は集石遺構を構成するものに限り接合作業を実施した。黒曜石の産地分析は沼津高等専門学校の望月明彦氏に依頼して蛍光X線で行って頂いた。縄文時代遺物は製品類と一部の剥片と石核を、旧石器時代遺物は全点をそれぞれ対象にした。石器実測およびトレースは、礫石器類(磨石、敲石、石皿、台石等)と一部の剥片石器類を除き、株式会社シン技術コンサルに委託した。

第2章 遺跡環境

第1節 遺跡の立地

下ノ大窪遺跡はJR裾野駅から北西に約2.5㎞離れた裾野市大畑字下ノ大窪他に位置する。ここは富士山の南東、愛鷹山の東麓である。愛鷹山は約50~40万年前から活動を始め、約10万年前に活動を停止した火山である。その後、約8万年前から活動を開始した古富士火山の噴出物が堆積して愛鷹ローム層を形成し、約1万年前には新富士火山から大量の溶岩流が流出し、その後も火山灰が厚く堆積した。この古富士火山の活動期に数回の開析作用が起こり、その結果形成された樹根状の尾根の上に新富士火山の噴出物が覆い、現在の地形が造り上げられた。愛鷹ローム層は上部、中部、下部ローム層に分けられており、西は富士川、東は裾野市まで拡がっている。上部ローム層には旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在する。本遺跡はこのようにして形成された最大幅約60m程度の痩せ尾根の頂上部に立地し、標高は250~260mである。調査区の南北には、黄瀬川の支流によって形成された比高差40m程の開析谷が存在し、それぞれを挟んで佛ヶ尾遺跡(No.147地点)と老平遺跡(No.145地点)が立地している(第3回)。

第2節 周辺の遺跡

黄瀬川を挟んで左岸側に箱根山、右岸側に愛鷹山が形成する台地上に多くの遺跡が存在する。裾野市 にはまだ少ないが、本遺跡と同様の原因によって調査された遺跡で確認例が増加している(第4図)。

旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡としては、これまで上川遺跡(裾野市教育委員会編 1987a)や富沢平林遺跡が発掘事例として知られていたほかは、尾畑遺跡(裾野市教育委員会編 1987b)、丸山 II 遺跡(裾野市教育委員会編 1975)、屯屋遺跡(渡瀬 1990)、相生原遺跡(渡瀬 前掲)などで石器が僅かに回収されているに過ぎなかった。しかし最近になって、佛ヶ尾遺跡(第二東名No.147地点)(静岡県埋蔵文化財調査研究所編 2007)で6枚の文化層が確認された。第Ⅲ黒色帯(BBII)、第 I 黒色帯(BB II)、第 I スコリア帯(SC II)で、それぞれ削器類と剥片類、休場層スコリア 2(YLs 2)もしくは休場層下-中部(YLL-YLM)を掘り込み面とする土坑および礫群とナイフ形石器群、漸移層から富土黒色土(ZN-FB)から数点の尖頭器石器群が検出された。ただし、遺物数はそれぞれ大変少ない。整理中にある土-3遺跡、入ノ洞B遺跡(No.144-2地点)、内野山V遺跡(No.144-3地点)、老平遺跡(No.145地点)でも旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が重層的に検出されている。

縄文時代早期の遺跡は、千福小杉平第2遺跡(裾野市教育委員会編 1982)で早期前半の撚糸文土器の出土が報告されている。裾野市域では早期後半と前期の遺跡の分布が濃密であり、早期後半では上述の佛ヶ尾遺跡で6軒の住居跡のすべてで打越式土器ないしこれと並行・近接する型式の土器群が検出された。上川遺跡では16軒の竪穴住居跡が検出され、このうち2軒が縄文時代早期末のものであると報告されている。中畑遺跡(裾野市教育委員会編 前掲)でも竪穴住居跡を含む遺構が検出された。富沢内野山 I 遺跡(裾野市教育委員会編 前掲)では竪穴住居跡と推定される遺構が2基検出された。千福市場平第2遺跡(裾野市教育委員会編 前掲)も同時期であろう。打越式土器が検出された愛鷹山麓の遺

跡としては、以上の他、丸山遺跡、細野沢遺跡、長泉町野台遺跡、沼津市葛原沢第IV遺跡があげられる。 田場沢裏山遺跡では表面採集されている。また、箱根山西麓にある裾野市日向遺跡(裾野市教育委員会 編 1975)、三島市乾草峠遺跡(三島市教育委員会編 2005)、同打越遺跡、焼場遺跡(静岡県埋蔵文化 財調査研究所編 1994)、函南町上黒岩遺跡(函南町教育委員会編 1989)、同柳沢 B遺跡でも打越式土 器が出土している。

前期は、上川遺跡、中畑遺跡で継続して遺物が出土している他、細野沢遺跡(裾野市教育委員会編 1982)では竪穴住居跡5軒などで構成される前期後半の集落跡が検出された。また、市場平第1遺跡 (裾野市教育委員会編 1982)でもこの時期の土器が出土した。

中期は、市場平第1遺跡、細野沢遺跡で継続して遺物が出土する他、桃園入ノ洞遺跡、尾畑遺跡で遺物が出土している。尾畑遺跡では顔面把手付土器や翡翠製の大珠が出土しており、その特異性が注目されている(瀬川 1970)。

縄文時代後期から古墳時代については資料が乏しく、遺跡の実態は現在のところ不明である。約2800年前のカワゴ平・仙石火山の噴火や、約1700年前の砂沢火山の噴火が遺跡数減少の要因ともいわれている。

参考文献

函南町教育委員会編 1989 「上黒岩遺跡」「柳沢B遺跡」『函南スプリングスゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告 I』。

静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1994 『焼場遺跡 (A地点)』。

静岡県埋蔵文化財調査研究所編 2007 『佛ヶ尾遺跡』。

裾野市教育委員会編 1975 『裾野市日向・丸山Ⅰ・丸山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』。

裾野市教育委員会編 1978 『裾野市深良城ヶ尾遺跡発掘調査報告書』。

裾野市教育委員会編 1982 『裾野市千福市場平第1・第2 小杉平第1・第2 細野沢遺跡』。

裾野市教育委員会編 1986 『裾野市大畑中畑遺跡発掘調査報告書』。

裾野市教育委員会編 1987a 『上川遺跡』。

裾野市教育委員会編 1987b 『裾野市富沢内野山遺跡緊急発掘調査略報 中畑遺跡発掘調査報告書』。

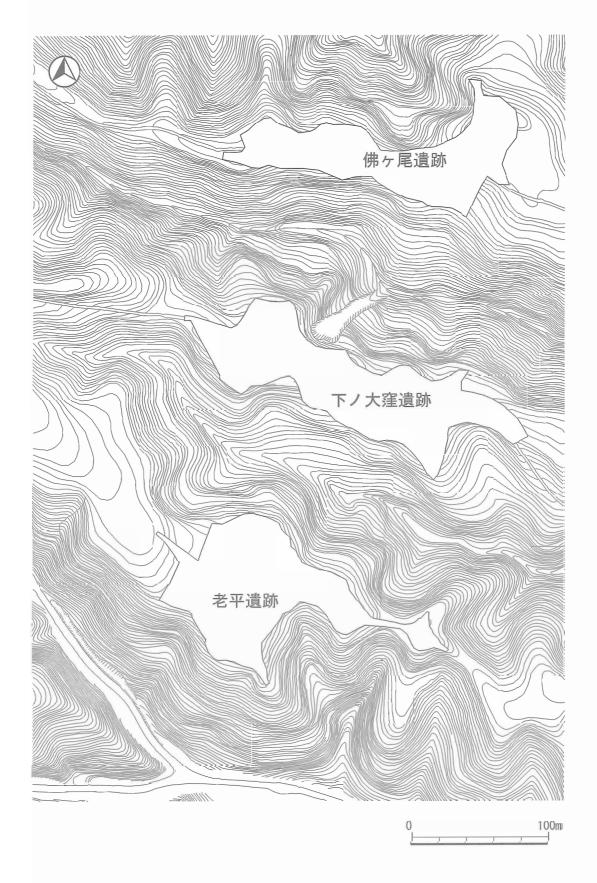
裾野市教育委員会編 1992 『裾野市史 第一巻 資料編 考古』。

瀬川裕市郎 1970 「大珠と顔面把手付土器-裾野の縄文時代遺跡と小畑遺跡-」『裾野郷土研究』第4号、26-42頁。 長泉町教育委員会編 1986 「野台遺跡」『中尾・イラウネ・野台』。

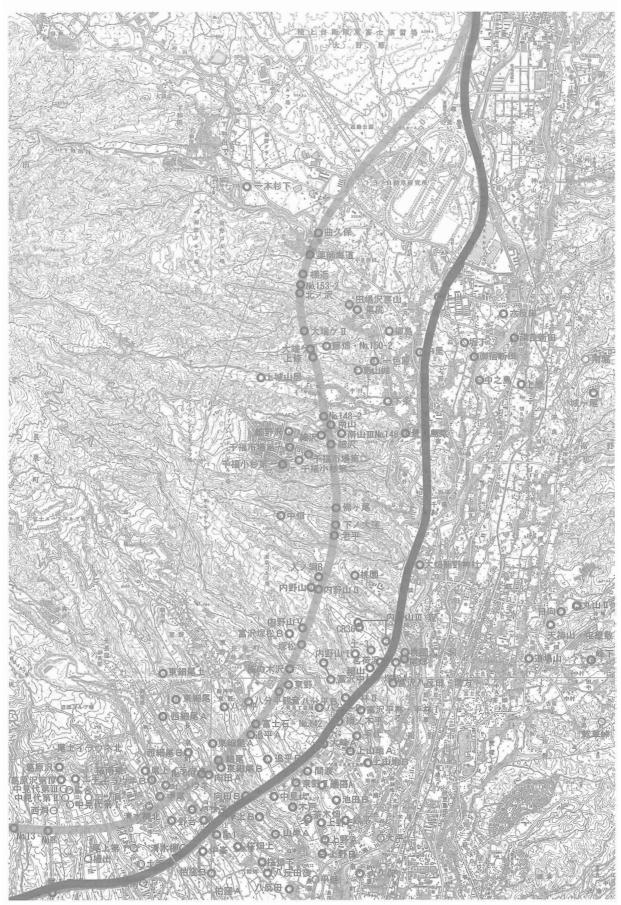
沼津市教育委員会編 2001 『葛原沢第IV遺跡 (a・b区) 発掘調査報告書 1』-縄文時代草創期・縄文時代-

三島市教育委員会編 2005 「乾草峠遺跡」 『三島市埋蔵文化財調査報告X』。

渡瀬治 1990 「裾野市内における旧石器時代および縄文時代について」『裾野市史研究』第2号、21-57頁、裾野市 教育委員会。



第3図 下ノ大窪遺跡と周辺の地形



第4図 周辺遺跡の分布

五土地理院「数値地図25000』(1 副)「裾野」等に加盤(第5尺1/25,000)

第3章 基本層序と文化層

1 堆積状況 (第5図)

愛鷹山麓のローム層は、堆積順に下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層に分けられる。上部ロームは関東ローム層の立川ロームに相当し、火山砕石物が堆積したスコリア層と火山噴火の休止期に植物の繁殖、腐食などの影響により黒色化が進んだ黒色帯との互層から成っている。

本遺跡の堆積状況は、第5図に掲げる通り、南北にある谷へ向かう急傾斜地を除いて概ね良好であった。全体的に黒色土の発色が悪く、各層間の変化も漸移的である。

2 基本層序(第6図)

第2層は耕作土直下にあり、硬質のスコリアを多く含む褐色土層(NSC)である。

第3層は粒径5-10mmの角張った黒色ないし橙色の砂沢スコリアを多く含む層(SNZ)である。

第4層はカワゴ平パミスを含む暗褐色土層(KGP)である。

第5層は粒径約10mmの発泡した褐色の仙石スコリアを多く含む暗褐色土層(SSC)である。第2層から第5層は、植林及び伐採、市道整備による削平を受けており、調査区の一部でしか堆積が確認できない。

第6層は富士黒色土層 (FB) に概ね相当する層である。愛鷹山南麓ではこの層の上位に栗色土層 (KU) と呼ばれる層が多くの遺跡で確認され、出土遺物などから見て本遺跡にもこの層が堆積するものと推定される。しかし、本遺跡ではその変化が極めて漸移的であるため一括して取り扱い、便宜的に縄文時代遺物包含層-略称としてはJO層-と呼称する。

・第7-II層は休場層(YL)である。堆積の良好な場合は2枚のスコリア帯(YLs2とYLs1)を挟んで休場層上部(YLU)、同中部(YLM)、同下部(YLL)の3つに分層できるが、本遺跡ではスコリア帯の発達が不十分であったため、土壌の色調と質感に応じて3枚に分層した。

第12層は休場層直下黒色帯 (BB 0) である。本遺跡では発色が弱く上層からの変化も漸移的である。 第13層は第 I スコリア帯 (SC I) である。

第14層は第 I 黒色帯 (BB I) である。

第15・16層はニセローム層 (NL) である。第16層 (NLb) 中部に姶良丹沢広域火山灰 (AT) を含む。

第17・18層は第Ⅱ・Ⅲ黒色帯 (BBⅢ・BBⅢ) である。愛鷹・箱根山麓で顕著に見られる第Ⅱスコリア帯はBBⅢとBBⅢの間に包含されるものであるが、本遺跡では確認できなかった。

第19-23層は第 \square スコリア帯(SC \square)である。特に第23層のスコリアは非常に堅く締まっており、愛鷹・箱根山麓標準土層における第 \square スコリア帯スコリア 4 (SC \square s 4) に相当すると推定される。

第24-29層は、第IV黒色帯(BBIV)から第VII黒色帯(BBVII)に相当する。愛鷹山南麓では黒色帯とスコリア層の互層となるが、本遺跡においてはスコリアの量が微量で、確認できないものもあった。

第30層は中部ローム層 (ML) である。

3 層序と文化層

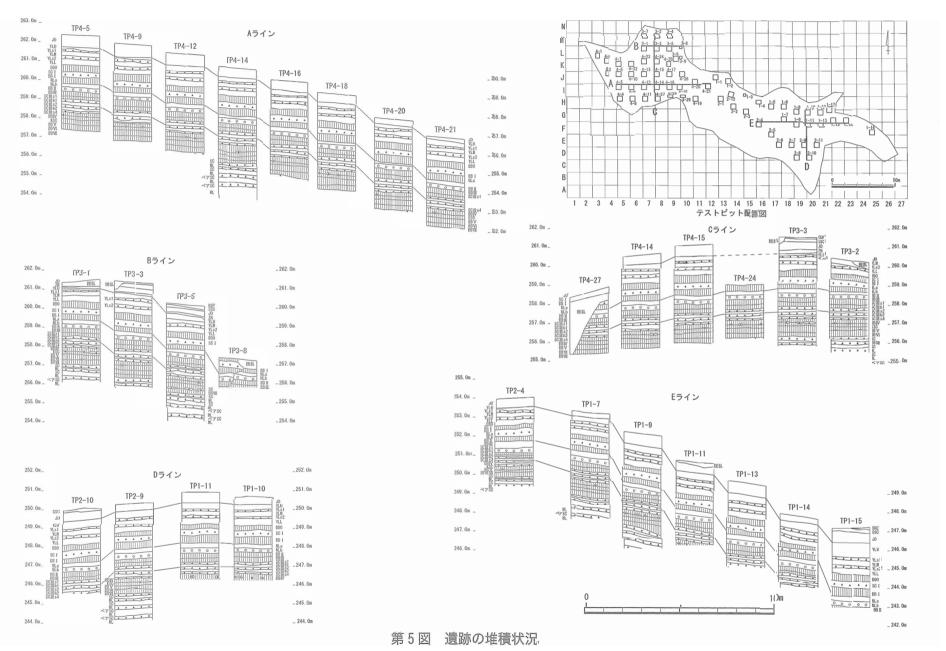
整理の結果、旧石器時代石器群を5つの文化層に識別し、縄文時代遺構・遺物群は主として早期と前期のものを確認した。

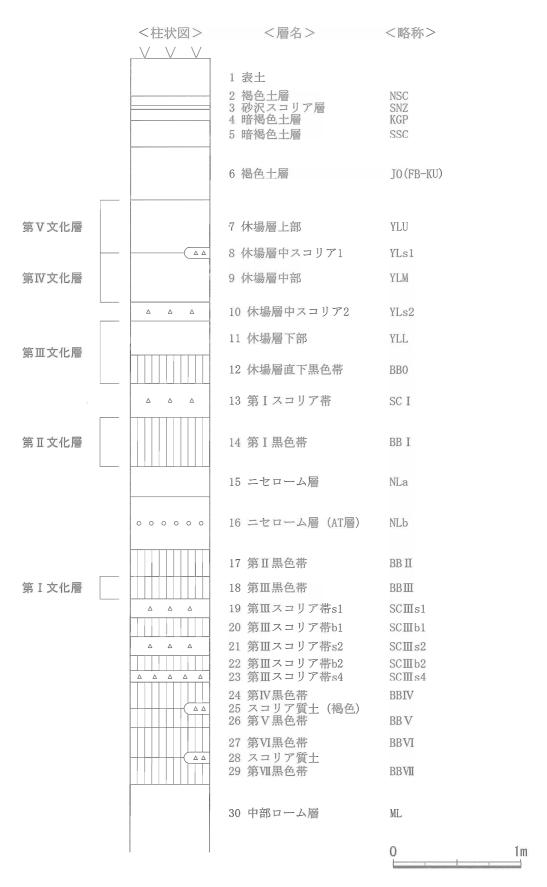
旧石器時代の層序と文化層の対応関係は次のようである。下位から順に、第Ⅲ黒色帯 (BBⅢ) を中

心とする第Ⅰ文化層、第Ⅰ黒色帯(BBI)を中心とする第Ⅱ文化層、休場層直下黒色帯(BB0)を中心として、上位の休場層下部(YLL)と一部が同中部(YLM)に及ぶ第Ⅲ文化層、休場層中部の第Ⅳ文化層、そして休場層上部(YLU)を中心とする第Ⅴ文化層、である。

縄文時代の遺構・遺物は休場層上部(YLU)の上位に堆積する漸移層(ZN)から富士黒色土層(FB)で草創期の有舌尖頭器が検出された。FB-KU層にあたるJO層ではまた、縄文時代早期撚糸文系土器、押型文系土器が確認され、これよりも上位では条痕文系土器群を伴う竪穴住居跡群が確認された。さらに、これよりやや上位で縄文時代前期の諸磯b式土器群が検出された。地点を違えて諸磯b式土器の埋納土坑が単独に近い状況で検出されている。その周辺では縄文時代中期から後期の土器群も検出された。







第6図 層序と文化層

第4章 旧石器時代の遺構と遺物

概要

本遺跡では5枚の旧石器時代文化層を確認した。層序-文化層-石器群内容の対応関係は表1の通りである。層序の略称については第3章を参照のこと。

表 1 旧石器時代各文化層の概要

層序	文化層	石器	石器集中*1	礫群※2	主要石器群
YLU	第V文化層	42点	2箇所	1基	尖頭器、剥片製ナイフ形石器
YLM	第IV文化層	0点	0 箇所	l基	
YLL	第Ⅲ文化層	342点	8 箇所	9基	各巻44万里 却上側 / 元寸側 よくっぴて思
BB 0	· 用义化僧	044点	0 回刀	3 签	角錐状石器、剥片製/石刃製ナイフ形石器
SC I					
BB I	第Ⅱ文化層	37点	2 箇所	7基	彫器(彫-削器)、削器
NL					
BBII					
ВВШ	第I文化層	81点	5 箇所	2基	石刃製ナイフ形石器(弧状一側縁加工)
SCIIIs I					

- ※1 ブロックは計17箇所を識別し、これに通し番号を付した。各文化層のブロック番号は次の通り;第 I 文化層: ブロック 1-5、第 II 文化層: ブロック $6\cdot7$ 、第 II 文化層: ブロック 8-15、第 II 文化層: ブロック $16\cdot17$ 。
- ※2 礫群は「RG」という記号であらわしているが、これは調査時の実測図の単位であって、必ずしも礫の分布密度や接合関係を考慮したものではない。礫の集合的単位を数えたものとしては、上に示す礫群数が概ね妥当と思われる。60箇所以上の設定となっている「RG」は、実際には20基程度と見積もられよう。なお、分布が散漫で広い範囲に拡散しているものについては計上していない。

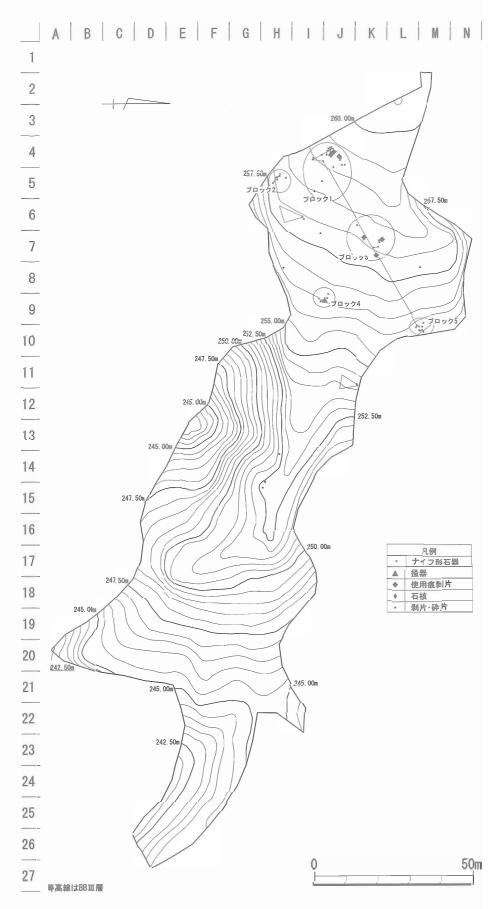
第1節 第1文化層

概要

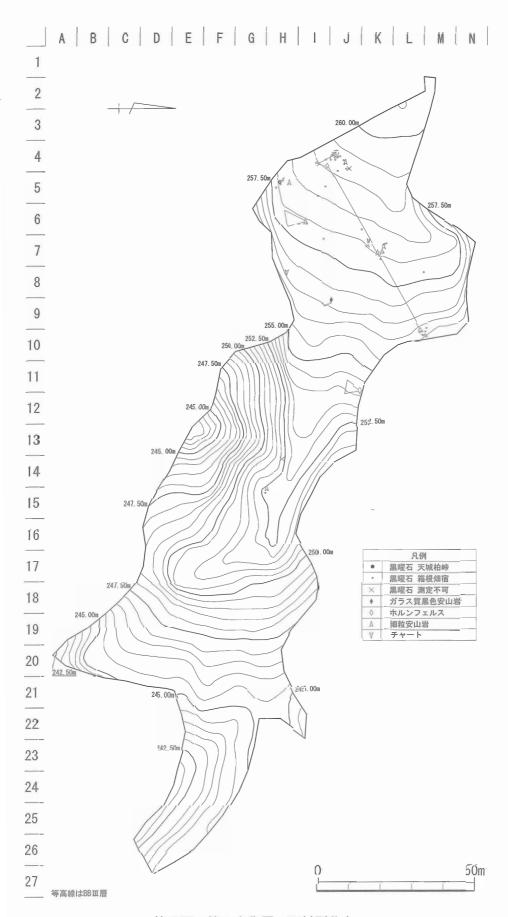
本文化層は第Ⅲ黒色帯 (BBⅢ) 下部を中心に検出された2基の礫群と、5箇所の石器集中およびその他の石器群で構成される。礫を除く石器の総点数は81点である(表2)。遺物は、調査区中央部に数点見られるほかは全て西部の比較的平坦な場所で検出された(第7・8図)。

ナイフ形石器 2 点、掻器 1 点、使用痕剥片 7 点、剥片・砕片71点が組成する。構成石材は、箱根畑宿産黒曜石59点(72.8%)、天城柏峠産黒曜石 1 点(1.2%)(黒曜石の産地は望月明彦氏による推定)、測定不可の黒曜石 2 点(2.5%)、ガラス質黒色安山岩 1 点(1.2%)、細粒安山岩10点(12.3%)、ホルンフェルス 6 点(7.4%)、チャート 2 点(2.5%)である。およそ 7 割を箱根畑宿産黒曜石が占め、これに細粒安山岩やホルンフェルスが続く。近傍産石材の消費によって形成された石器群といえる。

石器群は、BBⅢ層下部を中心に検出されている点と、石刃製弧状一側縁加工ナイフ形石器が主要な



第7図 第1文化層 器種別分布



第8図 第1文化層 石材別分布

表 2 第 | 文化層 石器石材組成

		黒曜石		ホルン フェルス	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	チャート	計
	天城柏峠	箱根畑宿	測定不可					
ナイフ形石器		I			1			2
掻器		I						1
使用痕剥片		6					1	7
剥片・砕片	1	51	2	6		10	1	71
計	1	59	2	6	1	10	2	81

構成トゥールとなっている点から、武蔵野台地Ⅷ層上部段階並行と推定され、高尾好之(2006)の愛鷹・箱根編年でいうところでは第2期a-b段階の様相といえよう。

1 石器集中

5箇所の石器集中(ブロック1-5)を確認した。すべての石器集中(ブロック)で箱根畑宿産黒曜石が第1石材となる。ブロック外の石器については表8を参照。

ブロック1 (第9・10図、表3)

J-4 グリッドを中心に認められた。5 箇所の石器集中のうち最も西に位置する。検出層準はBBⅢである。総点数は30点で、使用痕剥片4点、剥片・砕片26点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石25点(83.3%)、測定不可の黒曜石1点(3.3%)、ホルンフェルス3点(10%)、細粒安山岩1点(3.3%)である。

3 例の接合資料が認められた。接合 2 は箱根畑宿産黒曜石の小型幅広剥片 2 点の折れ接合である。接合 3 は箱根畑宿産黒曜石の剥片 3 点からなる。接合 5 はホルンフェルスの幅広剥片 4 点からなり、このうち 1 点はブロック 5 に含まれる。箱根畑宿産黒曜石とホルンフェルスのそれぞれ小規模な消費がこのブロックの主な形成要因である。

ブロック2 (第11・12図、表4)

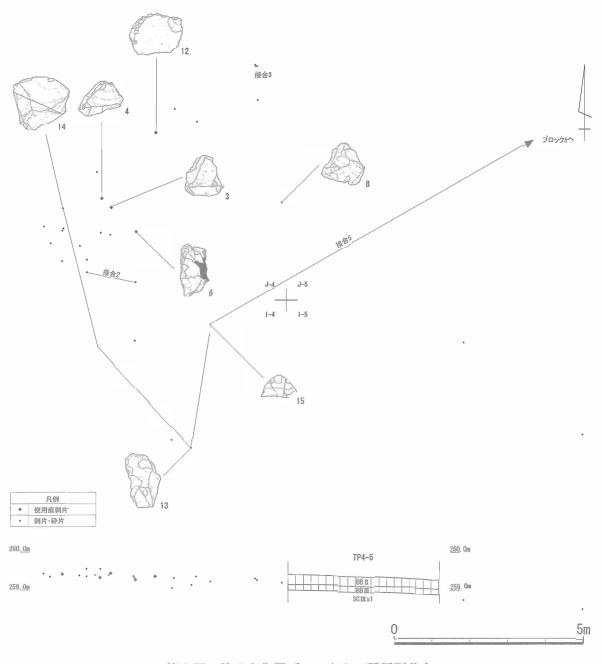
H-5 グリッドを中心に認められた。ブロック1の南に位置する。検出層準はBBIIIであったが、最も近くで記録された土層断面が離れた場所にあったため、図に示している投影図は検出層準を反映していない。総点数は9点で、ナイフ形石器1点、剥片・砕片8点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石7点、天城柏峠産黒曜石1点、細粒安山岩1点である。たいへん小規模であり、ブロック1と同様に箱根畑宿産黒曜石の消費が中心である。弧状一側縁加工石刃製ナイフ形石器も同石材であるが、ここで製作したのかどうかは不明瞭である。

1 例の接合資料が認められた。接合 1 は箱根畑宿産黒曜石の小型剥片 3 点で構成される。

ブロック3 (第13図、表5)

K-7 グリッドを中心に認められた。ブロック1の東に位置する。検出層準はBBIIIであったが、最も近くで記録された土層断面がやや離れた場所にあったため、図に示している投影図は検出層準を反映していない。総点数は11点で、使用痕剥片3点、剥片・砕片8点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石6点、細粒安山岩4点、チャート1点である。

1例の接合資料が認められた。接合8は細粒安山岩の剥片2点で構成される。



第9図 第1文化層ブロック1 器種別分布

ブロック4 (第14・15図、表6)

I/J-9グリッドを中心に認められた。ブロック3の南東に位置する。検出層準はBBIII下部である。総点数は8点で、ナイフ形石器1点、掻器1点、剥片・砕片6点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石7点、ガラス質黒色安山岩1点である。ガラス質黒色安山岩は、弧状一側縁加工石刃製ナイフ形石器1点のみであり、製品製作の痕跡がない。接合資料も認められなかった。

ブロック5 (第16・17図、表7)

M/L-10グリッドを中心に認められた。5箇所のブロックのうち最も東に位置する。検出層準はBBⅢ

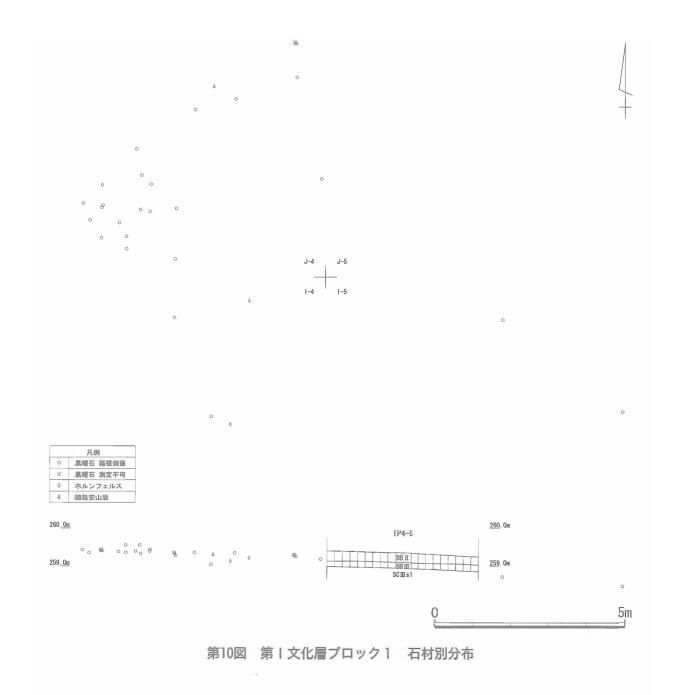
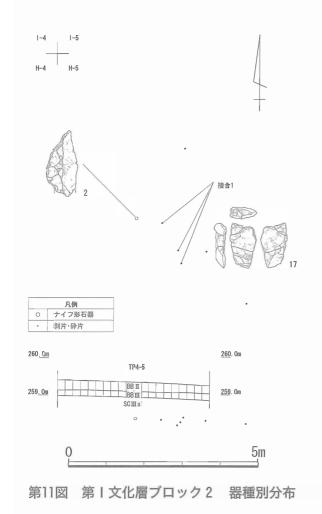


表 3 第 1 文化層ブロック 1 石器石材組成

	黒曜石		ホルン フェルス	細粒 安山岩	計
	箱根畑宿	測定不可			
使用痕剥片	4				4
剥片・砕片	21	1	3	ï	26
計	25	1	3	.I	30

である。総点数は10点で、剥片・砕片だけが組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石 9 点、ホルンフェルス 1 点である。 1 例の接合資料が認められた。接合 5 はホルンフェルスの剥片 4 点で構成され、本ブロックにはこのうち 1 点、ブロック 1 に 3 点が組成する。



第12図 第1文化層ブロック2 石材別分布

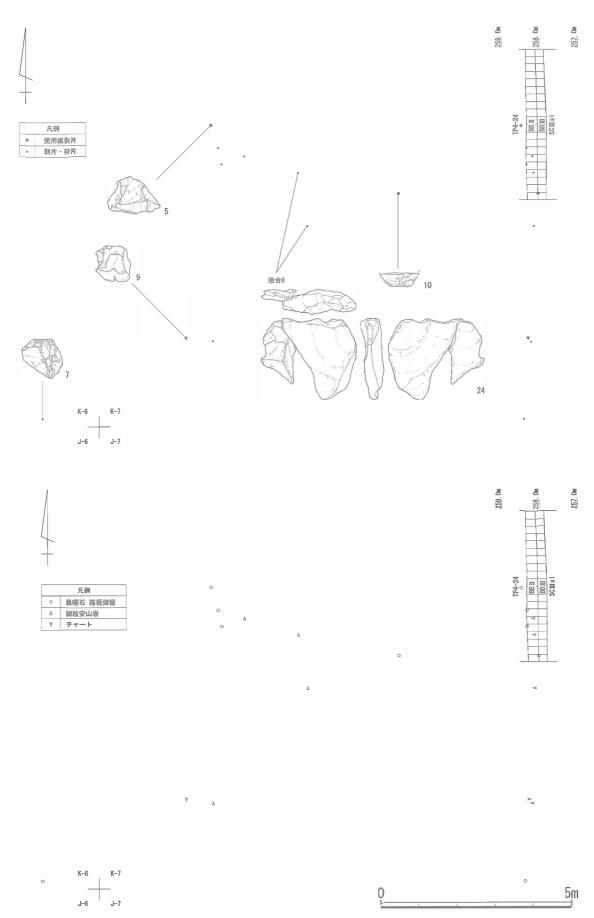
5m

表 4 第 | 文化層ブロック 2 石器石材組成

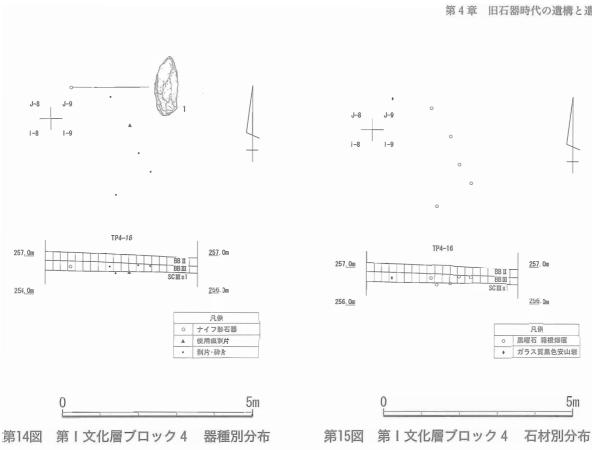
	黒斑	醒石	細粒 安山岩	計
	天城柏峠			
ナイフ形石器		1		I
剥片・砕片	1	6	1	8
計	1	7	1	9

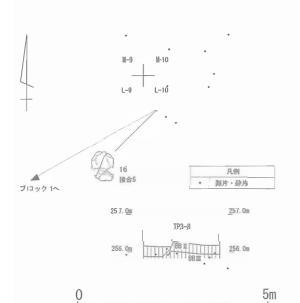
表 5 第 1 文化層ブロック 3 石器石材組成

	黒曜石	細粒 安山岩	チャート	計
	箱根畑宿			
使用痕剥片	2		1	3
剥片・砕片	4	4		8
計	6	4	1	11

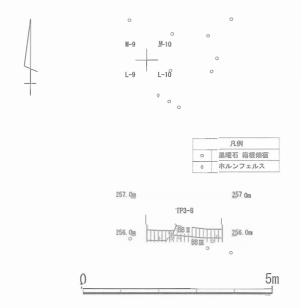


第13図 第1文化層ブロック3 器種別分布(上)石材別分布(下)









第17図 第1文化層ブロック5 石材別分布

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	計
	箱根畑宿		
ナイフ形石器		1	I
掻器	1		1
剥片・砕片	6		6
計	7	1	8

表 6 第 | 文化層ブロック 4 石器石材組成 表 7 第 | 文化層ブロック 5 石器石材組成

	黒曜石	ホルン フェルス	計
	箱根畑宿		
剥片・砕片	9	1	10

表8 第 | 文化層ブロック外 石器石材組成

	黒田	瞿石	ホルン フェルス	チャート	細粒 安山岩	計
	箱根畑宿	測定不可				
剥片・砕片	5	1	2	I	4	13

2 出土石器の検討(第18・19図)

主要な石器の実測図を器種別に図示した。

ナイフ形石器 (第18図)

1はBBⅢ層出土のガラス質黒色安山岩製である。縦長剥片を素材にして、表裏からの二次加工によ り、基部に打面を残し左側縁に基部から尖端にかけて弧状を呈する急角度の分厚い背部を形成する。ガ ラス質黒色安山岩製石器はほかに認められなかった。ブロック4に含まれる。

2はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。縦長剥片を素材にして、表裏からの二次加工により、 尖端部に達して弧状を呈する急角度の分厚い背部を形成する。基部が失われている。ブロック2に含ま れる。

使用痕剥片 (第18・19図)

3はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。左縁辺全体に微細な剥離痕が不規則に連続する。裏 面の右側に二次的な剥離痕が認められ、二次加工剥片あるいは石核にも分類可能である。ブロック1に 含まれる。

4はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。末端に大小の微細な剥離痕が不規則に連続する。剥 離痕は主に裏面に形成される。ブロック1に含まれる。

5はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。求心剥離によって得られた剥片の右縁辺の裏面に不 規則な剥離痕が連続する。ブロック3に含まれる。

6 はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。発掘時に大きく欠損したが、それ以外にも周囲に微 細な剥離痕が多数観察される。ブロック1に含まれる。

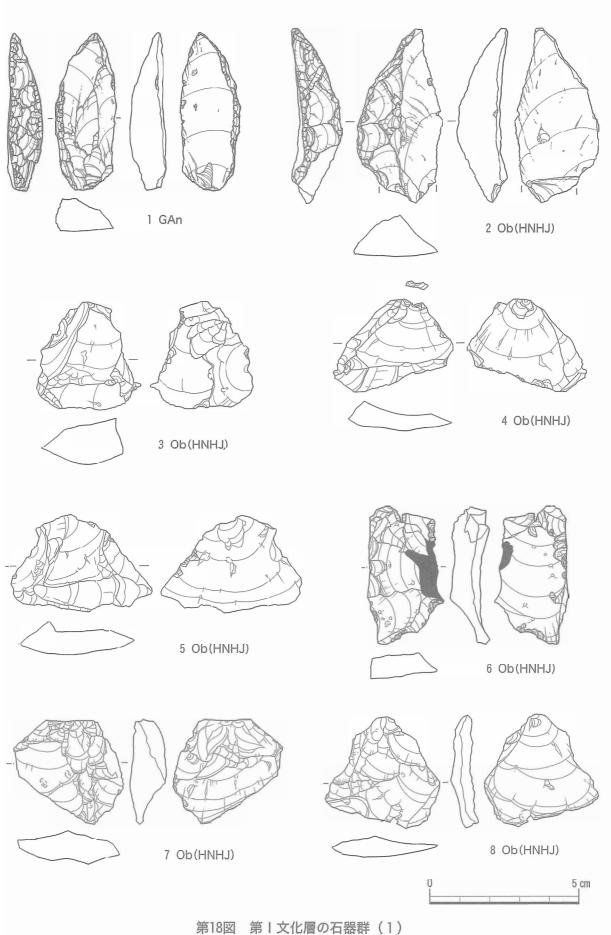
9はBBⅢ層出土のチャート製である。末端に微細な剥離痕が見られる。ブロック3に含まれる。

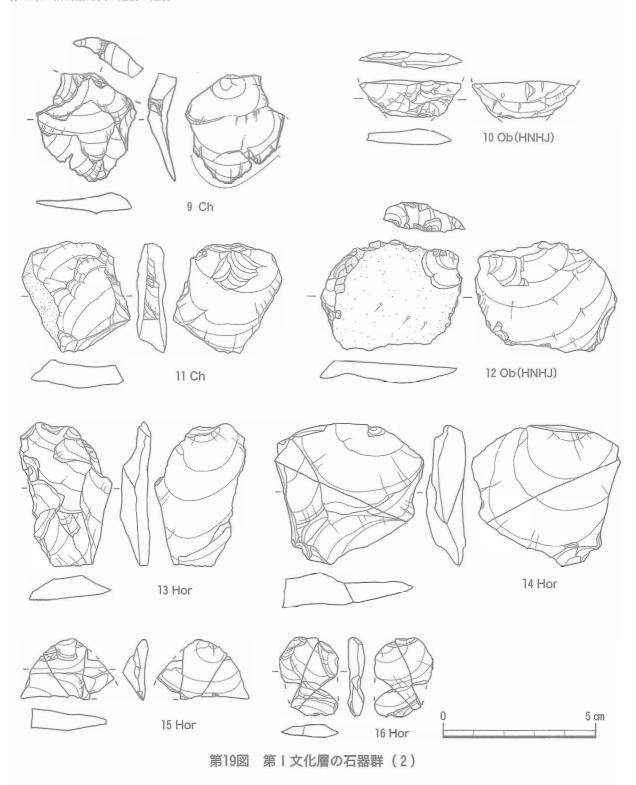
10はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。打面・末端はともに折れているが、左右の縁辺に微 細な剥離痕が観察される。ブロック3に含まれる。

12はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。背面に平滑な自然面を残す幅広剥片の縁辺全体に微 細剥離痕が連続する。ブロック1に含まれる。

剥片 (第18・19図)

7はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。ほぼ同一方向への連続剥離によって得られた剥片の 右縁辺の裏面と背面の末端に微細な剥離痕がみられる。ブロック3に含まれる。



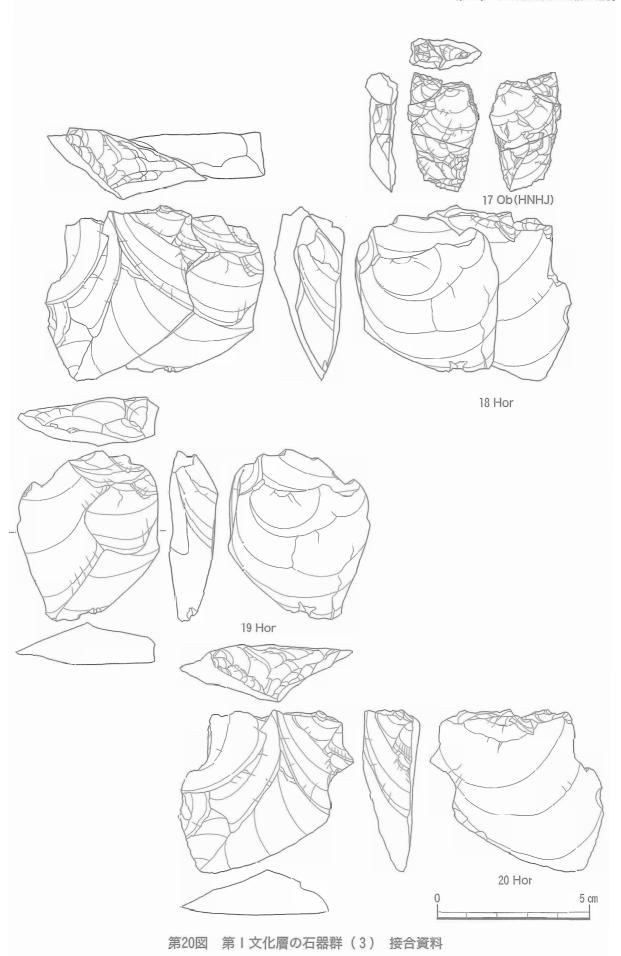


8はBBⅢ層出土の箱根畑宿産黒曜石製である。左縁辺に微細な剥離痕が見られる。ブロック 1 に含まれる。

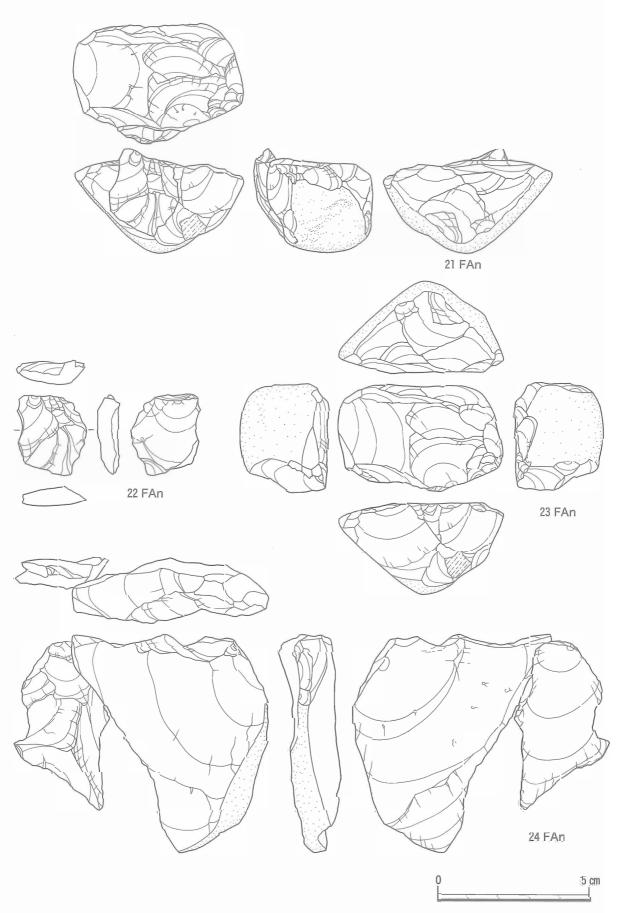
IIはBBⅢ層出土のチャート製である。チャートは本文化層で2点しか組成されない石材であるが、 産地はよくわからない。ブロック外の出土である。

3 接合資料 (第19-22図)

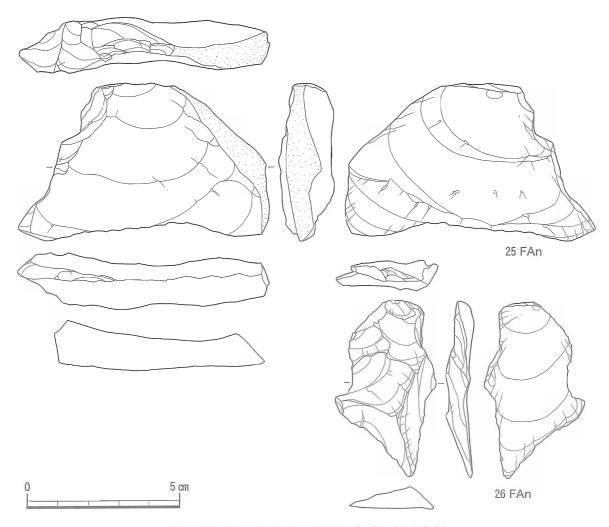
箱根畑宿産黒曜石で3例、細粒安山岩で3例、ホルンフェルスで2例を確認した



-27-



第21図 第1文化層の石器群(4) 接合資料



第22図 第1文化層の石器群(5) 接合資料

接合 1	(箱根畑宿產黒曜石)	剥片 3点	(第20図17)
------	------------	-------	----------

接合2(箱根畑宿産黒曜石) 剥片2点

接合3 (箱根畑宿産黒曜石) 剥片2点、砕片1点

接合4 (ホルンフェルス) 剥片2点 (第20図18-20)

接合5 (ホルンフェルス) 剥片4点 (第19図13-16)

接合6(細粒安山岩) 剥片2点

接合7 (細粒安山岩) 剥片2点 (第21図21-23)

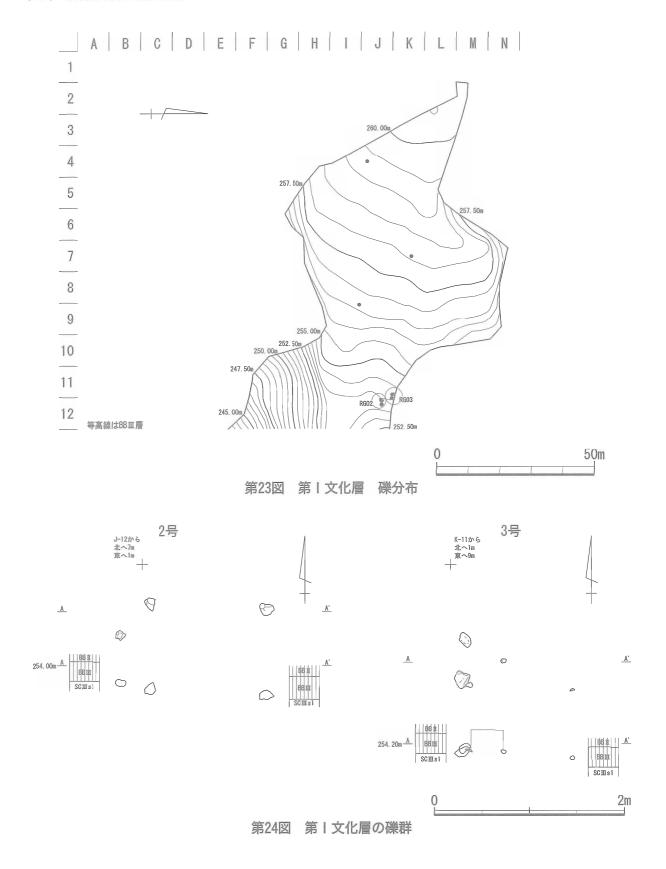
接合8 (細粒安山岩) 剥片2点 (第21図24、第22図25・26)

4 礫群 (略号: RG) (第23·24図)

BBⅢ下部を中心とする2基の礫群と数点の散発的な礫を確認した。調査区の西側に見られるのみで、 東側には検出されなかった。

2号礫群 (第24図左)

J-12グリッドで検出された。分布の中心はBBⅢ下部にある。拳大よりやや大きな礫3点で構成されている。礫はすべて被熱している。炭化材が採取され、分析の結果、落葉広葉樹のサワフタギ節に同定された(附編 植田弥生論文参照)。



3号礫群(第24図右)

J-11/J-12/K-11グリッドで検出された。分布の中心はBBⅢ下部にある。拳大よりも大きな礫と小礫計3点で構成されている。礫は1点を除き被熱している。炭化材が採取され、分析の結果、落葉広葉樹のサワフタギ節に同定された(附編 植田弥生論文参照)。

第2節 第11文化層

概要

BBIを中心に検出された7基の礫群と2箇所の石器集中およびその他の石器群で構成される(第25・26・34図)。一部の遺物はNLa層に包含されていた。礫を除く石器総点数は37点である。石器群の内訳は表9に示した。彫器(あるいは彫-削器)1点、削器2点、二次加工剥片1点、使用痕剥片4点、剥片・砕片27点、石核1点、敲石1点が組成する。構成石材は、諏訪星ヶ台産黒曜石13点(35.1%)、蓼科冷山産黒曜石4点(10.8%)、箱根畑宿産黒曜石9点(24.3%)、天城柏峠産黒曜石1点(2.7%)、産地が測定不可だった黒曜石2点(5.4%)、ホルンフェルス6点(16.2%)、輝緑石1点(2.7%)、硬質頁岩1点(2.7%)である。ナイフ形石器のような指標的なトゥールは検出されなかったが、石刃関連資料が多いことと、信州系黒曜石の割合が高いことに特徴がある。

本文化層は、AT包含層上部から第 I 黒色帯(NLa-BB I)で検出されている点、中部高地産黒曜石が高い割合で検出されている点、石刃石器群が中心となっている点から、武蔵野台地VI層上部から V 層下部段階の石器群に並行するものと推定される。高尾編年では、NL上位の「3期」を「尖頭状石器・角錐状石器の出現と円形掻器の安定的な組成をもって画期」として、さらに「角錐状石器の消長により3段階に細別」している。本文化層の石器群はこの規定に該当しないが、上記の理由から、時間的にはその「3期 a 段階」に並行するものと予想される。消費石材の内容がいまだ「2期」の特徴を示していることが特徴である。

== 0	605F 11	オル屋	T	1
表 9	張	文化層	石器石材組匠	У.

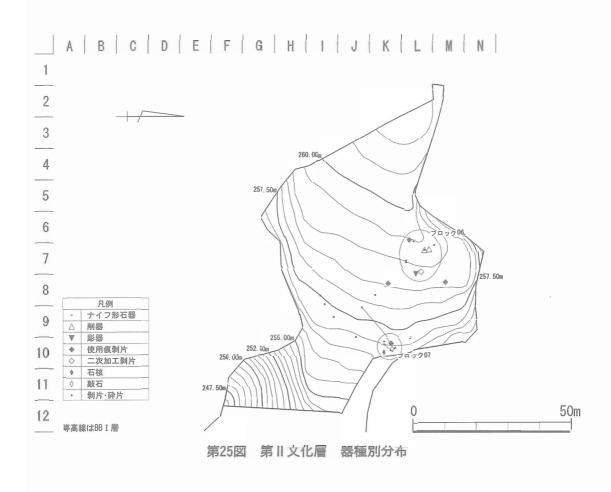
			黒曜石			ホルン フェルス	輝緑岩	硬質頁岩	計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	天城柏峠	箱根畑宿	測定不可				
膨器								1	1
削器	2								2
二次加工剥片	1								1
使用痕剥片	2	1.	1						4
剥片・砕片	8	3		8	2	6			27
石核				1,					1
敲石							1		1
計	13	4	I	9	2	6	I	1	37

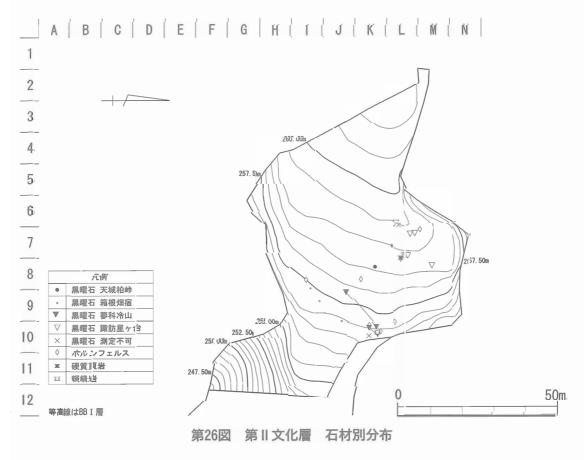
7 石器集中

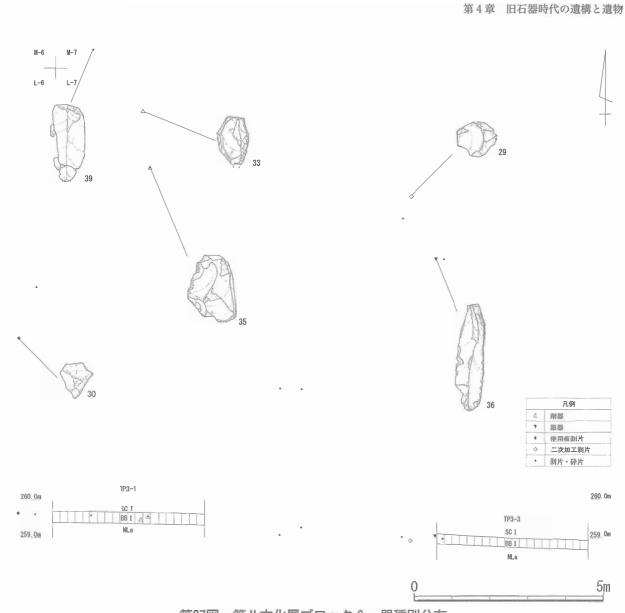
2箇所の石器集中が確認された。

ブロック6 (第27・28図、表10)

L-7グリッドで検出された散漫な石器群である。検出層準はBBIである。総点数は17点で、彫器(彫-削器)1点、削器2点、二次加工剥片1点、使用痕剥片1点、剥片・砕片12点が組成する。石材構成は諏訪星ヶ台産黒曜石12点、箱根畑宿産黒曜石2点、測定不可の黒曜石1点、ホルンフェルス1点、硬質頁岩1点である。なお剥片12点のうち5点は、検討の結果、発掘時に折損した削器(第31図35)の部品であったが、分布図と組成表の変更は間に合わなかった。



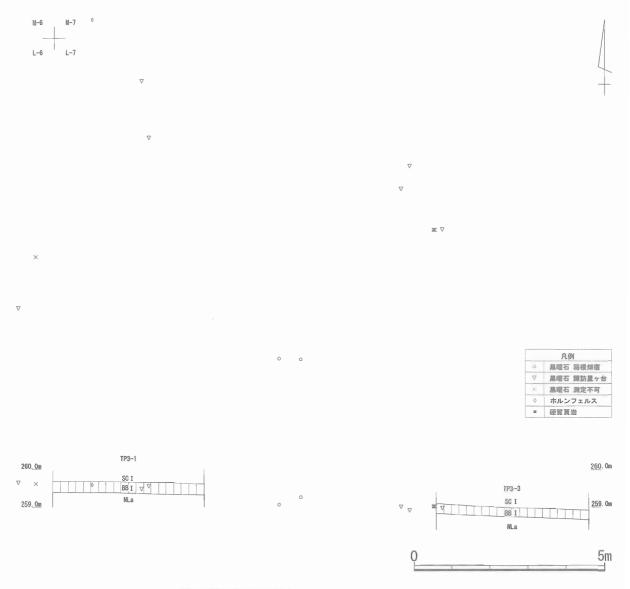




第27図 第 || 文化層ブロック 6 器種別分布

表10 第 || 文化層ブロック 6 石器石材組成

	黒曜石			ホルン フェルス	硬質頁岩	計
	諏訪星ヶ台	箱根畑宿	測定不可			
彫器					1	1
削器	2					2
二次加工剥片	I					I
使用痕剥片	1					1
剥片・砕片	8	2	I	I		12
計	12	2	1	1	1	17



第28図 第 || 文化層ブロック 6 石材別分布

ブロック7 (第29・30図、表11)

K-10グリッドで検出された石器群である。検出層準はBBI下部である。図にある石器群の垂直分布と土層断面は高低差があったので検出層準を反映していない。総点数は11点で、使用痕剥片 1点、剥片・砕片 8点、石核 1点、敲石 1点が組成する。石材構成は、蓼科冷山産黒曜石 3点、箱根畑宿産黒曜石 4点、測定不可の黒曜石 1点、ホルンフェルス 2点、輝緑岩 1点である。点数は少ないが、ここでも中部高地産黒曜石の搬入が目立つ。

接合資料を2例確認した。接合10は蓼科冷山産黒曜石の使用痕剥片1点と剥片1点で構成される。剥片はJ-9グリッドのYLMで検出されたもので、垂直の高低差が大きい。

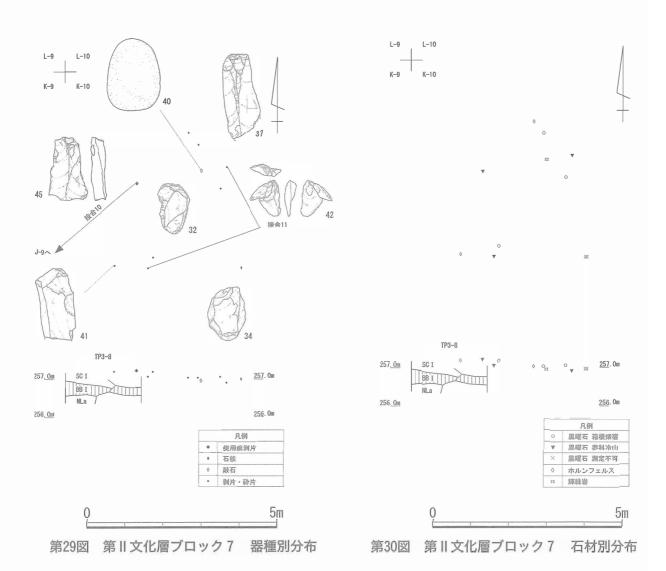


表11 第 || 文化層ブロック 7 石器石材組成

		黒曜石		ホルン フェルス ^{輝緑岩}	計計
	蓼科 冷山	箱根 畑宿	測定 不可		
使用痕剥片	1				1
剥片・砕片	2	3	1	2	8
石核		1			1
敲石				1	1
āf	3	4	Ι	2 1	11

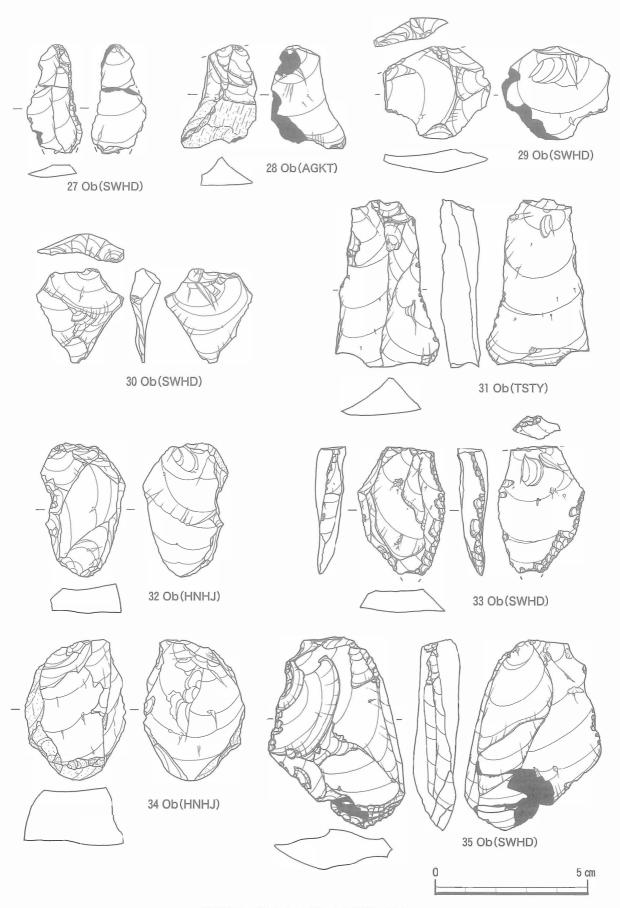
表12 第 || 文化層ブロック外 石器石材組成

		黒	ホルン フェルス	計		
	諏訪 星ヶ台	蓼科 冷山	天城 柏峠	箱根 畑宿		
使用痕剥片	I		I			2
剥片・砕片		1		3	3	7
計	1	1	1	3	3	9

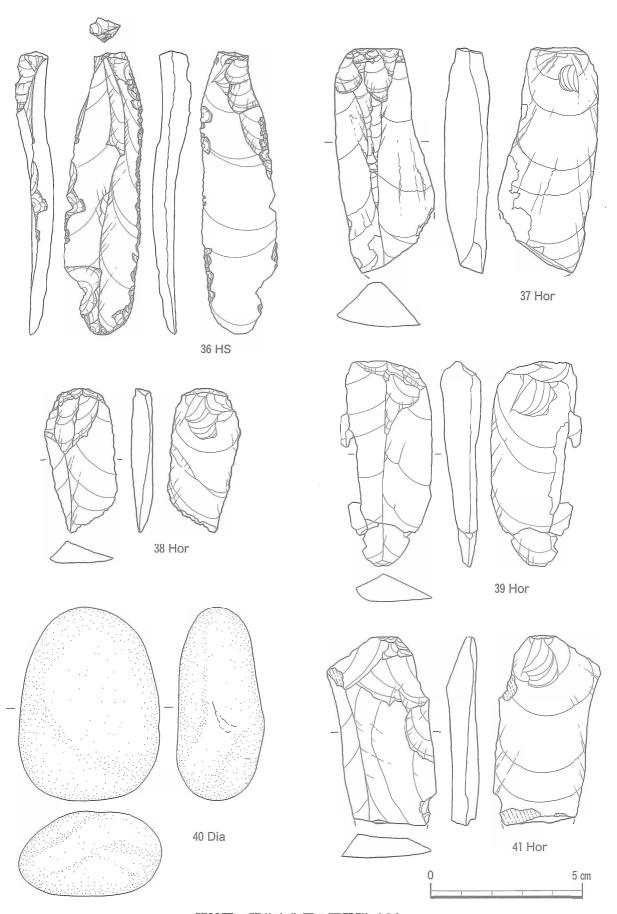
2 出土石器の検討(第31・32図)

彫器 (彫-削器) (第32図36)

茶褐色の硬質頁岩製である。素材石刃の打面には細かな打面調整痕が複数認められる。側部と端部に連続的な小型剥離痕が観察されることから端--側削器といえるが、これに加えて、素材石刃の打面部もしくはその付近から最低でも3回の彫刀面作出が行われているので彫--削器にも分類できる。同質石材の石器は他に全く検出されていないことから、単体で搬入され、刃部作出・再生が行われることなく、



第31図 第 || 文化層の石器群(1)



第32図 第 || 文化層の石器群 (2)

廃棄されたものと推測される。ブロック6に含まれる。

削器 (第31図33・35)

33は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。ほぼ同一方向へ連続的に剥離されて得られる縦長剥片を素材にして、両縁辺を刃部とする。平坦な二次的剥離痕が広い範囲にみられる。ブロック6に含まれる。

35は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。削器としての利用に先行して、厚手の幅広剥片を素材として、表面の左側から幅広剥片、裏面から尖頭形石刃を剥離して、石核として利用もされる。その後、剥片端部を中心に数回の二次的剥離を加え、刃部を作出する。ブロック6に含まれる。

二次加工剥片 (第31図29)

諏訪星ヶ台産黒曜石製である(後の検討により、二次加工部は発掘時の折損部であることが判明した)。ブロック6に含まれる。

使用痕剥片 (第31図27・28・30-32)

27と30は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。27は縦長剥片ないし石刃製で、30は打面に、背面からの剥離が連続したことを示す石核作業面がみられる。石核調整剥片の可能性が高い。27はブロック外、30はブロック6に含まれる。

28は天城柏峠産黒曜石製である。末端側に大きく自然面が残される縦長剥片を素材とする。ブロック外に含まれる。

31は蓼科冷山産黒曜石製である。縦長剥片製ないし石刃製であるが、末端部は折れている。接合10 (第33図45) も参照。ブロック7に含まれる。

32は箱根畑宿産黒曜石製である。求心的剥離によって得られた分厚い剥片の左縁辺に微細剥離痕がみられる。ブロック7に含まれる。

石核 (第31図34)

箱根畑宿産黒曜石製である。裏面の左下に小型剥片を剥離した痕跡がみられる。ブロック7に含まれる。

剥片 (第32図37-39·41)

図示したものはすべてホルンフェルス製である。37-39は石刃である(長さが幅の2倍以上ある)。37と41はブロック7、39はブロック6に含まれ、38はブロック外である。

敲石 (第32図40)

輝緑岩製である。ブロック7に含まれる。

3 接合資料 (第33図)

6 例を確認した。黒曜石の接合が2例(接合10・11)、礫の接合が4例(接合12-15)である。

接合10(蓼科冷山産黒曜石) 使用痕剥片 1 点、剥片 1 点(45)

比較的大型の縦長剥片ないし石刃の頭部調整痕直下に小型剥片が1点接合している。ただし、明確な :打点は見られず、斑晶からの偶発的な剥離のようである。

接合11 (蓼科冷山産黒曜石) 剥片 2 点 (42-44)

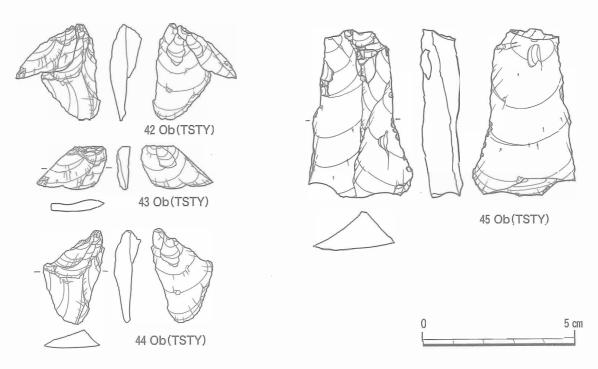
44から半求心的な剥離過程が看取される。

4 礫群 (第34·35図)

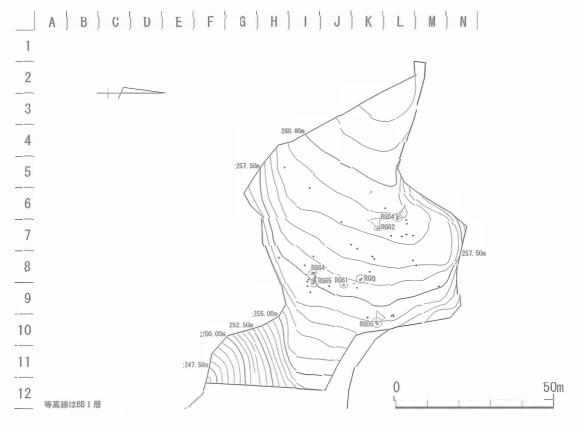
調査区西側で7基検出された。検出層準はBBI下部から上部である。

4号礫群

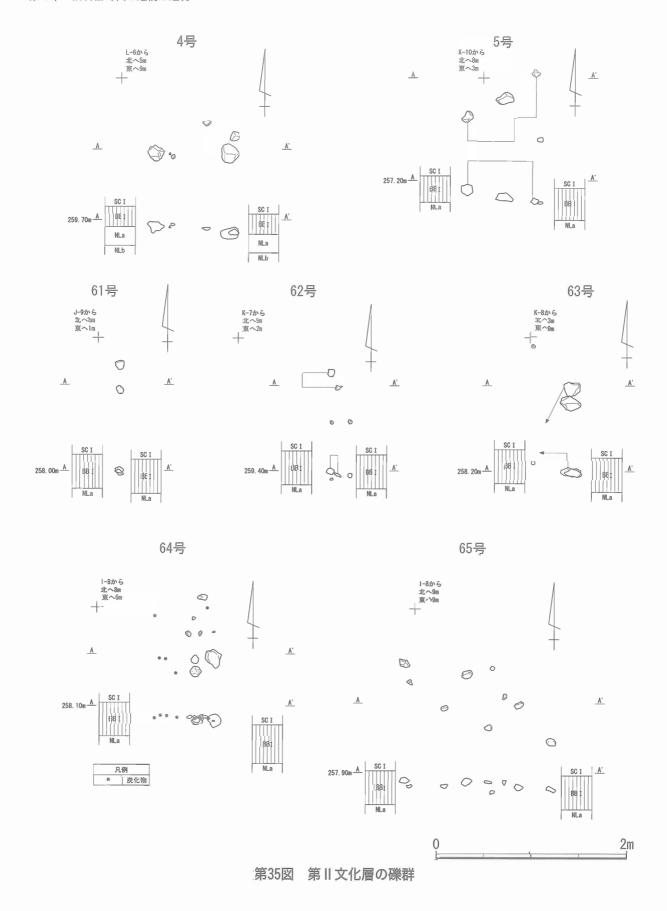
L-6/1/ブリッドで検出された。垂直分布の中心はBBI下部にある。人頭大の礫と拳大の礫計5点



第33図 第 || 文化層の石器群(3) 接合資料



第34図 第 || 文化層 礫分布



で構成されている。礫はすべて被熱している。礫 2 点が 1 個体に接合する。黒曜石の剥片 1 点を伴うが、極小品のため産地は不明である。

5号礫群

K-10グリッドで検出された。垂直分布の中心はBBI中部にある。人頭大の礫と拳大の礫計3点で構成されている。礫はすべて被熱している。礫2点が1個体に接合する。輝緑岩の敲石1点(第32図40)を伴う。

61号礫群

J-9 グリッドで検出された。垂直分布の中心はBBI中部にある。拳大の礫2点で構成されている。 礫はすべて被熱している。

62号礫群

K-7 グリッドで検出された。垂直分布の中心はBB I 中部にある。拳大より小さい礫 3 点で構成されている。礫はすべて被熱している。礫 2 点が 1 個体に接合する。

63号礫群

K-8 グリッドで検出された。垂直分布の中心はBB I 中部にある。人頭大の礫と小礫計 3 点で構成されている。礫はすべて被熱している。約10m南に離れた位置の同一層中から出土した礫 I 点と接合する。64号礫群

I-8 グリッドで検出された。垂直分布の中心はBBI上部にある。人頭大の礫、拳大の礫、拳大より小さい礫計7点で構成されている。礫はすべて被熱している。礫群の周辺から炭化物粒が出土している。採取された炭化材は、分析の結果、落葉広葉樹のモクレン属と同定された(附編 植田弥生論文参照)。65号礫群

I-8/9グリッドで検出された。垂直分布の中心はBBI中部にある。拳大の礫9点で構成されている。 6点の礫が被熱している。

第3節 第Ⅲ文化層

概要

BB0からYLLまでに検出された礫群9基と石器集中8箇所などで構成される(第36・37・72図)。検出層準のピークはBB0にあり、YLL、YLMと上位に向かって漸減する。すべて調査区西側の台地上で出土した。

礫をのぞく石器総数は342点で、本遺跡の旧石器時代文化層では最も多い検出数となった。YLUを主要な包含層とする第V文化層の石器群と混在があるかもしれないが、それは軽微であろう。一方、YLMに包含される第IV文化層の剥片石器を一部取り込んでしまった可能性もあったが、検討の末、この分離は困難と判断した。

石器群は342点と小規模ながら、ナイフ形石器19点、角錐状石器 2 点、削器 3 点、掻器 4 点といったように、トゥールの占める割合が比較的高い(表13)。打面を残す石刃製ナイフ形石器の技術形態と、角錐状石器群および削器類のまとまった組成が特徴である。これに加え、構成石材が箱根畑宿産黒曜石141点(41.2%)、天城柏峠産黒曜石31点(9.1%)、測定/推定不可黒曜石62点(18.1%)、ホルンフェルス99点(28.9%)、ガラス質黒色安山岩 2 点(0.6%)、といったように、殆どが近傍産で占められる点(箱根畑宿/天城柏峠産黒曜石、ホルンフェルスを合わせた割合はおよそ8割)を併せて評価すれば、武蔵野台地 V層上部からIV層下部の石器群に並行するものと推測される。

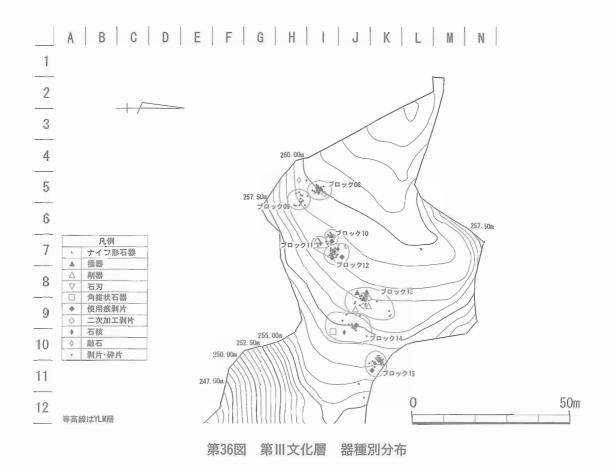
高尾編年(2006)では、「第3期b段階」ないし同「c段階」に該当する内容と推測される。このうち「b段階」はBBIを中心として黒曜石製角錐状石器群と「頁岩製」(本報告書でいうホルンフェルス製)で打面を残置する石刃製ナイフ形石器に特徴づけられ、「c段階」はこの上位にあるBB0からYLLを中心として角錐状石器群の増大に特徴づけられている。本文化層の石器群は、層位と石刃製ナイフ形石器のまとまった組成とから考えて、その「b段階」に該当するだろう。

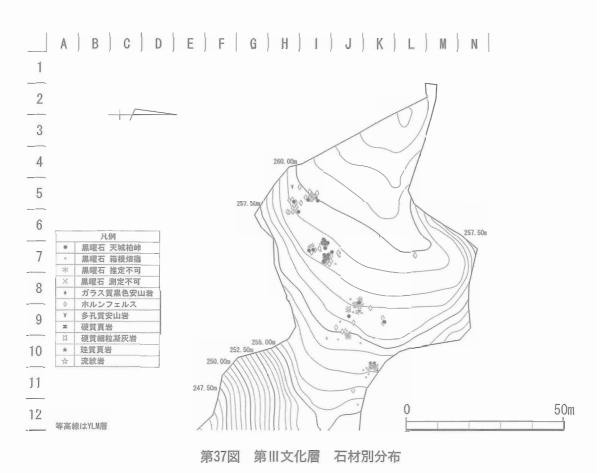
表13 第 ||| 文化層 石器石材組成

		黒明	瞿石		ホルン フェルス	ガラス質 黒色安山岩	多孔質 安山岩	硬質細粒 凝灰岩	流紋岩	珪質 頁岩	硬質 頁岩	計
	天城 柏峠	箱根 畑宿	推定 不可	測定 不可								
ナイフ形石器	8	5			6							19
角錐状石器		1								1		2
削器	I	1			1							3
掻器		2	1								1	4
二次加工剥片	2	2										4
使用痕剥片	1	6										7
剥片・砕片	17	123	9	52	86	2		1	1	2		293
石核	2	1_			6				_			9
敲石							1					1
計	31	141	10	52	99	2	1	1	1	3	1	342

1 石器集中

8 箇所の石器集中を確認し、ブロック 8 から15までの番号を付した。ホルンフェルスを第1石材とする石器集中は4 箇所(ブロック8・9・11・12)、箱根畑宿産黒曜石は3 箇所(ブロック13・14・15)、





— 43 —

天城柏峠産黒曜石は1箇所(ブロック10)である。ブロック外の石器は7点である。表22を参照のこと。

ブロック8 (第38-40図、表14)

I-5 グリッドに分布する。検出層準は概ねBB0であり、YLLにも若干数が拡散している。総数37点 で、ナイフ形石器 1 点、掻器 1 点、二次加工剥片 1 点、使用痕剥片 1 点、剥片・砕片32点、石核 1 点が 組成する。石材構成は、箱根畑宿産黒曜石5点、天城柏峠産黒曜石2点、測定/推定不可の黒曜石2点、 ホルンフェルス26点、ガラス質黒色安山岩1点、硬質頁岩1点で、ホルンフェルスが第1石材となって いる。

接合資料は4例が確認された。

接合23 (箱根畑宿産黒曜石) 剥片 1点、使用痕剥片 1点 (第60図77)

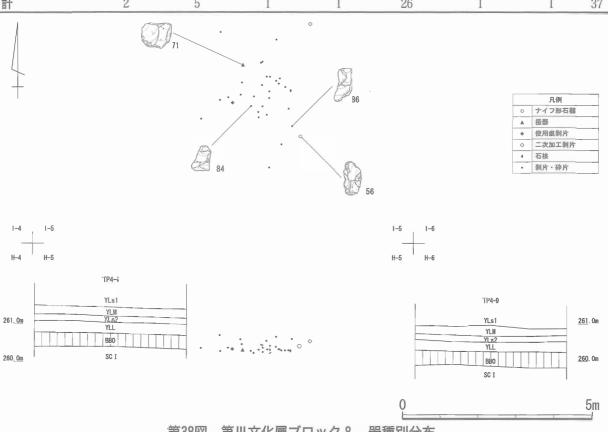
接合26 (ホルンフェルス) 剥片 2 点、石核 1 点 (うち剥片 2 点はブロック 9) (第67図112-114)

接合32 (ホルンフェルス) 剥片 7点 (第69図121-124・第70図125-127)

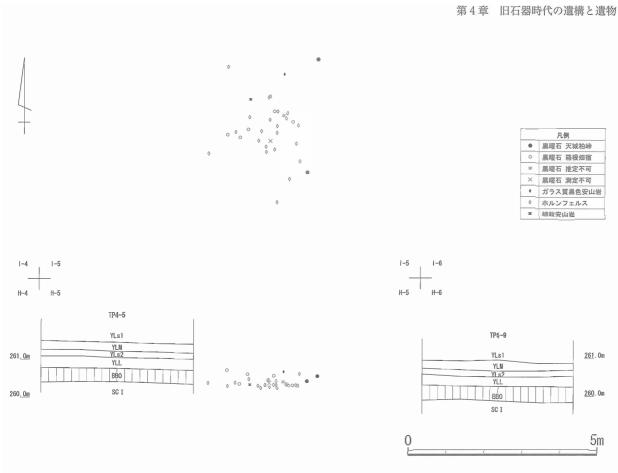
剥片 3点(うち1点はブロック11)(第71図131-133) 接合34 (ホルンフェルス)

表14 第川文化層ブロック8 石器石材組成

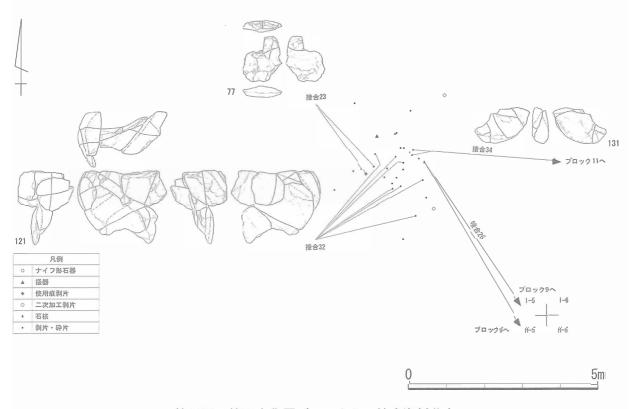
		黒田	瞿石	ホルン フェルス	ガラス質 黒色安山岩	硬質頁岩	計	
	天城柏峠	箱根畑宿	推定不可	測定不可				
ナイフ形石器	1							1
掻器							1	I
二次加工剥片	I							1
使用痕剥片		1						1
剥片・砕片		4	I	1	25	Ι		32
石核					1			1
計	2	5	1	1	26	1	1	37



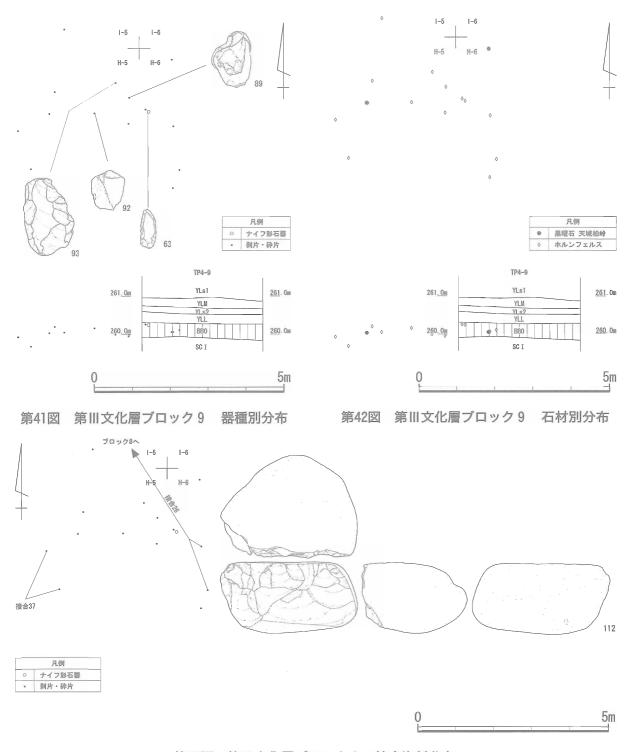
第38図 第Ⅲ文化層ブロック8 器種別分布



第39図 第Ⅲ文化層ブロック8 石材別分布



第40図 第Ⅲ文化層ブロック8 接合資料分布



第43図 第Ⅲ文化層ブロック 9 接合資料分布

表15 第Ⅲ文化層ブロック9 石器石材組成

	黒曜石	ホルン フェルス	計
	天城柏峠		
ナイフ形石器		1	1
剥片・砕片	2	13	15
計	2	14	16

ブロック9 (第41-43図、表15)

H-5/6 グリッドを中心に分布する。検出層準はBB0上部からYLL下部である。土層断面は少し離れた場所にあるので、投影は出土層準を正確に表してはいない。総点数は16点で、ナイフ形石器1点、剥片・砕片15点が組成する。石材構成は天城柏峠産黒曜石2点とホルンフェルス14点である。ブロック8と同様、第1石材はホルンフェルスである。ナイフ形石器はホルンフェルス製で、本ブロックの剥片類と母岩が類似している。

接合資料が2例確認された。

接合26 (ホルンフェルス) 剥片2点、石核1点 (ブロック8) (第67図112-114)

接合37 (ホルンフェルス) 剥片 3 点

ブロック10 (第44・45図、表16)

I-7 グリッドを中心に分布する。検出層準はBB 0 上部を中心にして僅かにYLLに及ぶ。総点数は20 点で、ナイフ形石器 3 点、掻器 1 点、二次加工剥片 1 点、使用痕剥片 1 点、剥片・砕片14点が組成する。石材構成は天城柏峠産黒曜石12点、箱根畑宿産黒曜石 4 点、ホルンフェルス 4 点である。近傍で採取できる石材が占め、天城柏峠産黒曜石が第 1 石材となっている。

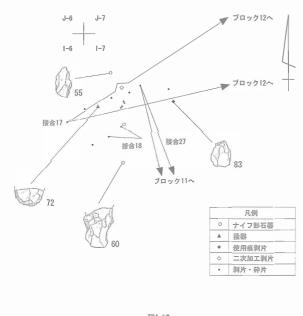
接合資料を3例確認した。ブロック11および12に含まれる石器との接合例が多い。

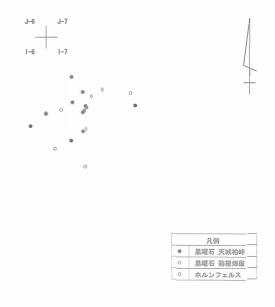
接合17 (天城柏峠産黒曜石) ナイフ形石器 1 点 (ブロック12)、剥片 1 点 (ブロック10)、

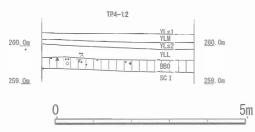
石核 1 点 (ブロック12) (第66図58・107・108)

接合18 (天城柏峠産黒曜石) 剥片 2 点

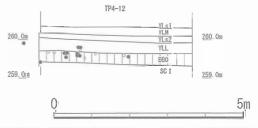
接合27 (ホルンフェルス) 剥片3点(うち1点はブロック11)、石核1点(ブロック11)







第44図 第Ⅲ文化層ブロック10 器種別分布



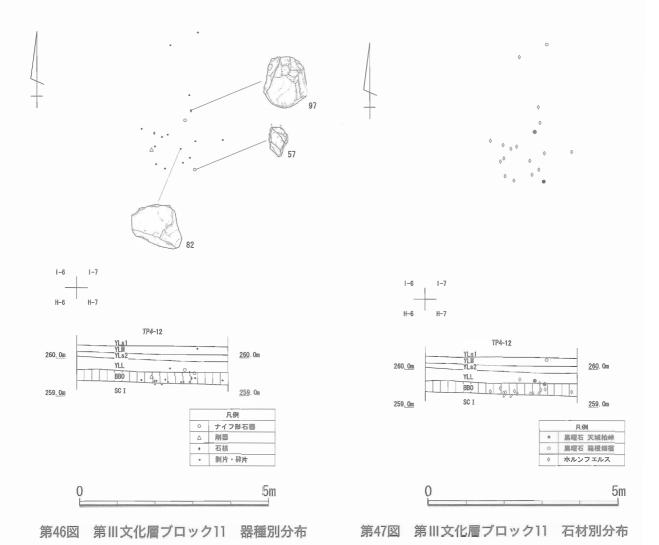
第45図 第Ⅲ文化層ブロック10 石材別分布

表16 第Ⅲ文化層ブロック10 石器石材組成

	黑阳	翟石	ホルン フェルス	計
	天城柏峠	箱根畑宿		
ナイフ形石器	I	1	1	3
掻器		1		1
二次加工剥片	1			1
使用痕剥片	I			1
剥片・砕片	9	2	3	14
計	12	4	4	20

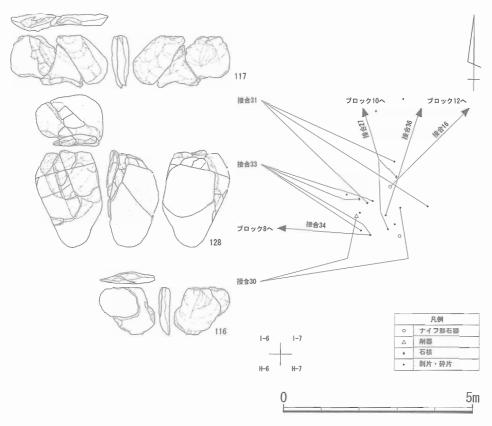
表17 第Ⅲ文化層ブロック11 石器石材組成

	黒阳	ホルン フェルス	計	
	天城柏峠	箱根畑宿		
ナイフ形石器	2			2
削器			1	1
剥片・砕片		1	14	15
石核			2	2
計	2	1	17	20



ブロック11 (第46-48図、表17)

I-7 グリッドに分布する。BB 0 下部を中心にして僅かにYLLとYLMにも分布する。総点数20点で、ナイフ形石器 2 点、削器 1 点、剥片・砕片15点、石核 2 点が組成する。石材構成は、天城柏峠産黒曜石 2 点、箱根畑宿産黒曜石 1 点、ホルンフェルス17点で、第 1 石材はホルンフェルスである。なお、YLMで検出した 1 点は箱根畑宿産黒曜石製で、検出層位も石材も他の石器群と異なっており、第IV文



第48図 第Ⅲ文化層ブロック11 接合資料分布

化層に帰属する可能性があるものの、第IV文化層のその位置に石器群の重複がない単独資料なので、確証はないが第Ⅲ文化層の遺物として扱った。このような資料の処遇はたいへん難しい。

ブロック12 (第49・50図、表18)

I-7 グリッドを中心に分布する。BB 0 が主要な検出層準である。総点数は36点で、ナイフ形石器 8 点、使用痕剥片 2 点、剥片・砕片22点、石核 4 点が組成する。石材構成は天城柏峠産黒曜石10点、箱根畑宿産黒曜石 5 点、ホルンフェルス21点と、やはり近傍の石材で占められる。ホルンフェルスが第 1 石材である。製品は 3 種の石材すべてに組成されており、廃棄頻度も高い。

接合資料は3例確認した。接合資料番号とその内訳は以下の通り。

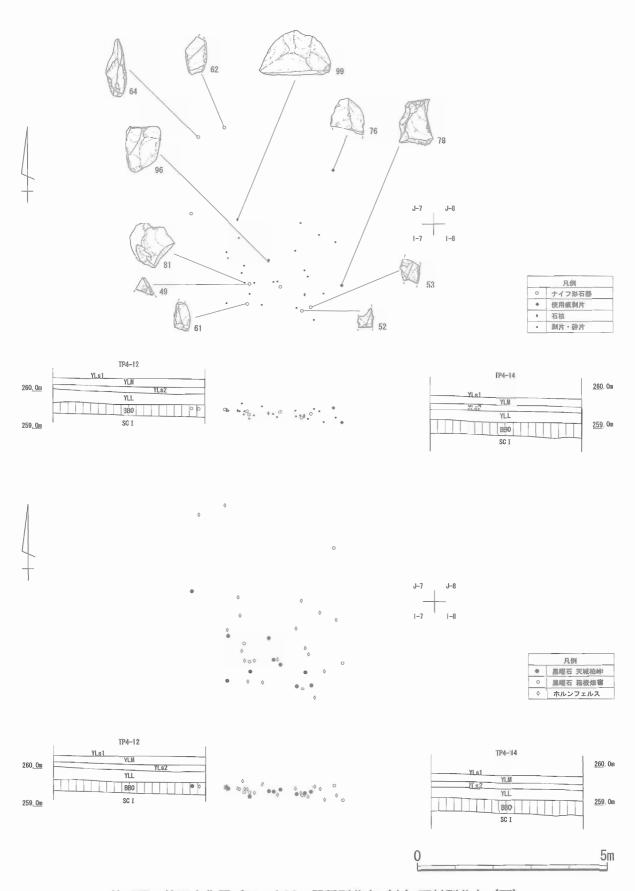
接合16 (天城柏峠産黒曜石) 剥片2点、ナイフ形石器1点 (ブロック11)、石核1点 (第66図 102-106)

接合17 (天城柏峠産黒曜石) ナイフ形石器 1 点、剥片 1 点 (ブロック10)、石核 1 点 (第66図58・107・108)

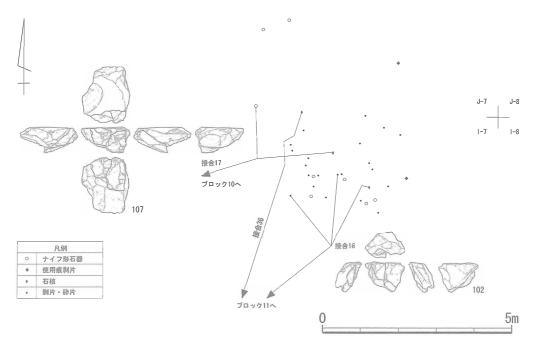
接合36(ホルンフェルス) - 剥片 1 点(ブロック11)、石核 1 点(第63図99、石核のみ掲載)

ブロック13 (第51-53図、表19)

J-8/9 グリッドを中心に分布する。おもな検出層準はBB0で、一部がYLL-YLMに及ぶ。投影図は、土層断面図と石器集中との間に標高差があるため、余り参考にならない。総点数は47点で、ナイフ形石器4点、角錐状石器1点、削器2点、掻器2点、二次加工剥片2点、剥片・砕片35点、石核1点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石29点を主体として、天城柏峠産黒曜石3点、測定/推定不可の黒曜



第49図 第Ⅲ文化層ブロック12 器種別分布(上)石材別分布(下)



第50図 第Ⅲ文化層ブロック12 接合資料分布

表18 第Ⅲ文化層ブロック12 石器石材組成

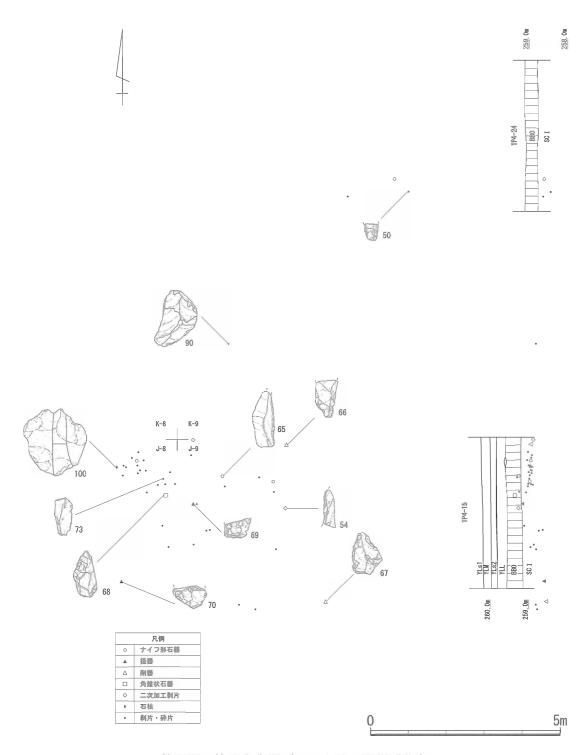
	黒田	翟石	ホルン フェルス	計
	天城柏峠	箱根畑宿		
ナイフ形石器	3	2	3	8
使用痕剥片		2		2
剥片・砕片	5	1	16	22
石核	2		2	4
計	10	5	21	36

表19 第Ⅲ文化層ブロック13 石器石材組成

	黒曜石			ホルン フェルス	硬質細粒 凝灰岩	珪質頁岩	計	
	天城柏峠	箱根畑宿	推定不可	測定不可				
ナイフ形石器	I	2			I			4
角錐状石器							1	1
削器	1	1						2
掻器		I	1					2
二次加工剥片		2						2
剥片・砕片	1	23	4	1	3	I	2	35
石核					1			1
計	3	29	5	I	5	I	3	47

石6点、ホルンフェルス5点、珪質頁岩3点、硬質細粒凝灰岩1点である。箱根畑宿産黒曜石が第1石材である。角錐状石器(第59図68)は珪質頁岩製で、2点の珪質頁岩製の小型剥片(接合38:第71図134-136)と同一個体と推測される。二次加工の一部がこの場所で行われたのかもしれない。

接合資料を4例確認した。接合資料番号とその内訳は次の通り。



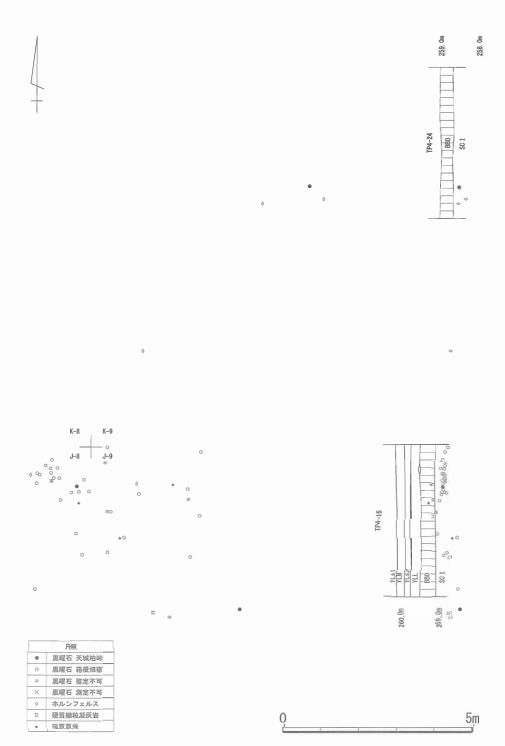
第51図 第Ⅲ文化層ブロック13 器種別分布

接合21 (箱根畑宿産黒曜石) 二次加工剥片 1 点、剥片 1 点 (ブロック14) (第58図51、第67図111)

接合22 (肉眼観察で箱根畑宿産黒曜石) ナイフ形石器 2点 (第58図46-48)

接合25 (產地推定不可黒曜石) 剥片 2 点

接合38 (珪質頁岩) 剥片 2点 (第71図134-136)

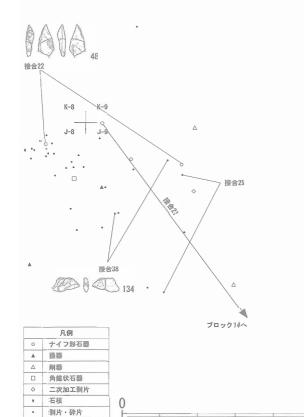


第52図 第Ⅲ文化層ブロック13 石材別分布

ブロック14 (第54・55図、表20)

J-9/10グリッドを中心に分布する。検出層準はBB 0 からYLLを中心とするが、一部にYLMやYLUJで検出された箱根畑宿産黒曜石製の剥片を含む。これらはそれぞれ単体で第IVもしくは第V文化層に帰属するかもしれないが、ブロックの重複がないので、この文化層に含めておいた。

			•	1 1 2 2



第53図 第Ⅲ文化層ブロック13 接合資料分布

表20 第Ⅲ文化層ブロック14 石器石材組成

	黒曜石		ホルン フェルス	流紋岩	計
	箱根畑宿	推定不可			
角錐状石器	1				I
使用痕剥片	1				1
剥片・砕片	14	1	7	1	23
石核	1				1
計	17	1	7	I	26

総点数は26点で、角錐状石器1点、使用痕剥片1点、剥片・砕片23点、石核1点が組成する。石材構成は箱根畑宿産黒曜石17点、産地推定不可の黒曜石1点、ホルンフェルス7点、流紋岩1点で、箱根畑宿産黒曜石が第1石材である。

接合資料を3例確認した。詳細は下の通り。 接合21 (箱根畑宿産黒曜石)

二次加工剥片 1点 (ブロック13)、剥片 1点 (第 58図51、第67図111)

接合24 (箱根畑宿産黒曜石) 剥片 2 点 接合35 (ホルンフェルス) 剥片 2 点

ブロック15 (第56・57図、表21)

K-10/11グリッドを中心に分布する。検出層準は BB0である。総点数は133点で、使用痕剥片2点、 剥片・砕片131点が組成する。石材構成は、箱根畑 宿産黒曜石79点、推定/測定不可黒曜石53点、ガラ ス質黒色安山岩1点で、箱根畑宿産黒曜石が第1石 動材である。測定不可だった黒曜石はおそらく箱根畑 宿産であろう。

接合資料は2例確認された。内訳は以下の通り。

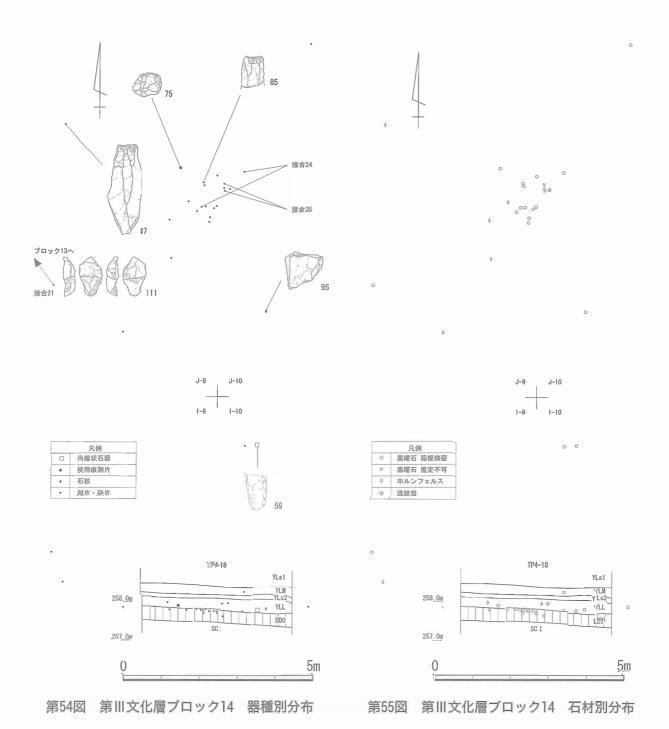
接合19 (箱根畑宿産黒曜石) 剥片 2 点接合20 (箱根畑宿産黒曜石) 剥片 2 点

2 出土石器の検討

ナイフ形石器 (第58図46-60、第59図61-65)

19点出土した。素材には石刃ないし縦長剥片を素材とするものと横打剥片とがあり、両者の数はほぼ同等である。一側縁加工と二側縁加工の2タイプが観察されるが、二側縁加工が大半である。ただし、破損品の比率が非常に高いので、必然的に分類は推測的である。石材は、天城柏峠産黒曜石、箱根畑宿産黒曜石、ホルンフェルスが主体である。帰属ブロックについては表27を参照いただきたい。

50・53・55-58は天城柏峠産黒曜石製である。打面を基部に残すタイプとそうでないものとがあり、相半ばしている。55と56以外は全て破損している。

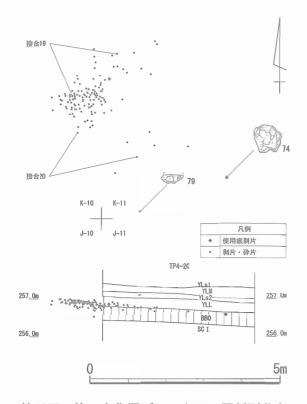


48 (46・47を含む)・49・51・52・54・59・60は箱根畑宿産黒曜石製である。全て破損品である。61-65はホルンフェルス製である。61、64、65は縦長剥片製、62と63は横打剥片製である。

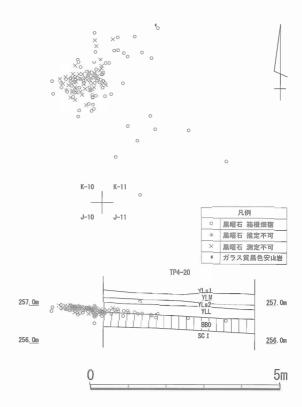
角錐状石器 (第59図68)

機能的には錐や削器などの加工具を想定することもできる一群である。

68は珪質頁岩製である。周縁全体に二次加工を施す。右側縁と基部は折断したあとから微細に調整する。同一個体と推定される2点の剥片(接合38:第71図134-136)も検出されているので、石器製作工



第56図 第Ⅲ文化層ブロック15 器種別分布



第57図 第Ⅲ文化層プロック15 石材別分布

表21 第Ⅲ文化層ブロック15 石器石材組成

		0 0 000 0 00 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			
黒曜石			ガラス質 黒色安山岩	計	
箱根畑宿	推定不可	測定不可			
2				2	
77	3	50	1	131	
79	3	50	1	133	
	2 77	:箱根畑宿 推定不可 2 77 3	箱根畑宿 推定不可 測定不可277350	無唯口 黒色安山岩 箱根畑宿 推定不可 測定不可 2 77 3 50 1	

表22 第Ⅲ文化層ブロック外 石器石材組成

	黒曜石	ホルン フェルス	多孔質 安山岩	計
	箱根畑宿			
剥片・砕片	1	5		6
敲石			1	1
計	1	5	1	7

程のいずれかの段階が本遺跡で行われたのは確実である。ブロック13に含まれる。

掻器 (第59図69、70-72)

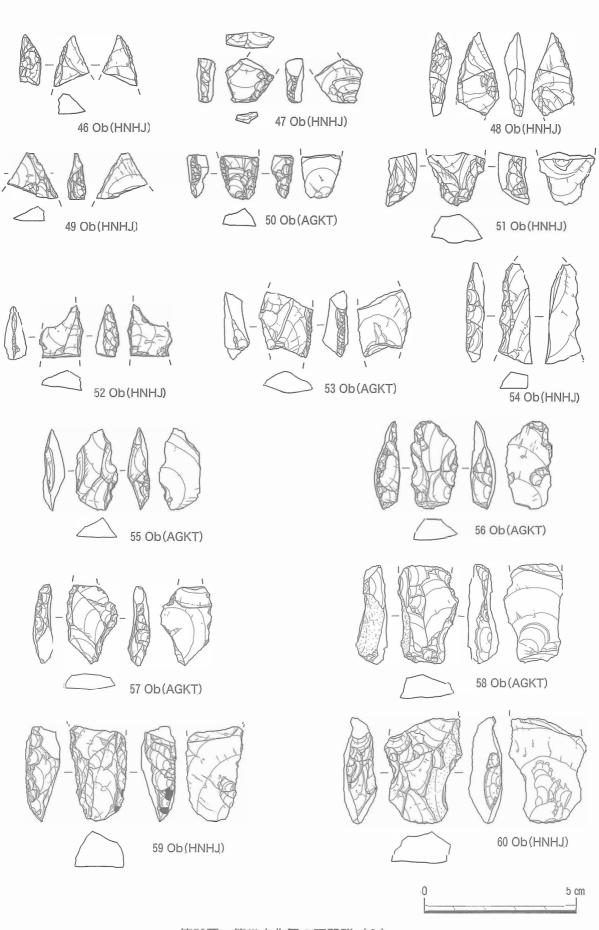
4点出土した。72は打面部の折れにより全体形状を判断できないが、全体的に小型品が多い。69は黒曜石製(産地推定不可だったが、肉眼では伊豆・箱根系)、70と72は箱根畑宿産黒曜石製、71は硬質頁岩製である。69・70はブロック13、71はブロック8、72はブロック10に含まれる。

削器 (第59図66·67、第61図80)

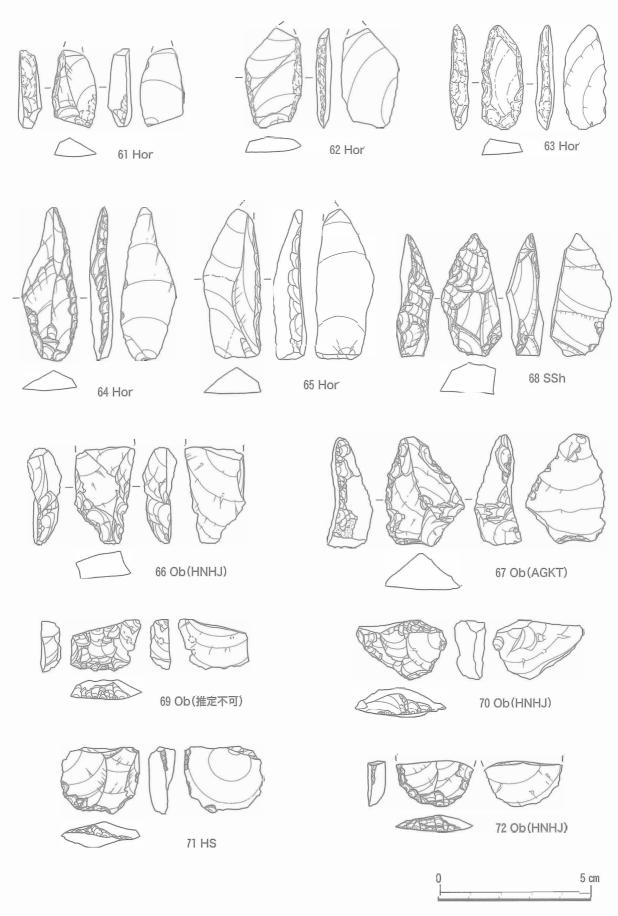
7点出土した。66は箱根畑宿産黒曜石製である。半損しているためはっきりしないが、尖端部の作出が明らかなので削器とした。

67は尖頭状を呈する部分に打面を残しているが、おそらくは角錐状石器に関連しよう。天城柏峠産黒曜石製である。66と67はブロック13に含まれる。

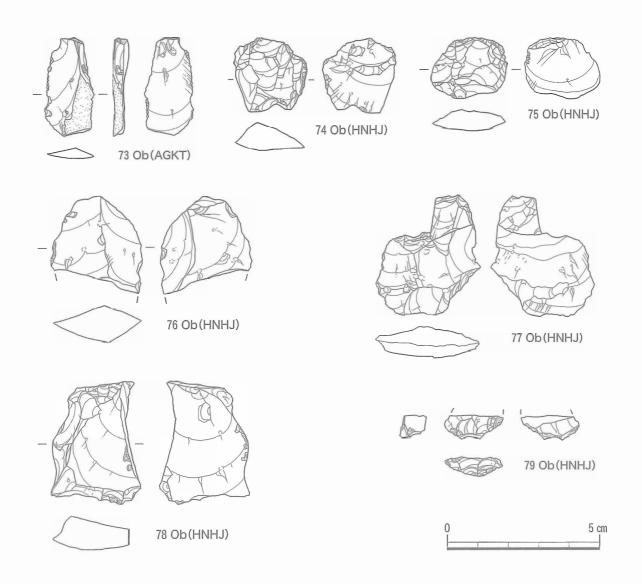
80はホルンフェルス製である。剥片の端部付近に二次加工が認められる。ブロック11に含まれる。



第58図 第Ⅲ文化層の石器群(1)



第59図 第Ⅲ文化層の石器群(2)



第60図 第Ⅲ文化層の石器群(3)

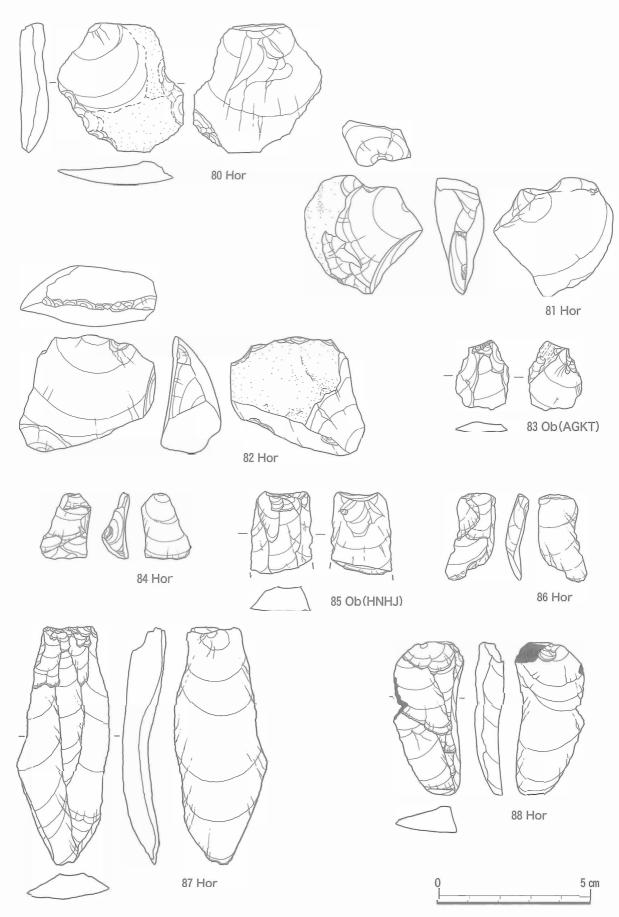
使用痕剥片 (第60図74-78、第61図83)

7点出土した。74-78はすべて箱根畑宿産黒曜石製、83は天城柏峠産黒曜石製である。74はブロック 15、75はブロック14、76はブロック12に含まれる。

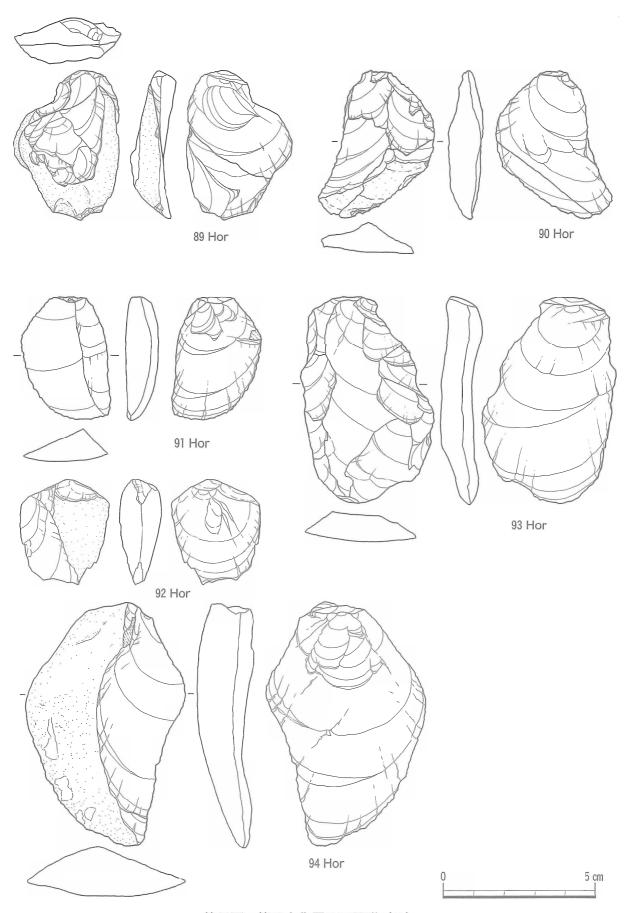
剥片(第60図73、79、第61図81-88、第62図89-94)

252点出土した。箱根畑宿産黒曜石が最も多く、ホルンフェルスと天城柏峠産黒曜石が続く。黒曜石には概して小型品が多く、剥片類からみると礫面付着率は必ずしも高くないので、ある程度消費の進んだ石核が持ち込まれたと考えられる。逆にホルンフェルスには大型品が多く、おそらく原石に近い状態から搬入・消費された可能性が高い。これは石核の組成比率からみても妥当な推測だろう。なお、掲載石器の帰属ブロックは表27を参照いただきたい。

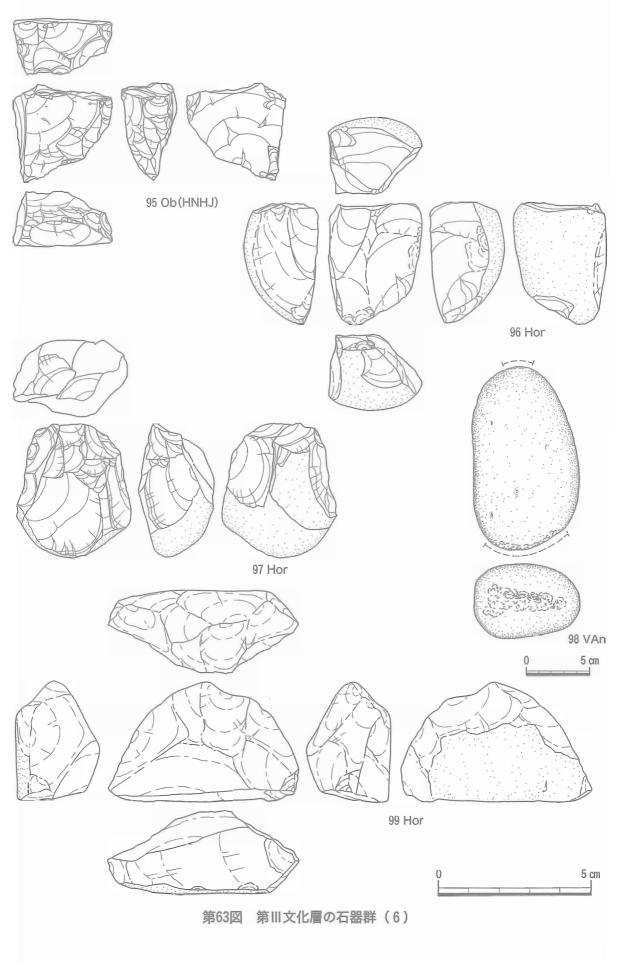
73は天城柏峠産黒曜石製である。左側縁に微細剥離痕が連続する。79と85は箱根畑宿産黒曜石製である。83は石核もしくは削器類の調整剥片の可能性もある。85は折れているが、背面剥離方向と主剥離面剥離方向が一致しており、石刃の可能性がある。81、82、84、86-94はホルンフェルス製である。末端や側縁に自然面を大きく残す幅広剥片と石刃関連のものとがある。

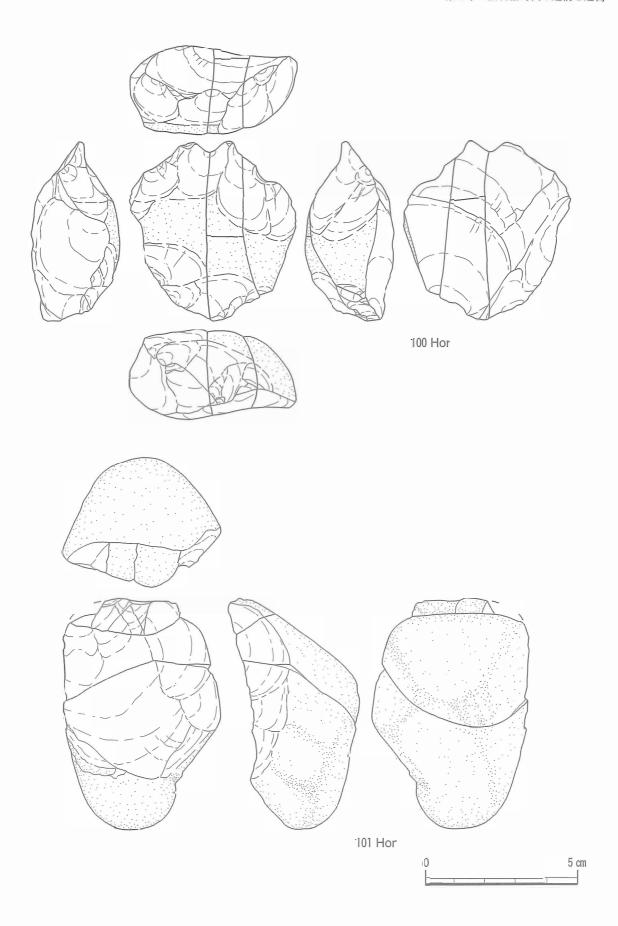


第61図 第Ⅲ文化層の石器群(4)



第62図 第Ⅲ文化層の石器群 (5)





第64図 第Ⅲ文化層の石器群 (7)

石核 (第63回95-99、第64回100、101)

9点出土した。ホルンフェルス6点、天城柏峠産黒曜石2点、箱根畑宿産黒曜石1点であった。石器 群構成比率の最も高い箱根畑宿産黒曜石の石核が最も少ないのは意外である。

95は唯一の箱根畑宿産黒曜石、96・97、99-101はホルンフェルスである。ホルンフェルスは他の石材に比べて礫面付着率が高く、石材獲得後の早い段階で持ち込まれたものと推測される。

3 接合資料

剥片石器の接合資料は接合16から接合38の23個体が該当し、礫の接合資料は接合39から72、接合74から99の60個体が該当する。接合73は割れた石皿の接合資料である。

剥片石器の接合資料の内訳はブロックごとの記述で既に言及したものであるが、まとめると次のようである。残念ながら全ては提示できなかった。

天城柏峠産黒曜石 (接合16-18) 3 例 (第66図102-106、58・107・108、第67図110)

箱根畑宿産黒曜石 (接合19-24) 6 例 (第58図46-48、同図51・第67図111)

産地推定不可黒曜石(接合25) 1例

ホルンフェルス (接合26-37) 12例 (第67図112-114、第68図116、同図117-120、第69図121-124・

第70図125-128、第70図128・第71図129・130、同図131-133)

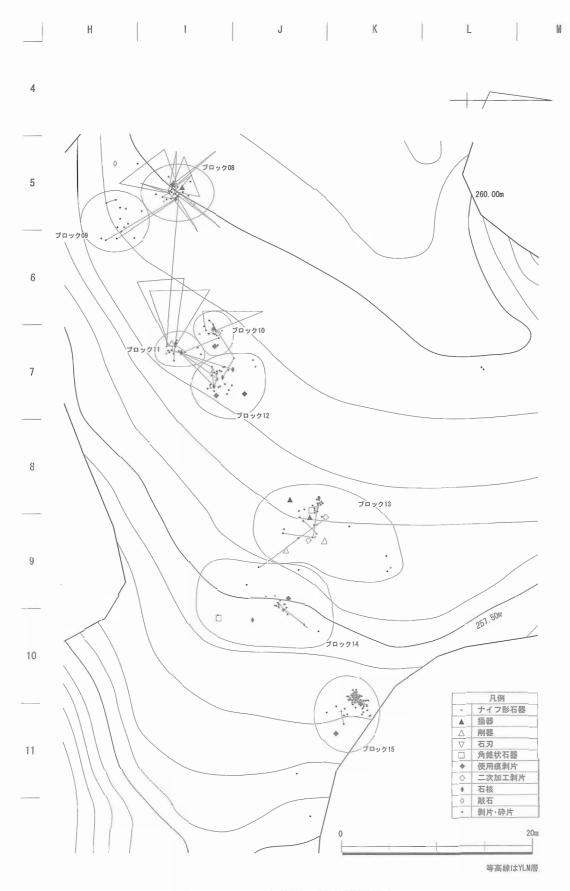
哇質頁岩(接合38) 1例(第71図134-136)

ホルンフェルスの接合数(12例)が突出しているのは明らかであるが、これと共に注目すべきなのは、接合資料中に中部高地産黒曜石と神津島産黒曜石の接合資料が見られず、箱根畑宿/天城柏峠産黒曜石、ホルンフェルスに大きく偏っている点であろう。相対的に遠隔にある石材の消費はきわめて部分的であったといえる。

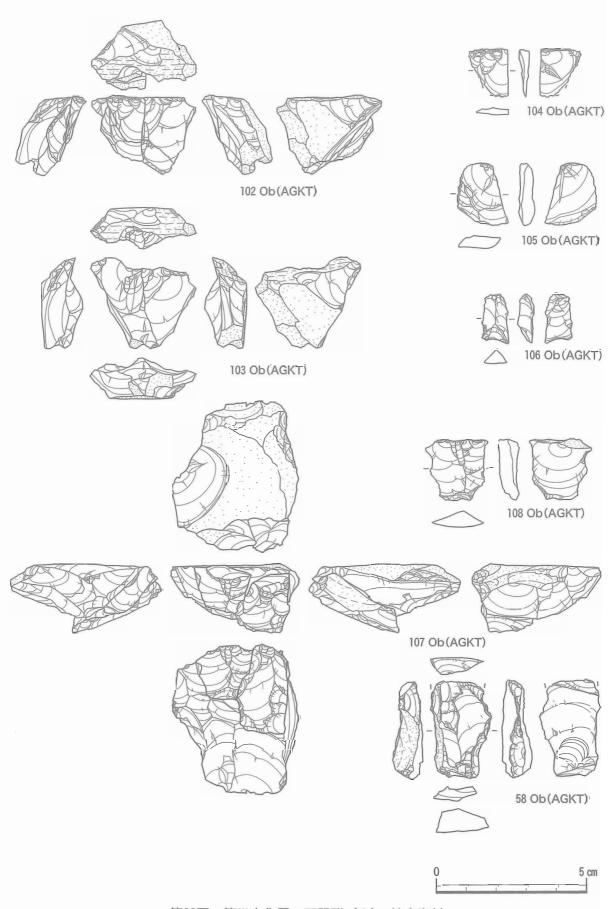
箱根畑宿産黒曜石には接合例がある程度みられたが、全て折れ接合だったので図示したのはナイフ形石器である111(接合21。51はその下半部)と48(接合22。46はその上半部、47は下半部)だけである。石核は、多量の消費のあと次の場所へと携行されていったに違いない。

天城柏峠産黒曜石は、接合16と接合17のように、自然面を大きく残すものがみられ、少なくとも半割された原石に近い状態で搬入・消費されたことが窺える。接合17はさらにナイフ形石器を含み、製品の製作まで行われたことを示している。

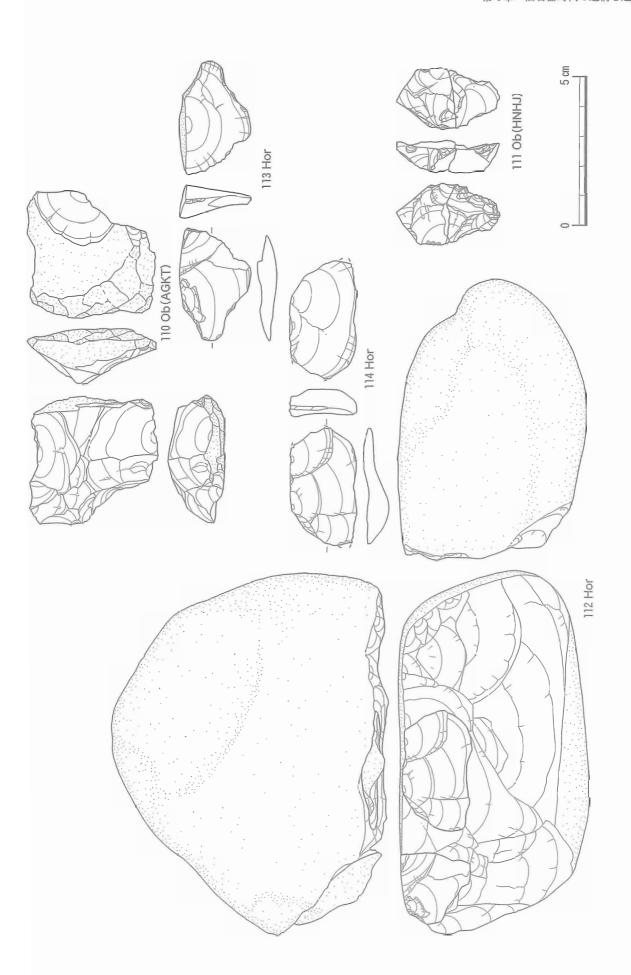
ホルンフェルスは、原石形状を窺わせるものが多く、112のように大半が残される個体も含まれる。 接合資料からは幅広剥片の生産が中心であったことが看取されるが、しかし先述のように石刃が3点、 石刃ないし縦長剥片製ナイフ形石器が3点、それぞれ検出されていることから、少なくとも本遺跡では 原石の搬入状況に関わらず石刃石器群と剥片石器群の両者が生産されていたと推測される。



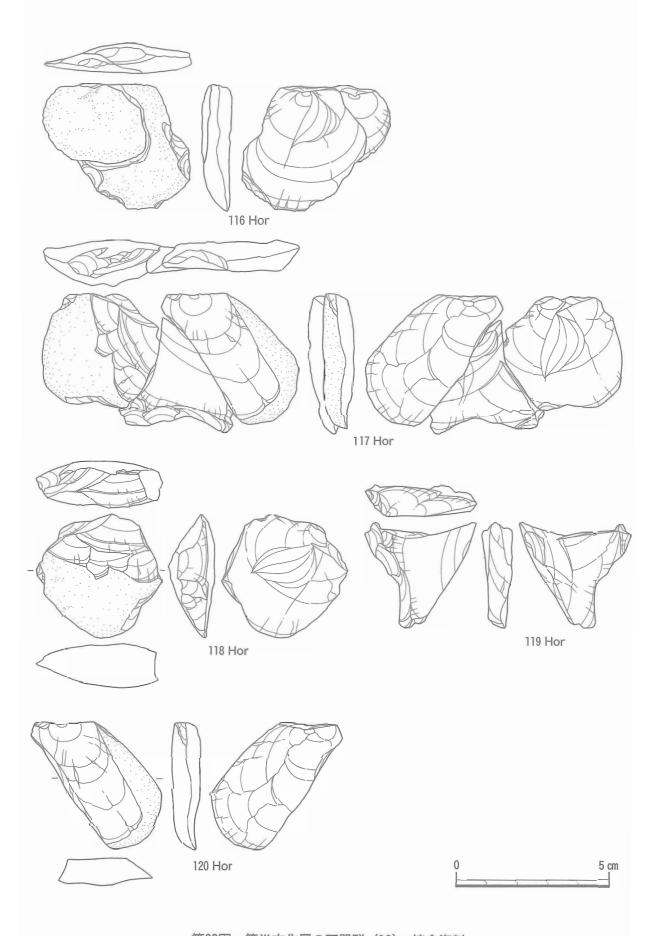
第65図 第Ⅲ文化層 接合資料分布



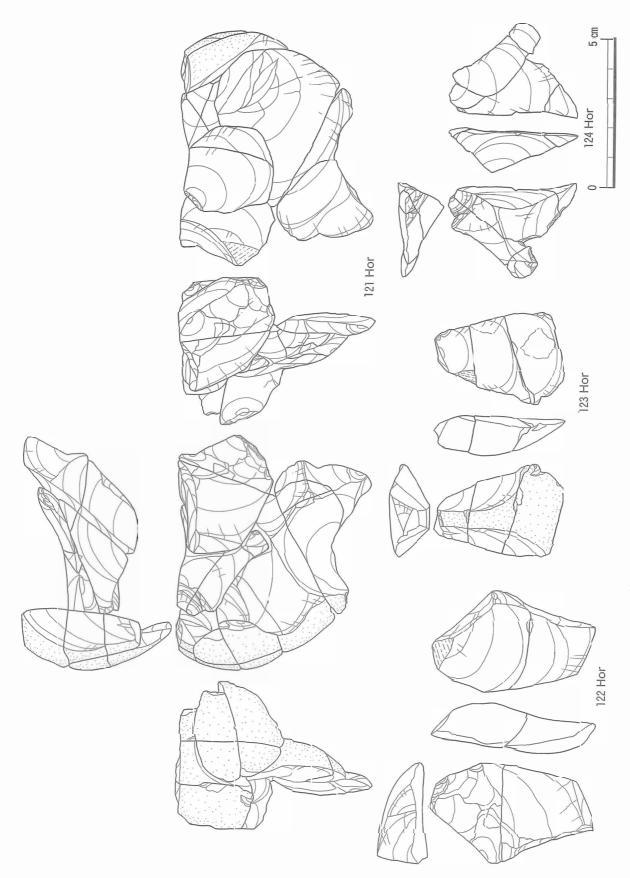
第66図 第Ⅲ文化層の石器群(8) 接合資料



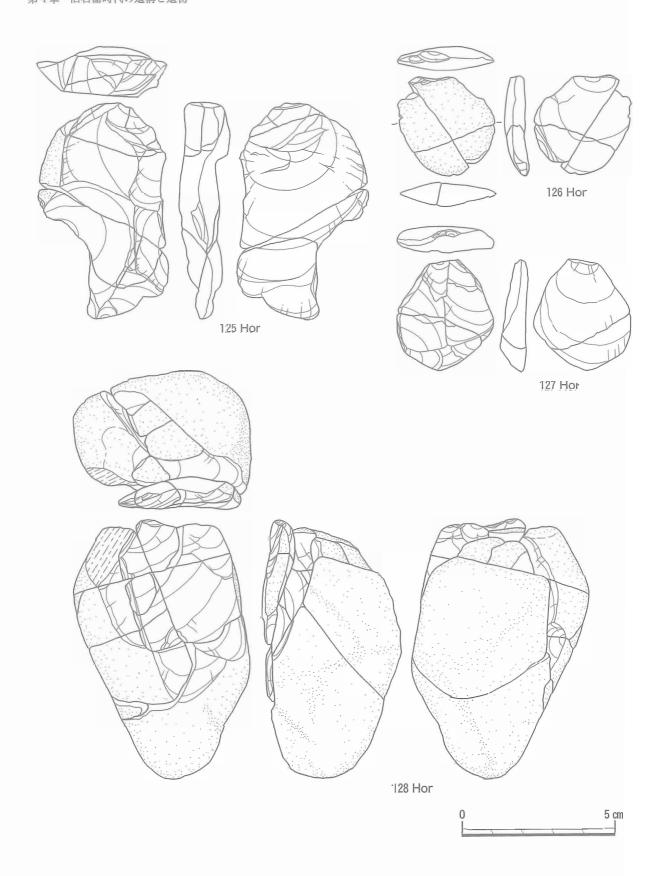
第67図 第111文化層の石器群(9) 接合資料



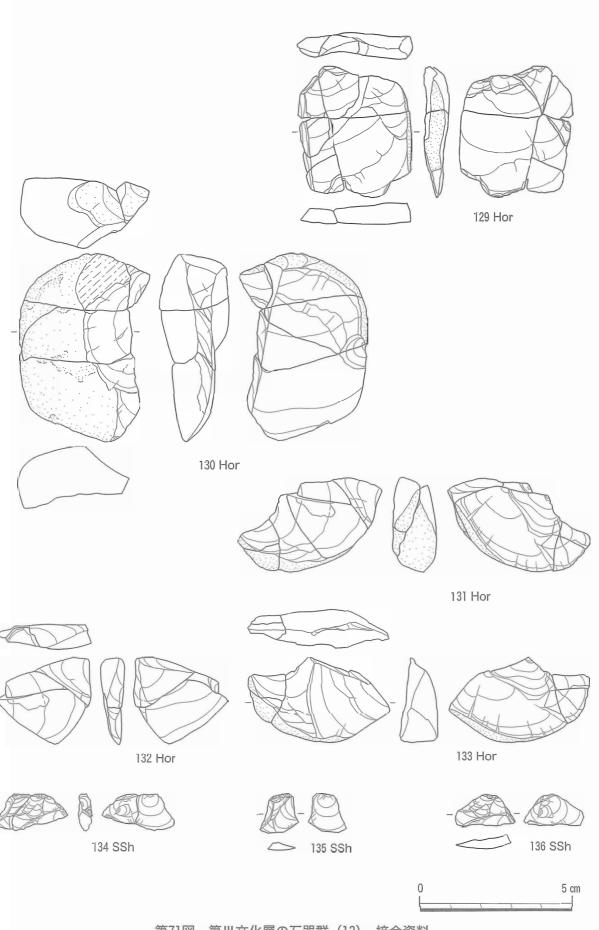
第68図 第Ⅲ文化層の石器群 (10) 接合資料



第69図 第川文化層の石器群(11) 接合資料



第70図 第Ⅲ文化層の石器群 (12) 接合資料



第71図 第Ⅲ文化層の石器群(13) 接合資料

4 礫群

礫群の分布は石器群の分布と大幅に重複していた。個別に見ると明確な密度の差がなく広範囲にわたっている例もあり、各単位の分離は困難だった(第72図)。よって、以下では集中密度や接合関係を鑑みて、それぞれに適宜統合して記載する。

7-14号礫群 (第73図)

I-5 グリッド中央よりやや南で大群を形成している。分布の中心はBB0上部にある。14号は22点、7号は16点の礫で構成されているが、その他の礫群は3点から9点の礫で構成されている。礫の大きさは拳大のものが主体である。礫は1点を除き被熱している。同一礫群内または大群内で礫28点が9個体に接合できる。8号の礫1点と14号の礫2点は、約10m南に離れた位置にある20号の礫1点と接合する。11号は剥片2点と砕片1点、12号は同2点、13号は石核1点を伴う。石材はいずれもホルンフェルスである。

15-21号礫群 (第73図)

H-5 グリッド北東で大群を形成している。分布の中心はBB0上部にある。各群は2点から8点の礫で構成されている。礫の大きさは18号が人頭大、20、21号が小礫、その他の礫群は拳大のものが主体である。礫はすべて被熱している。同一礫群内または大群内で礫4点が2個体に接合できる。また、前述のとおり20号の礫1点は約10m北に離れた位置にある8号の礫1点、14号の礫2点と接合する。17号はホルンフェルスの剥片1点を伴う。

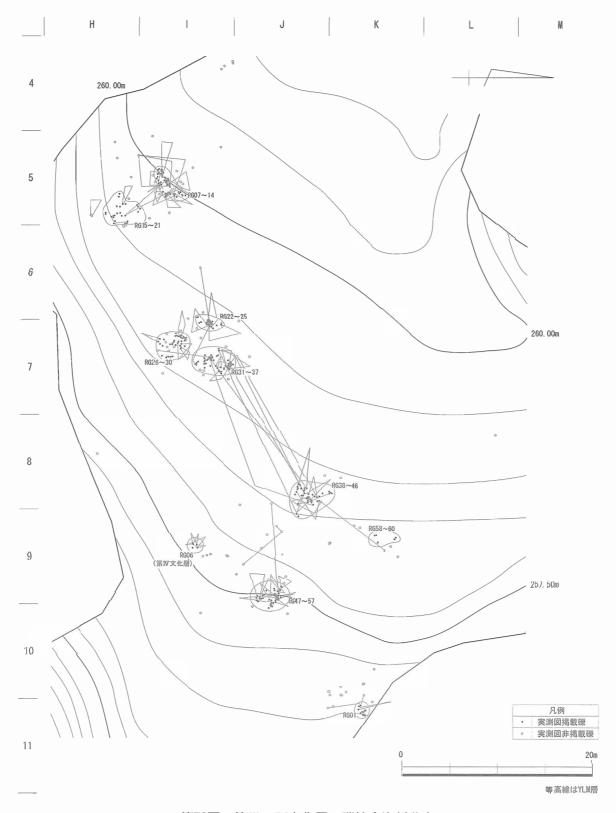
22-25号礫群 (第74図)

I-7 グリッド北西で大群を形成している。礫点数は計41点である。分布の中心はBB 0 上部にある。22号は33点の小礫が密集しており、その他 3 基の礫群は 2 点から 4 点の拳大の礫で構成されている。礫はすべて被熱している。同一礫群内または大群内で礫 7 点が 3 個体に接合できる。このうち25号は同一礫群内で接合し、1 個体になる。22号の礫 1 点は約 5 m東に離れた位置にある37号の礫 1 点と接合する。26-30号礫群(第74図)

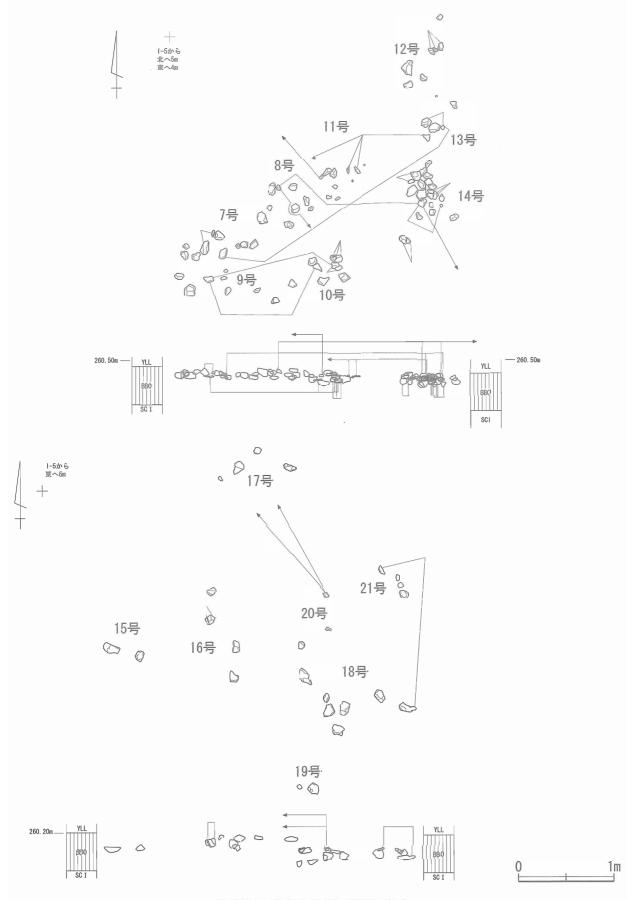
I-7 グリッド南西で大群を形成している。礫点数は計45点である。分布の中心は29号がBB 0 下部に、それ以外は同中部にある。26号は16点の礫で構成されており、他の礫群は6点から8点の礫で構成されている。礫の大きさは29号が拳大よりやや大きなもの、26号は拳大のもの、その他の礫群は小礫が主体である。礫があまり密集していないのがこの大群に含まれる礫群の特徴である。礫はすべて被熱している。礫13点が6個体に接合できる。いずれも同一礫群内での接合であり、大群内そしてこの大群以外の礫との間に接合関係は認められない。26号はホルンフェルスの剥片1点を伴う。

31-37号礫群 (第74図)

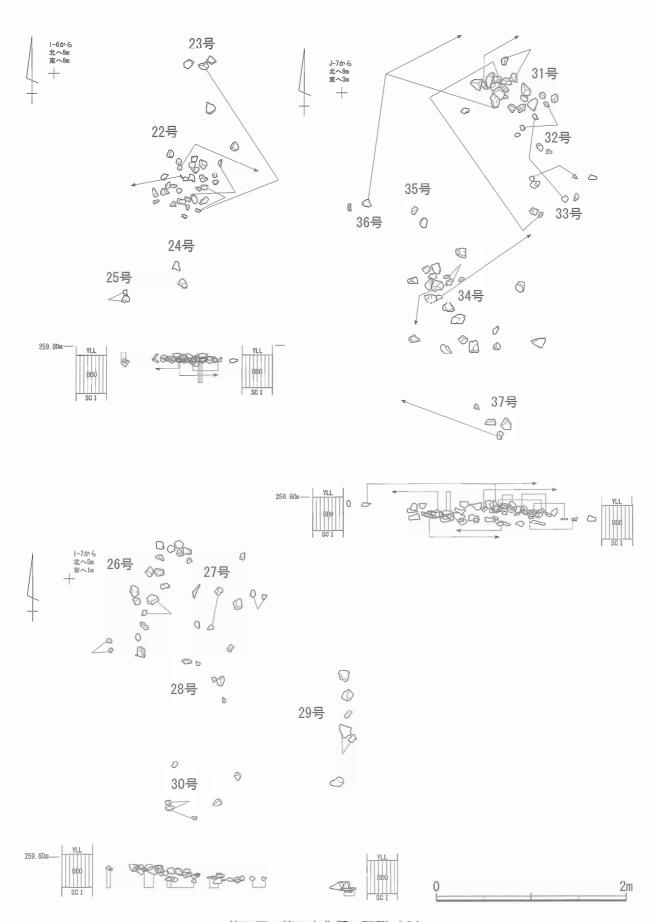
[-7 グリッド北東を中心にして大群を形成している。分布の中心は31号、34号、35号、36号がBB 0 上部、32号と33号が同中部、37号が同下部にある。31号は25点、34号は21点と比較的多量の礫で構成されており、その他の礫群は2点から8点の礫で構成されている。礫の大きさは34号が拳大よりやや大きいもの、その他の礫群は拳大のものが主体である。礫はすべて被熱している。同一礫群内または大群内で礫14点が7個体に接合できる。また一部は約20m北東に離れた位置にある38-46号の礫とよく接合する。前後関係は不明だが、時間差のある抜き取り効果が推測されよう。



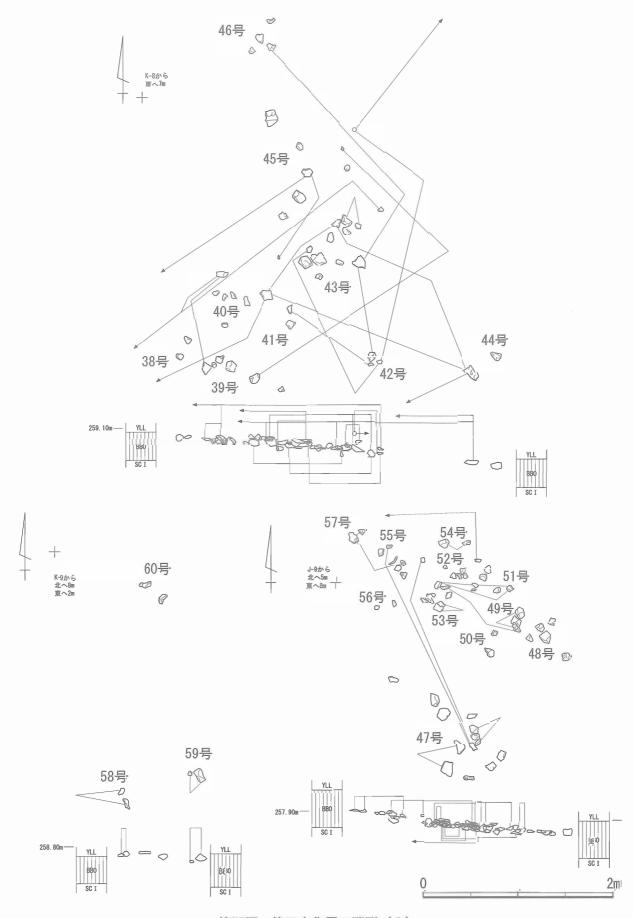
第72図 第Ⅲ·IV文化層 礫接合資料分布



第73図 第Ⅲ文化層の礫群(1)



第74図 第Ⅲ文化層の礫群(2)



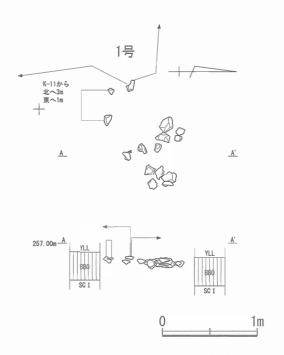
第75図 第Ⅲ文化層の礫群(3)

38-46号礫群 (第75図)

J-8グリッド北東を中心にして大群を形成している。分布の中心は44-46号がBB0中部に、その他の礫群は同上部にある。43号は13点の礫で構成されており、他の礫群は2点から7点の礫で構成されている。礫の大きさは42号が小礫、その他の礫群は拳大のものが主体である。礫はすべて被熱している。同一礫群内または大群内で礫13点が6個体に接合できる。また、39号、40号、43-45号の礫の一部は約20m南西に離れた位置にある31号、33号、34号、36号の礫と接合する他、42号、43号の礫各1点は約10m北東に離れた場所に位置する59号のすぐ近くの同一層中から出土した礫1点と接合する。

47-57号礫群 (第75図)

J-9 グリッド西からJ-10グリッド東で大群を形成している。分布の中心はBB 0 中部にある。47号は13点、52号は10点の礫で構成されており、他の礫



第76図 第Ⅲ文化層の礫群(4)

群は2点から8点の礫で構成されている。礫の大きさは47号が拳大よりやや大きいもの、51号、52号、55号、56号は小礫、その他の礫群は拳大のものが主体である。礫はすべて被熱している。同一礫群内または大群内で礫21点が9個体に接合できる。このうち54号と57号はそれぞれ同一礫郡内で接合し、I個体になる。

58-60号礫群 (第75図)

K-9 グリッド中央よりやや西で大群を形成しているが、各礫群の間隔はやや離れている。分布の中心はBB0上部にある。各礫群は2点の礫で構成されており、礫点数は計6点である。礫の大きさは60号が拳大よりやや大きいもの、その他の礫群は拳大のものが主体である。礫は1点を除き被熱している。58号、59号はそれぞれ同一礫群内で接合し、1個体になる。

1号礫群 (第76図)

K-10グリッド南東からK-11グリッド南西で大群を形成している。分布の中心はBB0上部にある。礫 15点で構成されている。礫は拳大のものが主体であり、すべて被熱している。同一礫群内で礫2点が1個体に接合できる。

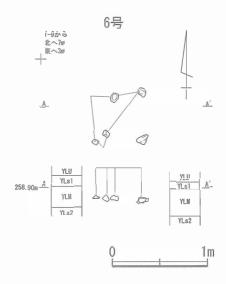
第4節 第IV文化層

概要

本文化層は礫群1基(6号)のみで構成される。 I-9グリッド北部で拳大の礫5点が検出されたが、このうち4点が1個体に接合できる。検出層準はYLM中部である。礫群の位置は第Ⅲ文化層の礫群接合状況の平面分布図とともに示した(第72図RG06)。6号礫群は、第Ⅲ文化層の礫群と第V文化層の礫群に平面的に非常に近いが、検出層準が明らかに異なっていたので単独で文化層を設定した。

休場層中には、このような上下の文化層とレベル の異なる礫群が検出されることがある。これらはし ばしば目立った剥片石器を伴っていないことから文 化層として識別されてこなかったが、今後、このよ うな事例を積極的に評価していくようにしたい。

本礫群の時間的位置づけは、少なくとも層位的に 角錐状石器を含む第Ⅲ文化層よりも上位で、且つ尖 頭器を主体とする第V文化層よりも下位で検出され ていることから、V上・Ⅳ下最新段階から「砂川 期」の可能性が高い。

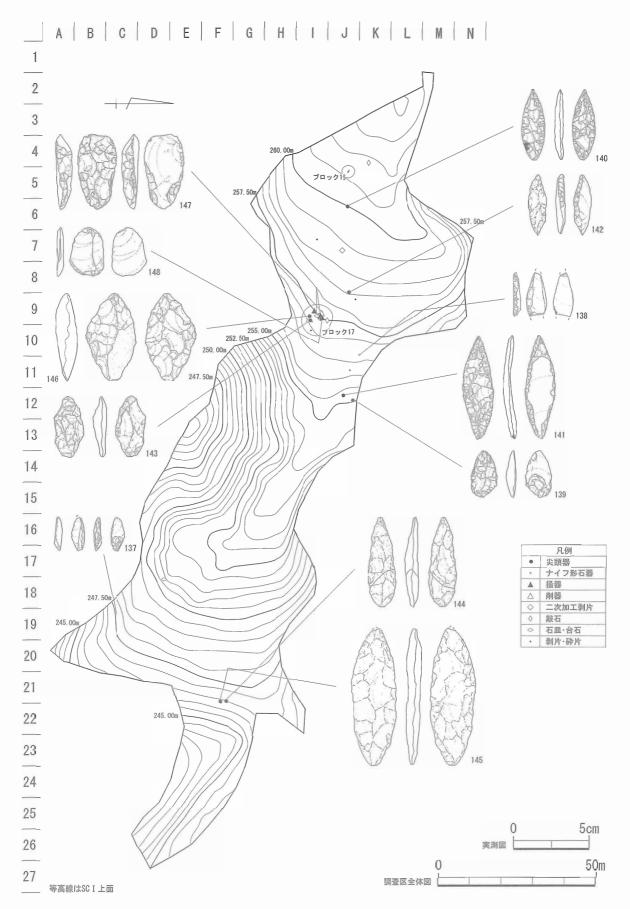


第77図 第Ⅳ文化層の礫群

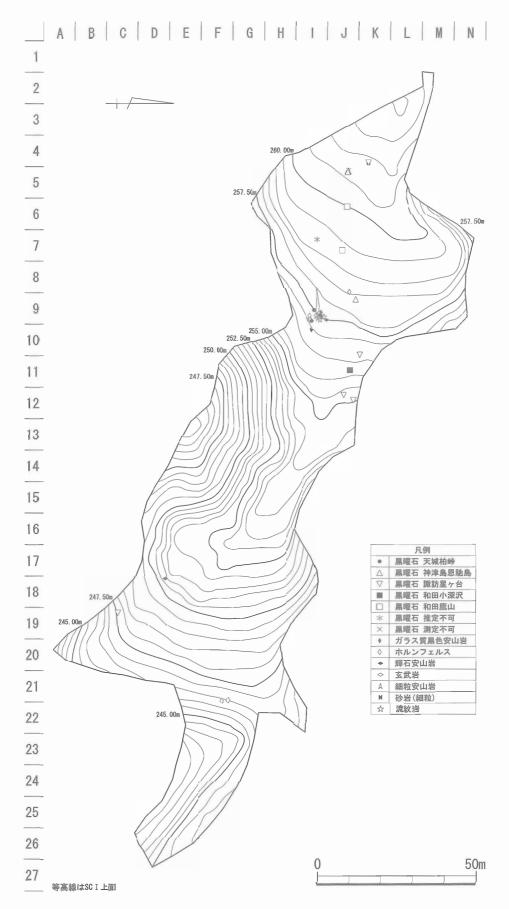
第5節 第V文化層

概要

YLUの上部を主要な包含層とする石器群である。石器集中2箇所と礫群1基で構成される(第78・79・87図)。しかし、2箇所の石器集中に含まれた石器群が本文化層の石器総数にしめる割合は低く、主要なトゥールを含む石器群の多くは散漫な分布状況にある(第78図)。石器群の詳細な内訳は表23の通りである。総点数は42点で、ナイフ形石器2点、尖頭器8点、削器2点、掻器3点、二次加工剥片1点、剥片・砕片21点、敲石2点、台石1点、石皿2点が組成する。主要な石材構成は、諏訪星ヶ台産黒曜石5点、和田鷹山産黒曜石2点、和田小深沢産黒曜石1点、天城柏峠産黒曜石3点、神津島恩馳島産黒曜石8点、産地測定/推定不可の黒曜石3点、ホルンフェルス6点、ガラス質黒色安山岩3点、他11点である。ただし、神津島系の8点は石器集中を形成し、尖頭器石器群との共伴関係は不明瞭である。これらの石器群の形成がほぼ同時期と見なしうるならば、この往還を伴う生業活動は異なる生態条件にある山地丘陵方面と海上方面の双方を組み入れていることになろう。石器の型式学的特徴から見て、高尾編年の「第4期後半」と予想される。



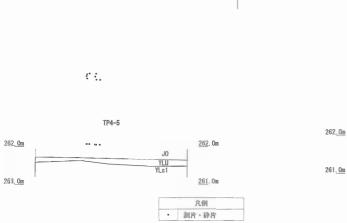
第78図 第 V 文化層 器種別分布



第79図 第V文化層 石材別分布

表23 第 V 文化層 石器石材組成

	黒曜石								ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩	流紋岩	玄武岩	砂岩 (細粒)	計
	諏訪 星ヶ台	和田鷹山	和田 小深沢	天城 柏峠	神津島 恩馳島	推定 不可	測定 不可								
ナイフ形石器	2														2
尖頭器	2	1						5							8
削器									1			1			2
掻器				2					1						3
二次加工剥片		1													1
剥片・砕片	1		1	_ 1	8	2	1	1	1	4		1			21
敲石											1			1	2
台石											1				1
石皿													2		2
計	5	2	1	3	8	2	1	6	3	4	2	2	2	1	42



第80図 第V文化層ブロック16 器種別分布

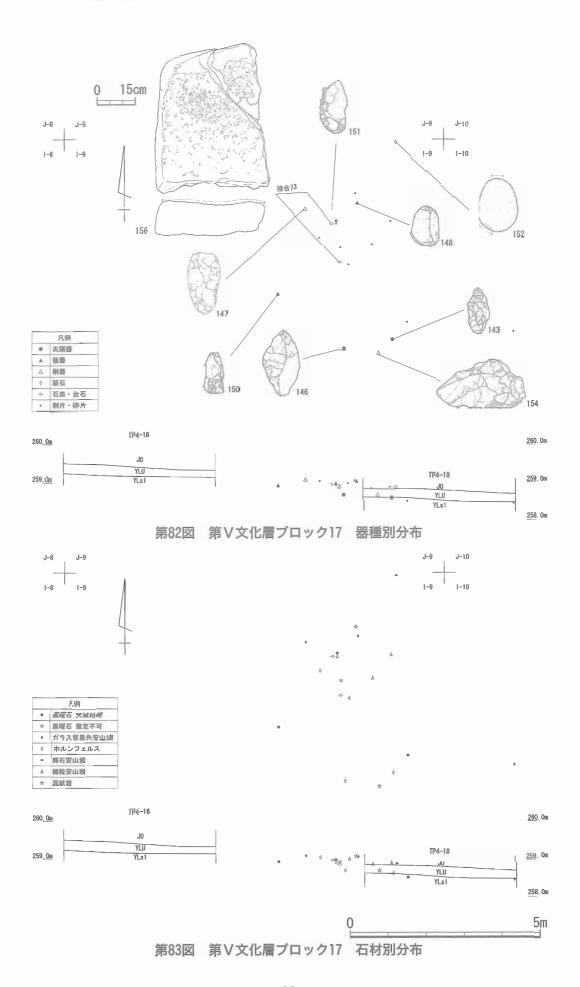
O 5m

黑曜石 神津島思馳島 黒曜石 測定不可

第81図 第V文化層ブロック16 石材別分布

表24 第V文化層ブロック16 石器石材組成

	黒曜	石	計
	神津島恩馳島	測定不可	
剥片・砕片	7	1	8



1 石器集中

ブロック16 (第80・81図、表24)

J-5 グリッドに分布する。検出層準はYLU上部である。神津島恩馳島産黒曜石製剥片 7 点と、測定不可黒曜石の剥片 1 点で構成される。

ブロック17 (第82・83図、表25)

I-9 グリッドを中心に分布する。検出層準はYLU上部である。総点数は19点で、尖頭器 2 点、削器 2 点、掻器 3 点、剥片・砕片 9 点、敲石 1 点、石皿 2 点が組成する。石材構成は、天城柏峠産黒曜石 3 点、推定不可黒曜石 1 点、ホルンフェルス 3 点、ガラス質黒色安山岩 3 点、他 9 点である。

接合資料が1例確認された。接合73 (第86図156) は割れた石皿の接合資料である。

ブロック外の石器群(第78図、表26)

ブロックを設定していない位置にも石器の散漫な分布を確認できる。ブロック外石器群として扱うが、本文化層ではこれらの中も多くの尖頭器が検出されている。付近で製作された痕跡は認められないことに、この石器群の特徴があるといえよう。

表25 第V文化層ブロック17 石器石材組成

	黒	翟石		ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	細粒 安山岩	流紋岩	玄武岩	計
	天城柏峠	推定不可							
尖頭器			2						2
削器				1			I		2
掻器	2			1					3
剥片・砕片	1	I	1	1		4	1		9
敲石					I				I
石皿								2	2
計	3	1	3	3	I	4	2	2	19

表26 第V文化層ブロック外 石器石材組成

			黒曜石			ホルン フェルス	砂岩 (細粒)	輝石 安山岩	計
	諏訪 星ヶ台	和田鷹山	和田小深沢	神津島 恩馳島	推定不可				
ナイフ形石器	2								2
尖頭器	2	I				3			6
二次加工剥片		Ĭ							I
剥片・砕片	I		1	1].				4
敲石							I		1
台石								11	1
計	õ	2	1	1	1	3	Ī	1	15

2 出土石器の検討

主要な石器20点の実測図を提示する (第84図137-第86図156)。

ナイフ形石器

第84図137と138はどちらも諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃製ナイフ形石器である。137は尖端部、138は 尖端部と基部を、それぞれ失っている。

尖頭器

139-146は尖頭器である。139と141は諏訪星ヶ台産黒曜石製、140は和田鷹山産黒曜石製、142-146はホルンフェルス製である。ホルンフェルスは風化が著しいので剥離面の検討は容易でない。143と146はブロック17に含まれる。

削器

147はガラス質黒色安山岩製である。細分類するなら尖頭削器といえる。横打剥片を素材にして両面 体尖頭器に類似する鱗状剥離によって整形したものである。ブロック17に含まれる。

154は流紋岩製である。石材は粗粒であまり質が良くない。端部に、使用痕のような不規則な剥離痕が多くみられる。ブロック17に含まれる。

二次加工剥片

149は和田鷹山産黒曜石製である。素材剥片の打面付近に急角度の二次加工が連続的に見られる。

掻器

148はガラス質黒色安山岩製である。比較的薄手の寸詰まり縦長剥片の端部に刃部を作出する。147とは別個体である。ブロック17に含まれる。

150は天城柏峠産黒曜石製である。分厚い剥片を素材にして、その側縁部に厚手の二次加工を施す。 151は天城柏峠産黒曜石製である。風化の度合いが異なる面に覆われた剥片を素材に、その側縁と端 部に二次加工を施して刃部とする。刃部は鋸歯状を呈する。2点ともブロック17に含まれる。

敲石

152は輝石安山岩製である。上下両端部に敲打痕が観察される。ブロック17に含まれる。

153は細粒砂岩製である。上下両端部に敲打に起因すると推測される複数の剥離痕が観察される。

石皿.

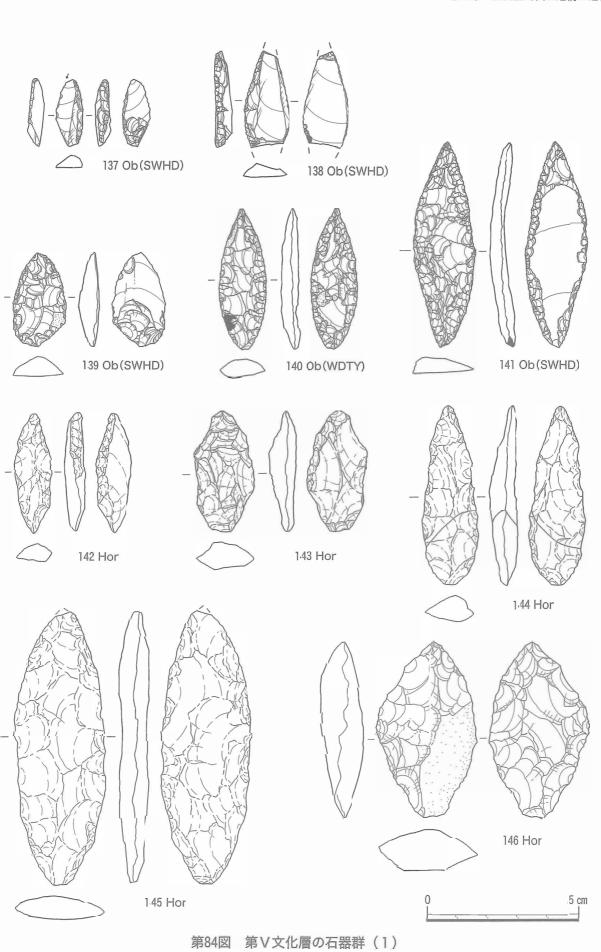
155は輝石安山岩製である。156は玄武岩製である。研磨面には広い範囲に敲打痕も見られる。

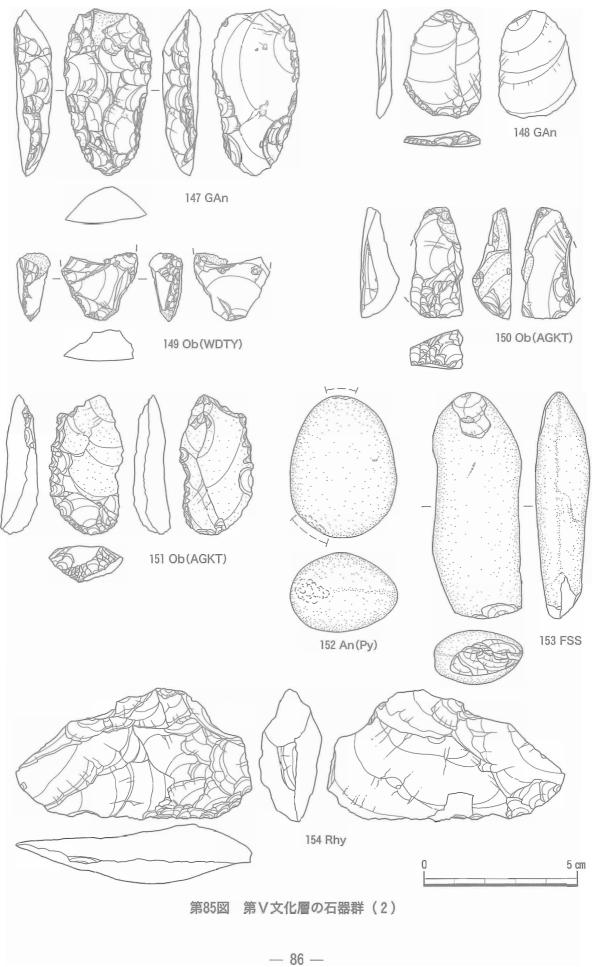
3 接合資料

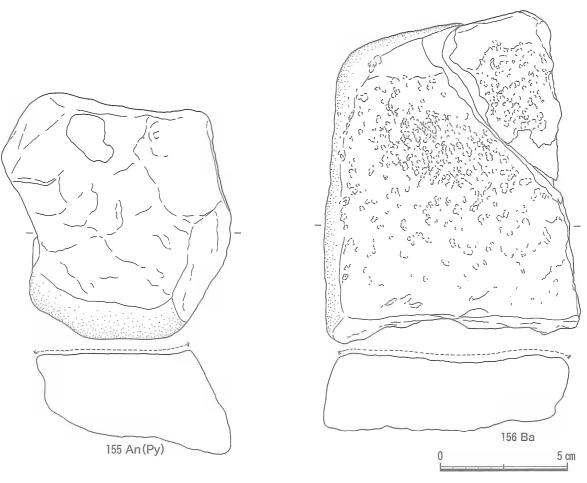
石皿 (156) のほかは、礫の接合資料しか得られなかった。接合97-99が該当する。

4 礫群

ブロック17と空間的に重複して1基の礫群が検出された(第87図)。検出層準はYLU上部である。このほか調査区東部にも散漫な分布を示している。縄文時代の遺物と関連するかもしれないが、よくわからない。









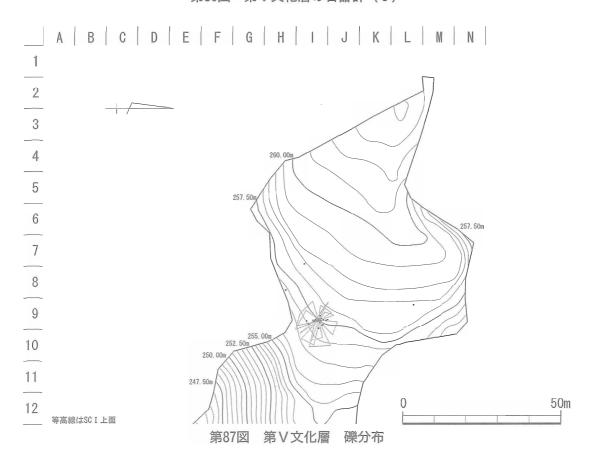


表27 旧石器時代 掲載石器属性

7777	10-0	H HH WO I O	1리수사 더 대기의	(manuary								
挿図 番号	掲載音号	遺物番号	石 材	推定產地	接合	ブロック	層位	器種	長さ(m)	幅(mm)	厚さ(m)	重さ(g)
18	1	23627	ガラス質黒色安山岩			4	ВВШ	ナイフ形石器	52. 3	20.3	11.1	12.4
18	2	23563	黒曜石	箱根畑宿		2	ВВШ	ナイフ形石器	57.8	26. 3	15.1	16. 2
18	3	23590	黒曜石	箱根畑宿		1	ВВШ	使用痕剥片	34.1	33. 7	13.2	13.9
18	4	23591	黒曜石	箱根畑宿		1	ввш	使用痕剥片	30.5	10.2	10.5	7.7
18	5	23602	黒曜石	箱根畑宿		3	BBIII	使用痕剥片	31.8	46.6	9.2	8. 1
18	6	23589	黒曜石	箱根畑宿		1	BBⅢ	使用痕剥片	44.8	23.0	12.5	10.7
18	7	23623	黒曜石	箱根畑宿		3	ВВШ	剥片	34. 2	36.1	11.7	10.7
18	8	23598	黒曜石	箱根畑宿		1	BBIII	剥片	37.0	37.9	7.0	7. 1
19	9	23622	チャート			3	BBⅢ	使用痕剥片	34. 2	31.8	8.9	6.0
19	10	23620	黒曜石	箱根畑宿		3	ВВШ	使用痕剥片	12.2	33.9	5.8	2. 4
19	11	23634	チャート				ВВШ	剥片	36. 1	31.2	9.5	12.7
19	12	23593	黒曜石	箱根畑宿		1	BBIII	使用痕剥片	36.6	47.3	9.3	14.4
19	13	23601	ホルンフェルス		5	1	BBIII	剥片	47.7	31.0	8.5	10.8
19	14	23609	ホルンフェルス		5	1	BBIII	剥片	46.9	49.2	9.2	24.8
19	15	23610	ホルンフェルス		5	1	BBIII	剥片	20.3	31.0	8.2	3. 4
19	16	21423	ホルンフェルス		5	5	BBIII	剥片	26. 2	20.0	5.5	2.6
20	17	23564 23565 23566-1	黒曜石	箱根畑宿	1	2		接合状態	39.4	23.7		8. 2
20	18	2230 2233	ホルンフェルス		4			接合状態	58. 0	68. 6		86.6
20	19	2230	ホルンフェルス		4		BBIII	剥片	56. 4	47.2	16.2	41.4
20	20	2233	ホルンフェルス		4		BBⅢ	剥片	54.0	57.7	19.2	45. 2
21	21	23615 23616	細粒安山岩		7			接合状態	55. 9	34.6		81.7
21	22	23615	細粒安山岩		7		BBⅢ	剥片	25.0	25.0	7.9	4.8
21	23	23616	細粒安山岩		7		BBⅢ	剥片	49.0	55. 6	29.8	75. 1
21	24	23619 23630	細粒安山岩		8			接合状態	72. 0	84. 2		81.3
22	25	23630	細粒安山岩		8	3	BBIII	剥片	52.6	82.8	20.0	70. 4
22	26	23619	細粒安山岩	_	8	3	BBⅢ	剥片	58.8	33. 3	9.8	10.8
31	27	18196	黒曜石	諏訪星ヶ台			BB I	使用痕剥片	35.9	18.1	4.6	2.4
31	28	23485	黒曜石	天城柏峠			BB I	使用痕剥片	34.7	24. 4	9.8	6.2
31	29	19360	黒曜石	諏訪星ヶ台		6	BB I	二次加工剥片	30.8	35.2	7.2	6.6
31	30	23483	黒曜石	諏訪星ヶ台		6	BB I	使用痕剥片	31.0	29.0	10.0	3.8
31	31	22249	黒曜石	蓼科冷山	10	7	BB I	使用痕剥片	55. 2	33.6	13.8	18.7
31	32	22773	黒曜石	箱根畑宿		7	BB I	使用痕剥片	44.3	27.9	17.0	15. 2
31	33	4232	黒曜石	諏訪星ヶ台		6	BB I	削器	41.6	28. 4	11.7	10.3
31	34	22774-1	黒曜石	箱根畑宿		7	BB I	石核	45. 9	33. 2	21.0	37.4
31	35	4233-1	黒曜石	諏訪星ヶ台	9	6	BB I	削器	58. 9	42.5	14.5	31.6
32	36	18194	硬質頁岩			6	BB I	影器 (彫-削器)	93. 2	25. 9	10.8	18.0
32	37	22251	ホルンフェルス			7	BB I	剥片	74.5	32.9	15.0	32. 7
32	38	22777	ホルンフェルス				NLa	剥片	45.3	23. 1	7.5	8.8
32	39	18193	ホルンフェルス			6	BB I	剥片	67.1	31.0	13.6	24.2
32	40	22642	輝緑岩			7	BB I	敲石	64.0	46.5	26.9	128.6
32	41	22771	ホルンフェルス			7	BB I	剥片	62.0	35. 3	10.2	21.0
33	42	22470 22772	黒曜石	蓼科冷山	11			接合状態	31.8	27.5		3.9
33	43	22470	黒曜石	蓼科冷山	11	7	BB I	剥片	14.3	23.5	4.4	1.2
33	44	22772	黒曜石	蓼科冷山	11	7	BB I	剥片	30.8	20. 1	8.8	2.7
33	45	22249 21938-1	黒曜石	蓼科冷山	10			接合状態	55. 2	33.6		18.8
58	46	22987	黒曜石	箱根畑宿	22	13	BB0	ナイフ形石器	16.5	11.2	6.6	0.7
58	47	21944	黒曜石	箱根畑宿	22	13	YLM	ナイフ形石器	14.8	15.6	5. 4	1.2
58	48	21944 22987	黒曜石	箱根畑宿	22	13		接合状態	27. 1	13.5		1.9
58	49	22947	黒曜石	箱根畑宿		12	BB0	ナイフ形石器	14.5	16.2	6.1	0.9
58	50	23113	黒曜石	天城柏峠		13	BB0	ナイフ形石器	14.3	12.5	6.9	1.1

挿図番号	掲載番号	遺物番号	石 材	推定産地	接合番号	ブロック	層位	器種	長さ(㎜)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
58	51	21942	黒曜石	箱根畑宿	21	13	YLM	二次加工剥片	17.9	19. 2	10.2	2.5
58	52	22964	黒曜石	箱根畑宿		12	BB0	ナイフ形石器	16.8	14. 2	6.3	1.3
58	53	22881	黒曜石	天城柏峠		12	YLL	ナイフ形石器	21.7	17.4	8.0	2.3
58	54	21603	黒曜石	箱根畑宿		13	YLM	二次加工剥片	32. 6	11.3	5.5	2.2
58	55	23331	黒曜石	天城柏峠		10	BB0	ナイフ形石器	26.6	13.4	6.5	1.5
58	56	22864	黒曜石	天城柏峠		8	YLL	ナイフ形石器	29. 2	15.9	7.7	3.0
58	57	22874	黒曜石	天城柏峠		11	YLL	ナイフ形石器	25. 5	16.5	6.1	2.3
58 66	58	22931	黒曜石	天城柏峠	17	12	BB0	ナイフ形石器	32.7	19.8	9. 2	5. 4
58	59	22292	黒曜石	箱根畑宿		14	YLL	角錐状石器 (またはナイフ形石器)	31.5	18.5	11.0	6.7
58	60	22897	黒曜石	箱根畑宿		10	YLL	ナイフ形石器	34.7	25.5	10.3	8.2
59	61	22910	ホルンフェルス			12	BB0	ナイフ形石器	25.8	14.5	7.3	3. 1
59	62	22967	ホルンフェルス			12	BB0	ナイフ形石器	33. 1	19.0	5.0	3.9
59	63	457	ホルンフェルス			9	YLL	ナイフ形石器	34.3	13.7	5.3	3.3
59	64	22968	ホルンフェルス			12	BB0	ナイフ形石器	50.6	17.9	6.9	5.8
59	65	21885	ホルンフェルス			13	YLM	ナイフ形石器	50.2	18.8	10.1	10.0
59	66	21945	黒曜石	箱根畑宿		13	YLM	削器 (または石錐)	31.6	19.8	11.5	5. 9
59	67	22957	黒曜石	天城柏峠		13	BB0	削器	36.0	26. 4	14.5	9.4
59	68	22677	珪質頁岩			13	YLM	角錐状石器	40.7	20.3	9.9	9.3
59	69	21940	黒曜石	推定不可		13	YLM	掻器	16.8	22.8	6. 1	2.6
59	70	23326	黑曜石	箱根畑宿		13	BB0	播器	19.0	29.6	10.1	4.7
59	71	23463	硬質頁岩			8	BB0	掻器	21.8	26.3	8.6	4.6
59	72	22846	黒曜石	箱根畑宿		10	BB0	 	14.8	25.4	5.8	2.1
60	73	22824	黒曜石	天城柏峠		13	YLL	剥片	32.8	15. 4	4.5	1.9
60	74	2105	黒曜石	箱根畑宿		15	BB0	使用痕剥片	24.3	22.7	9.8	5.0
60	75	22954	黑曜石	箱根畑宿		14	BB0	使用痕剥片	19.1	25. 1	7.0	3.4
60	76	22902	黒曜石	箱根畑宿		12	YLL	使用痕剥片	33.0	30.0	12.5	9.0
60	77	22952	黒曜石	箱根畑宿	23	8	BB0	使用痕剥片	28.5	34.5	9.7	7.5
60	78	22991	黒曜石	箱根畑宿		12	BB0	使用痕剥片	40.1	28.8	11.7	14.8
60	79	2104	黒曜石	箱根畑宿		15	YLI,	剥片	7.5	20.0	7.0	0.8
61	80	22877	ホルンフェルス		30	11	YLI,	削器	42.8	40.7	8.9	17.2
61	18	22905	ホルンフェルス			12	BB0	剥片	38.8	39. 1	15.7	21.2
61	82	:22933	ホルンフェルス			7	BBC	剥片	44.7	38.7	20.3	28. 4
61	83	:22916	黑曜石	天城柏峠		10	BBC	使用痕剥片	22,8	17.2	4.0	1.4
61	84	23466	ホルンフェルス			8	BBC	刹片	23, 0	15.0	9.0	2.2
61	85	22982	黒曜石	箱根畑宿		14	BBC	剥片	27. 3	19.6	7.5	4.9
61	86	22865	ホルンフェルス			8	YLL	剥片	29.0	16.0	5.0	2.2
61	87	22884	ホルンフェルス			14	YLL	剥片	77. 0	29, 3	14.0	22, 8
61	88	18876	ホルンフェルス				BB I	剥片	50, 3	22, 1	9.3	10.2
62	89	22887	ホルンフェルス			9	BBC	剥片	49.0	35, 0	15.0	20.6
62	90	22839	ホルンフェルス				BBC	剥片	46.7	40, 8	11.0	15.3
62	91	2108	ホルンフェルス				BBC	剥片	39.6	31,1	11.0	13.3
62	92	22872	ホルンフェルス			9	YLL	剥片	35. 0	29. 0	14.0	14.6
62	93	22888	ホルンフェルス			9	BB0	剥片	63.0	43.8	13.6	33.8
62	94	19361	ホルンフェルス				BB I	剥片	80.0	52. 1	18.2	56.3
63	95	22956	:黒曜石	箱根畑宿		14	BB0	石核	32.8	32. 7	19. 1	16.9
63	96	22919	ホルンフェルス			12	BB0	石核	39.8	30. 7	25, 2	39. 5
63	97	22896	ホルンフェルス			11	BB0	:剥片	44.0	38. 0	:25, 0	44.9
63	98	23022	多孔質安山岩				YLL	i敞石	[43] 0	84. 0	57.0	913.8
63	99	23263	ホルンフェルス		36	12	BB0	石核	40 5	61.8	28. 3	72.0
64	100	22831	ホルンフェルス			13	BB0	石核	58 0	52.7	:29. 1	97.4
64	:101	22932	ホルンフェルス		33	11	BB0	石核	75 8	51.9	43.2	1(34.1
66	1102	22876 22886 22926 22929	黑曜石	天城柏峠	16			接合状態	30 0	35. 4		:11.5
66	103	:22926	黑曜石	天城柏岭	16	12	BB0	石核	30 0	35. 4	13.3	8.9
		:22929	黒曜石	天城柏峠	16	12	BB0	剥片	13.0	15.6	3.2	0.5

第4章 旧石器時代の遺構と遺物

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定産地	接合番号	ブロック	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
66	105	22876	黒曜石	天城柏峠	16	11	YLL	ナイフ形石器	20.6	16.7	5.2	1.7
66	106	22886	黒曜石	天城柏峠	16	12	BB0	剥片	16.2	8.8	5.3	0.6
66	107	22885 22931 22930	黒曜石	天城柏峠	17			接合状態	41.5	50.5	22.0	35.5
66	108	22885	黒曜石	天城柏峠	17	10	YLL	剥片	20. 1	20.2	7.0	2.2
67	110	22930	黒曜石	天城柏峠	17	12	BBO	石核	43.0	42. 3	19.8	27.9
67	111	21942 21102	黒曜石	箱根畑宿	21			接合状態	33.9	18.8		5.9
67	112	455 456 23412	ホルンフェルス		26			接合状態	92. 2	117.7		958.3
67	113	456	ホルンフェルス		26	9	YLL	剥片	23.8	37.5	11.0	6.3
67	114	455	ホルンフェルス		26	9	YLL	剥片	22.4	39. 4	9.1	5.6
68	116	22877 22878	ホルンフェルス		30			接合状態	42.1	49. 2		22.3
68	117	22879 22914 23338	ホルンフェルス		31			接合状態	46.3	84.7		59. 2
68	118	22879	ホルンフェルス		31	11	YLL	剥片	41.4	41.8	15.4	28, 9
68	119	22914	ホルンフェルス		31	11	BB0	剥片	35.0	36. 9	10.3	19.0
68	120	23338	ホルンフェルス		31	11	BBO	剥片	42.1	43.7	9.9	11, 3
69	121	22891 22937-1 22893 22894 22938 22939 22940	ホルンフェルス		32			接合状態	65. 0	77.2		56.3
69	122	22894	ホルンフェルス		32	8	BBO	剥片	55.0	33.0	17.0	24.7
69	123	22938 22937-1	ホルンフェルス		32		BBO	剥片	43.2	30.7	13.5	14.8
69	124	22940	ホルンフェルス		32	8	BBJ	剥片	43.0	31.0	15.0	8.9
70	125	22939	ホルンフェルス		32	8	BB0	剥片	72.0	43.0	15.0	37.6
70	126	22891	ホルンフェルス		32	8	BB0	剥片	33.0	31.9	8.3	8.0
70	127	22893	ホルンフェルス		32	8	BB0	剥片	37.0	32.0	9.0	9.1
70	128	22911 22912-1 22932 22934	ホルンフェルス		33			接合状態	86.2	58.4		242, 8
71	129	22934	ホルンフェルス		33	11	BB0	剥片	44.0	37.9	8.6	14.0
71	130	22912-1 22911	ホルンフェルス		33		BB0	剥片	62. 1	42.7	22. 9	62. 9
71	131	23417-1 22912-2 23418	ホルンフェルス		34			接合状態	31.0	47.6		18.9
71	132	22912-2	ホルンフェルス		34	11	BB0	剥片	28.7	31.0	8.1	5.8
71	133	23418 23417-1	ホルンフェルス		34		BB0	剥片	28. 2	46.8	12.6	13.1
71	134	21606 21938-2	珪質頂岩		38			接合状態	11.9	23.5		1.0
71	135	21938-2	珪質頁岩		38	13	YLM	剥片	13.4	12.7	2.2	0.4
71	136	21606	珪質頁岩		38	13	YLM	剥片	10.4	19.8	2. 4	0.7
84	137	1038	黑曜石	諏訪星ヶ台			JO	ナイフ形石器	22.3	9.1	4.7	0.9
84	138	2103	.黒曜石	諏訪星ヶ台			YLU	ナイフ形石器	31.2	14.6	5. 2	2. 2
84	139	1587	黒曜石	諏訪星ヶ台			JO	尖頭器	30.9	17.4	6.6	2.8
84	140	22840	黒曜石	和田鷹山			YLU	尖頭器	46.5	15. 1	5.6	3.8
84	141	2110	.赐曜石	諏訪星ヶ台			YLU	尖頭器	67.7	19.9	5. 5	6.9
84	142	7835	ホルンフェルス				JO	尖頭器	39.3	11.8	6.0	2.9
84	143	22717	ホルンフェルス			17	YLU	尖頭器	39.3	19.8	8.6	6.2
84	144	521	ホルンフェルス				YLU	尖頭器	59.7	18.5	8.8	9.0
84	145	520	ホルンフェルス				YLU	尖頭器	90.8	38. 7	9.6	29.3
84	146	22476	ホルンフェルス			17	YLU	尖頭器	58, 0	33. 2	13.6	26.4
85	147	21555	ガラス質黒色安山岩			17	YLU	削器	54. 8	28.8	11.6	19.7
85	148	21556	ガラス質黒色安山岩			17	YLU	掻器	36.2	25. 1	4.8	4.4

第4章 旧石器時代の遺構と遺物

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定産地	接合番号	ブロック	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
85	149	2904	黒曜石	和田鷹山			JO	二次加工剥片	22.8	23.8	11.7	4. 1
85	150	21935	黒曜石	天城柏峠		17	YLU	掻器	36.9	17.8	12.6	6.7
85	151	21557	黒曜石	天城柏峠		17	YLU	掻器	46.4	24. 1	11.8	9.8
85	152	21916	輝石安山岩			17	YLU	敲石	83.0	63.0	47.0	311.8
85	153	22852	砂岩 (細粒)				YLU	敲石	110.8	46.2	28.3	214.7
85	154	21103	流紋岩			17	YLU	削器	43.8	78. 2	20.7	51.0
86	155	442	輝石安山岩				YLU	台石	194.0	181.0	82.0	3264.6
86	156	21559 21582	玄武岩		73		YLU	石皿	264. 0	203.0	61.0	4750.0

表28 礫群属性

第1文化層

遺標	番号	層位	位置	長径 (m)	短径 (m)	構成礫 (個)	被熱礫 (個)	総重量 (g)
2	号	BBIII	J-12	1.69	0.40	3	3	2720
3	号	BBIII	J/K-11	1.34	0.55	3	2	3470

第Ⅱ文化層

遺構番号	層位	位置	長径 (m)	短径 (m)	構成碟 (個)	被熱礫 (個)	総重量 (g)
4号	BB I	L-6/7	0.96	0.44	5	5	7890
5号	BB I	K-10	0.95	0. 66	3	3	3770
61号	BB I	J-9	0.35	0.09	2	2	1180
62号	BB I	K-7	0.62	0. 26	3	3	290
63号	BB I	K-8	0.82	0.28	3	3	3980
64号	BB I	1-8	0.88	0.84	7	7	6160
65号	BB I	I-8/9	1.88	0.67	9	6	2660

第Ⅲ文化層

遺構番号	層位	位置	長径 (m)	短径 (m)	構成碟 (個)	被熱礫 (個)	総重量(g
1号	BB0	K-11	1.24	0.71	15	15	6050
7号	BB0	1–5	0.95	0.69	16	16	6880
8号	BB0	I-5	0.60	0.51	9	9	2530
9号	BBC	I-5	0.46	0. 23	3	3	450
10号	BBC	I-5	0.47	0.37	9	9	2530
11号	BBC	I-5	0.63	0.41	8	8	750
1:2号	BBC	I-5	1.07	0.34	7	7	2520
13号	BBC	I-5	0.51	0. 23	4	4	780
14号	BBC	I-5	0.92	0.62	22	21	6170
15号	BB0	H-5	0.44	0.13	2	2	1090
16号	BB0	H-5	1.03	0.30	5	5	2820
17号	BB0	H-5	0.83	0.39	4	4	1380
18号	BB0	H-5	1.42	0.69	8	8	5690
19号	BB0	H-5	0. 23	0.12	2	2	560
20号	BB0	H-5	0.41	0.07	2	2	180
21号	BB0	H-5	0.44	0.14	4	4	570
22号	BB0	I-7	1.07	0.72	33	33	4650
23号	BB0	I-7	0.62	0.33	4	4	1630
24号	BB0	I-7	0.30	0.10	2	2	990
25号	BB0	I-6	0.13	0.09	2	2	370
26号	BB0	I-7	1.38	0.47	19	19	7150
27号	BB0	I-7	0.90	0.57	8	8	1320
28号	BB0	I-7	0.56	0.56	6	6	770
29号	BB0	I-7	1.23	0. 24	6	6	2640
30号	BB0	I-7	0.86	0.65	6	6	920
31号	BB0	I/J-7	1.01	0.84	25	25	9020
32号	BB0	I-7	0.18	0. 07	2	2	320
33号	13E0	I-7	0.79	0. 43	8	8	1200
34号	I3E0	I-7	1.58	1.32	21	21	9580
35号	I3E0	I-7	0. 25	0.10	2	2	540
36号	IBE0	I-7	0. 25	0.10	2	2	290
37号	IBE0	I-7	0.40	0. 22	4	4	1070
38号	IBE0	J-8	0. 25	0.08	2	2	510
39号	IBE0	J-8	0. 91	0. 24	6	6	3090
40号	BEO	J-8	0. 59	0.39	6	6	690
41号	BB0	J-8	0.50	0. 20	3	3	860
42号	BB0	J-8	0.17	0.14	3	3	370
43号	BE0	J-8	1.21	0.63	13	13	4790
44号	BEO	J-8	0. 42	0.18	2	2	1570
45号	BBO	J-8	1.06	0.99	7	7	3870
46号	BEO	K-8	0.44	0. 24	4	4	860
47号	BEO	J-9	1. 47	0.70	13	13	4190
- 48号	BEO	J-10	0.49	0.34	5	5	1540
-49号	BB0	J-9	0.49	0. 14	4	4	790
!50号	BB0	J-9	0.30	0.11	2	2	310
:50号	BB0	J-9 J-9	0.30	0.11	2	2	340
!52号	BBO	J-9 J-9	0.21	0.33	10	10	1030
	BB0	J-9			8		
53号			0.33	0.32		8	1340
54号	BB0	J-9	0.32	0.09	2	2	860
55号	BB0	J-9	0.49	0.32	7	7	570
56号	BB0	J-9	0. 24	0.07	2	2	140
57号 58号	BB0 BB0	J-9 K-9	0. 20	0.12	2	2 2	370 330

59号	BB0	K-9	0.19	0.13	2	2	770
60号	BB0	K-9	0.32	0. 13	2	1	530

第IV文化層

遺構番号	層位	位置	長径 (m)	短径 (m)	構成礫 (個)	被熱礫 (個)	総重量 (g)
6 号	YLM	I-9	0.79	0.62	5	5	1670

第5章 縄文時代の遺構と遺物

概要

縄文時代の遺構として、竪穴住居跡11軒、竪穴住居状遺構 5 基、集石37基、土坑15基、焼土 3 箇所、土器埋納土坑 1 基が検出された (第88図)。遺物は土器片6838点 (ほか、攪乱層出土品80点と表面採集品15点)、剥片石器類4337点、石核21点、搬入石材 (原石) 4 点、打製石斧 6 点、垂飾 1 点、礫石器類768点、礫11032点である (表30)。石器群では、黒曜石製石器の占める比率の高さ (表29)と礫石器類の多量さが特徴である。竪穴住居跡内・外で検出された石器石材組成は表31-36に掲げた。

表29 調査区全体 黒曜石製石器産地別組成

	天城柏峠	箱根畑宿	箱根 黒岩橋	神津島 恩馳島	諏訪 星ヶ台	和田鷹山	推定不可	未分析	計
有舌尖頭器					1				1
石鏃	I	2		59	11	1.	4	1	79
削器				2					2
錐				2					2
石匙				1					I
楔形石器		1		27	I		2		31
二次加工剥片				11					11
使用痕剥片				3	1		1		5
剥片•砕片				2	2			3975	3979
石核	1	1	I	14	I		1		19
搬入石材					1		2		3
計	2	4	1	121	18	1	10	3976	4133

[※]神津島恩馳島の石鏃の内2点、未分析の剥片・砕片のうち130点は3号竪穴住居跡(攪乱層)出土

表30-1 調査区全体 石器石材組成

2000 1 1003221	1.1	- HH -	1 2 4221.22									
	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	角閃石 安山岩	流紋岩	細粒 凝灰岩	硬質細粒 凝灰岩	緑色 凝灰岩	輝緑 凝灰岩	火山礫 凝灰岩
尖頭器								I				
有舌尖頭器		1										
石鏃	79	5					1					
有茎石鏃	1											
削器	2	5	2				1					
掻器		I									1	
錐	2											
石匙	1	2	2									
楔形石器	31											
垂飾												
打製石斧			3							I		
二次加工剥片	11	3	1									
使用痕剥片	5	5					1					
剥片•砕片	3979	104	12				5		2	1		
石核	19	1										
搬入石材	3_							1				
磨-敲石			-	175	12	1	1			1		
磨石				117	12							
敲石				81	4	4	1	I				
台石				31	2							I
石皿				132	19							
凹石				8								
礫器			1	5][
計	4133	127	21	549	49	5	11	3	2	3	I	I

表30-2 調査区全体 石器石材組成

	玄武岩	多孔質 玄武岩	閃緑岩	アプラ イト	デイサ イト	輝緑岩	細粒 斑レイ岩	斑レイ岩	水晶	ホルン フェルス	ホルン フェルス (凝灰質)	頁岩	珪質 頁岩
尖頭器													
有舌尖頭器										3			
石鏃										1			
有茎石鏃													
削器									1	3		2	2
掻器													
錐													
石匙													
楔形石器													
垂飾													
打製石斧										2			
二次加工剥片													
使用痕剥片										1			
剥片·砕片										36	2	3	7
石核										1			
搬入石材													
磨-敲石	10	7	2		6		2	2					
磨石	15	9	2		5		I						
敲石	17	10		I		1	1					2	1
台石		3											
石皿	15	17			I								
凹石	1	I											
礫器							1					I	
計	58	47	4	1	12	1	5	2	1	47	2.	8	10

表30-3 調査区全体 石器石材組成

	赤色 頁岩	珪質 粘板岩	チャート	砂岩 (細粒)	砂岩 (中粒)	砂岩 (粗粒)	硬質 砂岩	結晶 片岩	赤玉	滑石	計
尖頭器											1
有舌尖頭器											4
石鏃			2								88
有茎石鏃											1
削器											18
掻器	1										3
錐											2
石匙											5
楔形石器											31
垂飾										1	1
打製石斧											6
二次加工剥片		1							1		17
使用痕剥片											12
剥片・砕片		1							3		4155
石核											21
_搬入石材											4
磨-敲石											219
磨石				1	1	1					164
敲石				8	4	7	1	1.			145
台石											37
石皿											184
凹石											10
礫器											9
計	1	2	2	9	5	8	1	1	4	1	5137

※輝石安山岩の石皿 2 点、磨-敲石 1 点、磨石 2 点、細粒安山岩の剥片・砕片 1 点、ガラス質黒色安山岩の石鏃 1 点、剥片・砕片 3 点、ホルンフェルスの剥片・砕片 1 点、黒曜石の剥片・砕片 130点、石鏃 2 点、流紋岩の剥片・砕片 1 点は 3 号竪穴住居跡(攪乱層)出土

石器型式(有舌尖頭器)か - ら縄文時代草創期、また土器 型式から早期、前期、中期、 後期の遺跡の存在がそれぞれ 明らかとなった。土器の点数 で中心となるのは早期末の打 越式土器であり、これに続い て上ノ山式、入海Ⅰ・Ⅱ式、 石山式を代表とする東海系土 器群およびその影響を受けた 在地土器群が多く見られる。 竪穴住居跡に伴った土器は、 概ね以上の早期末型式群で構 成される。このほか、前期の 諸磯b式土器を伴った土器埋 納土坑 (7号土坑) が検出さ れた。

遺構と遺物の分布傾向から、 調査区の西部と東部の大きく 二つの空間が識別される。

西部は、本遺跡におけるす

表31 竪穴住居跡内 石器石材組成

201 22/ (12/	H-73 1 3	H HH H I	m .lmmi. h.a.								
	黒曜石	ホルン フェルス	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	流紋岩	細粒 凝灰岩	硬質細粒 凝灰岩	玄武岩	多孔質玄武岩
尖頭器								1			
石鏃	10										
削器			1								
掻器											
楔形石器	1										
二次加工剥片	1										
使用痕剥片							1				
剥片•砕片	812	7	24			2			2		
石核	5										
搬入石材	3										
磨-敲石				27			1			3	
磨石				7	1					3	
敲石				2						1	2
台石				2							
石皿				14	2					5	I
凹石				1							1
礫器											
計	832	7	25	53	3	2	2	1	2	12	4

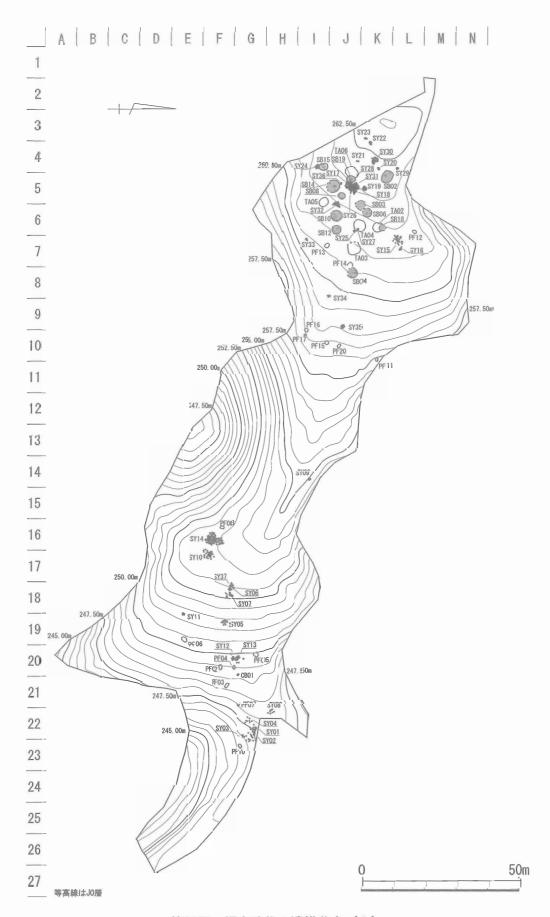
	頁岩	珪質頁岩	赤色頁岩	計
尖頭器				1
石鏃				10
削器				1
掻器			1	1
楔形石器				1
二次加工剥片				1
使用痕剥片				1
剥片•砕片		2		849
石核				5
搬入石材				3
磨-敲石				31
磨石				11
敲石				5
台石				2
石皿				22
凹石				2
礫器	1			1
計	1	2	1	947

表32 竪穴住居跡内 黒曜石製石器産地別組成

	天城柏峠	神津島 恩馳島	諏訪 星ヶ台	推定不可	未分析	計
石鏃		10				10
楔形石器		I				1
二次加工剥片		1				1
剥片•砕片					812	812
石核	1	4				5
搬入石材			1	2		3
計	1	16	-1	2	812	832

べての竪穴住居跡と竪穴住居状遺構、撚糸文系土器群、早期末の土器群、諸磯b式土器群、神津島産黒曜石製を中心とする石鏃石器群および楔形石器群、多量の礫石器類を特徴とする。

東部は、竪穴住居跡と竪穴住居状遺構が検出されなかった。早期末の土器型式群も僅少である。この 範囲では押型文系土器群を主体とする土器群、ホルンフェルス製の加工具類、礫石器類が、やや西に 偏って検出された。前期の土器埋納土坑はこの東部の東寄りで検出されている。中期と後期の土器は僅 少だった。



第88図 縄文時代の遺構分布(1)

表33 各竪穴住居跡内 石器石材組成 (1)

2号竪穴住居跡内

黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	流紋岩	硬質細粒 凝灰岩	多孔質 玄武岩	ホルン フェルス	計
7									7
1									1
1									1
					1				1
348	8			1		2		3	362
3									3
1									I
		12			1				13
		5							5
		1							1
		2							2
		4	1				1		6
		1					I		2
361	8	25	I	1	2	2	2_	3	405
	7 1 1 348 3 1	無唯何 黑色安山岩 7 1 1 348 8 3 1	無唯句 黒色安山岩 安山岩 7 1 1 348 8 3 1 12 5 1 2 4 1	無曜年 黒色安山岩 安山岩 安山岩 7 1 1 348 8 3 1 1 12 5 1 2 4 1 1	 無確何 黒色安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 7 1 348 8 1 3 1 12 5 1 2 4 1 1 	無確何 黒色安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 流紋石 7 1 1 1 348 8 1 3 1 12 5 1 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	無確何 黒色安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 海灰岩 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	無確句 黒色安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 孫灰岩 玄武岩 7 1 1 1 1 2 348 8 1 2 3 1 1 2 1 5 1 2 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	無確句 黒色安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 郊北石 凝灰岩 玄武岩 フェルス 7 1 1 1 1 348 8 1 2 3 3 1 1 2 3 1 1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1

3号竪穴住居跡内

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	細粒 安山岩	細粒凝灰岩	計
尖頭器				I	1
剥片・砕片	.50	2	1		53
計	:50	2	1]	54

6号竪穴住居跡内

	黒曜石	輝石 安山岩	玄武岩	計
剥片・砕片	11			11
磨-敲石		2		2
磨石			I	1
石皿			I	1
計	11	2	2	15

8号竪穴住居跡内

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	玄武岩	計
剥片・砕片	31	1			32
磨-敲石			3	1	4
石皿			1		1
計	31	1	4	1	37

10号竪穴住居跡内

	黒曜石	玄武岩	珪質頁岩	計
剥片・砕片	28		1	29
石核	I			I
石皿		I		I
計	29	1	1	31

11号竪穴住居跡内

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	:珪質頁岩	計
剥片・砕片	98	3			1	102
磨石			1			1
石皿				1		1
計	98	3	L	L	L_	104

表34 各竪穴住居跡内 石器石材組成 (2)

12号竪穴住居跡内

	黒曜石	輝石 安山岩	ホルンフェルス	計
剥片・砕片	12		1	13
磨-敲石		3		3
敲石		1		1
計	12	4	1	17

14号竪穴住居跡内

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	ホルン フェルス	計
石鏃	3							3
削器		1						1
剥片・砕片	153	10					3	166
石核	1							1
搬入石材	2							2_
磨-敲石			4		Ī			5
磨石			1	I	2			4
敲石					1	2		3
石皿			7		1			8
計	159	ΙΙ	12	Ī	5	2	3	193

15号竪穴住居跡内

	黒曜石	輝石 安山岩	玄武岩	頁岩	計
剥片・砕片	14				Ī4:
磨-敲石		2	1		3
石皿		I	1		2
礫器				1	1
計	14	3	2	I	19

16号竪穴住居跡内

	黒曜石	玄武岩	計
剥片・砕片	6		6
石皿		I	1
計	6	1	7

18号竪穴住居跡内

	黒曜石	玄武岩	計
剥片・砕片	1		1
磨-敲石		1	1
計	1	1	2

19号竪穴住居跡内

	黒曜石	輝石 安山岩	赤色頁岩	計
掻器			1	1
剥片・砕片	60			60
磨-敲石		1		1
石皿		1		1
計	60	2	1	63

表35-1 竪穴住居跡外 石器石材組成

	黒曜石	ホルン フェルス	ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	角閃石 安山岩	細粒 安山岩	流紋岩	ホルンフェル ス(凝灰岩)	細粒 凝灰岩	輝緑 凝灰岩
有舌尖頭器	1	3	I								
石鏃	69	1	5					1			
削器	2	3	4				2	1			
掻器			1								I
錐	2										
石匙	1		2				2				
楔形石器	30										
垂飾											
打製石斧		2					3				
二次加工剥片	10		3				1				
使用痕剥片	5	1	5								
剥片・砕片	3167	29	80				10	5	2		
石核	14	1	1								
搬入石材										1	
磨-敲石				148	12	1					
磨石				110	11						
敲石				79	4	4		1		1	
台石				29	2						
石皿				118	18						
凹石				7							
礫器				5			1	1			
āt	3301	40	102	496	47	5	19	9	2	2	1

	緑色 凝灰岩	火山礫 凝灰岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	アプライト	デイサイト	閃緑岩	輝緑岩	細粒 斑レイ岩	斑レイ岩	赤玉	水晶
有舌尖頭器												
石鏃												
削器												1
掻器												
錐												
石匙												
楔形石器												
垂飾												
打製石斧	1										-	
二次加工剥片											1	
使用痕剥片	,										0	
剥片・砕片	1										3	
石核												
搬入石材	1		7			C			0			
磨-敲石	1		7	7		6	2		2	2		
磨石			12	9	1	อ์	2	£	1			
敲石		1	16	8	1			L	1			
台石		1	10	3		1						
石皿			10	15		1						
凹石			1						1			
礫器		1	10	40	7	10	- 1		1	0	4	
計	3	1	46	42:	1	12	4	1	5	2	4	1

表35-2 竪穴住居跡外 石器石材組成

	頁岩	珪質頁岩	チャート	砂岩 (粗粒)	砂岩 (細粒)	中粒砂岩	硬質 砂岩	珪質 粘板岩	結晶片岩	滑石	計
有舌尖頭器			<u> </u>								5
石鏃			2								78
削器	2	2									17
掻器											2
錐											2
石匙											5
楔形石器											30
垂飾										1	1
打製石斧											6
二次加工剥片								I			16
使用痕剥片											11
剥片・砕片	3	5						1			3306
石核											16
搬入石材											1
磨-敲石											138
磨石				1	1	1					153
敲石	2	1		7	8	4	1		1		1.40
台石											35
石皿											162
凹石											8
礫器			_								8
計	7	8	2	8	9	5	1	2	1	1	4190

[※]輝石安山岩の石皿 2 点・磨-敲石 1 点・磨石 2 点、細粒安山岩の剥片・砕片 1 点、ガラス質黒色安山岩の石鏃 1 点・剥片・砕片 3 点、ホルンフェルスの剥片・砕片 1 点、黒曜石の石鏃 2 点・剥片・砕片130点、流紋岩の剥片・砕片 1 点は 3 号竪穴住居跡(攪乱層)出土

表36 竪穴住居跡外 黒曜石製石器産地別組成

	天城柏峠	箱根畑宿	箱根 黒岩橋	神津島 恩馳島	諏訪 星ヶ台	和田鷹山 推	能定不可	未分析	計
有舌尖頭器					1				I
石鏃	1	2		49	11	1	4	1	69
削器				2					2
錐				2					2
石匙				I					1
楔形石器		1		26	1		2		30
二次加工剥片				10					10
使用痕剥片				3	1		1		5
:剥片•砕片				2	2			3163	3167
石核		1	1	10	1		1		14
計	I	4	1	105	17	1	8	3164	3301

[※]神津島恩馳島の石鏃2点、

未分析の剥片・砕片130点は3号竪穴住居跡(攪乱層)出土

第1節 土器分類

本遺跡で出土した土器の中に、本研究所における既存の土器型式分類にあてはめることができないものも見られたので、分類案を以下のように改訂した。

1 | 群:縄文時代早期の土器群

A類: 撚糸文系土器

- -1:口縁部が外反し、口唇部の外面端部が肥厚するもの。第149図1のみ該当。
- -2:口縁部が外反し、口唇部角頭状または外削ぎのもの。赤褐色で精緻な胎土。節が細かくて、条は細く、条間が空かない原体を施すもの。
- -3.1:口縁部が外傾し、口唇部角頭状のもの。灰白色の胎土。A類-2より節が粗くて、条は太く、 条間が空く原体。
- -3.2:赤褐色で厚手の胎土。節が粗くて、条間が空く原体。本遺跡では胴部破片のみ出土。
- -3.3:口縁部が外傾し、口唇部角頭状または内削ぎのもの。黄褐色で、白色岩片が多く混じる胎土。 節が粗くて、条間が空く原体。
- -4:網目状撚糸文。口縁部が外傾し、口唇部角頭状のもの。灰白色の胎土。
- -5:その他。口縁部が外傾し、口唇部が丸いもの。節が粗くて、条間が空く原体など。

B類:押型文系土器

-1:山形押型文

-2:格子目押型文

-3: 楕円押型文

-4:変形押型文

C類:A-E類と並行する時期の縄文土器

-l:縄文原体の節が大きいもの。

-2:縄文原体の節が小さいもの。

D類:A-C/E類と並行する時期の条痕文系土器

E類:A-D類と並行する時期の無文土器

F類: D類とは異なる時期の条痕文系土器。野島式土器を含む。

G類:絡条帯圧痕文を施した土器

H類:F類よりも後の時期の条痕文系土器。打越式土器及び打越式並行の土器など。

1種:打越式土器

2種:打越式並行の土器

3種:条痕文系土器の胴部及び底部。 J 類 2種-2、同 3種-2、同 4種-2との区別がつかないもの。

I類:H類よりも後続する神之木台式並行の土器

J 類:早期末東海系土器及び形状と施文が早期末東海系土器に近似する在地系土器

1種:上ノ山式土器(第227図5のみ該当)

2種-I:入海 I 式土器

2種-2:入海 I 式模倣土器

形状と施文は入海 I 式土器の特徴を有するが、器壁が厚く、胎土に繊維を含まない。色調はにぶい褐色、橙色、赤褐色を呈する。胴上部に断面三角形または台形の刻目隆帯を貼り付けている。

第5章 縄文時代の遺構と遺物

3種-1:入海Ⅱ式土器

3種-2:入海Ⅱ式模倣土器

形状と施文は入海II式土器の特徴を有するが、器壁が厚く、胎土に繊維を含まないものが多い。 色調はにぶい褐色、橙色、赤褐色を呈する。胴上部に低い刻目隆帯を貼り付けている。

3種-3:入海Ⅱ式並行の土器

4種-I:石山式土器

4種-2:石山式模倣土器

形状と施文は石山式土器の特徴を有するが、器壁が厚く、胎土に繊維を含まない。色調はにぶい 褐色、橙色、赤褐色を呈する。胴上部に箆または半截竹管で刻目列を施文している。

4種-3:石山式並行の土器

5種:天神山式土器

6種:早期末東海系土器

K類:条痕文系/羽状縄文系移行期の土器。下吉井式土器

L類:型式不明の早期土器

2 || 群:縄文時代前期の土器群

A類:羽状縄文系土器。花積下層式土器

B類:竹管文系土器。諸磯b式土器

-l: 爪形文土器

(諸磯 b 古段階)

-2:肋骨文系土器

(諸磯b古段階-中段階)

-3:浮線文を施す土器

(諸磯 b 中段階)

-4:集合沈線文土器

(諸磯 b 中段階-新段階)

-5:入組木葉文を施す浅鉢

-6:無文の浅鉢

-7:縄文施文のみの土器及び底部

3 Ⅲ群:縄文時代中期の土器群

A類:五領ヶ台式土器

B類:新道式または藤内式土器

C類:勝坂式土器 D類:井戸尻式土器 E類:加曽利EI式土器

4 IV群:縄文時代後期の土器群

堀之内式土器

第2節 縄文時代草創期

概要

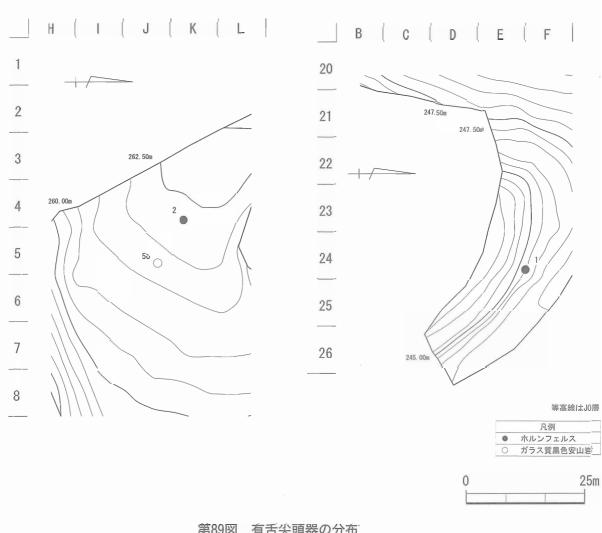
縄文時代草創期に特徴的といわれる有舌尖頭器が3点検出された(折れ接合した2点を1点としてカ ウント)。しかし、特定の遺構、石器集中、土器集中などとの関連は捉え難いので、ここでは当該石器 と分布図のみを提示する。縄文時代の石器群に関する事実記載としては、第7節も参照いただきたい。

有舌尖頭器 (第89図、第245図 1・2、第246図50)

1はホルンフェルス製である。調査区東部のF-24グリッドで折れた状態で検出された。風化が著し く微細な観察は不可能である。基部が短い。近隣に遺物の集中部や遺構が見られない。

2はホルンフェルス製である。調査区西部のK-4グリッドで出土した。平面分布上では多数の遺構 群と重複するが、覆土内では検出されていない。

50はガラス質黒色安山岩製である。平面形状も厚みも左右対称に近い。刃部は浅く鋸歯状になるよう に整形されている。これも2と同様に調査区西部(J-5グリッド)で出土し、遺構との関連は見られ なかった。



第89図 有舌尖頭器の分布

第3節 縄文時代早期

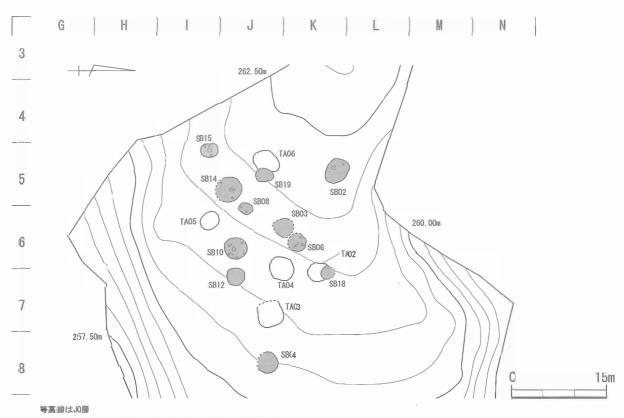
概要

調査区西側で、竪穴住居跡11軒、竪穴住居状遺構5基、土坑7基、集石22基が検出された。竪穴住居跡と竪穴住居状遺構の床面および覆土から検出された土器の型式から、これらは早期末の集落跡であると推定される。竪穴住居跡と竪穴住居状遺構はすべて調査区西側に分布するが、集石のうち2基(34号と35号)および5基の土坑(11号、15-17号、20号)はより東部に偏在し、また上記の土器群との重複も顕著なものとはいえないため、同一の時期とはいえない。

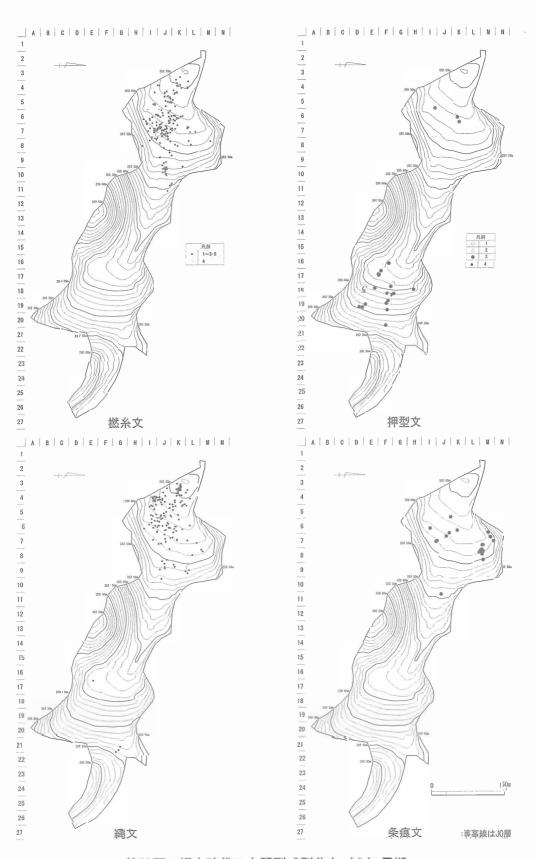
第91-95図に土器の型式別分布を掲げた。これによれば、早期土器群のうちもっとも多いのは I 群H 類1-1種に分類した打越式およびこれと強い関連が認められるものである。次いで、J 類1-4種に分類した上ノ山式、入海 I・II 式、石山式を中心とする東海系土器ないしその影響を受けた在地土器群が多く見られる。

1 竪穴住居跡 (略号:SB)

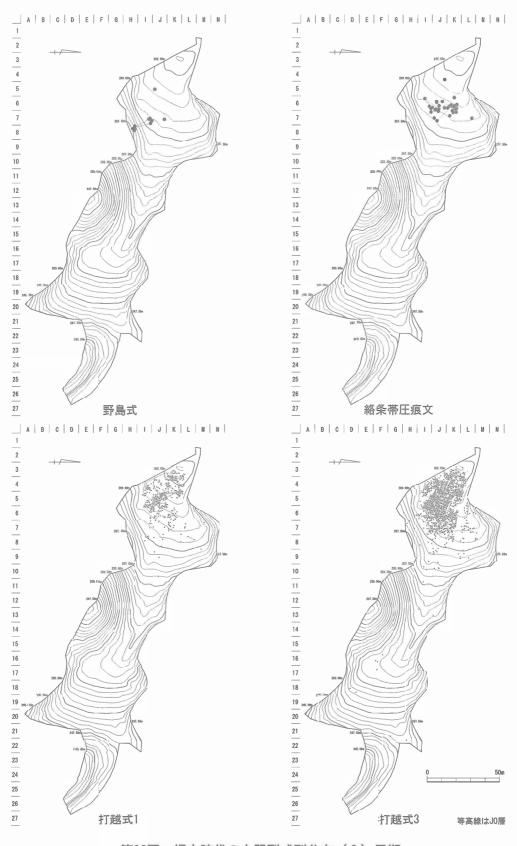
本報告書では床面で炉が確認できたもの、または明確な床面の硬化が認められたものを竪穴住居跡とし、確認できなかったものは竪穴住居状遺構として取り扱った。覆土は仙石スコリアを含む褐色土である。床面に硬化範囲をもつ住居跡の掘方の覆土は、休場層の土がブロック状に混じった褐色土である。平面形は円形または楕円形である。床面積はばらつきがあるものの、4㎡台前半、5㎡台後半、10㎡台後半に若干分布の集中が見られる。炉はいずれも焼土粒、炭化物粒が少量混じった覆土が堆積している



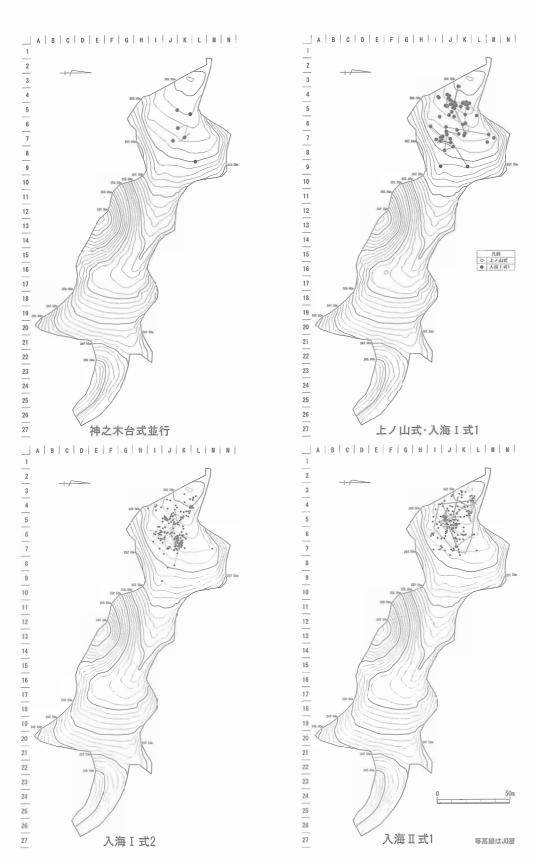
第90図 縄文時代の遺構分布(2)竪穴住居跡・竪穴住居状遺構



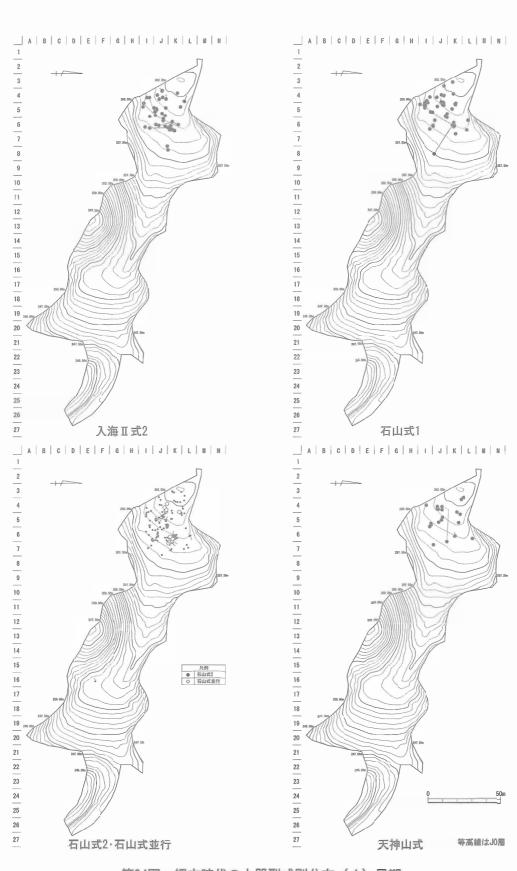
第91図 縄文時代の土器型式別分布(1)早期



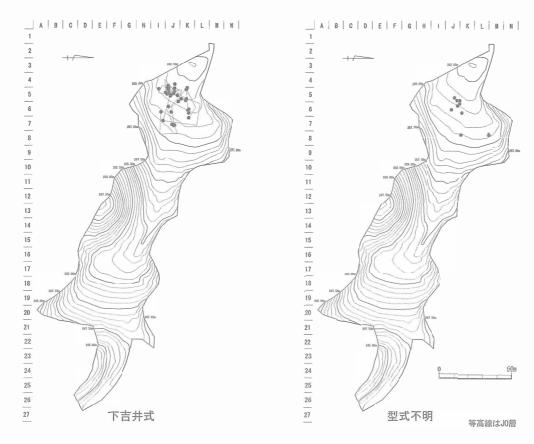
第92図 縄文時代の土器型式別分布(2)早期



第93図 縄文時代の土器型式別分布(3)早期



第94図 縄文時代の土器型式別分布(4)早期



第95図 縄文時代の土器型式別分布(5)早期

浅い地床炉であり、底面の赤化、硬化等明確な被熱の痕跡が見られない。

竪穴住居跡と竪穴住居状遺構はすべて尾根頂上の平坦面にあたる9列以西に集中している。平面プランはJO層中部から休場層上面で確認され、いずれの住居跡も床面が休場層上面とほぼ同じ高さにある。いずれの住居跡も覆土から土器、石器、礫が出土したが、床面で出土した遺物は少ない。 I 群日類 (打越式とこれに並行する土器群)と I 群 J 類2-4種(入海 I 式、入海 II 式、石山式、及びそれぞれの模倣)が多く出土したことから、時期は概ね縄文時代早期末のものと推定される。各竪穴住居跡内の石器組成については、表33と34を適宜参照いただきたい。また、竪穴住居跡の計測値等の属性は表37、掲載土器の属性および石器の属性については、表38と39にそれぞれ纏めた。

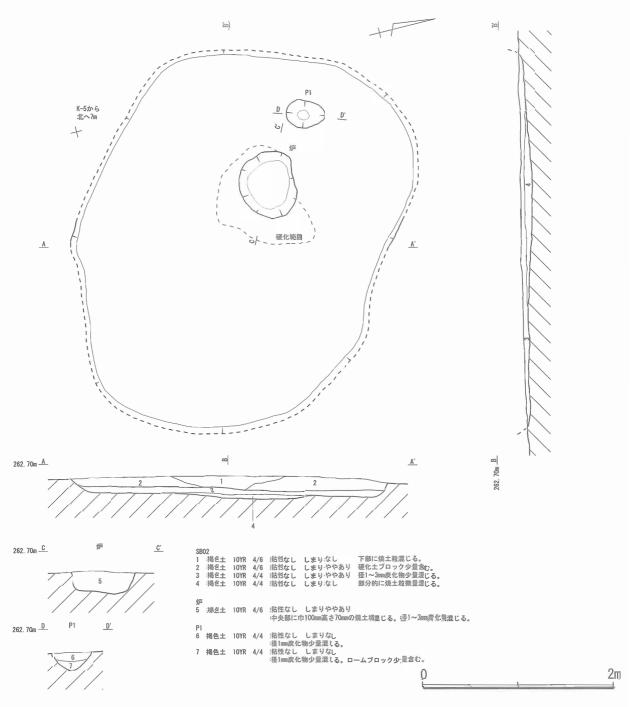
以下では、比較的良好な状態で検出された10軒の竪穴住居跡 (2号、3号、4号、8号、10号、12号、14号、15号、18号、19号) と、それぞれの内部の遺構および遺物について報告する。

2号竪穴住居跡 (SB02) (第96-106図)

形状: 床面の検出によって住居跡の存在を確認したので、掘り込み面等の情報は得られなかった。形状は北西-南東に主軸を持つ楕円形である。推定規模は長軸4.3m、短軸3.3m。床面積は10.8㎡。本遺跡で検出された住居跡の中では最も大きい。

床:炉の周辺に硬化範囲が認められる。

炉:住居中央よりやや西で I 基検出された。平面形は楕円形を呈する。長軸0.66m、短軸0.60m、深さ 0.20m。断面形は台形状であり、覆土には焼土粒、炭化物粒が少量混じる。炉の覆土から採取された木



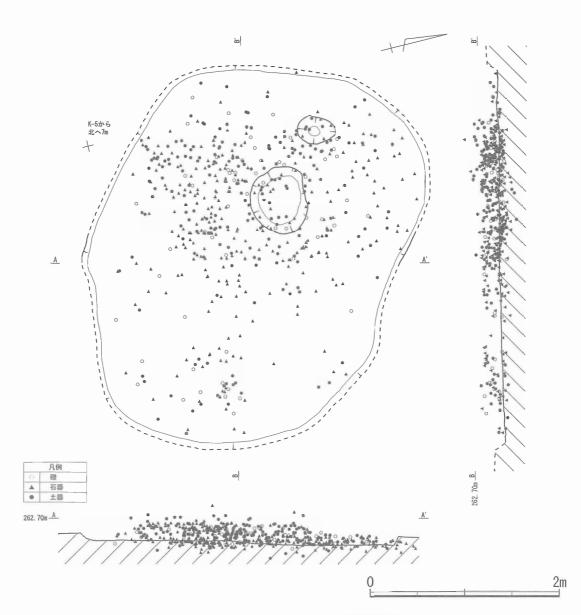
第96図 2号竪穴住居跡の検出状況

炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6410±40BP(AMS法、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。

柱穴: ピット1基が現存するが、主柱穴の特定はできなかった。

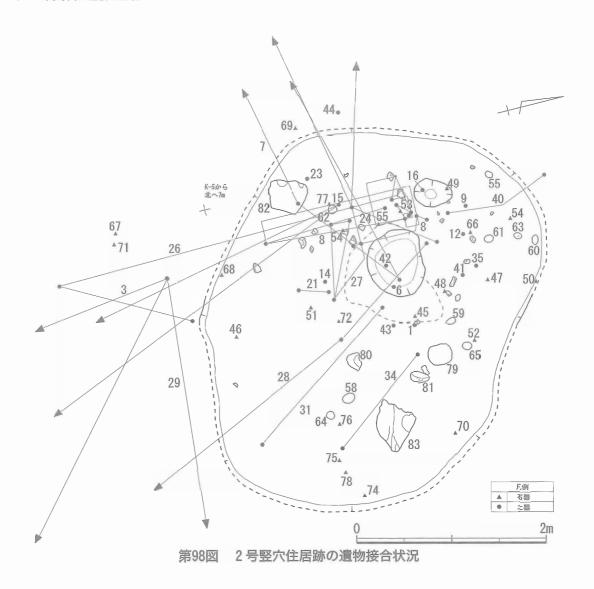
遺物出土状況:床面及び覆土から多量の遺物が出土した。遺物は炉の周辺で多く出土し、住居跡の南東部は分布がやや希薄である。

上器:6、24、26と I 群 H 類 3 種 (条痕文系) の土器の小片数点が床面で出土し、他はすべて覆土から出土した。1 と 2 は同一個体の I 群 F 類 (野島式) である。3-24は I 群 H 類 1 種 (打越式) である。



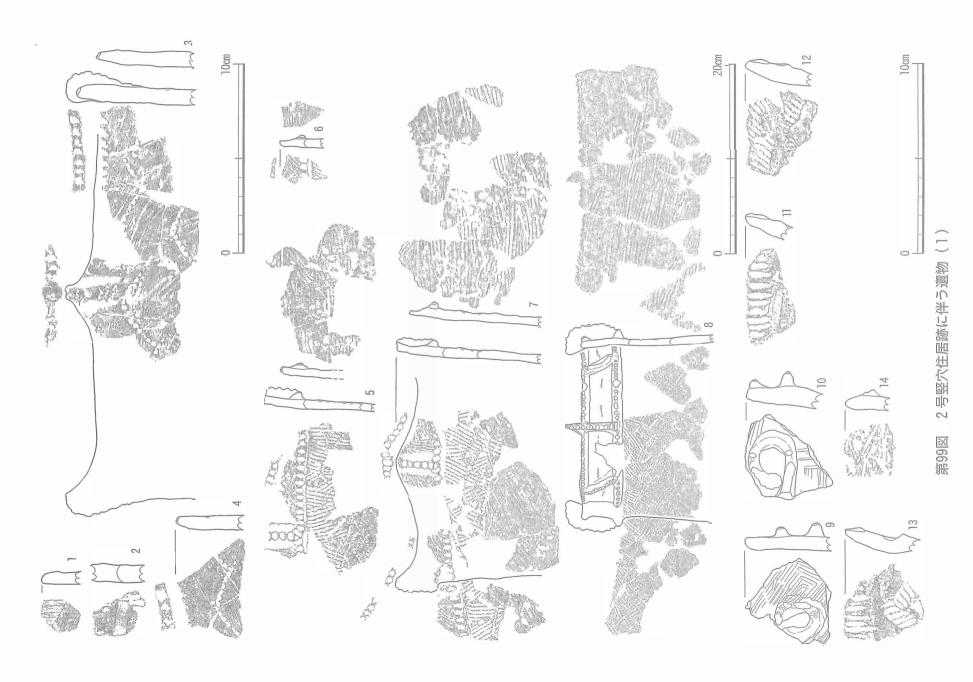
第97図 2号竪穴住居跡の遺物分布

3と4は波状口縁を有する。胴部は列点状の貝殻腹縁文で連続山形文を施している。3は波頂部に垂下する隆帯を貼り付けている。5-8は胴上部に水平隆帯を貼り付け、口唇部と隆帯の間に幅の広い文様帯を形成している。5-7は同一個体で、波状口縁を有する。波頂部に口唇部直下から胴部の隆帯をつなぐように垂下する隆帯を貼り付けている。隆帯下部は格子状に条痕文を施した後、列点状の貝殻腹縁文で格子目文を施している。8は平縁で、口唇部直下と胴上部に水平隆帯を貼り付けている。さらに口唇部から胴部の隆帯をつなぐように垂下する隆帯を貼り付けて突起を作出している。文様帯は入念な調整の後、突起の間に右下斜位の隆帯を貼り付けている。さらにこの隆帯によって形成された区画の中に細波文を2個ずつ施している。隆帯下部は格子状に条痕文を施した後、列点状の貝殻腹縁文で格子目文を施している。9と10は同一個体である。波状口縁を有し、口縁部直下に渦巻状の隆帯を貼り付けている。11-14は口唇部が丸い平縁の土器である。11は口唇部直下に短い縦位の条痕文を施している。12と13は原体を下に引く貝殻腹縁文を施している。文様は、口唇部直下は類沈線文、胴上部は山形文である。14は口唇部直下に低い幅広の隆帯を貼り付け、格子状に条痕文を施している。15-23は貝殻腹縁文を施し

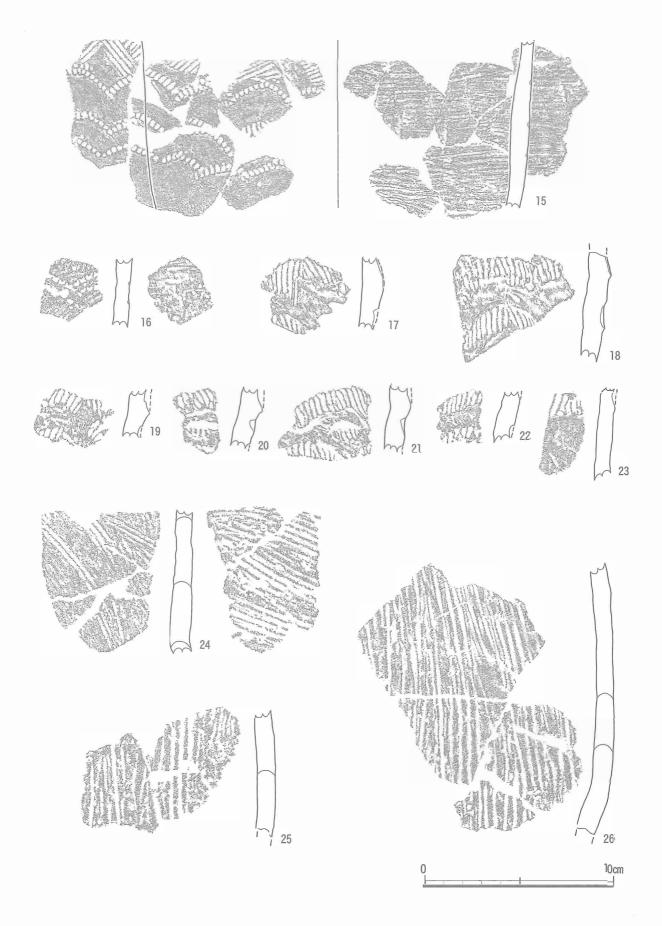


た胴上部の破片である。15と16は列点状、17-23は原体を下に引く貝殻腹縁文で連続山形文を施している。20と21は山形文二段の間に類沈線文を施している。24は貝殻腹縁の条痕文の上に殻頂部の条痕文を重ねた胴部破片である。25-28は I 群H類 2 種(打越式並行かと思われる条痕文系土器)の胴下部破片である。27と28は条痕文を入念に磨り消している。29-31と33は I 群 J 類 2 種-1(入海 I 式)である。32は I 群 J 類 2 種-2(入海 I 式模倣)である。34-38は I 群 J 類 3 種-1(入海 II 式)である。34は I 唇部に、35-38は隆帯に貝殻による刻みが見られる。39-42は I 群 J 類 4 種-2(石山式模倣)である。42は 波状口縁を有し、波頂部に垂下する隆帯を貼りつけている。43は I 群 J 類 5 種(天神山式)、44は条痕文で調整した胴部破片で I 群 J 類 6 種(早期末東海系土器)である。

石器:製品はすべて覆土から出土した。石材はすべて黒曜石を用いている。45-50は石鏃である。45と46は基部の抉りが浅く緩い弧状であり、47は基部に抉りが見られない。47以外はすべて欠損品である。51は楔形石器である。上下に微細剥離痕が見られる。52は二次加工剥片である。53-55は石核である。いずれも頻繁に打面転移を繰り返している。56は搬入石材である。57-77は磨石ないし敲石である。このうち57-66は床面で出土した。57は小型の敲石、66は凹石、その他は扁平な円礫を用いた磨-敲石または磨石である。78-83は石皿である。78-82は扁平な円礫または亜角礫の中央部を使用面としている。80と82は一部礫の縁まで使用面としている。83は板状の礫の平坦面全体を使用面としている。79-83は床面で出土しているが、いずれも著しく破損しているか、使用面が裏向きであるため、原位置を保ってい



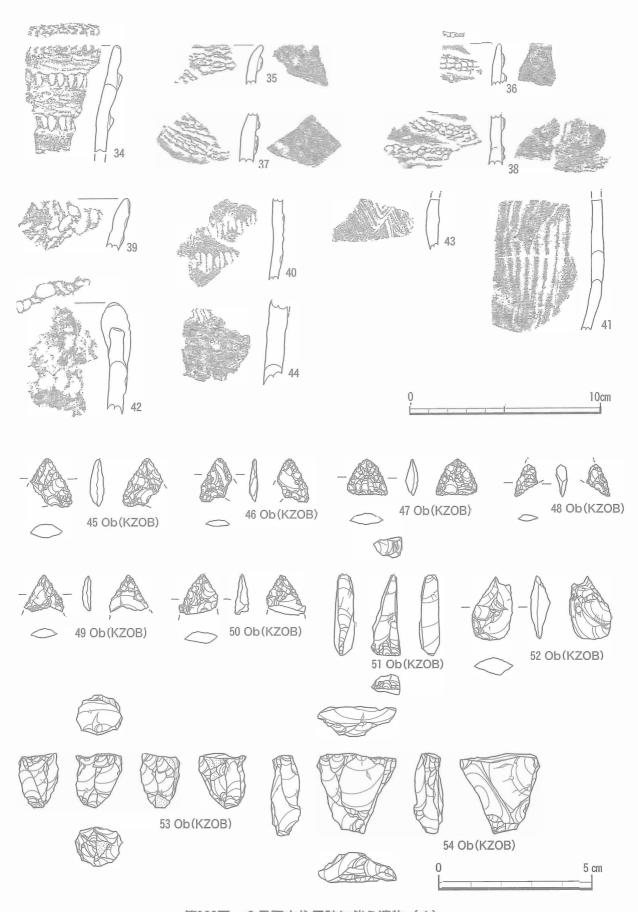
- 115-



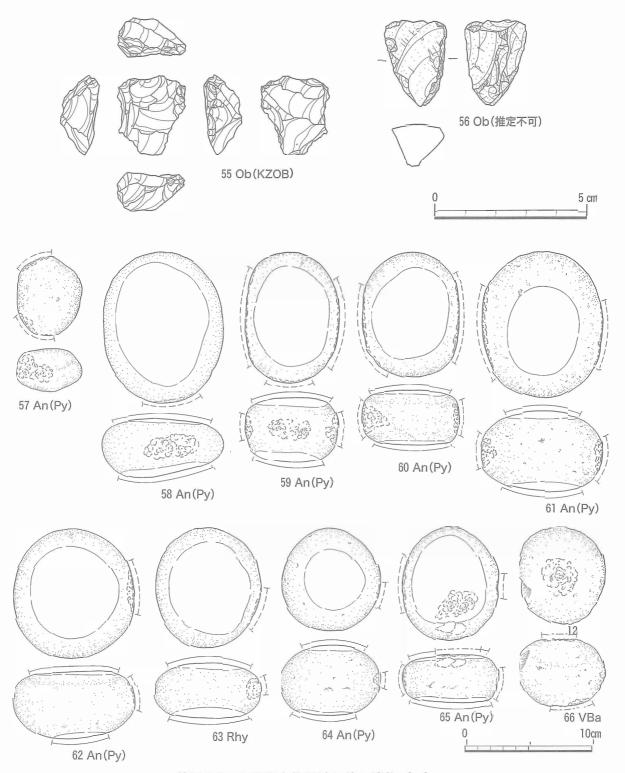
第100図 2号竪穴住居跡に伴う遺物(2)



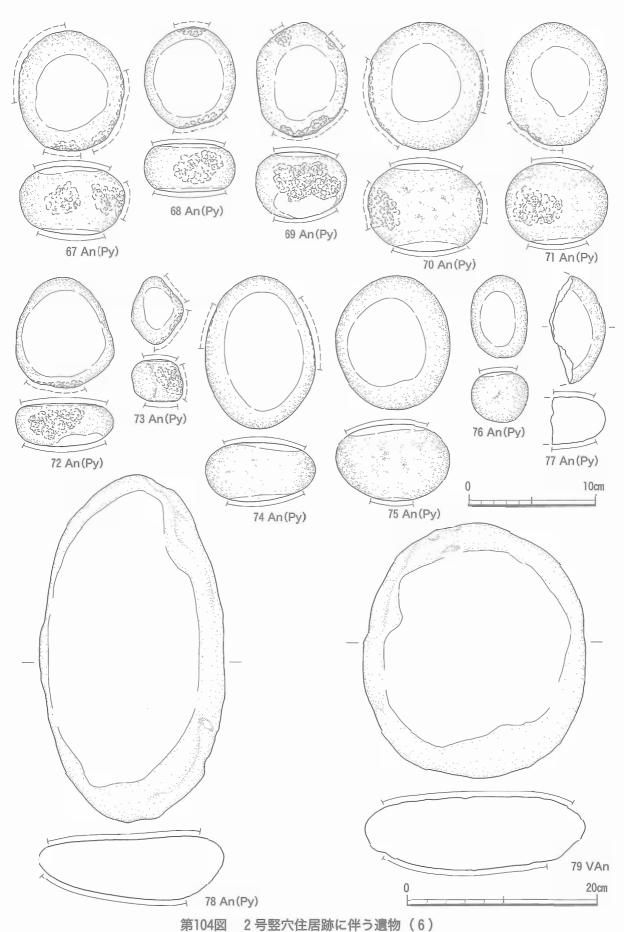
_ ; ₁ ; _

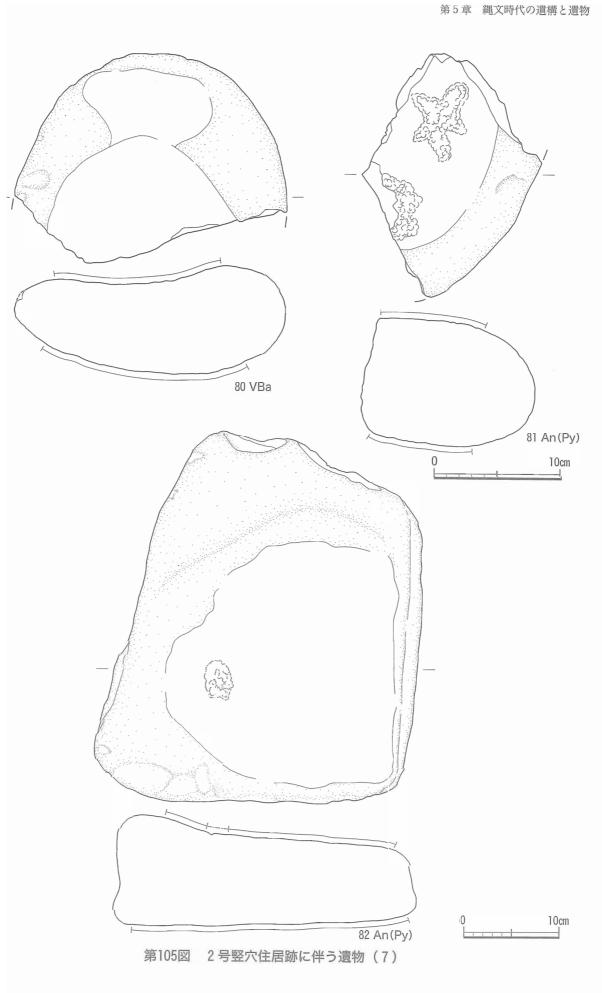


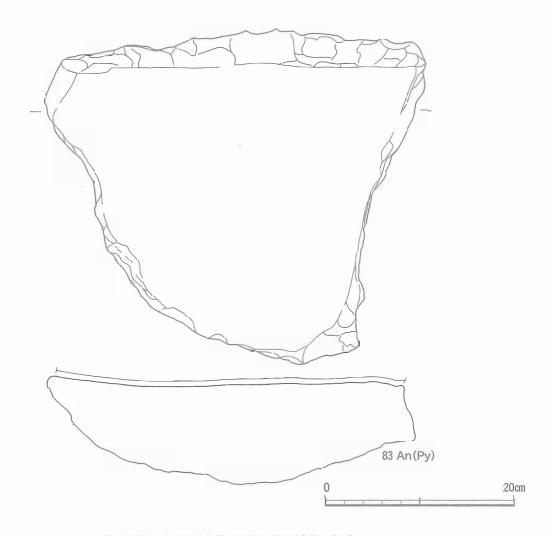
第102図 2号竪穴住居跡に伴う遺物(4)



第103図 2号竪穴住居跡に伴う遺物(5)







第106図 2号竪穴住居跡に伴う遺物(8)

ると思われるものは見られない。

3号竪穴住居跡 (SB03) (第107-110図)

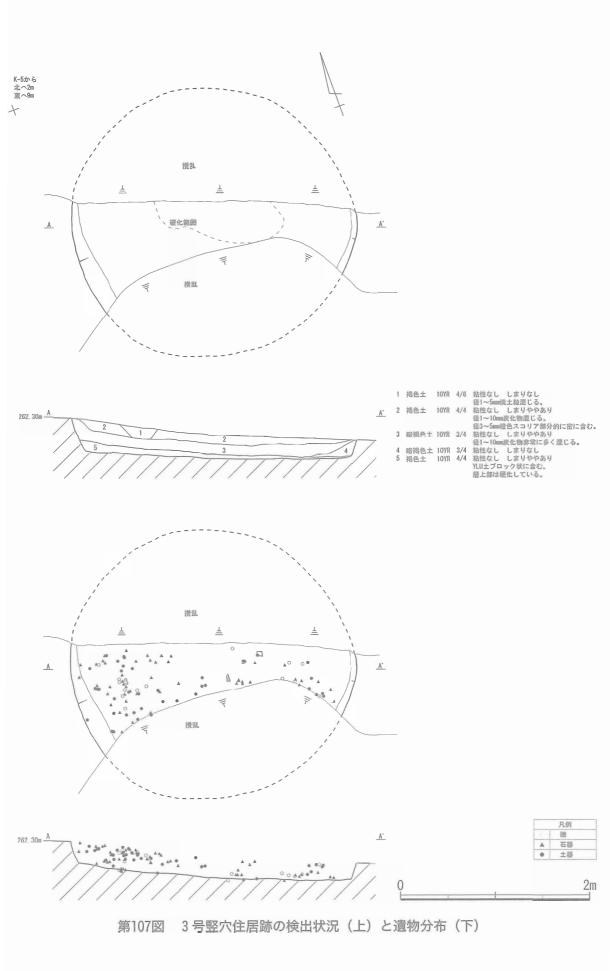
形状: 北半部全域と南側約1/3は攪乱により欠損している。壁は緩やかに立ち上がる。平面形は円形を呈していると推定される。規模は長軸3.01m、短軸は推定で2.82m。床面積は推定で5.7m。

炉・柱穴:確認できなかった。

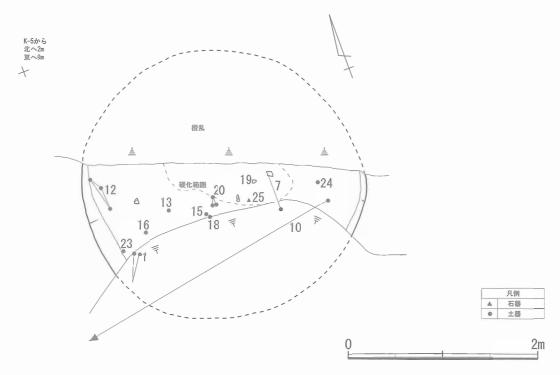
床:住居中央部に硬化範囲が認められる。

遺物出土状況:残存する壁付近を中心に床面及び覆土から出土した。

土器:7、19と12-14と同一個体の小片が床面で出土し、他はすべて覆土から出土した。1-5は I 群 H 類 1 種 (打越式)である。1 は口唇部が角頭状で、器面に格子状に条痕文を施している。2 は口唇部の外面端部が肥厚し、口唇部を囲むように隆帯を貼り付けて山形状突起を作出している。2-4は胴部の条痕文が短めで、やや曲線的である。5 は外面の条痕文を入念に磨り消した胴下部である。6-14は I 群 J 類 3 種-1 (入海 II 式)である。6-11、12-14は各々同一個体である。15は I 群 J 類 4 種-I (石山式)である。16と17は I 群 J 類 4 種-2 (石山式模倣)である。18は I 群 J 類 6 種 (早期末東海系)の底部である。19-24は I 群 L 類 (早期だが型式不明のもの)である。19と20は厚手で無文の胴部である。21-24は胴上



— 123 —



第108図 3 号竪穴住居跡の接合状況

部に縦位の平行沈線を施文している。22と23は同一個体である。

石器:25は細粒凝灰岩製の尖頭器である。覆土から出土した。素材剥片の中央部を残して両面を加工し、また両側縁は側面観がジグザクになるように整形している。最近報告された佛ヶ尾遺跡(No.147地点)の6号住居跡では床面から打越式土器、同覆土から神津島恩馳島産黒曜石製の尖頭器が出土しており、早期末葉における尖頭器の存在は疑いない。26は石皿の破片である。扁平な円礫を用いている。

4号竪穴住居跡 (SB04) (第111・112図)

形状:南西壁は攪乱により欠損している。壁は緩やかに立ち上がる。平面形は円形を呈していると推定される。規模は長軸3.28m、短軸は推定3.2m。床面積は推定7.1㎡。

炉:確認できなかった。

床:住居中央よりやや北寄りの位置に硬化範囲が認められた。

柱穴:住居跡内にピット8基が現存するが、主柱穴の特定はできなかった。

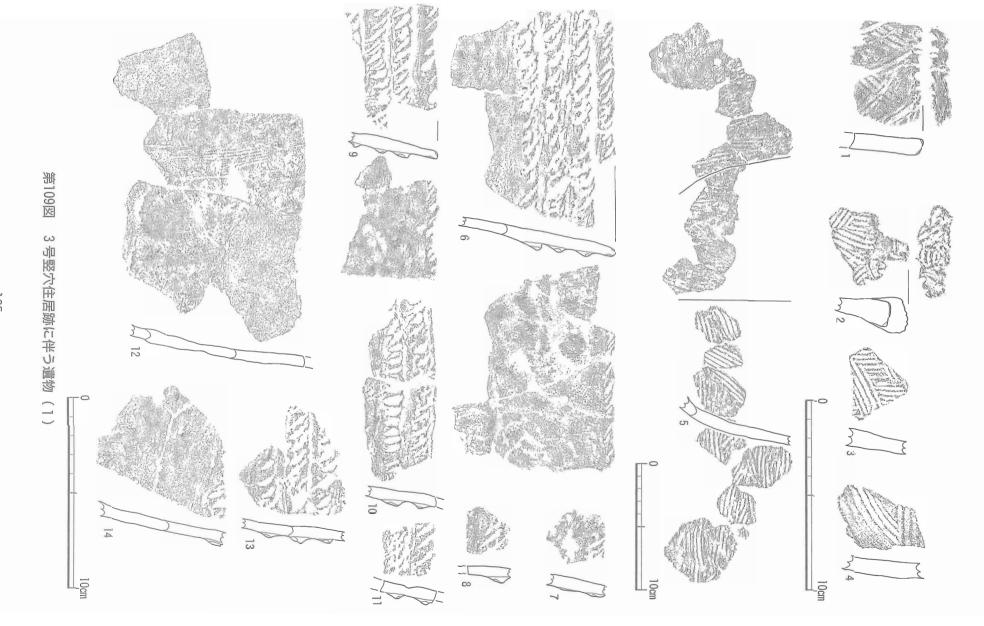
遺物出土状況:覆土から礫8点が出土した。

6号竪穴住居跡 (SB06) (第113·114図)

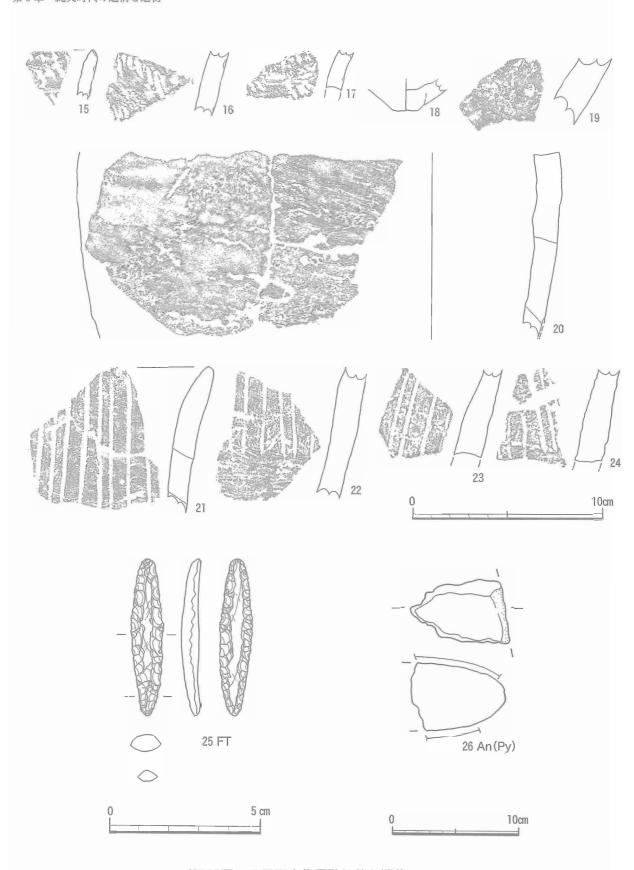
形状:南半部全域は攪乱により欠損していた。また、西壁の立ち上がりは床面で形状を確定したのでよくわからなかった。現存する部分では壁は緩やかに立ち上がる。平面形は円形を呈していると推定される。規模はいずれも推定で長軸2.93m、短軸は2.74m、床面積は5.9m。

炉:確認できなかった。

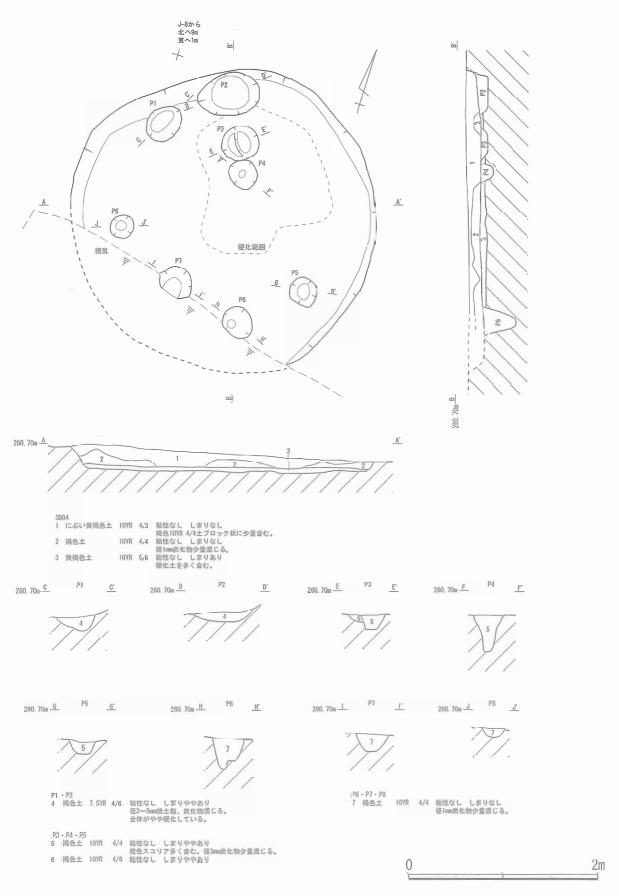
床:ほぼ全体が硬化していた。



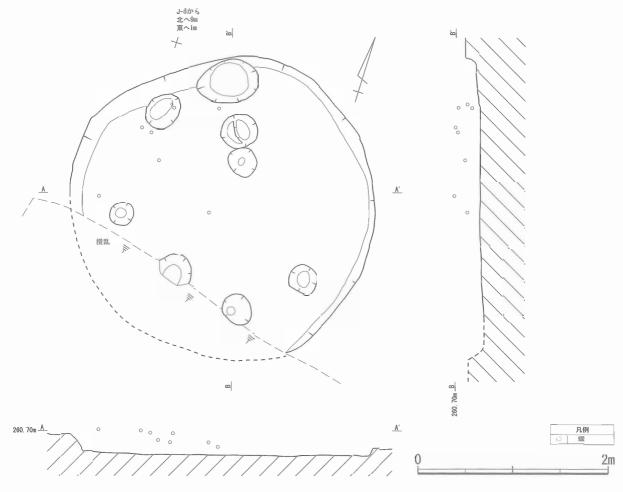
第5章 縄文時代の遺構と遺物



第110図 3号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)



第111図 4号竪穴住居跡の検出状況



第112図 4号竪穴住居跡の遺物分布

柱穴:住居跡内にピット4基が現存するが、主柱穴の特定はできなかった。

遺物出土状況:住居跡北東部を中心に床面及び覆土から出土した。

上器: 床面で I 群 H 類 3 種 (条痕文系土器の胴部及び底部) の小片数点が出土し、他はすべて覆土から出土した。1は I 群 H 類 1 種 (打越式) である。入念な器面調整の後、口唇部直下から胴上部にかけて ・条痕文を縦位に施している。2-4は同一個体で、 I 群 J 類 3 種-2 (入海 II 式模倣) である。

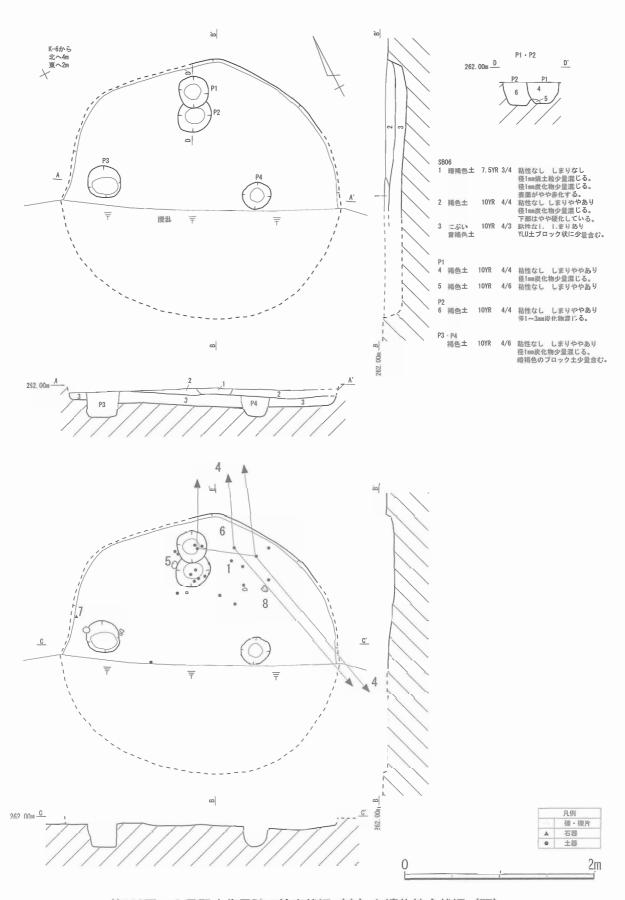
石器: 覆土から磨-敲石(5-6)と磨石(7)、石皿(8)が出土した。磨-敲石と磨石はすべて扁平な円礫を使用している。石皿は破損している。扁平な円礫の中央部を使用面としている。

8号竪穴住居跡 (SB08) (第115-117図)

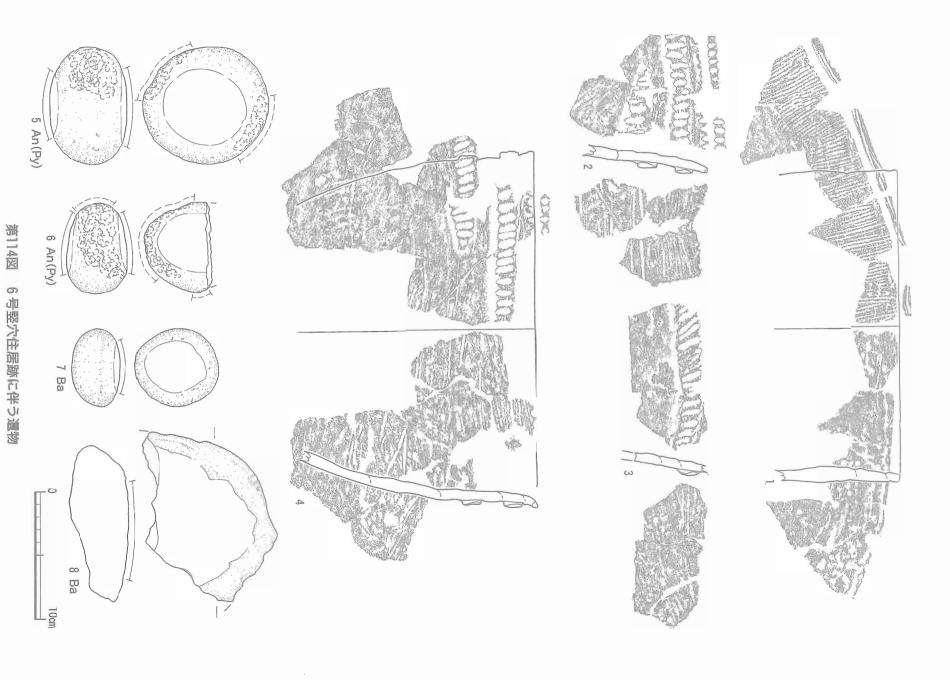
形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がる。円形を呈し、規模は長軸2.31m、短軸は1.99m、床面積は本遺跡で検出された住居跡の中で最小の3.1㎡、

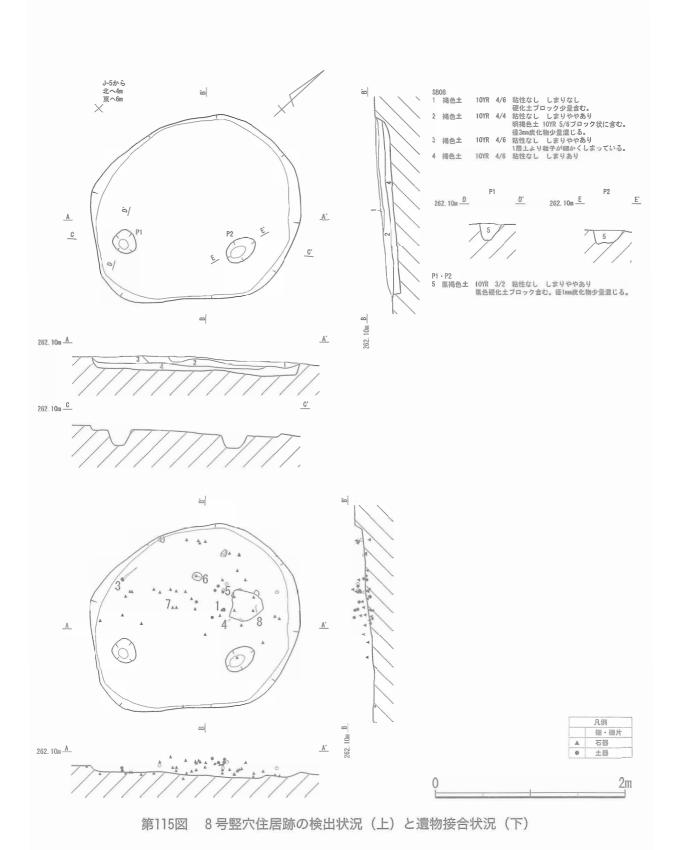
炉:確認できなかった。

床:ほぼ全体が硬化している。床面直上から採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6480±40BP(AMS法、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。 住穴:住居跡内にピット2基が現存する。位置的には主柱穴と考えられるが浅い。



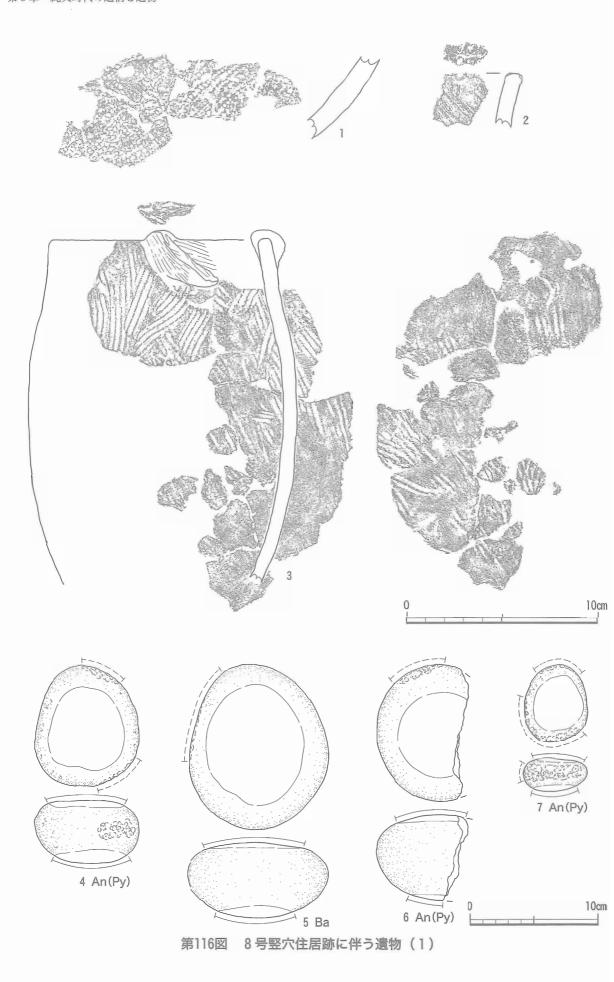
第113図 6号竪穴住居跡の検出状況(上)と遺物接合状況(下)

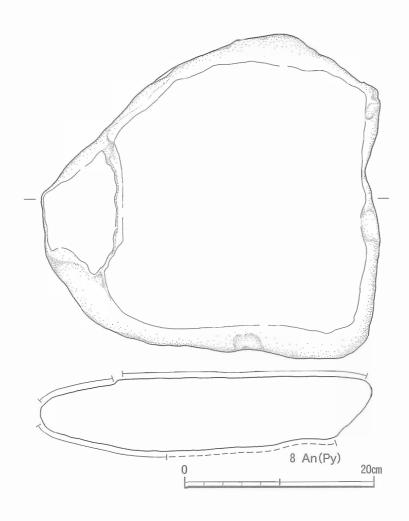




遺物出土状況:住居跡西側を中心に床面及び覆土から出土した。

土器:すべて覆土から出土した。 I は I 群 C 類-2 (撚糸文系から押型文系に並行する時期の縄文土器の





第117図 8号竪穴住居跡に伴う遺物(2)

うち原体の節が小さいもの)の底部付近である。2と3はI群H類-1 (打越式)である。3は小型の深 鉢である。器形は下膨れの砲弾型を呈する。平縁で、口唇部から胴上部にかけて右下斜位に垂下する耳 状の隆帯を貼りつけている。胴上部はやや曲線的で不規則な格子状の条痕文を施している。神之木台式 の可能性も推察される。

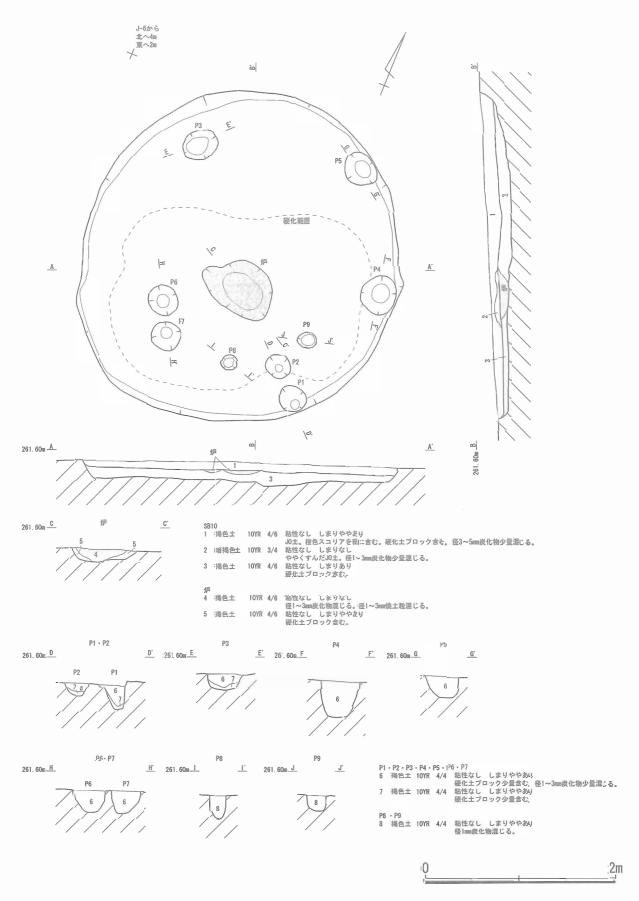
石器:住居中央よりやや北東の床面で石皿(8)が出土した。使用面を安定させるためか、磨-敲石(4、5)と礫1個を床面との間にできた隙間に挟んで据えていた。扁平な亜角礫を用い、平坦面全体を両面とも使用面としている。最も鋭角な角付近の使用面が傾斜していることから、この部分を利用して加工した食物を移す作業を行ったことが推察される。磨-敲石6は床面から、7は覆土中から出土した。この遺構から出土した磨-敲石はすべて扁平な円礫を用いている。

10号竪穴住居跡 (SB10) (第118-121図)

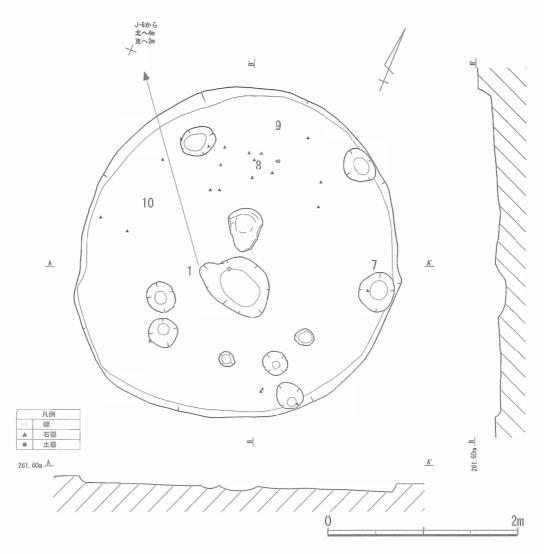
形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がる。円形を呈し、規模は長軸3.62m、短軸は3.4m、床面 積は8.8㎡。

炉:住居中央よりやや南の位置で1基検出された。平面形は楕円形であり、長軸0.64m、短軸0.56m、深さ0.1m。断面形はレンズ状であり、覆土には焼土粒、炭化物粒が混じる。

床:炉の周辺に硬化範囲が認められる。



第118図 10号竪穴住居跡の検出状況



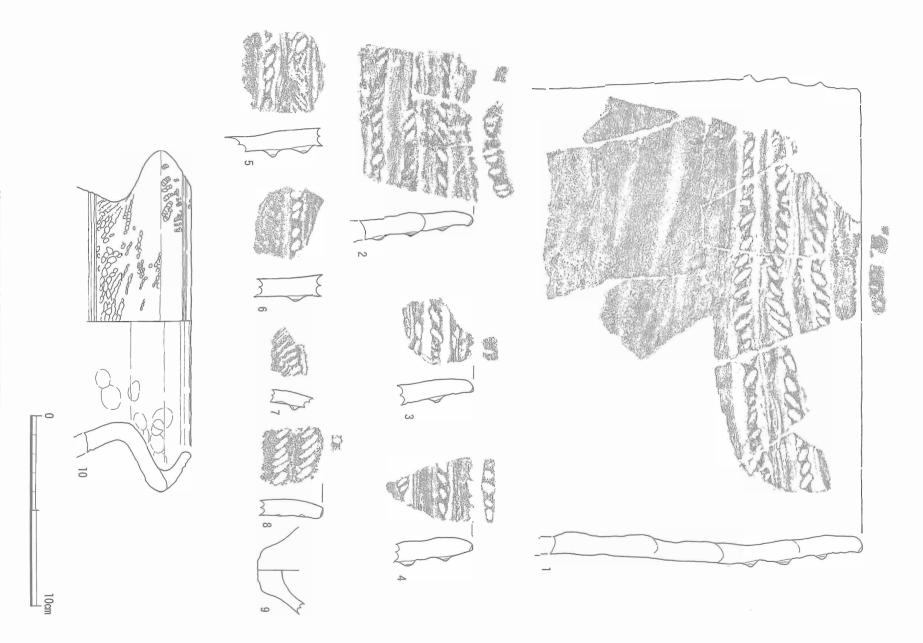
第119図 10号竪穴住居跡の遺物接合状況

柱穴:住居跡内にピット9基が現存するが、主柱穴の特定はできなかった。

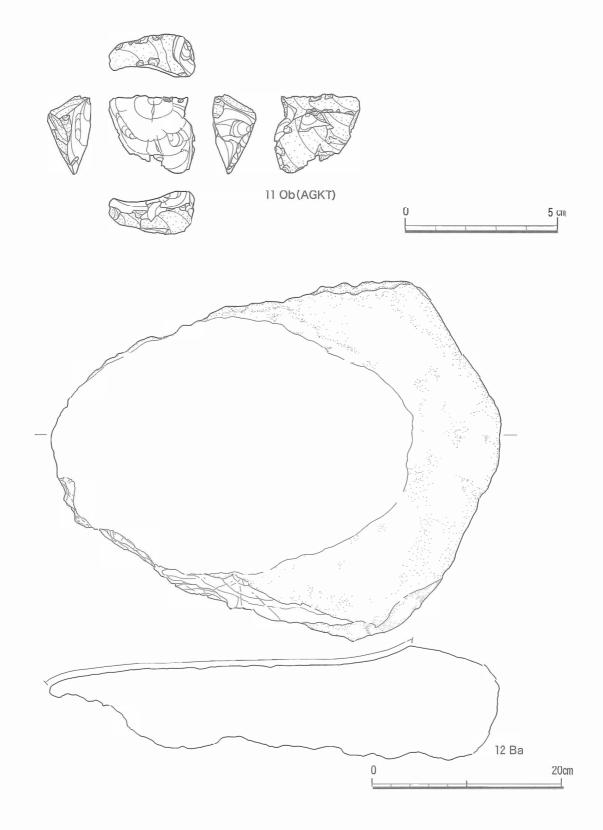
遺物出土状況:住居跡北西部を中心に床面及び覆土から出土した。

土器:床面で I 群 H 類 3 種(条痕文系)の小片 1 点が出土し、他はすべて覆土から出土した。1-6は同一個体である。器壁が非常に厚く、胎土に繊維を含まない。 I 群 J 類 2 種-2(入海 I 式模倣)と思われる土器である。 7 は I 群 J 類 3 種-1(入海 II 式)、 8 は I 群 J 類 4 種-2(石山式模倣)である。 9 は I 群 J 類 6 種(早期末東海系土器)の底部である。10は II 群 B 類 4 種(諸磯 b 式中段階から新段階と思われる集合沈線文を施すもの)である。やや小型の深鉢である。胴上部は大きく開き、口唇部付近でキャリパー状に内彎する。器面全体に縄文を施した後、口唇部直下と胴部の括れ部分に半截竹管で沈線文を施している。

石器: 炉のすぐ北西の床面で石皿 (12) が出土した。側縁の一部を三角形状に加工した平坦な円礫を用いている。原礫部分は礫中央部を使用面とし、凹むほど使い込んでいる。また、覆土から黒曜石の石核 (11) が出土した。原礫面が多く残る。



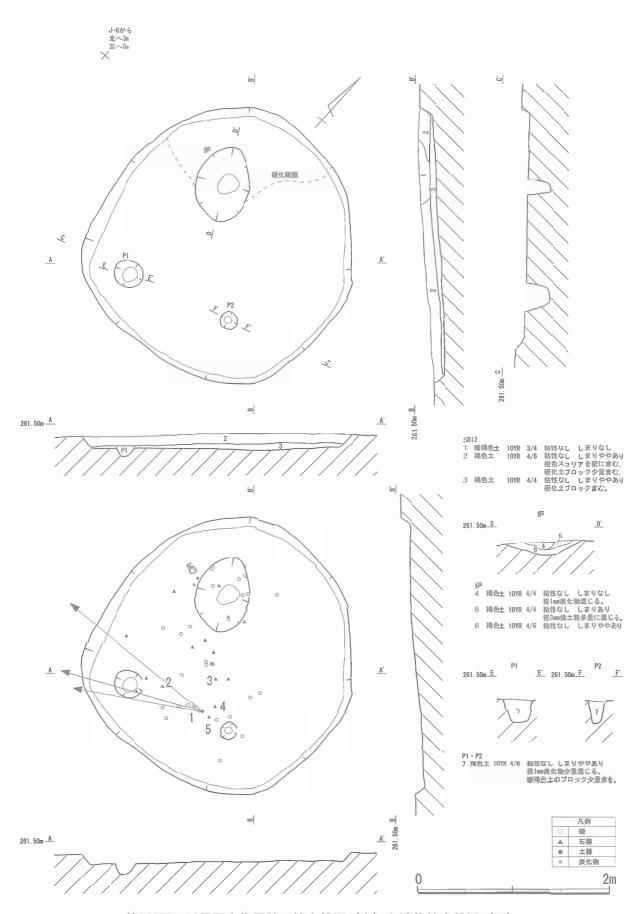
第120図 10号竪穴住居跡に伴う遺物 (1)



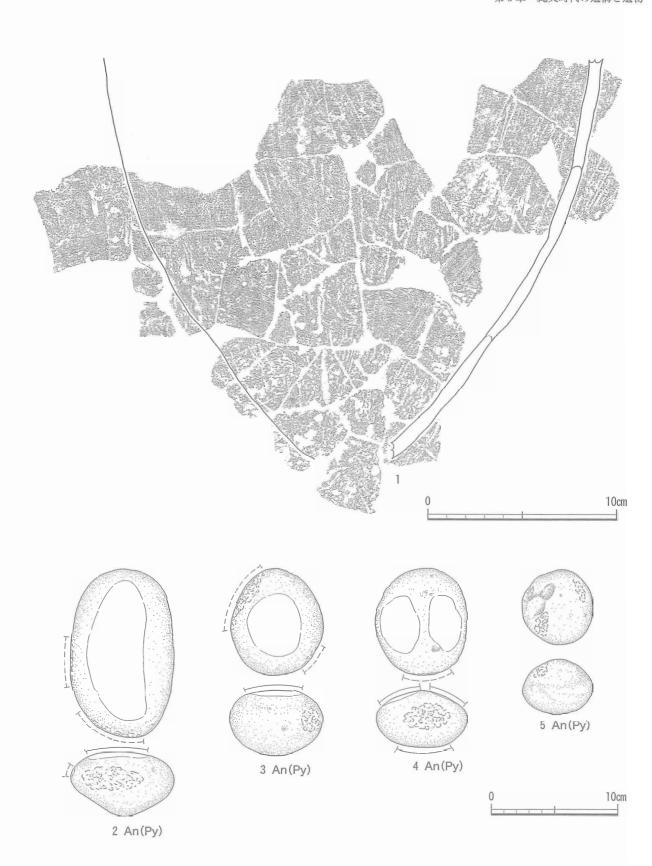
第121図 10号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)

12号竪穴住居跡 (SB12) (第122・123図)

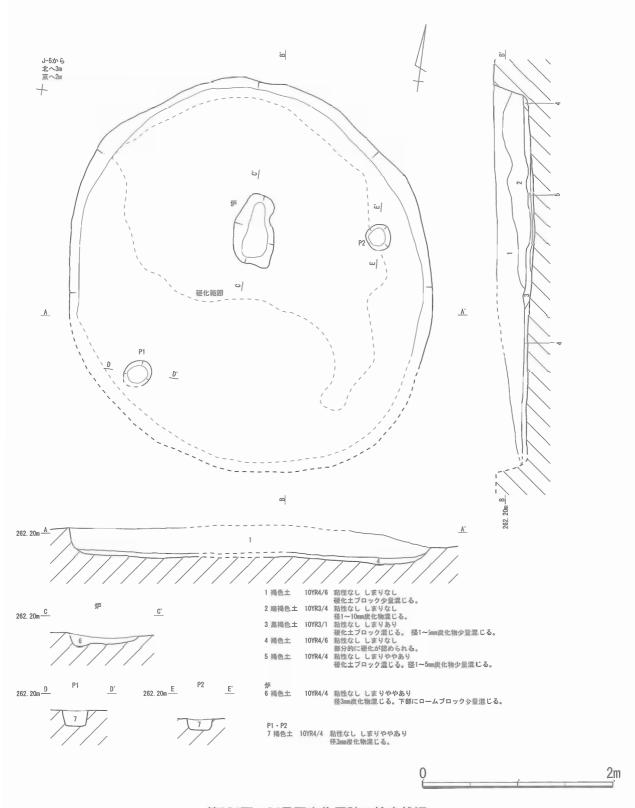
形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がる。円形を呈し、規模は長軸2.93m、短軸は2.34m、床面



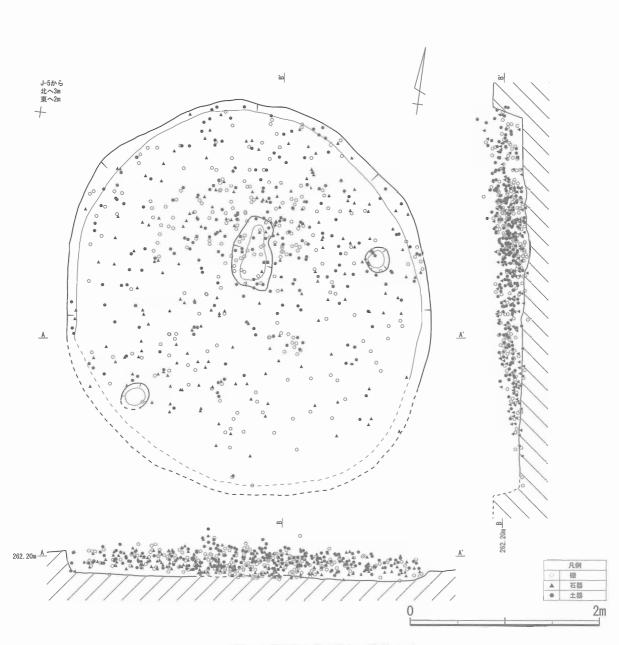
第122図 12号竪穴住居跡の検出状況(上)と遺物接合状況(下)



第123図 12号竪穴住居跡に伴う遺物



第124図 14号竪穴住居跡の検出状況



第125図 14号竪穴住居跡の遺物分布

積は5.6㎡。

炉:住居中央よりやや北西の位置で1基検出された。平面形は楕円形であり、長軸0.78m、短軸0.56m,深さ0.12m。断面形はレンズ状であり、覆土には焼土粒が多く混じる。

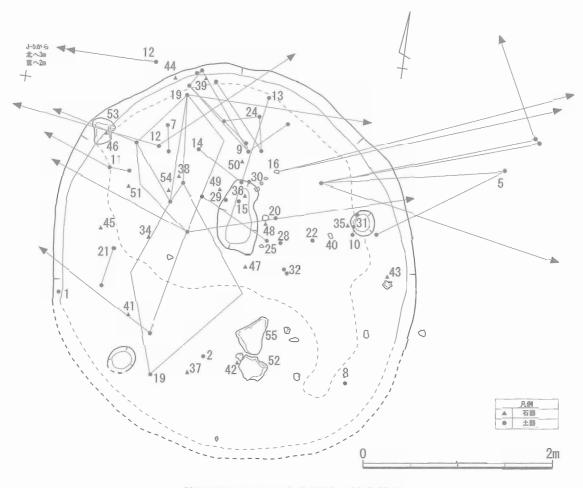
床:炉の北側に硬化範囲が認められる。床面直上から採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6630±40BP (AMS、未較正)という年代値が得られた (附編 加速器分析研究所論 文参照)。

柱穴:住居跡内にピット2基が現存する。位置的には主柱穴と考えられるが径が小さく浅い。

遺物出土状況:住居中央部を中心に床面及び覆土から出土した。

土器:覆土から I 群 J 類 6 種 (早期末東海系土器) の胴下部 1 が出土した。

石器: 覆土から磨-敲石(2-4)と敲石(5)が出土した。2-4は扁平な円礫を用いている。5は小型の円礫を用いている。



第126図 14号竪穴住居跡の接合状況

14号竪穴住居跡 (SB14) (第124-134図)

形状:ほぼ全存するが、南側は傾斜により覆土はそのまま地山に移行し、壁の立ち上がりは見られない。壁はやや急峻に立ち上がる。平面形は円形を呈していると推定される。規模はいずれも推定で長軸4.25 m、短軸は3.86m、床面積は10.5㎡。

炉:住居のほぼ中央から1基検出された。平面形は不整楕円形であり、長軸0.72m、短軸0.42m、深さ0.14m。断面形はレンズ状であり、覆土には炭化物粒が混じる。

床: 炉の周辺から住居北側を中心に硬化範囲が認められる。

柱穴:住居跡内にピット2基が現存するが、主柱穴の特定はできなかった。

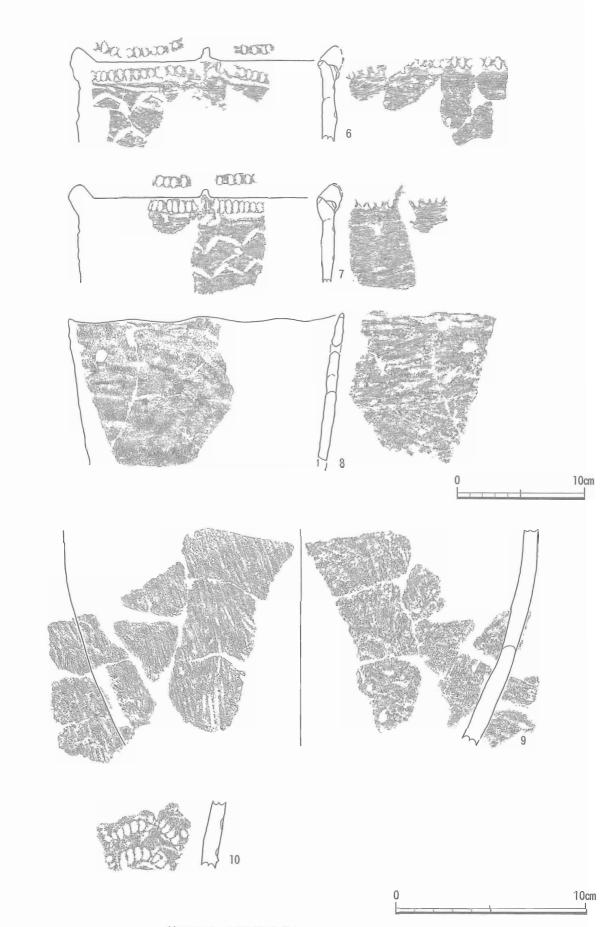
遺物出土状況:住居跡のほぼ全体の床面及び覆土から多くの遺物が出土した。

上器: 床面で土器片(16) と I 群日類 3 種(条痕文系土器)の土器の小片数点が出土し、他はすべて覆土から出土した。1-10は I 群日類 1 種(打越式)である。1-7は平縁で、このうち 2 と 3 は同一個体である。いずれも口唇部は角頭状を呈する。4 と 5 は同一個体である。平縁で、丸い口唇部の外面直下に断面三角形の隆帯を口唇部と一体化するように貼り付け、さらにこれを囲むように隆帯を貼り付けて山

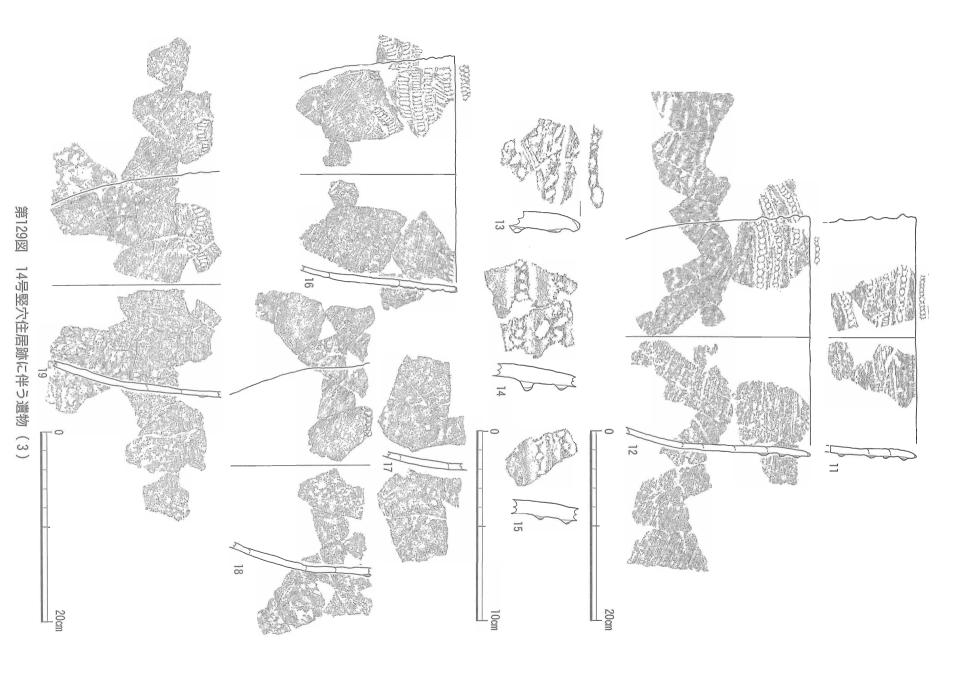


第127図 14号竪穴住居跡に伴う遺物(1)

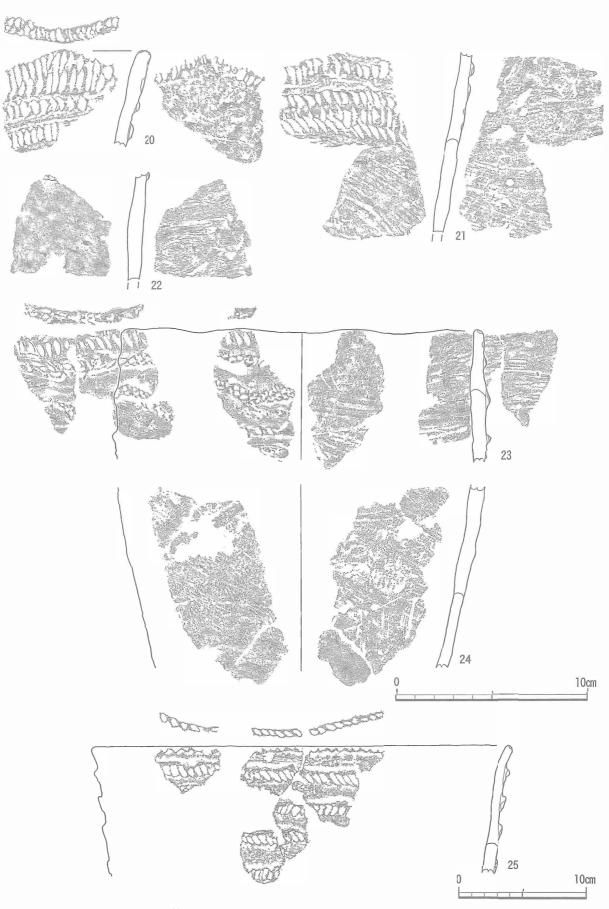
形状突起を作出している。口縁部の形状や胴部の格子目状の条痕文の施文などから見て、神之木台式とも考えられる。6と7は同一個体である。4に似た口縁形態を呈する。胴上部は貝殻腹縁文で運続山形文を施している。8は無文で、器面全体に擦痕が残る。口縁部は粘土をつまみ出して低い突起を作出している。9は胴下部の破片である。貝殻腹縁の条痕文の上に殻頂部の条痕文を重ねた後、条痕文を入念に磨り消している。10は太列点状の貝殻腹縁文で連続山形文を施している。11と12は同一個体で、I群J類2種-1(入海I式)である。胴上部の施文域は水平と波状の刻目隆帯で構成されている。13-15はI群J類2種-2(入海I式模倣)である。16-24はI群J類3種-1(入海II式)である。16-19、20・21、23・24は各々同一個体である。いずれも胴上部に低い刻目隆帯と刻目列で構成される施文域が見られる。16-19は同一個体で平縁、20・21は波状口縁を有する。23・24は起伏が緩やかで細かい波状口縁を有し、口唇部の面と隆帯は貝殻で刻みを施している。25はI群J類3種-2(入海II式模倣)である。26-31はI群J類4種-2(石山式模倣)である。26-28は同一個体である。32はI群K類(条痕文系/羽状縄文系



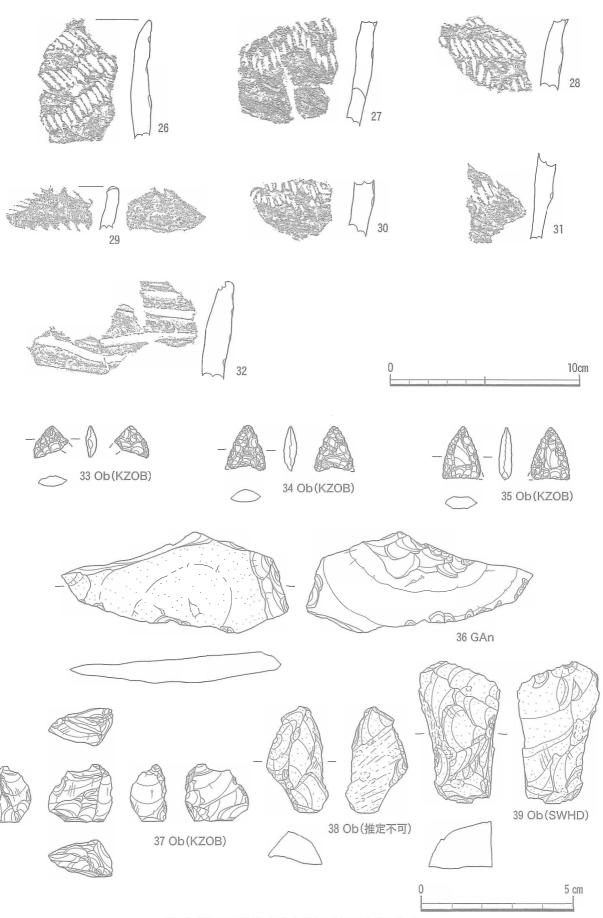
第128図 14号竪穴住居跡に伴う遺物 (2)



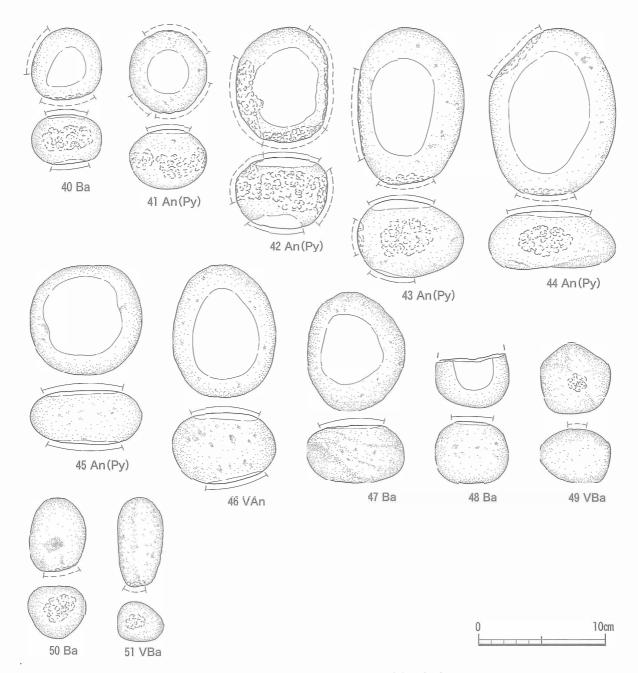
145



第130図 14号竪穴住居跡に伴う遺物 (4)



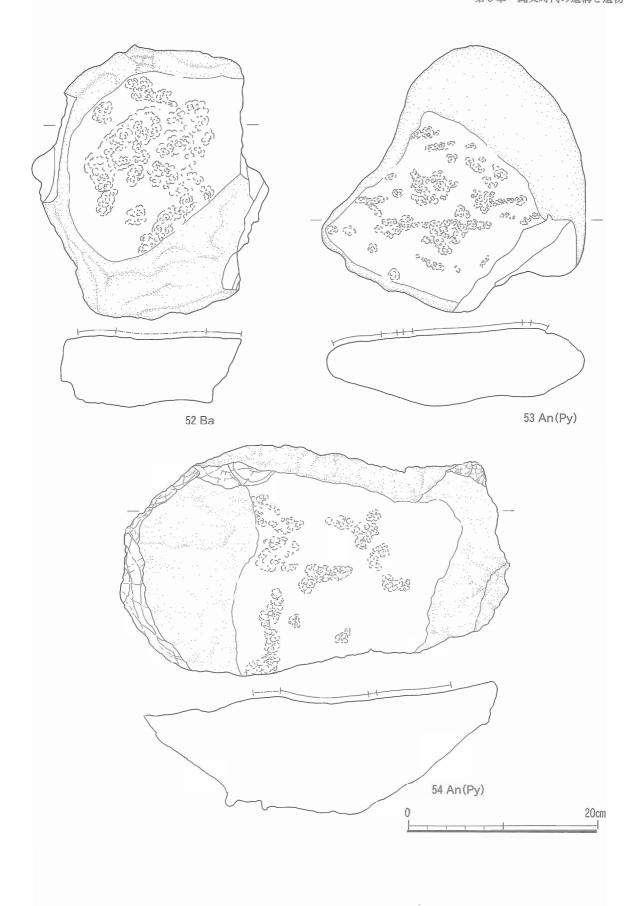
第131図 14号竪穴住居跡に伴う遺物 (5)



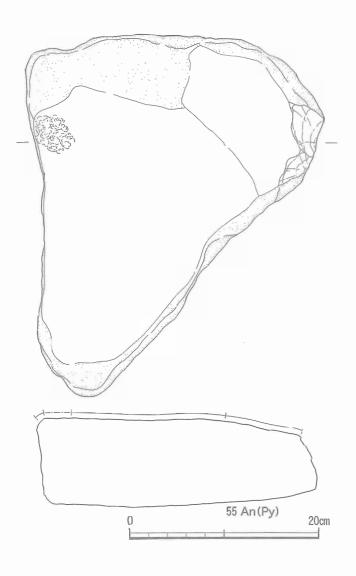
第132図 14号竪穴住居跡に伴う遺物(6)

移行期の土器)である。

石器:削器(36)と磨-敲石(40)が床面で出土し、他はすべて覆土から出土した。石皿はいずれも床面よりわずかに浮いた位置で出土しているため、原位置で使用していた可能性は低いと思われる。また、石鏃(33)は掘方覆土から出土した。剥片石器製品の石材は、36がガラス質黒色安山岩、他はすべて黒曜石である。33-35は石鏃である。33と34は基部の抉りが浅く緩い弧状であり、35は基部に抉りが見られない。36の削器は横長剥片を素材に用いている。剥片の右側縁部を切断し、刃部を作出している。37は石核である。頻繁に打面転移を繰り返している。38と39は搬入石材である。40-48は扁平な円礫を用いた磨-敲石と磨石、49-51は円柱状の礫を使用した敲石である。石皿(52、53)はいずれも扁平な亜角礫の中央部を使用面としている。54は破砕した角礫を用い、長辺側は縁まで、短辺側は中央部のみを使用面としている。55は板状の礫を用い、平坦面のほぼ全体を使用面としている。このほか剥片と砕片が



第133図 14号竪穴住居跡に伴う遺物 (7)



第134図 14号竪穴住居跡に伴う遺物(8)

多く出土した。

15号竪穴住居跡 (SBI5) (第135-138 図)

形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がる。北-南に主軸を持つ楕円形を呈し、規模は長軸2.7m、短軸2.13 m、床面積は4.2㎡。

炉:住居のほぼ中央から1基検出された。平面形は瓢箪形であり、長軸0.68 m、短軸0.6m、深さ0.2m。断面形は台形状であり、覆土には炭化物が多く混じる。炉の覆土から採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6420±40BP(AMS法、未較正)という年代値が得られた(附編加速器分析研究所論文参照)。

床:硬化範囲は認められなかった。 柱穴:住居跡内にピット4基が検出された。主柱穴の特定はできなかった。 遺物出土状況:住居跡のほぼ全体の床 面及び覆土から遺物が出土したが、分 布は散漫である。

上器:すべて覆土から出土した。1は I群H類1種(打越式)である。胴上部に列点状の貝殻腹縁文で連続山形文を施文している。2はI群J類4種-2 (石山式模倣)である。石英と金雲母

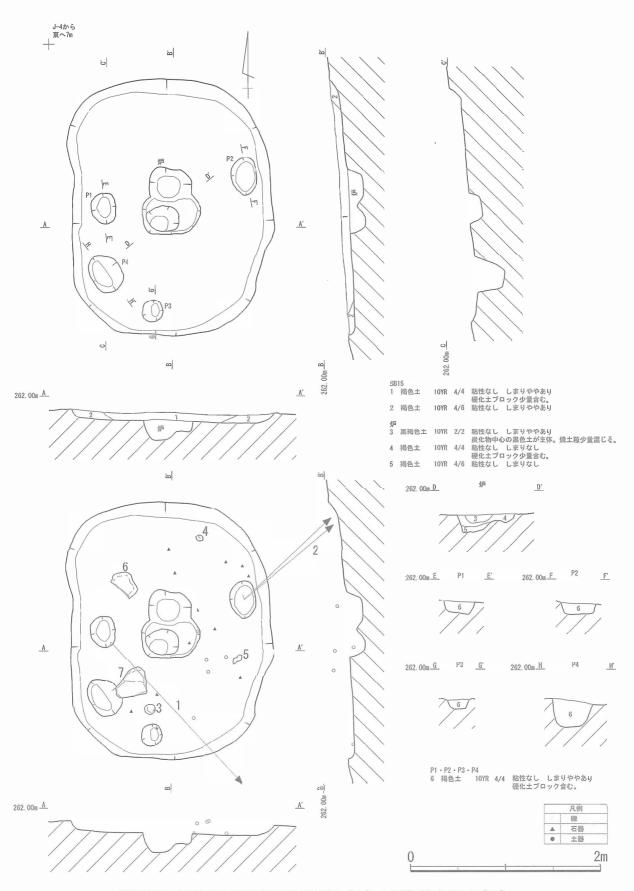
を多く含んだ褐色の胎土を有する。波頂部が魚尾形の波状口縁を有し、胴上部に刻目列を口縁に沿って 2条、鋸歯状に1条施文している。

石器:住居中央北西から南北よりの床面で磨-敲石(3)と石皿(6・7)、北東よりの床面で磨-敲石(4)が出土した。また覆土から礫器(5)と磨-敲石(4)、黒曜石の剥片と砕片が少量出土した。磨-敲石はいずれも扁平な円礫を用いている。5の礫器は原礫面が残る大型の剥片を素材としている。打点を右に置き、両側縁に刃部を作出している。石皿(6)は約半分が欠損しているが、出土状況から勘案して、欠損後も継続して使用されたものと推察される。扁平な円礫の中央部を両面とも使用面とし、凹むほど使い込んでいる。7は厚い板状の礫を用い、片面のみ平坦面全体を使用面としている。

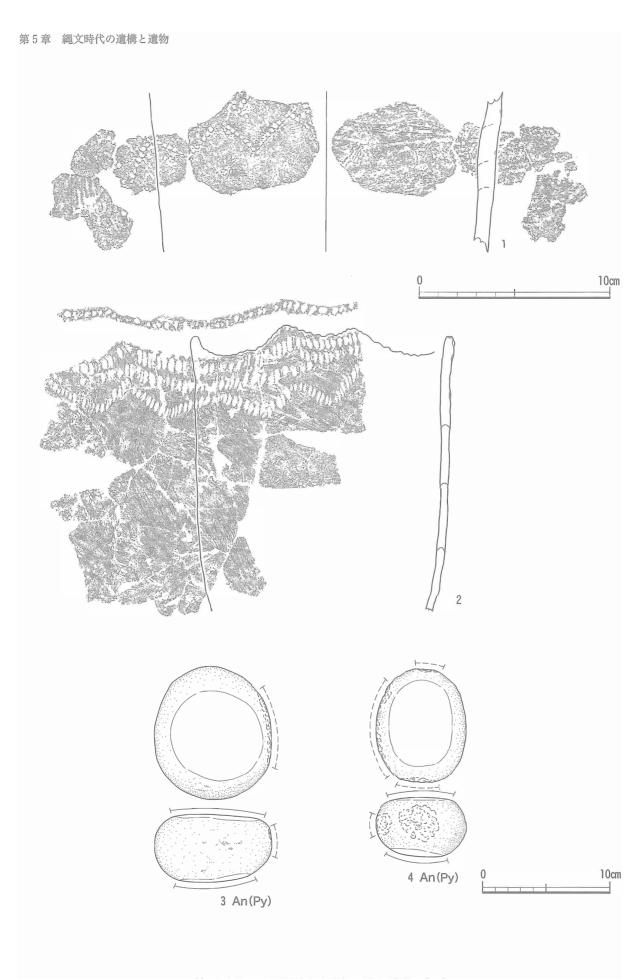
18号竪穴住居跡 (SB18) (第139図)

形状:北半部全域は市道による攪乱で欠損している。壁の立ち上がりは床面で形状を確認したため不明である。平面形は円形を呈していると推定される。規模はいずれも推定で長軸2.93m、短軸は2.74m。床面積は現存で2.1㎡。

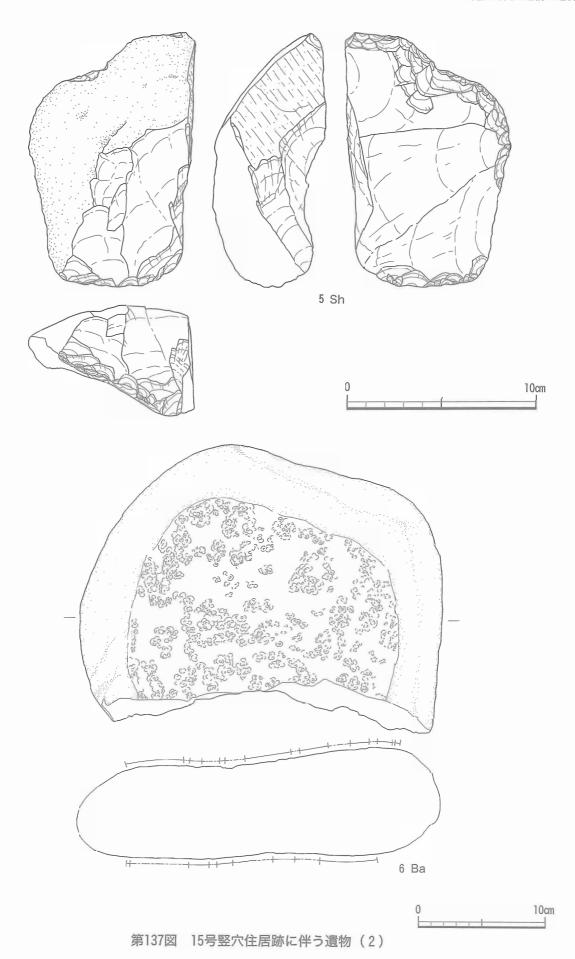
炉・柱穴:確認できなかった。



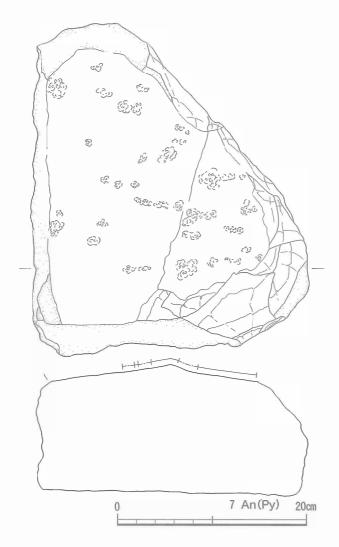
第135図 15号竪穴住居跡の検出状況(上)と遺物接合状況(下)



第136図 15号竪穴住居跡に伴う遺物(1)



— 153 —



第138図 15号竪穴住居跡に伴う遺物(3)

床:ほぼ全体が硬化している。

新旧関係: 南壁で2号竪穴住居状遺構 (TA02)を切る。

遺物:覆土から在地の胎土をもつ早期末の 土器の小片2点と、黒曜石の剥片1点、磨 -敲石1点が出土した。磨-敲石(1)は扁 平な円礫を用いている。

19号竪穴住居跡 (SB19) (第140-143図)

形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がる。北-南に主軸を持つ楕円形を呈し、 規模は長軸2.84m、短軸2.11m、床面積は 4.2㎡。

炉:住居のほぼ中央から2基検出された。 2基とも平面形は円形であり、炉1は長軸 0.54m、短軸0.5m、深さ0.08m、炉2は 長軸0.44m、短軸0.38m、深さ0.10m。新 旧関係が認められ、炉2が炉1を掘りこん でいる。ともに断面形はレンズ状であり、 覆土には焼土粒と炭化物粒が少量混じる。 床:炉の周辺に硬化範囲が認められる。

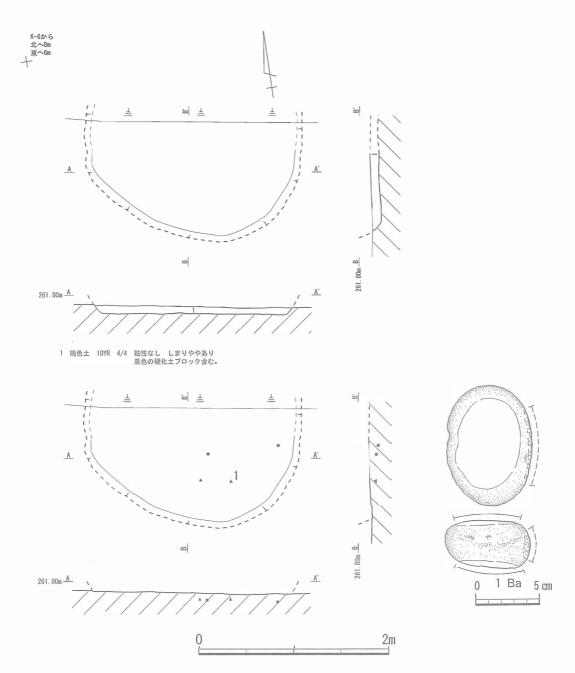
柱穴:住居跡内にピット 1 基が検出された。 主柱穴の特定はできなかった。

新旧関係: 西壁で6号竪穴住居状遺構 (TA06)を切る。

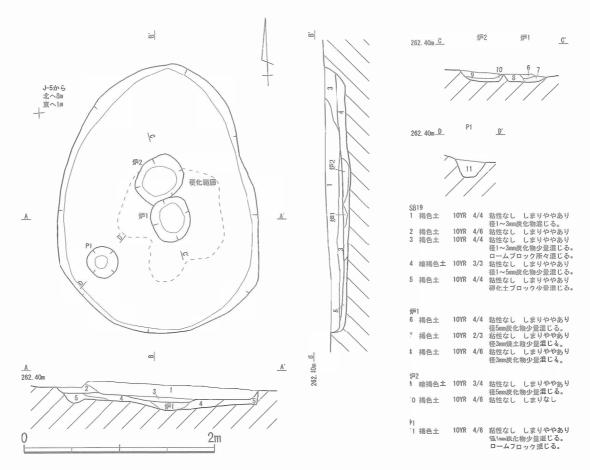
遺物出土状況:住居跡中央部を中心に床面及び覆土から多くの遺物が出土した。

土器:1、9とI群H類3種(条痕文系土器)の土器の小片数点が床面で出土し、他はすべて覆土から出土した。1-3はI群H類1種(打越式)である。1は胴下部の破片である。貝殻腹縁の条痕文の上に殻頂部の条痕文を重ねた後、条痕文を入念に磨り消している。2は平縁で、口唇部は角頭状を呈する。胴上部に隆帯を貼り付け、口唇部と隆帯の間に幅の狭い文様帯を形成している。3は列点状の貝殻腹縁文で細波文を施している。4はI群J類2種-2(入海I式模倣)である。5-8は同一個体で、I群J類4種-1(石山式)である。いずれも浅い刻目列を施文している。9と10は同一個体で、I群J類4種-2(石山式模倣)である。

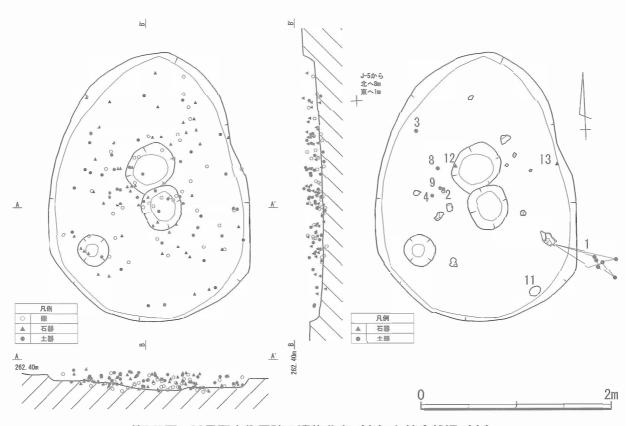
石器:床面で磨-敲石(II)と石皿の破片(I2)が出土した。ともに扁平な亜円礫を用いている。覆土からも黒曜石の剥片と砕片が多く出土した。掘方の覆土から掻器(I3)が出土した。石材は赤色頁岩である。原礫面が残る大型の縦長剥片を素材とし、剥片の先端部に刃部を作出している。



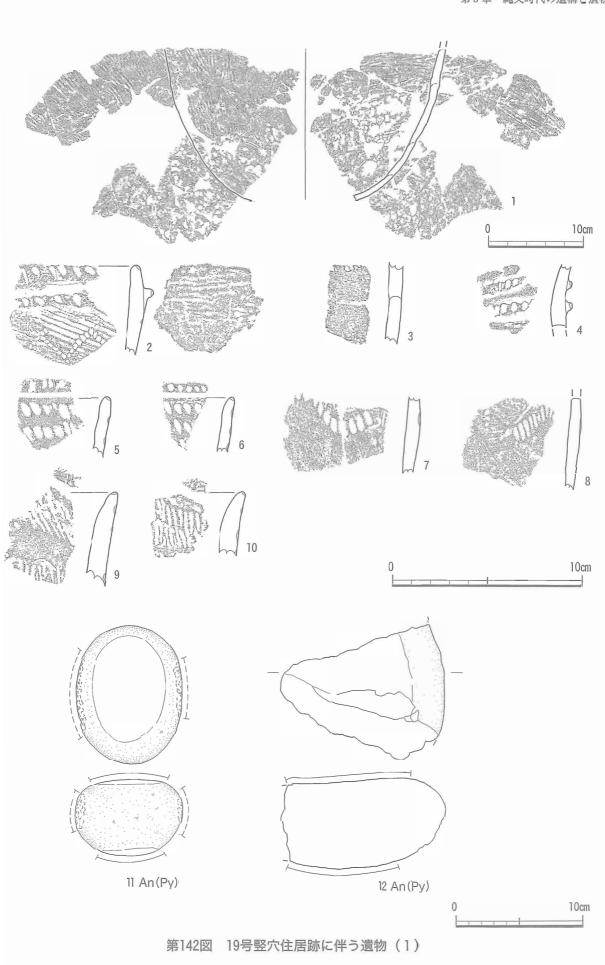
第139図 18号竪穴住居跡の検出状況(上)と遺物分布(下)および出土石器



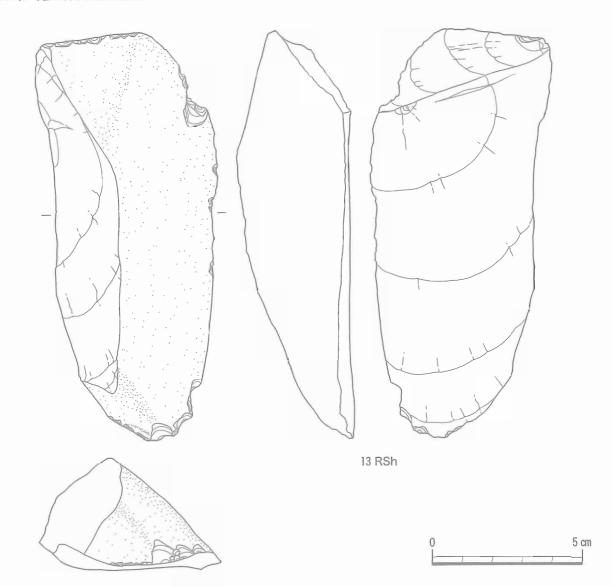
第140図 19号竪穴住居跡の検出状況



第141図 19号竪穴住居跡の遺物分布(左)と接合状況(右)



—157 —



第143図 19号竪穴住居跡に伴う遺物(2)

表37 竪穴住居跡属性

() 内は推定値

	位置	平面形	主軸方位	長径(m)	短径(m)	床面積(m)	土器数	剥片石器数	礫石器数	備考
2号	K4/5, L5	楕円形	不明	(4.30)	(3.32)	10.8	391	376	29	
3号	J5/6, K5/6	(円形)	不明	3.01	(2.82)	(5.7)	41	54	1	
4号	18	(円形)	不明	3.28	(3. 20)	(7.1)	0	0	0	
6号	K6	(円形)	不明	(2.93)	(2.74)	(5.9)	27	11	4	
8号	J5	円形	N15° E	2.31	1.99	3.1	14	32	5	
10号	J6	円形	不明	3.62	3.40	8.8	36	29	1	
12号	Ј6	円形	N17° W	2. 93	2.34	5.6	3	13	4	
14号	I/J-5	(円形)	不明	(4. 25)	(3.86)	(10.5)	238	173	20	
15号	I4	楕円形	不明	2.70	2. 13	4.2	6	14	6	
18号	K6	(円形)	不明	(2.17)	不明	-	0	1	I	床現存2.1㎡
19号	J5	楕円形	不明	2.84	2.11	4.2	51	61	2	

表38 竪穴住居跡出土土器属性

2号竪穴住居跡

()は推定値

		八江北	110/1								ノは推定値
挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
99	1	覆土	野島	口縁部破片			10YR2/1	黒	白色粒子多	平縁。口唇部丸い。胴部縦方向の並行する細沈線 文施文後、斜方向の太沈線を施文。	
99	2	覆土	野島	胴部破片			7. 5YR4/4	褐	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片少	総方向の並行する細沈線文施文後、斜方向の太沈 線を施文。	
99	3	覆土	打越	口縹部破片			10YR4/3	にぶい黄褐	白色粒子・白 色岩片少	波状口縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部 列点状の貝殻腹縁で連続山形文施文。	3/4同一個 体
99	4	覆土	打越	口縁部1/4 残	口径 (23.0)	(6.9)	10YR4/3	にぶい黄褐	白色粒子・白 色岩片少 黒 色粒子多	波頂部推定4方。波頂部に隆帯貼付。口唇部角頭 状。口唇部の面と隆帯に貝殻で刻み。胴部条痕文 を磨り消してから列点状の貝殻腹縁で連続山形文 2段施文。	3/4同一個体
99	5	包含層	打越	口縁部破片			5YR4/6	赤褐	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片・石英 少	被頂部推定4方。口唇部角頭状。胴上部に隆帯1条貼付して文様帯形成。波頂部口唇部から胴部隆帯にかけて垂下する陸帯貼付。口唇部の面と隆帯にへラで刻み。文様帯に格子状の条痕文。隆帯以下は格子状の条痕文と列点状の貝殻腹縁で格子目文施文。内面樹方向の条痕文。	5-7同一個体
99	6	床面	打越	口縁部破片			5YR4/6	赤褐	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片・石英 少	波状口縁。口唇部角頭状。胴上部に隆帯1条貼付 して文様帯形成。波頂部口唇部から胴部隆帯にか けて垂下する隆帯貼付。口唇部の面と隆帯にヘラ で刻み。文様帯に格子状の条痕文。内面横方向の 条痕文。	5-7同一個
99	7	覆土.	打越	口縁部1/3、 胴部1/5残	口径 (26.9)	(15.3)	5YR4/6	赤褐	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片・石英 少	波頂部推定4方。口唇部角頭状。胴部上位に隆帯 1条貼付して文様帯形成。波頂部口唇部から胴部 隆帯にかけて垂下する隆帯貼付。口唇部の面と隆 帯にへうで刻み。文様帯に格子状の条痕文。隆帯 以下は格子状の条痕文と列点状の貝瘦腹縁で格子 目文施文。内面横方向の条痕文。	5-7同一個
99	8	覆土.	打越	口縁部1/2、 胸部2/5残	口径 (19.0)	(15. 6)	5YR4/6	赤褐	白色岩片・赤 色岩片・輝石	平縁。口唇部角頭状。外面端部に口唇部と一体化する隆帯貼付。胴部上位に隆帯1条貼付して文様帯形成。推定4方に口唇部ら胴部暗帯にかけて下塞下する隆帯で突起作出。突起間の文整帯にヘラで刻み。文様帯は列点状の貝殻腹縁で細波文を1区画あたり2個胞文。隆帯以下は格子状の条痕文と列点状の貝殻腹縁で格子目文施文。内面横方向の条痕文。	
99	9	覆土	打越	口緑部破片			7.5YR3/4	暗得	白色粒子多 白色岩片・石 英少	波状口縁。口唇部角頭状。胴部格子状の条痕文。 口唇部直下に隆帯を渦巻状に貼付。隆帯に貝殻で 刻み。	
99	10	覆土	打越	口縁部破片			7.5YR5/6	明褐	白色粒子・石 英多 白色粒 子少	波状口縁?口唇部角頭状。胴部格子状の条痕文。 口唇部直下に隆帯を渦巻状に貼付。隆帯にヘラで 刻み。	
99	11	覆土	打越	口縁部破片			5YR5/4	にぶい橙 (内面)	白色粒子・黒 色粒子 白色 岩片少	平縁。口唇部丸い。口唇部直下縦方向の条痕文。 胴部列点状の貝殻腹縁による施文あり。	
99	12	覆土	打越	口緑部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・白 色岩片・黒色 粒子・石英少	平縁。口唇部丸い。口唇部直下原体を引く貝殻腹 縁で順沈線文、胴部山形文施文。	
99	13	覆土	打越	口綠部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・黒 色粒子やや多 白色岩片少	平縁。口唇部丸い。口唇部直下縦方向の条痕文。 胴部原体を引く貝殻腹縁で山形文施文。	
99	14	覆土	打越	口綠部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子·石 英少	平縁。口唇部丸い?口唇部外面端部に断面三角形 の低い隆帯貼付。隆帯に格子状の条痕。	
100	15	覆土	打越	胴部破片	最大径 (20.5)	(8.9)	7.5YR4/4	褐	白色岩片・石 英・輝石	外面上部格子状の条痕。その下に列点状の貝殻腹 縁で連続山形文3段施文。内面横方向条痕。	
100	16	覆土	打越	胴部破片			7.5YR6/6	橙	黑色粒子多 石英少	列点状の貝殻腹縁で山形文2段施文。	
100	17	覆土	打越	胴部破片			7. 5YR5/4	にぶい得	白色粒子・黒 色岩片少	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	17/18同一 個体
100	18	覆土	打越	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・白 色岩片少	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	17/18同一 個体
100	19	覆土	打越	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子少 黑色粒子	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	19-22同一 個体
100	20	包含層	打越	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・白	貝殻腹縁で山形文 2 段の間に細波文施文。ともに 原体を引く。	19-22同一 個体
100	21	覆土	打越	胴部破片			5YR4/6	赤褐	白色粒子・白 色岩片・黒色 粒子少	貝殻腹線で山形文 2 段の間に細波文施文。ともに原体を引く。	19-22同一個体
100	22	包含層	打越	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・白 色岩片・黒色 粒子少	原体を引く貝殻腹線で山形文2段施文。	19-22同一個体
100	23	覆土	打越	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子多 輝石少	原体を引く貝殻腹縁による施文あり。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
100	24	床面	打越	胴部破片			5YR4/8	赤褐	白色粒子・石 英多 白色岩 片・輝石少	外面右下斜方向の条痕文の上に同方向の敷頂部の 条痕文を重ねる。内面横方向の条痕文。	
100	25	床面	早期末胴部	胴部破片			7.5YR6/6	橙	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片・黒色 岩片少	縦方向の条痕文。	25/26同一 個体
100	26	床面	早期末胴部	胴部破片			7.5YR6/6	橙	黒色粒子多 白色粒子・白 色岩片・黒色 岩片少	縦方向の条痕文。	25/26同一 個体
101	27	覆土.	早期末胴部	胴部1/5残	最大径 (25.0)	(15.9)	2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白色岩片・黒 色粒子・石英 少	外面左下斜方向の条痕文を磨り消してから胴上部 に右下斜方向の条痕文施文。内面横方向の条痕 文。	
101	28	覆土	早期末胴部	胴部破片			2. 5YR5/8	明赤褐	白色粒子多 石英少	外面左下斜方向の条痕文を磨り消す。内面横方向 の条痕文。	
101	29	覆土	入海 I	胴部破片			7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子・黒 色粒子多 繊維・白色岩 片・石英少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯にヘラで刻み。	29-31同一 個体
101	30	覆土	入海 I	胴部破片			7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子・黒 色粒子多 繊 維・白色岩 片・石英少	隆帯を水平に貼付。隆帯にヘラで刻み。	29-31同一 個体
101	31	覆土	入海 I	胴部破片			7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子・黒 色粒子多 織 維・白色岩 片・石英少	隆帯 3 条を水平に貼付。 3 条目は部分隆帯。隆帯 にヘラで刻み。	29-31同一 個体
101	32	覆土	入海I模倣	口縁部1/5 残			7.5YR3/3	暗褐	白色粒子・黒 色粒子・石英 多	波状口縁。口唇部角頭状。面にヘラで刻み。波頂 部は指頭で押捺して平坦面を作る。胴部上位隆帯 3条を口縁形状に沿って貼付。隆帯にヘラで刻 み。	
101	33	覆土	入海 I	口縁部破片			2.5YR4/2	暗灰黄	白色粒子・石 英多 白色岩 片少	平縁?口唇部角頭状。胴部隆帯貼付。隆帯にヘラで刻み。内面横方向の条痕文。	
102	34	覆土	入海Ⅱ	口縁部破片			7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子・黒 色粒子多 織 維・白色岩 片・石英少	平縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面胴上部 隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯にヘラで刻み。	
102	35	包含層	入海Ⅱ	口縁部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	繊維・白色粒 子・石英	平縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面胴上部 低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に貝殻で密接し た刻み。	35-38同一 個体
102	36	包含層	入海 II	口縁部破片			2.5Y6/3	にぶい黄	繊維・白色粒 子・石英	平縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面胴上部 低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に貝殻で密接し た刻み。	35-38同一 個体
102	37	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	繊維・白色粒 子・石英	低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に貝殻で密接し た刻み。	35-38同一 個体
102	38	包含層	入海Ⅱ	胴部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	繊維・白色粒 子・石英	低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に貝殻で密接し た刻み。	35-38同一 個体
102	39	覆土	石山模倣	口緣部破片			5YR5/6	明赤褐(内 面)	白色粒子・黒 色粒子 石英 少	平線。口唇部丸い。外面口唇部直下へうで縦方向 の連続刻目列、胴部左下斜方向の連続刻目列を水 平に施文。	
102	40	覆土	石山模倣	胴部破片			2. 5YR2/2	極暗赤褐	白色粒子多 白色岩片少	へラで縦方向の密接した連続刻目列を上段は波 状、下段は水平に施文。	
102	41	覆土	石山模倣	胴部破片			5YR3/4	赤褐	白色粒子多	ヘラで縦方向の密接した連続刻目列を水平に施 文。	
102	42	覆土	石山模倣	口縁部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子・黒 色粒子少	波状口縁。波頂部に隆帯貼付。隆帯に貝敷で刻み。口唇部角頭状。面に半截竹管で刻み。胴部半 載竹管で縦方向の連続刻目列を波状に施文。	
102	43	覆土	大神山	胴部破片			2.5YR7/2	灰黄	白色粒子・石 英多 白色岩 片少	貝殻腹縁で波状文1条施文。	
102	44	覆土	東海系胴部	胴部破片			10YR5/8	にぶい黄褐	繊維 石英多 白色岩片少	縦方向の条痕文を磨り消す。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	學大學	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
109	1	覆土	打越	口縁部破片			7.5YR5/6	明褐	輝石、石英、 白色粒子	平縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に箆で刻 み。外面胴部格子状条痕文。	
109	2	覆土	打越	口緑部破片			7.5YR4/3	褐	輝石、白色粒 子、礫	平緑。口唇部角頭状。外面口唇端部突出し、箆で刻み。口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。隆帯に貝敷で刻み。胴部格子状条痕文。	
109	3	覆土	打越	胴部破片			7.5YR4/3	褐	輝石 白色粒 子	格子状条痕文。	2/3同一個 体の可能 性有り

揮図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
109	4	覆土	打越	胴部破片			7.5YR4/3	褐	輝石、白色粒 子、礫	半載竹管による横位の沈線文の下に左下斜位条痕 文施文。	
109	5	覆土	打越	胴下部1/3 残存	最大径 (23.2)	(9.0)	7.5YR5/4	にぶい福	黒色粒子・礫 少量	外面総位条痕文を磨り消す。内面機位条痕文。	
109	6	包含層	入海Ⅱ	口縹部破片			10YR6/3	にぶい黄橙	纖維痕 石英、 白色粒子多量 赤色岩片、黑 色粒子、金雲 母少量	の刻目列。胴上部隆帯3条を水平に貼付。隆帯に	6-11は同 一の可能 性有り
109	7	床面	入海Ⅱ	口縁部破片			10YR6/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英、 白色粒子やや 多量 赤色・ 黒色粒子	平線。口唇部丸い。外内面口唇部直下に右下斜位 の刻目列。胴上部隆帯3条を水平に貼付。隆帯に 篦で右下斜位の刻み。	6-11は同 一の可能 性有り
109	8	包含層	入海Ⅱ	口縁部付近破片			10YR7/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英、 白色粒子多量 赤色・黒色粒 子	隆蒂 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻 み。	6-11は同 一の可能 性有り
109	9	包含層	入海II	口縁部付近破片			2.5Y6/2	灰黄	繊維痕 石英、 白色粒子やや 多量 赤色・ 黒色粒子	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	6-11は同 一の可能 性有り
109	10	包含層	入海Ⅱ	口縁部付近破片			10YR6/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英、 白色粒子多量 金雲母、黒 色・赤色粒子 少量		6-11は同 一の可能 性有り
109	11	包含層	入海口	口縁部付近破片			10YR6/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英、 白色粒子やや 多量 黒色粒 子	隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻 み。	6-11は同 一の可能 性有り
109	12	覆土	入海Ⅱ	口縁部付近破片			10YR7/3	にぶい黄橙	繊維 石英、 白色粒子やや 多量 金雲母、 黒色粒子少量	隆帯3条を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻 み。	12-14は同 一の可能 性有り
109	13	覆土	入海II	口縁部付近~胴部破片			10YR6/3	にぶい黄橙	繊維 石英、 白色粒子やや 多量 金雲母、 黒色粒子少量	隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻み。 隆帯下部縦位のナデ。	12-14は同 一の可能 性有り
109	14	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR7/3	にぶい黄橙	繊維 石英、 白色粒子やや 多量 金雲母、 黒色粒子少量	縦位のナデ。	12-14は同 一の可能 性有り
110	15	覆土	石山	口縁部破片			10YR5/4	にぶい黄褐	繊維痕 白色 粒子、石英、 金雲母	平縁。口唇部丸い。外面篦で縦位の刻目列を横位 に3条施文。	
110	16	覆土	石山模倣	胴部破片			5YR5/6	赤褐	黒色粒子、石 英	節で縦位の密接 した刻目列 3 条を波状に施文。	
110	17	掰士:	石山模倣	胴部破片			10YR5/4	にぶい黄褐	石英	箆で縦位の密接した刻目列2条を波状に施文。	
110	18	烈土	早期末底部	底部破片	底径: (1.2)	(1.1)	5YR6/6	橙	石英、赤色・ 白色粒子	尖底。接地面に平坦邹を持つ。外面ナデ。底部中 央に凹み。	
110	19	宋面	早期末胴部	胴部下部破 片			7.5YR6/6	橙	石英やや多量 黒色・赤色粒 子少量	外面ナデ。内面磨滅。	
110	20	覆土	早期末胴部	胴部1/6残 存	口径 (25, 6)	(9.9)	7.5YR6/6	橙	黑色粒子多量 白色粒子、石 英少量	横位の擦痕をり。	
110	21	包含層	不明早期末	口豪部破片			7.5YR6/6	橙	黑色粒子、石 英多量	口唇部丸い。外面胴上部箆で縦位の平行沈線文施 文。	
110	22	包含層	不明早期末	胴部破:片			7.5YR6/6	橙	繊維痕 石英 やや多量 輝 石、赤色粒子	胴上部箆で縦位の平行沈線文施文。	22/23同一 の可能性: 有り
110	23	覆土	不明早期末	胴部破片			7.5YR6/6	橙:	繊維痕 石英 やや多量 輝 石、赤色粒子	胴上部篦で縦位の平行沈線文施文。	22/23同一 の可能性: 有り
110	24	覆土	不明早期末	胴部破片			7.5YR6/6	橙	黑色粒子少量 石英多量	胴上部篦で縦位の平行沈線文施文。	

₩ 番号	掲載 番号	層位	型烒等	残存状況	去量 [cm)	現存高i (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
114	1	覆土	打越	口縁部1/4 残存	口径 (24, 2)	(10.0)	2.5YR4/6	赤褐		平縁。口唇部角頭状。面に横位条痕文。外面口唇: 部直下縦位条痕文。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
114	2	包含層	入海Ⅱ模倣				7. 5YR4/4	褐		殿い波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面 胴上部低い陸帯2条を水平に貼付。2条目は部分 陸帯。整帯に篦で密接した刻み。内面横位条痕文 を磨り消す。	
114	3	包含層	入海Ⅱ模倣				7.5YR4/4	得		外面胴上部低い隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で密 接した刻み。内面横位条痕文を磨り消す。	
114	4	覆土	入海Ⅱ模倣	口緑部~胴 部1/5残存	口径 (28.0)	(20. 1)	7.5YR4/4	褐		級い波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴上 部低い隆帯2条を水平に貼付。2条目は部分隆 帯。隆帯に篦で密接した刻み。内面横位条痕文を 磨り消す。	

8号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
116	1	覆土	縄文	胴下部破片	最大径 (15.0)	(4.2)	7. 5YR5/4	にぶい褐	石英、白色岩 片	RLの縄文を縦方向に施文。	
116	2	覆土	打越	口縁部破片			7. 5YR4/4	褐	輝石、石英、 白色粒子	平縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に箆で刻 み。外面胴部格子状条痕文。	
116	3	覆土	打越	口縁部~胴 下部1/3残 存	口径 (11.5) 胴部最 大径 (14.1)	(18.7)	7.5YR5/6	明褐	白色粒子、碟少量	平線? 口唇部角頭状。口唇部を囲み、外面胴上部まで右下斜位に垂下する隆帯を貼付けて突起を作出。胴上部不規則な格子状条痕文。 内面線位または右下斜位条痕文。	

10号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
120	1	覆土	入海 複倣	口緣一部残存 胴部約1/3残存	口径 (24.0) 胴部最 大径 (25.6)	(16.6)	10YR5/3	にぶい黄褐	輝石多量 石 英、白色粒子、 赤色岩片	平線。口唇部角頭状。面に篦で刻み。外面胴上部 隆帯3条を水平に貼付。脂帯に篦で刻み。刻みの 向きは1条目は左下斜位、3条目は右下斜位、2 条目は斜位で、推定8分側で左右を変える。胴下 部横位の擦痕あり。	1-6同一の 可能性有 り
120	2	包含層	入海 I 模倣	口縁部破片			10YR5/4	にぶい黄褐	脚石、石英多 :量 白色粒子	平縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。外面胴上部 隆帯 3 条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。刻みの 向きは1 条目は左下斜位、3 条目は右下斜位、2 条目は斜位で、推定8 分側で左右を変える。胴下 部横位の擦痕あり。	1-6同一の 可能性有 り
120	3	包含層	入海I模倣	口縁部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	輝石、石英多 量 白色粒子	平緑。口唇部角頭状。面に箆で刻み。外面胴上部 隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で左下斜位の刻み。	1-6同一の 可能性有 り
120	4	包含層	入海I模倣	口縁部破片			2.5 Y4/2	暗灰黄	輝石、石英多 量 白色粒子	平緑。口唇部角頭状。面に篦で刻み。外面胴上部 隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。刻みの 向きは1条目は左下斜位、2条目は斜位で、推定 8分割で左右を変える。	1-6同一の 可能性有 り
120	5	包含層	入海 I 模倣	口縁部付近 破片			10YR5/3	にぶい黄褐	輝石、石英多 量 白色岩片	隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。刻みの向きは 1 条目は斜位で、推定 8 分割で左右を変える。 2 条目は右下斜位。	1-6同一の 可能性有 り
120	6	包含層	入海I模倣	口縁部付近 破片			10YFl4/3	にぶい黄褐	卸石、石英多 量 白色粒子	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	1-6同一の 可能性有 り
120	7	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR7/4	にぶい黄橙	白色粒子 織 :維痕有り	低い隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で密接した刻 み。	
120	8	床下	石山模倣	口縁部破片			7.5YR5/6	赤褐	石英、白色粒 子	平縁?口唇部角頭状。面に篦で刻み。外面胴部篦 で右下斜位の刻目列2条を水平に施文。	
120	9	覆土	東海系底部	底部破片	底径 (2.6)	(2.2)	10Y'R6/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英	尖底。接地面に平坦部を持つ。外内面とも磨滅。	
120	10	覆土	諸磯b	口縁部~胴 上:部1/4残 存	口径 (14.2) 頸部径 (12.6)	(5.5)	7.5YR5/4	にぶい湯	」即石、金雲母、 石英、白色岩 片		内面全体 に横った が が が が が が が が り り り り り り り り り り り

12号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎士	器形・文様施文の特徴	備考
123	1	覆土	東海系胴部	胴部1/3残 存	最大程 (26.4)	(21.2)	2.5Y6/3	にぶい黄	繊維痕 石英 やや多量 白 色粒子	尖底の胴下部。器面全体ナデ。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
127	1	覆土	打越	口線部破片			7.5Y]R4/3	褐		口·唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面胴部列点状の貝殻腹縁による山形文施文。	
1.27	2	覆土	打越	口線部破片			5YR5/6	明赤襷		平縁。口唇部角頭状。横位条痕文施文。外面口唇 端部に箆で刻み。胴部格子状条痕文施文後、列点 状の貝殻腹縁による山形文施文。内面横位条痕 文。	可能性有

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
127	3	包含層	打越	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色粒子 礫 輝石	外面格子状条痕文。内面橫位条痕文。	2/3同一の 可能性有 り
127	4	包含層	打越	口縁~胴部一部破片	口径 (29. 2)	(18.6)	5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子 石 英少量	平縁、口唇部丸い。外面口唇端部に断面四角形の 隆帯貼付。口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の 突起を作出。口唇部の角と隆帯の面に箆で刻み。 外面右下斜位条痕文を磨り消してから、胴上部に 格子状条痕文施文。内面横位条痕文。上部は条痕 文を磨り消す。	4/5同一の 可能性有 り
127	5	覆土	打越	胴部破片	最大径 (32.4)	(11.5)	5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子 石 英少量	外面右下斜位条痕文を磨り消す。内面横位条痕 文。	4/5同一の 可能性有 り
128	6	包含層	打越	口縁部~嗣 部1/6残存	口径 (20.3)	(7.6)	2.5YR4/6	赤褐	白色・赤色粒 子多量	平縁。口唇部内彎し、角頭状。外面口唇端部に断面四角形の隆帯貼付。口唇部と隆帯の面に箆で刻み。推定4方に口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。胴部箆で連続山形文2段施文。	6/7同一の 可能性有 り
128	7	覆土	打越	口縁部~胴部破片	口径 (20.3)	(7.8)	2.5YR4/6	赤褐	白色粒子多量 白色岩片少量	平縁。口唇部内彎し、角頭状。外面口唇端部に断面四角形の隆帯貼付。口唇部と隆帯の面に箆で刻み。推定4方に口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。胴部箆で連続山形文2段施文。	6/7同一の 可能性有 り
128	8	覆土	打越	口縁部~胴 上部1/5残 存	口径 (21.5)	(10.4)	5YR4/4	にぶい赤褐	白色岩片、黒 色・白色粒子 多量 碟(白 色)少量有り	平縹?口唇部丸い。部分的に内面から粘土をつま み出して低い突起を作る。外面胴部右下斜位の擦 痕あり。内面口唇部直下は強いナデ。胴部横位条 痕文を磨り消す。	
128	9	覆土	早期末胴部	胴部1/5残 存	最大径 (25.0)	(11.5)	7.5YR5/4	にぶい褐	白色岩片 黑 色粒子 石英	外面縦位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を 重ね、磨り消す。内面縦位条痕文を磨り消す。	
128	10	覆土	打越	胴部破片			7. 5YR4/3	褐	白色岩片 輝 石 石英	太列点状の貝殻腹縁による連続山形文2段施文。	
129	11	床下	入海 I	口縁部〜胴 部上位まで 残存	口径 (25.1)	(9. 25)	7.5YR4/3	得	白色粒子、石 英多量 白色 岩片 繊維有 り	緩い波状口縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。外面 順上部隆帯4条を波状に貼付。4条目は部分隆 帯。隆帯に箆で刻み。内面横位条痕文を磨り消 す。	11/12同一 個体
129	12	床下	入海 I	口縁部~胴 部1/5程残 存	口径 (25.1)	(14.5)	7. 5YR4/3	褐	白色粒子、石 英多量 白色 岩片 繊維有 り	緩い波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面 胴上部隆帯3条を波状に貼付。隆帯に篦で刻み。 胴下部右下斜位の擦痕あり。内面横位条痕文を磨 り消す。	11/12同一 個体
129	13	覆土	入海I模倣	口縁部破片			7.5YR4/4	褐	石英 白色粒 子	ロ唇部丸い。角に篦で右下斜位の刻み。外面胴部 隆帯を1条目は水平、2条目は波状に貼付。隆帯 に篦で右下斜位の刻み。	
129	14	覆土	入海I模倣	胴部破片			5YR5/6	明赤褐	白色岩片 輝 石 石英 礫	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
129	15	製土	入海I模做	胴部破片			7.5YR5/4	にぶい褐	石英 白色粒 子	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
129	16	床面	入海II	口縁部~胴部約1/8残存	口径 (24.5)	(16.5)	10YR5/4	にぶい黄褐	白色岩片多量 白色・黒色粒 子、石英多量 繊維	平縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に箆で刻み。外面口唇部面下箆で1条目は縦位、2条目は左下斜位の密接した刻目列を水平に施文。刻目列の下に低い鼈帶を4条貼付。1~3条目は水平、4条目は推定12ヶ所の波頂部を持ち、一部途切れる。隆帯に箆で縦位の密接した刻み。胸下部右下斜位の擦痕あり。内面横位の擦痕あり。	16-19同一 の可能性 有り
129	17	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR5/4	にぶい黄褐	白色岩片多量 白色・黒色粒 子、石英多量 繊維	外面右下斜位の擦痕あり。内面横位擦痕あり。	l6-19同一 の可能性 有り
129	18	包含層	入海Ⅱ	胴部破片			10YR5/4	にぶい黄褐	白色岩片多量 白色・黒色粒 子、石英多量 繊維	外面低い隆帯を波状に貼付。一部途切れる。隆帯 に篦で縁位の密接した刻み。 胴下部右下斜位の擦 痕あり。内面横位の擦痕あり。	16-19同一 の可能性 有り
129	19	覆土	入海Ⅱ	胴部1/3残 存			10YR5/4	にぶい黄褐	白色岩片多量 白色・黒色粒 子、石英多量 繊維	外面低い陸帯を波状に貼付。一部途切れる。隆帯 に箆で縦位の密接した刻み。胴下部右下斜位の擦 痕あり。内面横位の擦痕あり。	16-19同一 の可能性 有り
130	20	覆土	入海Ⅱ	口禄部破片			10YR6/4	にぶい黄橙	纖維痕 石英 白色粒子 金 雲母	波状口縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に篦で 刻み。外面口唇部直下篦で縦位の密接した刻目列 を1条目は口端に沿って、2条目は水平に施文。 刻目列の下に低い陸帯2条を水平に貼付。 節帯に 篦で縦位の密接した刻み。内面横位の擦痕あり。	20/21同一 の可能性 有り
130	21	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR6/4	にぶい黄橙	繊維痕 石英 白色粒子 金 雲母	外面胴上部低い隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に篦 で縦位の密接した刻み。隆帯の下は篦で 1 条目は 縦位、2 条目は右下斜位の密接した刻目列を水平 に施文。刷下部右下斜位の擦痕あり。内面横位の 擦痕あり。	20/21と同 一の可能 性有り
130	22	覆土	入海Ⅱ	胴部破片			10YR6/3	にぶい黄橙	繊維痕 石英 白色粒子	外面低い隆帯貼付。隆帯に貝殻で刻み。内面横位 の擦痕あり。	

第5章 縄文時代の遺構と遺物

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
130	23 (右)	包含層	入海Ⅱ	口緑部一部残存	口径 (18.4)	(7.0)	10YR6/4	にぶい黄橙	繊維痕 石英 白色粒子やや 多量 礫	緩い波状口縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。 外面口唇部直下篦で右下斜位の刻目列を水平に施 文。刻目列の下に低い隆帯を1・2条目は波状 に、3・4条目は水平に貼付。1・2条目の隆帯 は貝殻で、3・4条目の隆帯は箆で刻み。内面横 位条痕文を磨り消す。	23(左) (右)/24と 同一の可 能性有り
130	23 (左)	包含層	入海Ⅱ	口縁部1/8 残存	口径 (18.5)	(5.7)	10YR6/4	にぶい黄橙	繊維痕 白色 粒子、石英や や多量	緩い波状口縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。 外面口唇部直下篦で右下斜位の刻目列を水平に施 文。刻目列の下に低い醛帶を1・2条目は波状 に、3・4条目は水平に貼付。1・2条目の醛帯 は貝殻で、3・4条目の醛帯は箆で刻み。内面横 位条痕文を磨り消す。	23(左) (右)/24と 同一の可 能性有り
130	24	覆土	入海Ⅱ	胴部1/8残 存	最大径 (19.2)	(9.6)	10YR6/4	にぶい黄橙	繊維痕 石英 白色岩片やや 多量	外面左下斜位条痕文を磨り消す。内面横位条痕文 を磨り消す。	23(左) (右)/24と 同一の可 能性有り
130	25	覆土	入海Ⅱ模倣	口縁部~胴部一部残存	口径 (33.1)	(10.4)	7.5YR5/6	明褐	輝石、白色岩 片やや多量	平縁。口唇部丸い。角に篦で右下斜位の刻み。外面胴部低い鼈帯4条を水平に貼付。鼈帯に篦で 1・3条目は右下斜位、2・4条目は左下斜位の 密接した刻み。	
131	26	包含層	石山模倣	口縁部破片			7.5YR6/4	にぶい種	石英 輝石 白色・赤色粒 子	口縁部形状不明。口唇部丸い。外面胴部箆で右下 斜位の刻目列3条を波状に施文。	26-28同一 の可能性 有り
131	27	包含層	石山模倣	胴部破片			10YR6/4	にぶい黄橙	石英 輝石 白色粒子 赤 色岩片	篦で右下斜位の刻目列を1条目は水平に、2条目は波状に施文。	26-28同一 の可能性 有り
131	28	覆土	石山模倣	胴部破片			10YR6/4	にぶい黄橙	石英 輝石 白色粒子 赤 色岩片	篦で右下斜位の刻目列を1・2条目は水平に、3 条目は波状に施文。	26-28同一 の可能性 有り
131	29	覆土	石山模倣	口縁部破片			7.5YR4/2	灰褐	石英 白色粒 子	波状口縁。口唇部角頭状。波頂部のみ面に刻み 1ヶ所。外面口唇部直下篦で右下斜位の刻目列を 口縁に沿って施文。胴部篦で刻目列を水平に施 文。	
131	30	包含層	石山模倣	胴部破片			5YR4/6	赤褐	白色粒子 黒 色粒子	箆で短い縦位の刻目列2条を水平に施文。	
131	31	包含層	石山模倣	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	石英 輝石 白色粒子 礫	箆で右下斜位の刻目列を波状に施文。	
131	32	覆土	下吉井	口縁部破片			10YR4/2	灰黄褐	脚石 石英 白色・赤色粒 子 礫	ロ唇部丸い?外面胴部半載竹管で沈線5条を波状 に施文。	

15号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
136	1	覆土	打越	胴部1/5残 存	最大径 (18.6)	(8.5)	5YR4/8	赤褐	白色粒子多量 白色岩片少量	外面胴上部列点状の貝殻腹縁で連続山形文2 設施 文。胴下部縦位条痕文を磨り消す。内面横位条痕 文を磨り消す。	
136	2	覆土	石山模倣	口縁部2/5、 胴部1/3残 存	口径 (20.6)	(23.0)	7.5YR4/4	褐		魚尾形の波頂部推定4方。口唇部角頭状。面に箆で刻み。外面胴上部箆で縦位の密接した刻目列を 1・2条目は口縁に沿って、3条目は船歯状に施 文。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
142	1	床面	打越	胴部~底部 1/3残存	最大径 (29.6)	(16. 1)	5YR5/6	明赤褐	白色粒子、白 色岩片多量 赤色粒子少量 石英、輝石少 量	外面縦位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を 重ね、磨り消す。内面横位条痕文。	
142	2	覆土	打越	口縁部破片			5YR5/6	明赤褐	白色岩片 石 英、黒色粒子 輝石		
142	3	覆土	打越	胴部破片			7.5YR4/4	徇	赤色岩片 白 色粒子	列点状の貝殻腹縁で細波文?施文。	
142	4	覆土.	入海 I 模倣	胴部破片			7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子 石 英 輝石	隆帯2条を波状?に貼付。隆帯に箆で刻み。	
142	5	包含層	石山	口縁部破片			10YR7/4	にぶい黄橙	石英 金雲母 赤色・黒色粒 子 繊維痕		5-8同一の 可能性有 り
142	6	包含層	石山	口縁部破片			10YR7/4	にぶい黄橙	石英 金雲母 赤色・黒色粒 子 繊維痕		5-8同一の 可能性有 り
142	7	包含層	石山	胴部破片			10YR7/3	にぶい黄橙	石英 赤色岩 片 金雲母 黒色粒子 繊 維痕	胴部篦で縦位の刻目列2条を波状に施文。	5-8同一の 可能性有 り

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
142	8	覆土	石山	胴部破片			10YR6/3	にぶい黄橙	石英、白色粒子、金雲母多量 赤色岩片 黑色粒子 織維痕	胴部箆で浅い縦位の刻目列を波状に施文。	5-8同一の 可能性有 り
142	9	床面	石山模倣	口縁部破片			7.5YR4/4	褐	白色岩片 黑 色粒子 輝石		の可能性
142	10	包含層	石山模倣	口縁部破片			7.5YR4/4	褐	白色岩片 黒 色粒子 罐石	波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面口唇 部直下篦で右下斜位の密接した刻目列を口縁に 沿って2条施文。	

表39 竪穴住居跡出土石器属性

2号竪穴住居跡

押図 番号	掲載番号	遺物番号	石 材	推定產地	層位	器種	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
102	45	19682	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	16.5	2.8	5, 1	0.7
102	46	16125	黒曜石	神津島恩馳島	復土	石鏃	14.4	10.7	2.5	0.3
102	47	16411	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	12.0	13.5	3, 6	0.4
102	48	17767	黒曜石	神津島思馳島	覆土	石鏃	10.5	6.7	3, 2	0. 2
102	49	16421	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	19.9	12.8	2.4	0.3
102	50	16012	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	12.5	12.4	4.0	0.5
102	51	12897	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	楔形石器	26.3	9.4	5.9	1.4
102	52	21679	黒曜石	神津島恩馳島	床下	二次加工剥片	21.4	12.6	6.4	1.1
102	53	16145	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石核	18.5	15.3	13.6	3. 2
102	54	16016	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石核	26. 3	26.0	9.8	4.9
103	55	14063	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石核	26. 2	22.3	11.3	5.6
103	56	16774	黒曜石	推定不可	覆土	搬入石材	28.3	19.8	14.2	7.9
103	57	20562	輝石安山岩		床面	敲石	62.0	51.0	34.0	136.3
103	58	20565	輝石安山岩		床面	磨-敲石	118.0	94.0	46.0	788.4
103	59	21530	卸石安山岩		床面	磨-敲石	102.0	73.0	51.0	544.1
103	60	20561	輝石安山岩		床面	磨-敲石	98.0	76.0	43.0	562.3
103	61	21528	即石安山岩		床面	磨-敲石	115.0	95.0	62.0	899.6
103	62	21526	椰石安山岩		床面	磨-敲石	102.0	95.0	53.0	806.3
103	63	21529	流紋岩		床面	磨-敲石	95.0	84.0	44-0	520.0
103	64	20564	邮石安山岩		床面	磨-敵石	81.0	78.0	55. 0	511.9
103	65	21531	岬石安山岩		床面	凹石	90.0	75.0	38. 0	395.3
103	66	21527	多孔質玄武岩		床面	凹石	76.0	67.0	53. 0	225. 0
104	67	16098	輝石安山岩		覆土	磨石	95.0	83.0	54.0	632. 4
104	68	19609	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	80.0	72.0	38 0	361.5
104	69	16787	輝石安山岩		慶土	/磨-敵石	90.0	71.0	53.0	496. 1
104	70	19610	輝石安山岩		覆土	/磨−敲石	101.0	90.0	70.0	953. 4
104	71	16099	輝石安山岩		覆土	磨石	97.0	80.0	65.0	730.8
104	72	12902	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	87.0	77.0	:34 0	318.2
104	73	13966	輝石安山岩		JO	磨-敲石	54.0	41.0	:34 0	93.9
104	74	19612	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	121.0	86.0	.47 0	690.3
104	75	19611	輝石安山岩		覆土	磨石	106.0	90.0	31 0	769.1
104	76	13964	鄉石安山岩		JO	磨石	65 0	45.0	.40 0	162.9
104	77	14067	鄰石安山岩		覆土	磨石	86 0	42.0	37 0	191.0
104	78	12824	輝石安山岩		覆土	石皿	368 0	198.0	68 0	8000.0
104	79	21532	多孔質安山岩		床面	石皿	2270 0	236.0	79.0	6500.0
105	80	20566	多孔質玄武岩		床面	石皿	1168 0	217.0	.87. 0	3000.0
105	81	20603	却石安山岩		床面	台石	1194 0	144.0	1 03. 0	3120.0
105	82	21525	卸石安山岩		床面	石皿	394 0	345.0	1 17. 0	22030.0
106	83	20568	輝石安山岩		床面	石皿	383 0	433.0	1 26, 0	24500.0

3号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定產地	層位	:器 種	長さ(㎜)	類 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
110	25	15948	細粒凝灰岩		覆土	尖頭器	51.7	10.3	6.0	3.5
110	26	20255	輝石安山岩		覆土	石皿	51.0	79.0	55.0	250.0

6号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定産地	層位	器種	長さ(㎜)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
114	5	19449	輝石安山岩		'複土	階-敵石	100.0	92.0	61.0	804.9
114	6	15895	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	53.0	71.0	48.0	247.9
114	7	19 448	玄武岩		覆土.	磨石	6.6.0	61.0	38.0	197.3
114	8	15.894	岩海文		獨土	石皿	107.0	136.0	48.0	790.0

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石材	推定産地	層位	器種	:長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
116	4	20415	輝石安山岩		床面	磨-敲石	96.0	82.0	50.0	586.1
116	5	20303	玄武岩		床面	磨-敲石	131.0	110.0	60.0	1206 2
116	6	20301	輝石安山岩		床面	磨-敲石	108.0	72.0	68.0	684,8
116	7	19239	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	61.0	50.0	26.0	119,6
117	8	20302	輝石安山差		床面	石皿	344.0	359.0	80.0	14500,0

10号竪穴住居跡

挿図	掲載番号	遺物番号	石 材	推定產地	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
121	11	18399	黒曜石	天城柏峠	覆土	石核	25. 5	27.4	13.8	7.3
121	12	21225	玄武岩		床面	石皿	381.0	475.0	121.0	22500.0

12号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定產地	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(m)	重さ(g)
123	2	18604	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	133.0	81.0	50.0	785.3
123	3	18603	岬石安山岩		覆土.	磨-敲石	84.0	72.0	52.0	365. 2
123	4	18601	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	85.0	72.0	45.0	327.2
123	5	18602	輝石安山岩		覆土	敲石	59.0	55.0	43.0	135. 9

14号竪穴住居跡

挿図	掲載	遺物番号	石材	推定產地	層位	器種	長さ(mn)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
番号	番号		3-0 3.5	3000000						
131	33	21343	黒曜石	神津島恩馳島	床下	石鏃	10.0	11. I	3.2	0.2
131	34	19370	黒曜石	神津島思馳島	覆土	石鏃	15.3	12.6	3.8	0.5
131	35	19984	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	17.5	12.7	4.1	0.9
131	36	20972	ガラス質黒色安山岩		床面	削器	34.3	74. 4	9.1	19.7
131	37	19495	黒曜石	神津島恩馳島	覆土	石核	19.5	21.4	11.3	3.6
131	38	19270	黒曜石	推定不可	覆土	搬入石材	35.3	18.9	11.8	6.9
131	39	19972	黒曜石	諏訪星ヶ台	覆土	搬入石材	46.5	26.8	16.8	20.8
132	40	20973	玄武岩		床面	磨-敞石	57.0	55.0	40.0	164.8
132	41	19134	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	66.0	60.0	47.0	256.7
132	42	19434	輝石安山岩		覆土	磨-敵石	91.0	72.0	56.0	473.5
132	43	18276	卸石安山岩		覆土	磨-敲石	124. 0	83.0	61.0	932.7
132	44	20156	輝石安山岩		覆土	磨-敲石	132.0	100.0	45.0	1005.3
132	45	19142	輝石安山岩		覆土	磨石	86.0	88.0	42.0	518.1
.32	46	20560	多孔質安山岩		覆土	磨石	105.0	81.0	56.0	662.3
32	47	20473	玄武岩		覆土	磨石	94.0	76.0	46.0	362.9
.32	48	20474	玄武岩		覆土	磨石	41.0	58.0	49.0	165.4
32	49	19578	多孔質安山岩		覆土	敵石	55.0	55.0	43.0	156.9
132	50	20427	玄武岩		覆土	敲石	58.0	45.0	41.0	117.2
132	51	20155	多孔質安山岩		覆土	敲石	70,0	36.0	31.0	90.8
133	52	21246	玄武岩		覆土:	石皿	102, 0	90.0	53.0	500.0
133	53	21848	輝石安山岩		覆土	石皿	283, 0	280.0	83.0	7000.0
133	54	18877	輝石安山岩		覆土	石皿	244, 0	409.0	141.0	14850.0
134	55	21247	師石安山岩		覆土	石皿	283. 0	280.0	83.0	7000.0

15号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定産地	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(㎜)	重さ(g)
136	3	21512	輝石安山岩		床面	磨-敲石	105.0	92.0	54.0	775.9
136	4	21513	腳石安山岩		床面	磨-敲石	900	71.0	47. 0	471.9
137'	5	20555	頁岩		覆土	THE PART	133 9	92.8	56. 7	538.5
137'	6	21510	玄武岩		床面	石皿	230 0	290.0	91.0	(000.0
138	7	21511	輝石安山岩		床面	石皿	3520	294.0	138, 0	21000.0

18号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石 材	推定産地	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(㎜)	重さ(g)
139	. 1	20463	玄武岩		覆土:	磨-敲石	95. 0	67.0	37.0	316.2

19号竪穴住居跡

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	石材	推定産地	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
142	11	21349	卸石安山岩		床面	磨-敲石i	110.0	82.0	60.0	834. 2
142	12	21043	輝石安山岩		床面	石皿	1)80	130.0	73.0	840.0
143	13	21755	赤色頁岩		床下	掻器	135.3	59.7	36.7	266.5

2 竪穴住居状遺構 (略号:TA)

竪穴住居跡に似た形状及び規模の土坑を竪穴住居状遺構として取り扱った。遺構内から炉や柱穴は検 出されなかった。覆土は仙石スコリアを含む褐色土である。時期はいずれも先述した竪穴住居跡とほぼ 同時期の縄文時代早期末であると推定される。竪穴住居状遺構の計測値等の属性は表40、出土土器は表 41、出土石器は表42をそれぞれ参照いただきたい。

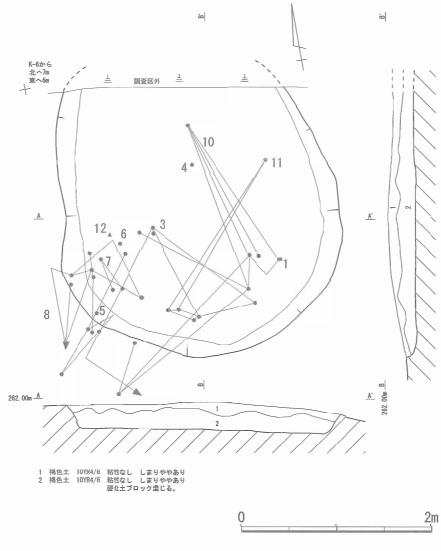
以下では、2-6号の5基の竪穴住居状遺構とそれに伴う遺構及び遺物について報告する。

2号竪穴住居状遺構 (TA02) (第144-147図)

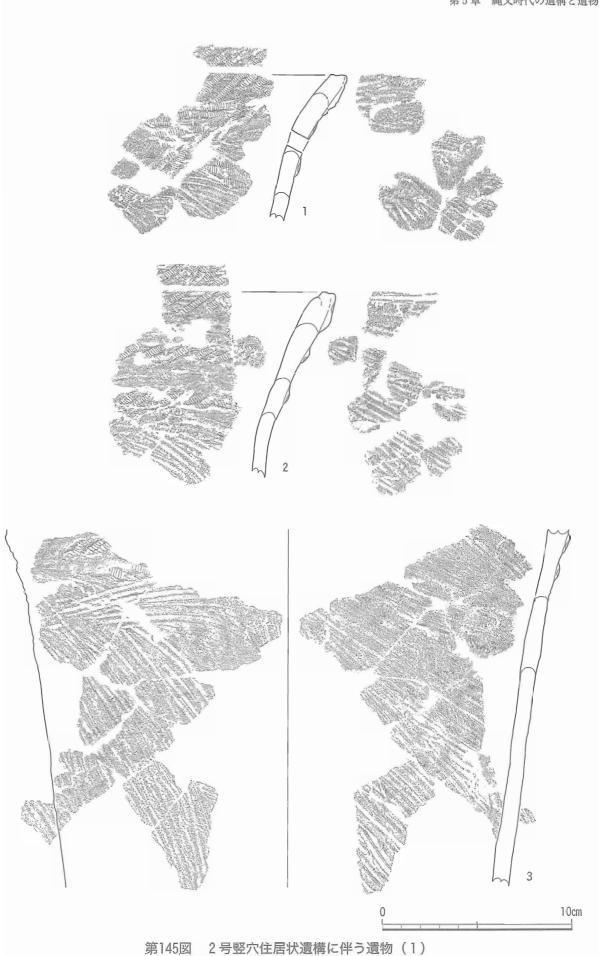
形状:北壁は市道による攪乱で欠損している。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ水平である。北ー南に主軸を持つ楕円形を呈しており、規模は長軸が現存で2.82m、短軸が2.98m。

新旧関係:北側で18号竪穴住居跡 (SB18) に切られている。但し18号竪穴住居跡の床面は2号竪穴住居状遺構 (TA02) の底面に達していない。

土器:すべて覆土から出土した。1-3は同一個体で、I群G類(絡条帯圧痕文を施す土器)である。胎土に繊維を非常に多く含んでいる。外面口唇部直下と胴上部に低い隆帯を貼り付け、絡条帯圧痕文を施



第144図 2号竪穴住居状遺構の検出状況と遺物接合状況





— 170 —



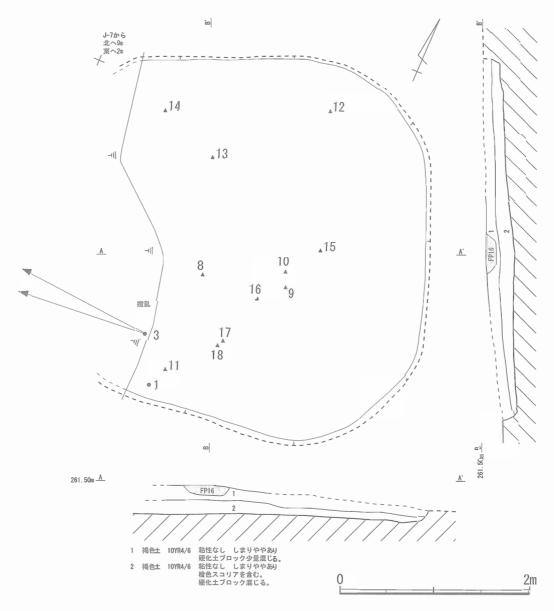
第147図 2号竪穴住居状遺構に伴う遺物(3)

文している。口唇部は角頭状を呈しており、面から隆帯まで続けて原体を押捺して施文している。 4 は I 群 J 類 2 種-2 (入海 I 式模倣)、 5 は I 群 J 類 3 種-1 (入海 I 式) である。 8 と 9 は同一個体で、 I 群 J 類 4 種-1 (石山式) である。 6 と 10 は I 群 J 類 4 種-2 (石山式模倣)、 7 は I 群 J 類 5 種(天神山式)である。

石器:底面で敲石(11)と石皿(12)が出土した。11は小型の円礫を用いた敲石である。12の石皿は厚い板状の礫を用い、片面のみ平坦面全体を使用面としている。

3 号竪穴住居状遺構 (TA03) (第148-150図)

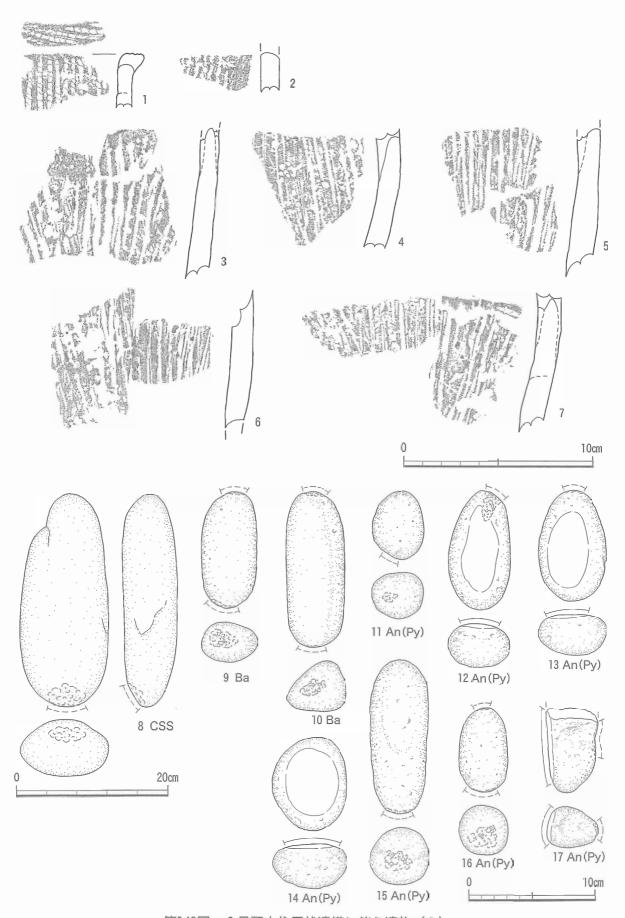
形状: 西壁は攪乱により欠損している。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ水平である。隅丸方形を呈していると推定される。規模は長軸が推定で4.54m。



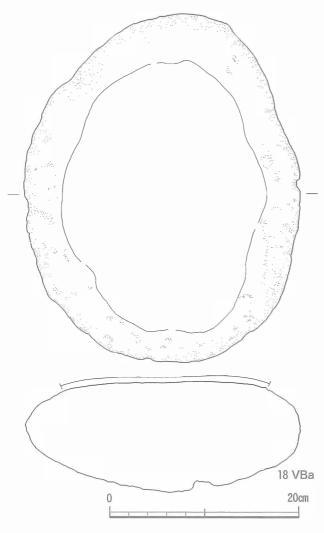
第148図 3 号竪穴住居状遺構の検出状況と遺物接合状況

新旧関係:覆土上面で焼土(SP16)が検出された。但し掘りこみは本竪穴住居状遺構の底面に達しない。 上器:図示した土器はすべて覆土から出土した。ほとんどが他の遺構より古い型式ではあるが、底面では I 群 H 類 3 種(条痕文系土器)の土器の小片も出土した。1 と 2 は撚糸文系土器で、 I は I 群 A 類 - I、 2 は I 群 A 類 3. 2 である。 I は口縁が外反し、口唇部の外面端部が肥厚している。3-7は同一個体で、縦位に条痕文を施した I 群 D 類(野島式に先行すると思われる条痕文系土器)の胴下部である。

石器: 磨-敲石(9、10)が底面で出土した他はすべて覆土から出土した。8は敲石である。小型品で、下部に打撃痕が見られる。9-17は磨石、敲石、ないし磨-敲石である。9・10・15・16は円柱状の礫を用い、上下端部に敲痕を持つ。この形態の敲石の出土量が他の遺構に比して多い。11は小型の円礫を用いた敲石である。12-14は扁平な円礫を用いている。17は三角柱状の礫を用い、一方の面に磨面、対角の



第149図 3号竪穴住居状遺構に伴う遺物(1)



第150図 3号竪穴住居状遺構に伴う遺物(2)

稜に敲打痕が見られる。18は石皿である。扁平な円礫の中央部を片面のみ使 用面としている。

4号竪穴住居状遺構 (TA04) (第 151-154図)

形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ水平である。北東-南西に主軸を持つ楕円形を呈しており、規模は長軸が4.1m、短軸が3.65m。

新旧関係: この遺構の上位から27号集石(SY27)が検出された。

土器: 2 が底面で出土した他はすべて 覆土から出土した。1-5は I 群 J 類 2 種-2 (入海 I 式模倣) である。3-5は 同一個体である。6 は I 群 J 類 3 種-2 (入海 II 式模倣) である。

石器:石鏃(7)と磨-敲石(9)が 底面で出土した他はすべて覆土から出 土した。7と8は石鏃である。いずれ も欠損しているが、基部の抉りが浅く 緩い弧状のものであると推定される。 9は扁平な円礫を用いた磨-敲石、10 は磨石、11は敲石である。

5号竪穴住居状遺構 (TA05) (第155・156図)

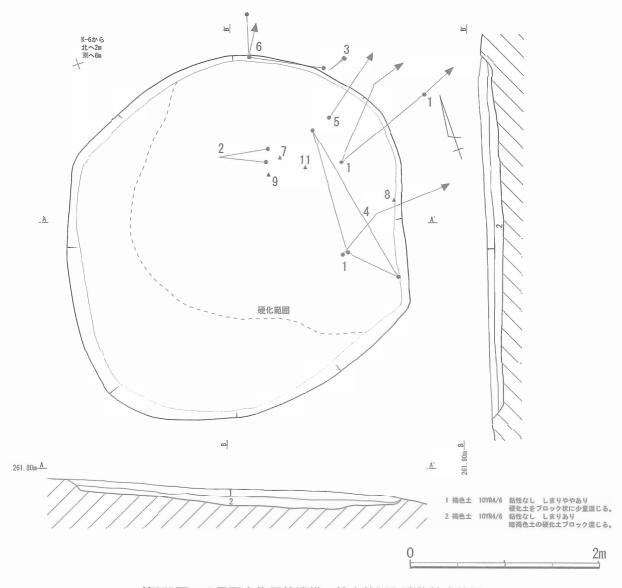
形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ水平である。北東-南西に主軸を持つ楕円形を呈しており、規模は長軸が3.14m、短軸が2.58m。

土器:2が底面で出土した他はすべて覆土から出土した。図示した土器は3号竪穴住居状遺構と同様、他の遺構より古い型式のものであるが、最も多く出土したのは I 群H類 I 種(打越式)の土器の小片である。1は I 群B類-2(格子目文を施す押型文系土器)である。角頭状の口唇部の面にも原体の圧痕が見られる。2-6は同一個体で、 I 群C類-1(撚糸文系土器と押型文系土器に並行すると思われる時期の縄文土器のうち原体の節が大きいもの)である。7は I 群 J 類 6 種(早期末東海系土器)の底部破片である。

石器:磨石(8)が底面で出土した他はすべて覆土から出土した。8-11は磨石、ないし磨-敲石である。いずれも扁平な円礫を用いている。この他、覆土から石皿の小片1点が出土した。

6号竪穴住居状遺構 (TA06) (第157-159図)

形状:ほぼ全存する。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ水平である。北-南に主軸を持つ不整楕円形を呈しており、規模は長軸が4.41m、短軸が3.35m。



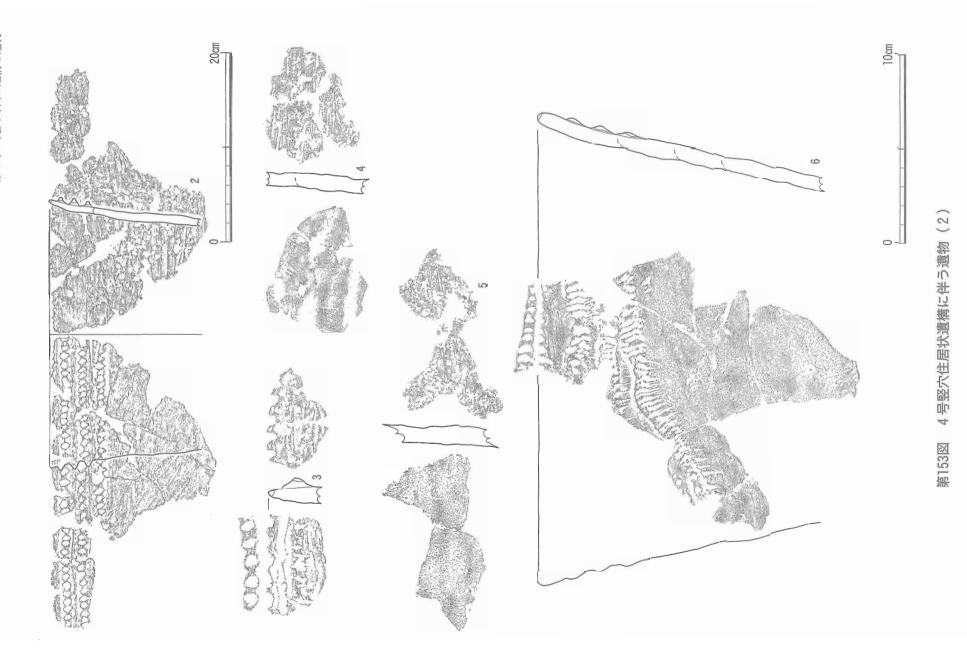
第151図 4号竪穴住居状遺構の検出状況と遺物接合状況

新旧関係: 東壁が19号竪穴住居跡 (SB19) に切られる。

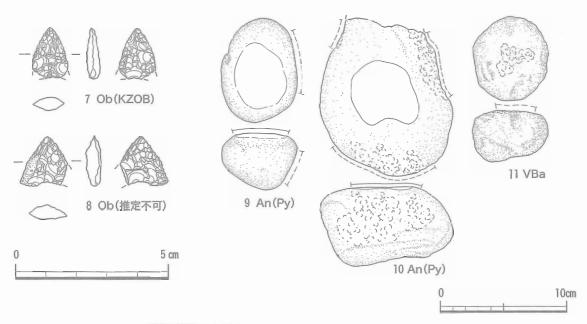
上器:覆土からI群H類3種(野島式よりも後行する条痕文系土器)の小片が少量出土した。

石器:磨-敲石(2)と石皿(4・5・7)が底面で出土した他はすべて覆土から出土した。1は黒曜石の石鏃である。基部は抉りが浅く緩やかな弧状である。2と3は磨-敲石である。いずれも扁平な円礫を用いている。4-8は石皿である。4-6は円礫を用いたもので、4は片面のみ、5と6は両面とも礫の中央部を使用面としている。7は亜円礫の中央部を両面とも使用面とし、使用後に一辺を打ち欠いている。8は板状の礫の片面全体を使用している。

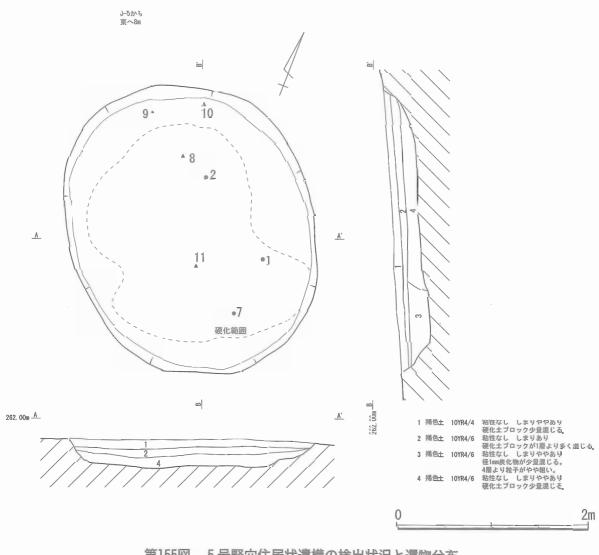




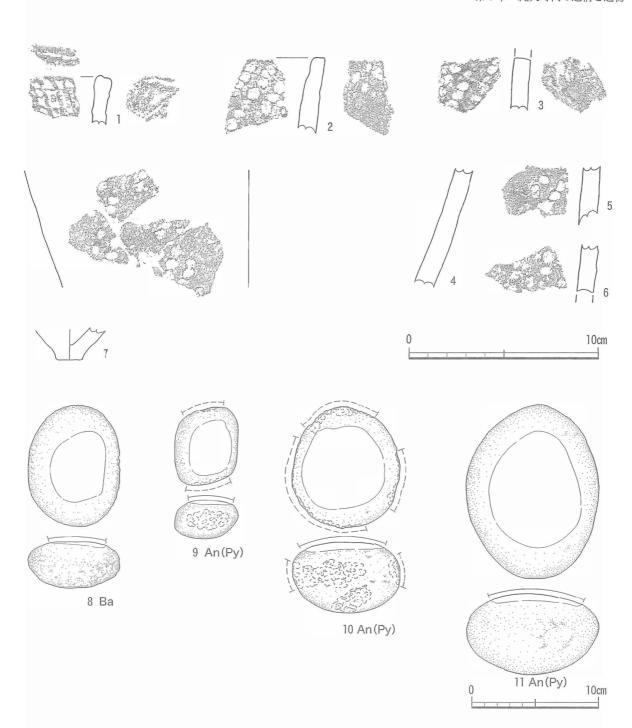
-177 -



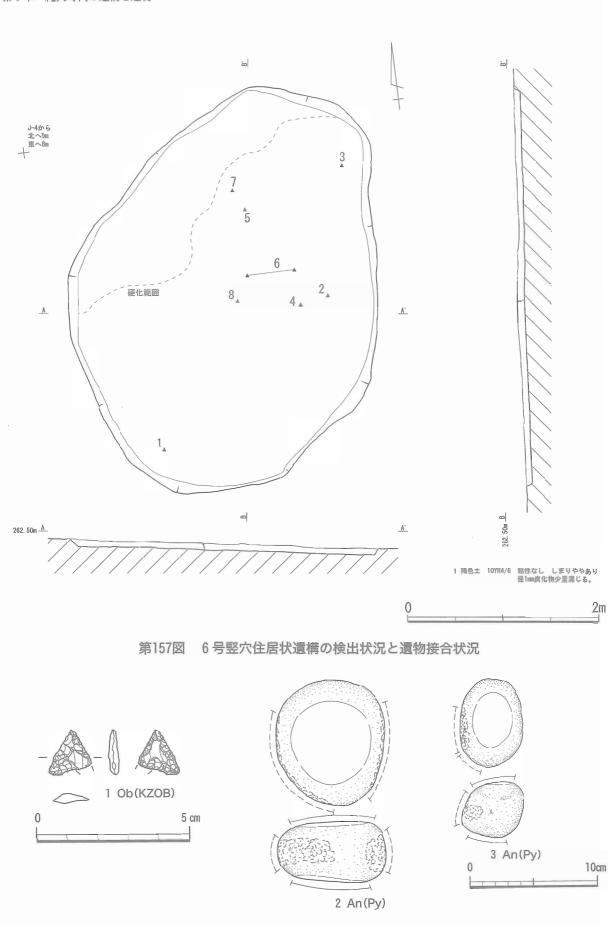
第154図 4号竪穴住居状遺構に伴う遺物 (3)



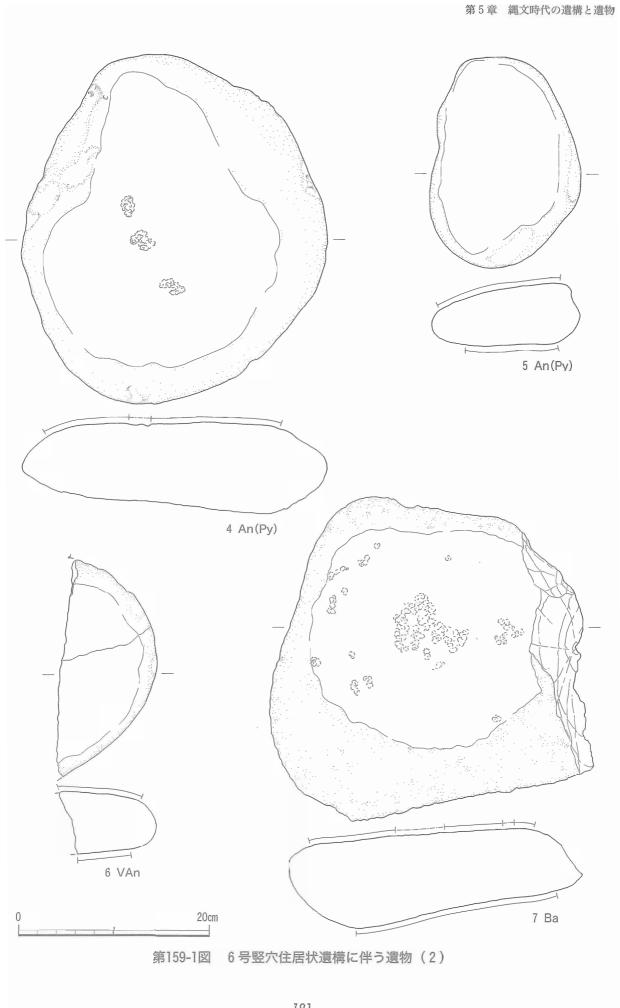
第155図 5号竪穴住居状遺構の検出状況と遺物分布



第156図 5号竪穴住居状遺構に伴う遺物



第158図 6号竪穴住居状遺構に伴う遺物(1)



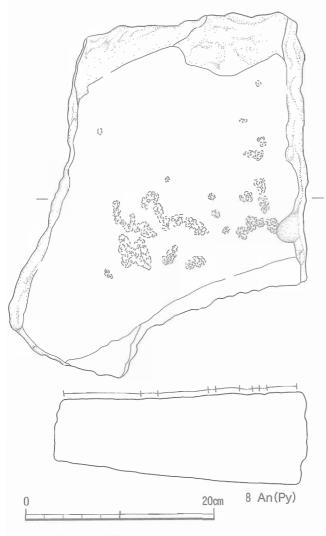


表40 竪穴住居状遺構属性 () 內は推定値

	位置	平面形	長径(m)	短径(m)	土器数	剝片石器數	礫石器数
2号	K6	楕円形	2.82	2.98	64	17	3
3号	J7	隅丸方形?	(4. 54)	不明	6	5	12
4号	J/K6	楕円形	4.10	3.65	18	18	3
5号	15/6	楕円形	3.14	2.58	31	14	5
6号	.14/5	不整楕円形	4.41	3.35	5	10	8

第159-2図 6号竪穴住居状遺構に伴う遺物(3)

表41 竪穴住居状遺構出土土器属性

			artem or transf	II 3 lend men man	PHO 11 - 2 1) teritryr illin
挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色訓	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
145	I	覆土	絡条帯圧痕 文	口縁から胴部			10YR5/4	にぶい黄褐	繊維 石英やや多 白色粒子 輝石少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇部に低い幅広隆帯 貼付。外面全体に横位の条痕文を施文後、胴部上 部に低い陸帯 2条を交差させて貼付。納条帯を口 唇部の面、隆帯は左下斜位、口唇部直下の隆帯の 下は横位に押捺。口唇部の絡条帯圧痕は直下の隆 帯と一体化。内面右下に斜位の条痕文。	-3は同一 個体
145	2	包含層	絡条帯圧痕: 文	口縁から胴部			10YR5/4	にぶい黄褐	繊維 石英やや多 白色粒子 赤色粒子 脚石少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に低い幅広隆 帯を貼付。外面全体に横位の条痕文を施文後、胴 部上部に低い陸帯 2 条を水平に貼付。口唇部の面 と隆帯に左下斜位の絡条帯を押捺。口唇部の絡条 帯圧痕は直下の隆帯と一体化している。内面右下 に斜位の条痕文。	I-3は同一 個体
145	3	覆土	絡条帯圧痕 文	胴部 1/5			10YR4/3	にぶい黄褐	繊維 石英やや多 白色粒子 赤色岩片 脚石少	外面胴部上部に低い隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯 に絡条帯を、1 条目は左下斜位、2 条目は右下斜 位に押锛。隆帯下部は右下斜位条痕文を施文。内 面右下に斜位の条痕文。	1-3は同一 個体

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
146	4	覆土	入海 I 式模 倣	口縁部破片			5YR6/6	橙	石英少 白色粒子 白色岩片多 卸石少	平緑。口唇部が丸い。角に篦で刻み。胴部隆帯を 水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
146	5	覆土	入海Ⅱ式	胴部破片			10YR7/4	にぶい黄褐	石英多 白色粒子	外面に低い隆帯3条を貼付。隆帯に篦で刻み。内 面横位条痕文を磨り消し。	
146	6	覆土	石山式模倣	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	石英少 白色粒子多 赤色粒子	半裁竹管で縦位の刻目列を緩波状に施文。	
146	7	覆土	天神山式	胴部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	石英多 白色粒子	貝殻腹縁で波状文施文。	
146	8	覆土	石山式	胴部破片			10YR6/4	にぶい黄褐	石英多 白色粒子	外面胴部上部に篦で縦位の刻目を水平に施文。胴 部下部右下に斜位の捺痕。内面に櫃位の捺痕。	8/9は同一 個体
146	9	包含層	石山式	胴部1/5			10YR6/4	にぶい黄褐	纖維 石英多 白色粒子 金雲母少	外面胴部上部に篦で縦位の刻目列を水平に施文。 胴部下部右下に斜位の捺痕。内面に横位の捺痕。	8/9は同一 個体
146	10	覆土	石山式模倣	口縁部1/8 胴部1/2	口径 (20, 2)		7. 5YR4/6	褐	白色岩片 赤色岩片 礫	平緑。口唇部が丸い。胴部上部に篦で縦位の密接 した刻目3条を、1・3条目は水平に、2条目は 波状に施文。	

3号竪穴住居状遺構

揮図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
149	1	底面下	撚糸文1	口縹部破片			10YR4/2	灰黄褐	白色粒子多	ロ唇部角頭状。外面口唇端部肥厚。外面にRの撚 糸を横位に施文。外面胴部Rの撚糸を縦位に施 文。	
149	2	底面下	燃糸文3.2	胴部破片			10YR6/2	灰黄褐	白色粒子少 赤色粒子少	Lの撚糸を縦位に施文。	
149	3	覆土	条痕文	胴部破片			5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片	条痕文を縦位に施文。	3-7は同一 個体
149	4	包含層	条痕文	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片	条痕文を縦位に施文。	3-7は同一 個体
149	5	包含層	条痕文	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片	条痕文を縦位に施文。	3-7は同一 個体
149	6	包含層	条痕文	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片	条痕文を縦位に施文。	3-7は同一 個体
149	7	包含層	条痕文	胴部破片			5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片	条痕文を縦位に施文。	3-7は同一 個体

4号竪穴住居状遺構

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
152	I	包含層	入海 I 式模 做	口縁部1/8 胴部1/4	口径 (27.6)	(17.6)	5YR5/6	明赤褐	白色粒子 赤色粒子少 黑色粒子多 白色岩片	緩波状口縁。口唇部が丸い。角に篦で刻み。外面 胴部上部に隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻 み。隆帯下部右下に斜位の捺痕。内面に横位の捺 痕。	
153	2	底面	入海Ⅰ式模倣	口縁部1/5	口径 (28.1)	(16. 1)	7.5YR6/6	橙	白色粒子 黑色粒子多 黑色岩片少	平緑。口唇部が丸い。角に篦で刻み。外面胴部上部に隆帯3条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。隆 帯下部右下に斜位の捺痕あり。内面に横位の捺 痕。	
153	3	包含層	入海 I 式模 倣	口縁部破片			5YR6/6	橙	白色粒子少 黑色粒子多 白色岩片少	平緑。口唇部が丸い。角に篦で刻み。胴部に隆帯 を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	3-5は同一 固体
153	4	底面下	入海 I 式模 倣	胴部破片·			5YR5/6	明赤褐	白色粒子少		3-5は同一 個体
153	5	覆土	入海 I 式模 倣	胴部破片·			5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黑色粒子多 白色岩片少 赤色岩片少	外面に横位のナデ。内面は横位の条痕文を磨り消 す。	3-5は同一 個体
153	6	覆土	入海Ⅱ式模 做	口縁部から 胴部1/5	(24.6)	(15. 1)	5YR5/4	にぶい赤褐	石英多 白色粒子 黑色粒子 白色岩片少	平線。口縁部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部上部 に低い隆帯3条を波状に貼付。隆帯に貝殻で刻 み。	

5号竪穴住居状遺構

挿図 番号	掲載 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎士	器形・文標施文の特徴	偏考
156	1	底面下	押型文2	口縁部破片			7. 5YR4/3	褐	白色粒子 輝石	平縁。口唇部角頭状。外面に横位の沈滯を施文。 外面胴部に格子目押型文を施文。内面左下斜位の 連続沈線文を施文。	
156	2	底面	早期縄文1	口縁部破片			10YR4/2	灰黄褐	白色粒子	平縁。口唇部角頭状。外面胴部にRLの縄文を縦位に施文。内面は口唇部直下にRLの縄文を横位に施文。	2-6は同一 個体
156	3	包含層	早期縄文1	口縁部付近 破片			10YR5/3	にぶい黄褐	白色岩片	外面にRLの縄文を縦位に施文。内面はRLの縄文 を横位に施文。	2-6は同一 個体
156	4	包含層	早期縄文1	胴部破片		(6.2)	10YR5/3	にぶい黄褐	白色岩片 礫	RLの縄文を縦位に施文。	2-6は同一 個体
156	5	包含層	早期繩文1	胴部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	白色粒子	RLの縄文を縦位に施文。	2-6は同一 個体
156	6	包含層	早期縄文1	胴部破片			10YR5/3	にぶい黄褐	白色岩片 碟	RLの縄文を縦位に施文。	2-6は同一 個体
156	7	覆土	早期末東海 系底部	底部1/2		(1.5)	7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子	尖底だが少ない接地面は半坦。内面外面ともに 滅する。	

表42 竪穴住居状遺構出土石器属性

挿図 番号	掲載番号	遺物番号	石 材	推定産地	遺構番号	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重 さ(g)
146	11	16467	多孔質安山岩		2号	覆土	敲石	53.0	46.0	44.0	126.4
147	12	18790	多孔質玄武岩		2号	覆土	石皿	306.0	259.0	161.0	17590.0
149	8	20890	砂岩 (粗粒)		3 号	底面	敲石	70.0	30.0	18.8	53.9
149	9	20888	玄武岩		3 号	底面	敲石	92.0	44.0	32.0	172.4
149	10	20889	玄武岩		3 号	底面	敲石	123.0	46.0	39.0	304.0
149	11	17485	輝石安山岩		3 号	覆土	敲石	54.0	41.0	36.0	100.5
149	12	17479	輝石安山岩		3 号	覆土	磨石	94.0	49.0	34.0	207.9
149	13	17478	輝石安山岩		3 号	覆土	磨-敲石	87.0	54.0	32.0	197.9
149	14	17477	輝石安山岩		3号	覆土	磨石	73.0	58.0	36.0	208.7
149	15	17:482	輝石安山岩		3号	覆土	敵石	121.0	46.0	45.0	312.2
149	16	17483	輝石安山岩		3号	覆土	敲石	66.0	39.0	39.0	149.1
149	17	20947	輝石安山岩		3号	底面下	磨-敲石	67.0	41.0	32.0	124.5
150	18	20887	多孔質玄武岩		3号	底面	石皿	369.0	292.0	117.0	16500.0
154	7	20136	黒曜石	神津島恩馳島	4 号	底面	石鏃	16.8	11.4	4.1	0.7
154	8	18812	黒曜石	推定不可	4-号	覆土	石鏃	16.3	14.2	4.2	0.9
154	9	20056	輝石安山岩		4-号	底面	磨-敲石	82.0	59.0	45.0	294. 2
154	10	18829	輝石安山岩		4-号	覆土	磨石	127.0	107.0	6.5	976.6
154	11	18849	多孔質安山岩		4-号	覆土	敲石	67.0	59.0	41.0	155. 2
156	8	20140	多孔質安山岩		5-号	底面	磨石	96.0	71.0	36.0	276.3
156	9	18252	輝石安山岩		5 号	覆土	磨-敲石	61.0	49.0	30.0	137.9
156	10	18254	輝石安山岩		5 号	覆土	磨-敲石	96.0	84.0	56.0	631.5
156	11	18255	輝石安山岩		5 号	覆土	磨石	136.0	105.0	63.0	1180.7
158	1	19666	黒曜石	神津島恩馳島	6 号	覆土	石鏃	14.8	13.6	2.9	0.4
158	2	20762	輝石安山岩		6 号	底面	磨-敲石	100.0	85.0	49.0	674.4
158	3	19667	輝石安山岩		6 号	覆土	磨-敲石	70.0	48.0	44.0	214. 9
159-1	4	20763	輝石安山岩		6 号	底面	石皿	369.0	333. 0	97.0	15000.0
159-1	5	21039	輝石安山岩		6 号	底面	石皿	224. 0	160.0	67.0	3000.0
159-1	6	19660	多孔質安山岩		6号	覆土	石皿	227.0	106.0	67.0	420.0
159-1	7	21040	玄武岩		6号	底面	石皿	342.0	340. 0	106.0	15000.0
159-2	8	19664	輝石安山岩		6号	覆土	石皿	387.0	316.0	99. 0	18500.0

3 遺構外出土土器

A類: 撚糸文系土器 (第160-162図)

1-4はA類-2である。赤褐色で、白色岩片を多く含む胎土を有する。節が細かく、条が細い原体を施している。1-3は同一個体である。1は口唇部直下に内面は横方向に、外面は縦方向に施文している。6-11はA類-3.1である。灰黄色の胎土を有する。12と13はA類-3.3である。黄褐色で、白色岩片を多く含む胎土を有する。13は口唇部が内削ぎになる。5、14-16はA類-1から-3のいずれにも該当しない。14は胎土に繊維を少量含む。rの縄を巻いた原体を縦方向に施文している。15は胎土に金雲母を多く含む。条間が密接した原体を斜方向に施文している。16は口唇部が丸く、条間が空いた原体を施文している。17-74は胴部及び底部である。17-27はA類-2である。17-20、24と25は各々同一個体である。27はA類-3.1と同じ胎土を有する。28-42はA類-3.1である。28-31、32と33は各々同一個体である。43-74はA類-3.2である。赤褐色で、白色岩片を多く含む胎土を有する。3.1に比して器壁が厚いものが多い。44と45、52-54、56と57、58-60、62-68、69-71、72と73は各々同一個体である。43、50、52-54、58-60は縦方向の施文を重ねている。網目状の撚糸文を施文する75-83をA類-4とした。胎土はA類-3.1とほぼ同じ灰黄色である。75は口縁部、その他は胴部である。75-78、79-83は各々同一個体である。A類-1から-4を通して、本遺跡から出土した同類の土器は、胎土に繊維を含んだものは少ない。

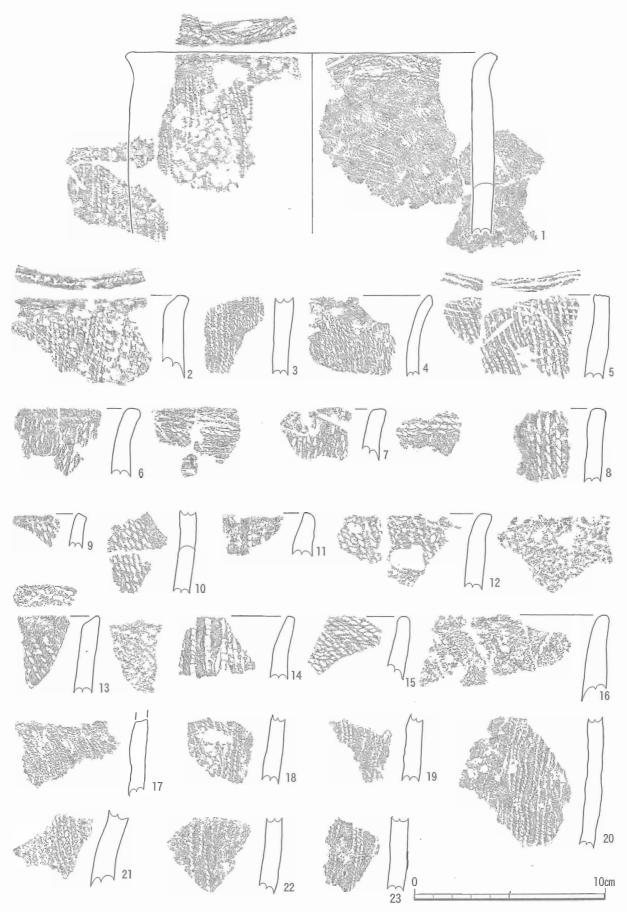
B類:押型文系土器(第163図)

84はB類-1である。山形押型文を縦位に施文している。85-87はB類-2である。格子目押型文を横方向に施文している。いずれも同一個体で、85と86は破片上位に無文域が見られる。88-105はB類-3である。楕円押型文を施文している。88と89は口縁部である。ともに口唇部直下に横方向の帯状施文を施している。89は口唇部の面にも押型文を施文している。90-105は胴部破片である。90と91は横方向に施文している。95は胎土に白色粒子を多く含む。91は横方向の施文の上に斜方向の施文を重ねている。98-101は密接した縦方向の帯状施文を施している。96と97は楕円文の原体の単位がやや丸みを帯びた胴部破片である。97は胎土に金雲母を多く含んでいる。100と101は縦方向の帯状施文を施している。102は斜位の帯状施文を施している。103は楕円文の原体の単位がやや大きな胴部破片である。胎土に金雲母を多く含み、破片上部は横方向、下部は斜方向に帯状施文を施している。104と105は押型文をナデ消している。106-109はB類-4である。変形押型文を施文している。

撚糸文土器と同様、本遺跡から出土した同類の土器は、胎土に繊維を含んだものは少ない。

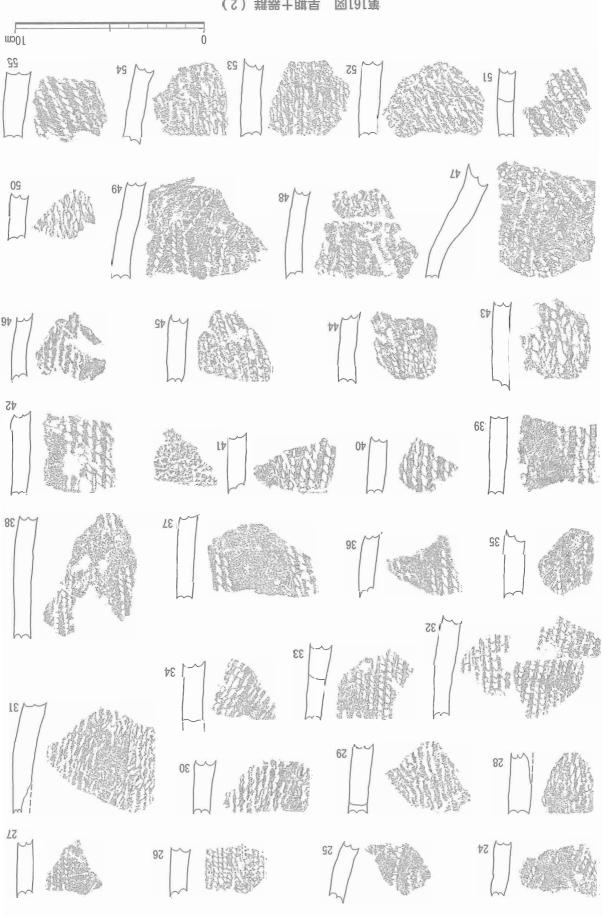
C類:縄文土器(第164·165図)

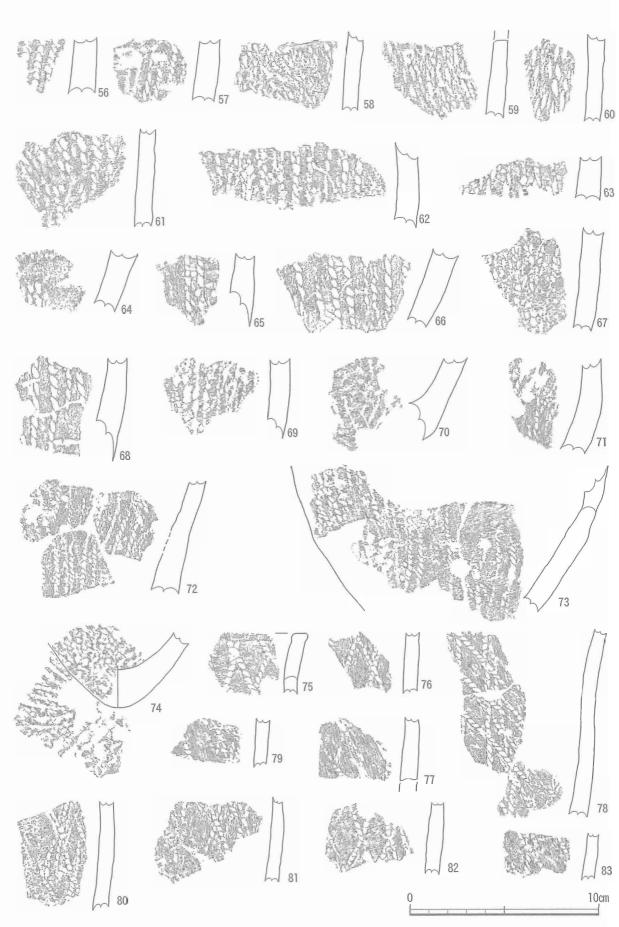
110-113は口縁部及びこれと同一個体の胴部破片である。110-113と116はC類-1、114と115はC類-2である。いずれも外面は縦方向、内面口唇部直下は横方向の縄文を施文している。110-115はA類-3.1と同じ灰黄色の胎土を有し、口縁部は直立気味に外傾する。116はA類-3.2と同じ赤褐色の胎土を有する。口縁部が外反し、口唇部は面に刻みを施している。117-137は胴部及び底部である。117-129はC類-1であり、器壁が厚い。117-126はA類-3.1と同じ灰黄色、127-129は黄褐色の胎土を有する。117はLRLの縄文を施文している。119-122、123と124は各々同一個体である。130-137はC類-2である。このうち133、134、136はA類-3.1と同じ灰黄色、これ以外は褐色または赤褐色の胎土を有する。135は内面に条痕文が残る。



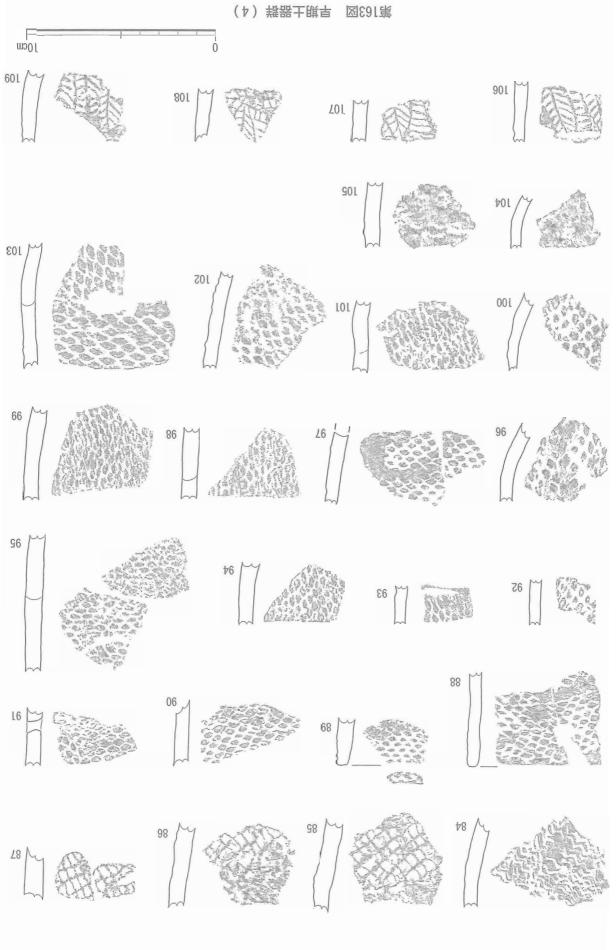
第160図 早期土器群 (1)

(2) 辯器土旗早 図191第



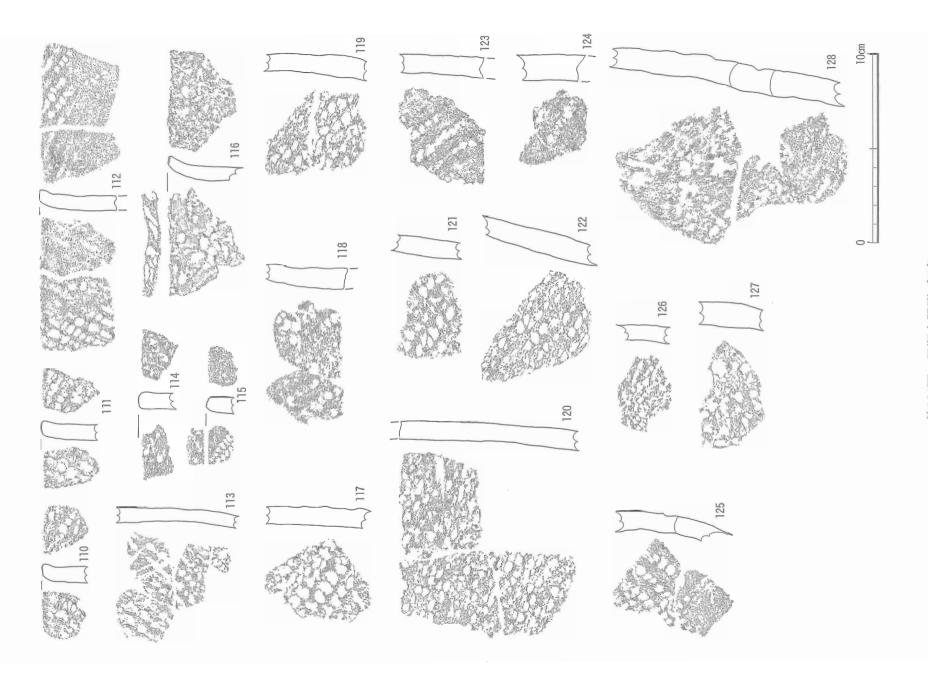


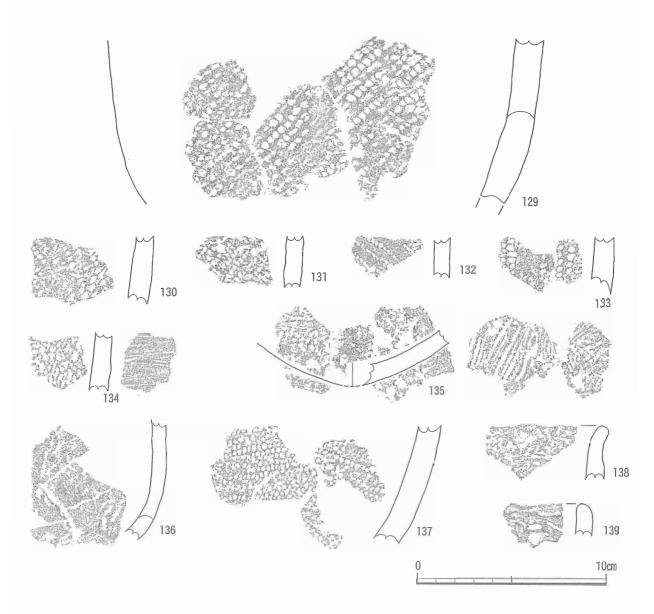
第162図 早期土器群(3)



— 68 L

第164図 早期土器群(5)





第165図 早期土器群(6)

E類:無文土器 (第165図138-139)

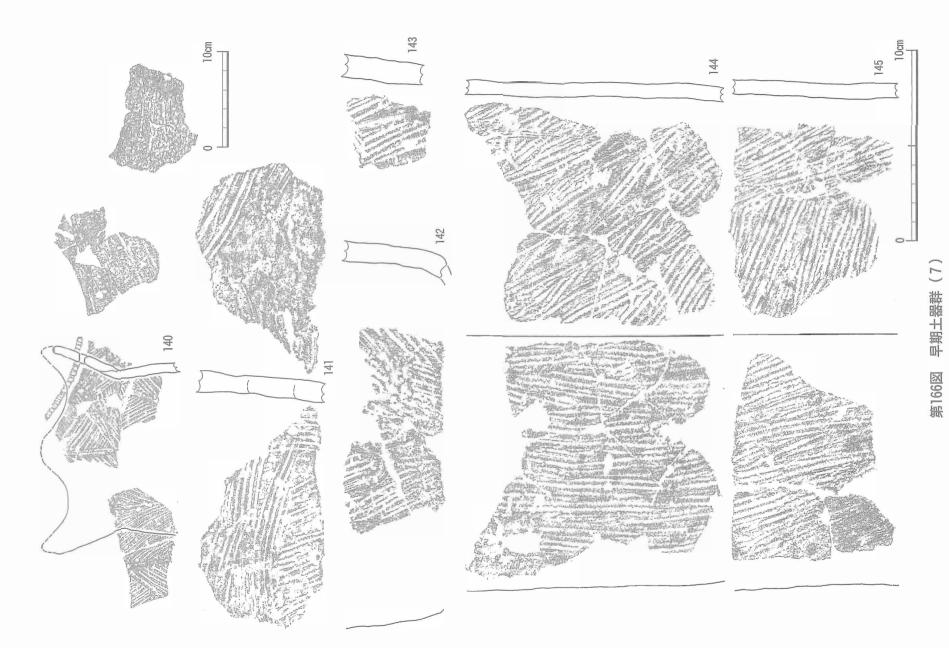
138と139の2点が該当する。ともに口縁部で、138は外反し、139は外傾する。

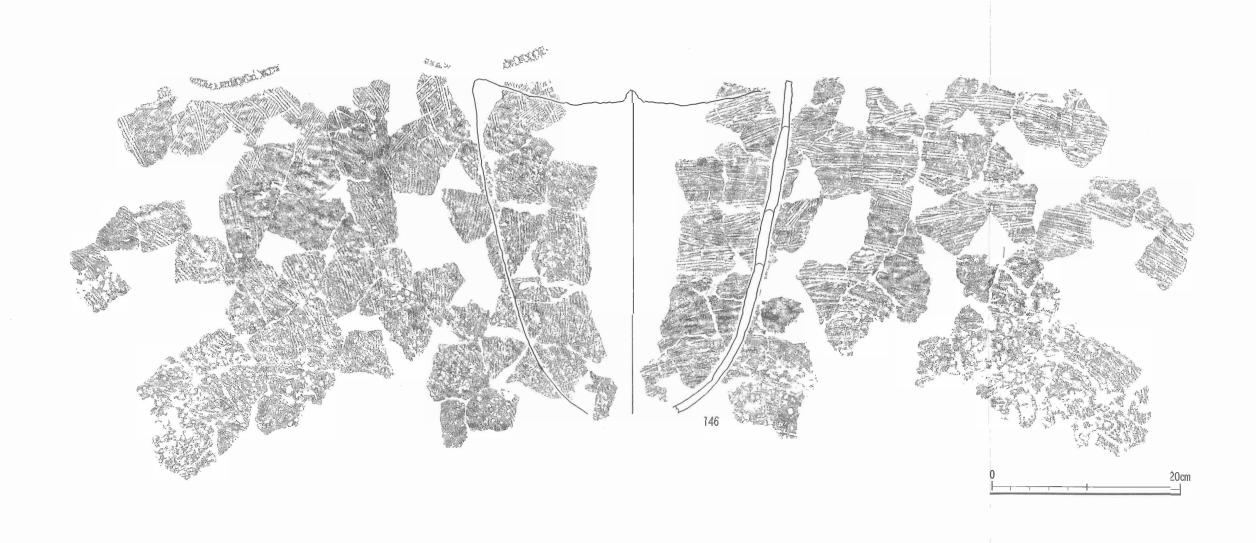
F類:野島式土器 (第166図140-143)

140は波状口縁を有する。胴上部に段を有し、口縁部にかけて外に開く。段の上部と下部で施文が分割される。上部、下部とも太めの丸棒状工具を用いた浅い縦位の沈線を1条引いて区画を作り、平行する細めの条線を異斜方向に組み合わせた鋸歯状のモチーフで区画を埋める。区画の数は上位4方、下位8方と推定される。141は、破片の上部は横位、下部は縦位に、内面は上部のみ横位の条痕文を施している。142と143は同一個体で、140と似た形態を呈するものと考えられる胴上部の段付近の破片である。

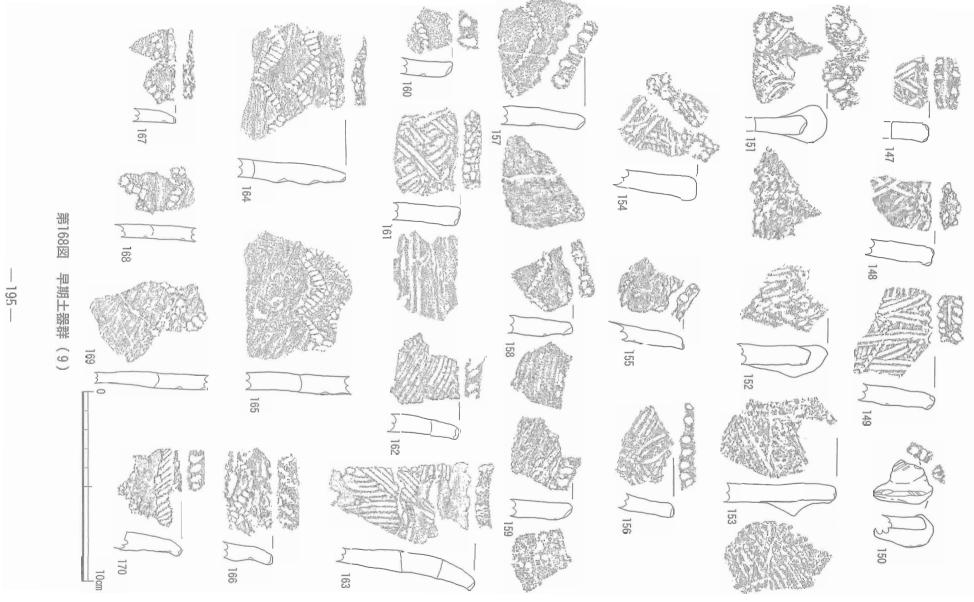
G類: 絡条帯圧痕文を施した土器 (第166図144・145)

図示した2点は同一個体の胴部破片であるが、胎土に白色粒子と繊維を非常に多く含むことから、

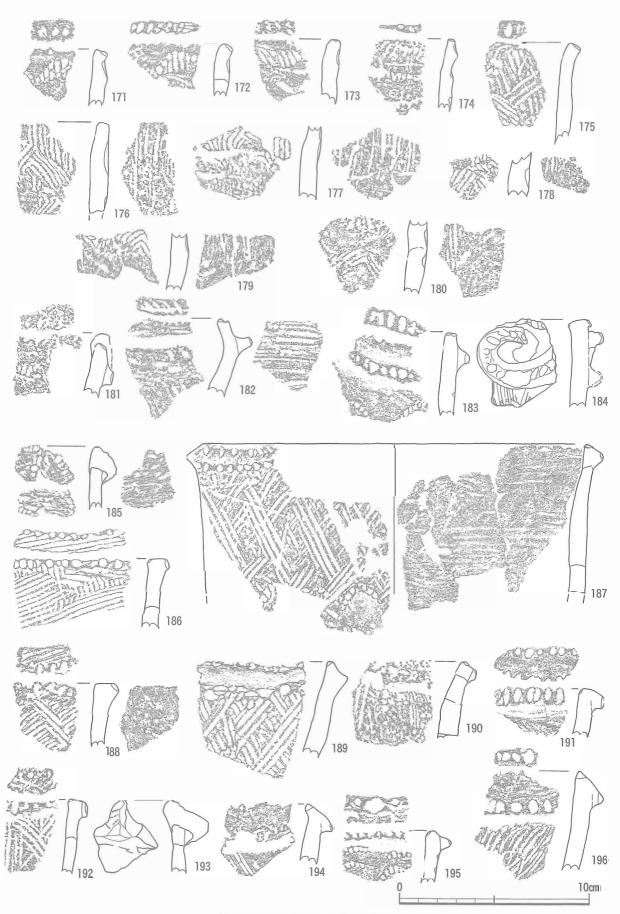




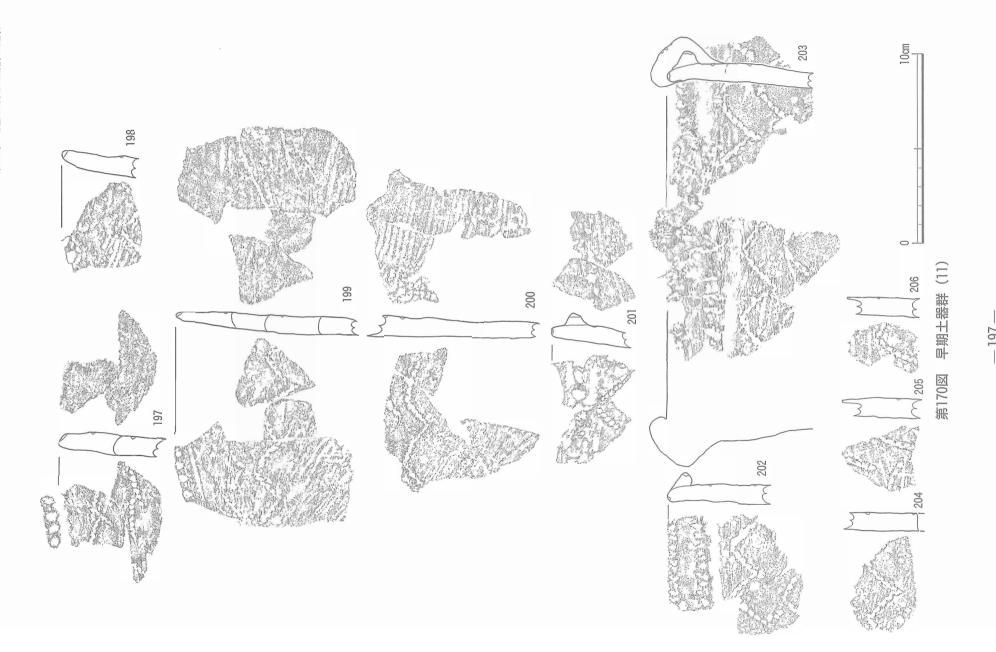
第167図 早期土器群(8)

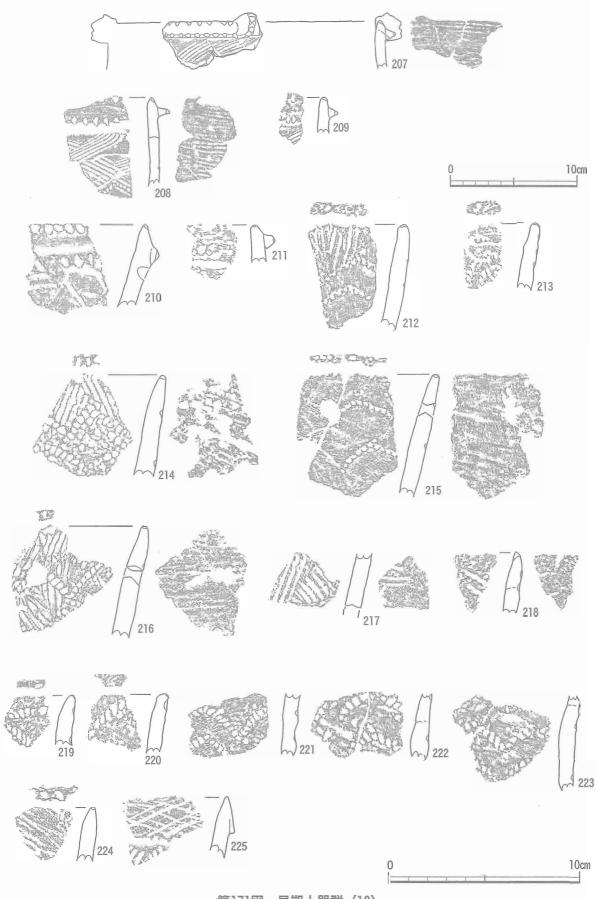


第5章 縄文時代の遺構と遺物

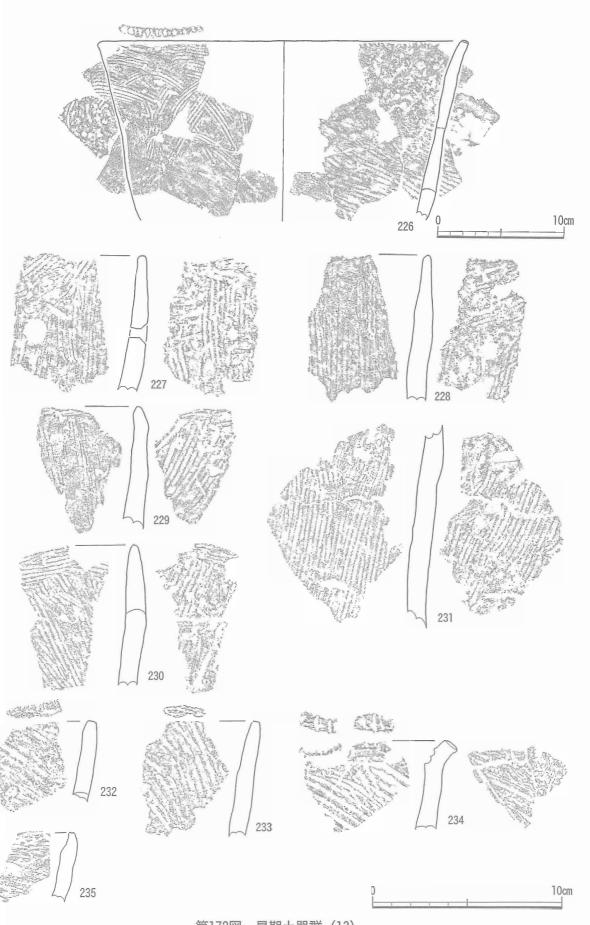


第169図 早期土器群 (10)



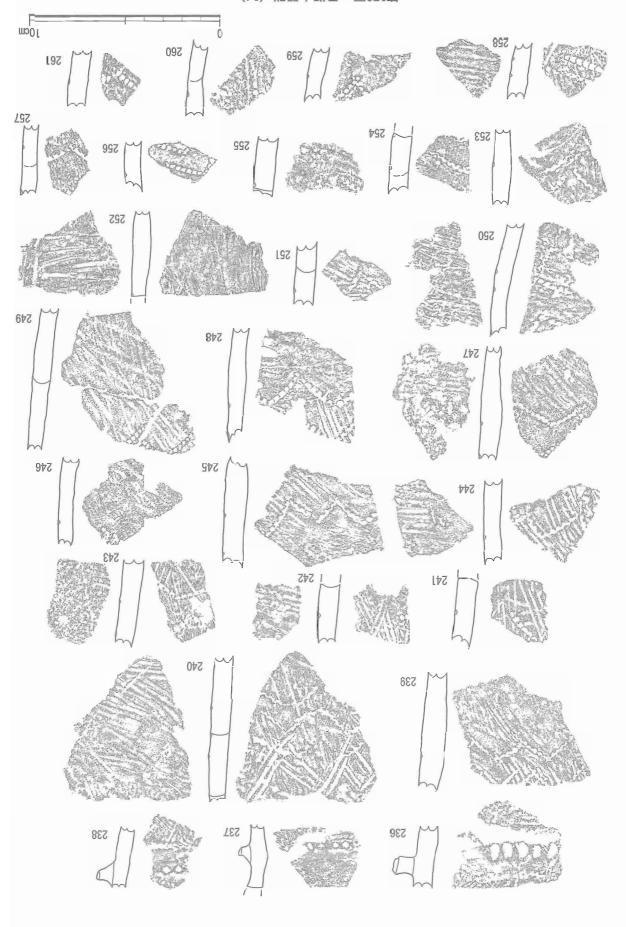


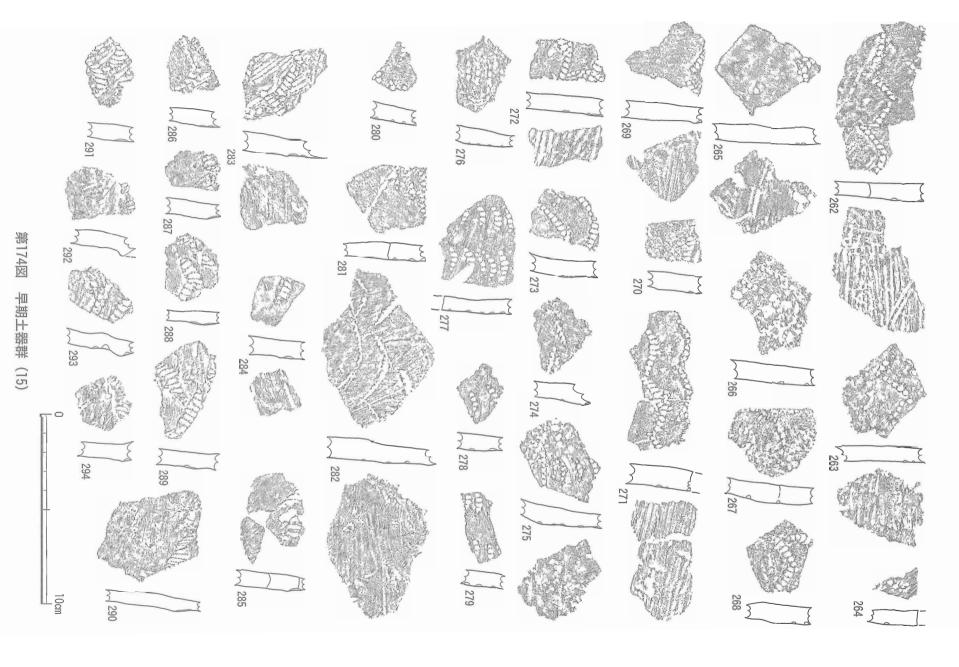
第171図 早期土器群 (12)



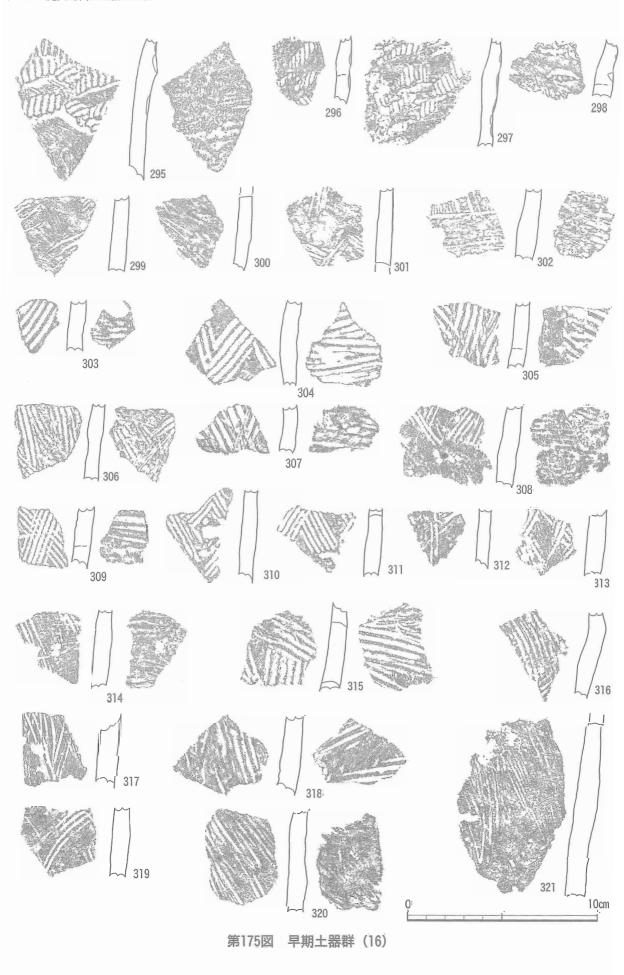
第172図 早期土器群 (13)

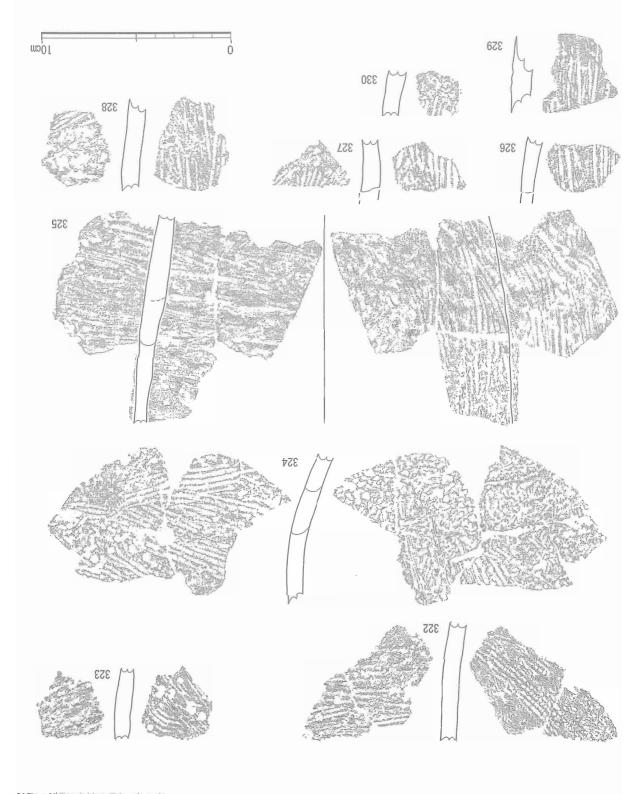
第173図 早期土器群(14)





第5章 縄文時代の遺構と遺物

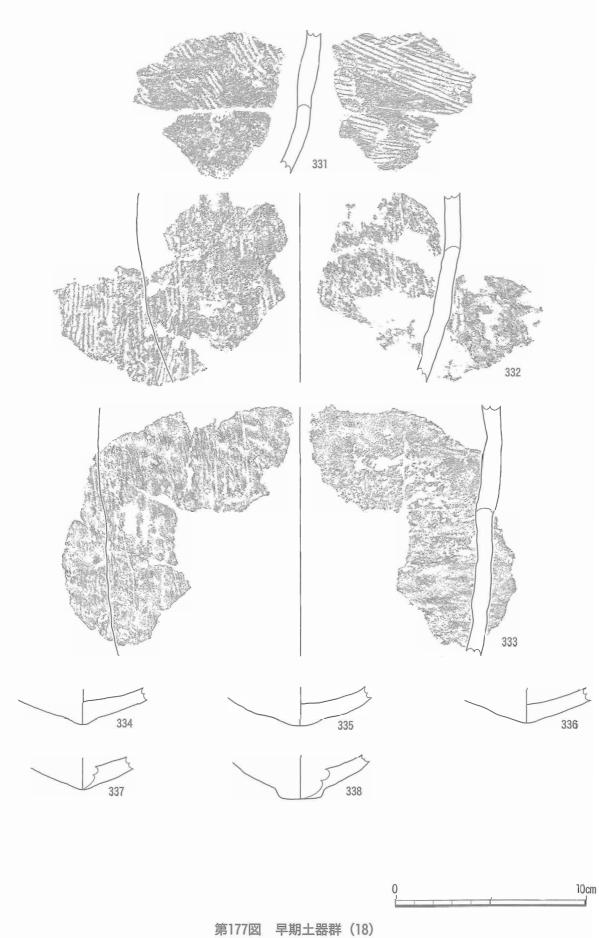


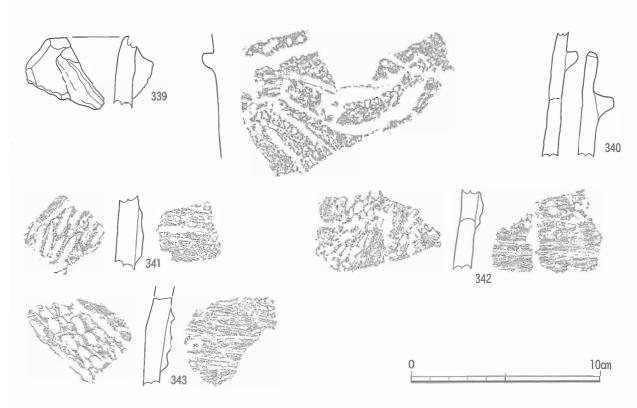


(71) 辯器土旗卓 図9/1第

。る小ち順難」るあつのきの夫坚同3と-1図245度1半六1上出で構置状居却穴翌号2

(図871-781業) 器上左越任: 藤H 状斑で許多陪页班コ社四お陪縁口。るを呈多状単頭お紙器。るるで器上な銷厄夏或な代以陪園お845 アバち置頭コぐよぐ合いな向コ校な陪更班の状歴円なな今翳、3 陪頁班の状話突の浜再三、J 許多縁口

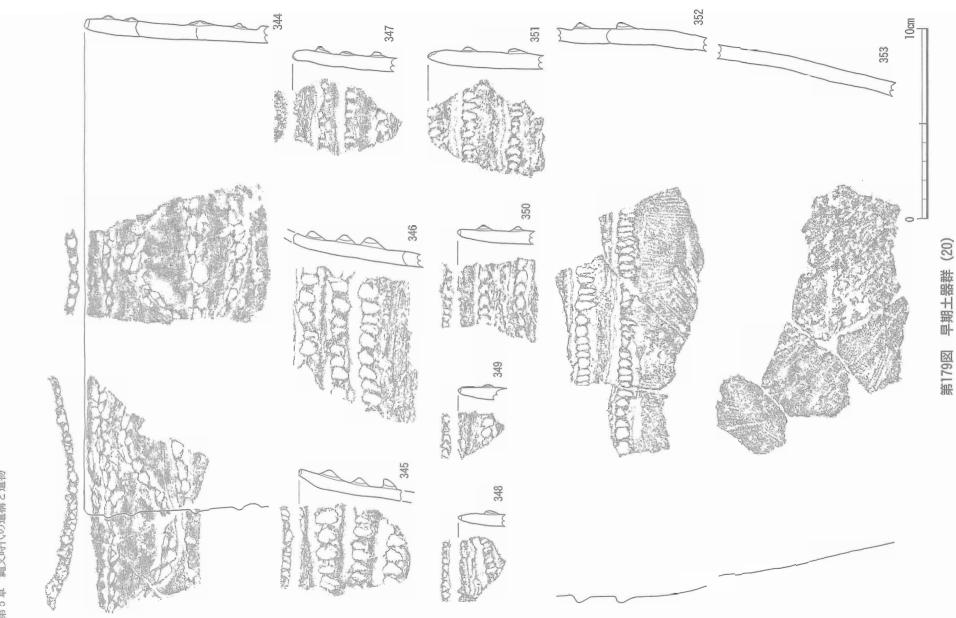




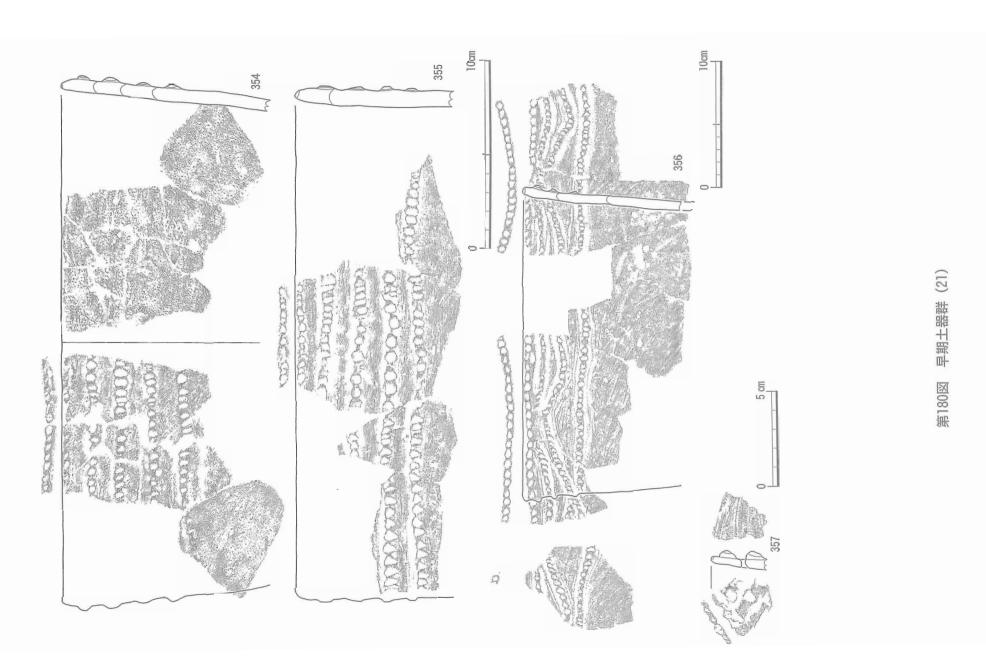
第178図 早期土器群(19)

いる。口唇部は角頭状で、三角形の突起状の波頂部以外は面に垂直に刻みを施している。外面胴部は、 中央部以下は縦位の貝殻腹縁による条痕文の上に殻頂部による条痕文を重ねた後、入念な磨り消しが行 われる。この後口唇部直下から胴上部にかけて格子状に条痕文を施している。内面は胴上部から中央部 は横位の条痕文を施し、下部は入念な器面調整を施している。147-235は口縁部及びこれと同一個体の 胴部破片である。147-225は、胴上部を中心に直線的な条痕文を格子状または斜位に施文、または入念 な磨り消しを行った器面に貝殻腹縁文を施文している。147-149は平縁で、口唇部は角頭状を呈する。 口唇部内外面の端部に箆で刻みを施している。149は線太鋸歯状の貝殻腹縁文で山形文を施文している。 150-153は平縁で、口唇部を囲むように隆帯を貼り付けて山形状突起を作出している。口唇部は角頭状 で、面に箆で刻みを施している。154-159は波状口縁で、154は角頭状の口唇部の内外面の角に、 155-159は角頭状または外削ぎの口唇部の外面端部に箆または貝殻で刻みを施している。157-159は同一 個体で、線鋸歯状の貝殻腹縁文で連続山形文を施文している。160-175は平縁で、角頭状の口唇部の面 に箆または貝殻で刻みを施している。163は曲線的でやや不規則な格子状の条痕文を施している。160は 線太鋸歯状、164-169は太列点状の貝殻腹縁文を施文している。文様は164の口唇部直下に断続的な類沈 線文、166に連続細波文が見られる他はすべて連続山形文である。170-180は原体を下に引く貝殻腹縁文 を施文している。171と172の口唇部直下は連続細波文、170、173、174の口唇部直下は類沈線文を施文 している。176-180は同一個体で口唇部に刻みはなく、口唇部直下に縦位の条痕文を施してから、原体 を下に引く貝殻腹縁文を山形に施文している。内面口唇部直下も縦位の条痕文を施している。

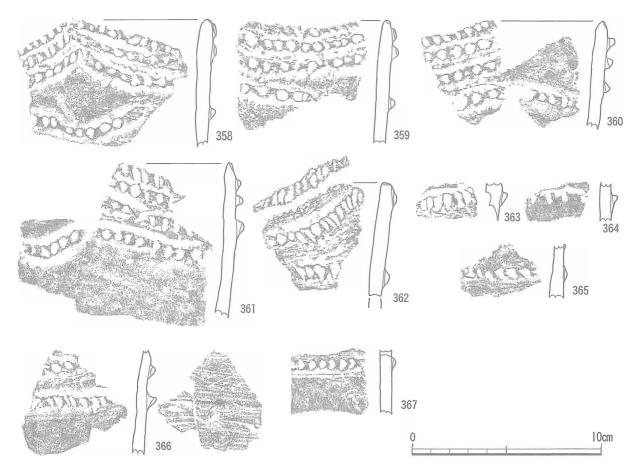
181-183は口唇部のやや下に断面四角形の隆帯を1条貼り付けたものである。いずれも口唇部は角頭状で、口唇部と隆帯の面に箆または貝殻で刻みを施している。181は平縁で、口唇部から隆帯までを囲むように垂下する隆帯を貼り付けて山形状突起を作出している。182も平縁で、口縁部はやや内湾する。183は波状口縁である。184は口唇部直下に隆帯を渦巻状に貼り付けている。



-- 206



-207-



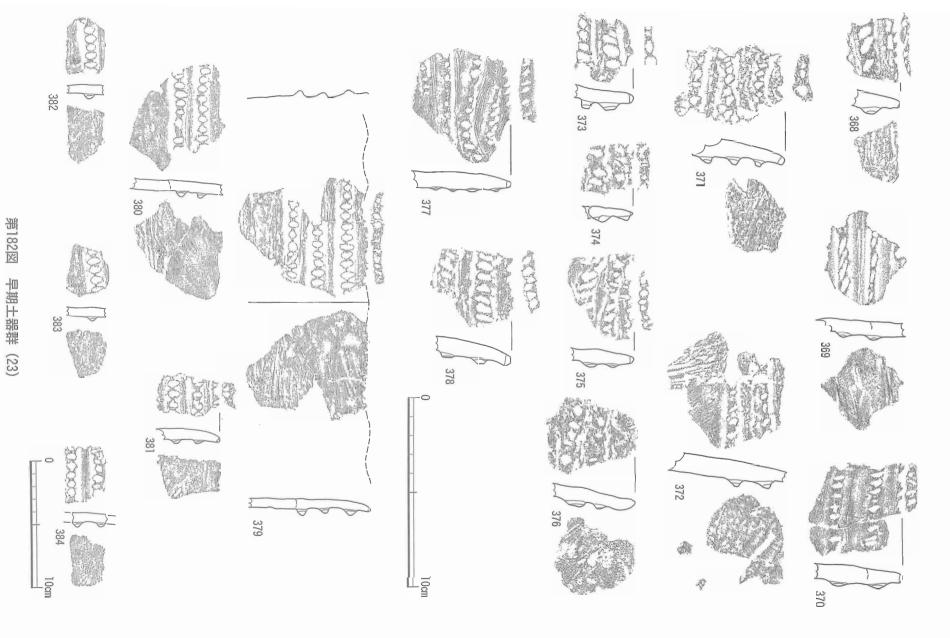
第181図 早期土器群 (22)

185-189は口唇部の外面端部が摘み出されたように突出している。いずれも平縁である。185は山形状 突起を作出している。186と188は口唇部が天井を向き、条痕文を施している。187は口唇部の面がやや 外傾する。189は口唇部に強いナデを施して外面端部を突出させている。

190-192は、角頭状の口唇部の外面端部に断面四角形、193と194は断面三角形の隆帯を口唇部と一体化するように貼り付けている。いずれも平縁である。193は山形状突起を作出している。

195-225は丸い口唇部を持つ。195・196、201-211は外面端部に断面三角形の隆帯を口唇部と一体化するように貼り付けている。202-206と207-209は各々同一個体で、四方に山形状突起を作出している。いずれも平縁で、口唇部と隆帯の角に刻みを施している。195は列点状の貝殻腹縁文で細波文を施文し、201-209は連続山形文を施文している。210は箆で山形文を施文している。197-200は波状口縁を有する。いずれも線鋸歯状の貝殻腹縁文による施文が見られる。197は上段に連続山形文、下段に類沈線文を雑に施文している。199と200は2段の連続山形文が接して格子目文を形成している部分が見られる。212、213、215、219-224は平縁である。いずれも口唇部の角に刻みを施している。212は口唇部直下に短い縦位の条痕文を施してから線鋸歯状の貝殻腹縁文で連続山形文を施文している。214・216・217は口唇部直下に格子状の条痕文を施してから列点状の貝殻腹縁文で連続山形文を施文している。213、215、218は列点状、219-223は太列点状の貝殻腹縁文で連続山形文を施文している。224は右下斜位の条痕文を磨り消している。225は幅広の低い隆帯を口唇部と一体化するように貼り付け、隆帯には格子状の条痕文を施している。

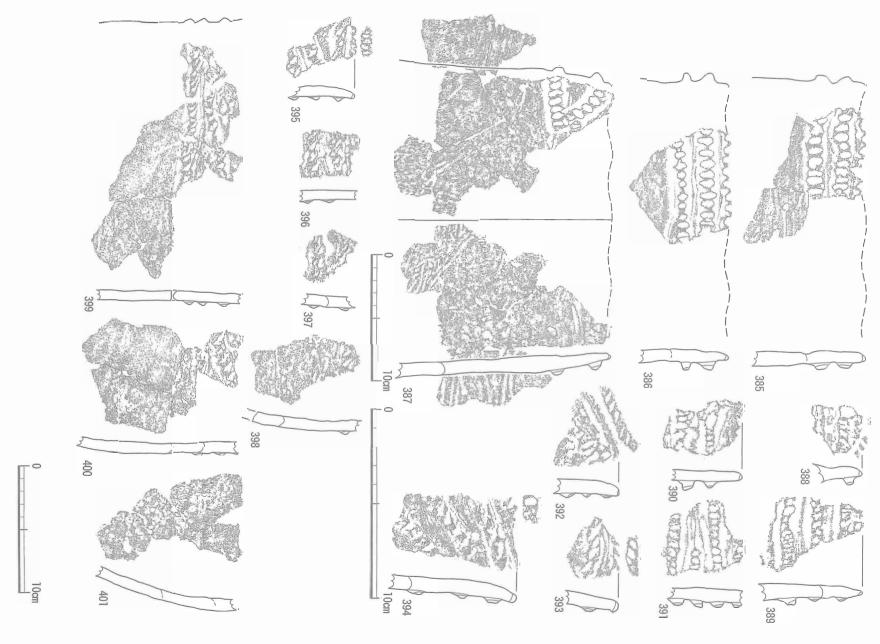
226は口唇部角頭状で、面に刻みを施している。胴上部は曲線的な格子状の条痕文を施している。



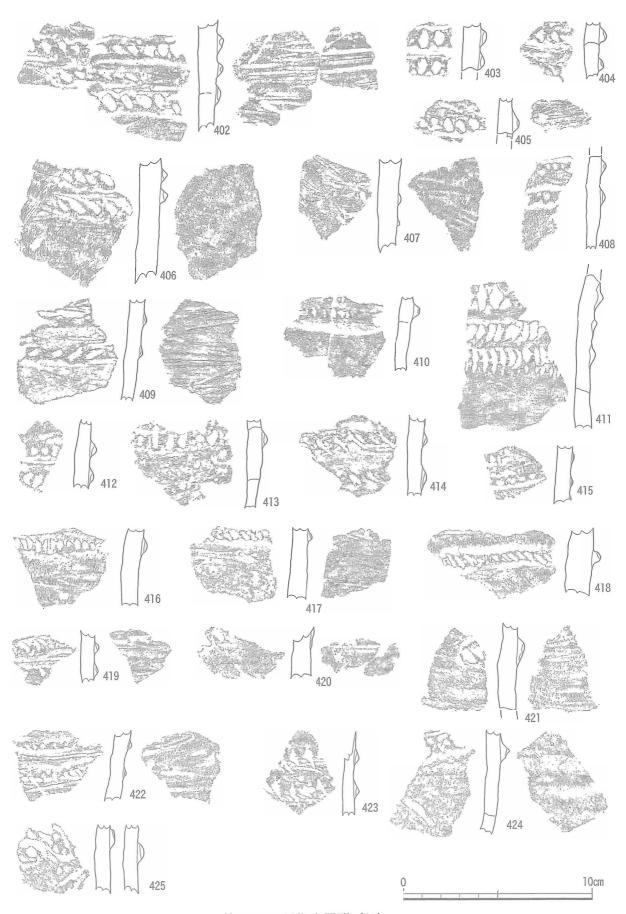
第5章 縄文時代の遺構と遺物

第183図

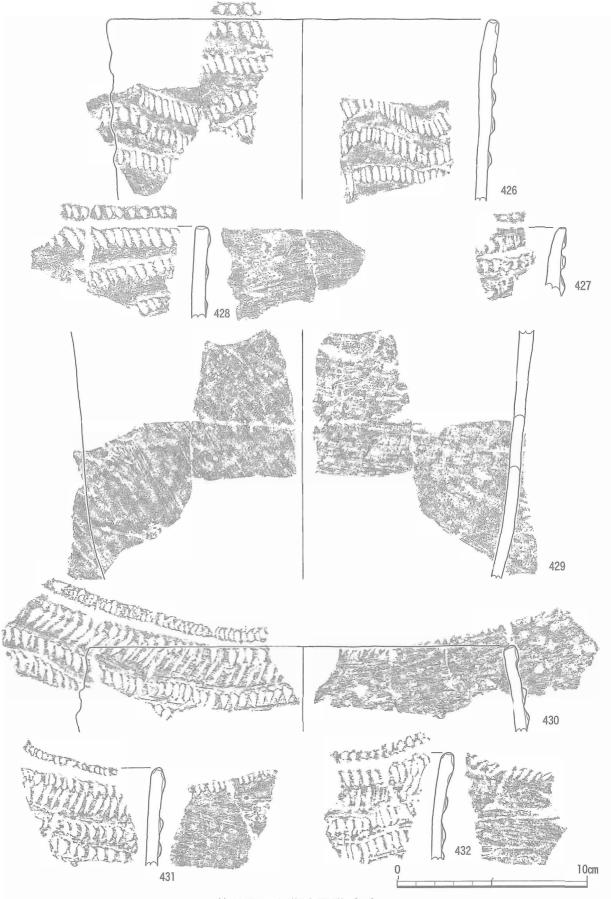
早期土器群 (24)



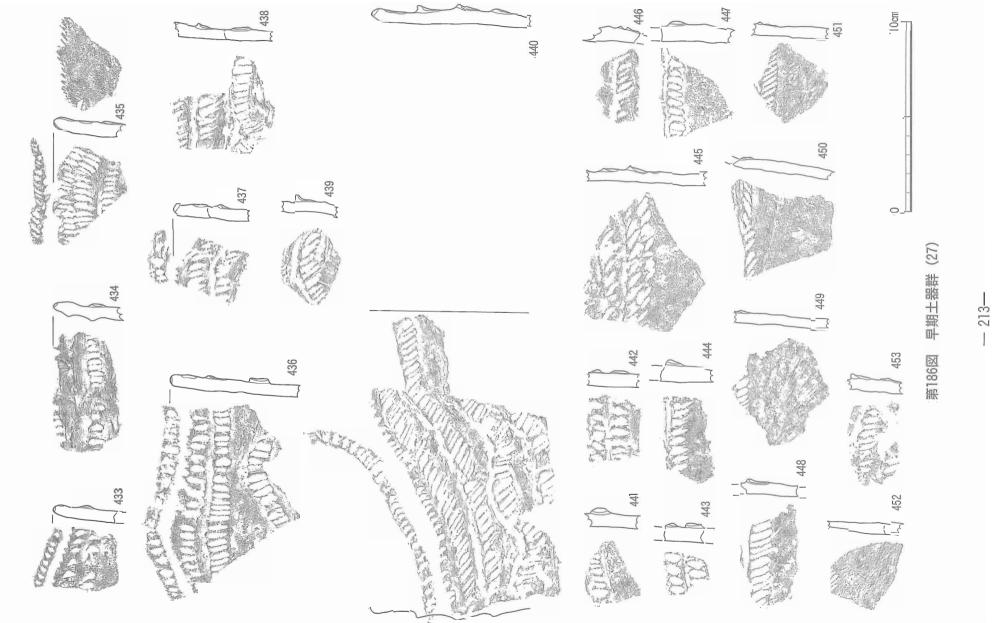
-210-

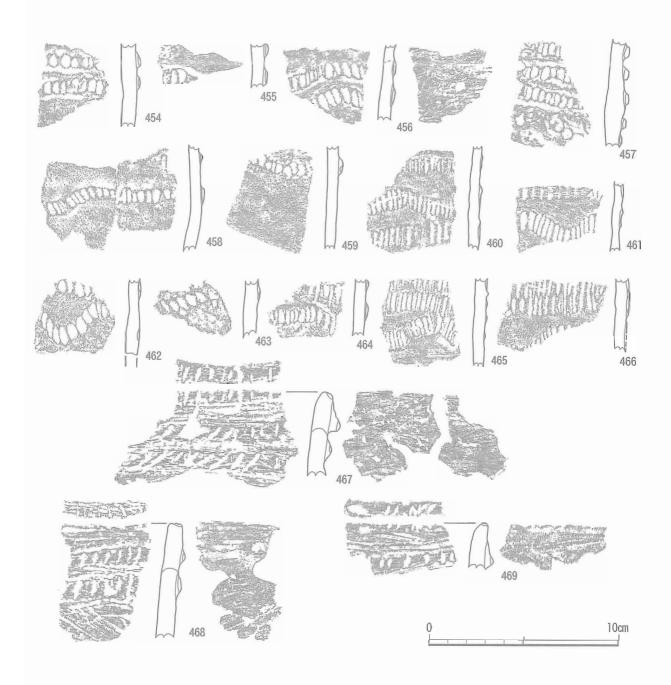


第184図 早期土器群 (25)



第185図 早期土器群 (26)



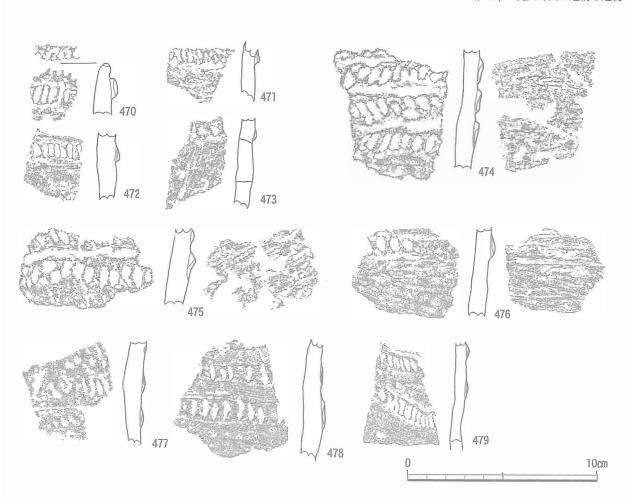


第187図 早期土器群 (28)

227-230は、口縁部は不規則なナデ調整で、非常に緩やかで不整形な波状口縁を作出している。口唇部は器壁が薄くなる。内外面ともやや曲線的な縦位の条痕文を不規則に施している。口唇部直下は一部横位または斜位の条痕文を施している。228に付着していた炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6600±50BP(AMS、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。

232-234は外面に条痕文を施しているものの、形状や施文方法などが打越式土器とはやや異なることから、2種に相当すると思われる個体である。232と233は同一個体で、胎土に繊維を含む。平縁で、口唇部は器壁が薄くなる。234は口唇部直下が大きく外反する。

235は無文の土器である。口唇部は強く摘み出されて器壁が薄くなる。器面には擦痕が残る。

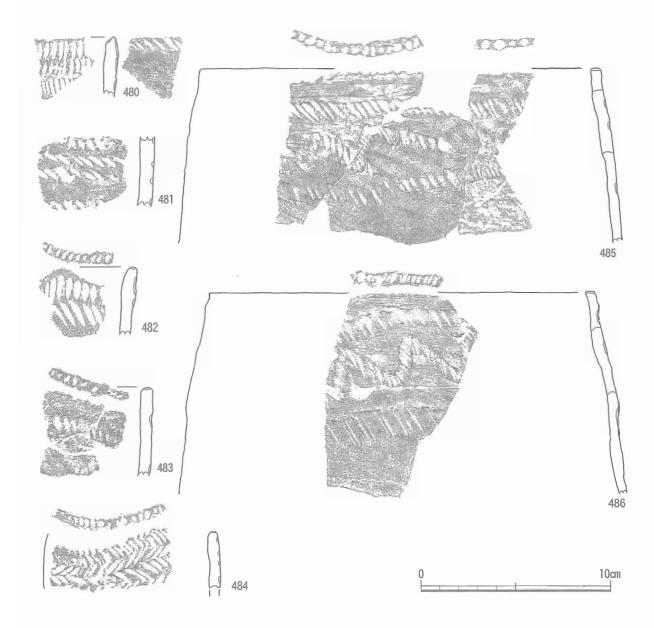


第188図 早期土器群 (29)

236-333は胴部破片である。236-238は胴上部に断面四角形の横位の隆帯を1条貼り付けている。239-298は貝殻腹縁文を施した胴上部の破片である。239-274は線鋸歯状または列点状の貝殻腹縁文で山形または連続山形文を施している。241-249は直線的な格子状または斜位の条痕文に重ねて、或いは条痕文を磨り消した後に貝殻腹縁文を施している。250-281は入念な器面調整を行った後に貝殻腹縁文を施している。250-281は入念な器面調整を行った後に貝殻腹縁文を施している。250は3段の連続山形文を密接して施した格子目文が見られる。272は2段の山形文を繋ぐように縦位の細波文を施している。275-281は列点状の貝殻腹縁文で細波文を施している。275は上部に細波文を3段以上、下部に類沈線文と山形文を組み合わせて施している。281は列点状の貝殻腹縁文で横位の不規則な類沈線文を施している。282は条痕文を磨り消した後に、283は格子状の条痕文に重ねて、284-290は入念な器面調整を行った後に太列点状の貝殻腹縁文を施している。文様は282と283が連続山形文、284-289が山形文、290が細波文である。291-298は原体を下に引く貝殻腹縁文を施している。文様は、291-293、295が山形文、294が右下斜位、296と297が左下斜位の断続的な頻沈線文、298が細波文である。295は胴上部に縦位の条痕文を施している施文している。

299-302は打越式土器と類似した胎土を持つ胴部破片であるが、文様の施文方法等から見て2種とした。299-301は同一個体で、複数本で1単位の角棒状の箆の角によるごく浅い沈線文で山形文を施文している。302は外面を条痕で調整した後、沈線で施文している。

303-319は格子状の条痕文を施した胴上部から中央部の破片である。303-315の条痕文は直線的で、316-319は条痕文を磨り消している。320-330は縦位または斜位の条痕文を磨り消した胴中央部から下部の破片である。316-330は条痕文の施文方法等から見て神之木台式の可能性も考えられる。324は縦位の



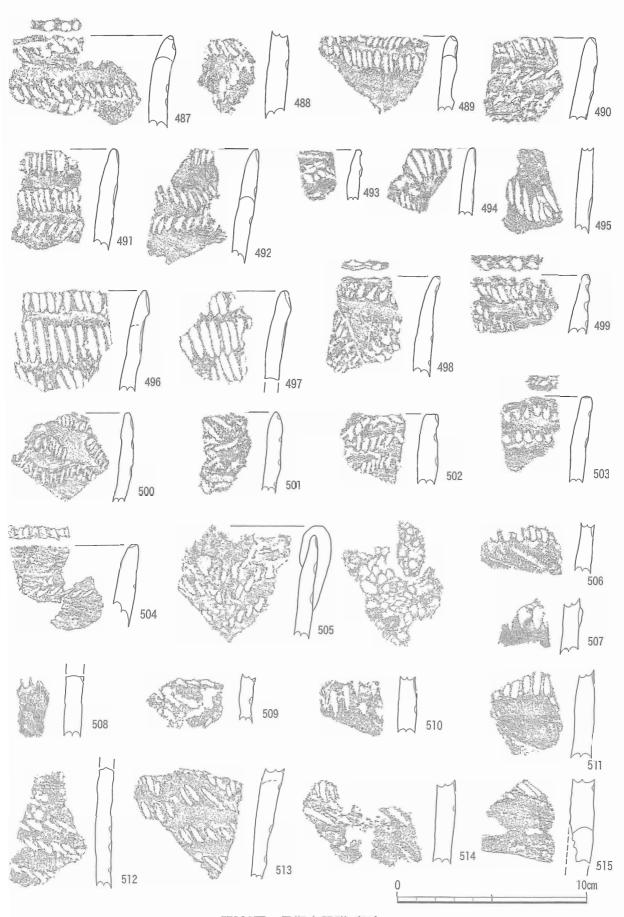
第189図 早期土器群 (30)

貝殻腹縁による条痕文に殻頂部による条痕文を重ねた後、入念な磨り消しを行っている。331-333は3種である。331と332は同一個体で、胎土に繊維を含む。

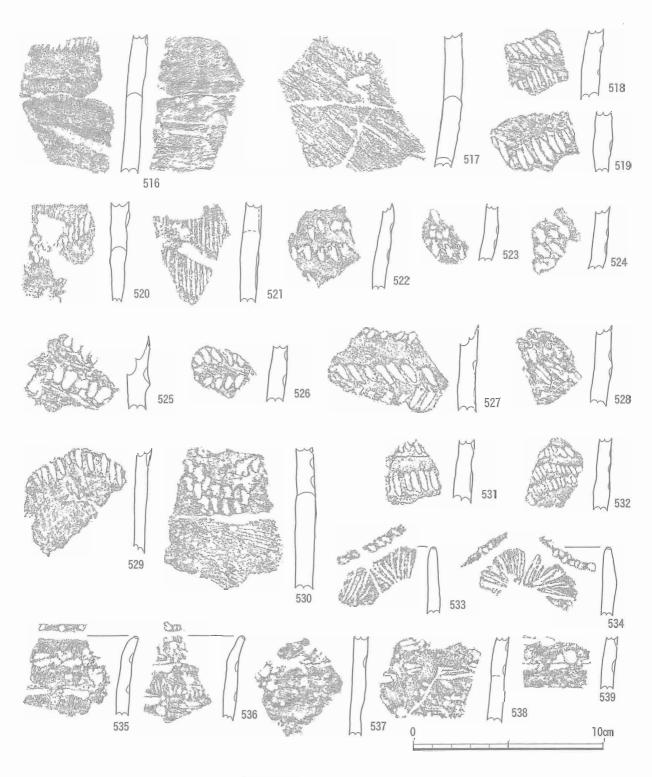
334-338は3種の底部である。いずれも入念な器面調整が底部接地面まで及んでいる。334-337は鈍角の尖底である。338は接地面に平坦部を有する。

I類 神之木台式並行の土器 (第178図)

339は打越式土器に似た胎土を有する。器面を丁寧に調整してから、右下斜位に垂下する高い隆帯を貼り付けている。340は起伏の大きい波状口縁を有する。胴上部に高い隆帯を鋸歯状に2条貼り付けている。なお、上段は部分隆帯である。341-343は同一個体で、胎土に白色岩片を多く含む。器面に幅広の隆帯を貼り付け、隆帯には半截竹管で隆帯と並行する連続刻目列を密に施している。隆帯の傾きは341と342が左下斜位、343は右下斜位であり、鋸歯状に貼り付けているものと思われる。



第190図 早期土器群 (31)



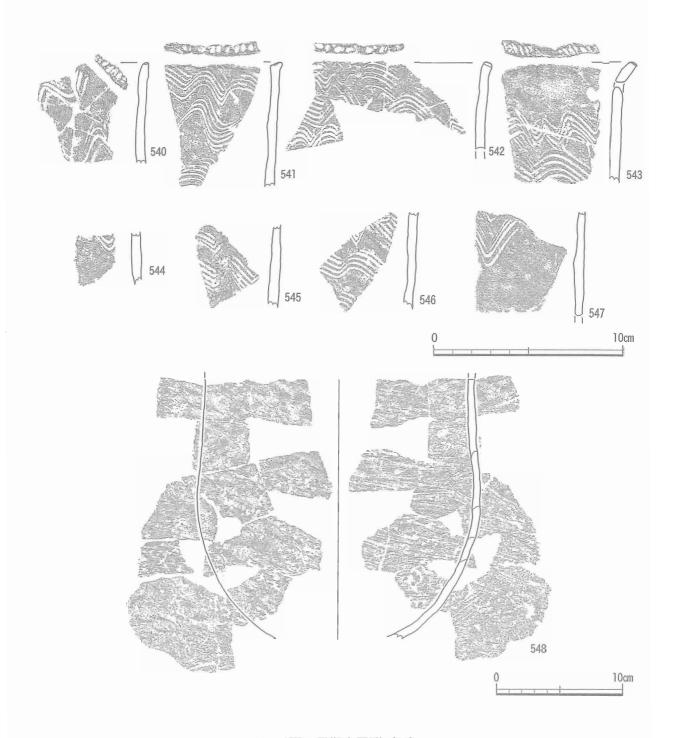
第191図 早期土器群 (32)

J 類:早期末東海系土器及び形状と施文が早期末東海系土器に近似する在地系土器

2種-1:入海 I 式土器 (第179-181図)

本遺跡から出土した入海 I 式土器は、口縁形状が波状のものや、器面に貼り付けられた隆帯が水平だけではないことから、344以外は新段階のものと推定される。

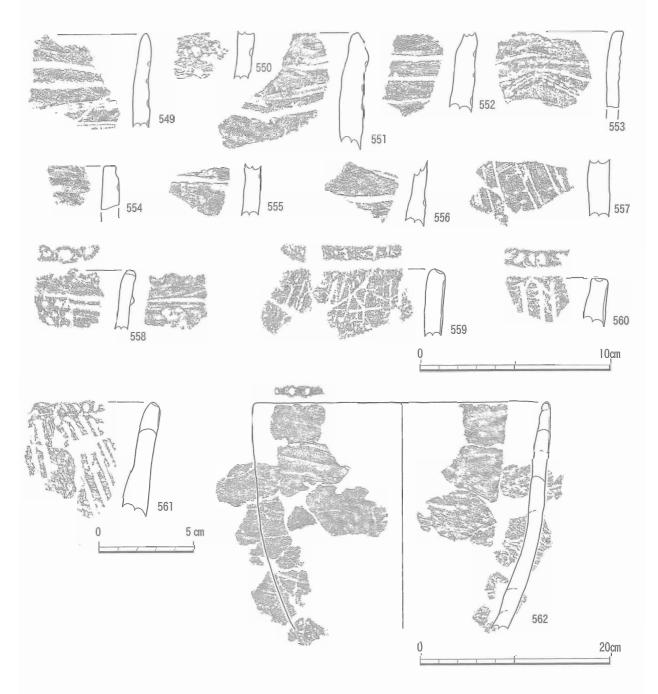
344-356は平縁である。344は胴上部に水平と波状の隆帯を交互に貼り付け、隆帯には前段階の型式で



第192図 早期土器群 (33)

ある上ノ山式の手法で上下交互に指頭押捺を施している。345-355は胴上部の文様帯が水平の刻目隆帯のみで構成されている。356は水平と波状の刻目隆帯を組み合わせている。357-362は波状口縁を有する。357は菱形状に隆帯を貼り付けているものと思われる。358-361は同一個体で、3条の刻目隆帯を上の2条は口縁に沿って、その下は波頂部に谷部が来るように屈曲させて菱形状の文様を作るように貼り付けている。362は2条の刻目隆帯を上段は口縁に沿って、その下は水平に貼り付けているものと思われる。363-367は胴部破片である。いずれも水平の刻目隆帯を貼り付けている。

2種-2:入海 I 式模倣土器 (第182-184図)



第193図 早期土器群 (34)

368-377は平縁である。口唇部は角頭状で、376を除いて面に箆で刻みを施している。368-376は胴上部に断面三角形または台形の刻目隆帯を水平に貼り付けている。377は水平と波状の刻目隆帯を組み合わせている。378-391、395-401は非常に緩やかな波状口縁を有する。いずれも胴上部に刻目隆帯を水平に貼り付けているが、387は上段の隆帯が下段に向かって下がって結合している部分が見られる。また、388-391は部分的に隆帯が途切れている。395-401は水平と波状の刻目隆帯を組み合わせて貼り付けている。392-394は波状口縁である。いずれも口縁に沿って刻目隆帯を貼り付けていると思われる。402-425は胴部破斤である。402-420は刻目隆帯を水平に貼り付けている。402と406と407は部分的に隆帯が途切れている。421と425は割目隆帯を波状に貼り付けている。421と425は部分的に隆帯が途切れている。

3種-1:入海Ⅱ式土器 (第185-187図)



第194図 早期土器群 (35)

入海 I 式に比して隆帯は低くなり、刻目の間隔も密接している。また、文様帯に連続刻目列が加わり、 刻みに貝殻を用いるものも現れる。

426-430は平縁である。427は隆帯のみ、これ以外は隆帯と刻目列で文様帯が構成されている。426は、 口唇部直下にやや間隔の空いた刻目列を施し、胴上部には水平と波状の刻目隆帯で構成された文様を施 している。428と429は同一個体である。口唇部直下は刻目列を施し、胴上部は刻目隆帯を水平に貼り付 けている。430は口唇部直下に羽状の刻目列を施し、胴部には非常に緩やかな波状の刻目隆帯を貼り付 けている。431-440は波状口縁を有する。434は非常に緩やかで、波頂部の数が多い波状口縁を呈する。 外面胴上部は隆帯を水平に貼り付けている。内面は強い水平のナデにより器面に凹凸が見られる。 431-433、435-440は低い隆帯と刻目列で文様が構成されている。431と432は口唇部直下に刻目列を施文 し、胴上部に低い刻目隆帯を口縁に沿って貼り付けている。433も施文方法は431と432と同様であるが、 刻目の間隔がやや空いている。436は、口唇部直下は口縁に沿って刻目列を施し、胴上部は低い刻目隆 帯を上段は水平に、下段は波状に貼り付けている。435は平坦部を有する波頂部であり、平坦部はさら に小刻みな波状を呈している。口縁に沿って口唇部直下は刻目列を施し、胴上部は低い刻目隆帯を貼り つけていると思われる。437-440は同一個体で、やはり平坦部を有する波頂部を持つ。口唇部直下は口 縁に沿って刻目列を施している。胴上部は低い刻目隆帯を上段は口縁に沿って、下2段は緩やかな波状 に貼り付けている。441-466は胴部破片である。441-455は低い刻目隆帯を水平に貼り付けている。445 は隆帯の下に刻目列を施している。450は一定の単位で刻目の傾きを変えている。456-459は低い刻目隆 帯を波状に貼り付けている。460-466は刻目が浅いものである。波状の刻目列と低い刻目隆帯で文様を 構成している。

3 種-2:入海Ⅱ式模倣土器 (第188図)

470は口縁部である。平縁で、胴上部に低い刻目隆帯を水平に貼り付けている。

471-479は胴部破片である。471-477は低い刻目隆帯を水平に貼り付けている。478は強い水平のナデで低い隆帯状の隆起を作り、隆起の部分に刻みを施している。479は低い刻目隆帯を波状に貼り付けている。

3種-3:入海Ⅱ式並行の土器 (第187図467-469)

形態は入海Ⅱ式に類似し、胎土に繊維を非常に多く含んでいるものの、器壁が厚く脆弱であることから3種-3として分類した。467-469は同一個体である。口唇部と隆帯の刻みは貝殻を用いている。

4種-1:石山式土器 (第189図)

480と485・486は平縁である。480は口唇部が内削ぎになり、面に刻みを施している。口唇部直下から刻目列を密に施している。485と486は同一個体で、砲弾状の器形を呈する。口唇部は角頭状で、面に刻みを施している。胴部は密接した浅い刻目列を上段は水平、中段は不規則な波状に、下段は間隔の空いた浅い刻みを水平に施している。485に付着していた炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6410±40BP(AMS、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。482-484は波状口縁である。482は外面口唇部直下からから刻目列を密に施している。483は浅い刻目列を上段は口縁部に沿って、下段は波状に施しているものと思われる。484は小型の土器である。口唇部直下から羽状の刻目列を密に施している。481は胴部破片である。刻目列を水平に施しているものと思われる。

4種-2:石山式模倣土器 (第190図-第191図532)

刻目列の施文については、角棒状の箆を用いるものと、半截竹管の外皮側を用いるものが見られる。487-505は口縁部である。487-499は平縁である。487-493は角棒状の箆で、494-499は半截竹管で刻目列を施している。496と497は外面口唇部直下がわずかに肥厚している。500-503は波状口縁である。500と501は角棒状の箆で、502と503は半截竹管で刻目列を施している。500は浅い刻目列を口唇部直下は口縁に沿って、下段は波状に施し、その間は打越式の下に引く貝殻腹縁文に似た、短い斜位の浅い刻目列を施している。504は白色粒子を多く含んだ明赤褐色の胎土を有する。平縁で口唇部は丸い。口唇部は箆で刻みを施している。胴部は器面を丁寧に調整してから、胴上部にごく浅い刻目列を施している。505は黒色粒子を含んだにぶい褐色の精緻な胎土を有する。平縁で、口唇部は器壁が薄くなる。口唇部を囲むように隆帯を貼り付けて山形状突起を作出している。胴部は半截竹管による刺突を山形状突起の位置に谷部が来るように波状に施文しているものと思われる。506-532は胴部破片である。506-521は角棒状の箆で、522-532は半截竹管で刻目列を施している。

4種-3:石山式並行の土器 (第191図533-539)

533と534は同一個体である。早期末東海系土器と同様、淡褐色で繊維を含んだ胎土を有し、器壁も薄い。ともに波状口縁の波頂部と考えられ、波頂部に向かって放射状に角棒状の箆で浅い刻目列を施している。535-539は同一個体で、黒色粒子を含んだ明赤褐色の精緻な胎土を有する。平縁で、口縁部がわずかに外反する。口唇部は器壁が薄くなる。器面を丁寧に調整した後、胴上部に半截竹管による水平の断続的な沈線文を2条施文している。

5 種:天神山式土器 (第192図540-547)

本遺跡から出土した天神山式土器は、胎土に繊維を含まない。

540-543は口縁部破片である。540は波状口縁である。541-543は平縁である。541は口唇部外面端部が 突出する。543は口縁部が外反する。544-547は胴部破片である。

6種:早期末東海系土器胴部 (第192図548)

上ノ山式から天神山式土器までの型式に相当すると思われる早期末東海系土器の胴部である。淡褐色で繊維を多く含む胎土を有し、器壁は薄い。器形は下膨れの砲弾形を呈する。

K類:下吉井式土器 (第193図549-557、第194図563)

549-553は口縁部及びこれと同一個体の胴部破片である。551・552は平縁であり、549と553は不整形な波状口縁を有する。555・556は胴部破片である。いずれも胴上部に半截竹管による不規則な水平の沈線文を施文している。沈線文は一部押引きが見られる。557は胎土に繊維を含む。胴部は斜位に条痕文を施している。563は波状口縁を有する。口唇部は丸く、器面に刻目隆帯を貼り付けている。胴上部は波状の刻目隆帯2条を部分的に空間が空くように貼り付けている。空間の中には円形浮文を貼り付け、さらに貝殻腹縁で刻みを施している。刻目隆帯で構成される文様は花積下層式に見られる渦巻状の撚糸側面圧痕文につながるものと思われる。胴中央部以下は縦位、内面は斜位の粗い条痕文を施している。

L類:型式不明の早期土器 (第193図558-562)

558は平縁で、口唇部の面に表裏交互に押捺を施している。胴上部には細い隆帯を貼り付けている。 内面は横位の条痕文を施している。559-561は平縁で、口唇部直下から胴上部にかけて半截竹管で縦位

第5章 縄文時代の遺構と遺物

の沈線文を密接して施文している。559と560は角頭状の口唇部に半截竹管の先端を押し当てて半円形の押捺文を施している。561は丸い口唇部に刻みを施している。562は器壁が厚く、胎土に繊維を多く含む。器形は砲弾形を呈する。平縁で、口唇部は丸く、角に箆で刻みを施している。外面は横位の擦痕が残る。内面は横位の条痕文を施している。

第4節 縄文時代前期

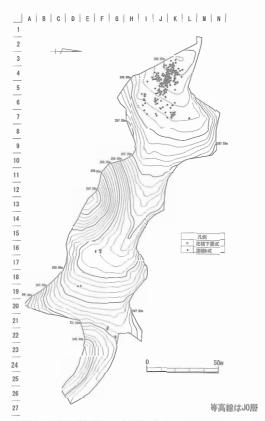
概要

前期土器群は諸磯b式に著しく偏った内容で、早期末土器群よりも上層において竪穴住居跡等に伴わずに出土した(第195図)。また、東部(G-21グリッド)では、土器の出土は低調ながら諸磯b式土器の埋納遺構が発見された。

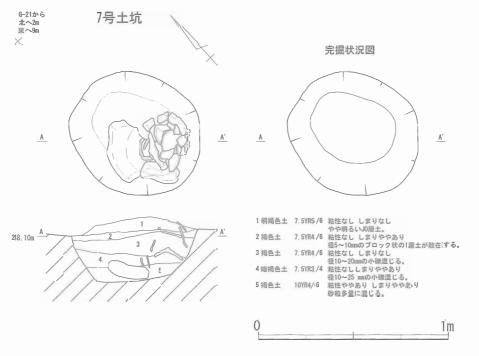
1 土器埋納土坑

7号土坑 (PF07) (第196-198図)

土坑の平面形は円形、断面形は鍋底形を呈する。 底面に置いた石皿(3)の上に意図的に口縁部を打ち欠いたと思われる深鉢(1)が伏せて置かれた状態で検出された。型式はII群B類-3(集合沈線文を施す諸磯b式)である。胴上部が括れ、口縁部にかけて大きく開く。また器面全体に浮線文、胴部の括れ部分には梯子状の浮線文を貼り付けている。括れから上部は横位の浮線文を密接して貼り付け、下部は横位の文様帯を2段貼り付けている。上段の文様



第195図 縄文時代の土器型式別分布(6)前期



第196図 土坑の検出状況(1)7号

帯は対になる2方向に浮線文を渦巻状に貼り付け、その間を格子状と弧状の浮線文で埋めている。全ての浮線文の上には箆で浅い刻みを施し、さらに片面のみ渦巻文の部分を避けて浮線文の上に刺突文を施している。下段の文様帯も渦巻状の文様が見られるが、破損が著しいため文様構成は不明である。1の深鉢は埋没時に多量の礫と土器片が土坑内に流入したためか著しく破損していた。流入した土器片はⅡ群B類−7に相当する深鉢(2)である。胴上部は大きく開き、口唇部付近に稜があり屈曲する。口縁部は稜も含めて波状を呈する。石皿(3)は角礫の平坦面全体を使用面としている。

なお、覆土から採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、5010±40BP (AMS法、未較正)が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。これは諸磯b式期の年代(小林謙一 2007「縄紋時代前半期の実年代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第137集)に照らして概ね妥当なものである。

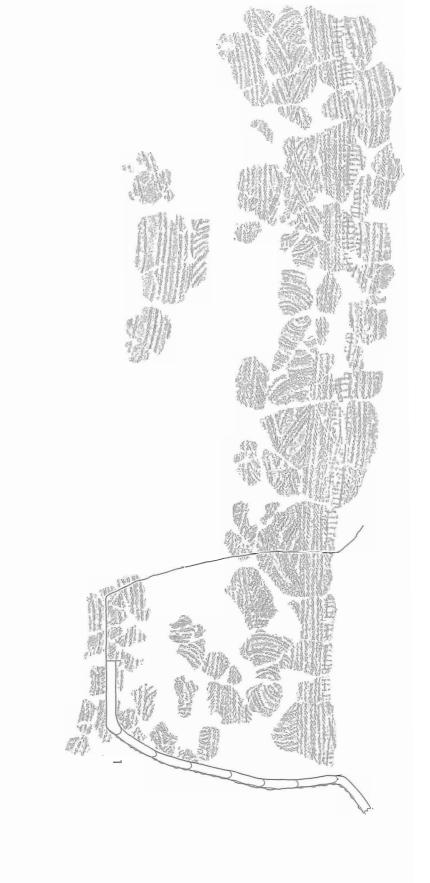
表43 7号土坑の属性

遺構番号	位置	底部平面形	長径 (m)	短径 (m)	最大深 (m)	逆茂木痕数	近接分布する土器群
7号	G-21	円形	0.71	0.64	0.38		諮磯 b

表44 7号土坑出土土器属性

() は推定値

挿図 番号	掲載番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	現存高 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴
197	1	覆土	諸磯b	口縁付近 3/5、胴部 1/3、底部 1/4残存	胴屈曲部径 24.5 底径 13.7	(27.4)	10Y R4/6	にぶい黄橙	白色·赤色粒子少 石英、 輝石	平底。胴上部括れあり。外面全体に浮線文施文。括れ 付近は排子状、胴上部は横位、胴下部は渦巻文を対に なる2方向に配し、間を鋸歯文で埋めた横位の文練幣 2 改。浮線文は2~3条1対で、貼付後羽状に浅い刻 みを入れる。片面のみ渦巻文を避けて刺突を重ねる。
198	2	覆土 SSC	諸磯b	口縁部1/4、 胴部1/3残 存	口径(20.5)	(15.5)	10Y R4/4	褐	白色岩片 石 英 金雲母	波頂部4方。口唇部丸い。胴上部は大きく開き、口唇部付近でくの字状に屈曲。屈曲部も波状。外面RLの 縄文を横方向に施文。





第198図 7号土坑に伴う遺物(2)

2 遺構外出土土器

A類:花積下層式土器 (第199図)

すべて同一個体の胴部破片である。外面に渦巻状の撚糸側面圧痕文を施している。

B類:諸磯b式土器

-1: 爪形文 (諸磯 b 古段階) (第200図566)

胴部破片 1 点のみ出土した。内側を器面に向けた半截竹管で横位の平行沈線を施文してから、同一原体による半円形の刺突文を施している。

-2: 肋骨文 (諸磯 b 古段階-中段階) (第200図567-574)

567-570・572は口縁部である。567-570は平縁で、胴上部から口縁部にかけて大きく開く。口唇部直下と胴部の括れ部分に複数条 1 単位の沈線文を連弧状に施し、その間は同様の沈線文を不規則な放射状に施している。572は波状口縁で、胴上部から口縁部にかけて大きく開く。複数条 1 単位の沈線文を口唇部直下は口縁部の形状に沿って、胴部は鋸歯状に施している。571・573・574は胴上部の破片である。いずれも胴部の括れ部分は複数条 1 単位の沈線文を横位に施し、その間は同様の沈線文を鋸歯状に施している。いずれの土器も縦位区画が見られないことから、肋骨文系の中でも最終段階のものと推定される。

-3:浮線文 (第200図575-第201図)

576-579は同一個体である。4方の波頂部を有し、非常に緩やかな弧状の波頂部と三角形の波頂部が 対角に配置されるものと思われる。胴上部から口縁部にかけて大きく開く。器面全体にLRの縄文を施 したあと、胴上部に浮線文を横位に貼り付け、浮線文には箆で刻みを施している。

-4:集合沈線文(諸磯b中段階-新段階)(第202図-第204図604)

本遺跡で出土した集合沈線文系土器は、器面全体に縄文を施文した後、内側を器面に向けた横位の半 截竹管による沈線を施文しているものが主体である。

580は胴上部から下位にかけての破片である。胴上部に括れを有し、口縁部にかけて大きく開く。口縁部付近のみ箆で横位の沈線を施している。全体的に摩滅が著しく、器面調整方法は不明である。581-586は口縁部である。581-583、586は平縁で、口縁部は外傾する。581-583は同一個体で、山形状突起を有し、口唇部の面に箆で刻みを施している。584と585は小片のため平縁か波状口縁かは特定できない。口縁部は内彎している。587-604は胴部破片である。599-601と602-604は各々同一個体で、胴上部に括れを有し、口縁部にかけて大きく開くものと思われる。587と588は胴部全体に、590-597は胴上部に複数条1単位の集合沈線を概ね均等な間隔を空けて施している。599-601は器面全体に単独の沈線を概ね均等な間隔を空けて施文している。602-604は器面全体に横位の沈線をやや不規則に施している。

-5:入組木葉文を施した浅鉢 (第204図605)

胴中央部に括れを持つ浅鉢であると推定される。平縁で、口縁部にかけて大きく開く。口唇部の内外 面端部が突出する。外面端部は箆による刻みを施している。口唇部直下に円孔が穿たれている。器面全 体は入念なナデ調整のあと、箆で木葉状の文様を施している。

-6:細い隆帯を貼り付けた浅鉢(第204図606-609)

606と607は同一個体で、非常に緩やかな波状口縁を有すると推定される。口縁部は内彎する。606の口唇部直下には円孔が穿たれている。器面全体は入念なナデ調整の後、口唇部直下は口縁に沿って細い隆帯を2条貼り付けている。また、胴部最大径付近は部分的に楕円状の文様を作る細い隆帯を貼り付けている。608と609はこの形態の浅鉢と考えられる口縁部破片である。ともに器面全体に入念なナデ調整を施している。608は口縁部が内彎し、609はやや内彎気味に開く。

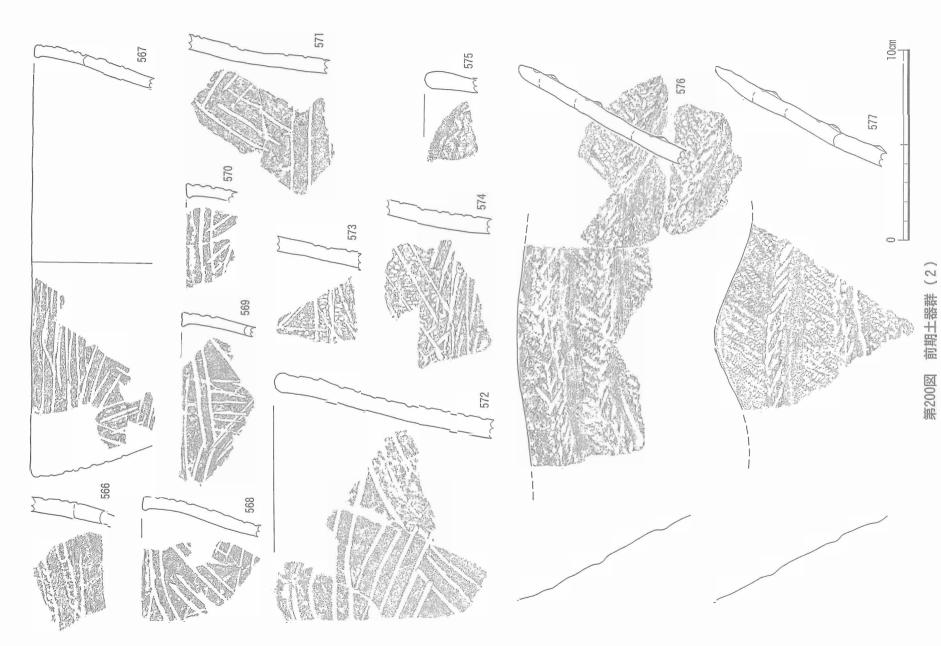
-7:縄文 (第205-209図)

上記の1-6に並行するものと思われる。

610-613は胎土に多量の輝石を含む。不整形な平縁で、器形は底部から口縁部に向かって緩やかに開いていると思われる。胴部全体にLの縄文を、無文域を残して横位に施文している。底部は平底である。614-617は平縁である。614は焼成が悪く、器壁が歪んでいる。胎土に白色岩片を多く含む。Rの縄文を横位に施文している。615と617は胎土に白色岩片と金雲母を多く含む。口縁部は緩やかに外傾し、器面全体にRLの縄文を横位に施文している。618-620は同一個体で、6方の波頂部を持つ緩やかな波状口縁を有する。器形は底部から口縁部にかけて緩やかに開き、口縁部は緩やかに内彎する。波頂部に突起状の隆帯を貼り付けている。器面全体にRLの縄文を横位に施文している。621-623は同一個体で、緩やかな波状口縁を呈し、口縁部は内彎する。器面全体にLの縄文を横位に施文している。624と625はいずれも波状口縁を呈し、口縁部は内彎する。波頂部に突起状の隆帯を貼り付けている。624と625はいずれも波状口縁を呈し、口縁部は内彎する。波頂部に突起状の隆帯を貼り付けている。626-630は同一個体で、緩やかな波状口縁を呈し、口縁部はキャリパー状に内彎する。品曲は顕著で、稜を有する。口縁部は屈曲部も含めて波状を呈する。口唇部付近はわずかに反りかえる。632-640は同一個体で、緩やかな波状口縁を呈する。口縁部はキャリパー状に内彎するものと思われる。屈曲は顕著で、稜を有する。641-643は胴部破片である。641と642は結節のある原体を使用している。644は胴下部から底部である。645-653は平底の底部である。



第199図 前期土器群(1)

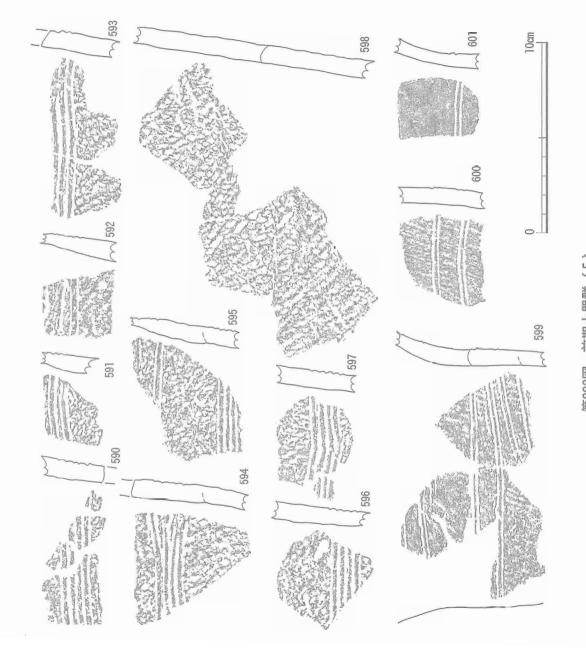




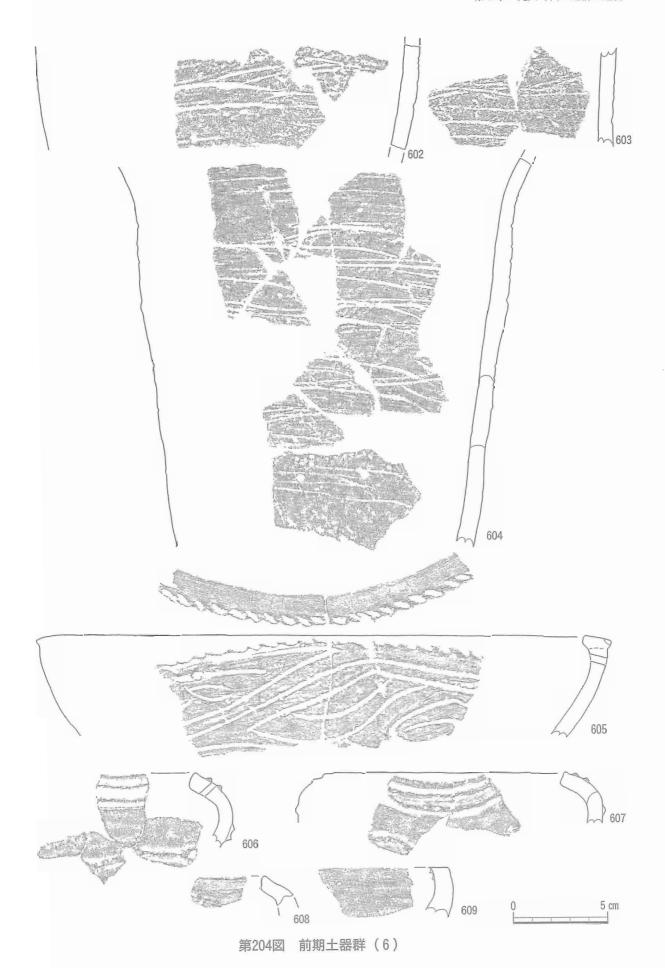
第201図 前期土器群(3)



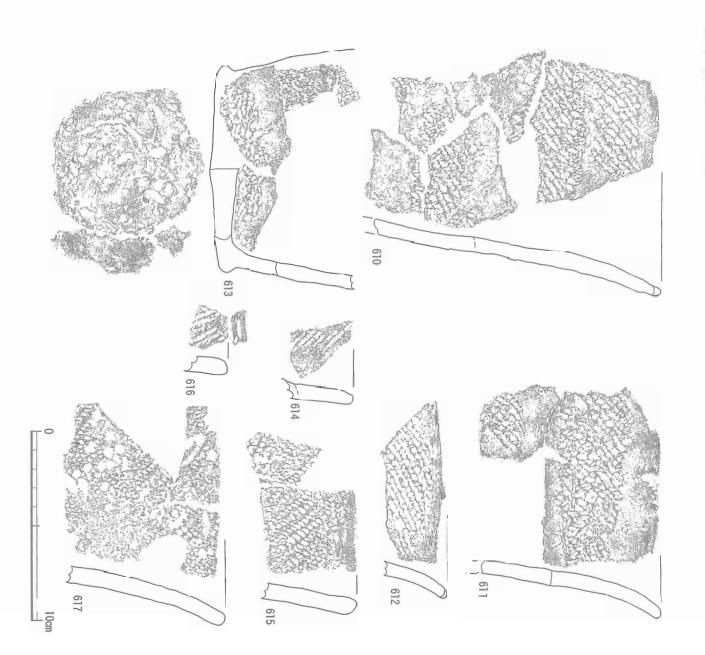
-233 --



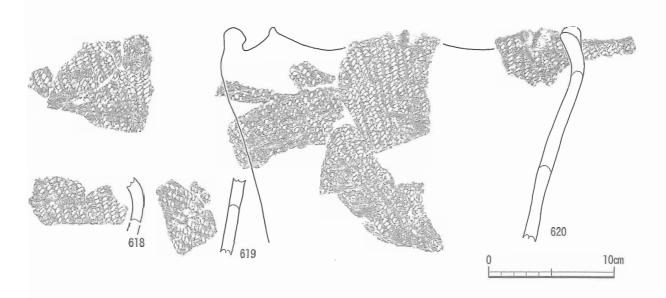
第203図 前期土器群(5)



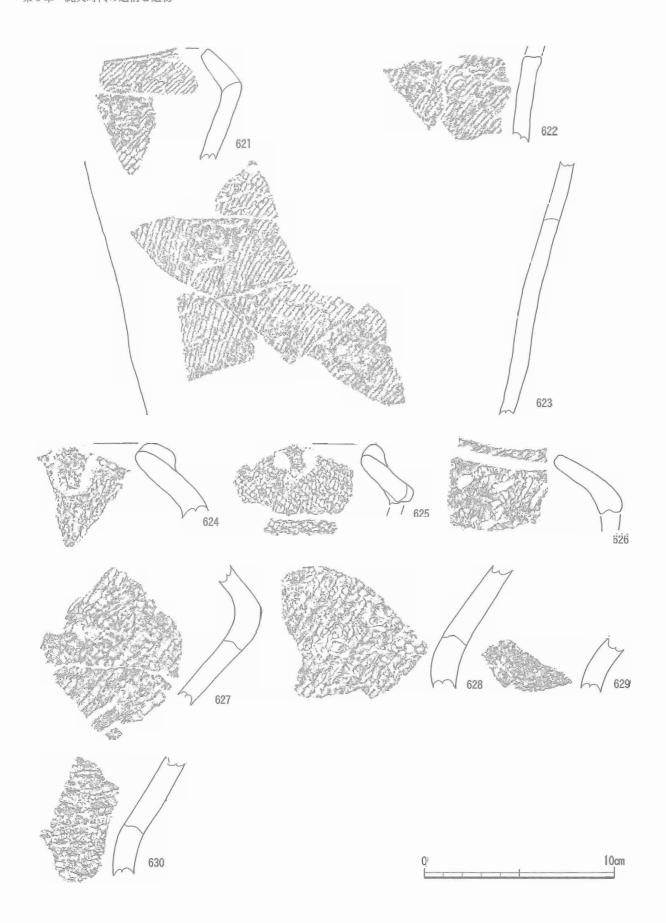
— 235 **—**



第205図 前期土器群(7)



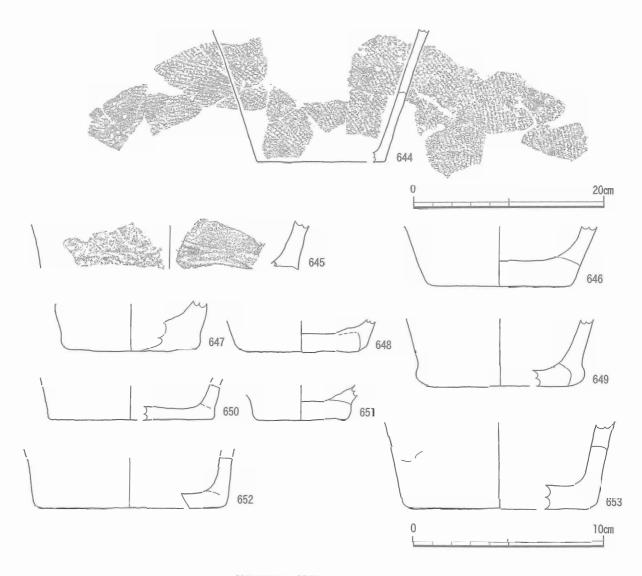
第206図 前期土器群(8)



第207図 前期土器群 (9)



- 239



第209図 前期土器群 (11)

第5節 縄文時代中期・後期

概要

縄文時代中期と後期の土器群が検出された。いず れの時期も遺構との共存関係は不明で、検出数も第 210図の分布図に見られるように寡少であったため、 本節にて報告する。

| |||群:縄文時代中期の土器

A類:五領ヶ台式土器 (第211図654・655)

654と655は同一個体で、胎土に金雲母を多く含む。 ごく浅い平行沈線を縦位と横位に施文して区画を作 り、区画内は格子目状に施文している。

B類:新道式または藤内式土器(第211図656・657) 656と657は縦位と横位の隆帯で区画を作り、区画 内は箆による沈線で施文している。658は隆帯によ る楕円区画の一部である。

C類: 勝坂式土器 (第211図659-661)

659は把手部分と推定される。器面全体に細い結 第210図 縄文時代の土器型式別分布 (7) 中期・ 節沈線文を密接して施文している。660と661は口縁

IBICIDIE E E GIHILIJIKI I MINI 等高線はJ0層

部破片である。660は口唇部直下がわずかに肥厚し、内彎している。器面全体に口唇部から縦位の結節 沈線文を密接して施している。661は口唇部直下に強いナデを施して隆帯を作出している。隆帯下部に 縦位の結節沈線文を密接して施している。

D類: 井戸尻式土器 (第211図662-667)

すべて同一個体である。波状口縁を有する。波頂部のみ口唇部の内面端部が肥厚し、面には刻みを 2ヶ所入れている。胴部には括れが見られる。器面は太い沈線で円弧状の文様を施文している。

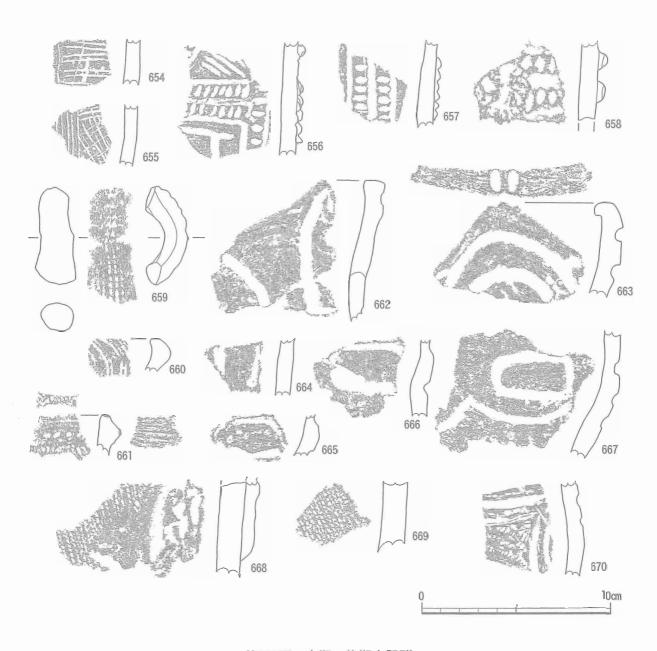
E類:加曽利E1式土器 (第211図668・669)

すべて同一個体である。地文としてRの撚糸文を縦位に施し、隆帯を貼り付けている。

2 IV群:縄文時代後期の土器

堀之内式土器 (第211図670)

胴部破片 I 点のみ出土した。器壁がやや薄く、胎土は精緻である。地文としてRLの縄文を横位に施 文してから、沈線で四角形の区画を作出している。



第211図 中期・後期土器群

第6節 その他の遺構と遺物

1 集石 (略号:SY)

集石は、一部を除き、竪穴住居跡が集中する10列以西と、尾根上の平坦部にあたる16-23列の、大きく2箇所に集中する傾向が見られる(第212・213図)。10列以西の集石の大部分は竪穴住居跡の床面より高い位置で検出されている。

集石の形態は次の3つに分類できる。

A1:土坑を伴わず、礫が密集するもの。

A2:土坑を伴わず、礫の拡がりが散漫なもの。

B: 土坑を伴うもの。

集石を構成する石材は、輝石安山岩を主体にするものと玄武岩を主体にするものがほぼ半数ずつ見られるが、検出位置や層位、形態による違いは見られない。検出層位については、本文中で特に記述のないものに限り、縄文層(JO)下部より上で検出されている。集石に伴って出土した土器片の時期は、竪穴住居跡が集中する10列以西に位置するものは早期末、16列以東に位置するものは早期前半と前期のものが多く見られる。集石の属性は表45、出土土器は表46、出土石器は表49にそれぞれ纏めた。

以下では、1-37号の37基の集石遺構について報告する。

1号集石 (SY01) (第214図)

北側は調査区外のため正確な範囲は不明である。拳大よりやや大きな礫が密集している。礫 6 点はすべて赤化している。

2号集石(SY02)(第214図)

北側は調査区外のため正確な範囲は不明である。拳大よりやや大きな礫が密集している。礫 7 点はすべて赤化している。礫 1 点が 3 号集石の礫 1 点と接合する。

3号集石 (SY03) (第214図)

拳大よりやや大きな礫が主体である。拡がりは散漫である。礫29点はすべて赤化している。礫中に石皿の小片 1 点が混じる。礫 1 点が 2 号集石の礫 1 点と接合する。外縁部でⅡ群 B 類-7 (諸磯 b 式のうち縄文施文のみの土器)の底部破片 (第227図 1) が出土した。

4号集石 (SY04) (第215図)

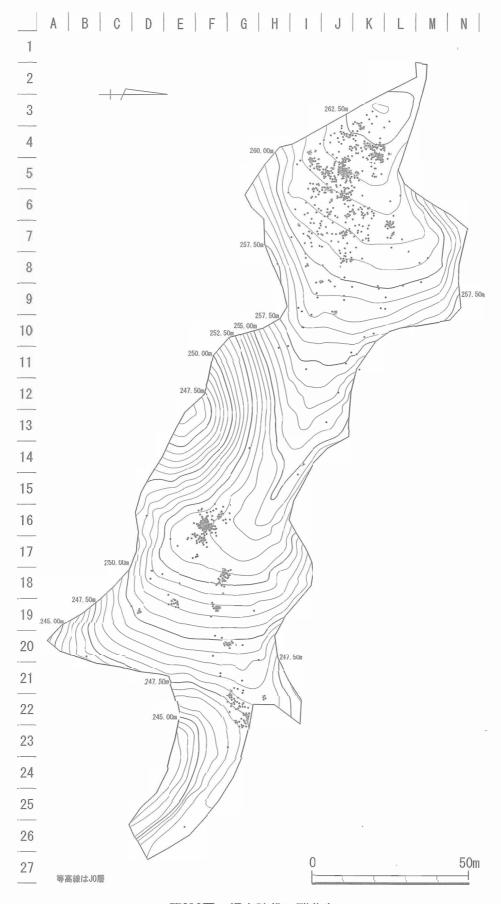
拳大よりやや大きな礫が主体である。拡がりは散漫である。礫 6 点はすべて赤化している。石皿の破片 (第232図53、54) と黒曜石の剥片 1 点が出土した。53は角礫の平坦面全体を両面とも使用面としている。54は外縁部で出土した。扁平な円礫の中央を片面のみ使用面としている。8 号集石からも同一個体の破片が出土しており、接合関係する。

5号集石 (SY05) (第215図)

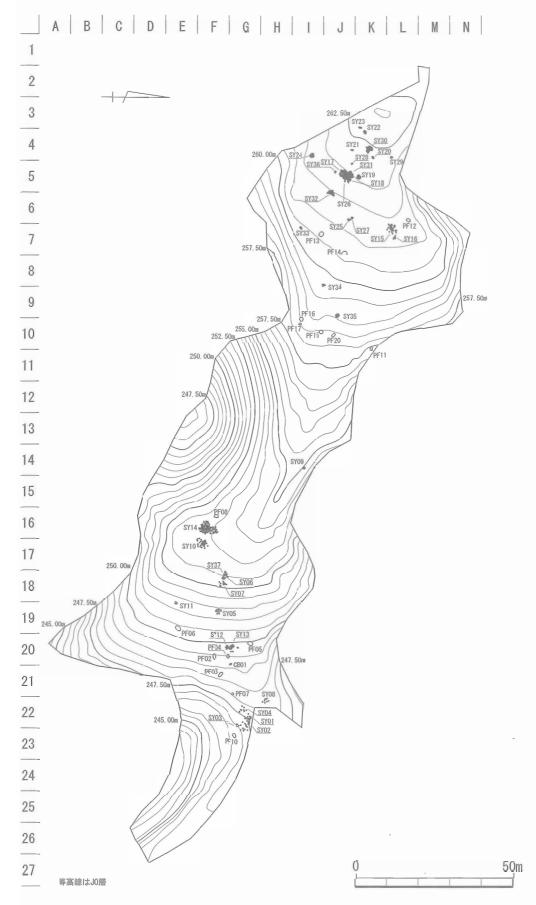
拳大の礫が主体である。拡がりは散漫である。礫18点はすべて赤化している。

6号集石 (SY06) (第216図)

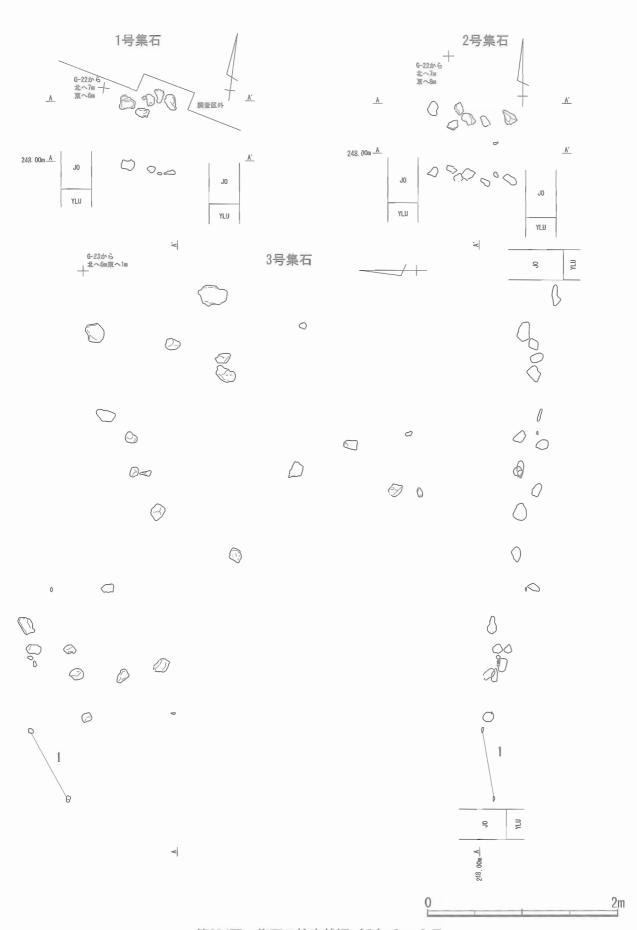
南側は市道による攪乱のため正確な範囲は不明である。小礫が主体であるが、一部人頭大の礫が混じる。拡がりは散漫である。礫30点のうち21点が赤化している。礫7点が4個体に接合でき、このうち1点は7号集石の礫と、2点は17号集石の礫と接合する。I群B類-1(山形押型文を施す押型文系土器)の土器片(第227図2)が出土した。



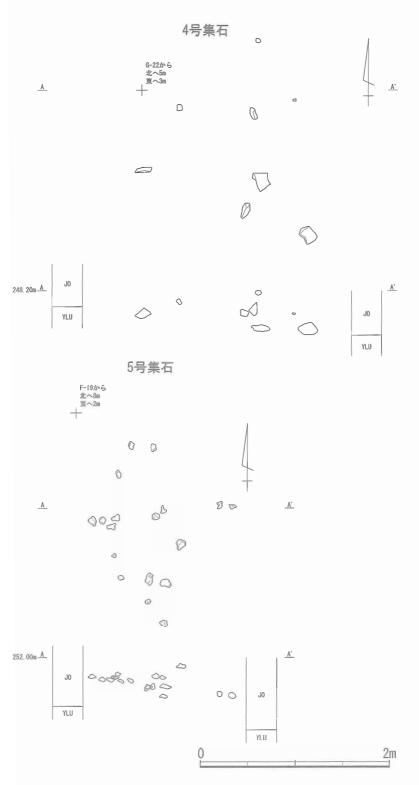
第212図 縄文時代の礫分布



第213図 縄文時代の集石・土坑分布



第214図 集石の検出状況(1) 1-3号



第215図 集石の検出状況(2)4・5号

7号集石 (SY07) (第216図)

南側は市道による撹乱のため正確な範囲は不明である。中央部には空白域が見られ、これを境に北側は小礫、南側は拳大の礫を主体に礫群を構成している。拡がりは散漫である。礫17点のうち15点が赤化している。礫1点が6号集石の礫と接合する。

8号集石 (SY08) (第217図)

北側は調査区外のため正確な範囲は不明である。小礫が主体である。拡がりは散漫である。礫 6 点は すべて赤化している。外縁部で破損した石皿 (第232図54) が出土した。 4 号集石の外縁部でこれと接 合する破片が出土した。この他、在地の胎土で製作した早期末の土器小片が出土した。

9号集石(SY09)(第217図)

拳大の礫が密集している。礫19点はすべて赤化している。

10号集石 (SY10) (第217図)

拳大の礫が主体で、一部人頭大の礫が混じる。中心部は比較的礫が密集し、外縁部は散漫に拡がる。 礫54点はすべて赤化している。同一群内で礫2点が1個体に接合できる。集石の外縁部でI群B類-3 (楕円押型文を施す押型文系土器)の土器片(第227図3)と打製石斧(第230図27)、磨-敲石(第231図31-33)が出土した。打製石斧は先端が欠損している。板状に剥離した大型剥片の縁辺部を剥離して石斧としたものである。磨-敲石は31と32が扁平な円礫を用い、33は円柱状の礫を用いた敲石である。

11号集石 (SY11) (第218図)

小礫が密集している。礫32点はすべて赤化している。同一群内で礫4点が2個体に接合できる。黒曜石の砕片1点が共伴する。

12号集石 (SY12) (第218図)

JO層下部で検出された。拳大よりやや大きな礫が密集しており、およそ2群に分割することができる。礫24点はすべて赤化している。同一群内で礫7点が3個体に接合できる。礫群周辺には炭化物粒が散在する。

13号集石 (SY13) (第218図)

JO層下部で検出された。小礫が密集しており、およそ2群に分割することができる。礫31点はすべて赤化している。同一群内で礫13点が4個体に接合できる。礫群周辺には炭化物粒が散在する。ガラス質黒色安山岩の剥片1点が共伴する。

14号集石 (SY14) (第219図)

拳大の礫が主体であり、一部人頭大の礫が混じる。拡がりはやや散漫である。礫113点はすべて赤化している。礫18点が7個体に接合できる。礫中に破砕した石皿が混じる。礫に混じって土器片が出土したが、時期差が大きいため混入の可能性が高い。第227図4は I 群 B 類-1 (山形押型文を施す押型文系土器)である。同図5は I 群 J 類 1 種(上ノ山式)である。口唇部は指頭で上下交互に弱い押捺を施している。6は II 群 B 類-7 (諸磯 b 式のうち縄文施文する土器)である。礫群北側に集中して出土した。胴上部は大きく開き、口縁部付近で稜を有して屈曲する。口縁部は稜も含めて波状を呈する。口唇部の先端はわずかに反りかえる。石器はガラス質黒色安山岩製削器(第230図28)、磨-敲石(第231図34、35)、石皿(第233図55)、黒曜石、ホルンフェルス、珪質粘板岩のそれぞれ剥片が出土した。削器は自然面が残る横長剥片を素材とし、切断した右側縁部に刃部を設けている。磨-敲石はいずれも扁平な円礫を用いている。34は赤化しており、35は煤が付着している。石皿は厚い角礫の平坦面全体を片面のみ使用面としている。

15号集石 (SY15) (第220図)

人頭大の礫、拳大よりやや大きな礫がおよそ3群に分かれて密集し、その周辺に小礫が散在している。

礫56点のうち55点が赤化している。同一群内で礫20点が9個体に接合できる。集石の外縁部で磨-敲石 (第231図36)と磨石(同図37、38)が出土した。いずれも扁平な円礫を用いている。礫に混じって1 群日類3種(野島式以降の条痕文系土器)の小片が出土した。

16号集石 (SY16) (第221図)

JO層下部で検出された。拳大の礫が主体である。拡がりは散漫である。礫り点はすべて赤化している。 I 群H類 1 種 (打越式)の口縁部破片 (第227図7)が出土した。平縁で、口唇部は角頭状を呈する。胴上部に断面四角形の隆帯を貼り付け、幅の狭い文様帯を作出している。

17号集石 (SY17) (第222図)

集石土坑である。検出面はこの遺構のすぐ東側に位置する26号集石より上位にある。楕円形の平面形、浅い擂鉢状の断面形を呈する土坑の中に小礫を隙間なく入れている。礫は土坑の上層に集中する。礫75点はすべて赤化している。礫6点が4個体に接合でき、このうち2点は7号集石の礫と接合する。礫に混じって破砕した磨石(第231図39)が出土した。また、I群H類1種(打越式)の土器の小片も出土した。

18号集石 (SY18) (第221図)

検出面はこの遺構のすぐ東側に位置する26号集石より上位にある。礫20点はすべて赤化している。人 頭大の礫と小礫が密集している。

19号集石 (SY19) (第222図)

集石土坑である。検出面はこの遺構の北西側に位置する2号竪穴住居跡の床面よりやや上位にある。 門形の平面形、鍋底状の断面形を呈する土坑の中に礫を隙間なく充填している。礫は拳大のものが最も 多いが、小礫や人頭大の礫も混じる。礫は土坑の上層に集中する。礫個数は167点である。覆土全体に 炭化物粒が混じる。礫はすべて赤化している。同一群内で礫35点が14個体に接合できる。磨-敲石(第 231図40)、磨石(同図41)と石皿(第233図57)が礫に混じって出土した。磨-敲石と磨石は2点とも扁 平な円礫を用いている。磨石は被熱している。石皿は扁平な円礫の中央部を両面とも使用面とし、側縁 には敲痕が見られる。この他、I群H類3種(野島式遺構の条痕文系土器)の小片と、黒曜石製剥片1 点が出土した。採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6080±40BP(AMS 法、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。この値は、本遺跡の竪穴 住居跡等から採取した木炭の年代値と比較して少なくとも300年以上若い。

20号集石 (SY20) (第221図)

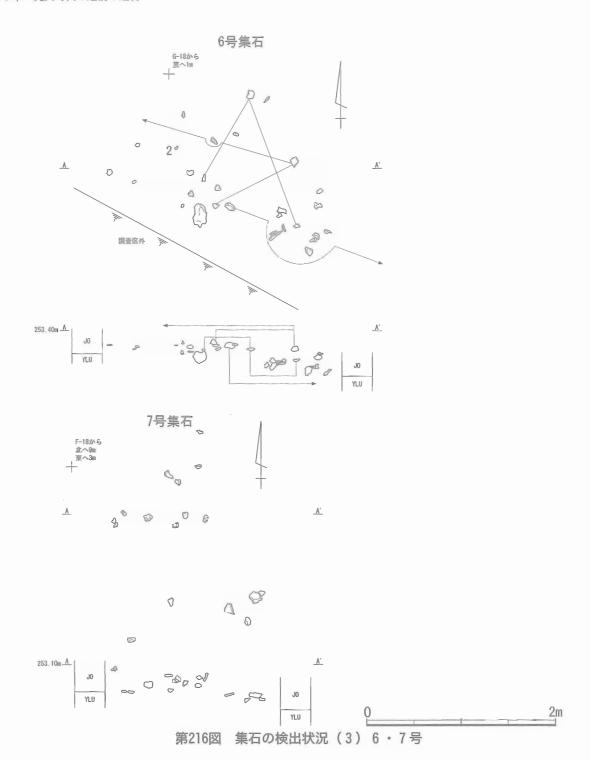
検出面はこの遺構の北東側に位置する2号竪穴住居跡の床面よりやや上位にある。拳大の礫が密集している。礫19点はすべて赤化している。小型の円礫を用いた敲石(第231図42)と円柱状の礫を用いた敲石(同図43)が礫に混じって出土した。42は被熱している。この他、I群C類(燃糸文系と押型文系土器に並行すると思われる縄文土器)の小片が出土した。

21号集石 (SY21) (第221図)

拳大の礫が密集している。礫9点はすべて赤化している。外縁部でI群H類I種(打越式)の土器小片が出土した。

22号集石 (SY22) (第222図)

:集石土坑である。瓢箪形の平面形を呈する土坑の一方に、一辺20cm前後の板状の礫と拳大の礫を隙間なく入れている。礫は土坑の上層に集中する。覆土全体に炭化物粒が混じる。礫が入っていない方の土坑覆土上層には焼土が見られ、下層は被熱による硬化が認められる。礫33点はすべて赤化している。同一群内で礫5点が2個体に接合できる。礫に混じって破損した黒曜石の石鏃(第230図29)、ホルンフェルスの石核(同図30)、黒曜石製剥片2点、扁平な円礫を用いた磨-敲石(第231図44)が出土した。石



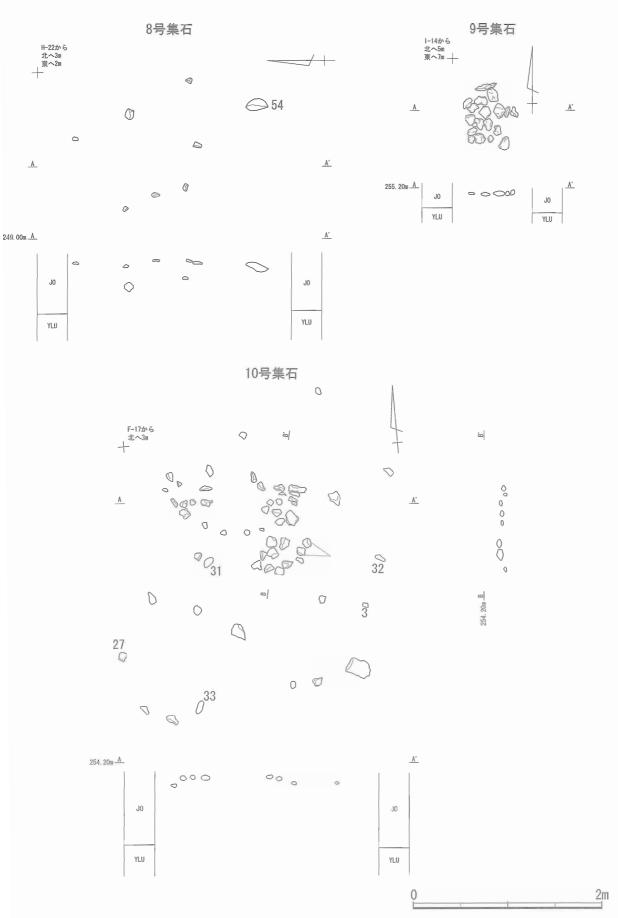
核は円柱状の原礫を同一方向から打撃して剥片剥離を繰り返した後、90度左に回転して打撃を加えている。採取された木炭を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、6390±40BP(AMS法、未較正)という年代値が得られた(附編 加速器分析研究所論文参照)。

23号集石 (SY23) (第221図)

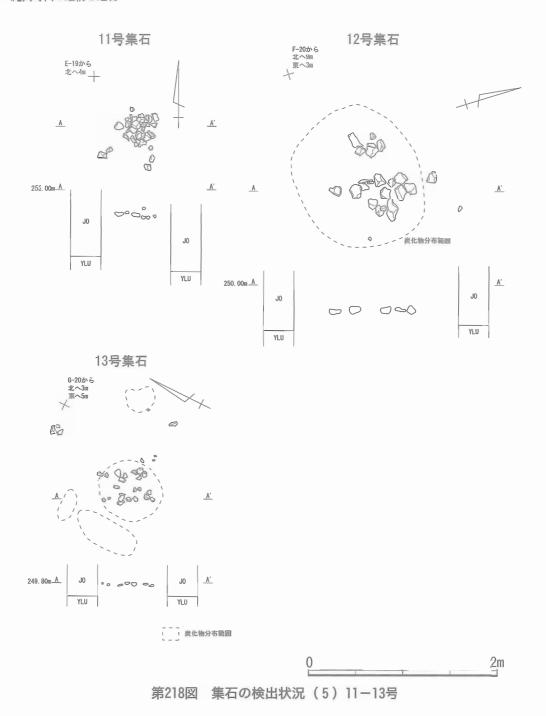
拳大の礫が密集している。礫21点のうち20点の礫が赤化している。同一群内で礫4点が2個体に接合できる。

24号集石 (SY24) (第221図)

検出面はこの遺構のすぐ北側に位置する15号竪穴住居跡の床面より上位にある。拳大の礫と小礫が密



第217図 集石の検出状況 (4) 8-10号



集している。礫68点はすべて赤化している。同一群内で礫2点が1個体に接合できる。礫に混じって土器片が出土した。第228図8-10は同一個体で、I群C類-1である。口唇部直下に無文域が見られる。同図11-14はI群H類1種(打越式)である。11-13は同一個体で、太列点状の貝殻腹縁で格子目文を施している。同図15-17はI群H類3種(野島式以降の条痕文系土器)の胴部破片である。この他にも同種の土器の小片が多く出土した。また、黒曜石製剥片3点が出土した。

25号集石 (SY25) (第221図)

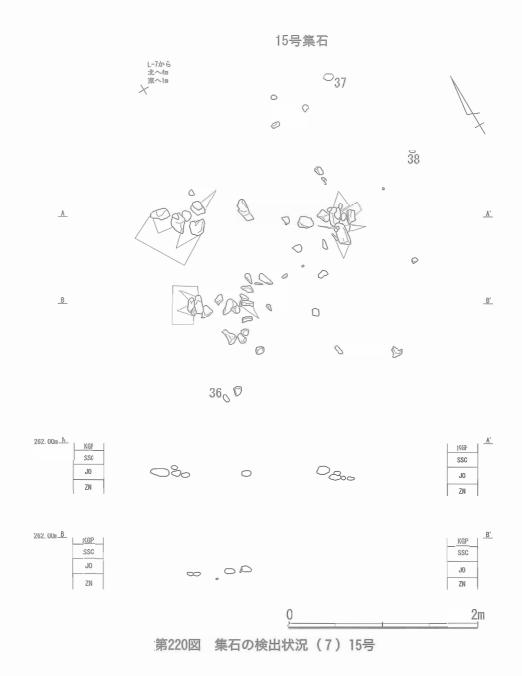
拳大よりやや大きな礫が密集している。礫22点のうち21点が赤化している。

26号集石 (SY26) (第223図)

17号集石、18号集石の調査終了後に検出された。部分的に拳大の磔が集中する部分が複数箇所あり、 その周辺に小礫が散在している。北西側には一辺最大約30cmの礫を含む一群が見られる。磔242点のう



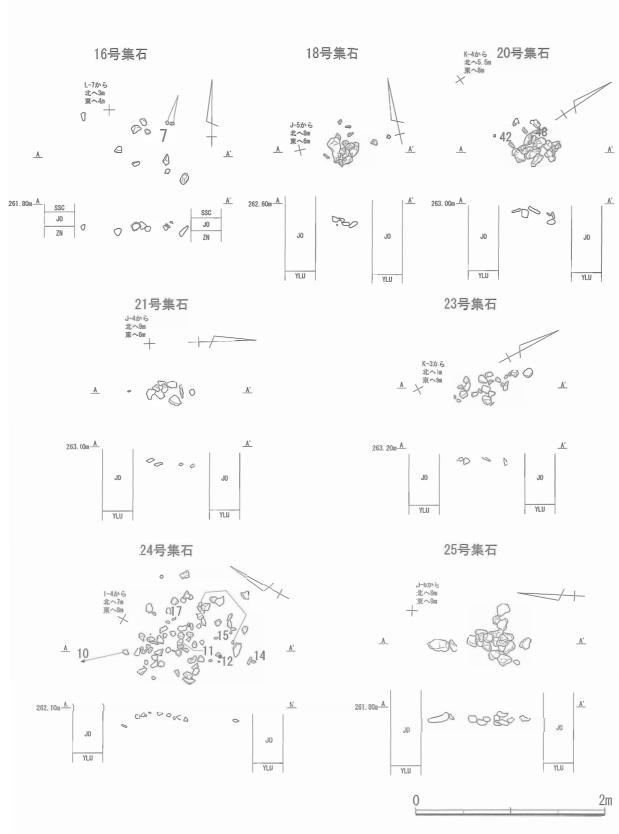
第219図 集石の検出状況 (6) 14号



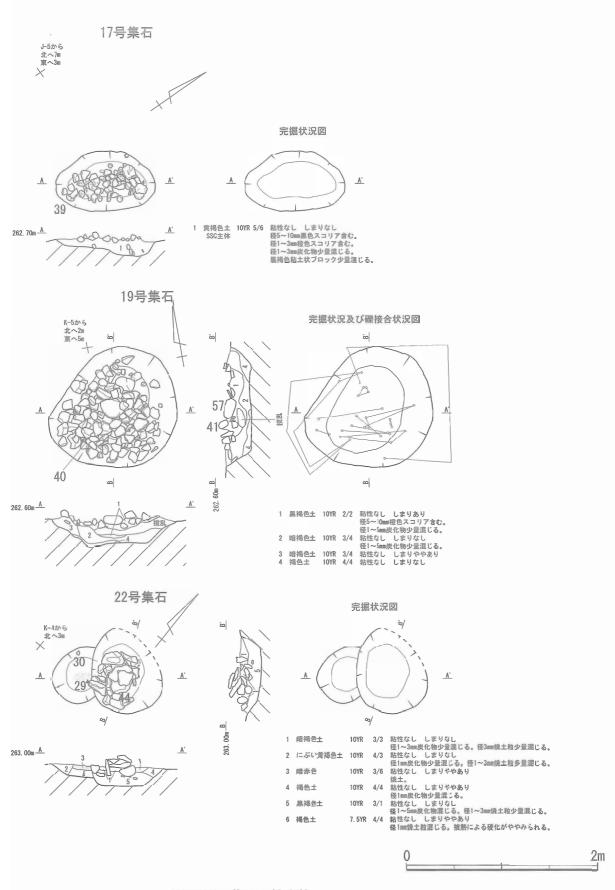
ち241点が赤化している。同一群内で礫 4 点が 2 個体に接合できる。礫に混じって土器片が出土した。第229図18は I 群A類(撚糸文系土器)-3.2、同図20-22は I 群H類 1 種(打越式)である。20と21は同一個体で、原体を下に引く貝殻条痕文で上段に類沈線文2段、下段に山形文を施している。22は格子状に条痕文を施した胴上部の破片である。同図23-25は同一個体で、I 群 J 類 4 種-2(石山式模倣品)である。縦位の連続した:刻みによる文様の間を指頭でなでている。同図19は I 群 K類(条痕文系/羽状縄文系移行期の下吉井式土器)である。このほか在地の胎土を持つ早期末の土器小片が多く出土した。石器は磨-敲石ないし敲石(第231図45-第232図49)と石皿片(第233図56)が出土した。45は扁平な円礫を用いた磨-敲石、46は凹石、47と48は円柱状の礫を用いた敲石、49は形態不明の敲石である。56は厚い角礫の平坦面全体を使用面としている。また、黒曜石、ガラス質黒色安山岩と赤玉石の剥片が出土した。

27号集石 (SY27) (第224図)

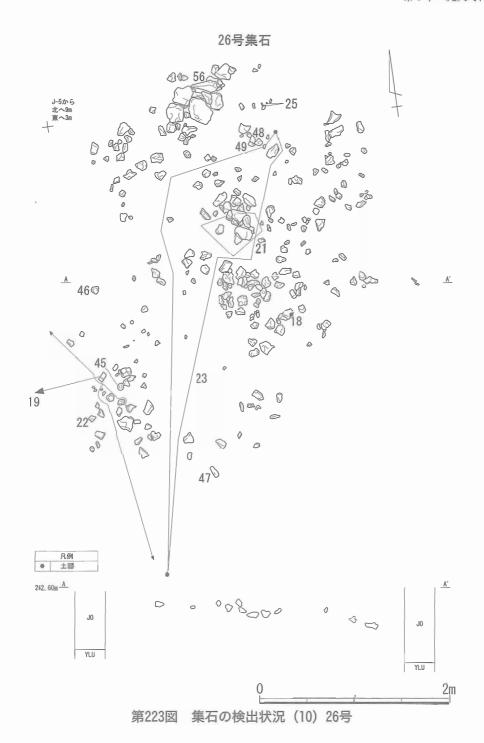
4号竪穴住居状遺構の上位から検出された。拳大の礫と小礫が密集している。礫19点のうち18点が赤



第221図 集石の検出状況 (8) 16・18・20・21・23-25号



第222図 集石の検出状況 (9) 17・19・22号



化している。

28号集石 (SY28) (第224図)

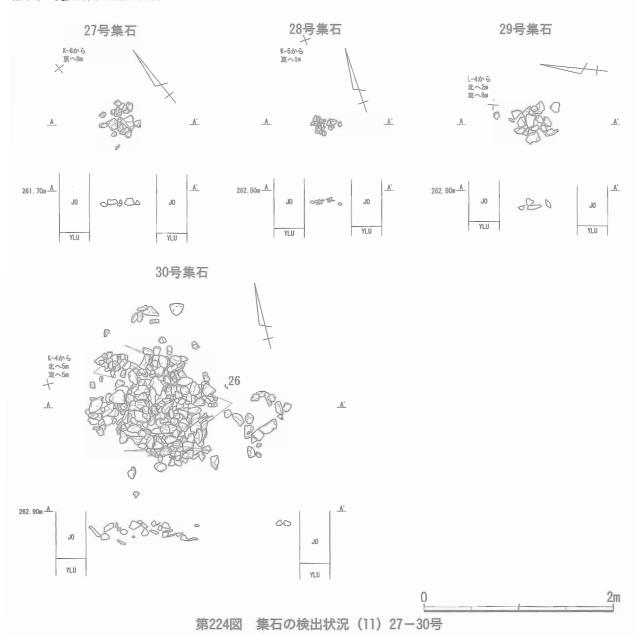
6号竪穴住居状遺構の上位から検出された。小礫が密集している。礫23点はすべて赤化している。同一群内で礫4点が2個体に接合できる。

29号集石 (SY29) (第224図)

拳大の磔が密集している。磔15点はすべて赤化している。磔中に石皿の小片3点が混じる。

30号集石 (SY30) (第224図)

南側は撹乱のため欠損している。礫が重層的に密集し、堆積の厚さは約30cm。礫の大きさは小礫から 人頭大のものまで見られるが、拳大の礫が最も多い。礫327点のうち325点が赤化している。同一群内で



礫16点が6個体に接合できる。礫に混じって I 群H類3種(野島式以降の条痕文系土器)の胴部破片 (第229図26)と、 I 群J類6種(早期末の東海系土器)の小片が出土した。また、石皿片 I 点が出土 した。

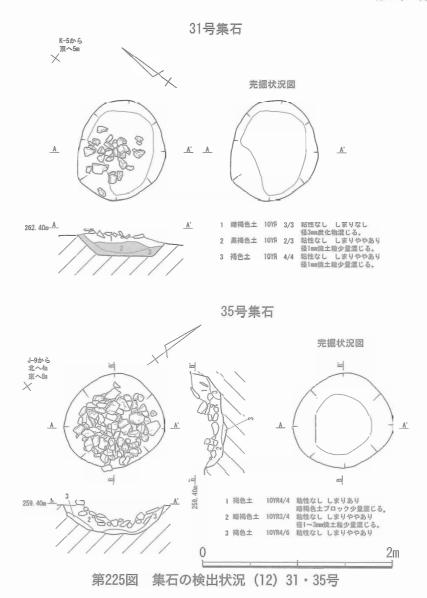
31号集石 (SY31) (第225図)

集石土坑である。円形の平面形、鍋底状の断面形を呈する土坑の中に拳大の礫を入れている。礫は土坑の上層西寄りに集中する。土坑覆土上層には炭化物粒、下層には焼土粒が混じる。礫36点のうち35点が赤化している。同一群内で礫4点が2個体に接合できる。礫に混じって石皿片1点が出土した。

32号集石 (SY32) (第226図)

拳大の礫が密集している。礫112点はすべて赤化している。同一群内で礫21点が10個体に接合できる。 礫に混じって I 群 J 類 2 種-2(入海 I 式模倣品)と、在地の胎土を持つ早期末の土器片が出土した。また、石器は扁平な円礫を用いた磨-敲石(第232図50)と石皿の小片 1 点、黒曜石製剥片 2 点が出土した。 33号集石(SY33)(第226図)

拳大の礫と小礫が密集している。礫27点のうち25点が赤化している。同一群内で礫2点が1個体に接



合できる。

34号集石 (SY34) (第226図)

一拳大の礫が主体である。拡がりはやや散漫である。礫13点はすべて赤化している。礫2点が1個体に接合できる。

35号集石 (SY35) (第225図)

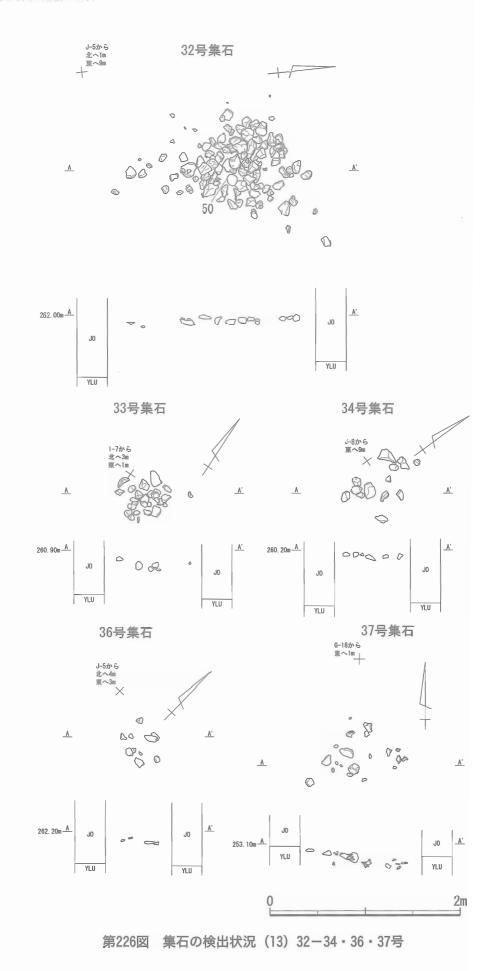
集石土坑である。円形の平面形、鍋底状の断面形を呈する土坑の中に拳大の礫を隙間なく入れている。 礫は土坑の上層に集中する。土坑中央部の礫の堆積が凹んでいるのが断面から見て確認できることから、 後で礫が抜き取られた可能性が考えられる。土坑覆土には焼土粒が混じる。礫141点のうち140点が赤化 している。同一群内で礫10点が5個体に接合できる。

36号集石 (SY36) (第226図)

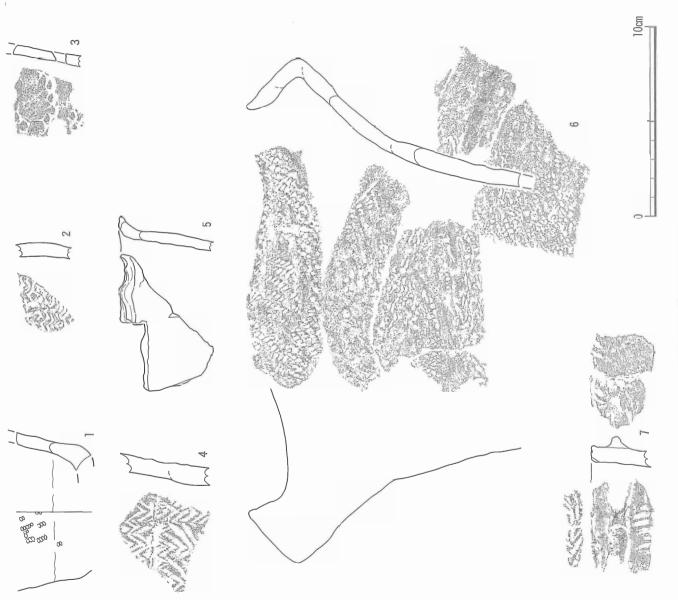
小礫が主体である。拡がりはやや散漫である。礫10点はすべて赤化している。

37号集石 (SY37) (第226図)

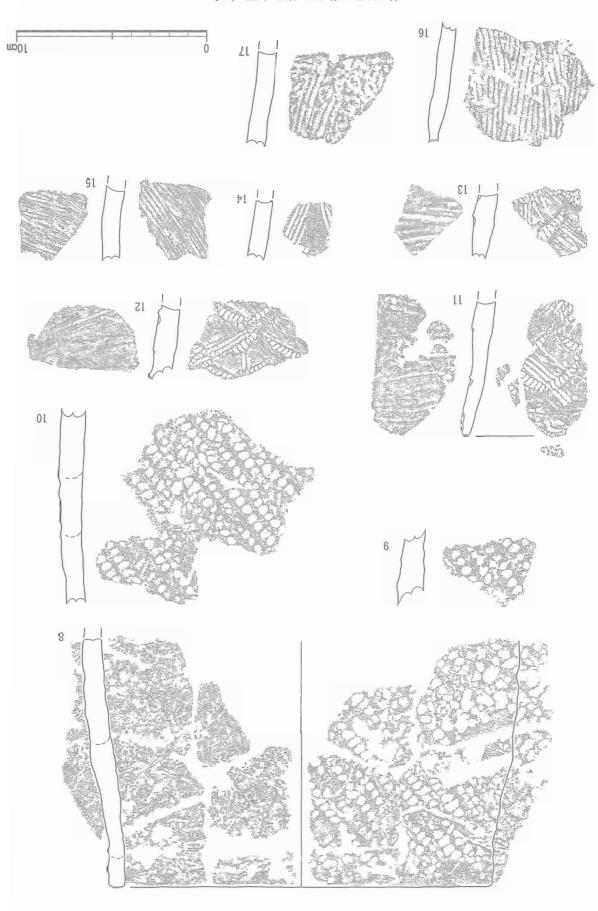
休場層上面で検出された。南側は市道による攪乱のため正確な範囲は不明である。拳大の礫と小礫が 混じる。拡がりはやや散漫である。礫20点のうち11点が赤化している。同一群内で礫4点が1個体に接 合できる。



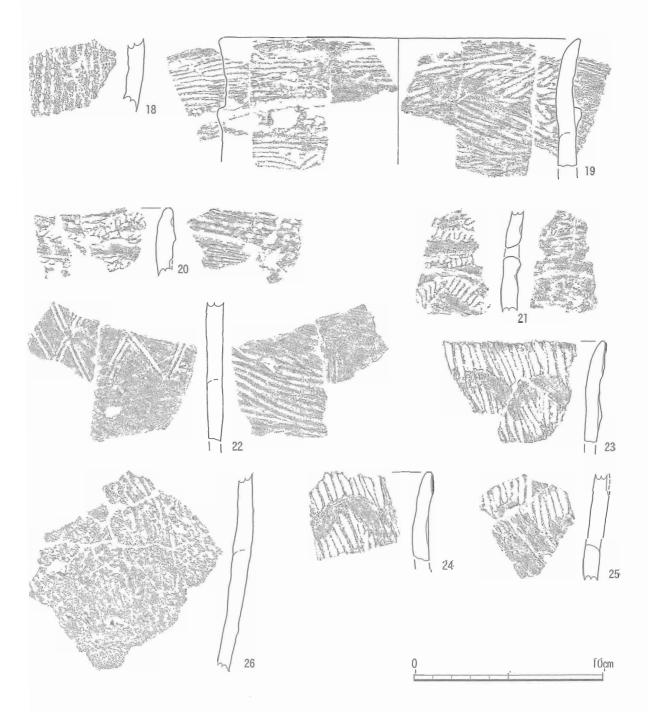
--- 260 ----



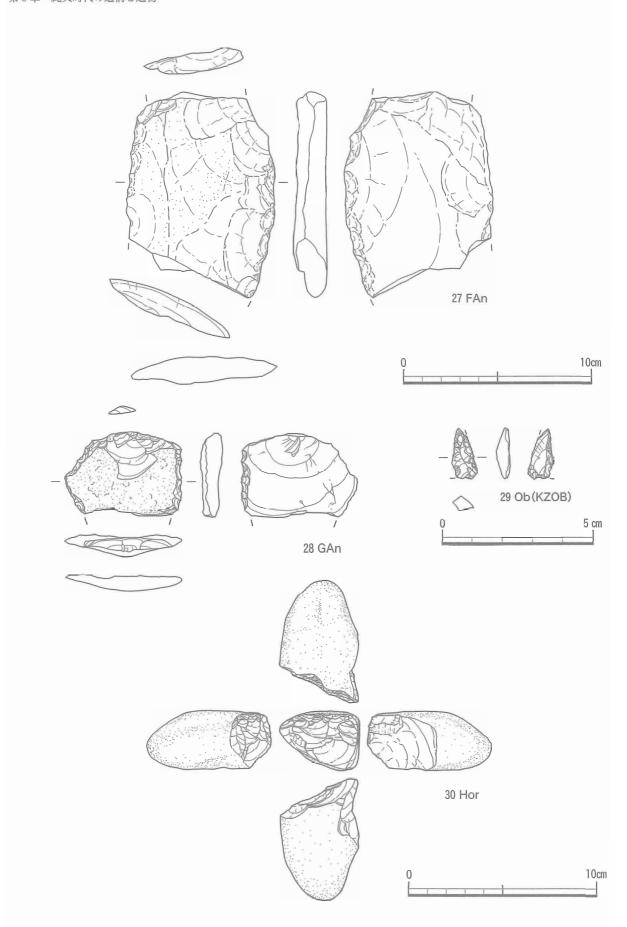
第227図 集石に伴う土器(1)



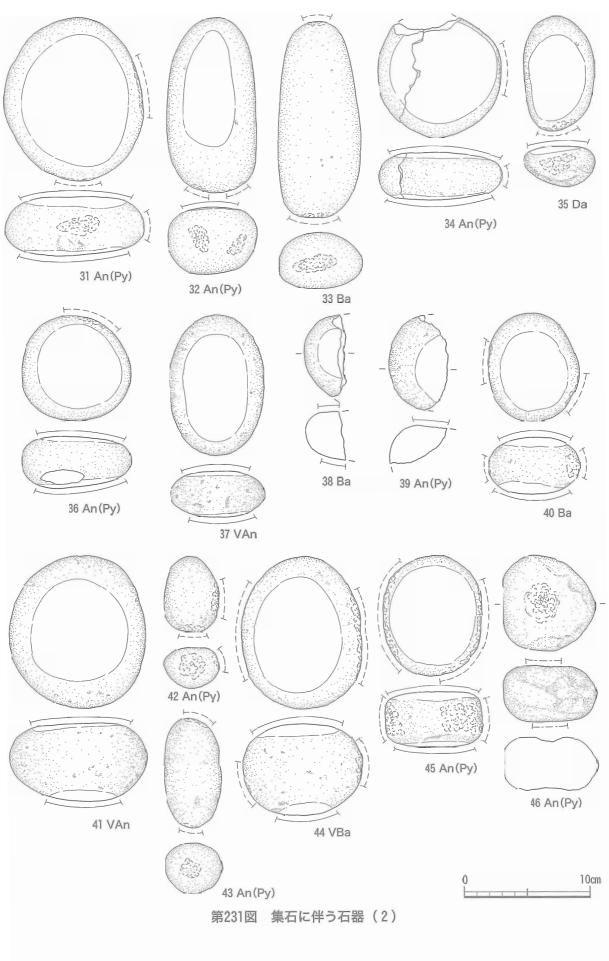
第228図 集石に伴う土器(2)

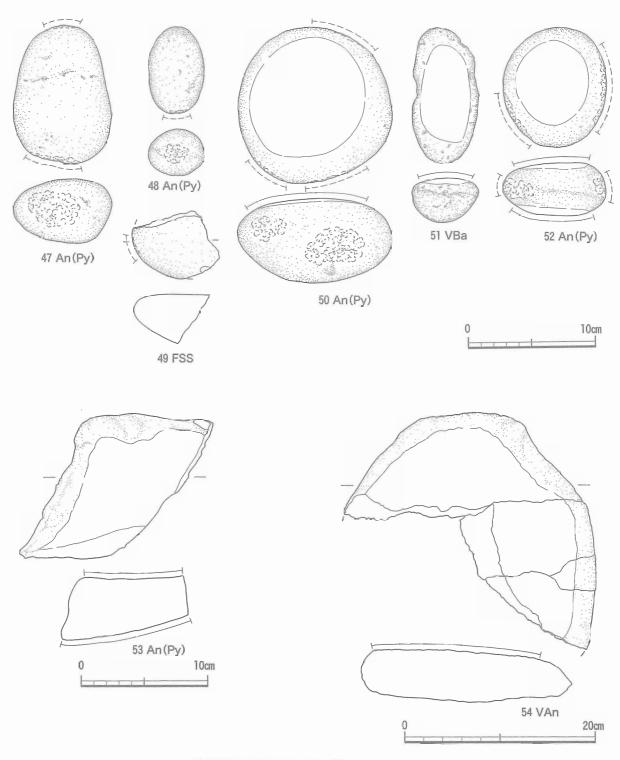


第229図 集石に伴う土器 (3)

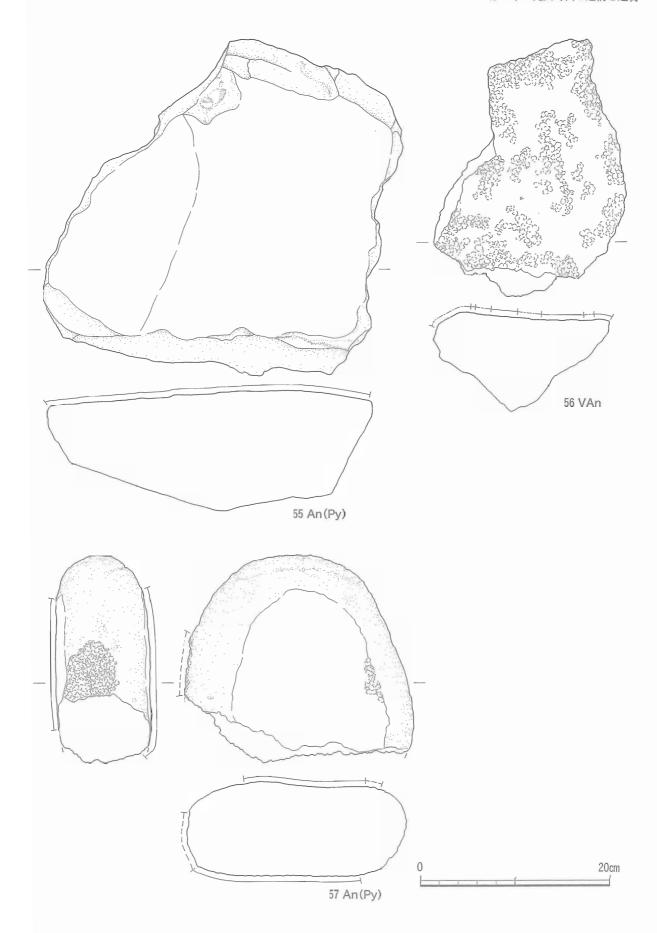


第230図 集石に伴う石器(1)





第232図 集石・土坑・焼土に伴う石器



第233図 集石に伴う石器(3)

表45 集石属性

集石	位置		 [[(m)	短径(m)	がらりが	碟総重量(g)	1.88	万思	出土土器	近接分布する土器
1号	G-22	加り込み	(0.58)	0.30	6	6380	-T-181	714 mm	JAI -LLHT	措碳 b式
2号	G-22		(0.95)	0.39	7	5750		-		諸磯b式
3号	G-22/23		5. 65	4.03	29	32930	2	1	諸磯b式7	諧磯b式
4号	G-22	_	2, 04	1.94	6	4900		2	間間 日 以 1	早期縄文、諸磯b式、井戸尻式
5号	F-19		1.99	1.57	18	3870				押型文
6号	F-18		2. 45	(1.55)	30	5140	1		押型文1	押型文
7号	F-18		2. 45	(1.79)	17	2910	1		TYEX I	押型文
8号	H-22		2.00	(1.79)	6	730	1	1		打越式、井戸尻式
9号	I-14		0.74	0.62	19	10520	1	Ţ		打磨工、开厂机具
10号	F-16/17			25.87	54	21590		- 4	押型文3	押型文、打越式、諧磯b式
		_	3.90		32	6880	1	4	押型入3	指磯 b 式、加曽利E l 式
11号	E-19		0.79	0.71	24	22870		1		押型文
12号	F-20		1.43			18780		1		押型文
13号	F/G-20		2.70	2.31	31	32200	10	1	Amazilaka i I salami murma a ma	
14号	F-16		5. 93	3.97	113		19	11	押型文1、上ノ山式、諸磯 b 式 7	押型文、打越式、諸磯り式
15号	L-7		3.71	2.89	56	33540	3	3		打越式等、諸磯b式
16号	L-7		1.31	0.62	9	2430	2	2		打越式等、諧磯b式
17号	J- 5	有	1.05	0.63	75	20880	2	2		打越式等、諸磯b式
18号	J-5		0.73	0.50	20	5830				打越式等、諸磯b式
19号	K-5	有	1.39	1.25	167	71850	3	5		打越式等、諸磯b式
20号	K-4		0.72	0.49	19	6530	1	2		打越式等、諧磯 b 式
21号	J-4		0.70	0. 25	9	1860	1			打越式等、諸磯b式
22号	K-4	有	(1.14)	(0.91)	33	35570		5		打越式等、諧磯b式
23号	K-3		0.87	0.38	21	4920				打越式等、諧磯b式
24号	I-4		1.45	1.16	68	10420	12	3	早期縄文1、打越式、打越式並行の条痕文	打越式等、諧磯b式
25号	J-6		1.08	0.66	22	18380				打越式等、諧磯b式
26号	J-5		4.49	3.62	2.42	81800	44	20	燃糸文3.2、下吉井式、打越式、石山式(模倣)	打越式等、諧磯b式
27号	J-6		0.52	0.44	19	5i040				打越式等、諧磯b式
28号	J-5		0.33	0.24	23	980				打越式等、諧磯b式
29号	L-4		0.69	0.49	15	8420		3		打越式等、諸磯b式
30号	K-4		2.17	(2.05)	327	140810	3	1	打越式並行の条痕文	打越式等、諧磯b式
31号	J-5		1.08	0.91	36	9170		2		打越式等、諸磯b式
32号	J-5/6		2. 21	1.71	112	46970	2	4		打越式等、脂磯b式
33号	I-7		0.20	0.56	27	11940				撚糸文、早期縄文、打越
34号	I/J-8		0.92	0.70	13	6790				早期縄文
35号	J-9	:有	(1.06)	(1.00)	141	58090				早期縄文
36号	J-5		0. 53	0. 42	10	1220				打越式等、諸磯b式
37号	F-18		(1.10)	(0.69)	20	3500				押型文

表46 集石出土土器属性

() は推定値

200	-	1-1-1-	_	Held Man Impa						') to the ve in
挿図 番号	掲載 番号	集石 番号	層位	型式等	残存状況	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
227	1	3号	覆土	諸磯b式7	胴部下部1/2 底部一部	底径 (6.0)	10YR5/4	にぶい遺燈	石英多 白色岩片多	平底。胴部にRLの縄文を横位に施文、	
227	2	6号	覆土	押型文 1	胴部破片		5YR4/6	赤褐	石英少 白色粒子少	山形押型文を積位に施文。	
227	3	10-号	覆土	押型文3	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい掲	石英 白色粒子	楕円押型文を横位に2段施文。無文域あり。	
227	4	14号	覆土.	押型文1] 胴部破片		7.5YR5/4	に、おい褐	石英 白色粒子 輝石	山.形押型文を横位に2段施文。	
227	5	14号	覆土	上ノ山式] 口縁部破片		10YR£/3	に、ぶい黄橙	繊維 石英 白色粒子 金雲母	平穏。ロ唇部は外面内面を交互に指頭押圧。胴部 外面内面ナデ。	
227	6	14号	包含層	諸磯b式 7	口漂部1/6 胴部上部2/3	(21.4)	7.5YR5/4	にぶい物	日色岩片 赤色岩片 金雲母多	波頂部4方。口唇部僅かに反り返る。肩部上部は 外へ大きく開き、口縁部はくの字に屈曲。屈曲部 も波状。胴部に結節を伴うLRの縄文を横位に施 文。	
227	7	16号	覆土	打越式	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子少	平緑。ロ唇部角頭状。面に横位の条痕文。内面ロ唇部端部を箟で刻み。胴部上部に隆帯を貼付。隆 帯下部は緑位に条痕文を施文。	
228	8	24号	包含層	早期縄文1	口縁部から脂 部上部1/5		5YR4/4	にぶい赤褐	繊維少 白色粒子多 白色岩片多 即石 礫	平縁。口唇部角頭状。外面胴部LRの縄文を縦位 に施文。口唇部直下に無文潜あり。内面口唇部直 下にLRの縄文を横位に施文。	8-10は同一 個体
228	9	24号	包含周	早期縄文1	胴部被片		5YR4/4	にぶい赤褐	纖維少 白色粒子多 白色岩片多 輝石 漂	LRの縄文を縦位に施文。	{8−10は同→ 個体

挿図 番号	掲載番号	集石 番号	層位	型式等	残存状况	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
228	10	24号	包含層	早期縄文1	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤褐	繊維少 白色粒子多 白色岩片多 即石 礫	LRの縄文を総位に施文。	8-10は同一 個体
228	11	24号	覆土	打越式	口縁部から胴部上部破片	口縁部から胴 赤色粒子 右下に斜位の条痕文を施文後、太い列点状の貝		平縁か。口唇部角頭状。面に篦で刻み。外面胴部 右下に斜位の条痕文を施文後、太い列点状の貝殻 腹縁で格子目文を施文。内面は横位の条痕文を磨 り消す。	11-13は同 一個体		
228	12	24号	包含層	打越式	胴部破片		7.5YR6/6	橙	石英 赤色粒子 白色岩片	外面胴部右下に斜位の条痕文を施文後、太い列点 状の貝殻腹縁で格子目文を施文。内面は横位の条 痕文を磨り消す。	11-13は同 一個体
228	13	24号	包含層	打越式	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	石英 白色粒子 赤色粒子	外面胴部右下に斜位の条痕文を施文後、太い列点 状の貝殻腹縁で格子目文を施文。内面は積位の条 痕文を磨り消す。	11-13は同 一個体
228	14	24号	覆土	打越式	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子 輝石	格子状条痕文を施文後、列点状の貝殻腹縁文を施 文。	
228	15	24号	覆土	打越式3	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	石英 白色岩片	外面右下に斜位の条痕文を施文。内面は横位の条痕文。	
228	16	24号	包含層	打越式3	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄檀	石英 白色岩片	縦位の条痕文を施文。	16/17は同 一個体
228	17	24号	覆土	打越式3	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄橙	石英 白色岩片	縦位の条痕文を施文。	16/17公同 一個体
229	18	26号	覆土	燃糸文3.2	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 赤色粒子少	Lの撚糸文を縦位に施文。	
229	19	26号	覆土	打越式3	口縁部から胴 部上部1/6	口径 (18.8)	7.5YR6/6	橙	白色粒子多 黒色粒子多 輝石少	平縁。口唇部内削ぎ。先端が失る。外面胴部上部 に隆帯を水平に貼付。胴部全体に横位の条痕文を 施文。内面は横位の条痕文。	
229	20	26号	覆土	打越式	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	石英少 白色粒子	平緑。口縁部が丸い。外面胴部には下に少し引く 貝殻腹縁で頬沈線文を2段施文。1段目は一部分 岐して菱形文を施文。内面は横位の条鎖文。	20/21は同 一個体
229	21	26号	覆土	打越式	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	石英少 白色粒子	外面に貝殻腹縁文を4段施文。1 段目は山形か。 2・3 段目は下に少し引く類沈線文。4 段目は下 に引く山形文。内面横位の条痕文。	20/21は同 一個体
229	22	26号	覆土	打越式	胴部破片		2.5YR5/8	明赤褐	石英少 白色粒子多 亦色粒子	外面に格子状の条痕文を施文。内面は横位の条痕 文。	
229	23	26号	覆土	石山式模倣	口縁部破片		7.5YR5/6	明裡	石英少 白色粒子 赤色粒子 黒色粒子 素色粒子	平縁。 ロ唇部が丸い。外面ロ唇部直下は篦で縦位 の密接した刻目列を水平に施文。 胴部上部は篦で 縦位の密接した刻目列を波状に施文。 刻目列の間 はナデ。	23-25は同 一個体
:229	24	2号竪 穴住居 状遺構	覆土	石山式模倣	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄橙	石英少 白色粒子 赤色粒子 黒色粒子	平縁。口唇部丸い。外面口唇部直下篦で縦位の密接した刻目列を水平に施文。胴部上部に篦で縦位の密接した刻目列を波状に施文。刻目列の間はナデ。	23-25は同 個体
229	:25	26号	覆土	石山式模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	石英少 白色粒子 黒色粒子	篦で縦位の密接した刻目列を波状に施文。	23-25は同 一個体
229	26	30号	覆土	打越並行	胴部破片		7.5YR5/4	に、ぶい褐	白色粒子少	縦位の条痕文を磨り消す。	

2 土坑 (略号: PF)

土坑は住居跡群の外縁部に相当する6-10列と、16-23列の集石の周辺に分布している。10-15列間は尾根幅の狭い急傾斜地で、遺構の分布は希薄である。各種属性は表47のとおり。

本遺跡で検出された土坑は次の4つに分類できる。

- ①底面形楕円形または長方形、断面形は台形で逆茂木痕のあるもの(PF04/06/08/10)
- ②底面形楕円形または長方形、断面形は台形で逆茂木痕のないもの (PF02/11/12/13/20)
- ③底面形円形または方形、断面形は台形で遊茂木痕のないもの(PF05/15/16)
- ④底面形、断面形とも不整形なもの(PF03/14/17)

以下では、2-6、8、10-17、20号の15基について報告する。

4号土坑 (PF04) (第234図)

底面形は隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。底面には3箇所の逆茂木痕が見られる。

6号土坑 (PF06) (第234図)

底面形は不整楕円形を呈する。南北壁の上段は急峻に立ち上がり、下段は底面に向かってやや斜めに 掘り込まれている。東西壁は急峻に立ち上がる。底面には13箇所の逆茂木痕が見られる。

8号土坑 (PF08) (第234図)

底面形は楕円形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。底面には 6 箇所の逆茂木痕が見られる。覆土から 在地の胎土を持つ早期末の土器の胴部小片が出土した。

10号土坑 (PF10) (第234図)

底面形は北東壁側が楕円形、南西壁側が隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。底面にはI0箇 所の逆茂木痕が見られる。

2号土坑 (PF02) (第235図)

底面形は隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。南東壁は崩落している。

11号土坑 (PF11) (第235図)

底面形は隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。

12号土坑 (PF12) (第235図)

底面形は楕円形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。

13号土坑 (PF13) (第235図)

底面形は北壁側が楕円形、南壁側が隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。覆土から I 群 J 類 3 種-1 (入海 II 式) の胴部破片と磨石 (第232図51)、石皿片 1 点が出土した。土器片は14号住居跡から出土した第129図16-19と同一個体である。磨石は扁平な円礫を用いている。

20号土坑 (PF20) (第235図)

底面形は隅丸長方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。

5号土坑 (PF05) (第236図)

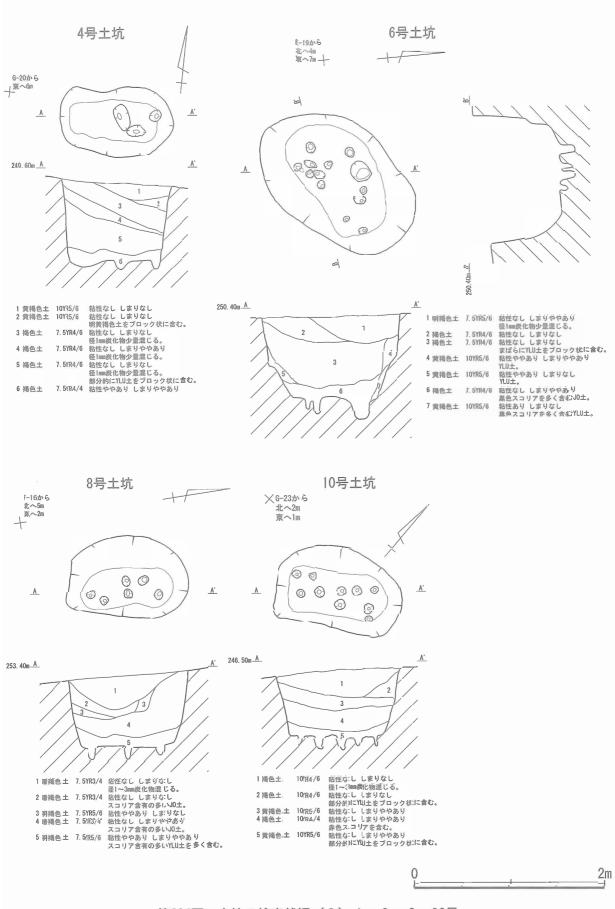
底面形は隅丸方形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。北東壁は崩落している。

15号土坑 (PF15) (第236図)

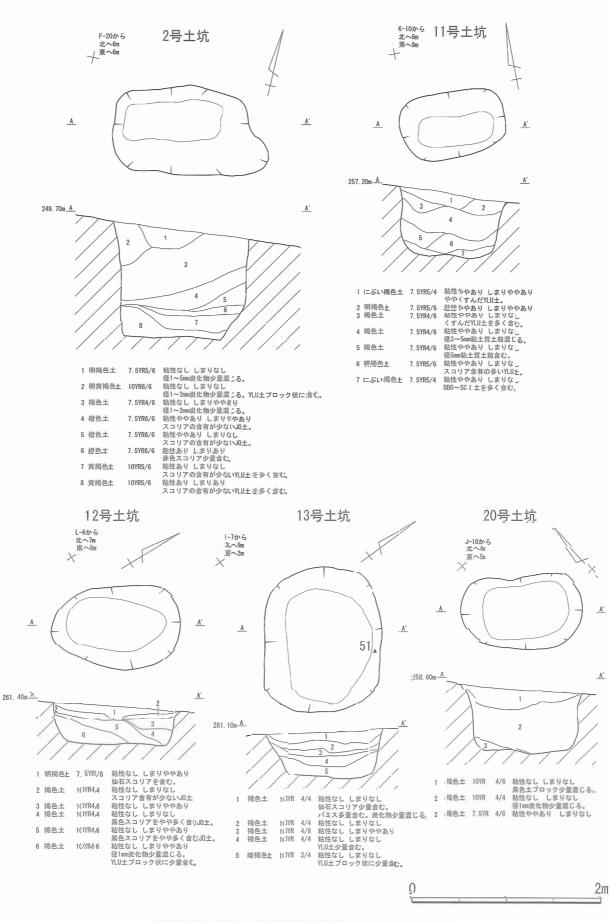
底面形は円形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。

16号土坑 (PF16) (第236図)

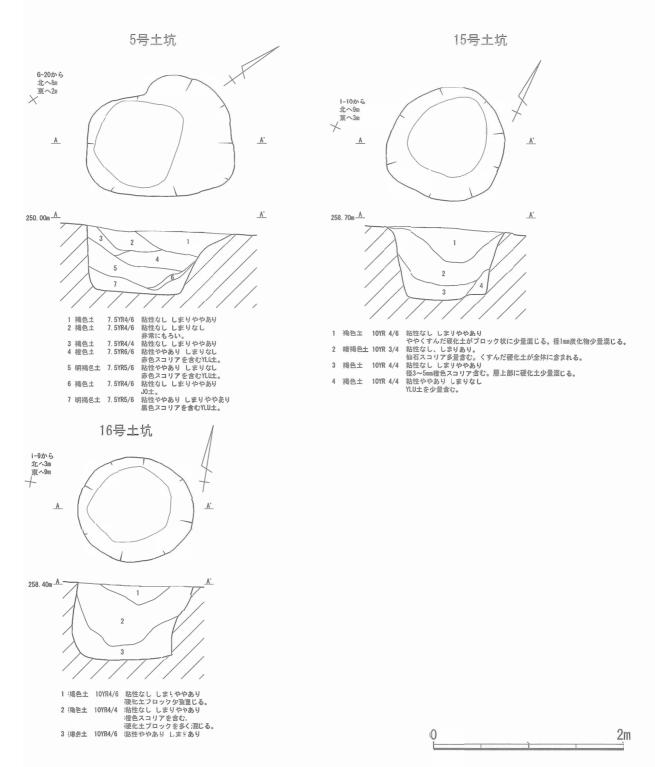
底面形は円形を呈する。壁は急峻に立ち上がる。



第234図 土坑の検出状況(2)4・6・8・10号



第235図 土坑の検出状況 (3) 2・11-13・20号

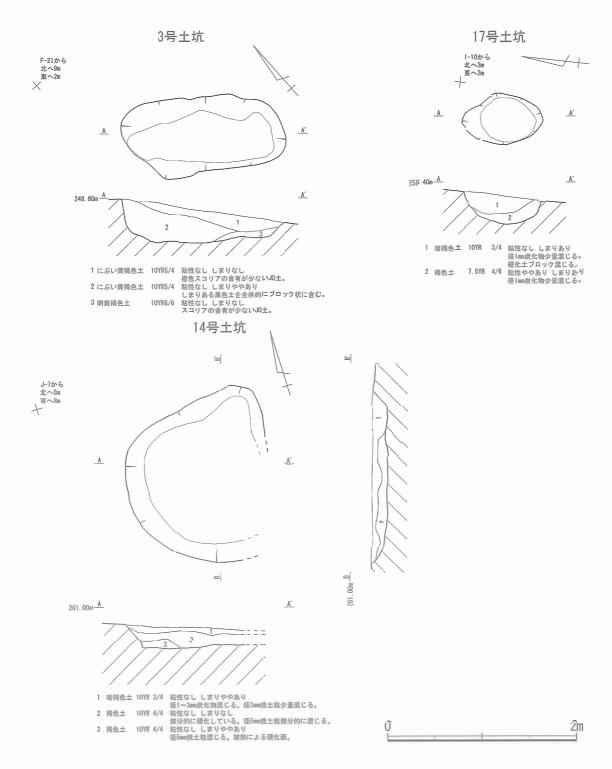


第236図 土坑の検出状況(4)5・15・16号

3号土坑 (PF03) (第237図)

平面形は検出面、底面とも不整楕円形を呈する。壁は斜めに立ち上がる。 17号土坑 (PF17) (第237図)

底面形は楕円形、断面形は擂鉢形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。



第237図 土坑の検出状況 (5) 3・14・17号

14号土坑 (PFI4) (第237図)

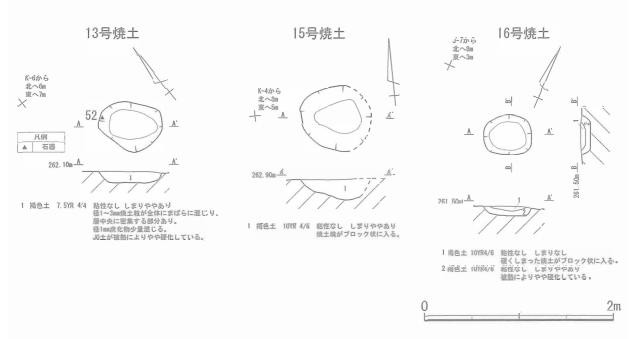
南東側は撹乱と4号竪穴住居跡により欠損している。底面形は不整方形を呈すると推定される。壁は 斜めに立ち上がる。覆土から I 群H類 I 種(打越式)の胴部小片と礫が出土した。

表47 土坑属性

土坑	位置	底部平面形	長径 (m)	短径(m)	最大深(m)	逆茂木痕数	出土土器	近接分布する土器
4号	G-20	隅丸長方形	1.18	0.75	0.94	3		押型文
6号	E-19	楕円形	1.84	1.10	0.94	13		押型文
8号	F-16	楕円形	1.26	0.86	0.83	6		押型文、諸磯D式
10号	G-23	隅丸長方形	1.33	0.77	0.77	10		
2号	F-20	隅丸長方形	1.42	0.96	1.26			押型文
11号	K-10	隔丸長方形	1.11	0.71	0.77			早期縄文
12号	L-6		1.34	0.89	0.44			打越式等
13号	I/J-7	隅丸長方形	1.53	1.23	0.53		入海Ⅱ式	燃糸文、打越式等
20号	J-10	隅丸長方形	1.29	0.80	0.74			早期縄文
5号	G-20	隅丸方形	1.54	1.28	0.74			押型文
15号	I-10	円形	1.28	1.20	0.78			早期縄文
16号	I-9/10	円形	1.22	1.11	0.82			早期縄文
3号	F-21	不整楕円形	1.71	0.79	0.46			押型文
17号	I-10	楕円形	0.86	0.54	0.35			早期縄文
14号	J-7	不整方形	0. 94	不明	0.13		打越式	撚糸文、打越式等

3 焼土 (略号:FP)

3ヶ所で検出された(第238図、表48)。13・15・16号焼土は、いずれも平面形は楕円形を呈し、覆土に粒状の焼土が多く混じるごく浅い土坑状の焼土である。13号では、覆土からやや扁平な磨-敲石(第232図52)が出土した。



第238図 焼土の検出状況 13・15・16号

表48 焼土属性

() 内は推定値

		() () () () () () () () ()			
焼土	位置	底部平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	最大深 (m)
13号	K-6	植円形	0.65	0.50	0.12
5号	K-4	楕円形	(0.76)	(0.68)	(0. 22)
6号	J-7	楕円形	0.50	0.41	0.11

表49 集石・土坑・焼土出土石器属性

20070	3/2.17I	70	/VU-L-H-I-H	H 41-0 1-1-								
挿図番号	掲載番号	遺物番号	石材	推定產地	接合番号	遺構番号	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
230	27	1500	細粒安山岩			SY10	覆土:	打製石斧	108.9	77.7	17.0	183. 1
230	28	1377	ガラス質黒色安山岩			SY14	覆土	削器	27.7	38.6	6.5	7.3
230	29	22229	黒曜石	神津島恩馳島		SY22	覆土	石鏃	16.9	7.8	4. 1	0.5
230	30	22647	ホルンフェルス			SY22	覆土	石核	31.3	41.6	65. 1	93, 4
231	31	1497	輝石安山岩			SY10	JO	磨-敲石	129.0	110.0	47.0	964, 6
231	32	1562	輝石安山岩			SY10	JO	磨-敲石	138. 0	70.0	53.0	755. 1
231	33	1504	玄武岩			SY10	JO	敲石	155.0	65.0	44.0	661.6
231	34	1385	輝石安山岩			SY14	JO	磨-敲石	94. 0	97.0	38. 0	347.5
231	35	1458	デイサイト			SY14	JO	磨-敵石	91.0	56.0	32.0	195.7
231	36	2604	脚石安山岩			SY15	JO	赠-敲石	83.0	86.0	41.0	463.6
231	37	2571	多孔質安山岩			SY15	JO	磨石	111.0	74. 0	36.0	391.3
231	38	2544	玄武岩			SY15	JO	磨石	32.0	65.0	39. 0	98.3
231	39	15456	輝石安山岩			SY17	覆土	磨石	74.0	45. 0	30.0	100.3
231	40	21318	玄武岩			SY19	覆土	磨-敲石	86.0	72.0	45.0	421.9
231	41	21486	多孔質安山岩			SY19	覆土	磨石	120.0	107.0	62. 0	1127.3
231	42	15497	輝石安山岩			SY20	JO	敲石	60.0	43.0	32.0	96. 9
231	43	15498	輝石安山岩			SY20	JO	敲石	86.0	45.0	40.0	202. 2
231	44	22233	多孔質安山岩			SY22	覆土:	唐-敲石	121.0	94.0	73. 0	987.0
231	45	20125	輝石安山岩			SY26	JO	磨-敲石	95.0	77.0	44. 0	545.7
231	46	19913	輝石安山岩			SY26	JO	凹石	75.0	73. 0	44. 0	353.6
232	47	19909	輝石安山岩			SY26	JO	敲石	110.0	77.0	51.0	509.5
232	48	19923	輝石安山岩			SY26	JO	敲石	68.0	43.0	37.0	140.1
232	49	19922	砂岩(細粒)			SY26	JO	敲石	54. 0	68. 0	39. 0	127.7
232	50	22123	輝石安山岩			SY32	JO	磨-敲石	122. 0	122.0	66.0	1227.1
232	51	10541	多孔質安山岩			PF13	床面	磨石	107.0	52.0	35.0	208.0
232	52	17896	輝石安山岩	_		FP13	覆土	磨-敲石	95. 0	81.0	42. 0	414.6
232	53	544	輝石安山岩			SY04	JO	石皿	117.0	154.0	52. 0	1080.0
232	54	590 857 856 855	多孔質安山岩			SY08 SY04 SY04 SY04	JO	石皿	254. 0	254. 0	62. 0	1810.0
233	55	1379	輝石安山岩			SY14	JO	石皿	357. 0	378.0	129. 0	21000.0
233	56	20116	多孔質安山岩			SY26	JO	石皿	271.0	204.0	104. 0	5400.0
233	57	21806	輝石安山岩			SY19	覆土	石皿	220.0	240.0	100.0	8500.0

第7節 遺構外出土遺物

1 石器群

概要

FB-KUに相当する層準(JO)から4337点の剥片石器類と768点の礫石器類が出土した(表30)。剥片石器類の製品は153点で、遺構内で14点、遺構外で139点である。全体の内訳は石鏃が88点(欠損品を含む)と多く、製品の約半数を占めるが、大半は住居跡等との関連が不明瞭である。

剥片石器類の石材は大多数が黒曜石製で、そのうち剥片・砕片が全体の約96%を占める。黒曜石製のトゥールと石核に関しては望月氏に蛍光X線による産地分析を行って頂いた(巻末附編参照)。その結果、神津島恩馳島産の黒曜石を用いたものが最も多く、諏訪星ヶ台産がこれに続くことが判明した(表29)。しかし、両者の点数は懸隔が著しい。剥片・砕片の原産地分析はほとんど行わなかったので情報は限定されてしまうが、神津島恩馳島産には原石ないしそれに近い状態で持ち込む石材搬入-石器生産が想定され、対照的に諏訪星ヶ台産は素材剥片搬入からの石器生産もしくは製品搬入が想定される。

磨石や敲石のような礫石器類の点数が非常に多いことも本遺跡の特徴である(第239図)。破損品を含めて768点検出された。植物質資源を含む加工作業が盛んに行われていたことが窺える。特に竪穴住居跡群の集中する西部に分布する大半は、早期末土器型式群と共伴していると見なしても大過はないと思われる。

それに対して、調査区東部では、押型文系土器群、諸磯b式土器群、井戸尻式土器群などの分布域がそれぞれ見られ、集石や土坑を伴うようにみえる。いずれも分布域でも石器群が少ないが、共通して黒曜石製石器群が少ない傾向がある。本遺跡東部で時期を問わず黒曜石消費が低調であるという上記の現象は、時期によって狩猟の準備をするには不適当な生態環境が形成されていたことを意味しているのかもしれない。

2 出土石器の検討

石鏃 (第245図 3 - 第246図48 · 51-67)

63点を図示した。完形品の平均重量は約0.6グラムである。形態は以下のように分類できる。

I類a: 抉りが比較的深く入り、その形状が三角形に近いもの。3-7は基部全体を抉り、8-10は平坦部が残る。

Ⅰ類b:抉りが比較的深く入り、その形状が逆U字形に近いもの。11-13が該当する。

Ⅱ類a: 抉りが浅く緩い弧状になり、側縁が膨らむもの。14-28が該当する。14-21は両側縁とも膨らむ。22-26は一方の側縁が膨らみ、もう一方は直線状である。27と28は両側縁とも下部がわずかに膨れる。

Ⅱ類b:抉りが浅く緩い弧状になり、側縁が直線状のもの。29-36が該当する。

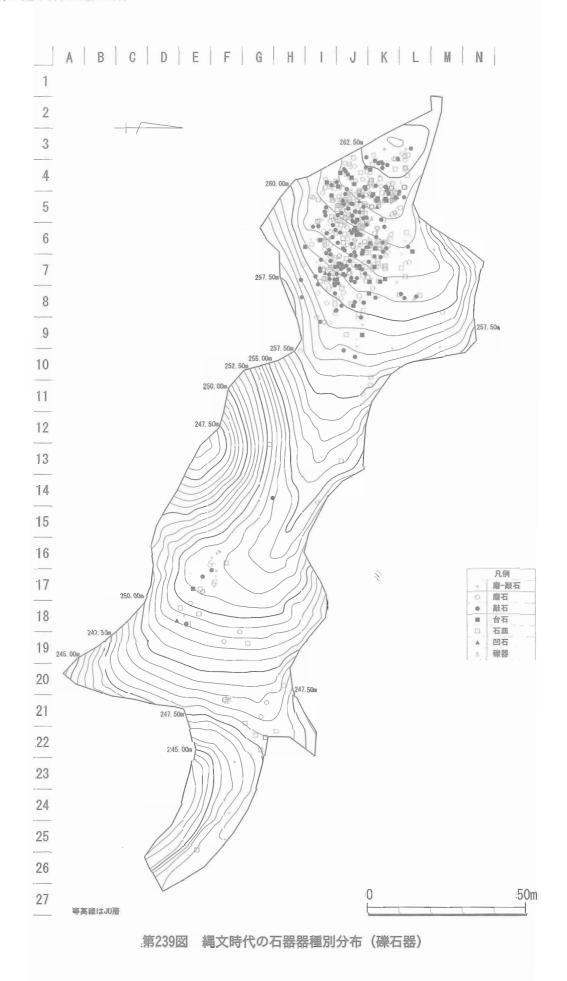
Ⅱ類c:抉りが浅く緩い弧状になり、側縁が内側に括れるもの。37-40が該当する。

Ⅲ類: 抉りがほとんどないか、逆にわずかに膨れるもの。41-48が該当する。

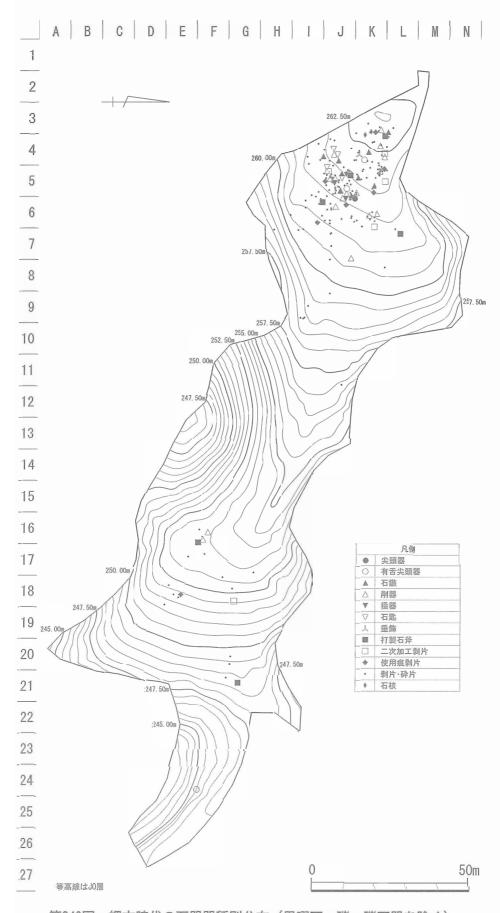
その他:51-62は欠損品である。63-67は未製品である。

有茎石鏃 (第246図49)

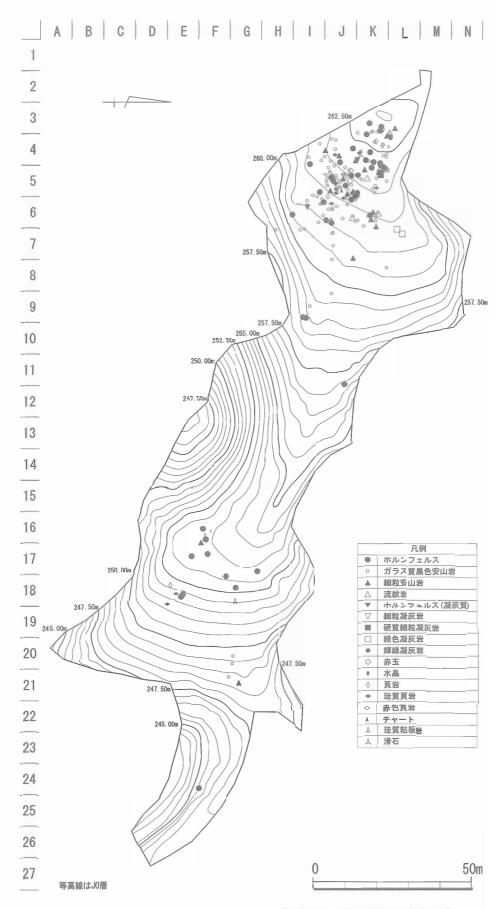
49は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。L-8グリッドで出土した。竪穴住居址群や黒曜石製石器群の中心的分布域とは離れている。



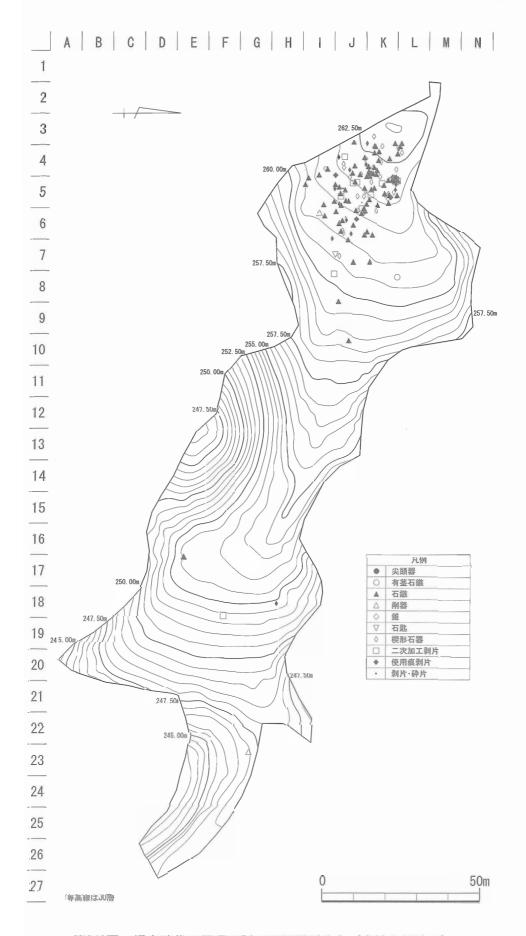
— 278 —



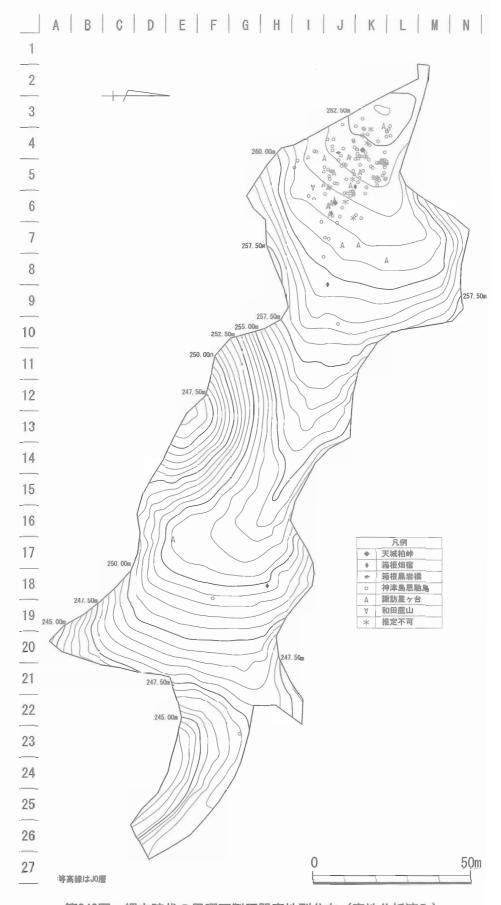
第240図 縄文時代の石器器種別分布 (黒曜石、礫・礫石器を除く)



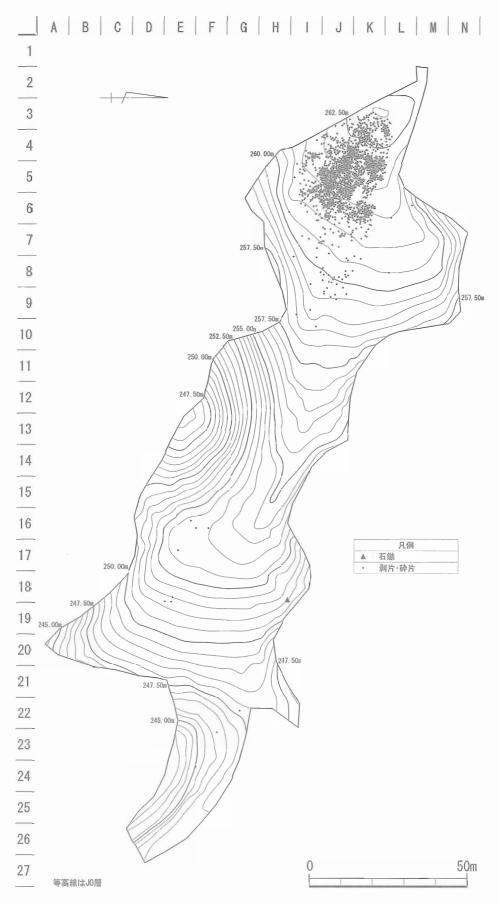
第241図 縄文時代の石器石材別分布 (黒曜石、礫・礫石器を除く)



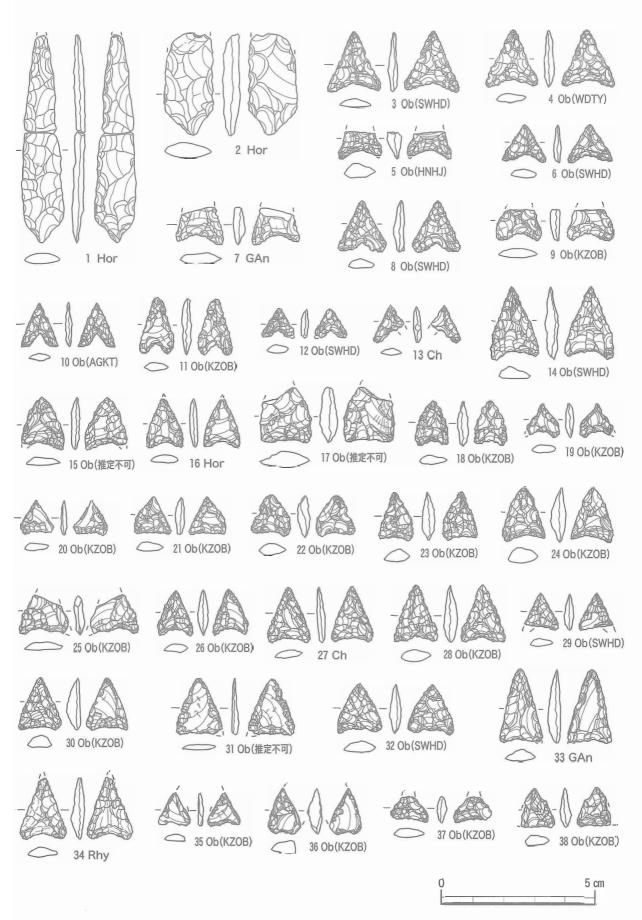
第242図 縄文時代の黒曜石製石器器種別分布 (産地分析済み)



第243図 縄文時代の黒曜石製石器産地別分布 (産地分析済み)



第244図 縄文時代の黒曜石製石器器種別分布(産地未分析)



第245図 縄文時代の石器(1)有舌尖頭器・石鏃

石匙 (第246図68-第247図71)

4点図示した。いずれも横型の石匙である。70は欠損後に刃部を再加工している。

掻器 (第247図72・73)

2点図示した。いずれも台形を呈し、上下と右側縁に調整痕が見られる。

削器 (第248図-第251図89)

16点図示した。74-76は剥片の側縁に調整を施している。77と78は台形を呈し、剥片端部に調整を施している。79は横長剥片の側縁と端部に調整を施している。80と81はやや大型の長方形を呈する。80は縦長剥片、81は横長剥片を素材にしている。82は打点と両側縁を切断した剥片に、端部から側縁にかけて連続した調整を施したものである。83-85は半円形のものである。いずれも剥片端部に調整が見られる。87-89は円形で、やや大型のものである。

錐 (第251図90・91)

2点図示した。いずれも先端部のみ残存する。

楔形石器 (第251図92-第252図119、第258図163・164)

30点図示した。打撃を受け、形が整っていないものが多い。92-103は小型で角柱状。104-108は小型で扁平な正方形、109-117はやや大きな角柱状、118と119はやや大きな正方形を呈する。

使用痕剥片 (第253図120-第254図130)

11点図示した。ガラス質安山岩製を中心とする中型から大型品が多い。127は、風化の度合いからみて、旧石器時代の石刃を再利用したものと思われる。

二次加工剥片 (第254図131-第255図146)

16点図示した。

石核 (第256図147-第259図161)

15点図示した。いずれも打面転移を頻繁に繰り返し、不定形の剥片を剥取したものと考えられる。

搬入石材 (第259図168)

1点図示した。

打製石斧 (第259図169-第261図173)

5点図示した。169-171は板状に剥離した大型剥片の縁辺部を剥離して石斧としたものである。172と173は幅の狭い短冊形の石斧である。

礫器 (第262図174-176)

3点図示した。いずれも扁平な楕円礫または円礫を素材としている。174は側縁部の一角に刃部を設けている。175と176は持ち手とした部分を除いた側縁部全体に刃部を設けている。

敲石・磨石・磨-敲石・凹石(第263図177-267図236、第267図237-245)

敲打痕もしくは研磨痕の認められる礫石器類のうち手で保持して使用するものは528点出土した(遺 構出土品を含む)。使用痕の種類と頻度から敲石、磨石、磨-敲石をわけ、それぞれ素材礫の形態から数 種に分類した。

敲石(263図177・179・180・182-185・187・188、264図190-265図199-213、267図237-245)

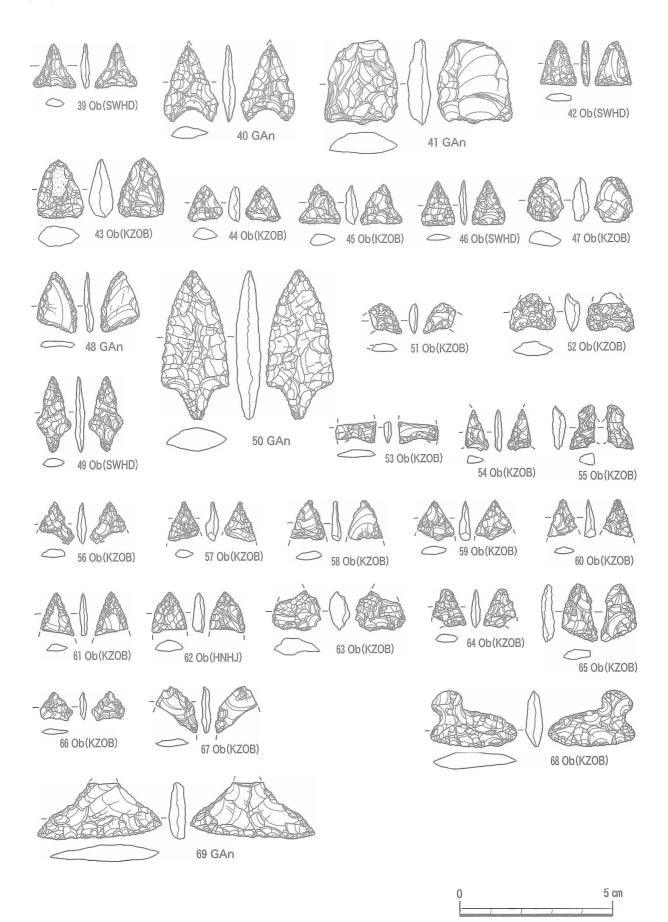
敲打痕が優先するもの。

la類:小型の円礫を素材とするもの。上下端部に敲打痕のあるものが多い。

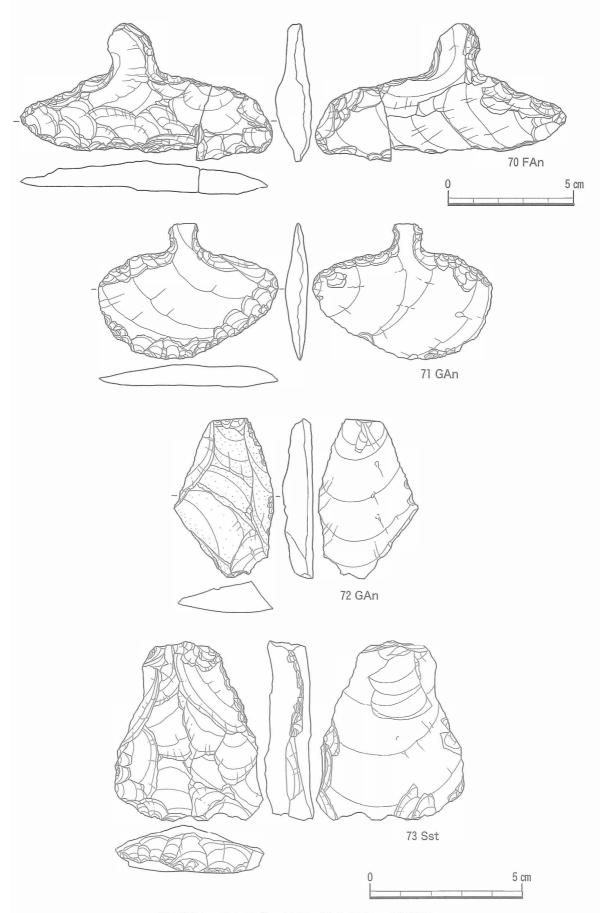
2a類:扁平な楕円礫を素材とするもの。側縁部に敲打痕のあるものが多い。

3 a類:円柱または角柱状礫を素材とするもの。上下端部に敲痕のあるものが多い。

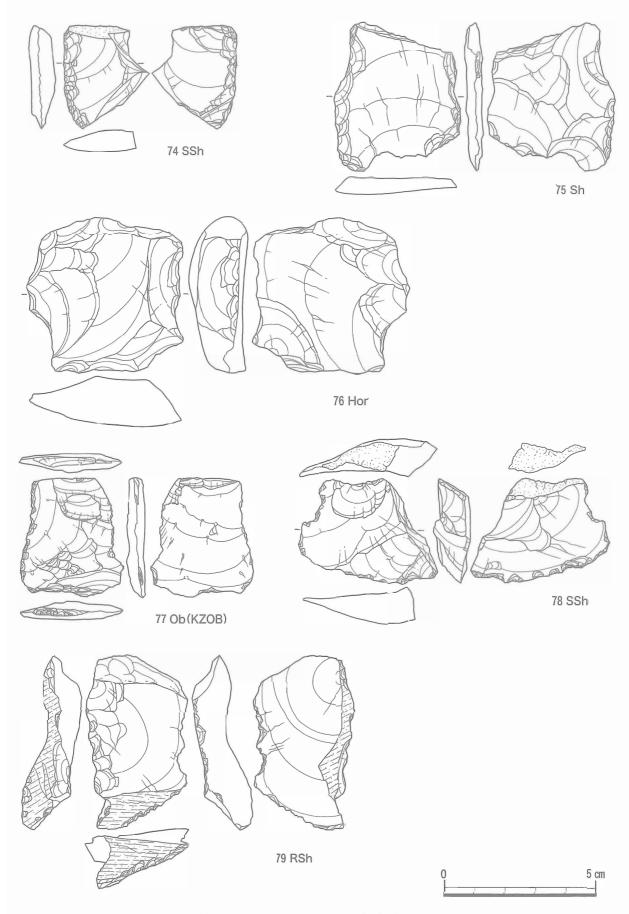
1b/2b/3b類:上記のうち、平坦部や側縁部に凹んだ敲打痕のあるもの。いわゆる凹石。



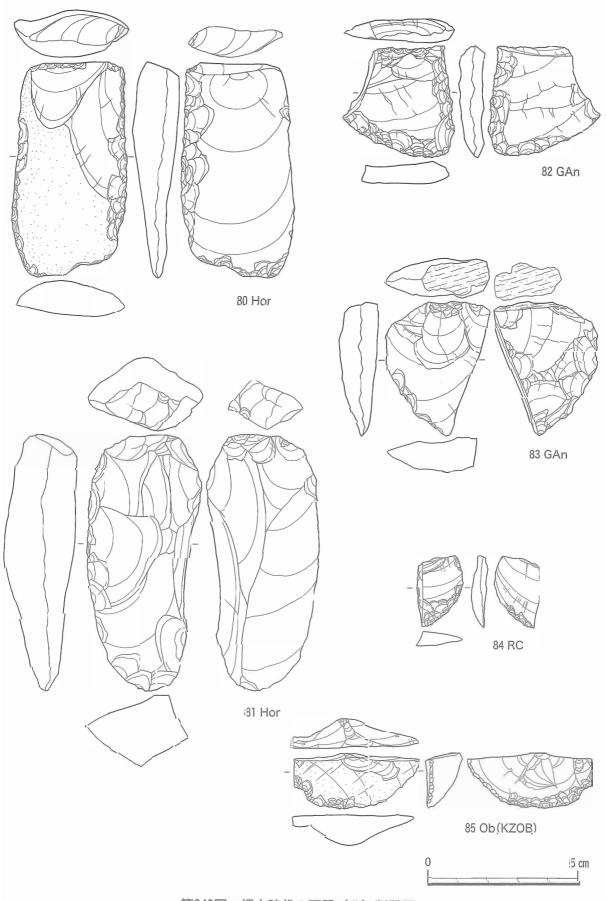
第246図 縄文時代の石器 (2) 有舌尖頭器・石鏃・有茎石鏃・石匙



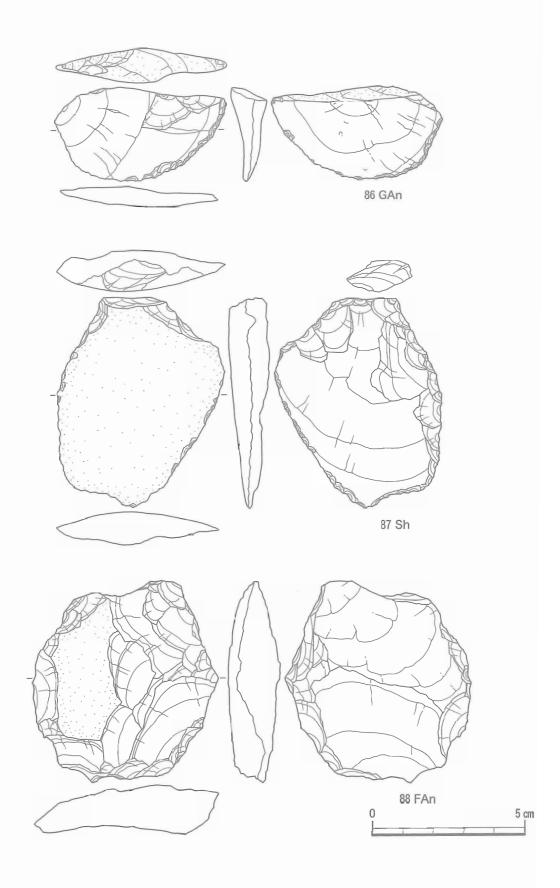
第247図 縄文時代の石器 (3) 石匙・削器類



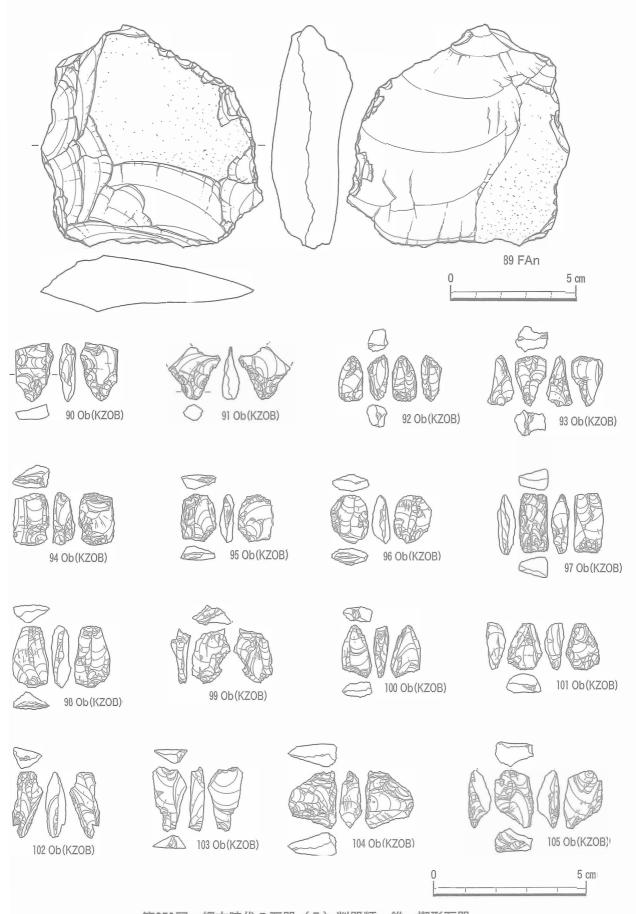
第248図 縄文時代の石器 (4) 削器類



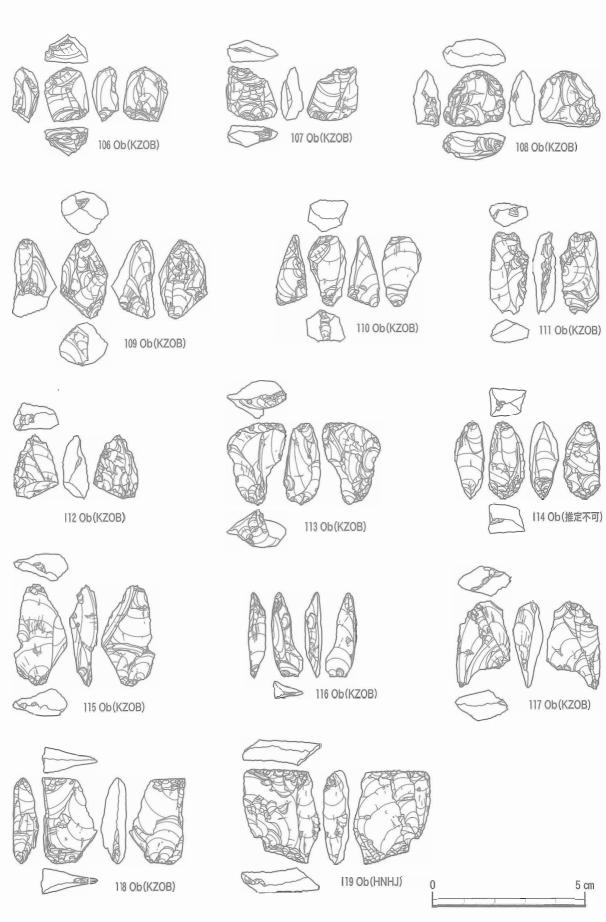
第249図 縄文時代の石器 (5) 削器類



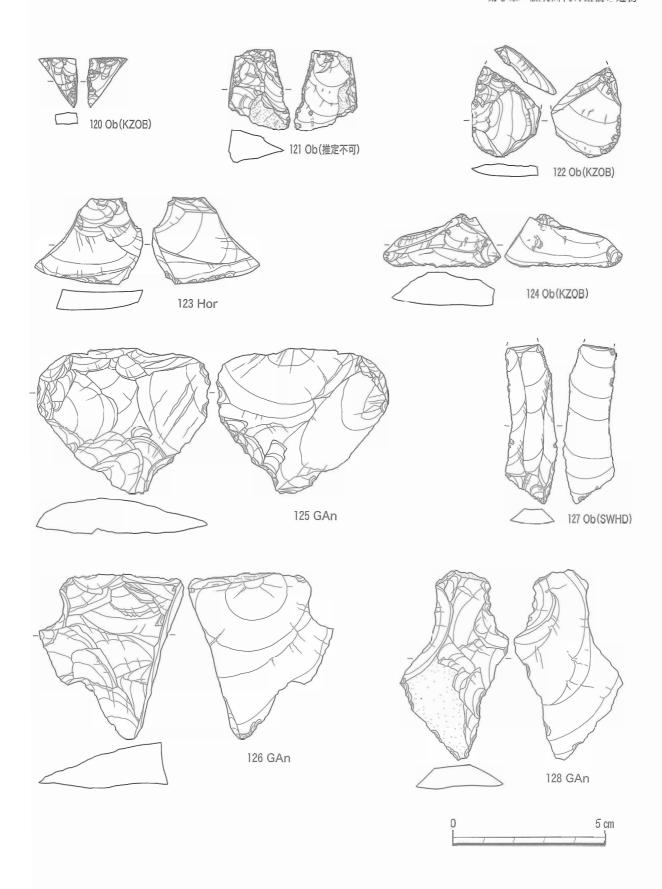
第250図 縄文時代の石器 (6) 削器類



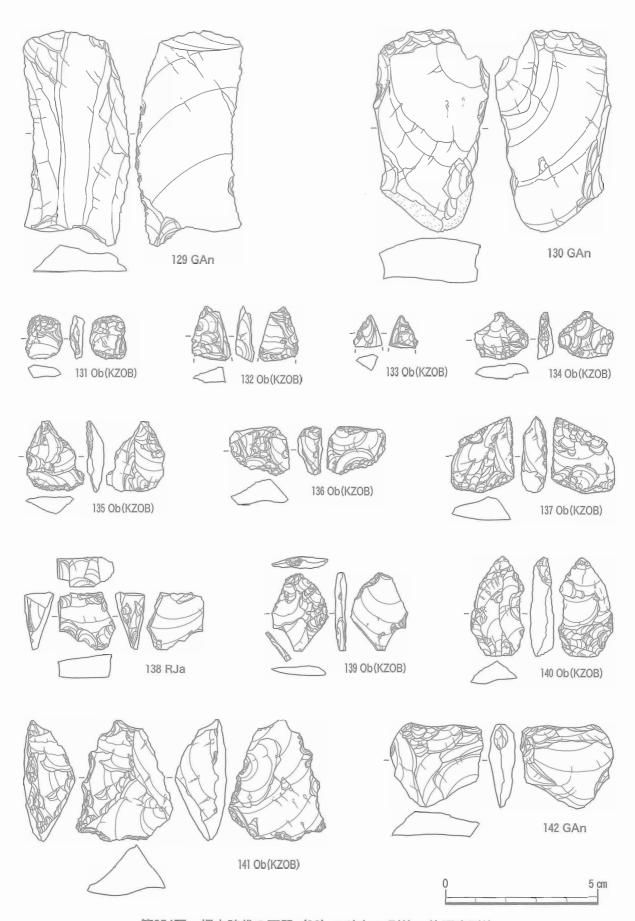
第251図 縄文時代の石器 (7) 削器類・錐・楔形石器



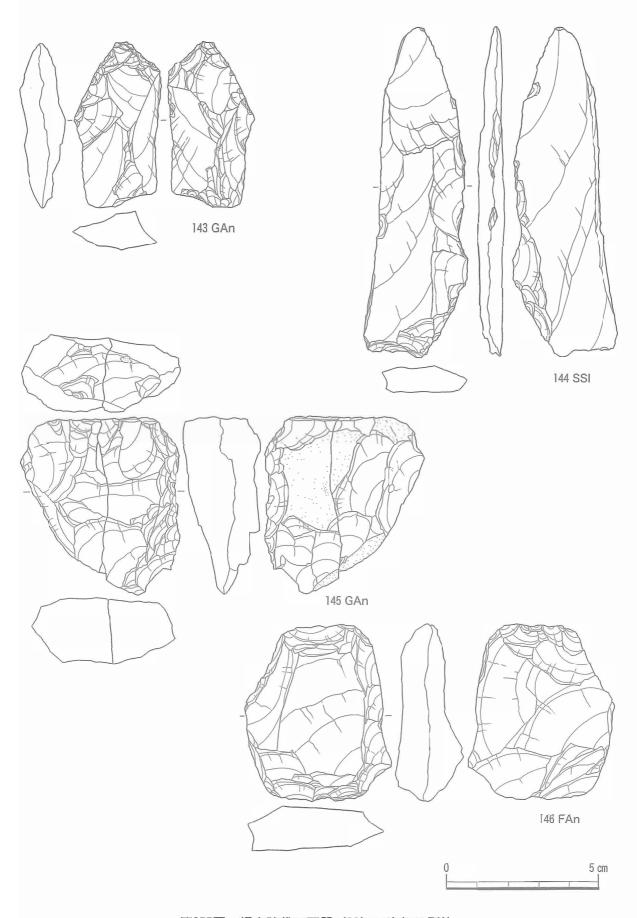
第252図 縄文時代の石器(8)楔形石器



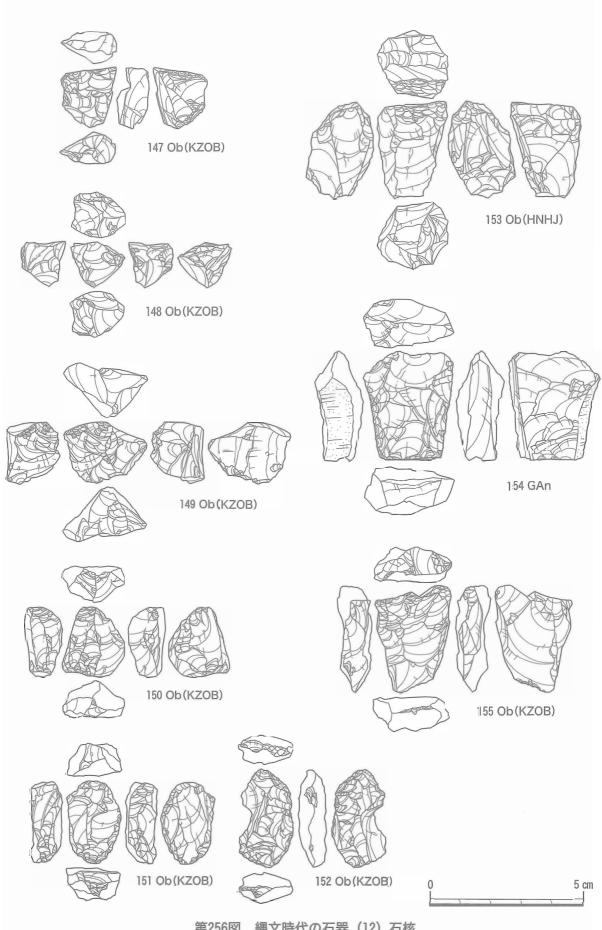
第253図 縄文時代の石器 (9) 使用痕剥片



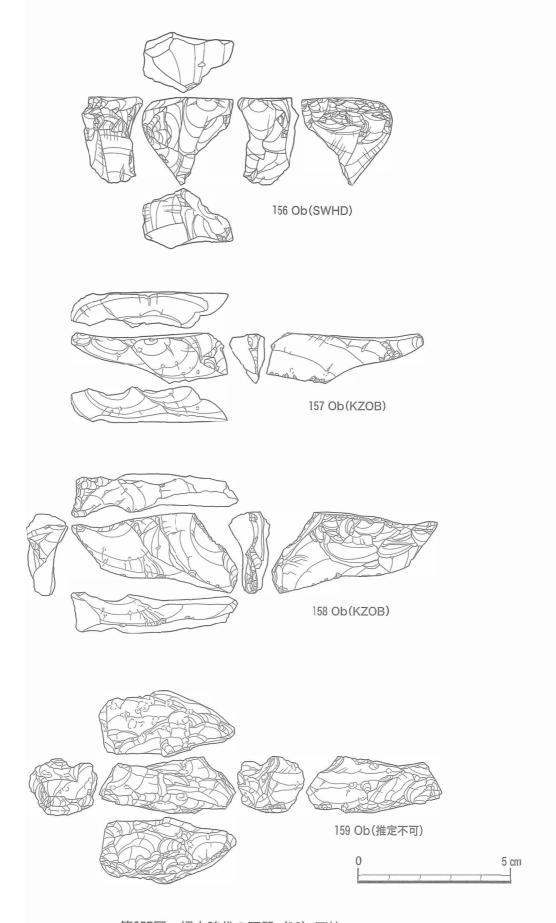
第254図 縄文時代の石器 (10) 二次加工剥片・使用痕剥片



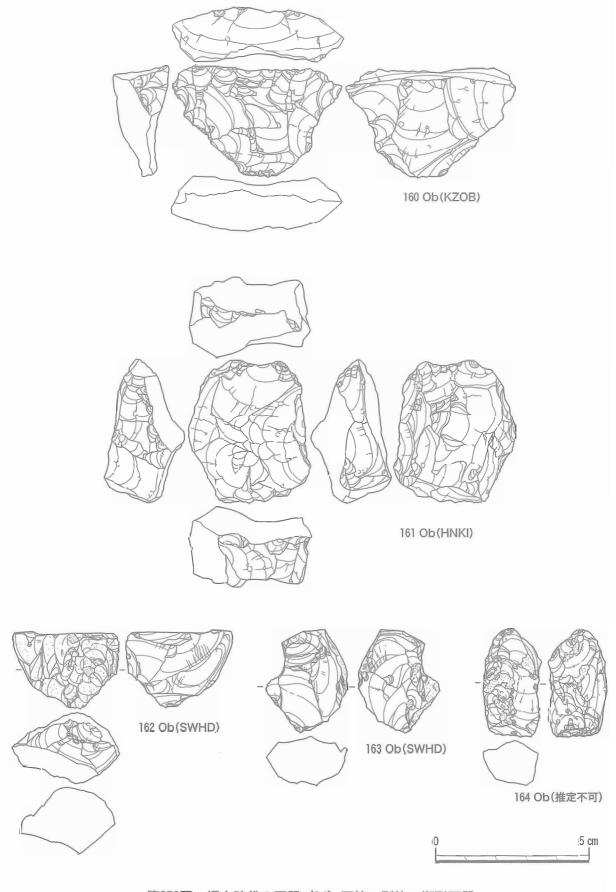
第255図 縄文時代の石器 (11) 二次加工剥片



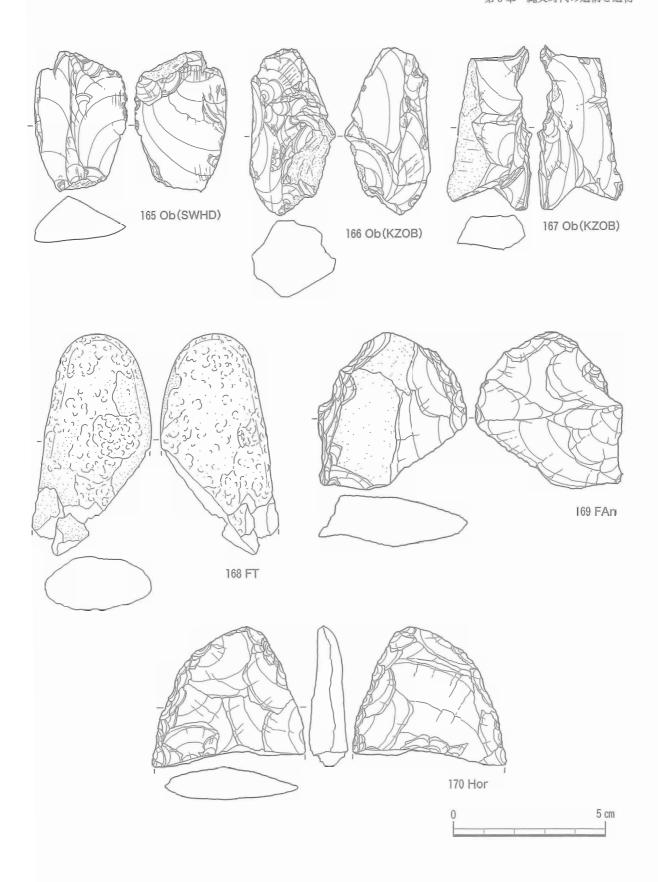
第256図 縄文時代の石器 (12) 石核



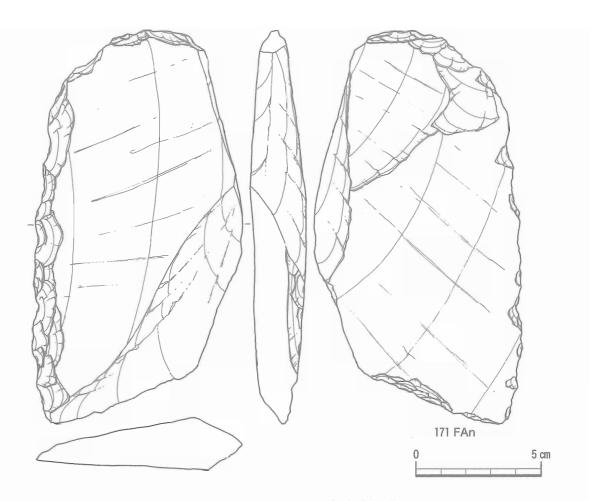
第257図 縄文時代の石器 (13) 石核



第258図 縄文時代の石器 (14) 石核・剥片・楔形石器



第259図 縄文時代の石器 (15) 剥片・搬入石材・打製石斧



第260図 縄文時代の石器(16)打製石斧

磨-敲石(第263図178・181・186、第265図215-第266図226、第267図246-248)

敲打痕と研磨痕がほぼ同等のもの。

1類:扁平な円礫または楕円礫を素材とするもの。側縁部に敲打痕、平坦部に研磨痕のあるものが多い。

2類:円柱または角柱状礫を素材とするもの。上下端部に敲痕、平坦部に磨面があるもの。246-248 が該当する。246は下部が敲打によって欠損している。248は一方の長側縁部に磨面、もう一方の長側縁部に敲痕が見られるものが多い。

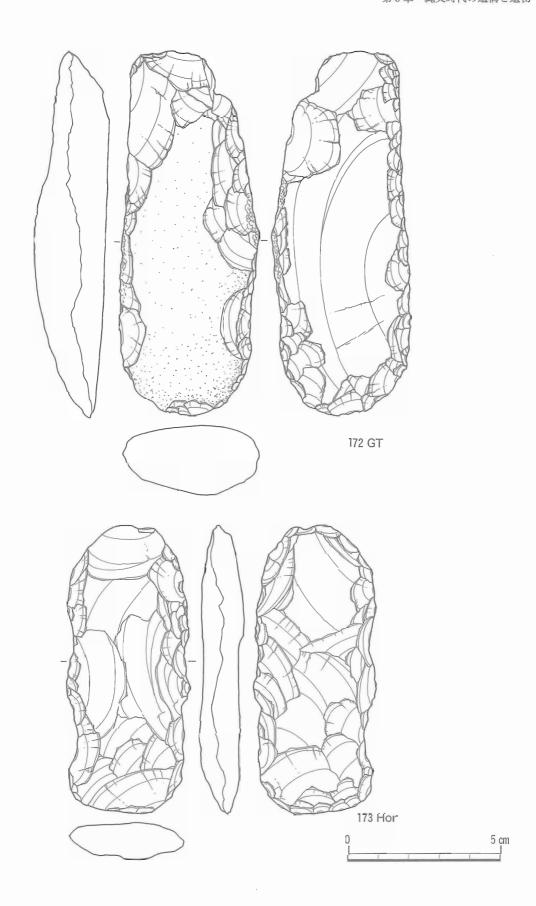
磨石 (第266図227-第267図236、第267図249-251)

研磨痕が優先するもの。

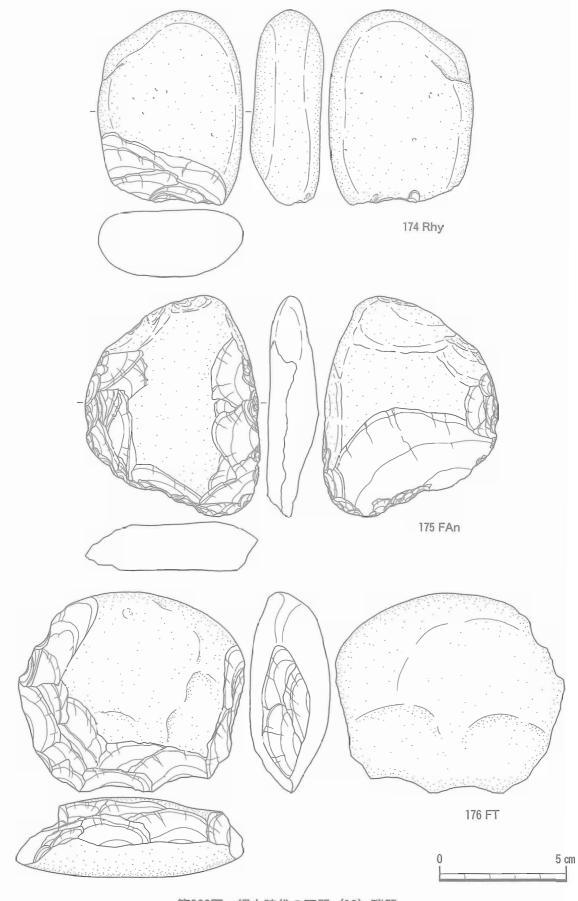
1類:扁平な円礫または楕円礫を素材とするもの。平坦部に研磨痕のあるものが多い。233は長側縁部にも研磨面が見られる。

2類:角柱状礫を素材とするもの。側面に磨面、稜線上に敲打痕のあるものが多い。

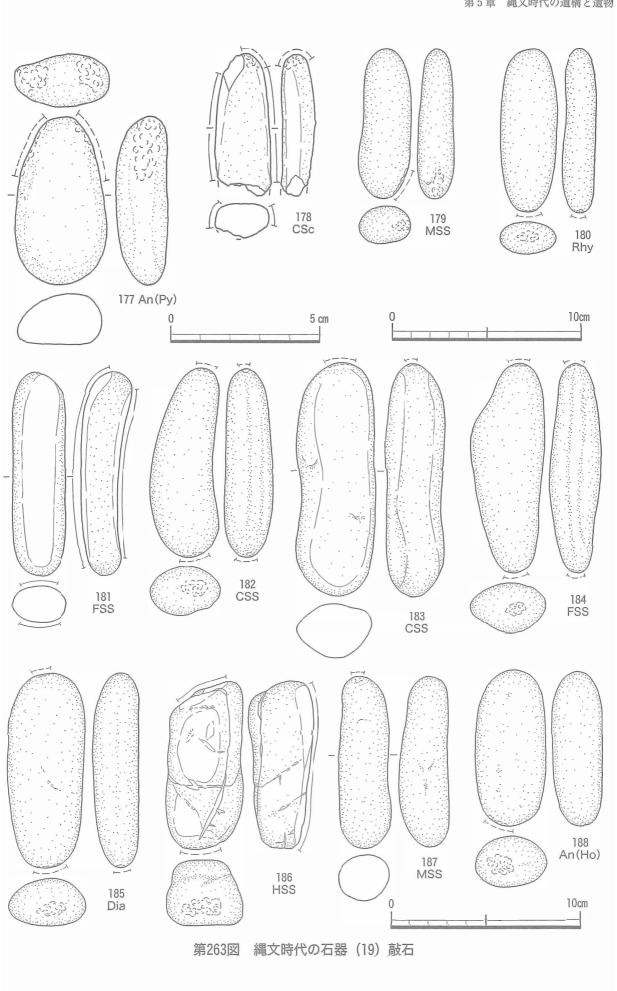
素材礫の形態は扁平な円礫または楕円礫を使用するものが最も多く、両者をあわせた数量比は手持ちで使用すると思われる礫石器類の約70%、重量比は約80%を占めた。また、敲石 1 類に代表される小型円礫を素材とするものが顕著に見られ、敲石 3 類に分類した円柱ないし角柱状のものにも100g台の小型のものが多く見られた。 1 a類はほとんどが300gまでの範疇に収まり、101-150gのものが約半数を占

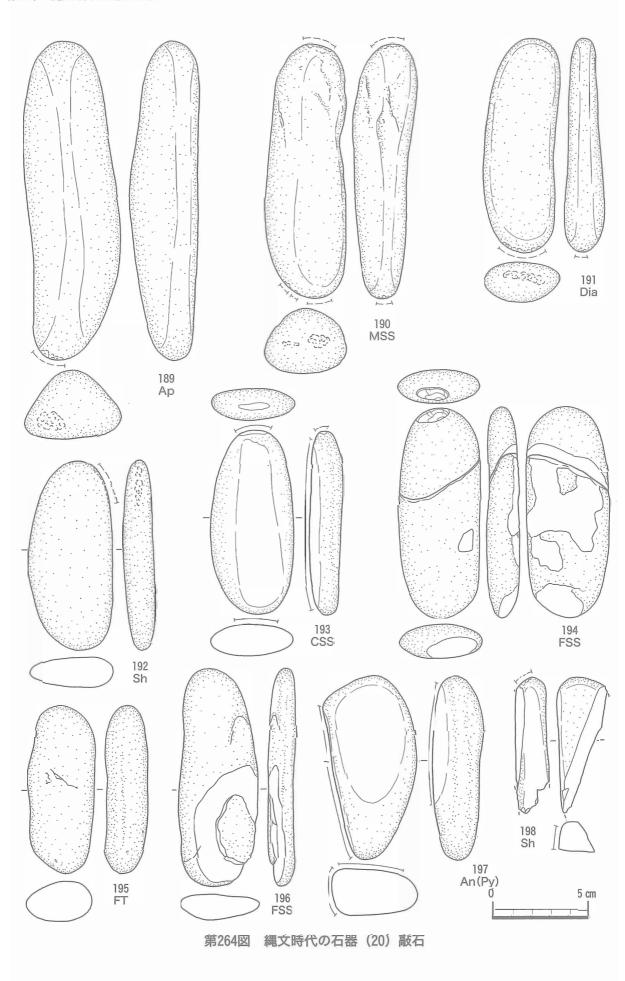


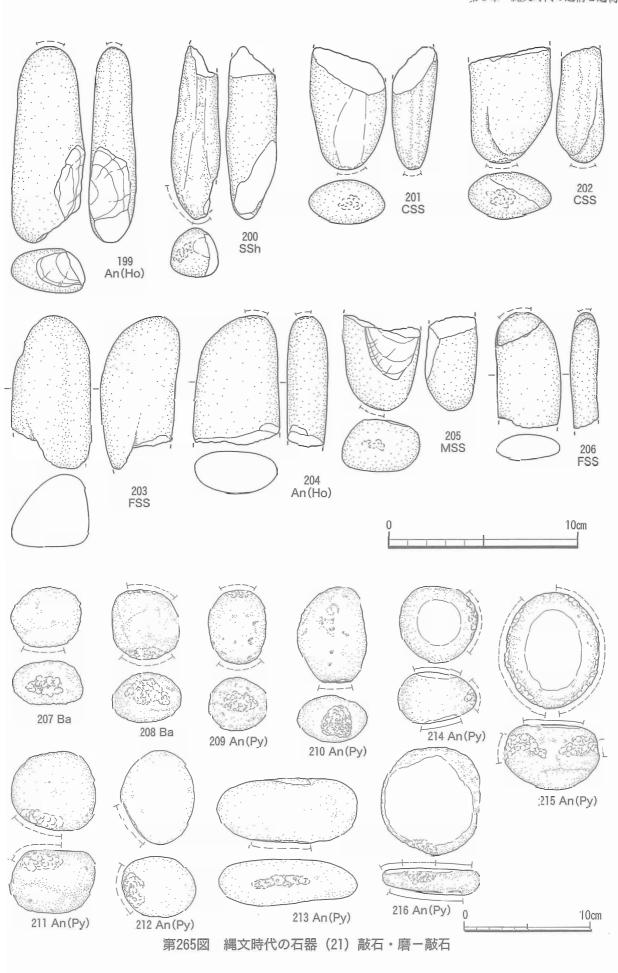
第261図 縄文時代の石器 (17) 打製石斧

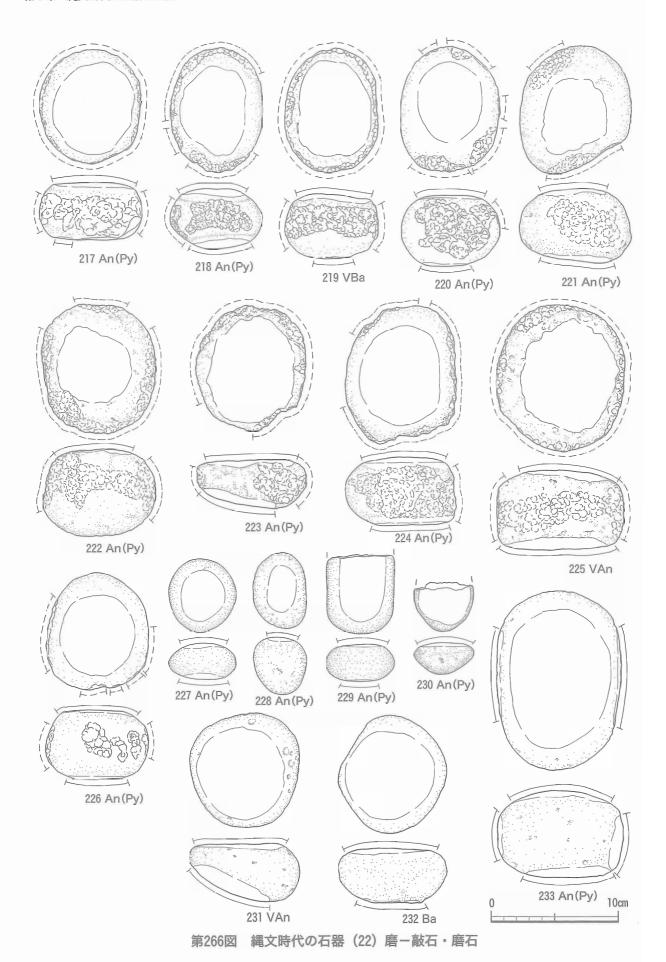


第262図 縄文時代の石器 (18) 礫器

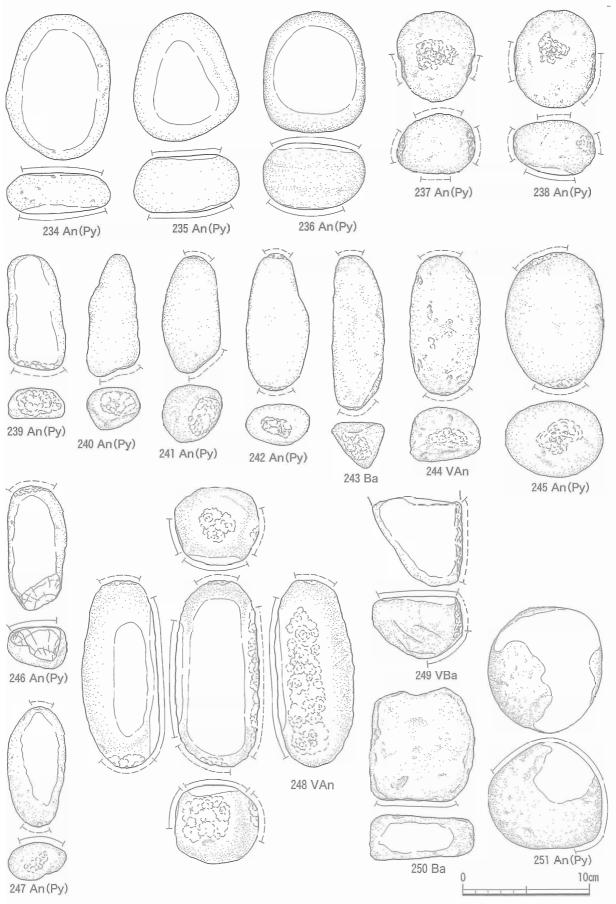




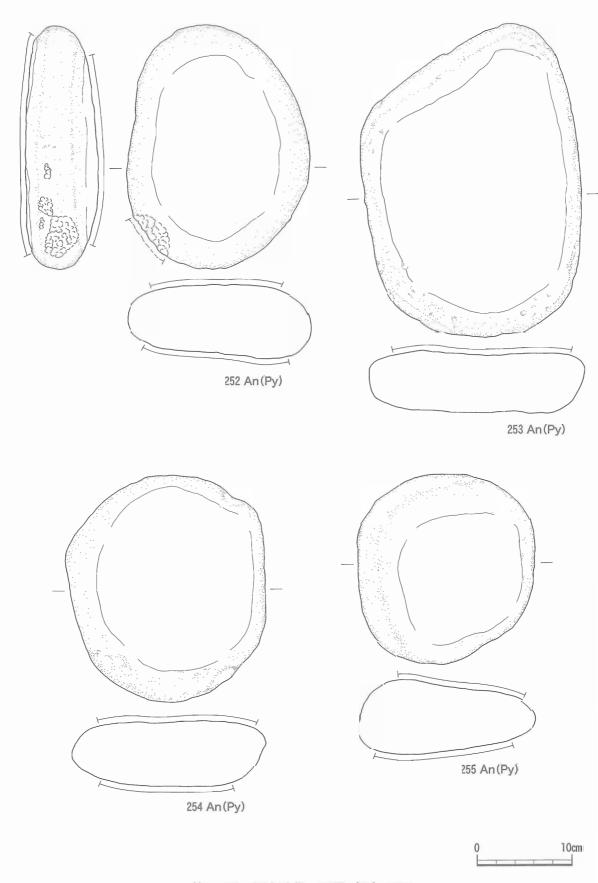




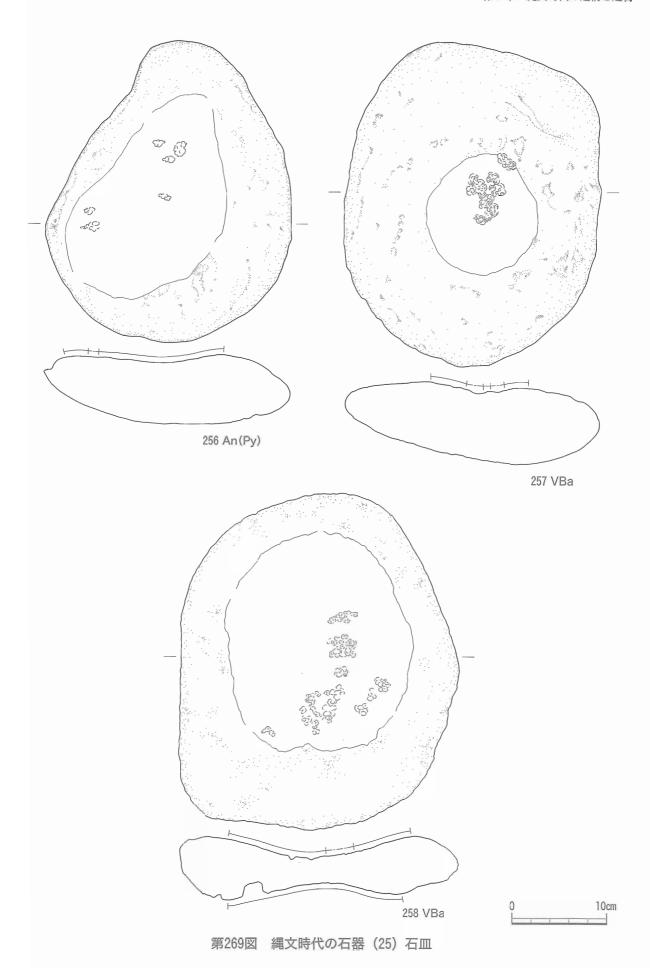
-306 -

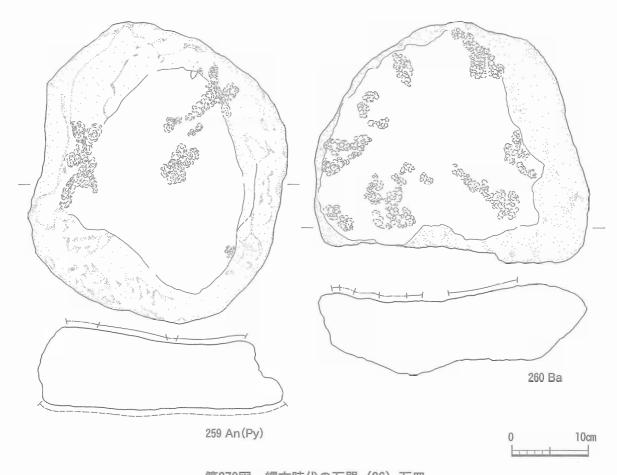


第267図 縄文時代の石器 (23) 磨石・凹石・敲石・磨ー敲石



第268図 縄文時代の石器 (24) 石皿





第270図 縄文時代の石器(26)石皿

めた。扁平な円礫を素材にしたものは101-600gの範疇に入るものが主体であった。

石材は輝石安山岩が最も多く、数量比で約75%を占めた。但し1a類は玄武岩と多孔質玄武岩の比率が他の形態のものより高く、輝石安山岩の比率は約50%と低かった。

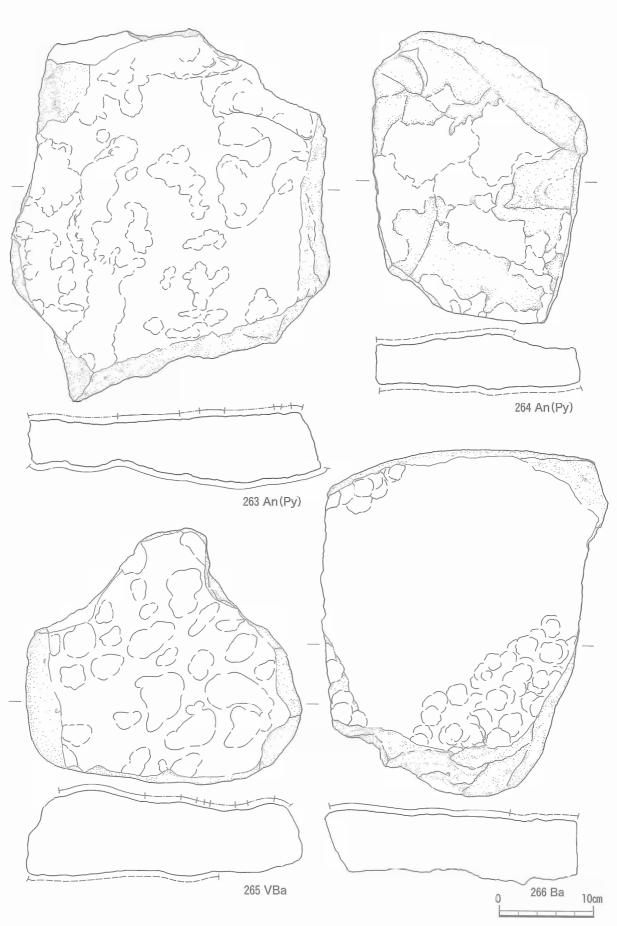
台石・石皿 (第268図252-第272図266)

下に置いて使用すると思われる礫石器類である。扁平な礫を素材とし、研磨痕が顕著なものを石皿とし、敲打痕が顕著なものを台石とした。ただし、研磨痕と敲打痕が複合するものや、逆に、敲打痕、研磨痕が明瞭でないものも一部ふくむ。遺構から出土したものを含めて225点出土した。このうち完形品は59点である。15点を図示する。

252-258は扁平な円礫の中央部を使用面とした石皿である。252は側縁部に敲打痕が見られる。259と260は亜円礫を用い、平坦面全体を使用面とした石皿である。261と262は角礫の平坦面全体を使用面とした石皿である。263-266も角礫を用いた台石である。石材は敲石・磨石・磨-敲石等と同様、輝石安山岩製のものが最も多く、数量比で約65%を占める。

礫石器類の分布は、竪穴住居跡群と同じく9列以西に集中している。礫石器類は、石鏃を中心とする 剥片石器類と比較して竪穴住居跡等の覆土で検出される比率が極めて高く、加えて遺構分布範囲の外縁 部にも拡がる傾向が看取された。礫石器類と剥片石器類は、その使用方法と共に集落内の空間配置も異 なっているようである。





第272図 縄文時代の石器 (28) 石皿・台石

垂飾 (第273図267)

K-4グリッド南東部の包含層中から滑石製の垂飾 I 点が出土した。重量は0.43g。豆粒状を呈する。表裏両面から孔を I ヶ所穿っている。孔の上部に擦れが見られることから、紐状のものを通して使用したことが推察される。



第273図 縄文時代の石器 (29) 垂飾

表50 遺構外出土土器属性

() は推定値

掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色鯛	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
l	JO	I A-2	燃糸文	口縁部1/8 胴部1/5	口径 (9.8)	5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 多 黒色粒子	口唇部角頭状。口縁部外反。Rの撚糸を口唇部の面 と内面口唇部直下は横位 外面胴部は縦位に施文。	1-3同一個体
2	JO	I A-2	撚糸文	口縁部破片		7.5YR5/6	明得	白色・黒色粒子 白色岩片極少	口唇部角頭状。口縁部外反。Rの撚糸を口唇部の面は横位 外面胴部は縦位に施文。	1-3同一個体
3	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		7.5YR5/6	明得	白色・黒色粒子 少	Rの撚糸を縦位に施文。	1-3同一個体
4	ЈО	I A-2	撚糸文	口縁部破片		7.5YR4/6	褐			
5	JO	ΙA	撚糸文	口縁部破片		5YR4/6	赤褐			
6	表採	I A-3.1	燃糸文	口縁部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	口唇部角頭状。口縁部やや外反。Lの撚糸を外面胴部は縦位 内面口唇部直下は横位に施文。	6/7同一個体
7	表採	I A-3. I	燃糸文	口縹部破片		10YR5/3	にぶい黄 得	白色粒子・岩片 黒色粒子少	口唇部角頭状。口縁部やや外反。Lの撚糸を外面胴 部は縦位 内面口唇部直下は横位に施文。	6/7同一個体:
8	ЈО	I A-3.1	撚糸文	口縁部破片		7.5YR4/2	灰褐			
9	JO	I A-3.1	撚糸文	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子少	ロ唇部角頭状。外面胴部Rの撚糸を縦位に施文。	9/10同一個
10	JO	I A-3.1	滋糸文	胴部破片		2.5YR6/3	にぶい黄	白色・黒色粒子 少	Rの撚糸を縦位に施文。	9/10同一個 本
11	JO	I A-3.1	燃糸文	口縁部破片		10YR5/2	灰黄褐	白色・黒色粒 子・岩片 赤色 粒子少	口唇部角頭状。外面口唇端部丸い。外面胴部Rの橪: 糸を縦位に施文。	
12	JO	I A-3.3	撚糸文	口縁部破片		10YR5/6	黄褐	白色粒子 石英 多 黒色粒子 白色岩片少	ロ唇部角頭状。ロ縁部やや外反。Rの撚糸を外面胴部は縦位 内面ロ唇部直下は横位に施文。	
13	JO	I A-3.3	燃糸文	口縁部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子非常に 多 白色岩片 黒色粒子少	ロ唇部内削ぎ。Rの撚糸を口唇部の面と外面胴部は 右下斜位 内面口唇部直下は横位に施文。	
14	lO	I A	燃糸文	口綠部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子 繊維		
15	JO	I A	燃糸文	口縁部破片		7.5YR5,/4	にぶい褐			
16	JO	I A	燃糸文	口縁部破片		7.5YR4,/6	得			
17	JO	I A-2	燃糸文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	やや多 白色岩		17-20同一個 体
18	JO	I A-2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	やや多 白色岩	and the second of the second o	17-20同一個体
19	JO	I A-2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐			17-20同一個 体
20	ЈО	I A-2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐			17-20同一個
21	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		75YR7/6	橙	白色・黒色粒子 少	Rの撚糸を縦位に施文。	
22	10	I A-2	撚糸文	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 得	白色粒子多 黑色粒子 石英少	Rの撚糸を縦位に施文。	
23	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片	Rの撚糸を縦位に施文。	
	番号 1 2 3 4 5 6 6 7 8 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 22	音号 単位 1 JO 2 JO 3 JO 4 JO 5 JO 6 表探 7 表探 8 JO 10 JO 11 JO 11 JO 12 JO 13 JO 14 JO 15 JO 16 JO 17 JO 18 JO 19 JO 20 JO 21 JO 22 JO	番号 層位 グラ	1	1	1	1	1	1	1

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色胴	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
161	24	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	24/25同一個 体
161	25	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	24/25同一個体
161	26	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	27	JO	I A-2	撚糸文	胴部破片		2.5YR5/2	暗灰黄	黒色粒子多 白 色粒子・岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	28	JO	I A-3. 1	撚糸文	胴部破片		2.5YR4/2	暗灰黄	白色粒子多 赤 色粒子少	Lの撚糸を縦位に施文。	28-31同一個 体
161	29	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		2.5YR4/2	暗灰黄	白色粒子多 白色岩片 赤色粒子少	Lの燃糸を縦位に施文。	28-31同一個体
161	30	JO	I A-3.1	燃糸文	胴部破片		10YR5/2	灰黄褐	白色粒子多 白 色岩片少	Lの撚糸を縦位に施文。	28-31同一個体
161	31	JO	I A-3. 1	撚糸文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子多 赤 色岩片少	Lの撚糸を縦位に施文。	28-31同一個体
161	32	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		7.5YR6/3	にぶい褐	白色粒子やや多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	32/33同一個 体
161	33	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		7.5YR6/3	にぶい掲	白色粒子	Rの撚糸を縦位に施文。	32/33同一個
161	34	JO	I A-3. 1	撚糸文	胴部破片		7.5YR6/3	にぶい褐	白色粒子	Lの撚糸を縦位に施文。	
161	35	JO	I A-3.1		胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	36	JO	I A-3. 1	撚糸文	胴部破片		10YR5/3	にぶい貴 褐	白色・黒色粒子 赤色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	37	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		7.5YR5/2	灰褐	白色・黒色・赤 色粒子少	Rの撚糸を縦位に施文。無文域あり。	
161	38	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		7.5YR5/3	にぶい褐	白色・黒色粒子 褐色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	39	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	褐色粒子多 褐 色岩片	Rの撚糸を縦位に施文。無文域あり。	
161	40	JO	I A-3.1	燃糸文	胴部破片		10YR5/2	灰黄褐	白色粒子多 黑 色粒子	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	41	JO	I A-3.1	撚糸文	胴部破片		10YR5/2	灰黄褐	黑色粒子 褐色 岩片少	外面胴部Rの撚糸を縦位に施文。内面も横位に施 文?	
161	42	JO	I A-3. 1	撚糸文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色岩片 黒色 粒子 赤色岩片	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	43	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		10YR3/3	暗褐	白色粒子多 黒 色粒子 白色岩 片少	Lの撚糸を縦位に施文。	
161	44	ЈО	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子少	Rの撚糸を縦位に施文。	44/45同一個 体
161	45	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子やや多	Rの撚糸を縦位に施文。	44/45同一個 体
161	46	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 石英極少	Lの撚糸を縦位に施文。	
161	47	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子 石英少	Rの撚糸を縦位と斜位に施文。	
161	48	JO	I A-3.2	燃糸文	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	
161	49	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		7.5YR4/6	褐	黑色粒子多 白色粒子 白色 果色岩片少	Rの撚糸を縦位と斜位に施文。	
161	50	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		7.5YR4/4	褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	Lの撚糸を縦位に施文。	
161	51	JO	I A-3. 2	撚糸文	胴部破片		10YR6/6	明黄褐		Rの撚糸を縦位に施文。	
161	52	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐		Rの撚糸を縦位に施文。	52-54同一個 体
161	53	JO	I A-3. 2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 白色・黒色・赤 色岩片 黒色・ 赤色粒子少	Rの撚糸を縦位に施文。	52-54同一個 体

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
161	54	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子 石英少	Rの撚糸を縦位に施文。	52-54同一個 体
161	55	JO	I A-3.2	燃糸文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子多 白 色岩片 輝石少	Rの撚糸を縦位に施文。	
162	56	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		10YR4/2	灰黄褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	56/57同一個 体
162	57	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子非常に 多 白色岩片 黒色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	56/57同一個体
162	58	JO	I A-3. 2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子 石英 少	Lの撚糸を縦位に施文。	58-60同一個体
162	59	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	Lの撚糸を縦位に施文。	58-60同一個 体
162	60	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黑色粒子 白色岩 片少	Lの撚糸を縦位に施文。	58-60同一個 体
162	61	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多	Rの撚糸を縦位に施文。	
162	62	ЈО	I A-3, 2	撚糸文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子非常に 多 黒色粒子や や多 白色岩片 少	Rの燃糸を縦位に施文。	62-68同一個休
162	63	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子非常に 多 白色岩片多 黒色粒子少	Rの撚糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	64	JO	I A-3.2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	Rの撚糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	65	JO	I A-3. 2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	Rの撚糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	66	JO	I A-3. 2	撚糸文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	Rの燃糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	67	10	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色・黒色 岩片 石英少	Rの燃糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	68	JO	I A-3.2	撚糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	Rの燃糸を縦位に施文。	62-68同一個 体
162	69	JO	I A-3.2	燃糸文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 黒色岩片 石英 少	Rの撚糸を縦位に施文。	69-71同一個 体
162	70	JO	I A-3. 2	燃糸文.	胴下部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子 石英 少	Rの撚糸を縦位に施文。	69-71同一個 体
162	71	JO	I A-3.2	撚糸文.	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 黒色岩片 白色 粒子 石英少	Rの撚糸を縦位に施文。	69-71同一個 体
162	72	JO	I A-3. 2	燃糸文	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	黑色粒子多 白 色粒子 褐色岩 片少	Rの撚糸を縦位に施文。	72,73同一個 体
1621	73	JO	I A-3.2	燃糸文	胴下部1/6		5YR4,/4	にぶい赤 褐	黑色粒子 白色 粒子 褐色岩片 少	Rの撚糸を縦位に施文。	72/73同一個 体
162	74	ЈО	I A-3.2	撚糸文	底部完存		5YR5/6	明赤褐	白色粒子非常に 多 白色岩片や や多 黒色粒子 少	尖底。Rの撤糸を縦位に施文。	
162	75	JO	I A-4	網目状撚糸文	口辭部破片		I0YR4/2	灰黄褐	白色粒子多 白 色岩片 黑色粒 子少	口唇部角頭状。外面胴部Rの網目状撚糸を縦位に施 文。	75-78同一個 体
152	76	JO	I A-4	網目状燃糸文	胴部破片·		10YR4/2	灰黄褐	白色粒子やや多 黒色粒子少	Rの網目状撚糸を縦位に施文。	75-78同一個 体
162	77	JO	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		I0YR4/2	灰黄褐	白色粒子やや多 黒色粒子少	Rの網目状撚糸を縦位に施文。	75-78同一個 体
152	78	JO	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		I0YR4/2	灰黄褐	白色粒子・岩片 多 黒色粒子少	Rの網目状態糸を縦位に施文。	75-78同一個 体
62	79	JO	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		2.5YR6/2	灰黄	白色・黒色粒子 少	Rの網目状撚糸を縦位に施文。	79-83同一個 体
62	80	JO	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	白色粒子 黒色 粒子・岩片少	Rの網目状撚糸を縦位に施文。	79-83同一個 体

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
162	81	JO	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙	黒色岩片 白 色・黒色粒子少	Rの網目状撚糸を縦位に施文。	79-83同一個 体
162	82	ЈО	I A-4	網目状燃糸文	胴部破片		10YR5/2	灰黄褐	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 赤色粒子・岩片 少	Rの網目状燃糸を縦位に施文。	79-83同一個 体
162	83	ЈО	I A-4	網目状撚糸文	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙	白色粒子 黒色 粒子・岩片 赤 色粒子少	Rの網目状燃糸を縦位に施文。	79-83同一個 体
163	84	ЈО	I B-1	山形押型文	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 白色・ 黒色岩片 赤色 粒子・岩片 石 英少	山形押型文を綴位に施文。	
163	85	JO	I B-2	格子目押型文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	無色粒子やや多 白色粒子・岩片 少	格子目押型文を樹位に施文。無文域あり。	85-87同一個 体
163	86	JO	I B-2	格子目押型文	順部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子 鰤石 少	格子目押型文を横位に施文。無文域あり。	85-87同一個 体
163	87	JO	I B-2	格子目押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 白 色粒子 輝石少	格子目押型文を構位に施文。	85-87同一個 体
163	88	10	I B-3	楕円押型文:	口龣部破片		7.5YR6/6	橙:	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子・ 岩片少	口唇部角頭状。外面胴部楕円押型文を横位に施文。	
163	89	JO	I B-3	楕円押型文	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子多 白 色岩片 石英少	ロ唇部角頭状。口唇部の面と外面胴部に楕円押型文 を横位に施文。	
163	90	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 石英多 輝石	楕円押型文を横位に施文。	
163	91	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR4/6	福	白色・黒色粒子 石英多 輝石 白色岩片少	楕円押型文を横位に施文後 一部縦位に施文。	
163	92	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子 石英 やや多 白色岩 片少	楕円押型文を縦位に施文。	
163	93	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	航円再型文を継位に施文。	
163	94	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子やや多 黒色粒子少	航円 種型文を縦位に施文。	
163	95	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR4/4	褐	白色・黒色粒子 石英多	櫛円押型文を横位に施文。	
163	96	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 赤色粒子・岩片 少	楕円押型文を縦位に施文。無文域あり。	
163	97	ЈО	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい袴	金雲母・白色粒 子やや多 黒色 粒子 赤色粒子 少	楕円押型文を横位に施文。	
163	98	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子 石英 やや多 白色岩 片 黒色粒子少	楠円押型文を縦位に施文。無文域あり。	
163	99	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色粒子多 黑 色粒子 白色岩 片 石英少	育円 押型文を縦位に施文。	
163	100	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片 [*]		7.5YR5/4	にぶい褐	多 白色岩片 石英少	楕円押型文を縫位に施文。	
163	101	JO	I B-3	續円押型文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子 黒色 岩片少	楕円押型文を縦位に施文。	
163	102	JO	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR4/6		多 白色岩片 石英少	楕円押型文を斜位:に施文。	
163	103	ЈО	I B-3	楕円押型文	胴部破片		7.5YR6/6	橙	金雲母やや多 赤色岩片 赤 色・黒色粒子:少	精円押型文を胴上部は横位。下部は縦位に施文。	
163	104	JO	I B-3	権円押型文	胴部破片		5YR6/6	明赤褐	白色粒子やや:多 白色岩片 黒色 粒子少		
163	105	JO	I B-3	精円押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	楕円押型文を横位に施文後 磨り消す。	
163	106	JO	I B-4	変形押型文	順部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子 輝石 少	変形押型文を横位に施文。無文域あり。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
163	107	JO	I B-4	変形押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色岩片 輝石 少	変形押型文を横位に施文。	
163	108	JO	I B-4	変形押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子 輝石 少	変形押型文を施文。	
163	109	JO	I B-4	変形押型文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 輝石少	変形押型文を横位に施文。	
164	110	JO	I C-1	縄文	口縁部破片		7.5YR5/3	にぶい褐	白色粒子非常に 多 黒色粒子少	口唇部角頭状。口縁部やや外反。RLの縄文を外面 胴部は縦位 内面口唇部直下は横位に施文。	110-113同一 個体
164	111	JO	I C-1	縄文	口縁部破片		7.5YR5/3	にぶい褐	白色粒子非常に 多 黒色粒子少	口唇部角頭状。口縁部やや外反。RLの縄文を外面 胴部は縦位 内面口唇部直下は横位に施文。	110-113同一
164	112	JO	I C-l	縄文	口龣部破片		7.5YR5/3	にぶい褐	白色粒子非常に 多 白色岩片多 黒色粒子少		110-113同一 個体
164	113	JO	I C-l	縄文	胴部破片		7.5YR5/3	にぶい褐	白色粒子非常に 多 黒色粒子少	RLの縄文を縦位に施文。	110-113同- 個体
164	114	JO	I C-2	縄文	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色・黒色粒子	口唇部角頭状。LRの縄文を外面胴部は縦位 内面 口唇部直下は横位に施文。	
164	115	JO	I C-2	縄文	口縁部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子	口唇部角頭状。LRの縄文を外面胴部は縦位 内面 口唇部直下は横位に施文。	
164	116	JO	I C-1	縄文	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片少	口唇部角頭状。面に篦で左下斜位の刻み。口縁部外 反。外面胴部と内面口唇部直下にRLの縄文を構位 に施文。	
164	117	JO	I C-1	縄文	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙	白色粒子やや多 黒色粒子少	LRLの縄文を縦位に施文。	
164	118	JO	I C-l	縄文	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙(内面)		LRの縄文を縦位に施文。	
164	119	JO	I C-l	縄文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 少	LRの縄文を縦位に施文。	119-122同一 個体
164	120	JO	I C-l	縄文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 石英極少	LRの縄文を縦位に施文。	119-122同一 個体
164	121	JO	I C-l	縄文	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙	白色粒子,岩片 黑色粒子 赤茶 色粒子極少	LRの縄文を縦位に施文。	119-122同一 個体
164	122	JO	I C-I	縄文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 石英少	LRの縄文を縦位に施文。	119-122司一 個体
164	123	JO	I C-1	縄文	胴部破片		7.5YR4/2	灰褐	白色粒子・岩片 少	LRの縄文を縦位に施文。	123/124司一 個体
164	124	JO	I C-1	縄文	胴部破片		7.5YR4/2	灰褐	白色粒子・岩片 少	LRの縄文を縦位に施文。	123/124同一 個体
164	125	JO	I C-1	縄文	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 赤色粒子・岩片 少	RLの縄文を総位に施文。	
164	126	JO	I C-1	縄文	胴部破片		10YR6/2	灰黄褐	白色・黒色粒子 少	LRの縄文を縦位に施文。	
164	127	JO	I C-I	縄文	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子 石英 輝石少	LRの縄文を縦位に施文。全体的に摩滅。	
164	128	JO	I C-l	縄文	胴部破片		7.5YR7/4	にぶい橙	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 赤色粒子少	LRの縄文を縦位に施文。全体的に摩滅。	
165	129	JO	I C-1	縄文	胴部1/10		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片少	RLの縄文を縦位に施文。	
165	130	JO	I C-2	縄文	胴部破片		7.5YR7/4	にぶい褐	白色粒子・岩片 多 黒色粒子	LRの縄文を縦位に施文。	
165	131	JO	I C-2	縄文	胴部破片		7.5YR6/6	卷	白色粒子やや多 白色岩片 黒 色・赤色粒子少	RLの縄文を総位に施文。	
165	132	JO	I C-2	縄文	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	石英 白色・黒 色粒子少	RLの縄文を横位に施文。	
165	133	JO	I C-2	繩文	胴部破片		10YR5/2	灰黄褐	白色粒子・岩片 少	RLの縄文を右下斜位に施文。	
165	134	JO	I C-2	縄文	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子やや多 黒色 岩片 金雲母少	外面胴部RLの縄文を積位に施文。内面積位条痕文 を磨り消す。	
165	135	JO	I C-2	繩文	底部1/6		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 少	尖底。外面縄文施文(原体 方向不明)。内面横位条 痕文。	

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
165	136	JO	I C-2	縄文	胴下部破片		10YR5/2	灰黄褐		RLの縄文を縦位に施文。	
165	137	JO	I C-2	縄文	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片少	LRの縄文を右下糾位に施文。	
165	138	JO	IE	無文	口縁部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子・岩片 黒色粒子	口唇部丸い。口縁部外反。胴部外内面ナデ。	
165	139	JO	IE	無文	口縁部破片		10YR4/3	にぶい黄 褐	白色・黒色・赤 色粒子極少	口唇部丸い。胴部外内面ナデ。	
166	140	JO	IF	野島	口縁部1/7 胴部3/8	口径 (21.6)	7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子 石英少	波頂部推定4方。口唇部角頭状。面に尾で刻み。胴上部に段を持ち 外に開く。胴上部は波頂部に合わせて線位の太沈線で区画し 並行する細沈線を異斜位に組み合わせた鋸歯状モチーフで埋める。胴下部は推定8方に胴上部と同じ鋸歯状モチーフを施文。内面横位条痕文を磨り消す。	
166	141	10	IF	野島	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片少	外面上部は横位 下部は縦位条痕文。内面上部は横 位条痕文。下部ナデ。	
166	142	JO	IF	野島	胴部1/6	最大径 (20.5)	5YR6/6	橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 赤色 粒子 石英少	細沈線を異斜位に組み合わせた鋸歯状モチーフを施	142/143同— 個体
166	143	10	IF	野島	胴部破片		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子 石英少	並行する細沈線を斜位に施文。	142/143同一 個体
166]	144	JO	I G	下沼部	胴部1/8	最大径 (26.9)	7.5YR5/6	明褐	繊維 白色粒子 非常に多 黒色 粒子やや多 石 英少	外面縱位条痕文。內面右下斜位条痕文。	144/145同一 個体
166	145	10	IG	下沼部	胴部1/8	最大径 (26.9)	7.5YR5/6	明褐	繊維 白色粒子 非常に多 黒色 粒子やや多 石 英少	外面縱位条痕文。内面右下斜位条痕文。	144/145同一 個体
167	146	JO	I HI	打越	口縁部1/2 胴部1,2	口径 (32.8)	5YR3/6	暗赤褐	白色粒子多 黑 色粒子少	波頂部推定4方。弧状の波頂部と外面に円形の隆帯 を貼付けた三角形の波頂部を対角に配置。口唇部角 頭状。面に箆で刻み。外面間部縦位条痕文を磨り消 してから 胴上部に格子状条痕文施文。内面横位条 痕文施文後 胴下部は条痕文を磨り消す。	
168	147	JO	I HI	打越	口縁部破片		7.5YR5/6	明褐	石英多 白色· 黒色粒子	平縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に箆で刻み。 胴部格子状条痕文、	
168	148	JO	I HI	打越	口緑部破片		7.5YR5/4	にぶい掲 (内面)	白色粒子 石英 やや多 白色岩 片 黒色粒子・ 岩片少	平縁。口唇部角頭状。外内面口唇端部に箆で刻み。 胴部格子状条痕文。	
168	149	10	I HI	打越	口緑部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 少	平緑。ロ唇部角頭状。外内面ロ唇端部に箆で刻み。 胴部格子状条痕文の上に列点状の貝殻腹縁で山形文 施文。	
1:68	150	10	I HI	打越	口緣部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 少	平線。口唇部角頭状。波頂部に口唇部を囲み垂下する隆帯貼付。口唇部の面と隆帯に篦で刻み。胴部右下斜位条痕文。	
168	151	ЈО	I HI	打越	CI縁部破片		5 YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子多	平縁。口唇部角頭状。口唇部を囲む隆帯を貼付けて 三角形の突起を作出。外面口唇端部と隆帯に寛で刻 原節格子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消 す。	
168	152	JO	I Hì	打越	口縁部破土		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子 白色 粒子極少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に貝殻で刻み。 口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。 胴部格子状条痕文。	
168	153	JO	I HI	打越	口縁部破土		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白 色粒子極少	平線? 口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面口唇部 直下に垂下する突起状の隆帯貼付(酸損につき形状 不明)。 胴部格子状条痕文。 内面横位条痕文を磨り 消す。	
168	154	JO	I HI	打越	口縁部破片		!5YR5/6	明赤褐	白色粒子 黑色 粒子 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。波頂部を除き外内面口唇 端部に箆で刻み。胴部格子状条痕文。	
168	155	JO	I JAN	打越	口;禄部破片		5 YR6/6	橙(内面)	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に箆で刻 み。 順部列点状の貝殻腹縁による施文あり。	
168	156	JO	I :HI	打越	口濃部破片		7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に箆で刻 み。胴部格子状条痕文。	
168	157	JO	I HI	打越	口:縁部破片		7.5 YR6/6	橙	白色・赤色粒子	波状口縁。口唇部外削ぎ。外面口唇端部に箆で刻 み。胴部列点状の月穀腹縁で連続山形文施文。内面 横位条痕文を著り消す。	
168	15%	ЈО	I H.	打越	口:禄部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子 黒色 岩片 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に篦で刻み。胴部列点状の貝殻腹縁で連続山形文施文。内面 横位条痕文を贈り消す。	
168	159	JO	I H1	打越	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子少	波状口縁。口至部外削ぎ。外面口唇端部に箆で刻み。胴部列点状の貝殻腹縁で連続山形文施文。内面 横位条真文を磨り消す。	

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
168	160	JO	I Hl	打越	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	黒色粒子やや多 輝石少	平縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴部列点状の 貝殻腹縁による山形文?施文。	
168	161	JO	I Hl	打越	口緣部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 輝 石少	平縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面胴部格 子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	
168	162	JO	I Hl	打越	口縁部破片		5YR4/4	にぶい赤 得		平緑。口唇部角頭状。面に貝殻で右下斜位の刻み。 胴部右下斜位条痕文。	
168	163	JO	I Hl	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	平線。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部不規則 な格子状条痕文。	
168	164	JO	I HI	打越	口纝部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	平縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面口唇部 直下列点状の貝殻腹縁で類沈線文施文。胴部原体を 少し引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	
168	165	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	原体を少し引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	164/165同一 個体
168	166	JO	I HI	打越	口縁部破片	_	5YR4/6	赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	平縁。口唇部角頭状。面に貝殻で左下斜位の刻み。 胴部太列点状の貝殻腹縁で細波文施文。	
168	167	JO	I Hl	打越	口縹部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 輝石少	平線。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部原体を 少し引く貝殻腹縁で連続山形文施文。	167-169同一 個体
168	168	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 輝石少	原体を少し引く貝殻腹線で山形文2段施文。	167-169同一 個体
168	169	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 輝石少	原体を少し引く貝殻腹線で山形文2段施文。	167-169同一 個体
168	170	JO	I Hl	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色岩片 黑色 粒子少	平線。口唇部角頭状。面に貝殻で右下斜位の刻み。 原体を引く貝殻腹縁で外面口唇部直下は類沈線文 胴部山形文施文。	
169	171	JO	I Hl	打越	口緑部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	平縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面口唇部 直下原体を引く貝殻腹縁で連続細波文施文。	171/172同一 個体
169	172	JO	I HI	打越	口緑部破片		5YR5/6	明赤褐		平線。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面口唇部 直下原体を引く貝殻腹線で連続細波文施文。	171/172同— 個体
169	173	JO	I HI	打越	口緑部酸片		5YR5/6	明赤褐		平録。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面口唇部 直下原体を引く貝殻腹縁で類沈線文施文。	
169	174	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 少	平縁。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部原体を少 し引く貝殻腹縁で類沈線文3段施文。	
169	175	JO	I Hl	打越	口緑部破片		7.5YR5/4	にぶい視	黑色粒子 白色 粒子少	平縁?ロ唇部角頭状。面に篦で刻み。口縁部やや外 反。胴部不規則な格子状条痕文。	
169	176	JO	I HI	打越	口縁部酸片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 白 色・黒色岩片 黒色粒子少		176-180と同 一個体
169	177	ЈО	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片	外面原体を引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。内面上部縦位条痕文。	176-180と同 個体
169	178	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 白 色・黒色岩片 黒色粒子少	外面原体を引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。内面上部縦位条痕文。	176-180と同 一個体
169	179	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐		外面原体を引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。内面上部縦位条痕文。	176-180と同 個体
169	180	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	1 8	白色粒子多 白 色・黒色岩片 黒色粒子少	外面原体を引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。内面上部縦位条痕文。	176-180と同 一個体
169	181	ЈО	I HI	打越	CJ 緑部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黑 色粒子 白色岩 片少	平縁。口唇部角頭状。胴上部断而四角形の隆帯を口縁に沿って貼付。口唇部を囲み 垂下する隆帯貼付 (破損のため形状不明)。外面口唇端部と隆帯の面に 貝殻で刻み。	
169	182	ЈО	I HI	打越	C1緣部破片		5YR6/6	橙	黑色粒子 白色 粒子少 白色岩 片極少	平縁。口唇部角頭状。面に箆で右下斜位の刻みを入れた後 横位条痕文施文。口縁部内疇。外面胴上部 断面四角形の隆帯を水平に貼付。隆帯の面に箆で刻 み。隆帯下部は縦位条痕文。内面横位条痕文。	
169	183	JO	I HI	打越	口綠部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子 輝石 少	波状口縁。口唇部角頭状。胴上部断面四角形の隆帯 を口縁に沿って貼付。口唇部と隆帯の面に貝殻で刻 み。隆帯下部列点状の貝殻腹縁で山形文施文。	
169	184	.10	J H1	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色·黑色粒子 多	平線? 口唇部角頭状。胴上部断面四角形の陰帯を渦巻状に貼付。外内面口唇端部と隆帯の面に箆で刻み。胴部格子状?条痕文。	
169	185	ЈО	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 白色・黒色岩片 少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部突出。口唇部を 囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。隆帯に貝 殻で刻み。外面胴部摩滅のため鯛整不明。内面横位 条痕文を贈り消す。	
169	186	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片 石英少		

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
169	187	JO	I HI	打越	口縁部1/8 胴部1/4		5YR5/8	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	平線。口唇部角頭状。外面口唇端部突出。外内面口唇端部に篦で刻み。外面胴上部格子状条痕文。条痕文の下に列点状の貝機腹縁で連続山形文2段施文。 内面横位条痕文を磨り消す。	
169	188	JO	I HI	打越	口縁部破片		7.5YR4/4	褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子少	平縁。ロ唇部角頭状。外面ロ唇端部突出。面に横位 条痕文施文後 外面ロ唇端部に箆で刻み。胴部格子 状糸痕文。	
169	189	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子 白色 粒子少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部突出。外内面口唇端部に貝殻で刻み。胴部格子状条痕文。	
169	190	JO	I HI	打越	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	黑色粒子 白色 粒子少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に斯面四角形の 隆帯貼付。内面口唇端部と隆帯上方の端部に貝殻で 刻み。胴部縦位条痕文。	
169	191	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多白色岩片少	平縁。ロ唇部角頭状。外面ロ唇端部に断面四角形の 隆帯貼付。内面ロ唇端部と隆帯の面に箆で刻み。胴 部右下斜位条痕文。	
169	192	JO	IHI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黑 色粒子少	平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部に断面四角形の 隆帯貼付。口唇部の面に格子状条痕文施文後 内面 口唇端部と隆帯の面に箆で刻み。胴部不規則な格子 状条痕文。	
169	193	JO	IHI	打越	口緑部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片少	平線? 口唇部角頭状。外面口唇端部に断面三角形の 隆帯貼付。口唇部を囲む隆帯を貼付けて三角形の突 起を作出。突起の側面に鋸歯状の貝殻腹縁で頬沈線 文3段施文。	
169	194	JO	I HI	打越	口縁部破片		2.5YR4/6	赤褐	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子少	平縁。口唇部角頭状。内面口唇端部突出。外面口唇 端部に断面三角形の隆帯貼付。内面口唇端部は箆で 隆帯は貝殻で刻み。胴部右下斜位条痕文。	
169	195	JO	IHI	打越	口縁部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子少	平縁。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯貼付。内面口唇部直下は箆で 隆帯は貝殻で刻 み。胴部列点状の貝殻腹縁で細波文2段施文。	
169	196	JO	IHI	打越	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	平縁。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯貼付。口唇部と隆帯の角に箆で刻み。胴部左下斜 位条痕文。	
170	197	JO	IHI	打越	口緑部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子少	波状口縁。口唇部角頭状。面に箆?で刻み。外面胴部列点状の貝殻腹縁で1段目に連続山形文 2段目に頭然数交施文。3段目の文様は不明。内面横位条痕文を飾り消す。	
170	198	JO	IHI	打越	口縁部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 やや多 石英少	波状口縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。胴部右下斜 位条痕文を磨り消した後 列点状の貝殻腹縁で山形 文を施文。	-
170	199	JO	I Hl	打越	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多	波状口縁。口唇部丸い。角に箆で右下斜位の刻み。 外面胴部右下斜位条痕文を磨り消した後 列点状の 貝般腹縁で連続山形文2段施文。内面横位条痕文。	199/200同一 個体
170	200	JO	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子少	外面右下斜位条痕文を磨り消した後 列点状の貝殻 腹縁で連続山形文2段施文。内面横位条痕文。	199/200同一 個体
170	201	ЈО	I Hl	打越	口緑部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子少	波状口線?口唇部丸い。角に箆?で刻み。外面胴上 部断面四角形の隆帯を口線に沿って貼付。隆帯に貝 敷で刻み。胴部列点状の貝敷腹線で山形文施文。内 面膜位条痕文を磨り消す。	
170	202	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子 石英 白色岩片少		202-206同一 個体
170	203	JO	I HI	打越	口縁部1/5	口径 (18.2)	7.5YR5/6	明褐	黑色粒子 白色 岩片 石英少	平線。口唇部丸い。外面口唇端部に断面四角形の除 帯貼付。推定4方に口唇部を囲む隆帯を貼付けて三 角形の突起を作出。口唇部の角と隆帯の面に貝殻で 刻み。顧部列点状の貝殻腹縁で連続川形文2段施 文。	202-206同一 個体
170	204	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黑色粒子多 石 英 白色岩片少	列点状の貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	202-206同一 個体
170	205	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 白色岩片 石英 黒色岩片極少	列点状の貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	202-206同一 個体
170	206	ЈО	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色粒子 石英 白色粒子・岩片 少	列点状の貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	202-206同一 個体
171	207	ЈО	I Hl	打越	口縁部1/8	口径 (21.2)	2.5YR4/6	赤褐	やや多 白色岩	平線。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯贴付。推定4方に口唇部を囲む隆帯を貼付けて三 角形の突起を作出。口唇部と隆帯の角に箆で刻み。 胴部格子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	207-209同一 個体
171	208	ЈО	I Hl	打越	口縁部破片		7.5YR4/3	褐	白色粒子やや多 黒色粒子 石英 少	平縁。口唇部丸い。外面口唇緇部に断面三角形の隆 帯貼付。口唇部と隆帯の角に箆で刻み。胴部格子状 条痕文施文後 列点状の貝殻腹縁で山形文施文。内 面様位条痕文を腹り消す。	207-209同一 個体
171	209	JO	I HI	打越	口縁部破片		7.5YR4/3	褐	白色粒子やや多 脚石少	平縁。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯貼付。口唇部と隆帯の角に箆で刻み。胴部格子状 条痕文。	207-209同一 個体
171	210	JO	I H1	打越	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子・岩片 黒色粒子 石英 少	平緑。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯貼付。口唇部と隆帯の角に箆で刻み。胴部箆で貝 般腹縁文状の山形文施文。	
171	211	JO	I H1	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子 石英 極少	平縁。口唇部丸い。外面口唇端部に断面三角形の隆 帯貼付。口唇部と隆帯の角に貝殻で刻み。胴部外内 面摩滅。	
171	212	JO	I HI	打越	口緣部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色粒子やや多	平縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面口唇部直 下縦位の条痕文。胴部鋸歯状の貝殼腹縁で山形文2 段施文。	

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
171	213	JO	I H1	打越	口縁部破片		7.5YR4/4	褐	白色・黒色粒子 やや多 白色・ 黒色岩片少	平線。口唇部丸い。角に貝殻で左下斜位の刻み。胴部列点状の貝殻腹縁で口唇部直下に細波文1段 胴上部に山形文2段施文。	
171	214	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子非常に 多 白色岩片多 黒色粒子やや多	口唇部直下格子状条痕文。胴上部太列点状の貝殻腹	
171	215	JO	I Hl	打越	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子多 白 色粒子少	平緑。口唇部丸い。角に箆で刻み。外面胴部列点状の貝殻腹縁で連続山形文2段施文。内面横位条痕文。	
171	216	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明亦得	白色粒子多 白色岩片 石英少		
171	217	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片 石英少	外面格子状条痕文。内面上部横位条痕文。下部はナ デ。	216/217同一 個体
171	218	JO	і ні	打越	口縁部破片		7.5YR3/4	暗褐	黑色粒子多 白色粒子 黑色· 赤色岩片少	平縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面胴部鋸歯状 の貝殻腹縁で山形文2段施文。	
171	219	JO	I HI	打越	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片少		219-223同一 個体
171	220	JO	I Hl	打越	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	白色・黒色粒子 やや多 白色・ 黒色岩片 石英 少	平緑。口唇部丸い。角に箆で刻み。胴部原体を少し引く貝殻腹縁で山形文施文。	219-223同一 個体
171	221	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色・白色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	原体を少し引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	219-223同一 個体
171	222	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	原体を少し引く貝殻腹縁で連続山形文2段施文。	219-223同一 個体
171	223	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片少	原体を少し引く貝殻腹縁で連続山形文3段施文。	219-223同一 個体
171	224	JO	I Hl	打越	口緑部破片		5YR6/6	橙	白色粒子・岩片 石英少	平縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部右下斜位条 痕文を磨り消す。	
171	225	JO	I Hl	打越	口緑部破片		5 Y R5/6	明赤褐	白色粒子 石英少	平縁。口唇部丸い。外面口唇端部断面三角形の低い 幅広隆帯貼付。隆帯の面に格子状条痕文。胴部格子 状?条痕文。	
172	226	JO	I Hl	打越	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	やや多 石英	口縁部不整形?口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。外面胴上部曲線的な格子状条痕文。胴下部ナデ。内面胴上部ナデ。下部は横位条痕文を磨り消す。	
172	227	JO	I Hl	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	繊維少 白色粒子 石英 輝石	不規則な波状口線?口唇部不整形。外面口唇部直下 左下斜位条痕文。胴部鍵位条痕文の上に同方向の殼 頭部の条痕文を重ねる。内面口唇部直下は横位 胴 部は鍵位または左下斜位条痕文。	227-231同— 個体
172	228	JO	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	繊維少 白色粒子 石英 輝石 少	不規則な波状口縁?口唇部不整形。外面胴部縦位条 痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を重ねる。内面 口唇部直下は横位 胴部は縦位条痕文。	227-231同一 個体
172	229	ЈО	I HI	打越	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子少	不規則な波状口飜?口唇部不整形。外面口唇部直下 樹位条痕文。胴部線位条痕文の上に同方向の殻頂部 の条痕文を重ねる。内面口唇部直下は横位 胴部は 左下斜位条痕文。	227-231同一 個体
172	230	ЈО	I HI	打腿	口綠部破片		5YR5/6	明赤褐	繊維少 白色粒子 石英 輝石	不規則な波状口録?ロ唇部不整形。外面口唇部直下 左下斜位条痕文。胴部右下斜位条痕文の上に同方向 の震頂部の条痕文を重ねる。内面口唇部直下は横位 胴部は縦位条痕文。	
172	231	JO	I :HI	打越	胴部破片		5 YR5/6	明赤褐	繊維少 白色粒子 白色岩片石英 輝石少	外面縦位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を重 ねる。内面縦位条痕文。	227-231同一 個体
172	232	JO	I H2	打越並行	口縁部破片		7.5YP5/6	明褐	繊維 白色粒子	平縁。口唇部角頭状。面に横位条痕文。胴部右下斜 位条痕文。	232/233同— 個体
172	2313	JO	I H2	打越並行	口縁部破片		7.5YR5/6	明褐	繊維 白色粒子 少	平縁。口唇部角頭状。面に横位条痕文。胴部右下斜 位条痕文。	232/233同一 個体
172	234	JO	I H2	打越並行	口縁部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 臼色岩片少	平線。口唇部角頭状。面に篦で刻み。口線部外反。 外面胴部右下斜位条痕文。内面右下斜位条痕文。	
172	235	J0	I Hl	打越	口縁部破片		5YR4/4		白色粒子・岩片 少	平縁。口唇部不整形。胴部横位の擦痕あり。	
173	236	ЈО	I H1	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明得		断面四角形の隆帯を水平に貼付。面に箆で刻み。隆 帯下部は左下斜位条痕文	
173	237	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR3/4	暗得		断面三角形の隆帯を水平に 貼付。角に篦で刻み。隆 帯下部は格子状条痕文。	

挿図 番号		層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
173	238	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤 得	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子 石英 少	断面三角形の隆帯を水平に貼付。角に篦で刻み。隆 帯下部は格子状条痕文。	
173	239	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	赤褐		右下斜位条痕文を磨り消した後 上部に同方向の条 痕文を施文してから鋸歯状の貝殻膜縁で連続山形文 2段施文。	
173	240	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片や や多 石英少	外面右下斜位条痕文を贈り消した後 上部に格子状 条痕文を施文してから鋸歯状の貝殻腹縁で連続山形 文3段施文。内面横位条痕文。	
173	241	JO	I Hl	打越	胴部破片		2.5YR6/6	橙	白色粒子 白色 岩片 石英少	格子状条痕文施文後 列点状の貝殻腹縁で山形文? 施文。	
173	242	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明福	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 石英 少	外面格子状条痕文施文後 列点状の貝殻腹縁で施文 (文様不明)。内面横位条痕文を贈り消す。	
173	243	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子・岩片 多 黒色粒子や や多 石英 黒 色岩片少	外面格子状条痕文を贈り消した後 列点状の貝殻胆 緑で山形文2段施文。内面樹位条痕文を贈り消す。	
173	244	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 少	外面右下斜位条痕文の上に列点状の貝殻腹縁で連続 山形文施文。内面横位条痕文を磨り消す。	
173	245	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子 石英 少	右下斜位条痕文の上に同方向の機頂部の条痕文を重 ね 磨り消した後 鋸歯状の貝殻腹縁で文様2段施 文。上段は文様不明。下段は連続山形文。	
173	246	JO	IHl	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色・赤色粒子 少	右下斜位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を重ね 磨り消した後 列点状の貝殻腹縁で施文(文様不明)。	
173	247	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子少	外面右下斜位条痕文を贈り消した後 列点状の貝殻 腹縁で山形文 2 段施文。内面横位条痕文。全体的に 摩滅。	
173	248	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐		上部に右下斜位条痕文施文後 列点状の貝殻腹縁で 山形文2段施文。	
173	249	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR6/6	橙	黑色粒子多 白 色岩片 白色粒 子少	右下斜位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文を重ね 磨り消した後 列点状の貝殻腹縁で連続山形文施文。	
173	250	JO	I Hl	打越	胸部破片		5YR4/6	赤褐		外面列点状の貝製腹縁で上段に連続山形文 <i>l 税</i> 下 段に格子目文 3 段施文。内面横位条痕文。	
173	251	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 キや多 石英少	列点状の貝殼腹縁で連続山形文施文。	
173	252	JO	IHI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子少	外面線位条痕文の上に同方向の蔵頂部の条痕文を重ね 順り消した後 列点状の貝殻腹縁で施文(文様不明)。内面横位条痕文。	
173	253	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色岩片	列点状の貝殻腹縁で山形文2段施文。	
173	254	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR.6/6	橙	黒色粒子やや多 輝石少	列点状の具盤腹縁で山形文2段施文。	
173	255	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5,/6	明赤褐	白色粒子非常に 多 白色岩片 黒色粒子 石英 多	列点状の貝殻腹縁で山形文施文。全体的に摩滅。	
173	256	ЈО	I Hl	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	黑色粒子少 白 色粒子極少	列点状の貝殻腹縁で山形文 2 段施文。	
173	257	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子 輝石 少	列点状の貝製腹縁で山形文 2 段施文。	
173	258	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色粒子少	外面列点状の貝殻腹縁で山形文2段施文。内面橋位 条痕文を磨り消す。	
173	259	JO	I Hl	打越	順部破片		5YR5/4	にぶい赤	白色粒子 石英	列点状の貝殻腹縁で出形文施文。	
173	260	JO	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙		列点状の貝殻腹縁で山形文施文。	
173	261	JO	I Hl	打越	胴部破:片		7.5YR4/4	得	白色粒子・岩片 多 石英やや多 黒色粒子少	列点状の貝殻腹縁で山形文施文。	
174	262	JO	I HI	打越	順部破:片		7.5YR4/6	褐		外面列点状の貝敷腹縁で連続山形文 2段施文。内面 樹位条痕文。	
174	263	表採.	t Hit	打越	胴部破,片		5YR5/6	列亦褐	黑色粒子 白色 粒子少	外面列点:状の貝殻腹縁で連続山形文2段施文., 内面 横位条痕文。	263/264同一 個体:
174	264	JO	I Hl	打越	胴部破:片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子·少 白色岩片極i少	列点状の貝壺腹縁で山形文施文、	263/264同一 固体:

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
174	265	lo	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子 白色 粒子・岩片 石 英少	外面列点状の貝殻腹縁で山形文施文。内面横位条痕 文。	
174	266	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 非常に多 石英 多 白色岩片 輝石少		
174	267	JO	I HI	打畝	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子非常に 多 白色岩片 黒色粒子多 石 英少	列点状の貝艘腹縁で山形文2段施文。全体的に 譲。	
174	268	10	I HI	打越	胴部破片		5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子 白色 岩片少		
174	269	表採	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多	外面列点状の貝殻腹縁で山形文施文。内面機位条痕 文。	
174	270	JO	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 白色・黒色岩片 少	列点状の貝殻腹縁で山形文 2 段施文。	
174	271	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子 白色 粒子・岩片 石 英少	外面列点状の貝殻腹縁で連続山形文 2 段施文。内面 横位条痕文。	
174	272	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 石英 少	外面列点状の貝殻腹縁で山形文2段施文し 一部縦位の細波文で上下の文様をつなぐ。内面横位条痕文。	
174 1	2731	10)	I HII	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 石英 少	列点状の貝殻腹縁で山形文2段施文。	272/273同一 個体
174	274	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/4	暗褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色・黒色岩片 少	緒歯状の貝殻腹縁で断続的な山形文2段施文。	
174	275	10	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐		列点状の貝殻腹縁で細波文4段施文。その下は山形 文の頂部に順沈線文を施文。	
174	276	JO	I Hl	打越	洞部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 白色岩片少	列点状の貝殻腹縁で断続的な類沈線文4段施文。	
174	277	JO	IH1	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 少	列点状の貝殻腹縁で細波文5段施文。	
174	278	ЈО	IH1	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黒 色粒子少	列点状の貝殻腹縁で細波文2段施文。	
174	279	JO	I H I	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 石英少	列点状の貝殻腹縁で細波文3段施文。	
174	280	JO	IHI	打越	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 少	列点状の貝殻腹縁で細波文3段施文。	
174	281	lO	IHI.	打越	胴部破片		5YR5/6	にぶい赤 褐	黑色粒子 白色 岩片少	列点状の貝殻腹縁で断続的な類沈線文を不規則に施 文。	
174	282	JO	I HI	打越	胴部破片 [·]		5YR5/6	明赤褐		外面原体を少し引く貝殻酸線で連続山形文3皮施 文。内面積位条痕文。	
174	283	JO	IHI	打越	胴部破片 [·]		5YR5/4	にぶい赤 褐		外面格子状条痕文施文後 原体を少し引く貝殻腹縁: で連続山形文施文。内面横位条痕文を磨り消す。	
174	284	JO	I HI	打越	胴部破片·		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	外面原体を少し引く貝殻腹縁で山形文施文。内面標: 位条痕文。	
174	285	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黑色粒子多 白 色粒子	原体を少し引く貝殻腹縁で山形文施文。	
174	286	JO I	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 多 白色・黒色 岩片少	原体を少し引く貝殻腹線で山形文2段施文.。	
174	287	JO	I HI	打越:	胴部破片		75YR3/3	暗褐		原体を少し引く貝殻腹縁で山形文施文.。	
174	288	JO	I HI I	红越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色・黒色 岩片少	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	
174	289	JO	IHI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子 黒色 粒子・岩片少	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	
174	290	JO	IHI	打越	胴部破片		10YR4/4	裀	白色岩片 白 色・黒色・赤色 粒子 石英少	原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	

挿図 番号	掲載番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
174	291	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子少	原体を引く貝殻腹縁で山形文?2段施文。下段は文 様を磨り消す。	
174	292	10	I H1	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐		原体を引く貝殻腹縁で山形文2段施文。	
174	293	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤褐	白色粒子・岩片 石英少	原体を引く貝殻腹縁で山形文施文。	
174	294	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR3/6	暗赤褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 白色岩片少	原体を引く貝殻腹縁で右下斜位の断続的な類沈線文施文。	
175	295	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 白色岩片少	外面上部に縦位条痕文施文後 原体を引く貝殻腹線 で連続山形文2段施文。内面横位条痕文。	
175	296	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片少	原体を引く貝殻腹縁で左下斜位の断続的な類沈線文2 段施文。	
175	297	ЈО	I Hl	打越	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 無 色粒子やや多 白色・黒色岩片 少	原体を引く貝敷腹縁で左下斜位の断続的な類沈線文 7 段施文。	
175	298	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐 (内面)	白色岩片少	原体を引く貝殻腹縁で細波文2段施文。	
175	299	JO	I H2	打越併行	胴部破片		7.5YR4/4	楊	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子 石英少	3、4本1単位の浅い篦の押圧で連続山形文2段施文。	299-301同一 個体
175	300	JO	I H2	打越併行	胴部破片		7.5YR4,/4	褐	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子少	3、4本1単位の浅い篦の押圧で連続山形文3段施 文。	299-301同一 個体
175	301	JO	I H2	打越併行	胴部破片		7.5YR4/4	褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	3、4本1単位の浅い箆の押圧で連続山形文2段施 文。	299-301同一 個体
175	302	JO	I H2	打越併行	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黑色粒子多 白 色粒子 褐色岩 片少	外面機位条痕文を磨り消した後 箆で横位の沈線を 1条施文し その上を複数の縦位の沈線で埋める。 内面横位条痕文を磨り消す。	
175	303	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多	外面格子状条痕文。内面横位条痕文。	303-305同一 個体
175	304	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子 白色 粒子極少	外面格子状条痕文。内面横位条痕文。	303-305同一 個体
175	305	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子 白色 粒子極少	外面格子状条痕文。内面橫位条痕文。	303-305同一 個体
175	306	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子・岩片 少	外内面格子状条痕文。	
175	307	JO	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黑色粒子少 白 色粒子極少	外面格子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	
175	308	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 多 黒色・白色 岩片 石英少	外面格子状条痕文。内面機位条痕文を磨り消す。	
175	309	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子 黑色 粒子少	外面格子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	
175	310	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 白 色粒子少	格子状条痕文。	310-312同一 個体
175	311	JO	IHI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐		格子状条痕文。	310-312同一 個体
175	312	JO	IHI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色粒子少	格子状条痕文。	310-312同一 個体
175	313	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片少	格子状条痕文。	313/314同一 個体
175	314	JO	IHI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片少	外面格子状条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	313/314同一 個体
175	315	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色粒子やや多 白色岩片少	外面格子状条痕文。内面横位条痕文。	
175	316	ЈО	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	石英やや多 白 色・黒色粒子 白色・黒色岩片 少	格子状条痕文。	
175	317	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片少	格子状条痕文。	
175	318	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色・赤色粒子 少	外面格子状条痕文を磨り消す。内面横位条痕文。	
175	319	JO	I Hl	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片少	曲線的な格子状条痕文。	
175	320	JO	I H1	打越	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子少	外面右下斜位条痕文。内面右下斜位条痕文を磨り消 す。	

	掲載番号		分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
175	321	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	繊維 白色粒 子・岩片 石英 輝石少	右下斜位条痕文。	
176	322	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子 白色 岩片 黒色粒子 石英少		
176	323	JO	I HI	打越	胴部破片		5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	外面曲線的な右下斜位条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	
176	324	JO	I H1	打越	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 多 白色・赤色 岩片少	外面右下斜位条痕文の上に同方向の殻頂部の条痕文 を重ね 磨り消す。内面横位条痕文。	
176	325	lo	I H1	打越	胴部1/4		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	外面縦位条痕文を磨り消した後 鋸歯状の貝殻腹縁 で施文(文様不明)。内面横位条痕文を磨り消す。	
176	326	JO	I Hl	打越	洞部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子 白色 岩片 石英 輝 石少	縦位条痕文。	
176	327	JO	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	外面縦位条痕文。内面縦位条痕文を磨り消す。	
176	328	ЈО	I HI	打越	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白色粒子·岩片 黑色岩片 石英 少	外面縦位条痕文。内面横位条痕文を磨り消す。	
176	329	JO	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 白 色粒子 輝石少	縦位条痕文。	
176	330	ЈО	I Hl	打越	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色岩片 白色 粒子・岩片 黒 色粒子少	縦位条痕文。	
177	331	ЈО	I H3	早期末胴部	胴部破片		5YR4/6	赤得	繊維 石英多 黒色粒子少 白 色粒子・岩片極 少	外面右下斜位条痕文。内面横位条痕文。	331/332同一 個体
177	332	JO	I H3	早期末胴部	胴部破片		5YR4/6	赤褐	繊維 黒色・赤 色粒子 石英少	外内面縱位条痕文。	331/332同一 個体
177	333	JO	I H3	早期末胴部	,嗣部1/6	最大径 (21.3)	5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子 石英少	外面縦位条痕文を磨り消す。内面横位条痕文を磨り 消す。	
177	334	ЈО	I H3	早期底部	底部1/4		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 少	鈍角の尖底。外内面ナデ。	
177	335	JO	I H3	早期底部	底部1/5		5YR6/6	橙	白色粒子・岩片 黒色岩片少	鈍角の尖底。全体的に彫滅。	
177	336	JO	I 1H3	早期底部	底部 /6		5Y:R6/8	橙	黒色粒子やや多 白色粒子少	鈍角の尖底。全体的に摩滅。	
177	337	JO	I H3	早期底部	底部 /6		5Y R4/4	にぶい赤 褐	黑色粒子多 白 色粒子少	鈍角の尖底。外内面ナデ。	
177	338	JO	I H3	早期底部	底部1/6		7.5YR6/6	橙	白色粒子 白 色・黒色岩片少	尖底。接地面に平坦部を持つ。全体的に摩滅。	
178	339	JO	ΙΙ	神之木台併行	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子 白色 粒子・岩片少	平線? 口唇部破損の為形状不明。 胴上部右下斜位の 隆帯貼付。全体的に摩滅。	
178	340	JO	ΙΙ	神之木台併行	口縁部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐		波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴上部鋸歯 状の陰帯 2 条貼付。 1 条目は部分隆帯。隆帯に篦で 刻み。	
178	341	JO	ΙΙ	神之木台併行	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子 石英	外面幅広の左下斜位の隆帯貼付。隆帯に半載竹管で 同方向の刻目列を不規則に施文。内面横位条痕文。	341-343同一 個体
178	342	ЈО	II	神之木台併行	胴部破片		5 YR5/6	明赤褐		外面幅広の左下斜位の隆帯貼付。	341-343同一 個体
178	343	JO	ΙΙ	神之木台併行	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子 石英	外面幅広の右下斜位の隆帯貼付。隆帯に半酸竹管で 同方向の刻目列を不規則に施文。内面横位条痕文。	341-343同一 個体
179	344	ЈО	I J2-1	.入海 I	口縁部1/4	口径 (25.4)	7.5YR5/4	にぶい褐	繊維少 白色粒 子・黒色粒子多 白色岩片 石英 やや多	平縁。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部隆帯 4 条 を 1・3 条目は水平 2・4 条目は波状に貼付。隆 帯に指頭で押捺。 1 3 条目は部分的に上下交互に 押捺。	
179	345	JO	I J2-1	入海I	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英多 黒色粒子やや多 白色粒子・岩片	平縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴上部隆帯3 条を水平に貼付。隆帯に箆での刻み。	345/346同- 個体
179	346	JO	I J2-1	入海I	口緣部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英多 黒色粒子やや多 白色粒子・岩片	隆帯3条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	345/346同一 個体
179	347	10	I J2-1	入海I	[1]蒙部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 白色粒子 多 白色岩片 黒色粒子少	平縁。口唇部丸い。角の内面寄りに箆で右下斜位の :刻み?外面胴上部隆帯3条を水平に貼付。隆帯に篦 で刻み。全体的に摩滅。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文標施文の特徴	備考
179	348	JO	I J2-1	入海 I	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	平縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。胴部隆帯を水平 に貼付。隆帯に篦で刻み。	
179	349	JO	I J2-I	入海I	口縹部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	平緑。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆帯を水平 に貼付。隆帯に篦で刻み。	
179	350	JO	I J2-1	入海I	口緑部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	平縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。胴部隆帯2条を 水平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
179	351	JO	I J2-I	入海I	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	平線? 口唇部丸い。角に貝殻で刻み。胴部隆帯2条 を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	351-353同— 個体
179	352	ЈО	I J2-1	入海I	胴部1/6		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	351-353同一 個体
179	353	JO	I J2-1	入海I	胴部1/6		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	右下斜位の擦痕あり。	351-353同一 個体
180	354	JO	I J2-1	入海I	口縁部1/12 胴部1/8	口径 (27.4)	5YR6/6	橙	繊維 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	平緑。口唇部丸い。角に篦で右下斜位の刻み。外面 胴上部隆帯4条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。内 面横位条痕文を磨り消す。	
180	355	JO	I J2-1	入海I	口縹部1/3	口径 (26.0)	7.5YR5/6	明得	繊維少 白色・ 黒色粒子多 白 色岩片 石英少	平緑。口唇部丸い。角に篦で右下斜位の刻み。外面 胴上部隆帯4条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。内 面横位条痕文を磨り消す。	
180	356	10	I J2-1	入海 I	口縁部1/2	口径 (24.1)	10YR5/4	にぶい黄	繊維少 白色粒 子多 黒色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	平緑。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴上部墜帯3 条を1条目は断続的な波状 2条目は波状 3条目 は水平に貼付。隆帯に篦で刻み。隆帯下部右下斜位 の擦痕あり。	
180	357	JO	I .J2-1	入海I	口縁部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 少	波状口縁。口唇部丸い。角に箆で左下斜位の刻み。 胴上部菱形状?に隆帯貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文。	
181	358	JO	I J2-1	入海 I	口緣部破片		10YR7/3	にぶい責 橙		波状口縁。口唇部丸い。角の外面寄りに箟で刻み。 胴上部隆帯3条を1・2条目は口縁に沿って 3条 目は波頂部で表形の文様を作るように屈曲して貼 付。隆帯に箟で刻み。	358-361同一 個体
181	359	JO	I J2-1	入海I	口縁部破片		7.5YR7/6	卷	繊維 白色粒 子・岩片 石英 多	波状口線。口唇部丸い。角の外面寄りに篦で刻み。 胴上部隆帯3条を1・2条目は口線に沿って 3条 目は波頂部で菱形の文様を作るように屈曲して貼 付。隆帯に篦で刻み。	358-361同一 個体
181	360	JO	I J2-1	入海I	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙		波状口縁。口唇部丸い。角の外面寄りに箆で刻み。 胴上部隆帯3条を1・2条目は口縁に沿って 3条 目は波頂部で菱形の文様を作るように屈曲して貼 付。隆帯に箆で刻み。	358-361同一 個体
181	361	JO	I J2-1	入海I	口縁部破片		10YR7,4	にぶい黄 橙	繊維 白色粒子 白色岩片 黒色 粒子 赤色岩片 石英少	胴上部隆帯3条を1・2条目は口縁に沿って 3条	358-361同一 個体
181	362	JO	I J2-1	入海 I	口綠部破片		7.5YR6/3	に、ぶい褐	繊維少 黒色粒子 石英多 白色粒子		
181	363	ЈО	I J2-1	入海I	胸部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	繊維少 黒色粒 子多 白色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
181	364	JO	I J2-1	入海I	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黑色粒子 石英 白色粒子少	隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
181	365	10	I J2-1	入海I	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子 石英 白色粒子少	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み、	
181	:366	JO	I J2-1	八海I	胴部破片		10YR6/6	明黄褐	繊維少 黒色粒 子やや多 白色 粒子 石英 金 雲母少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻み。	
181	367	JO	I J2-1	入海 I	胴部破片		10 YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子多 石 英 白色粒子少	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
182	363	JO	I J2-2	入海 I 模倣	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子 石英 少		368/369同一 個体
182	369	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙		外面隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の 刻み。内面横位条痕文。	368/369同一 個体
182	370	JO	I J2-2	入.海 I 模倣	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	石英多 白色粒 子やや多 輝石 少	平縁。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部隆帯2条 を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
182	371	JO	I J2-2	入、海 I 模倣	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい湯		平縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面胴部隆帯3 条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。内面横位条痕文 を磨り消す。	
182	372	JO	I J2-2	入,海 I 模倣	胴部破片		7.5 YR5/4	にぶい褐		外面隆帯を2条水平に貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文を磨り消す。	371/372同一 個体
182	373	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		5YR4/6	赤褐		平縁。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部隆帯 2条を水平に貼付。隆帯に篦で左下斜位の刻み。	

挿図 番号	掲載番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文模施文の特徴	備考
182	374	10	I J2-2	入海I模倣	口緣部破片		7.5YR6/6	橙		平縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆帯2条を 水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
182	375	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		5YR4/4	にぶい赤 褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	平縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴部隆帯2条 を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	
182	376	攪乱	I J2-2	入海 I 模倣	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子 石英 多 黑色粒子少		
182	377	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 石英多 白色岩 片少		
182	378	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	緩い波状口線。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部 隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
182	379	JO	I J2-2	入海I模倣	口緣部1/12	口径 (33.4)	2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 石英 輝石少	緩い波状口縁。口唇部丸い。角に貝殼で刻み。外面 胴部隆帯3条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文。上部は磨り消している。	
182	380	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		2.5YR5/5	明赤褐	白色粒子多 白色岩片 石英 輝石少	外面隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文。上部は贈り消している。	379-384同一 個体
182	381	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		2.5YR5/6	明赤褐		緩い波状口縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面 胴部隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文を磨り消す。	
182	382	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐		外面隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。内面横位 条痕文を磨り消す。	379-384同一 個体
182	383	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐		外面隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。内面横位 条痕文を磨り消す。	379-384同一 個体
182	384	JC	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		2.5YR5/6	明赤褐		外面隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。内面 横位条痕文を磨り消す。	379-384同— 個体
1183	385	JO	I J2-2	入海 I 模倣	口緑部1/5	口径 (21.7)	5YR5/6	明赤褐	白色粒子 白 色・黒色岩片 赤色粒子 石英 少	緩い波状口縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。 胴部隆 帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	385-387同一 個体
1.83	386	10	I J2-2	入海I模倣	C1禁部1/8	口径 (21.7)	5YR5/6	明赤褐		設い波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。 胴部隆 帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	385-387同一 個体
183	387	30	I J2-2	入海I模倣	口縁部一部 胴部1/4	口径 (21.7)	2.5YR5/6	调赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子 白色 岩片 石英 輝 石少		385-387同— 個体
183	388	JO	I J2-2	入海I模倣	口縹部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色・白色粒子 石英	緩い波状口縁?口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆 帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	388-391同一 個体
183	389	JO	I J2-2	入海 I 模倣	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	白色・黒色粒子 石英少	緩い波状口縁?口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆 帯3条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	388-391同一 個体
183	390	JO	I J2-2	入海 I 模倣	口綠部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子 黑色 粒子 石英少	緩い波状口縁?口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆 帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	388-391同一 個体
183	391	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白 色粒子 石英少	隆帯4条を水平に貼付。3条目は断続的。隆帯に篦 で刻み。	388-391同一 個体
183	392	JO	I J2-2	入海 I 模倣	口緑部破片		5YR6/6	橙	白色粒子 黒色 粒子 石英やや 多	波状口縁。口唇部角頭状。面に篦で右下斜位の刻み。胴部隆帯3条を口縁に沿って貼付。隆帯に篦で刻み。	
183	393	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		7.5YR4/6	褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	波状口縁?口唇部角頭状。面に箆で左下斜位の刻み。胴部隆帯を波状に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	
183	394	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 黒色岩片少	波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆帯3 条を波状に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻み。	
183	395	JO	I J2-2	入海I模倣	口縁部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐		緩い波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。胴部隆 帯3条を1条目は水平 2・3条目は波状に貼付。 陸帯に篦で右下斜位の刻み。	395-401同 個体
183	396	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙		職帯2条を1条目は波状 2条目は水平に貼付。職 帯に距で右下斜位の遡み。	395-401同 個体
183	397	JO	I .J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子 白色 粒子極少	隆帯2条を1条目は波状 2条目は水平に貼付。隆 帯に篦で右下斜位の刻み。	395-401同一 個体
183	398	JO	I .J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		10YR6/4	にぶい貴 橙	黑色粒子多 白 色粒子少	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	395-401同一 個体
183	399	JO	I .J2-2	入海 I 模倣	肩部1/3		10YR5/4	にぶい黄 褐		監帯3条を1・2条目は波状 3条目は水平に貼付。監帯に篦で右下斜位の刻み。	395-401同一 個体
183	400	JO	I .J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙		隆帯3条を1・2条目は波状 3条目は水平に貼 付。隆帯に篦で右下斜位の刻み。	395-401同— 個体
183	401	JO	I .J2-2	入海 [模倣	胴部破片		7.5YR5/4	明褐	黒色粒子・岩片 少	外内面ナデ。	395-401同一 個体

章図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
184	402	JO	I J2-2	入海 I 模倣	嗣部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 白色岩片 赤色 粒子 石英少	外面隆帯3条を水平に貼付。2条目は断続的。隆帯 に半載竹管で右下斜位の刻み。内面積位条痕文。	
184	403	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片 石英少	隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
184	404	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色・白色粒子 黒色岩片 輝石 少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻 み。	
184	405	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤	白色粒子多 白 色岩片やや多 輝石少	外面隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻 み、内面積位条痕文。	
184	406	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子多 赤 色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子少	外面断続的な隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で右 下斜位の刻み。内面横位糸板文を磨り消す。	
184	407	ЈО	I J2-2	入海 1 模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子多 白色岩片 黒 色・赤色粒子 石英少	外面断続的な隆帯 2 条を水平に貼付。内面横位条痕 文を磨り消す。	
184	408	JO	I J2-2	入海 I 模倣	洞部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子 石英 黑色粒子少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で刻み。全体的に 摩滅。	
184	409	lO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子多 石 英少	外面隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で左下斜位の 刻み。内面横位条痕文。	
184	410	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい槽	白色粒子 石英 多	隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
184	411	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		10YR6/4	にぶい貴 橙	石英多 白色。 黒色粒子	隆帯3条を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
184	412	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にない得	白色岩片 黑色 粒子 石英少 白色粒子極少	隆帯2参を水平に版付、藤帯に霞で1参目は離位 2条目は左下斜位の刻み。	
184	413	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 白 色粒子 黑色岩 片 石英少	隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
184	414	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子・岩片 白色岩片極少	隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻 み。	
184	415	JO	I J2-2	入海I模倣	胴部破片		7.5YR5/4	明褐)	隆帯3条を水平に貼付。1条目は断続的。隆帯に篦 で刻み。	
184	416	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		5YR6/6	橙	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	隆帯を水平に貼付。隆帯に藁で刻み。	
184	417	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		7.5YR6/6	橙		外面隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻 み。内面横位の擦痕あり。	
184	418	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 御	白色粒子・岩片 多 石英少	隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻み。	
184	419	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		5YR5/6	明赤褐		「外面隆帯 2 条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の 刻み。内面橫位条痕文。	
184	420	K G P	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 輝石 少	外面隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻 み。内面横位条痕文。	
184	421	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		7.5YR4/6	褐		外面断続的な隆帯を波状に貼付。隆帯に箆で刻み。 内面横位条痕文を磨り消す。	
184	422	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		5YR4/4	にぶい赤褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片少	隆帯2条を波状に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻	
184	423	JO	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		7.57Ft5/6	明褐		隆帯2条を波状に貼付。隆帯に箆で右下斜位の刻 み。	
184	424	ЈО	I J2-2	入海 I 模倣:	胴部破片		7.5YR6/6	梅		隆帯を波状に貼付。隆帯に篦で刻み。隆帯下部擦痕 あり。	
184	425	JO	I J2-2	入海 I 模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤袍		断続的な隆帯2条を1条目は右下斜位 2条目は水 平に貼付。隆帯に箆で刻み。	
185	426	JO	I J3-1	入海·II	胴部1/6 1	口径 (20.0)	7.5YR6/6	橙:	繊維 白色粒子	The second secon	
185	427	JO	I J3-1	入海·Ⅱ	口線部破片		10YR7/4	に ぶい黄 橙:		平線。口唇部角頭状。面に刻み(施文具不明),胴部低い監帯3条を1・2条目は水平 3条目は皮状に貼付。監帯に篦で刻み。全体的に摩緘。	
185	428	JO	I J3-1	入海:Ⅱ	口線部破片		5YR6/6	橙:	繊維 白色岩片 石英やや多 白 色粒子		423/429同日 個体
185	429	JO	I J3-1	入海Ⅱ	脈部1/5		2.5YR6/6	橙	繊維 白色粒子 多 白色岩片 石英やや多・	外面右下斜位の擦痕あり。内面横位の擦痕あり。	423/429同 個体

	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
185	430	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部1/5	口径 (22.4)	10YR7/4	にぶい黄 橙		平縁。口唇部角頭状。面と内面口唇端部に箆で刻み。外面口唇部面下篦で1条目は縦位 2条目は左下斜位の密接した刻目列2条を施文。胴部緩い波状の低い膨帯2条貼付。	
185	431	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	繊維 白色粒子 やや多 石英少		431/432同一 個体
185	432	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	繊維 白色粒子 やや多 白色岩 片 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。内面口唇端部篦で左下斜位の刻み。外面口唇部直下箆で縦位 の密接した刻目列2条を口縁に沿って施文。胴部低 い隆帯3条を口縁に沿って貼付。隆帯に箆で密接し た刻み。内面横位条痕文。	
186	433	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		7.5YR7/6	橙	繊維 白色粒子 石英少	波状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面口唇部 直下篦で縦位の刻目列を口縁に沿って施文。胴部低 い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で刻み。	
186	434	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	子やや多 白色	緩い波状口縁。口唇部丸い。角に貝殻で刻み。外面 胴部低い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻 み。内面横位の強いナデ。	
186	435	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		10YR7/2	にぶい黄 橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 石英少	波状口縁。波頂部に平坦面を持つ。平坦部はさらに 細かい波状を呈する。口唇部丸い。平坦部の波底の み外面口唇端部に箆で刻み。外面口唇部直下箆で緩 位の密接した浅い刻目列2条を口縁に沿って施文。 胴部低い略帯を水平に貼付。隆帯に箆で密接した浅 い刻み。内面口唇部直下箆で左下斜位の刻み。	
186	436	JO	I J3-1	入海口	口縁部破片		2.5Y7/3	浅黄			
186	437	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口縁部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維少 黒色粒子 子多 白色粒子 石英やや多 白 色岩片少	し波頂部は角頭状。口唇部に箆で波頂部は縦位 そ	437-440同一 個体
186	438	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい橙		篦で右下斜位の密接した刺目列を水平に施文。刺目列の下に低い隆帯 2 条を 1 条目は水平に 2 条目は波状に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
186	439	JO	I J3-1	入海II	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維少 白色· 黒色粒子 石英 多 白色岩片少	低い隆帯を波状に貼付。隆帯に箆で右下斜位の密接 した刻み。	437-440同一 個体
186	440	JO	I J3-1	入海Ⅱ	口隸部1/4	口径 (31.6)	7.5YR6/4	にぶい橙	繊維少 白色・ 黒色粒子多 白 色岩片 石英や や多		437-440同一 個体
1:86	441	JO	I J3-I	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	繊維少 黑色粒子多 白色粒子・岩片 石英	低い酸帯を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
186	442	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR6/3	にぶい黄 橙		低い隆帯2条を水平に貼付。隆帯に箆で密接した刻み。	
186	443	視乱	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 巻	繊維 白色粒子 石英少	低い隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
186	444	JO	I J3-I	入海Ⅱ	胴部破片		10YR8/3	浅黄橙	繊維 白色粒子 多	低い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
186	445	JO	I J3-1	入海II	胴部破片		2.5Y7/3	浅黄	白色粒子多 石 英 黑色粒子少	低い隆帯3条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の 密接した刻み。3条目の隆帯の直下に箆で右下斜位 の密接した刻目列を水平に施文。	
186	446	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		7.5YR6/6	橙		低い陰帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の密接 した刻み。全体的に摩減。	
186	447	JO	I J3-I	入海Ⅱ	胴部破片		7.5YR6/6	橙	繊維少 石英や や多 白色粒 子・岩片 黒色 粒子 金雲母少	低い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
1.86	448	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	繊維少 黒色粒 子多 白色粒子 やや多 石英 白色岩片少	低い酸帯を水平に貼付。	
1:36	449	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	繊維少 黒色粒 子多 石英やや 多 白色粒子 白色岩片少	低い陰帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の密接 した刻み。	
186	450	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		2.5Y7/3	浅黄		低い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で斜位の密接した 浅い刻み。刻みの方向は途中で左右を変える。	

186				型式	1	(cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
	451	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維少 白色粒 子・岩片 黒色 粒子 石英少	低い陰帯を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の密接 した浅い刻み。	
186	452	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維少 白色・ 黒色・赤色粒子 石英少	篦で右下斜位の密接した浅い刻目列を水平に施文。	
186	453	10	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維少 白色粒 子・岩片 黒色 粒子 赤色岩片 少	低い隆帯 2 条を波状に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
187	454	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維 白色粒 子・岩片 石英 少	低い隆帯2条を1条目は水平 2条目は波状に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	454/455同一 個体
187	455	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維 白色粒 子・岩片 石英 少	低い隆帯2条を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻 み。	454/455同一 個体
187	456	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		1)YR6/6	明黄褐	繊維少 黒色粒 子多 石英やや 多 白色粒子・ 岩片少	外面低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。内面横位条痕文を贈り消す。	
187	457	S S C	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		1)YR6/4	にぶい黄 橙		低い隆帯5条を波状に貼付。4・5条目は断続的。 隆帯に篦で密接した刻み。	
187	458	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	石英多 白色・ 黒色粒子	低い隆帯2条貼付。1条目は形状不明。2条目は波 状。隆帯に篦で密接した刻み。	
187	459	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	繊維 白色粒子 多 石英少	低い隆帯を波状に貼付。隆帯に箆で密接した刻み。	
187	460	JO	I J3-1	入海口	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 榕		低い隆帯3条を1・3条目は水平 2条目は波状に 貼付。隆帯に篦で密接した浅い刻み。	460/461同一 個依
187	461	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙		低い隆帯2条を1条目は水平 2条目は波状に貼付、	460/461同一 個体:
187	462	JO	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 樹	白色粒子多 黒 色粒子やや多 赤色粒子・石英 少	低い隆蒂を水平に貼付。隆帯に篦で密接した浅い刻 み。隆帯下部に篦で右下斜位の密接した浅い刻目列 を波状に施文。	
187	463	JO	I J3-1	入海 II	胴部破片:		2.5Y7/3	浅黄	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子 石英少	低い酸帯を波状に貼付。隆帯に篦で右下斜位の密接 した浅い刻み。	
187	464	JO	I J3-1	入海 II	铜部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	繊維 白色岩片 やや多 白色粒 子 石英少		
187	465	10	I J3-1	入海Ⅱ	胴部破片		10YR7/2	にぶい黄 橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 石英少	低い隆帯3条を1・2条目は水平 3条目は披状に 貼付。隆帯に篦で密接した浅い刻み。	
187	466	JO	I J3-1	入海 II	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多	低い隆帯3条を1・2条目は水平 3条目は波状に 貼付。隆帯に篦で密接した浅い刻み。	
187	467	ЈО	I J3-3	入海Ⅱ併行	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 白色粒子 やや多 黒色粒 子 石英少	平縁。口唇部角頭状。面に横位条痕文施文後 貝殻 で刻み。外面胴部横位条痕文施文後 隆帯 2 条を水 平に貼付。隆帯に貝殻で左下斜位の刻み。内面横位 条痕文。	
187	468	JO	I J3-3	入海II 併行	口縁部破片		7.5YR6/6	橙:	繊維 白色粒子 やや多 黒色粒 子 石英少	平線。口唇部角頭状。面に横位条痕文施文後 貝殻 で刻み。外面胴部横位条痕文施文後 隆帯 2 条を水 平に貼付。隆帯に貝衆で左下斜位の刻み。隆帯下部 は右下斜位条痕文。內面横位条痕文。	
187	469	JO	I J3-3	入海Ⅱ併行	口縁部破法		7.5YR6i/6	橙:	繊維 白色粒子 やや多 黒色粒 子 石英少		
188	470	JO	I J3-2	入毎Ⅱ模倣	口隸部破片		7.5¥R5/4	だぶい褐		平線:2 中唇部角頭状。面に箆で刻み。胴部低い整葉 を水平に貼付。隆帯に篦で密接した刻み。	
188	471	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胴部破片		7.5YR5/6	明褐	黒色粒:子多 白 色粒子・岩片 石英少	低い降帯を波状に貼付。隆帯に箆で密接した刻み。	
188	472	SS	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胴部夜:片		2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片 石英少	低い隆帯を波状に貼付。隆帯に箆で密接した刻み。	
188	173	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胴部破!片		7.5YR6/6	麼	日告:・黒色粒子 石英:	低い隆帯を水平に貼付。隆帯に篦で右下斜位の刻 み。	
188	474	JO	I J3-2	入海∏樽倣	胴部破片		75YB4/6	視		外面低い隆帯3条を1条目は波状 2・3条目は水 平に貼付。隆帯に半微竹管で1・3条目は左下斜位 2条目は右下斜位の密接した刻み。内面横位条痕 文。	
188	475	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	嗣部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	色岩片やや多	外面低い隆著2条を水平に貼討。隆著に半載竹管で 1条目は右下斜位 2条目は左下斜位の密接した刻 み。内面横位条痕文を贈り消す。	
-	476	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胸部破片		5YR6/6	榕	白色粒子 石英	 外面低い隆帯を水平に貼付。隆帯に箆で密接した刻 み。内面横位条痕文。	

	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
188	477	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	,胴部破片		7.5YR6/6	莅	石英やや多 白 色粒子 輝石少	低い隆帯3条を水平に貼付。隆帯に箆で右下斜位の 刻み。全体的に摩滅。	
188	478	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子・岩片 少	強いナデで低い水平隆帯2条を作出。隆帯に半截竹 管で刻み。	
188	479	JO	I J3-2	入海Ⅱ模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙	繊維少 白色岩 片 石英少	低い隆帯2条を波状に貼付。隆帯に貝殻で密接した 刻み。	
189	480	JO	I J4-1	石山	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	白色粒子多 白 色岩片 黒色・ 赤色粒子少	平縁。口唇部内削ぎ。面に箆で右下斜位の刻み。外面口唇部直下箆で縦位の密接した刻目列3条を水平 に施文。	
189	481	ЈО	I J4-1	石山	胴部破片		5YR6/6	檀	繊維 白色粒子 非常に多 石英 多 白色岩片 黒色粒子やや多	篦で右下斜位の刻目列4条を水平に施文。	
189	482	JO	I J4-1	石山	口縁部破片		7.5YR7/6	橙	繊維 石英やや 多 白色粒子・ 岩片少	波状口縁。口唇部角頭状 面に箆で左下斜位の刻み。外面口唇部直下箆で1条目は縦位 2条目は右 下斜位の密接した刻目列2条を口縁に沿って施文。	
189	483	JO	I J4-1	石山	口縁部破片		10YR8/4	浅黄橙	繊維 白色粒子 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴部篦で 縦位の浅い刻目列2条を1条目は口縁に沿って 2 条目は波状に施文。全体的に摩滅。	
189	484	JO	I J4-1	石山	口緑部1/4	口径 (8.7)	10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維 白色・黒 色・赤色粒子 石英少	設状口縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。口唇部直下 篦で羽状の密接した刻目列2条を口縁に沿って施 文。	
189	485	JO	I J4-1	石山	口綠部1/5	口径 (20.1)	I0YR7/3	にぶい貴 橙	繊維 石英 金 雲母	平線。口唇部角頭状。面に篦で刻み。胴上部篦で右 下斜位の浅い刻目列3条を1・3条目は水平 2条 目は波状に施文。1・2条目は刻目が密接。	485/486同一 個体
189	486	提乱	I J4-1	石山	口縁部1/10	口径 (20.1)	10YR7/3	にぶい黄 橙	繊維 石英 金 雲母 礫少	平線。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴上部篦で右 下斜位の浅い刻目列3条を1・3条目は水平 2条 目は波状に施文。1・2条目は刻目が密接。	
190	487	JO	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 黑色岩片 石英輝石少	平線。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面口唇部直下 と胴部に篦で右下斜位の刻目列を水平に施文。胴部 の刻目列の下に縦位の刻目列を波状に施文。	487/488同一 個体
190	488	ЈО	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黑色粒子多 黑 色岩片 石英 脚石少	篦で刻目列2条施文。1条目は右下斜位の刻目列を 横位に 2条目は縦位の刻目列を波状に施文。	487/488同一 個体
190	489	JO	I J4-2	石山模倣	口綠部破片		7.5'YR6/6	橙	繊維 白色粒子 非常に多 黒色 粒子 石英多 金雲母 輝石少	平縁。口唇部丸い。角に篦で刻み。外面口唇部直下 篦で縦位の刻目列を水平に施文。	
190	490	JO	I J4-2	石山模倣	C1緑部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 石英少	平線。口唇部丸い。外面口唇部直下篦で右下斜位の 刻目列を水平に施文。胴部篦で左下斜位の刻目列3 条を水平に施文。	
190	491	JO	I J4-2	石山模倣	口綠部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 脚石少	平縁。口唇部丸い。外而口唇部直下箆で縦位の刻目 列施文。胴部箆で刻目列2条を水平に施文。刻目の 方向は上段は右下斜位 下段は左下斜位。	491/492同一 個体
190	492	JO	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 脚石少	平縁。ロ唇部丸い。外面ロ唇部直下箆で鎌位の刻目 列施文。胴部箆で刻目列2条を水平に施文。刻目の 方向は上段は右下斜位 下段は左下斜位。	491/492同一 個体
190	493	提訊	I J4-2	石山模倣	口縹部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	石英やや多 白 色・黒色・赤色 粒子 輝石少	平録。口唇部角頭状。胴部篦で右下斜位の刻目列を 波状に施文。	
190	494	JO	I .J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR6/6	橙		平線。口唇部丸い。外面口唇部直下篦で右下斜位の 刻目列を水平に施文。胴部篦で縦位の刻目列を波状 に施文。	
190	495	JO	I .J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR6/6	莅	白色粒子 石英 脚石少	箆で右下斜位の刻目列を波状に施文。	494/495同一 個体
190	496	JO	I J4-2	石山模倣	口緑部破片		5YR4 <u>'</u> 4	にぶい赤 褐	色岩片やや多	平縁。口唇部丸い。外面口唇部直下半截竹管で緩位 の刻目列を水平に施文。胴部半截竹管で縦位の刻目 列 2 条を 1 条目は水平 2 条目は波状に施文。	496/497同一 個体
190	497	JC	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR4/4	にぶい赤 得	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子・岩片 赤褐色岩片少	平縁。口唇部丸い。外面口唇部直下半歳竹管で緩位 の刻目列を水平に施文。胴部半歳竹管で縦位の刻目 列 2 条を 1 条目は水平 2 条目は波状に施文。	496/497同一 個体
1190	498	JO	I J4-2	石山模倣	口繆部破片		.5YR5/5	明赤褐		平縁。口唇部角頭状。而に半被竹管で刻み。外面口唇部直下半微竹管で縦位の刻目列を水平に施文。胴部半截竹管で縦位の刻目列2条を波状に施文。	
190	499	JO	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子やや多 白色粒子 輝石 少	平縁。口唇部丸い。角の外面寄りに半蔵竹管で刻 み。外面口唇部直下箆で縦位の刻目列2条を水平に 施文。2条目は断続的。胴部篦で縦位の刻目列2条 を波状に施文。	
1:90	500	JO	I J4-2	石山模倣	口縹部破片		10YR5/3	にぶい黄	石英やや多 白 色・黒色粒子 輝石少	波状口録? 口唇部丸い。外面口唇部直下篦で縦位の 浅い刻目列を口縁に沿って施文。胴部篦で縦位の刻 目列2条を1条目は断続的な右下斜位 2条目は波 状に施文。	
190	501	JO	I J4-2	石山漠徹	口縹部破片		5YR5/6	明赤褐		波状口縁?ロ唇部丸い。外面口唇部直下篦で右下斜位の刻目列を水平に施文。 胴部篦で左下斜位の刻目 列3条を水平に施文。	
190	502	JO	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR4/6	赤褐		波状口縁?口唇部角頭状。胴部半載竹管で刻目列3 条を波状に施文。刻目の方向は波頂部を境に左は左 下斜位 右は右下斜位。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
190	503	JO	I J4-2	石山模倣	口綠部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白色粒子 白色岩片 石英少	波状口縁?口唇部角頭状。面に刻み(原体不明)。胴部半數竹管で縱位の刻目列2条を水平に施文。	
190	504	JO	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片少	平縁。口唇部丸い。角の内面寄りに箆で刻み。胴部 箆で左下斜位の浅い刻目列を水平に施文。	
190	505	10	I J4-2	石山模倣	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白色粒子 黑色岩片 蠅石少	平縁。口唇部丸い。口唇部を囲む隆帯を貼付けて三 角形の突起を作出。胴部半載竹管で刻目列3条を波 状に施文。刻目の方向は波頂部を境に左は右下斜位 右は左下斜位。	
190	506	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子 石英 やや多 白色・ 赤色粒子少	篦で縦位の刻目列を水平に施文。	
190	507	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい楷	白色粒子・岩片 黒色粒子少	箆で縦位の刻目列を水平に施文。	
190	508	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/4	にぶい橙	白色粒子 石英 やや多 輝石少	縦位の刻目列を水平に施文。(施文具不明)	
190	509	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤褐		箋で右下斜位の刻目列3条を水平に施文。2条目は 断続的。3条目は施文方向不明。	
190	510	JO	I J4-2	石山模倣	胸部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色・黒色粒子 少	箆で縦位の刻目列を菱形状に施文。	
190	511	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子・岩片 輝石少	縦位の刻目列を水平に施文。(施文具不明)	
190	512	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	The state of the s	箆で右下斜位の刻目列3条を水平に施文。	
190	513	表採	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐		篦で右下斜位の刻目列 4条を1・2条目は波状 3・4条目は水平に施文。	
190	514	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙		篦で刻目列2条を水平に施文。刻目の方向は1条目は縦位 2条目は右下斜位。	514/515同一 個体
190	515	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子・岩片 黒色粒子 赤色 粒子 石英 輝 石少	箆で右下斜位の刻目列を水平に施文。	514/515同一 個体
191	516	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙		外面箆で縦位の浅い刻目列を水平に施文。内面横位 条痕文を磨り消す。	
191	517	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐		縦位の浅い刻目列を波状に施文(施文具不明)。文様 下部は右下斜位の擦痕あり。	
191	518	S S C	I J4-2	石山模倣	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色・赤色粒子 石英少	② で右下斜位の刻目列2条を 「条目は水平 2条目は波状に施文。	518/519同一 個体
191	519	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色・赤色粒子 石英少	篦で右下斜位の刻目列を波状に施文。	518/519同一 個体
191	520	ЈО	I J4-2	石山模倣	胴部破片		10YR6/4		黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子 石英 少	篦で縦位の浅い刻目列を波状に施文。	
191	521	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子・石英 多 白色・黒色 岩片 白色粒子 少	箆で縦位の浅い刻目列2条を波状に施文。刻目列の間に指頭ナデ。	
191	522	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	半截竹管で縦位の刻目列2条を水平に施文。	522-524同一 個体
191	523	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	半截竹管で縦位の刻目列2条を水平に施文。	522-524同一 個体
191	524	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子多 白 色粒子・岩片 石英少	半截竹管で縦位の刻目列2条を水平に施文。	522-524同一 個体
191	525	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐		半載竹管で凝位の刻目列3条を遊状に施文。3条目 は施文方向不明。	
191	526	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR6/6	橙	石英多 白色粒 子 黒色岩片少	半截竹管で羽状の刻目列を水平に施文。	
191	527	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子多 白 色粒子 石英少	半截竹菅で羽状の刻目列2条を水平に施文。(1条 目は欠損)	
191	528	表採	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	黒色粒子やや多	半載竹管で右下斜位の刻目列3条を1条目は左下斜位の断続的な直線状 2・3条目は水平に施文。	
191	529	攪乱	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR4/4		白色粒子・岩片	半載竹管で縦位の刻目列を波状に施文。	
191	530	JO	I J4-2	石山模倣	胸部破片		7.5YR5/4	_	黒色粒子多 白	半載竹管で縦位の刻目列3条を1条目は水平 2・ 3条目は波状に施文。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
191	531	JO	I J4-2	石山模倣	胴部破片		7.5YR5/4	明褐	白色粒子・黒色 粒子やや多 石 英少		
191	532	ЈО	I J4-2	石山模倣	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子・岩片 赤 色岩片 石英少		
191	533	JO	I J4-3	不明早期末東 海系(石山併 行)	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 白色・黒 色粒子 石英少		533/534同一 個体
191	534	JO	I J4-3	不明早期末東 海系(石山併 行)	口縁部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 白色・黒 色粒子 石英少		533/534同一 個体
191	535	JO	I J4-3	石山併行	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色・赤色粒子 石英少	平縁。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴部半截竹管で横位の刻目列2条を水平に施文。	535-539同一 個体
191	536	JO	I J4-3	石山併行	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色・赤色粒子 石英少	平線。口唇部角頭状。面に箆で刻み。胴部半截竹管 で横位の刻目列3条を水平に施文。	535-539同一 個体
191	537	JO	I J4-3	石山併行	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色・赤色粒子 石英少	半蔵竹管で横位の刻目列を水平に施文。	535-539同一 個体
191	538	JO	I J4-3	石山併行	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色・赤色粒子 石英少	半截竹管で横位の刻目列2条を水平に施文。	535-539同一 個体
191	539	JO	I J4-3	石山併行	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	黒色粒子多 白 色・赤色粒子 石英少	半載竹管で横位の刻目列2条を水平に施文。	\$35-539同一 個体
192	540	JO	I J5	天神山	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色岩片 馬 色・赤色粒子 石英少	波状口縁。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部貝 殻腹縁で波状文2条を水平に施文。	
192	541	JO	I J5	天神山	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙		平縁。口唇部角頭状。外面口唇端部突出。面に貝殻 で刻み。胴部貝殻腹縁で波状文3条を水平に施文。	
192	542	JO	I J5	上 中 山 中 天	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙		平壽。口唇部角頭状。面に貝殻で刻み。胴部貝殻腹 録で波状文3条を水平に施文。	
192	543	JO	I J5	天神山	胴部破片		2.5Y6/2	灰黄	白色・黒色粒子 石英 白色岩片 赤色粒子極少	平縁。口唇部角頭状。面に貝殻で右下斜位の刻み。 外面口唇部直下を指頭で押さえて口縁部を外反させ る。胴部貝殻腹縁で波状文2条を水平に施文。	
192	544	JO	I J5	天神山	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子 石英 白色粒子極少	貝殻腹縁で波状文を水平に施文。	
192	545	JO	I J5	天神山	順部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子 石英 やや多 黒色粒 子少	貝殻腹縁で波状文2条を水平に施文。	
192	546	JO	I J5	天神山	胴部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	白色・黒色・赤 色粒子 石英少	貝殻腹縁で波状文3条を水平に施文。	
192	547	JO	I J5	天神山	胴部破片		10YR7/3	にぶい黄 橙	白色粒子 石英 やや多 黒色粒 子少	貝殻腹縁で波状文を水平に施文。内面摩滅。	
192	548	JO	I J6	東海胴部	胴部1/8		7.5YR7/4	にぶい橙	繊維 石英多 赤色粒子	外面横位ナデ。内面横位の擦痕あり。	
193	549	JO	I K	下吉井	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい祠	白色・黒色粒子 多 石英 白 色・黒色岩片少	波状口縁。口唇部丸い。胴部半截竹管で横位の沈線 4条施文。2・3条目は押引。	549/550同一 個体
193	550	JO	ΙK	下吉井	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子・岩片 黒色粒子多 石 英 黒色岩片 少	芋蔵竹菅で積位の沈髞施文後 沈緑の上に円形の刺 突文施文。	549/550同一 個体
193	551	Ol	I K	下吉井	口綜部破片		7.5YR7/6	穩(內面)	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色・黒色岩片 赤色粒子・岩片 輝石少	平縁。口唇部丸い。胴部半蔵竹管で不規則な横位の 沈線 3 条施文。	551/552同一 個体
193	552	JO	IK	下吉井	們部破片		7.5YR6/6	橙(内面)	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子 赤色粒子・ 岩片 石英 輝 石少	半歳竹管で横位の沈線3条施文。	551/552同一 個体
193	553	JO I	IK I	下吉井:	口縹部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	白色粒子多 黒 色粒子 輝石や や多 白色・黒 色岩片 赤色粒 子少	波状口縁。口唇部角頭状。胴部半歳竹管で沈線3条: を口縁に沿って施文。3条目は押引。	
193	554	JO	IK	下吉井:	口縹部破片		10YR5/4	にぶい責 掲	白色粒子・岩片 黒色粒子 石英 赤色粒子少	平縁。口唇部角頭状。胴部半截竹管で横位の沈線施 文。全体的に摩減。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	上色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
193	555	JO	IK	下吉井	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色· 黑色粒子 石英	半載竹管で横位の沈線施文。	555/556同— 個体
193	556	JO	ΙK	下吉井	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	黒色粒子 石英 白色・赤色粒子 少	半載竹管で横位の不規則な沈線2条施文。	555/556同一 個体
193	557	JO	IK	下吉井	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	繊維少 石英多 白色・黒色粒子 やや多	殻頂部の条痕文を左下斜位に施文してから右下斜位 条痕文施文。	
193	558	JO	IL	不明早期末	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片 石英 少		
193	559	JO	ΙL	不明早期末	口綠部破片		7.5YR6/6	橙	繊維 白色粒子 多 石英やや多		
193	560	JO	IL	不明早期末	口縁部破片		7.5YR6/6	禮	黒色粒子多 石 英やや多 白色 粒子 黒色岩片 少	平線。口唇部角頭状。面に半碳竹管で刺突又應文。 胴部縦位の平行沈線文施文。	
193	561	JO	IL	不明早期末	口縁部破片		10YR6/6	にぶい黄 燈	黒色粒子 白 色・赤色粒子少	平縁。口唇部丸い。面に篦で刻み。胴部縦位の平行 沈線文施文。	
193	562	JO	ΙL	不明早期末	口縁部1/9 胴部1/6	口径 (31.2)	7.5YR5/4	にぶい褐	繊維少 石英 黒色粒子 赤色 粒子・岩片少	平縁。口唇部丸い。角に箆で刻み。胴部横位の擦痕 あり。内面横位条痕文を磨り消す。器壁厚い。	
194	563	JC	I K	下吉井	口緑部 胴部一部	口径 (30.4)	7.5YR5/6	明褐	白色岩片 石英輝石 礫	波状口縁。口唇部丸い。外面口唇端部に隆帯貼付。 胴上部隆帯2条を推定3方に楕円状の空間を形成す るように波状に貼付。空間に円形浮文比付。隆帯 宽で右下斜位の刻み。円形浮文に貝殻で刻み。隆帯 下部縦位条痕文。内面樹位または右下斜位条痕文。 胴上部は条痕文を磨り消す。	
199	564	JO	ΠА	:花積下層	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子 石英 少	外面Rの縄による燃糸側面圧痕文を渦巻状に施文。 内面Rの縄による燃糸側面圧痕あり。	564/565同一 個体
199	565	JO	IΙΑ	花積下層	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	石英多 白色· 黑色粒子 黑色 岩片少	Rの縄による撚糸側面圧痕文を渦巻状に施文。	564/565同一 個体
200	566	JO	II B1	諸磯b	凋部破片		2.5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 石英少	半載竹管で平行沈線を横位に施文後 同一原体で刺 突文を沈線上に施文。	
200	567	JO	II B3	諧磯b	口線部1/3	口径 (33.0)	7.5YR4/6	撈	白色粒子多 黑色粒子 石英 白色岩片少	平緑。胴上部大きく開く。胴部平行沈線を連弧状? に2段應文し その間を肋骨又状の施又で充填。	567-570同一 個体
200	568	JO	II B2	諸磯b	口縁部破片		5Y R4/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 黑 色粒子 石英 白色岩片少	平線。胴上部大きく開く。胴部平行沈線を連弧状? に2段施文し その間を肋骨文状の施文で充填。	567-570同一 個体
200	569	JO	II B5	諧磯b	口縁部破片		5'YR4/6	赤褐	白色粒子多 石 英やや多 白色 岩片 黒色粒子 少	下は連弧状に施文。その下は肋骨文状に施文後 さ	567-570同一 個体
200	570	JO	nB2	諸磯 b	口縁部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 黑 色粒子 白色岩 片 石英少	平縁。胴上部大きく開く。平行沈線を外面口唇部直 下は連弧状に施文し その下は肋骨文状に施文。	567-570同一 個体
200	571	JO	II B2	諸磯 b	口緑部破片		5 YR4/6	赤裡		平行沈線を横位に施文し その上に肋骨文状に施文。	
200	572	ΊΟ	II B2	諸磯 b	胴部破片		7.5YR4,4	褐			
200	573	JO	ПВ2	諧磯 b	胴部破片		7.5YR4/6	得	白色粒子多 白 色岩片 石英や や多 黒色粒子		573/574同 個体
200	574	ЈО	II B2	游碟 b	胴部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 白 色岩片 石英や ・アタ 黒色粒子	RLの縄文を横位に施文後 平行沈線を不規則な横位に施文1. その上に肋骨文状に施文。	573/574同一 個体
200	575	JO	II 133	譜碗 b	口湯部破片		7.5Y R6/6	橙	白色粒子多 白 色・黒色粒子 金雲母やや多 白色岩片少	波状口縁。胴部浮線文贴付。外面摩減。	
200	576	JO	II B3	脂礦b	口濃点部J,/3		5YR5/6	明赤褐	石英 金雲母多 赤色岩片 白 色・赤色粒子 輝石 碟少	波状口縁。弧状の波頂部。胴上部大きく開く、胴部 LRの縄文を横位に施文後 浮線文3段を水平に貼 付。浮線文に篦で右下斜位の刻み。浮線文の上下は 指頭ナデ。	
200	577	JO	II B3	諸磯 b	口;除部一部		5Y:R5/6	明赤褐	石英 金雲母多 白色・赤色粒子) 曜石 礫少		576-579同一 個体
201	578	JO	II.B3	諸磯と	口,禄部一部		5YR5/6	明赤褐		波状口縁。弧状の波頂部。胴上部大きく開く。胴部 LRの縄文を横位に施文後 浮線文4段を尔平に珀 付。浮線文に篦で右下斜位の刻み。浮線文の上下は 指頭ナデ。	
201	579	ЈО	II B3	諸磯と	胴.部1,/4		5YR5/6	明赤褐		LRの縄文を横位に施文後 浮線文を水平に貼付。 浮線文に箆で右下斜位の刻み。浮線文の上下は指頭 ナデ。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
202	580	JO	II B4	諸磯b	胴部1/4		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色·黑色粒子 白色岩片 石英 多 金雲母少	胴上部に括れ、口縁部にかけて大きく開く。RL? の縄文を横位に施文後 胴上部に平行沈線を横位に 施文。全体的に摩滅。	
202	581	ЈО	II B4	諸磯 b	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色・黒色粒子 石英	平縁。口唇部の面に箆で左下斜位の刻み。口唇部を 囲む隆帯を貼付けて三角形の突起を作出。胴部RL の縄文を横位に施文後 半載竹管で沈線を横位に施 文。	581-583同一 個体
202	582	JO	II B4	諸磯b	口緣部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黑色粒子 石英 白色粒子少	平緑。口唇部の面に篦で左下斜位の刻み。膕部RL の縄文を横位に施文後 半截竹管で沈線を横位に施 文。	581-583同一 個体
202	583	JO	II B4	諸磯b	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	黒色粒子 石英 白色粒子少	平縁。口唇部の面に篦で左下斜位の刻み。胴部RL の縄文を横位に施文後 半截竹管で沈線を横位に施 文。	581-583同一 個体
202	584	JO	II B4	諸磯b	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	石英多 黒色粒 子 白色粒子少	波状口縁?口縁部大きく内雪。胴部半截竹管の集合 沈線を口縁に沿って施文。	
202	585	JO	II B4	諧碟b	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子 金雲 母少	波状口縁?口縁部大きく内弓。胴部半載竹管の集合 沈線を口縁に沿って施文。	
202	586	JO	II B4	諸磯b	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	石英多 黒色粒 子 白色・赤色 粒子少	平縁。胴部半載竹管の集合沈線を横位に施文。	
202	587	JO	II B4	諧磯b	胴部1/5		7.5YR4/4	褐	石英多 黒色粒 子 白色・赤色 粒子少	RLの縄文を横位に施文後 半載竹管の集合沈線 5 段を横位に施文。	587/588同一 個体
202	588	JO	II B4	諸磯b	胴部破片		5YR4/5	赤褐	黒色・白色粒子 石英	RLの縄文を横位に施文後 半微竹管の集合沈線 2 段を横位に施文。	587/588同一 個体
202	589	JO	II B4	諸磯b	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	石英 黒色・白 色粒子少	RLの縄文を横位に施文後 半歳竹管の集合沈線を 横位に施文。	
203	590	JO	II B4	諧磯b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子・岩片 石英 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半載竹管の集合沈線を横位に施文。	590-598同一 個体
203	591	JO	II B4	指碼b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 赤色粒子・岩片 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半歳竹管の集合沈線を横 位に施文。	590-598同一 個体
203	592	JO	II B4	諧磯b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 赤色 粒子 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半歳竹管の集合沈線を横 位に施文。	590-598同一 個体
203	593	ЈО	II B4	指碟 b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 黒色岩片 石英 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半蔵竹管の集合沈線を横 位に施文。	590-598同一 個体
203	594	JO	II B4	諸磯 b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 石英 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半載竹管の集合沈線を横位に施文。	590-598同一 個体
203	595	ЈО	II B4	脂礦 b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子・ 岩片 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半歳竹管の集合沈線2段 を横位に施文。	590-598同一 個体
203	596	ЈО	II B4	指碳 b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色・黒色粒子 やや多 白色・ 黒色岩片 赤色 粒子・岩片 石 英 金雲母少	Rの縄文を横位に施文後 半歳竹管の集合沈線を横 位に施文。	590-598同一 個体
203	597	JO	II B4	清礙b	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙		Rの縄文を横位に施文後 半載竹管の集合沈線を横 位に施文。	590-598同一 個体
203	598	JO	II B4	脂质b	胴部破片		7.5YR4/4	にぶい貧 橙	白色・黒色粒子 やや多 白色・ 黒色・赤色岩片 石英 金雲母少	Rの縄文を横位に施文。	590-598同一 個体
203	599	JO	II B4	諮磯b	層部1/6		7.!5YR4/4	褐	黒色粒子 石英 多 白色粒子・ 岩片少	Lの細文を横位に施文後 半微竹管で沈線を横位に 施文。	599-601同— 個体
203	600	JO	II B4	諧磯b	胴部破片		7.5YR4/4	祻	黒色粒子 石英 多 白色粒子・ 岩片少	Lの縄文を横位に施文後 半畿竹管で沈線を横位に 施文。	599-601同一 個体
203	601	JO	II B4	諧磯 b	胴部破片		7.5YR4/4	褐		半載竹管で沈線を横位に施文。	599-601同一 個体
2204	602	JO	II B4	諧磯b	胴部破片		10YR6/4	橙	黒色粒子 石英 多 赤色粒子・ 岩片 白色粒子 少	LR?の縄文を横位に施文後 半被竹管で沈線を横位に施文。	602-604同一 個体

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
204	603	JO	П В4	諸磯b	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黑色粒子多 白 色粒子 石英	LR?の縄文を横位に施文後 半載竹管で沈線を横位に施文。	602-604同一 個体
204	604	JO	Ⅱ В4	諸磯b	胴部1/7		7.5YR5/6	明褐	黑色粒子多 石 英 白色粒子少 赤色粒子極少	LR?の縄文を横位に施文後 半載竹管で沈線を横位に施文。	602-604同一 個体
204	605	JO	II B5	諸磯b	口縁部1/4	口径 (27.5)	5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黑 色粒子 白色岩 片 石英少	浅鉢。平縁。外面口唇端部箆で右下斜位の刻み。胴部大きく開く。木葉状の沈線文。口唇部直下2個一対の小孔あり。	
204	606	JO	II B6	諸磯b	口縁部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 黑色粒子 石英 白色岩片少	浅鉢。緩い波状口縁。口縁部内彎。外面口唇部直下 浮線文 2 段を口縁に沿って貼付。浮線文に篦で1 段 目は左下斜位 2 段目は右下斜位の刻み。屈曲部分 は浮線文を水平に貼付。部分的に分岐して推定 8 方 に楕円状の文様を作る。口唇部直下小孔あり。	606/607同一 個体
204	607	JO	II B6	諸磯b	口縁部1/4		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 黑色粒子 石英白色岩片少	浅鉢。緩い波状口縁。口縁部内彎。外面口唇部直下 浮縁文2段を口縁に沿って貼付。浮線文に篦で1段 目は左下斜位 2段目は右下斜位の刻み。屈曲部分 は浮線文を水平に貼付。部分的に分岐して推定8方 に楕円状の文様を作る。	606/607同一 個体
204	608	JO	II B6	諸磯b	口縁部破片		7.5YR4/6	褐	白色粒子多 黑 色粒子 石英 白色岩片少	浅鉢?平縁?口縁部内彎。胴部外内面丁寧な横位の ナデ。	
204	609	JO	II B6	諸磯 b	口縁部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 色粒子やや多 赤色岩片少	浅鉢?平緑?内面口唇端部に隆帯貼付。口縁部内 彎。胴部外内面横位のナデ。	
205	610	ЈО	II B7	諸磯 b	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	輝石やや多 白 色・黒色粒子 赤色粒子・岩片 石英少	平縁。口唇部に粘土を貼付けて低い突起を作出。胴部大きく開く。胴部Lの縄文を横位に施文。無文域 あり。	
205	611	JO	II B7	諸磯も	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	黒色粒子多 白 色粒子 輝石や や多 赤色粒子 少		610~613同一 個体
205	612	JO	II B7	諸磯b	口縁部破片		10YR7/4	にぶい黄 橙	黒色粒子多 輝 石やや多 白色 粒子 石英少	平緑。口唇部に粘土を貼付けて低い突起を作出。胴部大きく開く。胴部Lの縄文を横位に施文。無文域あり。	
205	613	JO	II B7	諸磯b	底部完存 底部付近 1/4	底径 11.0	7.5YR6/4	にぶい橙	黒色粒子多 輝 石やや多 白色 粒子・岩片 赤 色粒子 石英少	平底。胴部Lの縄文を横位に施文。無文域あり。底面圧痕あり。	610-613同一 個体
205	614	JO	II B7	諸磯 b	口縁部破片		2.5YR5/2	暗灰黄 (内面)	白色岩片 黒色 粒子・岩片 赤 色粒子少	平線?。胴部Rの縄文を横位に施文。焼成時の歪みあり。	
205	615	JO	II B7	諸磯 b	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	金雲母非常に多 黒色粒子やや多 白色岩片 黒色 岩片少	平縁。胴部RLの縄文を横位に施文。	
205	616	JO	II B7	諸磯b	口縁部破片		5YR6/6	橙	白色粒子多 白色岩片 赤色粒子 輝石少	平縁。口唇部の面にRの縄文?胴部Rの縄文を横位 に施文。	
205	617	JO	II B7	諸磯b	口縁部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子非常に 多 金雲母多 白色岩片やや多	平縁。胴部RLの縄文を横位に施文。	
206	618	JO	II B7	諧磯 b	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色・ 赤色粒子 金雲 母少	RLの縄文を横位に施文。	618-620同一 個体
206	619	ЈО	II B7	諧磯 b	胴部破片		7.5YR6/6	橙	白色粒子やや多 白色岩片 黒色 粒子 金雲母少	RLの縄文を横位に施文。	618-620同一 個体
206	620	JO	II B7	諸磯 b	口縁部1/5	口径 (25.2)	5YR5/4	にぶい赤 褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 金雲母少		618-620同一 個体
207	621	JO	II B7	諸磯 b	口緣部破片		7.5YR5/4	褐	白色・黒色粒子 多 石英 白 色・黒色岩片少	波状口縁。胴部大きく開き 口縁部はくの字状に屈曲。口唇部直下沈線 1 条を口縁に沿って施文。胴部 Lの縄文を横位に施文。縄文原体の折り返しあり。	621-623同一 個体
207	622	JO	II B7	諧磯 b	胴部破片		7.5YR4/4	柯	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子・岩片 石英 少	Lの範文を横位に施文。縄文原体の折り返しあり。	621-623同一 個体
207	623	JO	II B7	諸磯 b	胴部1/4		7.5YR4/4	褐	白色・黒色粒子 多 石英: 白 色・黒色岩片少	Lの縄文を横位に施文。	621-623同一 個本
207	624	表採	II B7	諸磯 b	口縁部破片		5YR4/4	明赤褐		被状口縁。波頂部に楕円形の隧帯貼付。口縁部内 贈。胴部Lの縄文を横位と右下斜位に施文。	

挿図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
207	625	JO	II B7	諧磯 b	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐		波状口縁。波頂部に楕円形の隆帯貼付。口縁部内 鴫。胴部屈曲部分に胴上部と一体化する隆帯貼付。 胴部と隆帯の面にRLの縄文を横位に施文。	
207	626	表採	II B7	諸磯b	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐		波状口縁。口唇部の面にLの縄文を横位に施文。胴 上部大きく開き 口縁部内彎。胴部Lの縄文を横位 に施文。	626-630同一 個体
207	627	JO	II B7	諸磯 b	口縁部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 赤色粒子や や多 白色・赤 色岩片少	位に施文。	626-630同一 個体
207	628	ЈО	II B7	諧磯 b	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色岩片 赤色粒子・岩片 少	胴上部大きく開く。胴部Lの縄文を横位に施文。	626-630同一 個体
207	629	JO	II B7	諸磯b	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 白色・赤色 岩片少	胴上部大きく開く。胴部Lの縄文を鑚位に施文。	626-630同一 個体
207	630	JO	II B7	諸磯 b	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 多 赤色岩片少	胴上部大きく開く。胴部Lの縄文を横位に施文。	626-630同一 個体
208	631	JO	II B7	諧磯 b	口縁部1/4 胴部1/3	口径 (23.2)	7.5YR4/4	褐	石英 輝石 金 雲母多 白色· 赤色粒子	波頂部4方。口唇部わずかに反り返る。胴上部大き く開き 口縁部はくの字状に屈曲。屈曲部も波状。 胴部RLの縄文を横位に施文。	
208	632	JO	II B7	諧磯 b	口縁部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子 赤色岩片少	波状口縁。胴上部大きく開き 口縁部はくの字状に 屈曲。胴部RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	633	JO	II B7	諸磯 b	口縁部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 赤 色粒子やや多白 色岩片 黒色粒 子 赤色岩片少	波状口縁。胴上部大きく開き 口縁部はくの字状に 屈曲。胴部RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	634	JO	II B7	諸磯 b	口縁部破片		5YR5/4	にぶい赤褐	白色粒子多 白 色岩片やや多 黒色粒子 赤色 岩片少	波状口縁。胴上部大きく開き 口縁部はくの字状に 屈曲。胴部RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	635	JO	II B7	諧磯 b	口緑部破片		5YR5/4	にぶい赤 得	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子 赤色岩片少	波状口縁。胴上部大きく開き 口縁部はくの字状に 屈曲。胴部RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	636	JO	II B7	諧磯 b	口縁部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片 黑色粒 子 赤色岩片少	波状口縁。胴上部大きく開き 口縁部はくの字状に 屈曲。胴部RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	637	JO	II B7	諧磯 b	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片 黒色粒 子 赤色粒子・ 岩片少	RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	638	JO	II B7	諧磯 b	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 得	白色粒子多 白色岩片 黑色粒子 赤色岩片少	RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	639	JO	II B7	諧磯 b	胴部破片		5YR5/4	にぶい赤 褐	白色粒子多 白 色岩片 黑色· 赤色粒子少	RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	640	JO	II B7	諧磯b	胴部1/4		5YR5/4	にぶい赤褐	白色粒子多 白 色岩片 黑色粒 子 赤色粒子· 岩片少	RLの縄文を横位に施文。	632-640同一 個体
208	641	JO	II B7	諸磯と	胴部破片		10YR5/3	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片 赤色粒子 金雲母少	結節を伴うRLの縄文を横位に施文。	
208	642	ЈО	II B7	諧碟 b	胴部破片		7.5YR5/4	にぶい褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 赤色粒子 金雲 母少	結節を伴うLの縄文を横位に施文。	
208	643	JO	II B7	指碟 b	胴部破片		5YR5/6	明赤褐		RLの縄文を横位に施文。	
209	644	JO	II B7	諧磯 b	胴部7/8	底径 (13.4)	5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 やや多 白色岩 片少	平底。胴部RLの縄文を横位に施文。	
209	645	lo	II B7	指磯 b	底部付近 1/8		2.5YR5/6	明赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片少	平底?外内面横位のナデ。	
209	646	表採	II B7	諸磯底部	底部5/8 胴部3/8	底径 7.8	5YR5/6	赤褐	石英非常に多 黒色粒子 白色 粒子少	平底。外面摩城。内面ナデ。	
209	647	JO	II B7	諸磯底部	底部1/3	底径 (7.0)	7.5 YR6/6	橙	白色粒子多 黒 色粒子やや多 白色岩片 赤色 粒子少	平底。全体的に摩滅。	

揮図 番号	掲載 番号	層位	分類	型式	残存	法量 (cm)	土色番号	色調	胎土	器形・文様施文の特徴	備考
209	648	JO	II B7	諧砚底部	底部4/5	底径 6.0	10YR4/6	褐	白色粒子非常に 多 金雲母多 白色岩片やや多 黒色岩片少	平底。全体的に摩滅。	
209	649	JO	Ⅱ В7	語碟底部	底部 胴部 1/4	底径 (8.8)	10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子多 白 色粒子 石英	平底。全体的に摩滅。	
209	650	JO	II B7	語碳底部	底部 胴部 1/4	底径 (8.8)	7.5YR6/6	證	黑色粒子多 白 色粒子 石英	平底。外内面ナデ。	
209	651	JO	II B7	諸磯底部	底部3/4	底径 4.8	5YR5/4	赤褐	白色粒子多 白 色岩片 石英少	平底。外面摩滅。内面ナデ。	
209	652	JO	II B7	語碾底部	底部 胴部 3/5	底径 10.2	10YR5/4	にぶい黄 褐	白色粒子多	平底。外面摩滅。内面ナデ。	
209	653	JO	II B7	諸磯底部	底部 胴部 2/5	底径 (10.4)	7.5YR6/6	橙	白色・黒色粒子 多 石英	平底。外面摩滅。内面ナデ。	
211	654	JO	ША	五領ヶ台	胴部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子非常に 多 黒色粒子 金雲母多 白色 岩片少	縦位と横位の沈線施文。	654/655同一 個体
211	655	JO	ША	五領ヶ台	胸部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子非常に 多 黒色粒子 金雲母多	線位と横位の沈線で方形の区画を作り 区画内は沈線を格子状に施文。	654/655同一 個体
211	656	JO	шв	新道または藤 内	胴部破片		7.5YR6/6	橙	黒色粒子やや多 白色粒子・岩片 石英少	刻目監帯を上部は三角形?に 下部は2条1組で方形に貼付けて区画を作る。上部の区画内は右下斜位下部の区画内は縦位と横位の沈線を施文。	
211	657	JO	шв	新道または藤 内	胴部破片		5YR6/6	橙	白色粒子・岩片 黒色粒子 赤色 粒子 石英少	刻目隆帯 2 条を縦位に貼付。	
211	658	JO	шв	新道または藤 内	胴部破片		5YR5/6	明赤褐	白色・黒色粒子 石英少	刻目降帯を横長楕円形?に貼付。	
211	659	10	шс	勝坂	把手部分		5YR4/6	赤褐	白色粒子多 黒 色粒子やや多 石英 白色岩片 少	芋円形状に屈曲。断面楕円形。外側に結節沈線文施 文。	
211	660	JO	шС	勝坂	口縁部破片		5YR4/6	赤褐	白色粒子 石英 多 白色岩片 黑色粒子少	平縁。口縁部内弓。胴部縦位の結節沈線文?施文。 全体的に摩滅。	
211	661	JO	шс	勝坂	口縁部破片		5YR4/6	赤褐		平緑? 口唇部角頭状。面に刻み(施文具不明)。外面 口唇部直下肥厚。断面三角形。頂部に箆で刻み。頂 部から上はナデ 下は縦位の結節沈線文施文。	
211	562	JO	ШD	井戸尻	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子多 白色粒子 石英白色岩片少	波状口縁。胴上部大きく開く。胴部太沈線文を長楕円形?に施文。	662-667同一 個体
211	663	JO	ШD	井戸尻	口縁部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子 石英 多 黒色粒子 白色・黒色岩片 少	波状口縁。波頂部のみ内面口唇端部肥厚し 面に箆で刻み2ヶ所入れる。胴上部大きく開く。胴部太沈線文を長楕円形?に施文。	
211	564	JO	ШD	井戸尻	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	白色粒子 石英 多 黒色粒子 白色岩片少	太沈線文を長楕円形?に施文。	662-667同一 個体
211	665	JO	ШD	井戸尻	胴部破片 [·]		10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子 石英 多 白色粒子 白色岩片少	太沈線文を横長楕円形に施文。	662-667同一 個体
211	666	JO	ШD	井戸尻	胴部破片		10YR6/4	にぶい黄 橙	黑色粒子多 白色粒子 石英白色岩片少	景色粒子多 白 太沈線文を横長楕円形に施文。 色粒子 石英	
211	667	JO	шо	井戸尻	胴部破片		7.5YR7/6	にぶい黄 橙	白色粒子・岩片 黒色粒子・岩片 石英多		662-667同一 個体
211	668	JO	ШЕ	加曾利E1	胴部破片		7.5YR7/6	橙	白色粒子・岩片 黒色粒子やや多 黒色岩片少		668/669同一 個体
211	669	JO	ШЕ	加曾利EI	胸部破片		7.5YR7/6	橙	白色粒子・岩片 黒色粒子やや多	Rの撚糸を縦位に施文。	668/669同一 個本
211	670	JO	ШF	堀之内	胴部破片		10YR5/4	にぶい黄 褐	白色・黒色粒子 多 白色・黒色 岩片 赤色粒子 石英少		

表51 遺構外出土石器属性

挿図番号	掲載番号	遺物番号	石 材	推定産地	層位	器種	長さ (mm)	幅(㎜)	厚さ (mm)	重さ (g)
245	1	859 860	ホルンフェルス		JO	有舌尖頭器	69.0	14.1	5.0	3. 3
245	2	16154	ホルンフェルス		JO	有舌尖頭器	34.0	16.6	6.0	3.8
245	3	8848	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	20.3	17.7	3.4	0.7
245	4	21464	黒曜石	和田鷹山	JO	石鏃	19.3	17.4	3.7	0.8
245	5	21175	黒曜石	箱根畑宿	lO	石鏃	9.0	15.0	5.1	0. 9
245	6	8018	黑曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	12.7	14.5	2.7	0.3
245	7	20644	ガラス質黒色安山岩		床下	石鏃	12.1	15.8	3.7	0.7
245	8	21720	黑曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	17.0	15.8	3.9	0.6
245	9	3612	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	10.0	15.0	3.5	0.5
245	10	仮225	黒曜石	天城柏峠	表採	石鏃	15.0	12.0	3.0	0. 2
245	11	907	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	18.8	11.2	4.0	0. 8
245	12	18268	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	9.7	11.0	2.9	0. 2
245	13	11191	チャート		JO	石鏃	13.0	10.0	2.6	0.2
245	14	12602	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	24.3	15.9	4.7	1.1
245	15	15540	黒曜石	推定不可	JO	石鏃	18.0	14.3	2.9	0.7
245	16	7548	ホルンフェルス		JO	石鏃	16.0	12.4	2.7	0.4
245	17	3375	黒曜石	推定不可	JO	石鏃	18.0	17.0	6.0	1.8
245	18	21180	無曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	15.0	11.1	3.9	0.5
245	19	3418	黑曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	11.5	11.0	2.7	0.2
245	20	10325	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	11.5	11.0	2.1	0.2
245	21	14216-1	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	12.3	12.0	3.2	0.4
245	22	7366	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	13.9	12, 9	4.4	0.6
245	23	20173	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	16.2	11.9	4.5	0.7
245	24	16517	無單石	神津島恩馳島	JO	石鏃	18. 2	14.0	5.3	1.(
245	25	13300	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	13.0	16. 4	3.6	0.5
245	26	22262	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	15. 1	11.8	3,8	0. 5
245	27	2866	チャート	1177-1072-104	JO	石鏃	18.6	13.8	2.9	0.5
245	28	8530	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	19.1	14.5	4.8	0.9
245	29	4161	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	12, 0	II.I	3.2	0.3
245	30	15778	黒曜石	神津島恩馳島	10	石鏃	17.3	14. 1	4.6	0.8
245	31	12382	黒曜石	推定不可	10	石鏃	19.0	15. C		
245	32	13312	黒曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	16.7	15. 2	2.4	0.5
		7498	0.0000000000000000000000000000000000000	上上七年 50 50 50 50	10	石鏃	24.8		4.0	0.7
245	33		ガラス質安山岩					14.0	4.4	1.3
245	34	11662	流紋岩	Advantage to the order	JO	石鏃	20.6	15. 2	4.8	0.9
245	35	3397	黒曜石	神津島恩馳島	TO	石鏃	11.3	10.7	2.0	0.2
245	36	12643	黒曜石	神津島恩馳島	TO	石鏃	15.0	11.0	5.2	0.6
245	37	8435	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	9.0	12.3	3.4	0.3
245	38	17171	黒曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	13.0	11.0	3.7	0.4
246	39	7817	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	14.6	14.3	3.0	0.3
246	40	22494	ガラス質安山岩		JO	石鏃	25. 5	18.0	4.3	1.5
246	41	3105	ガラス質安山岩		JO	石鏃	28.0	24. 2	7. 9	5.3
246	42	1045	黒曜石	順防星ヶ台	JO	石鏃	15.0	11.7	3.5	0.5
246	43	11628	黒曜石	神津島思馳島	lO	石鏃	19.6	15. 6	8.0	2.1
:246	44	3788	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	11.9	11.8	3.7	0.4
246	45	9623	黒曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	13.0	13.8	4.3	0.6
246	46	17538	.馬曜石	諏訪星ヶ台	JO	石鏃	15.0	10.9	2.7	0.3
246	47	2762	黒曜石	神津島恩馳島	lO	石鏃	14.9	12.3	5.0	0.7
246	48	20317	ガラス質安山岩		JO	石鏃	20. 1	13. 1	3.0	0.6
246	49	2386	黑曜石	諏訪星ヶ台	lO	有茎石鏃	24.9	11.4	3.0	0.5
246	50	22703	ガラス質安山岩		JO	有舌尖頭器	49.0	22.3	8.0	7.7
246	51	14123	黑曜石	神津島恩馳島	覆土	石鏃	11.4	10.7	2.5	0. 2
246	52	15944	黑曜石	神津島思馳島	覆土	石鏃	12.7	14.6	5. 2	0.7
246	53	16197	黑曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	7.0	13.0	2.7	0.
246	54	341	黑曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	14.0	8.0	3.0	0.2
246	55	273	黑曜石	神津島思馳島	SSC	石鏃	14.3	9.0	5. 0	0.4
246	56	16580	黑曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	14.0	12.0	3.4	0.
246	57	18163	黑曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	13.0	11.0	4.3	0.:
246	58	14242	黒曜石	神津島思馳島	JO	石鏃	13. 0	12.0	3.2	0.
	.00				JO	石鏃	13.0	12.0		0.4
	50	11170	555, 1832 Ave							
246 246	59 60	11179 12690	黒曜石	神津島思馳島	10	石鏃	15.0	10.0	3.6	0.3

挿図番号	掲載番号	遺物番号	石 材	推定產地	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
246	62	7995	黒曜石	箱根畑宿	10	石鏃	14.0	12.0	4.2	0.6
246	63	10323	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	13.0	16, 3	6.8	1.1
246	64	8590	黑曜石	神津島恩馳島	lO	石鏃	13.0	11.0	3.0	0.3
246	65	10744	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	19. 1	11.7	4. 1	0.7
246	66	1060€	黒曜石	神津島恩馳島	10	石鏃	9.4	10.8	2.2	0.2
246	67	10610	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石鏃	16.0	14.0	3.0	0.4
246	68	4639	黒曜石	神津島思馳島	JO	石匙	18.5	28.4	5.8	2.1
24€	69	3854	ガラス質安山岩		JO	石匙	19.0	40.7	5.9	3. 4
247	70	2687 21871	細粒安山岩		JO	石匙	54. 0	99. 7	14.5	39. 6
247	71	7660	ガラス質安山岩		JO	石匙	45. 2	59.0	7.3	18. 3
247	72	15450	ガラス質安山岩		JO		52. 4	32. 9	10.8	17.3
247	73	15307	卸線凝灰岩		JO	掻器	59. 7	48. 2	15. 2	49.7
248	74	15332	珪質頁岩		JO	削器	34.8	28.0	8.6	8. 4
248	75	3285	頁岩		JO	削器	49. 4	41.3	6. 1	12. 3
248	76	1263	ホルンフェルス	A Code de PHI RE DE	JO	削器	51.5	51.7	19.9	59. 0
248	77	7368	黒曜石	神津島恩馳島	JO	削器	39. 5	34.0	6.7	7.8
248	78	12252	珪質頁岩		JO	削器	35.0	45.7	12.9	14.8
248	79	5668	赤色頁岩		JO	削器	58.0	33.6	20.0	19.8
249	80	10885	ホルンフェルス		JO	削器	71.1	38.2	15. 1	42. 2
249	81	21163	ホルンフェルス		JO	削器	85.0	38.1	24. 1	74.4
249	82	4783	ガラス質安山岩		JO	削器	36. 4	37.3	8.6	12.7
249	83	77	ガラス質安山岩		JO	削器	45.0	34.5	13. 2	19.4
249	84	21969	水晶	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	JO	削器	23.6	15.3	5. 4	1.4
249	85	851	黒曜石	神津島恩馳島	SSC	削器	18. 1	41.1	12.6	5.4
250	86	21667	ガラス質安山岩		JO	削器	31.8	51.4	12.0	14.4
250	87	9910	頁岩		JO	削器	69. 5	55.2	13.9	45.5
250	88	15812	細粒安山岩		JO	削器	67.0	61.0	17.2	68. 2
251	89	7979	細粒安山岩		JO	削器	87.9	88.5	32.5	224.7
251	90	3092	黒曜石	神津島恩馳島	JO	錐	19.5	12.3	5.6	1.2
251	91	22818	黒曜石	神津島恩馳島	JO	錐	18.0	17.0	5.8	0.9
251	92	8258	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	14.9	7.2	8.3	2.7
251	93	12640	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	16.3	10.0	7.9	0.9
251	94	8537	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	17.2	12. 1	7.4	1.2
251	95	15780	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	15.9	11.0	5.0	0.8
251	96	9628	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	16.2	12.5	15.9	1.0
251	97	7527	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	19.8	9.9	6.1	1.2
251	98	7445	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	20.4	11.6	6.7	1.1
251	99	351	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	18.2	12.7	6.9	0.8
251	100	12599	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	17.4	9.9	5.0	0.7
251	101	89	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	15. 2	11.1	6.5	0.9
251	102	9603	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	21.7	9.9	6.7	1.0
251	103	10624	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	21.7	11.1	5.2	0.8
251	104	10585	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	19. 2	15.5	7.5	1.6
251	105	8182	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	19. 2	12.6	7.7	1.5
252	106	346	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	18.0	14.6	9.2	1.9
252	107	7499	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	18.2	16.8	7.4	1.7
252	108	7434	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	19.0	20.0	8.9	3.2
252	109	7909	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	26.6	15.9	14.2	4.8
252	110	11458	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	23. 9	12.8	9.9	2.5
252	111	8217	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	27.7	12.6	8.0	2. 2
252	112	22711	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	20.9	15.0	8.8	2.1
252	113	11292	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	27.0	19.2	12.5	4.1
252	114	17498	黒曜石	推定不可	JO	楔形石器	25. 9	12.0	9.9	3.4
252	115	10362	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	34.0	17.7	9.2	3.3
252	116	9620	黒曜石	神津島恩馳島	lo	楔形石器	27.3	10.0	6.3	1.0
252	117	8215	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	29. 1	17.8	10.1	3.2
252	118	12380	黒曜石	神津島恩馳島	JO	楔形石器	28.9	18. 1	8.3	3.1
252	119	12454	黒曜石	箱根畑宿	JO	楔形石器	31.1	25. 4	9.0	5.9
253	120	10296	黒曜石	神津島恩馳島	JO	使用痕剥片	16.0	13. 1	4.1	0.8
253	121	328	黒曜石	推定不可	JO	使用痕剥片	27.0	20. 2	10.9	3.9
253	122	10762	黒曜石	神津島恩馳島	JO	使用痕剥片	30.6	23. 1	5.0	3.5
	123	1027	ホルンフェルス		JO	使用痕剥片	29.4	35. 7	6.7	6.4
253	100									
253 253	124	21980	黒曜石	神津島恩馳島	JO	使用痕剥片	17.8	38.8	11.0	6.2

253					層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	<u>重</u> さ (g)
200	126	322	ガラス質安山岩		JO	使用痕剥片	54.8	47.7	15.5	31.6
253	127	12737	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	使用痕剥片	53. 5	17.2	5. 5	4.9
253	128	7299	ガラス質安山岩		JO	使用痕剥片	63.3	35.6	8.3	13.7
254	129	3277	ガラス質安山岩		JO	使用痕剥片	72. 2	35. 4	8.0	26.3
254	130	5670	ガラス質安山岩		JO	使用痕剥片	67.2	38.3	15. 1	59.3
254	131	4696	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	14.4	12.2	5.0	0.8
254	132	12755	黒曜石	神津島思馳島	JO	二次加工剥片	19.0	12.9	6.3	1.1
254	133	12720	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	11.0	9.3	5. 9	0.3
254	134	12712	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	16.8	18.0	5.0	1.0
254	135	21633	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	23.7	19.3	5.7	1.7
254	136	3320	黒曜石	神津島恩馳島	10	二次加工剥片	16.0	19.6	8.4	2.1
254	137	4377	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	25. 2	20.6	8.8	3.8
254	138	20521	鉄石英 (赤玉)	Audio Audio, seller coop stinds, seller	10	二次加工剥片	19.2	18.6	10.0	3.5
254	139	7990	黒曜石	神津島恩馳島	JO	二次加工剥片	25.9	18.8	3.5	1.6
254	140	772 22701	黒曜石	神津島恩馳島	10	二次加工剥片	33. 0 40. 7	17. 5 31. 8	8. 2	3.7
254	141	仮166	ガラス質安山岩	神津島思馳島	表採	二次加工剥片	28. 2	30. 7	9.3	7.8
255	143	18239	ガラス質安山岩		JO	二次加工剥片	54.8	28. 9	14.9	17.9
255	143	759	建質粘板岩		10	二次加工剥片	108.3	34. 1	9. 1	38.2
255	145	80 7520	ガラス質安山岩		JO	二次加工剥片	58. 4	52. 3	26. 0	81.1
255	146	16513	細粒安山岩		JO	二次加工剥片	58. 6	48.1	22. 6	58. 3
256	147	7561	黒曜石	神津島恩馳島	JO JO	石核	20.3	18.0	10.7	2.8
256	148	12652	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	15.0	17.2	14.7	2. 9
256	149	10232	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	20. 4	27. 5	18. 0	7.2
256	150	9560	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	23. 5	21. 9	12. 0	5. 1
256	151	8036	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	27. 0	17.8	10.5	5. 2
256	152	9922	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	32.3	18.0	9.8	4.3
257	153	727	黒曜石	箱根畑宿	JO	石核	32.0	23, 5	22. 0	13. 7
257	154	7586	ガラス質安山岩	711 100 1111	JO	石核	36.3	30.0	16.0	18. 9
257	155	10763	黒曜石	神津島恩馳岛	JO	石核	35.5	26.6	11.4	8.7
257	156	3971	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	石核	29. 2	29.8	19.9	12.0
257	157	313	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	16.6	51.5	12.0	7.9
257	158	7193	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	26.6	54.3	13.8	11.9
257	159	9622	黒曜石	推定不可	JO	石核	18.3	44.5	21.7	16.4
258	160	2716	黒曜石	神津島恩馳島	JO	石核	36. 2	55. 6	18. 2	24. 2
258	161	11648	黒曜石	箱根黒岩橋群	JO	石核	47.5	39.7	26.7	41.8
258	162	15817	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	剥片	25.8	35. 3	24.0	17.4
258	163	11169	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	楔形石器	33.8	27.0	16.2	12.7
258	164	3423	黒曜石	推定不可	JO	楔形石器	35.9	19.0	15.0	12.3
259	165	7719	黒曜石	諏訪星ヶ台	JO	剥片	47.0	30.0	15.5	23.3
259	166	3520	黒曜石	神津島恩馳島	JO	剥片	55.7	28.8	25.4	36.8
259	167	3364	黒曜石	神津島恩馳島	JO	剥片	54.4	27.9	11.7	20. 1
259	168	3736	細粒凝灰岩		JO	搬入石材	73.0	39.0	18.0	57. 2
259	169	7142	細粒安山岩		JO	打製石斧	51.4	48. 5	16.5	36. 0
259	170	3003	ホルンフェルス		JO	打製石斧	45.8	50.6	12.5	26. 3
260	171	804	細粒安山岩		JO	打製石斧	155.5	83. 0	22.3	286. 1
261	172	1937	緑色凝灰岩		JO	打製石斧	120.0	47. 4	25.8	173.8
261	173	7704	ホルンフェルス		JO	打製石斧	95.0	40.8	14.6	72.3
262	174	2394	流紋岩		JO	Cop rain	124.0	76.8	38. 9	418.7
262	175	21297	細粒安山岩		JO	CHE THE	16.0	92.9	28. 0	334.5
262	176	15321	細粒凝灰岩		10	Cole cour	106.0	120.8	43.1	692.2
263	177	15336	輝石安山岩		10	放石	56.3	30.4	17. 4	42.0
263	178	13767	結晶片岩		JO	敵石	47. 0	18.2	11.7	12.1
263	179	48	砂岩(中粒)		JO	敵石	79.7	27.7	19.0	60.0
263	180	15820	流紋岩		JO	敲石	87.7	30.5	17.6	70.4
263	181	21660	砂岩(細粒)		JO	敲石	108.8	27.2	27.0	116.8
263	182	15314	砂岩(粗粒)		JO	敲石	100.5	37.5	26. 2	139.8
263	183	15328	砂岩(粗粒)		JO	敲石	124.0	42.4	32. 3	248.3
263	184	15657	砂岩(細粒)		10	敲石	111.4	40.4	27. 5	151.5
263	185	15316	卸線岩			敲石	104.5	41.2	25. 0	167.6
263	186	16660	硬質砂岩		JO	敲石	88. 6	40.5	35. 0	185.1
263	187	17212	砂岩(中粒)		10 10	敲石	91. 3	28. 8	26. 9 27. 0	105.0
263	188	6651	角閃石安山岩			637.47				

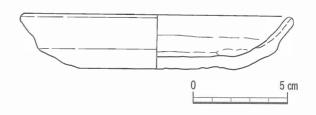
264 264 264 264 264 264 264 264	190 191 192 193	12964 仮164	砂岩 (中粒)		JO	HEET Z	135.8	43.2	016	
264 264 264 264 264	192	仮164			-	酸石	133.0	43.2	34.6	273.6
264 264 264 264		47.40.00	輝緑岩		提乱	敞石	114.6	40.8	21.6	143.6
264 264 264	103	15315	頁岩		JO	敞石	101.8	45.7	17. 5	114.7
264 264		14535	砂岩 (粗粒)		JO	敲石	99.0	44.9	18. 0	118.2
264	194	7951 13000	砂岩 (細粒)		JO	敲石	112.0	44.0	18. 1	125.3
	195	16155	細粒凝灰岩		JO	敲石	90.3	36.8	23.9	124. 4
264	196	10485	砂岩(細粒)		JO	敲石	165. 0	42.8	16.2	99. 1
44.4	197	15811	輝石安山岩		JO	敲石	98.4	49. 2	27.9	170.0
264	198	15877	頁岩		JO	敲石	72.0	26.0	17.7	32.3
265	199	15340	角閃石安山岩	-	10	敲石	105.0	39.6	25.0	134.0
265	200	18231	珪質頁岩		JO	敲石	93. 0	26. 0	25.0	84. 6
265	201	15319 13136	砂岩 (粗粒)		JO TO	敲石	67. 0 20. 0	45.0	24. 0	73. 3
265 265	202	13130	砂岩(粗粒)砂岩(細粒)		10	敲石	82. 0	42. 6	42. 0	100.0
265	203	15809	角閃石安山岩		JO	敲石	70. 0	46. 0	22. 2	123. 1
265	205	12969	砂岩(中粒)		10	敲石	51. 0	41. 9	28. 7	78. 1
265	206	16672	砂岩(細粒)		10	敲石	63. 0	35. 3	16. 4	36. 8
265	207	12913	玄武岩		JO	敲石	48. 0	56. 3	35. 2	110.0
265	208	仮22	玄武岩		表採	敲石	55. 3	26. 0	38. 4	110.0
265	209	14566	即石安山岩		JO	敲石	59. 5	45. 0	42. 0	140.0
265	210	15813	即石安山岩		10	敲石	76. 0	55. 5	38. 0	170.0
265	211	14560	岬石安山岩		JO	敲石	62. 5	68. 2	58.0	280.0
265	212	18205	輝石安山岩		JO	敲石	75. 0	58. 0	48.0	\$80.0
265	213	16666	輝石安山岩		JO	敲石	51.5	111. 8	38.4	\$10. I
265	214	18714	脚石安山岩		覆土	磨-敲石	60. 0	60. 0	41.0	208. 4
265	215	21890	輝石安山岩		JO	n-敲石	92 0	76. 0	51.0	520. 0
265	216	1145	輝石安山岩		JO	磨-敲石	86 0	78. 0	20.0	220.0
266	217	仮162	輝石安山岩		表採	磨-敲石	99.2	80, 1	14.0	544. 0
266	218	仮159	輝石安山岩		拠乱	磨-敲石	97.5	72. 8	48, 1	500.0
266	219	21631	多孔質玄武岩		JO	磨-敲石	99. 0	75. 0	52. 0	510.0
266	220	18213	即石安山岩		JO	磨-敲石	101. 0	79.0	57.0	710.0
266	221	15655	卸石安山岩		JO	磨-敵石	98. 0	88. 0	59.0	300-0
266	222	16522	輝石安山岩		JO	磨-敲石	104. 0	91.0	70.0	9601.0
266	223	2320	輝石安山岩		JO	磨-敲石	101. 0	88 0	40.0	460.0
266	224	17099	輝石安山岩		JO	磨-敲石	106. 0	89 0	50.0	34C). 0
266	225	12925	多孔質安山岩		JO	磨-敲石	118. 0	010	64.0	1050.0
266	226	16181	輝石安山岩		JO	磨-敲石	99. 0	81.0	52.0	57(). 0
266	227	795	輝石安山岩		JO	響石	58 0	53.0	28. 0	113.6
266	228	16646	輝石安山岩		夏主:	磨石	60. 0	42. 0	45. 0	136.2
266	229	15899	輝石安山岩		JO	磨石	63. 0	53.0	29. 0	151.7
266	230	19304	輝石安山岩		覆土:	磨石	39.0	46.0	25. 0	47.4
266	231.	13103	多孔質安山岩		JO	磨石	91.5	නිහි. 0	46, 8	480.0
266	232	15343	玄武岩		JO	磨石	95.0	86. 0	41. 8	400.0
266	233	13	輝石安山岩		SNZ	磨石	145.0	99. 0	70. 0	1380.0
267	2341	10476	輝石安山岩		JO	磨石	117.0	82. 0	32. 5	490.0
267	2355	16669	輝石安山岩		JO	磨石	101.0	83. 5	45 0	580.0
267	2363	15898	輝石安山岩		JO	磨石	96.0	80_0	52 0	564. 1
267	237	18947	輝石安山岩		JO	凹石	72. 0	62 0	48.0	240.0
267	238	14561	廊石安山岩		JO	凹石	79.0	65.0	44.0	300.0
267	239	12909	鄭石安山岩		JO	敲石	91.6	440	25. 0	170.0
267	240	13182	即石安山岩		JO	敲石	92.5	45.0	53.5	200.0
267	241	17280	輝石安山岩		JO	酸石	93.0	46.0	45.5	240.0
267	242	17279	輝石安山岩		JO	敲石i	110.0	51.0	33.0	220.0
267	243	13192	玄武岩		JO	敲石i	125.0	41.0	35. 5	220.0
267	244	494	多孔質安山岩		KCłP	敲石	102.0	56. 5	43.5	340. 0
267	245	13525	輝石安山岩		J()	敵石i	109.0	78.0	61.0	750 . 0
267	246	21608	輝石安山岩		JCO	鲁-敲石	100.0	46.0	34.0	240.0
267	247	15878	輝石安山岩		JCO	磨-敲石	96.0	46.0	30.0	140 . 0
267	248	14534	多孔質安山岩		JCO	磨-敵石	149. 0	66.0	63.0	860 - 0
267	249)	1599	多孔質玄武岩		JO	磨石	69.0	72.0	50.0	320 . 0
267	250)	1)455	玄武岩		JCD	磨石	91.0	88.5	35.0	470.0
267	251.	2)257	輝石安山岩		置土	磨石	99.0	90.0	84.0	050 . 6
268	2522	2514	如 石安山岩 如 石安山岩		JO	石皿	194.0	255.0	76. 0	1000.0

挿図番号	掲載番号	遺物番号	石材	推定產地	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
268	254	17706	輝石安山岩		JO	石皿	236.0	211.0	69.0	6000.0
268	255	18998	輝石安山岩		JO	石皿	200.0	188.0	81.0	4500.0
269	256	22489	輝石安山岩		JO	石皿	318.0	250.0	72.0	6720.0
269	257	20621	多孔質玄武岩		JO	石皿	375.0	345.0	74.0	10000.0
269	258	20064	多孔質玄武岩		JO	石皿	293. 0	354.0	74.0	8880.0
270	259	3185	輝石安山岩		JO	石皿	353.0	350.0	139.0	20100.0
270	260	16725	玄武岩		JO	石皿	367.0	323.0	122.0	15570.0
271	261	391	輝石安山岩		JO	石皿	480.0	380.0	108.0	29000.0
271	262	16675	玄武岩		JO	石皿	510.0	366.0	146.0	25000.0
272	263	18959	輝石安山岩		JO	石皿	371.0	361.0	70.0	13000.0
272	264	17705	輝石安山岩		JO	台石	261.0	317.0	66.0	6500.0
272	265	17283	多孔質玄武岩		JO	台石	391.0	269.0	85.0	8500.0
272	266	660	玄武岩		攪乱	台石	362.0	86.0	69.0	12500.0
273	267	13968	滑石		JO	垂飾	11.0	7.9	3.9	0.4

第6章 その他の時代の遺物

土師器

土師器 1 点を図示した(第274図)。表面採 集品である。胴部の中位に稜を有する。外面 の稜よりも上位は横ナデ、下位から底部は指 頭によるナデ、内面底部は指頭圧痕とハケ工 具による調整を丁寧に磨り消す。立ち上がり 部は横ナデ。内面底部に粘土の貼付けが見ら れる。口径14cm、底径8.3cm、器高2.9cmと推 定される。明赤褐色(5 YR5/6)で白色粒子、 赤色岩片が少量混じる。時期は不明である。



第274図 土師器

第7章 まとめ

第1節 旧石器時代

第275図に主要な石器群の変遷をまとめた。各文化層の概要は各節の冒頭に付したので、それぞれを 参照願いたい。これを踏まえた上で石器群の内容を簡単に振り返っておこう。

第 I 文化層は、第Ⅲ黒色帯 (BBⅢ) を中心として包含され、礫を除く石器81点、石器集中 5 箇所、 礫群 2 基で構成される。主として箱根畑宿産黒曜石の消費によって形成され、製品の主体はガラス質黒 色安山岩製と箱根畑宿産黒曜石製の弧状一側縁加工ナイフ形石器である。

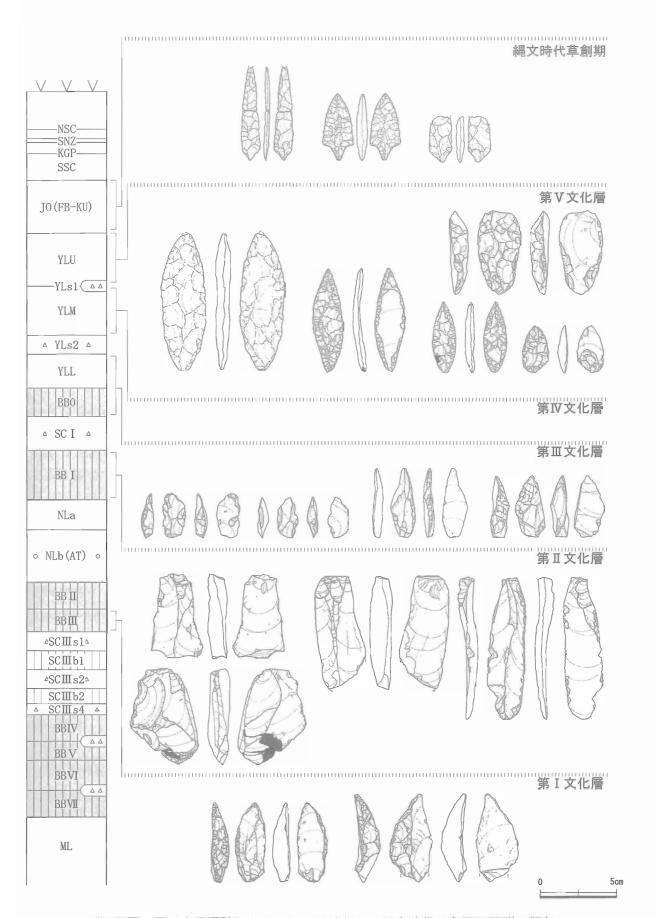
第Ⅱ文化層は、第Ⅰ黒色帯(BBI)を中心として包含され、礫を除く石器37点、石器集中2箇所、 篠群7基で構成される。主として信州産黒曜石の消費によって形成される。製品は、典型的なものがないが、諏訪星ヶ台産黒曜石製削器、硬質頁岩製の石刃製彫器(彫-削器)、蓼科冷山産黒曜石製およびホルンフェルス製石刃などが確認された。また、中部高地産の各種黒曜石、伊豆・箱根産の各種黒曜石が持ち込まれ、それぞれ小型剥片の生産が行われた。

ホルンフェルスは近傍の河川流域で採取され、大半は頁岩源と推測される。一方、彫器の石材となった茶褐色で珪質分の多い硬質頁岩の産出岩帯はよくわかっていないが、国武貞克氏によると最も近傍なら長野県佐久周辺で得られるという。諏訪星ヶ台産黒曜石と蓼科冷山産黒曜石が主体となる構成石材種からみても、本地域の石器群形成主体が中部高地方面を主要な遊動域にしていたことが示唆される。

第Ⅲ文化層は、休場層直下黒色帯から休場層下部(BB0-YLL)を中心として包含され、礫を除く石器342点、石器集中8箇所、礫群9基で構成される。主としてホルンフェルスと伊豆・箱根系黒曜石の消費によって形成される。ホルンフェルスを第1石材とする石器集中は4箇所で、石刃石器群と剥片石器群の両者が認められた。石刃製の製品は基部に打面を残す一側縁ないし二側縁加工ナイフ形石器が主体である。箱根畑宿産黒曜石を第1石材とするのは3箇所で、大半が剥片石器群であった。天城柏峠産黒曜石を第1石材とするのは1箇所で、これも剥片石器群が主体だった。これらのほか、珪質頁岩製の角錐状石器が確認された。

第Ⅲ文化層では、全体として、近傍で採取される石材が殆どを占める。また、検出された製品類と石器生産痕跡の内容がよく対応している。これらのことは、石材採取域が広域に及ぶ前の段階(第Ⅲ文化層石器群)以降に生じた、角錐状石器群の盛行期における地域化現象の一般性を良く表しているといえよう。ただし、石刃石器群の継続性は、関東の当該期石器群と比較して顕著である。この時期、列島一般に自然環境の変動も関与して石器技術の再編成が行われるが、近傍に大型で良質な石材(愛鷹・箱根では頁岩源ホルンフェルス)が産出する地域では、石刃石器群の選択がよく許容されるようである。

第IV文化層は、休場層中部(YLM)で礫群1基を確認したが、目立った石器群は検出されていない。 第V文化層は、休場層上部(YLU)を中心として包含され、礫を除く石器42点、石器集中2箇所、 礫群1基で構成される。石材は神津島産黒曜石が最も多かったが、石器集中1箇所(8点)のみで、他 の石材と比較して目立ったものではない。主要な製品は、半両面ないし両面加工尖頭器で、ホルンフェ ルス製5点と中部高地産黒曜石製3点がある。また、石刃製ナイフ形石器が検出されており、これは諏 訪星ヶ台産黒曜石製2点である。諏訪星ヶ台産黒曜石製には、尖頭器石器群と石刃石器群の双方がみら れることになるが、分布域が異なるので両者の具体的関連性は不明瞭である。



第275図 下ノ大窪遺跡における旧石器時代から縄文時代の主要石器群の編年

第2節 縄文時代

縄文時代草創期の石器群(有舌尖頭器のみ)と、早期の竪穴住居跡、竪穴住居状遺構、集石、土坑、石器群、土器群、さらに前期、中期、後期の土器群が、それぞれ集中域を重複、あるいは違えて、分布していた。縄文時代のものと思われる主要な遺構・遺物の関係は、表52のように纏められる。調査区西部では竪穴住居跡、竪穴住居状遺構、集石、土坑が、概ね早期後半ないし末の土器群を伴って検出された。竪穴住居跡間の同時性については検討していないが、おおむね当該期の集落跡と推測される。

表52 縄文時代 遺構・遺物の概要

調査範囲	遺構/土器/石器
西部西側	竪穴住居跡、竪穴住居状遺構、集石/撚糸文系土器、早期末土器諸型式、諸磯b式土器/神津島恩馳島産黒曜石製石鏃・楔形石器、諏訪星ヶ台産黒曜石製石鏃、礫石器類
西部東側	集石、土坑/撚糸文系土器、縄文土器
東部	集石、土坑/押型文系土器、諸磯 b 式土器/神津島恩馳島産黒曜石製石鏃、礫石器類

打越式を中心とする早期後半の土器群は、平面的に撚糸文系土器および諸磯b式土器と重複していたが、垂直分布図を作成して検討した結果、下層より撚糸文系土器→打越式土器→諸磯b式土器の順で堆積していることがわかった。その他の型式との層位的な検討は行っていない。なお、撚糸文系土器は、調査区西部の中でも西寄りの範囲で上記の土器群と重複せずに分布していた。この範囲にはほかの早期の土器群が分布する。付近で検出された土坑と集石のいくらかはこれらに関連するものかもしれない。

石器群の内容は大変興味深いものだった。調査区西部の石器石材組成は表53-55に示した。表53は剥片石器類等の組成を表したものである。器種構成としては、多量の石鏃(86点)および楔形石器(31点)が注目される。消費石材としては、黒曜石の圧倒的な比率が読み取れる。石鏃・楔形石器生産と黒曜石の密接な結びつきは疑いない。黒曜石の産地分析の結果は表55に示した。剥片類の分析は殆ど行っていないので情報は限定的だが、それでも神津島恩馳島産黒曜石の比率が高いことは容易に予想される。剥片類の産地組成比率もこれと類同ではなかろうか。以上と同様の傾向が本地域の打越式期の集落遺跡として著名な三島市乾草峠遺跡や近隣の佛ヶ尾遺跡でも得られている。現況による限り、神津島産黒曜石の大量消費と石鏃生産は、愛鷹箱根地域の該期集落における石材消費・石器生産の様相として一般的なものといえそうである。

下ノ大窪遺跡の神津島恩馳島産黒曜石には石核が多く含まれている。しかも小型で礫面を残しているものが多い。おそらくは、原石を獲得したのち、すみやかに集落へ持ち込まれてきた可能性が高い。伊豆・箱根という近隣の産地よりも、島嶼部の産地から黒曜石を持ち込む行動が各集落で常態化していたとすれば、それがどのような経緯によって成立しうるのか、今後の重要な課題となろう。

他方、信州系の黒曜石が数%から十数%組成される点も注意すべき特徴である。神津島恩馳島産黒曜石との層位差は認められなかったので、これも殆どが打越式期のものとみられる。肉眼で見る限りでは神津島恩馳島産に比べて製品の比率が高いようで、集落での製品製作はかなり限定されていたものと推測される。両者は石材運用の形態が大きく異なっていた可能性がある。

石器群に関しては、他にも特筆すべき特徴がある。礫石器類の大量組成である(調査区西部全体で721点)。この膨大な礫石器類は集落で植物質資源の加工作業が盛んに行われていたことを示す。集落域

表53 調査区西部 石器石材組成

	黒曜石	ガラス質 黒色 安山岩	細粒 安山岩	流紋岩	細粒 凝灰岩	輝緑凝灰岩	緑色 凝灰岩	硬質細粒 凝灰岩	ホルン フェルス	ホルン フェルス (凝灰岩)	頁岩
尖頭器					1						
有舌尖頭器		1							1		
有茎石鏃	1										
石鏃	77	5		1					1		
石匙	I	2	2								
錐	2										
削器	1	4	2	1					2		2
掻器		1				1					
楔形石器	31										
垂飾											
打製石斧			1				1		2		
二次加工剥片	10	3	1								
使用痕剥片	5	5		1							
剥片•砕片	3969	101	12	5			1	2	28	2	2
石核	18	1							1		
搬入石材	3				1						
計	4118	123	18	8	2	1	2	2	35	2	4

	珪質頁岩	赤色頁岩	チャート	赤玉	水晶	滑石	計
尖頭器							1
有舌尖頭器							2
有茎石鏃							1
石鏃			2				86
石匙							5
錐							2
削器	2				1		15
掻器		1					3
楔形石器							31
垂飾						1	1
打製石斧							4
二次加工剥片				1			15
使用痕剥片							11
剥片•砕片	5			3			4130
石核							20
搬入石材							4
計	7	1	2	4	I	I	4331

[※]細粒安山岩の剥片 1 点、ガラス質黒色安山岩の石鏃 1 点、剥片・砕片 3 点、ホルンフェルスの剥片・砕片 1 点、黒曜石の剥片・砕片130点、石鏃 2 点、流紋岩の剥片・砕片 1 点は 3 号竪穴住居跡 (攪乱層) 出土

表54 調查区西部 礫石器石材組成

輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	角閃石 安山岩	流紋岩	細粒 凝灰岩	輝緑 凝灰岩	火山礫 凝灰岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	閃緑岩	アプライト	デイサイ
165	12		1	1		1		10	7	2		5
110	10							15	8	2		3
80	4		4	1	1			16	10		1	
30	2						1		3			
122	15							13	14			1
7								1	1			
5		1		1								
519	43	1	5	3	1	1	1	55	43	4	1	9
	安山岩 165 110 80 30 122 7 5	安山岩 安山岩 165 12 110 10 80 4 30 2 122 15 7 5	安山岩 安山岩 安山岩 165 12 110 10 80 4 30 2 122 15 7 5 1 1	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 165 12 1 110 10 4 4 30 2 122 15 7 5 1 1 1	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 添款石 165 12 1 1 110 10 1 1 80 4 4 1 30 2 1 1 122 15 7 1 5 1 1 1	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 流秋石 濃灰岩 165 12 1 1 110 10 1 1 80 4 4 1 1 30 2 1 1 1 122 15 7 1 1 1	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 源灰岩 源灰岩 源灰岩 165 12 1 1 1 110 10 1 1 1 80 4 4 1 1 1 30 2 1 1 1 1 7 7 5 1 1 1	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 凝灰岩 湿水 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 2 2 1 2 2 1 2 2 2 1 2	安山岩 安山岩 安山岩 安山岩 凝灰岩 基本 10 11 10 15 80 4 4 1 1 16 30 2 1 16 30 2 1 13 13 7 13 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 2 3 2 3 4 </td <td>安山岩 安山岩 安山岩 本級名 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 支出名 玄武岩 165 12 1 1 1 10 7 110 10 15 8 80 4 4 1 1 16 10 30 2 1 3 1 3 14 1</td> <td>安山岩 安山岩 安山岩 本級名 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 支武岩 内縁右 165 12 1 1 1 10 7 2 110 10 15 8 2 80 4 4 1 1 16 10 30 2 1 3 14 3 122 15 13 14 1</td> <td>安山岩 安山岩 安山岩 海灰岩 海灰岩 海灰岩 海灰岩 水灰岩 文武名 文武名 文武名 イ 1</td>	安山岩 安山岩 安山岩 本級名 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 支出名 玄武岩 165 12 1 1 1 10 7 110 10 15 8 80 4 4 1 1 16 10 30 2 1 3 1 3 14 1	安山岩 安山岩 安山岩 本級名 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 凝灰岩 支武岩 内縁右 165 12 1 1 1 10 7 2 110 10 15 8 2 80 4 4 1 1 16 10 30 2 1 3 14 3 122 15 13 14 1	安山岩 安山岩 安山岩 海灰岩 海灰岩 海灰岩 海灰岩 水灰岩 文武名 文武名 文武名 イ 1

	輝緑岩	細粒 斑レイ岩	斑レイ岩	頁岩	珪質頁岩	砂岩 (細粒)	砂岩 (中粒)	砂岩 (粗粒)	硬質砂岩	結晶片岩	計
磨-敲石		2	2								208
磨石		1				1	1	1			152
敲石	1	1		2	1	8	4	6	1	1	142
台石											36
石皿											165
凹石											9
礫器		1		1							9
計	1	5	2	3	1	9	5	7	1	1	721

※輝石安山岩の磨-敲石1点、磨石2点、敲石2点は3号竪穴住居跡(攪乱層)出土

表55 調査区西部 黒曜石製石器産地別組成

	天城柏峠	箱根畑宿	箱根 黒岩橋	神津島恩馳島	諏訪 星ヶ台	和田鷹山	推定不可	未分析	at
有茎石鏃					1				1
石鏃	1	2		59	10	1	4		77
削器				I					1
錐				2					2
石匙				1					1
楔形石器		1		27	1		2		31
二次加工剥片				10					10
使用痕剥片				3	1		1		5
剥片•砕片				2	2			3965	3969
石核	1		1	14	1		1		18
搬入石材					1		2		3
計	2	3	1	119	17	ĺ	ÛĨ	3965	4118

※神津島恩馳島の石鏃2点、未分析の剥片・砕片130点は3号竪穴住居跡(攪乱層)出土

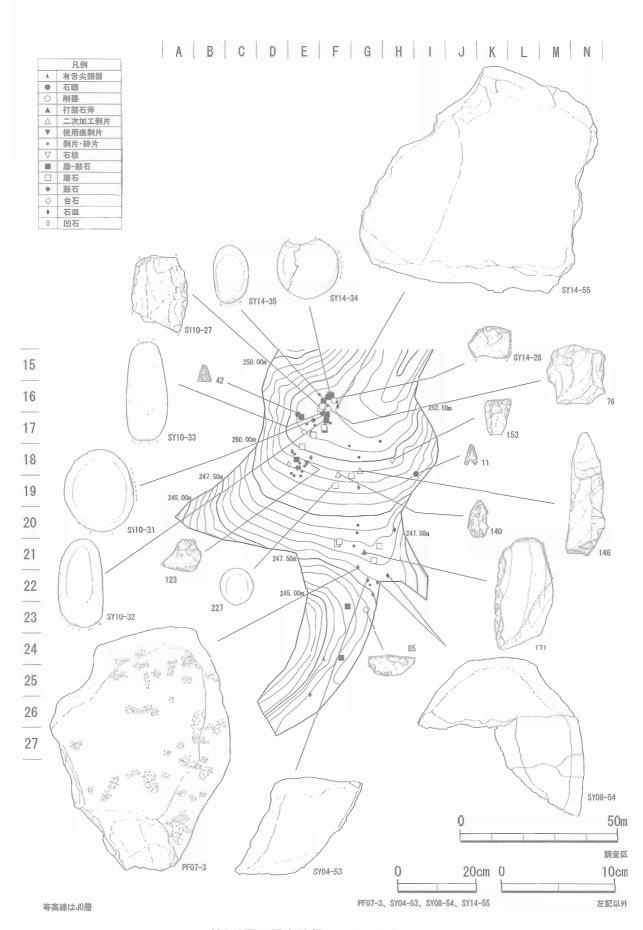
表56 調査区東部 石器石材組成

	黒曜石	ガラス質 黒色 安山岩	細粒 安山岩	ホルン フェルス	頁岩	珪質頁岩	珪質 粘板岩	計
有舌尖頭器				2				2
石鏃	2							2
削器	l	1		1				3
打製石斧			2					2
二次加工剥片	1						1	2
使用痕剥片				1				1
剥片·砕片	10	3		8	1	2	1	25
石核	1							1
計	15	4	2	12	1	2	2	38

表57 調査区東部 黒曜石製石器産地別組成 表58 調査区東部 礫石器石材組成

	箱根畑宿	神津島 恩馳島	諏訪 星ヶ台	未分析	Ħ.
石鏃			1	1	2
削器		1			1
二次加工剥片		1			1
剥片·砕片				10	10
石核	1				1
計]	2	1	11	15

	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	デイサイト	砂岩 (粗粒)	計
磨-敲石	10				1		11
磨石	7	2		1	2		12
敲石	I		1			1	3
台石	1						1
石皿	10	4	2	3			19
凹石	1						1
計	30	6	3	4	3	1	47



第276図 縄文時代 調査区東部の石器

に充満して分布していることからみて、おそらく幾度も繰り返し搬入されてきたものと推測される。神津島恩馳島産黒曜石の石鏃の大量組成も考慮するなら、この集落が動物質/植物質資源を得るための多様な生業が反復して行われる場所であったことが推測される。ただし、各竪穴住居跡の検出状況は、長期利用を指し示す情報を顕著に示しているとはいいがたいし、全体として乾草峠遺跡のような環状集落を形成しているともいえないので、石器群内容が示唆する生業の安定性がそのまま集落の継続性を意味するわけではないようである。礫石器類の殆どが竪穴住居跡・竪穴住居状遺構の覆土内から出土したことも気にかかる。集落の意図的な廃絶が行われたのかもしれない。早期末葉から前期初頭は通年的な定住を強化する時期であるだけに、これらも今後の重要な検討課題となろう。

一方、調査区の東部では、打越式土器の出土は極めて少なく、押型文系土器を主体にして、諸磯b式土器や中期と後期の土器群がそれぞれ僅かずつ検出された。石器群は、押型文系土器群に重複分布していることから、これと同時期の可能性が高い(第276図)。礫石器類が中心で剥片石器類が極めて少ないのが特徴である。表56に剥片石器類等の石器石材組成、表58に礫石器類の組成を示した。剥片石器類等が38点(打製石斧・石核を含む)であるのに対して、礫石器類が47点と、後者のほうが多い。このことから、おそらく狩猟活動よりは植物質資源の加工作業が優先して行われていたことが推測される。

前期については大きく分けて3箇所の分布域が認められた。調査区西部の早期末-前期初頭よりも上層に広く分布する箇所と、東部で押型文系土器に若干重複して分布する箇所、そして土坑に埋納された状態で1個体が検出された箇所である。しかし、埋納土坑を除いて、石器群や遺構との関連を明らかにすることはできず、具体像はよくわからなかった。中期と後期に関しても、それぞれの土器群を検出したが、散発的ではっきりしたことは判らない。

附編

下ノ大窪遺跡(第二東名No.146地点) 黒曜石産地分析

望月明彦(独立行政法人沼津工業高等専門学校)

產地推定法

得られた傾向X線スペクトル強度を元素記号で表す。二つの方法はともに以下の指標を用いる。

指標 Sum=Rb+Sr+Y+Zrとする。

Rb分率=Rb/Sum

Sr分率=Sr/Sum

Zr分率=Zr/Sum

Mn*100/Fe Log (Fe/K)

- 1 産地のシートに挙げた黒曜石産地から原石を採集し、測定する。
- 2. 測定結果から上記の指標を産出する。
- 3. 以上から産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地測定を行う。

①判別図法

用いる指標: 横軸: Rb分率、縦軸: Mn/Fe。 横軸: Sr分率、縦軸: log (Fe/K)

特長: 簡単な計算であり、誰にでも作成可能。また視覚的に判りやすい。

推定方法: 遺跡出土資料を蛍光X線分析し、指標を計算する。次いで、指標を図にプロットして

産地原石データベースと照応させ、重なった原石産地を推定結果とする。

②判別分析(推定結果参照)

用いる指標: 産出された指標すべて

特長: 既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法。各産地との類似度を統計的な距

離で算出する。しかし、未知の産地の判別はできない。

推定方法: 判別図法では遺跡出土資料と重なっている産地を推定結果とする。この産地は資料と

二次元的に最も距離が近い。判別分析ではこの距離を数学的n次元で計算する。資料と最も距離(ハマラノビス距離)が近い産地を推定結果とする。この距離から、各産

地に属する確率を計算する。

推定結果表の見方

右側の表

判別図判別群:判別図法によって推定された産地

判別分析と結果が異なるときは"*"をつけて示す。

判別分析:第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補

第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補

判別群

候補產地記号

距離

→ 判別図法による産地と通常は一致する。 試料から候補産地までのマハラノビス距離

→ 値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率 試料が候補産地に属する確率

→ 1に近いほど類似性が高い。

第二東名No. 146地点出土黑曜石製石器産地推定結果 判別図法・判別分析からの最終推定結果

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MK05-13090	L146-193	22827		箱根畑宿群
MK05-13091	L146-194	22840		和田鷹山群
MK05-13092	L146-195	22841	1	推定不可
MK05-13093	L146-196	22841	2	箱根烟宿群
MK05-13094	L146-197	22844		天城柏峠群
MK05-13095	L146-198	22851		諏訪星ヶ台群
MK05-13096	L146-199	22864		天城柏峠群
MK05-13097	L146-200	22866		箱根畑宿群
MK05-13098 .	L146-201	22867		箱根畑宿群
MK05-13099	L146-202	22868		箱根畑宿群
MK05-13100	L146-203	22870		天城柏峠群
MK05-13101	L146-204	22874		天城柏峠群
MK05-13102	L146-205	22876		天城柏峠群
MK05-13103	L146-206	22881		天城柏峠群
MK05-13104	L146-207	22885		天城柏峠群
MK05-13105	L146-208	22897		箱根畑宿群
MK05-13106	L146-209	22898		天城柏峠群
MK05-13107	L146-210	22899		天城柏岭群
MK05-13108	L146-211	22902		箱根畑宿群
MK05-13109	L146-212	22922		推定不可
MK05-13110	L146-213	22970		箱根畑宿群
MK05-13111	L146-214	23573		箱根畑宿群
MK05-13112	L146-215	22718		天城柏峠群
MK05-13113	L146-216	22819		箱根畑宿群
MK05-13114	L146-217	22820		箱根畑宿群
MK05-13115	L146-218	22821		箱根畑宿群
MK05-13116	L146-219	22822		箱根畑宿群
MK05-13117	L146-220	22823		箱根畑宿群
MK05-13118	L146-221	22824		天城柏峠群
MK05-13119	L146-222	22825		箱根畑宿群
MK05-13120	L146-223	22826	I	箱根畑宿群
MK05-13121	L146-224	22826	2	箱根畑宿群
MK05-13122	L146-225	22829		箱根畑宿群
MK05-13123	L146-226	22830		箱根畑宿群
MK05-13124	L146-227	22832		箱根畑宿群
MK05-13125	L146-228	22833		箱根畑宿群
MK05-13126	L146-229	22834	1	箱根畑宿群
MK05-13127	L146-230	22834		箱根畑宿群
MK05-13128	L146-231	22835		箱根畑宿群

	判別分析					
判別図	第] 候補産地		第	2 候補産地	
79/0997	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
HNHJ	HNHJ	4.99	1	HNKI	109.74	0
WDTY	WDTY	15.78	0.9962	WDHY	24. 44	0.0038
推定不可	推定不可			推定不可		
HNHJ	HNHJ	14.85	1	HNKI	189.3	0
AGKT	AGKT	10.52	1	HNKT	86.47	0
SWHD	SWHD	0.39	1	SBIY	89	0
AGKT	AGKT	13.32	1	HNKT	139.6	0
HNHJ	HNHJ	9.72	1	HNKI	158.68	0
HNHJ	HNHJ	3.68	1	HNKI	115. 23	0
HNHJ	HNHJ	8.39	1	HNKI	90, 84	0
AGKT	AGKT	3.71	1	HNKT	130. 22	0
AGKT	AGKT	26. 17	1	HNKT	179.11	0
AGKT	AGKT	18.49	1	HNKT	149. 1	0
AGKT	AGKT	2.16	1	HNKT	104.89	0
AGKT	AGKT	12. 53	1	HNKT	154. 58	0
HNHJ	HNHJ	13.98	1	HNKI	94.57	0
AGKT	AGKT	15.64	1	HNKT	83. 47	0
AGKT	AGKT	17.81	1	HNKT	90.67	0
LHNH	HNHJ	4.51	1	HNKI	155. 13	0
推定不可	推定不可			推定不可		
HNHJ	HNHJ	9.15	1	HNKI	98. 54	0
HNHJ	HNHJ	24.04	1	HNKI	128. 69	0
AGKT	AGKT	11.58	1	THAY	102. 95	0
HNHJ	HNHJ	6.09	1	HNKI	91.43	0
HNHJ	HNHJ	9.44	1	HNKI	92.08	0
HNHJ	HNHJ	6.74	1	HNKI	138.55	0
HNHJ	HNHJ	6.82	1	HNKI	133	0
HNHJ	HNHJ	0.68	1	HNKI	119.6	0
AGKT	AGKT	1.19	1	HNKT	105.64	0
HNHJ	HNHJ	1.41	1	HNKI	107.66	0
HNHJ	HNHJ	0.81	1	HNKI	126.46	0
HNHJ	HNHJ	5.71	1	HNKI	77.04	0
HNHJ	HNHJ	4. 15	1	HNKI	101.63	0
HNHJ	HNHJ	0. 24	1	HNKI	106.03	0
HNHJ	HNHJ	5	1	HNKI	94.7	0
HNHJ	HNHJ	2.66	1	HNKI	92. 4	0
HNHJ	HNHJ	3.26	1	HNKI	129.18	0
HNHJ	HNHJ	5. 15	1	HNKI	149.12	0
HNHJ	HNHJ	11.27	1	HNKI	100.76	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MK05-13129	L146-232	22838	1	推定不可
MK05-13130	L146-233	22846		箱根畑宿群
MK05-13131	L146-234	22847		箱根畑宿群
MK05-13132	L146-235	22886		天城柏峠群
MK05-13133	L146-236	22889		天城柏峠群
MK05-13134	L146-237	22905		天城柏峠群
MK05-13135	L146-238	22906		天城柏峠群
MK05-13136	L146-239	22907		天城柏峠群
MK05-13137	L146-240	22908		箱根畑宿群
MK05-13138	L146-241	22915		天城柏峠群
MK05-13139	L146-242	22916		天城柏峠群
MK05-13140	L146-243	22917		天城柏峠群
MK05-13141	L146-244	22926		天城柏峠群
MK05-13142	L146-245	22927		天城柏峠群
MK05-13143	L146-246	22929		天城柏峠群
MK05-13144	L146-247	22930		天城柏峠群
MK05-13145	L146-248	22931		天城柏峠群
MK05-13146	L146-249	22935		推定不可
MK05-13147	L146-250	22947		箱根畑宿群
MK05-13148	L146-251	22948		天城柏峠群
MK05-13149	L146-252	22949		天城柏峠群
MK05-13150	L146-253	22950		箱根畑宿群
MK05-13151	L146-254	22952		箱根畑宿群
MK05-13152	L146-255	22954		箱根畑宿群
MK05-13153	L146-256	22956		箱根畑宿群
MK05-13154	L146-257	22957		天城柏峠群
MK05-13155	L146-258	22964		箱根畑宿群
MK05-13156	L146-259	22966		箱根畑宿群
MK05-13157	L146-260	22971		箱根畑宿群
MK05-13158	L146-261	22972		箱根畑宿群
MK05-13159	L146-262	22976		箱根畑宿群
MK05-13160	L146-263	22977		箱根畑宿群
MK05-13161	L146-264	22978		箱根畑宿群
MK05-13162	L146-265	22979		箱根畑宿群
MK05-13163	L146-266	22980		箱根畑宿群
MK05-13164	L146-267	22982		箱根畑宿群
MK05-13165	L146-268	22983		箱根畑宿群
MK05-13166	L146-269	22984		箱根畑宿群
MK05-13167	L146-270	22986		箱根畑宿群
MK05-13168	L146-271	22987		箱根畑宿群
MK05-13169	L146-272	22988	-	箱根畑宿群
MK05-13170	L146-273	22989		箱根畑宿群
MK05-13171	L146-274	22990		箱根畑宿群
MK05-13172	L146-275	22991		箱根畑宿群
MK05-13173	L146-276	23080		箱根畑宿群
MK05-13174	L146-277	23081	-	推定不可
MK05-13175	L146-278	23113	-	
				天城柏峠群
MK05-13176	L146-279	23326		箱根畑宿群
MK05-13177	L146-280			天城柏峠群
MK05-13178	L146-281	22772		蓼科冷山群 密坦柳宮畔
MK05-13179	L146-282	22773	-	箱根烟宿群
MK05-13180	L146-283	22774	1	箱根畑宿群
MK05-13181	L146-284	23483		諏訪星ヶ台群
MK05-13182	L146-285	23484		箱根畑宿群
ИК05-13183	L146-286	23485		天城柏峠群
MK05-13184	L146-287	23487		箱根畑宿群
AK05-13185	L146-288	23500		箱根畑宿群

			判別	分析		
判別図	第	1 候補産地			52候補産地	
判別群	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
推定不可	推定不可			推定不可		794. 1
HNHJ	HNHJ	29.84	1	HNKI	59. 16	0
HNHJ	HNHJ	8, 52	-	HNKI	174. 39	0
AGKT	AGKT	6.17	 	HNKT	124. 53	0
AGKT	AGKT	3.02	-	HNKT	104.71	0
AGKT	AGKT	2. 65		HNKT	86.53	0
AGKT	AGKT	5, 94	1	HNKT	128. 67	0
AGKT	AGKT	12. 59	1	HNKT	109.91	0
HNHJ	HNHJ	6.96	1	HNKI	141.65	0
AGKT	AGKT	5.39	1	HNKT	106.08	0
AGKT	AGKT	4.01	1	HNKT	118. 91	0
AGKT	AGKT	7.55	I	HNKT	130. 45	0
AGKT	AGKT	11.16	1		100	-
			-	HNKT	155.02	0
AGKT	AGKT	2.76	1	HNKT	110.53	0
AGKT	AGKT	5. 36	1	HNKT	120.64	0
AGKT	AGKT	7. 22	1	HNKT	146, 24	0
AGKT	AGKT	8. 74	1	HNKT	157.8	0
推定不可	推定不可			推定不可		
HNHJ	HNHJ	2. 35	1	HNKI	99.48	0
AGKT	AGKT	6	I	HNKT	114.11	0
AGKT	AGKT	9.91	l	HNKT	86. 25	0
HNHJ	HNHJ	3. 27	l	HNKI	137. 57	0
HNHJ	HNHJ	12.36	1	HNKI	75.79	0
HNHJ	HNHJ	4.16	1	HNKI	89.67	0
HNHJ	HNHJ	5.71	1	HNKI	70.78	0
AGKT	AGKT	9.8	1	HNKT	109.09	0
HNHJ	HNHJ	2. 27	1	HNKI	87.45	0
HNHJ	HNHJ	10.19	1	HNKI	170.12	()
HNHJ	HNHJ	1.95	1	HNKI	96, 39	0
HNHJ	HNHJ	5. 47	1	HNKI	104.04	0
HNHJ	HNHJ	5.36	1	HNKI	150.08	0
HNHJ	HNHJ	5.97	1	HNKI	129, 56	0
HNHJ	HNHJ	20.74	1	HNKI	91.99	0
HNHJ	HNHJ	4.03	1	HNKI	92.04	C
HNHJ	HNHJ	6, 67	1	HNKI	137. 95	C
HNHJ	HNHJ	19.61	1	HNKI	48.63	0
HNHJ	HNHJ	12.76	I	HNKI	143. 38	0
HNHJ	HNHJ	8.5	1	HNKI	102. 82	0
HNHJ	HNHJ	6.77	1	HNKI	118.5	0
HNHJ	HNHJ	3.82	1	HNKI	95. 99	0
HNHJ	HNHJ	28. 9	0.9999	HNKI	43.56	0.0001
HNHJ	HNHJ	4.86	1	HNKI	126.03	0
HNHJ	HNHJ	12.02	1	HNKI	89. 9	0
HNHJ	HNHJ	2.74	1	HNKI	112.8	0
HNHJ	HNHJ	7.92	1	HNKI	72.13	0
推定不可	推定不可	1100		推定不可	75.10	-
AGKT	AGKT	6, 22	1	HNKT	109.63	0
HNHJ	HNHJ	13.42	1	HNKI	56. 43	0
		43.00	1			
AGKT	AGKT	9.35		HNKT	124, 36	0.0001
TSTY	TSTY	9.51	0. 9999	TSHG	25. 06	0.0001
HNHJ	HNHJ	13.54	1	HNKI	69. 2	0
HNHJ	HNHJ	17	1	HNKI	62.77	0
SWHD	SWHD	3.79	1	SBIY	77. 46	0
HNHJ	HNHJ	2.09	1	HNKI	95. 29	0
AGKT	AGKT	1.65	1	HNKT'	120. 87	0
HNHJ	HNHJ	2.9	1	HNKI	130	0
HNHJ	HNHJ	5. 39	1	HNKI	162.11	0
HNHJ	HNHJ	24. 02	1	HNKI	204. 29	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MK05-13187	L146-290	22776		箱根畑宿群
MK05-13188	L146-291	22848		箱根畑宿群
MK05-13189	L146-292	22849		箱根畑宿群
MK05-13190	L146-293	23482	l	箱根畑宿群
MK05-13191	L146-294	23482	2	箱根畑宿群
MK05-13192	L146-295	23579		箱根畑宿群
MK05-13193	L146-296	23580		箱根畑宿群
MK05-13194	L146-297	23581		箱根畑宿群
MK05-13195	L146-298	23582		箱根畑宿群
MK05-13196	L146-299	23583		箱根畑宿群
MK05-13197	L146-300	23584		箱根畑宿群
MK05-13198	Li46-301	23585		箱根畑宿群
MK05-13199	L146-302	23586		箱根畑宿群
MK05-13200	L146-303	23587		箱根畑宿群
MK05-13201	L146-304	23588		箱根畑宿群
MK05-13202	L146-305	23589	\neg	箱根畑宿群
MK05-13203	L146-306	23590		箱根畑宿群
MK05-13204	L.146-307	23591		箱根畑宿群
MK05-13205	L146-308	23592		箱根畑宿群
MK05-13206	L146-309	23593		箱根畑宿群
MK05-13207	L146-310	23594		箱根畑宿群
MK05-13208	L146-311	23595		箱根畑宿群
MK05-13209	LJ146-311	23596	1	箱根畑宿群
MK05-13210	LJ46-313	23596	2	箱根畑宿群
MK05-13211	LJ146-314	23598		箱根畑宿群
MK05-13212	L146-315	23599		箱根畑宿群
MK05-13213	L146-316	23600		箱根畑宿群
MK05-13214	L146-317	23602		箱根畑宿群
MK05-13215	L146-318	23603		箱根畑宿群
MK05-13216	L146-319	23604		箱根畑宿群
	L146-319	23605	1	箱根畑宿群
MK05-13217		23608	2	E
MK05-[3218	L146-321	23605	3	箱根畑宿群
MK05-13219	L146-322		-	箱根畑宿群
MK05-13220	L146-323	23605	1	箱根畑宿群
MK05-13221	L146 -324	236505	- 2	箱根畑宿群
MK05-13222	L146 -325	23607		箱根畑宿群
MK05-13223	L146 -326	23613		箱根畑宿群
MK05-13224	L146 -327	23614		箱根畑宿群
MK05-13225	L146 -328	23617		箱根烟宿群
MK 05-13226	L146 -329	2362)		箱根烟宿群
MK05-13227	L146 -330	23623		箱根畑宿群
MK05-13228	L146 -331	23621		箱根畑宿群
MK05-13229	L146 -332	2362)		箱根畑宿群
MK05-13230	L.146-333	23631		盾根畑宿群
MK.05-13231	L.146-334	23331		天城柏峠群
MK05-13232	L.146-335	23333		天城柏峠群
MK05-13233	L.146-336	23563		箱根畑宿群
MK05-13234	L.146-337	23564		箱根畑宿群
MK05-13235	L.146-338	23565		箱根畑宿群
MK05-13236	L.146-339	23566	1	箱根畑宿群
MK05-13237	L.146-340	23566	2	天城柏峠群
MK05-13238	L.146-341	23567	I	箱根畑宿群
MK05-13239	L.146-342	23568	1	箱根畑宿群
MK05-13240	L.146-343	23568	2	箱根畑宿群
MK05-13241	L.146-344	表採123		神津島恩馳島群
MK05-13242	L.146-345	1587		諏訪星ヶ台群
MK05-13243	LJ146-346	2904		和田鷹山群
MK05-13244	I .146-347	表採144		箱根畑宿群

判別図	判別分析					
判別群		1候補産地	Volumber		2 候補産地	Tributine
YINTIY	判別群	距離 2.16	確率	判別群	距離	確率
HNHJ	HNHJ	3. 16 4. 5	1	HNKI	126.62	(
HNHJ	HNHJ			HNKI	126.92	
HNHJ	HNHJ	10.4	1	HNKI	165. 98	
HNHJ	HNHJ	5. 49	1	HNKI	89. 56	
HNHJ	HNHJ	18.07	1	HNKI	208. 22	
HNHJ	HNHJ	5. 24	1	HNKI	78.7	
HNHJ	HNHJ	12.61	1	HNKI	61	
HNHJ	HNEJ	17.61	1	HNKÍ	47.89	
HNHJ	HNHJ	7.61	1	HNKI	89.64	
HNHJ	HNHJ	11.17	1	HNKI	93. 18	(
HNHJ	HNHJ	11.58	1	HNKI	68.58	(
HNHJ	HNHJ	17.84	1	HNKI	214.11	(
HNHJ	HNHJ	4.54	1	HNKI	08.18	(
HNHJ	HNHJ	3.42	1	HNKI	04.65	(
HNHJ	HNHJ	14.56	1	HNKI	71.28	- (
HNHJ	HNHJ	0, 5	1	HNKI	117.82	
HNHJ	HNHJ	1.64	1	HNKI	122.65	(
HNHJ	HNHJ	26.89	1	HNKI	54. 42	(
HNHJ	HNHJ	8. 7	1	HNKI	91.64	ì
HNHJ	HNHJ	2, 1	1	HNKI	107.57	Ŋ
HNHJ	HNHJ	7.58	1	HNKI	153.88	9
HNHJ	HNHJ	2.7	1	HNKI	148.97	9
НИНЈ	HNHJ	15.46	1	HNKI	47.48	
нинј	HNHJ	1.31	1	HNKI	100.65	
HNHJ	HNHJ	8.42	1	HNKI	132.91)
HNHJ	HNHJ	4.7	1	HNKI	92.6	9
HNHJ	HNHJ	8. 22	1	HNKI	102.48	
HNHJ	HNHJ	19. 57	1	HNKI	48.39	
HNHJ	HNHJ	9.14	1	HNKI	68.32	
HNHJ	HNHJ	4, 22	1	HNKI	146.7	
HNHJ	HNHJ	3.63	1	HNKI	83, 38	
HNHJ	HNHJ	1.38	1	HNKI	109.6	
HNHJ	HNHJ	1.21	1	HNKI	112. 21	
HNHJ	HNHJ	3.46	1	HNKI	92. 76	
HNHJ	HNHJ	3. 12	1	HNKI	132, 08	
HNHJ		6, 12	1	HNKI	140. 66	
	HNHJ	1. 45	1	17 Table 2000 Table 20	127.34	
HNHJ	HNHJ	1.43	1	HNKI	122.23	
HNHJ	HNHJ	23. 09	1	HNKI	55. 53	0
HNHU	HNHI	29. 38		HNKI	46.8	
HNHJ	HNHJ		1	HNKI	_	
HNHJ	HNHJ	2. 24	1	HNR1	129.72	
HNHJ	- HNHJ	3.37	1	HNKI	96.33	
HNHJ	HNHJ	4. 59	1	HNKI	119.26	
HNHIJ	HNHJI	1.82	1	HNKI	89.83	
4GK:T	AGKT	8.8	1	HNKT	122. 3	
AGKT	AGKT	0.69	1	HNKT	109. 25	
HNHJ	.—HNHJ	3. 64	1	HNKI	84. 67	
HNHJ	HNHJ	4.96	1	HINKI	118.39	
HNHJ	HNHJ	5.06	1	HNKI	133. 44	
HNHJ	HNHJ	20.84	1	HNKI	57.17	
AGKT	AGKT	11.3	1	HNKT'	104.04	
HNHJ	HN:HJ	7. 15	1	HNKI.	79.09	
HNHJ	HNHJ	9.76	1	HNKI	66, 33	
HN HJ	HNHJ	23. 33	1	HNKI	216.39	
KZCOB	KZOB	5.7	1	KZSN	28. 83	
SWIHD	SWHD	3. 47	1	WDTN	841.85	- (
WD TY	WDTY	10.38	1	WDHY	39. 23	(
HN HJ	HNHJ	4. 05	1	HNKI	88.53	(

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定産地
MK05-13245	L146-348	1038		諏訪星ヶ台群
MK05-13246	L146-349	273		神津島恩馳島郡
MK05-13247	L146-350	341		神津島恩馳島郡
MK05-13248	L146-351	907		神津島恩馳島群
MK05-13249	L146-352	1045		諏訪星ヶ台群
MK05-13250	L146-353	2386		諏訪星ヶ台群
MK05-13251	L146-354	2762		神津島恩馳島稍
MK05-13252	L146-355	3375		推定不可
MK05-13253	L146-356	3397		神津島恩馳島稍
MK05-13254	L146-357	3418		神津島恩馳島群
MK05-13255	L146-358	3612		神津島恩馳島群
MK05-13256	L146-359	3788		神津島恩馳島群
MK05-13257	L146-360	3889		神津島恩馳島群
MK05-13258	L146-361	4161		諏訪星ヶ台群
MK05-13259	L146-362	7366		神津島恩馳島群
MK05-13260	L146-363	7817		諏訪星ヶ台群
MK05-13261	L146-364	7995		箱根畑宿群
MK05-13262	L146-365	8018		諏訪星ヶ台群
MK05-13263	L146-366	8435		神津島恩馳島群
MK05-13264	L146-367	8530		神津島恩馳島群
MK05-13265	L146-368	8848		諏訪星ヶ台群
MK35-1326€	L146-369	9623		神津島恩馳島群
MKJ5-13267	L146-370	10325		神津島恩馳島群
MK05-13268	L146-371	11179		神津島恩馳島群
MK05-13269	L146-372	11191		非黒曜石
MK05-13270	L146-373	11628		神津島恩馳島群
MK05-13271	L146-374	1:2382		推定不可
MK05-13272	L146-375	1:2398		神津島恩馳島群
MK05-13273	L146-376	1:2602		諏訪星ヶ台群
MK05-13274	L146-377	12643		神津島恩馳島群
MK0513275	L146-378	12690		神津島恩馳島群
MK0513276	L146-379	12716		神津島恩馳島群
MK0513277	L146-380	13300		神津島恩馳島群
MK0513278	L146-381	13302	2	神津島恩馳島群
MK0513279	L146-382	13312		諏訪星ヶ台群
MK0513280	L146-383	13323		神津島恩馳島群
MK0513281	L146-:384	13326	-	神津島恩馳島群
MK0513282	L146-385	14216	1	神津島恩馳島群
ИК0513283	L146-386	14242		神津島恩馳島群
ЛК0513284	L146-387	15540		推定不可
MK0513285	L146-388	15778		神津島恩馳島群
AK05-13286	L146-389	15800	1	神津島恩馳島群
ИК05-13287	L146-390	16197		神津島恩馳島群
ИК05-13288	L146-391	16517		神津島思馳島群
ИК05-13289	L146-392	16580		神津島思馳島群
ИК05-13290	L146-393	17171	-+	神津島恩馳島群
/IK05-13291	L146-394	17538	+	諏訪星ヶ台群
ИК05-13292	L146-395	18163	-+	神津島恩馳島群
/IK05-13293	L146-396	18268	-+	諏訪星ヶ台群
4K05-13294	L146-397	20173	-+	神津島思馳島群
4K05-13295	L146-398	21175	-+	箱根烟宿群
4K05-13296	L146-399	21180	-	神津島思馳島群
4K05-13297	L146-400	21464	-	和田鷹山群
4K05-13298	L146-401	21675		神津島恩馳島群
1K05-13299	L146-402	21720		諏訪星ヶ台群
1K05-13300	L146-403	21983		諏訪星ヶ台群
1K05-13301	L146-404	22262	-	神津島恩馳島群
10001	L146-405	22815		神津島思馳島群

	判別分析					
判別図	第	1 候補産地		i i	度2候補産地	
T3/394+	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
SWHD	SWHD	2.55	1	SBIY	85. 95	
KZOB	KZOB	6.68	1	KZSN	52. 93	1
KZOB	KZOB	7.13	1	KZSN	72. 18	(
KZOB	KZOB	4. 47	1	KZSN	40	1
SWHD	SWHD	15. 21	1	WDTN	69.81	(
SWHD	SWHD	4.97	1	WDTN	98. 58	
KZOB	KZOB	5. 89	1	KZSN	61.54	
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.02	1	KZSN	44. 25	0
KZOB	KZOB	5.34	1	KZSN	65.14	
KZOB	KZOB	2. 84	1	KZSN	54. 23	
KZOB	KZOB	3. 25	1	KZSN	36.85	0
KZOB	KZOB	0.72	1	KZSN	61.66	
SWHD	SWHD	7.9	1	SBIY	84. 08	0
KZOB	KZOB	4. 2	1	KZSN	32. 12	0
SWHD	SWHD	11.2	1	WDTN	124. 42	0
HNHJ	HNHJ	10.02	1	HNKI	101.24	0
SWHD	SWHD	27. 18	1	SBIY	93.72	0
KZOB	KZOB	4.68	1	KZSN		-
KZOB	KZOB	4.62	1		67. 27	0
SWHD	SWHD	4.02	1	KZSN	62.07	
KZOB	KZOB			KZSN	72.54	0
KZOB		6. 26	1		48. 85	0
	KZOB	4. 94	1	KZSN	59. 83	0
KZOB	KZOB	8. 73	1	KZSN	45.71	0
非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
KZOB	KZOB	4.92	1	KZSN	76. 23	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	5. 67	1	KZSN	26.05	()
SWHE	SWHC	8.3	1	SBIY	99. 13	()
KZOB	KZOB	3. 04	1	KZSN	32. 36	()
KZOB	KZOB	12. 84	1	KZSN	51.34	()
KZOB	KZOB	14. 35	1	KZSN	32.6	()
KZOB	KZOB	5. 71	1	KZSN	50. 42	()
KZOB	KZOB	12. 44	1	KZSN	43. 23	()
SWHD	SWHD	15. 28	1	SBIY	103.97	0
KZOB	KZOB	17. 12	1	TSTY	102.42	0
KZOB	KZOB	2. 78	1	KZSN	65.05	0
KZOB	KZOB	13. 42	1	KZSN	35. 94	0
KZOB	KZOB	28.61	1	KZSN	61.06	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	26. 93	1	KZSN	73.56	0
KZOB	KZOB	12.84	0. 9998	KZSN	27.67	0.0002
KZOB	KZOB	6.31	1	KZSN	76.45	0
KZOB	KZOB	1. 15	1	KZSN	44. 44	()
KZOB	KZOB	1.63	1	KZSN	67. 52	()
KZOB	KZOB	1. 67	1	KZSN	49. 33	()
SWHD	SWHD	3.1	1	SBIY	93.59	()
KZOB	KZOB	0.82	1	KZSN	42.94	()
SWHD	SWHD	7. 31	1	SBIY	100.53	()
KZOB	KZOB	13.8	1	KZSN	57.30	()
HNHJ	HNHJ	10. 21	1	HNKI	1.85.85	()
KZOB	KZOB	2.46	1	KZSN	51.1	(1
WDTY	WDTY	3. 19	1	WDKB	28. 59	0
KZOB	KZOB	4. 86	- I	KZSN	52. 67	
SWHD						CI
	SWHD	1:3. 33	1)	WDTN	116.25	0
SWHD	SWHD	5. 52	1 11	SBIY	116.2	0
KZOB	KZOB	14. 09	1	KZSN	39.2	0
KZOB	KZOB	12.53	1	KZSN	05.01	Ū

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MK05-13303	L146-406	8188	2	諏訪星ヶ台群
MK05-13304	L146-407	8590		神津島恩馳島群
MK05-13305	L146-408	8881		神津島恩馳島群
MK05-13306	L146-409	10323		神津島恩馳島群
MK05-13307	L146-410	10597		天城柏峠群
MK05-13308	L146-411	10606		神津島恩馳島群
MK05-13309	L146-412	10610		神津島恩馳島群
MK05-13310	L146-413	10744		神津島恩馳島群
MK05-13311	L146-414	3364		神津島恩馳島群
MK05-13312	L146-415	3423		推定不可
MK05-13313	L146-416	3520		神津島恩馳島群
MK05-13314	L146-417	7719	\neg	諏訪星ヶ台群
MK05-3315	L146-418	11169		諏訪星ヶ台群
MK05-13316	L146-419	15817		諏訪星ヶ台群
1 730 000	L146-420	328		推定不可
MK05-13317	2110 100	-		2.40.0000000000000000000000000000000000
MK05-13318	L146-421	10296		神津島恩馳島群
MK05-13319	L146-422	10762		神津島恩馳島群
MK05-13320	L146-423	21980		神津島恩馳島群
MK05-13321	L146-424	2737		諏訪星ヶ台群
MK05-13322	L146-425	772		神津島恩馳島群
MK05-13323	L146-426	3320		神津島恩馳島群
MK05-13324	LI46-427	4377		神津島恩馳島群
MK05-13325	L146-428	4696		神津島恩馳島群
MK05-13326	L146-429	7990		神津島恩馳島群
MKO5-13327	L146-430	2712		神津島恩馳島群
MK05-13328	L146-431	12720		神津島恩馳島群
MK05-13329	L146-432	12755		神津島恩馳島群
MK05-13330	L146-433	21633		神津島恩馳島群
MK05-13331	L146-434	22701		神津島恩馳島群
MK05-13332	L146-435	313		神津島恩馳島群
MK05-13333	L146-436	727		箱根畑宿群
MK05-13334	L146-437	2716		神津島恩馳島群
MK05-13335	L146-438	3971		諏訪星ヶ台群
MK05-13336	L146-439	7193		神津島恩馳島群
MK05-13337	L146-440	7561	-	神津島恩馳島群
MK05-13338	L146-441	8036		神津島恩馳島群
MK05-13339	L146-442	9560		神津島恩馳島群
MK05-13340	L146-443	9622		推定不可
		-		
MK05-13341	L146-444	9922		神津島恩馳島群
MK05-13342	L146-445	10232		神津島恩馳島群
MK05-13343	L146-446	10763		神津島恩馳島群
MK05-13344	L146-447	11648		箱根黒岩橋群
MK05-13345	L146-448	12652		神津島風雕島群
MK()5-13346	L146-449	89		神津島恩馳島群
MKO5-13347	L146-450	346		神津島恩馳島群
MKO5-13348	L146-451	351		神津島恩馳島群
MK05-13349	L146-452	7434		神津島恩馳島科
MK05-13350	L146-453	7445		神津島恩馳島稍
MK05-13351	L146-454	7499		神津島恩馳島群
MK05-13352	L146-455	7527		神津島恩馳島稍
MK05-13353	L146-456	7909		神津島恩馳島群
MKI05-13354	L146-457	8182		神津島恩馳島稍
MK(05-13355	L146-458	8215		神津島恩馳島群
MK/05-13356	L146-459	8217		神津島恩馳島群
MK05-13357	L146-460	8258		神津島恩馳島群
MK055-13358	L146-461	8537		神津島思馳島郡
MK05-13359	L146-462	9603		神津島恩馳島郡
11110000	L140 404	3003		1757年四次3号四州

	判別分析					
判別図判別群	第	1候補産地		第	2 候補産地	
79,0907	判別群	距離	础图	判別群	距離	確率
SWHD	SWHD	10.79	1	WDTN	70.07	D
KZOB	KZOB	5. 63	1	KZSN	60. 24	D
KZOB	KZOB	6.92	1	KZSN	51.17	D
KZOB	KZOB	12. 55	1	WOMS	90.11	0
AGKT	AGKT	2. 48	1	HNKT	128. 25	0
KZOB	KZOB	6.5	1	KZSN	61.53	0
KZOB	KZOB	4.96	1	KZSN	73.82	0
KZOB	KZOB	6.08	1	KZSN	37.07	0
KZOB	KZOB	17	1	KZŚŃ	75. 55	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	13. 12	1	KZSN	34. 15	0
SWHD	SWHD	14. 33	1	SBIY	126, 41	0
SWHD	SWHD	7.38	1	SBIY	99. 05	
SWHD	SWHD	6.18	1	SBIY	55, 53	2
推定不可	推定不可	0.10		推定不可	55, 55	
-		2.76	1	KZŚŃ	57 19	
KZOB	KZOB	16. 15	1		57. 12)
KZOB	KZOB			KZSN	74. 15	0
KZOB	KZOB	5. 09	1	KZSN	40.52	D
SWHD	SWHD	2.43	1	SBIY	62.31	0
KZOB	KZOB	13.34	1	KZSN	95.59	0
KZOB	KZOB	1.52	1	KZSN	50.35	0
KZOB	KZOB	10. 37	1	KZSN	61.93	0
KZOB	KZOB	3, 65	1	KZSN	39.81	0
KZOB	KZOB	23. 23	1	KZSN	61.34	0
KZOB	KZOB	9.41	0. 9993	KZSN	21.60	0.0007
KZOB	KZOB	10.15	1	KZSN	44.71	0
KZOB	KZOB	5. 47	1	KZSN	48. 59	0
KZOB	KZOB	3. 29	1	KZSN	67.12	9
KZOB	KZOB	9.39	1	KZSN	54.14)
KZOB	KZOB	2.45	1	KZSN	45.14)
HNHJ	HNHJ	10.39	1	HNKI	175.42)
KZOB	KZOB	7.49	1	KZSN	42.38)
SWHD	SWHD	16.4	1	SBIY	76.08	C
KZOB	KZOB	18.61	1	KZSN	66.05	0
KZOB	KZOB	2. 43	1	KZSN	70. 21	D
KZOB	KZOB	11.97	0.9994	KZSN	24. 4	0.0006
KZOB	KZOB	15.98	1	KZSN	64.41	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.44	1	KZSN	48. 64	0
KZOB	KZOB	9.68	1	KZSN	56. 22	0
KZOB	KZOB	6. 15	1	KZSN	35.34	0
HNKI	HNKI	3.74	1	HNKJ	65.39	0
KZOB	KZOE	11.95	1	KZSN	62.32	0
KZOB	KZOB	2. 78	1	KZSN	55. 83	3
KZOB	KZOB	2.79	1	KZSN	55. 47	(
	KZOB	8.88	1	KZSN	42. 99	(
KZOB		24. 96	1		66.46	
KZOB	KZOB	_		KZSN		(
KZOB	KZOB	7.71	1	KZSN	39.82	-
KZOB	KZOB	6.87	1	KZSN	68.11	6
KZOB	KZOB	4.74	1	KZSN	81.9	,
KZOB	KZOB	1.2	1	KZSN	48.66	1
KZOB	KZOB	3 59	1	KZSN	32.34:	
KZOB	KZOB	6 28	1	KZSN	57.3	1
KZOB	KZOB	9 63	1	KZSN	63.17	1
KZOB	KZOB	5 32	1	KZSN	44. 5)
KZOB	KZOB	12 48	1	KZSN	39. 72)
KZOB	KZOE	4. 94	1	KZSN	67. 96)
KZOB	KZOE	7.2	1	KZSN	87.94	J

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定産地
MK05-13361	L146-464	9628		神津島恩馳島群
MK05-13362	L146-465	10362		神津島恩馳島群
MK05-13363	L146-466	10585		神津島恩馳島群
MK05-13364	L146-467	10624		神津島恩馳島群
MK05-13365	L146-468	11292		神津島恩馳島群
MK05-13366	L146-469	11458		神津島恩馳島群
MK05-13367	L146-470	12380		神津島恩馳島群
MK05-13368	L146-471	12454		箱根畑宿群
MK05-13369	L146-472	12599		神津島恩馳島群
MK05-13370	L146-473	12640		神津島恩馳島群
MK05-13371	L146-474	15780		神津島恩馳島群
MK05-13372	L146-475	17498		推定不可
MK05-13373	L146-476	22711		神津島恩馳島群
MK05-13374	L146-477	3092		神津島恩馳島群
MK05-13375	L146-478	22818		神津島恩馳島群
MK05-13376	L146-479	4639		神津島恩馳島群
MK05-13377	L146-480	851		神津島恩馳島群
MK05-13378	L146-481	7368		神津島思馳島群
MK05-13379	L146-482	12893		神津島思馳島群
MK05-13379	L146-483	12897		神津島恩馳島群
			-	1111111111111111111111111111111
MK05-13381	L146-484	14063		神津島恩馳島群
MK05-13382	L146-485	16012		神津島恩馳島群
MK05-13383	L146-486	16016		神津島恩馳島群
MK05-13384	L146-487	16125		神津島恩馳島群
MK05-13385	L146-488	16145		神津島恩馳島群
MK05-13386	L146-489	16411		神津島思馳島群
MK05-13387	L146-490	16421		神津島思馳島群
MK05-13388	L146-491	16774		推定不可
MK05-13389	L146-492	17767		神津島恩馳島群
MK05-13390	L146-493	19682		神津島思馳島群
MK05-13391	L146-494	21679		神津島思馳島群
MK05-13392	L146-495	14123		神津島思馳島群
MK05-13393	L146-496	15944		神津島恩馳島群
MK05-13394	L146-497	18812		推定不可
MK05-13395	L146-498	20136		神津島恩馳島群
MK05-13396	L146-499	18399		天城柏峠群
AK05-13397	L146-500	19270		推定不可
∕IK05-13398	L146-501	19972		諏訪星ヶ台群
AK05-13399	L146-502	19370		神津島思馳島群
ИК05-13400	L146-503	19495		神津島恩馳島群
ИК05-13401	L146-504	19984		神津島恩馳島群
ИК05-13402	L146-505	21343		神津島思馳島群
AK05-13403	L146-506	19666		神津島思馳島群
ИК05-13404	L146-507	22229		神津島恩馳島群
ЛОК4-7274	L146-1	1871		箱根畑宿群
ИОК4-7275	L146-2	2021		箱根畑宿群
MOK4-7276	L146-3	2022		箱根畑宿群
40K4-7277	L146-4	2023		測定不可
AOK4-7278	L146-5	2024		箱根畑宿群
иок4-7279	L146-6	2025		箱根烟宿群
ЛОК4-7280	L146-7	2026		箱根畑宿群
10K4-7281	L146-8	2027		箱根畑宿群
10K4-7282	L146-9	2028		箱根細宿群
1OK4-7283	L146-10	2029	-	推定不可
10K4-7284	L146-11	2030		箱根畑宿群
4OK4-7285	L146-11	2031		測定不可
States of Laborator				
4OK4-7286	L146-13	2032		箱根烟宿群

	判別分析								
判別図	第] 候補産地			2 候補産地				
判別群	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率			
KZOB	KZOB	5. 51	1	KZSN	45, 55	0			
KZOB	KZOB	7.07	1	KZSN	83. 57	0			
KZOB	KZOB	2.44	1	KZSN	70, 07	0			
KZOB	KZOB	9.85	1	KZSN	72.96	0			
KZOB	KZOB	10.36	1	KZSN	78.69	0			
KZOB	KZOB	12.41	1	KZSN	79.47	0			
KZOB	KZOB	20.08	1		94.36	0			
HNHJ	HNHJ	11.66	I	KZSN	109.64	0			
KZOB	KZOB	4.69	1	HNKI KZSN	49.75	0			
		29.09							
KZÓB	KZOB		1	KZSN	91.83	0			
KZOB	KZOB	1.19	1	KZSN	45.35	0			
推定不可	惟定不可	0.17	l,	推定不可	07.75				
KZOB	KZOB	2.17	1	KZSN	37.75	0			
KZOB	KZOB	5.63	1	KZSN	48. 3	0			
KZOB	KZOB	26.8	1	KZSN	69.78	0			
KZOB	KZOB	11.47	I	KZSN	46.76	C			
KZOB	KZOB	13.91	l	KZSN	46.55	C			
KZOB	KZOB	22. 67	0.9999	KZSN	40.18	0.0001			
KZOB	KZOB	4.31	1	KZSN	48.97	0			
KZOB	KZOB	4	1	KZSN	33.66	0			
KZOB	KZOB	3.91	I	KZSN	33. 98	9			
KZOB	KZOB	2. 58	1	KZSN	41.33	0			
KZOB	KZOB	6.85	l	KZSN	34. 73	0			
KZOB	KZOB	0.82	1	KZSN	44. 65	0			
KZOB	KZOB	18.57	1	KZSN	105.48	0			
KZOB	KZOB	lû. 81	1	KZSN	31.38	G			
KZOB	KZOB	4.64	1	KZSN	48.07	0			
推定不可	推定不可			推定不可					
KZOB	KZOB	7.77	1	KZSN	29.75	0			
KZOB	KZOB	7.21	1	KZSN	44.91	0			
KZOB	KZOB	9.26	1	KZSN	31.92	0			
KZOB	KZOB	2.55	1	KZSN	56.09	0			
KZOB	KZOB	8.13	1	KZSN	29.85	0			
推定不可	推定不可			推定不可					
KZOB	KZOB	7.82	I	KZSN	25. 84	0			
AGKT	AGKT	6.38	l	HNKT	145. 95	0			
推定不可	推定不可			推定不可	10100				
SWHD	SWHD	6.59	1	SBIY	35.03	0			
KZOB	KZOB	13. 26	0.9995	KZSN	26. 01	0.0005			
KZOB	KZOB	17.07	1	KZSN	58. 51	0.0000			
-						0			
KZOB	KZOB	13. 78	I	KZSN	71.12	-			
KZOB	KZOB	2, 07	0.0000	KZSN	56. 44	0			
KZOB	KZOB	10, 07	0.9996	KZSN	23.3	0.0004			
KZOB	KZOB	8.91	<u>-</u>	KZSN	31.3	0			
HNHJ	HNHJ	2.55		HNKI	132. 13	0			
HNHJ	HNHJ	6.06	1	HNKI	89. 49	0			
HNHJ	HNHJ	4.69	1	HNKI	109.8	0			
測定不可	测定不可			測定不可					
HNHJ	HNHJ	7.05	l	HNKI	163. 1	0			
HNHJ	HNHJ	3.66	1	HNKI	128. 16	0			
HNHJ	HNHJ	1.5	1	HNKI	121.78	0			
HNHJ	HNHJ	6,88	1	HNKI	143. 72	0			
HNHJ	HNHJ	9.48	1	HNKI	74. 52	0			
推定不可	推定不可			推定不可					
HNHJ	HNHJ	17.05	1	HNKI	71.35	0			
				State of a recovery					
測定不可	測定不可			测定不可					
測定不可 HNHJ	測定不可 HNHJ	2.72	1	- ME不可 HNKI	94. 44	0			

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MOK4-7288	L146~15	2034		箱根畑宿群
MOK4-7289	L146-16	2035		箱根畑宿群
MOK4-7290	L146-17	2036		測定不可
MOK4-7291	L146-18	2037		測定不可
MOK4-7292	L146-19	2038		箱根畑宿群
MOK4-7293	L146-20	2039		箱根畑宿群
MOK4-7294	L146-21	2040		箱根畑宿群
MOK4-7295	L146-22	2041		箱根畑宿群
MOK4-7296	L146-23	2042		箱根畑宿群
MOK4-7297	L146-24	2043		測定不可
MOK4-72§8	L146-25	2044		箱根畑宿群
MOK4-7299	L146-26	2045		箱根畑宿群
MOK4-73(0	L146-27	2046		箱根畑宿群
MOK4-7301	L146-28	2047		箱根畑宿群
MOK4-7302	L146-29	2048		箱根畑宿群
MOK4-7303	L146-30	2049		箱根畑宿群
MOK4-7304	L146-31	2050		箱根畑宿群
MOK4-7305	L146-32	2051		箱根畑宿群
MO:K4-7306	L146-33	2052		: 商根畑宿群
MO:K4-7307	L146-34	2053		箱根畑宿群
MO:K4-7308	L14£-35	2055		滴根畑宿群
MO:K4-7309	L146-36	2056		測定不可
MOK4-7310	L146-37	2057	<u> </u>	簡根畑宿群
MOK4-7311	L146-38	2058	-	測定不可
MOK4-7312	L146-39	2059	-	測定不可
MOK4-7313	L146-40	2060	-	箱根畑宿群
MOK4-7314	L146-41	2061		推定不可
MOK4-7315	L146-42	2062		箱根畑宿群
MOK4-7316	L146-43	2063		箱根畑宿群
MOK4-7317	L146-44	2064		測定不可
MOK4-7318	L146-45	2065		測定不可
MOK4-7319	L145-46	2066		箱根畑宿群
MOK4-7319 MOK4-7320	L145-47	2067		箱根畑宿群
	-	2068		測定不可
MOK4-7321	L145-48			
MOK4-7322	L145-49	2069		測定不可
MOK4-7323	L143-50	207()		測定不可
MOK4-7324	L143-51	2071		測定不可
ИОК4-7325	L143-52	2072		測定不可
MOK4-7326	L145-53	2073		測定不可
MOK4-7327	L146-54	2074		測定不可
MOK4-7328	L146-55	2075		測定不可
ИОК4-7329	L146-56	2076		測定不可
ИОК4-7330	L146-57	2077		箱根畑宿群
ИОК4-7331 ———————————————————————————————————	L146-58	20'78		測定不可
ИОК4-7332	L146-59	20'79		測定不可
ИОК4-7333	L146-60	20:30		箱根畑宿群
ИОК4-7334	L146-61	20:31		測定不可
/IOK4-7335	L146-62	20:32		測定不可
/IOK4-7336	L146-63	20:83		推定不可
ИОК4-7337	L146-64	20:34		箱根畑佰群
/IOK4-7338	L146-65	20:35		測定不可
4OK4-7339	L146-66	20:36		箱根畑宿群
/IOK4-7340	L146-67	20:37		測定不可
MOK4-7341	L146-68	20:38		測定不可
MOK4-7342	L146-69	20:39		箱根畑宿鞘
MOK4-7343	L146-70	20:30		測定不可
MOK4-7344	L146-71	20:31		箱根畑宿群
MOK4-7345	L146-72	20 32		測定不可

	判別分析								
判別図判別群	第	1候補産地		第	2 候補産地				
十リカリ会子	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率			
HNHJ	HNHJ	3.75	1	HNKI	135, 04	0			
HNHJ	HNHJ	16. 41	1	HNKI	58. 45	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
HNHJ	HNHJ	3.8	1	HNKI	115.14	0			
HNHJ	HNHJ	12. 41	1	HNKI	165. 52	0			
HNHJ	HNHJ	3	1	HNKI	104, 23	0			
HNHJ	HNHJ	2. 92	1	HNKI	98.37	0			
HNHJ	HNHJ	8. 11	1	HNKI	99.64				
測定不可	測定不可	0.11		測定不可	00.01				
HNHJ	HNHJ	6. 22	1	HNK	125. 49	0			
HNHJ	HNHJ	8. 81	1	HNK	83, 45				
HNHJ	HNHJ	20. 78	1	HNK	109. 46				
HNHJ	HNHJ	14.72	1	HNKI	166. 92				
HNHJ	HNHJ	3, 48	1	HNK	131.6				
HNHJ	HNHJ	2, 27	1	HNK	86, 14	0			
HNHJ	HNHJ	3, 42	1	HNK	117. 29	0			
HNHJ	HNHJ	1. 64	1	HNK					
		12.05			124. 9				
HNHJ	HNHJ	2, 88	1	HNKI	62. 91	0			
HNHJ	HNHJ		1	HNKI	113.66	0			
HNHJ	HNHJ	6. 76	1	HNKI	127.48	()			
測定不可	測定不可	- 00		測定不可					
HNHJ	HNHJ	5. 26	1	HNKI	144.31	()			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
HNHJ	HNHJ	5. 54	1	HNKI	128. 8				
推定不可	推定不可			推定不可					
HNHJ	HNHJ	24. 39	1	HNKI	222. 94	0			
HNHJ	HNHJ	7.13	1	HNKI	149.94	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
HNHJ	HNHJ	8.31	1	HNK	1 42, 13	0			
HMHJ	HNHJ	15. 36	1	HNK[189.99	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可_	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
HNHJ	HMHI	10.91	1	HNKI	65.32	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
HNFJ	HNHJ	11.4	1	HNKI	183. 25	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
測定不可	測定不可			測定不可					
推定不可	推定不可			推定不可					
HNHJ	HNHJ	8. 62	1	HNKI	141.62	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
HNHJ	HNEJ	3.61	1	HNKI	91.53	0			
測定不可	測定不可	3.01		測定不可	01.00	0			
測定不可	測定不可			測定不可					
HNIJ	HNEJ	14 09	1		00.92	0			
測定不可	測定不可	14. 03	1	HNKI	90. 83	0			
	10.000	A 47		測定不可	70 50	-			
HNHJ	HNEJ	4.41	1	HNKI	78.58	0			
測定不可	測定不可			測定不可					

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MOK4-7346	L146-73	2093		箱根畑宿群
MOK4-7347	L146-74	2094		測定不可
MOK4-7348	L146-75	2096		箱根畑宿群
MOK4-7349	L146-76	2097		箱根畑宿群
MOK4-7350	L146-77	2098		箱根烟宿群
MOK4-7351	L146-78	2099		箱根畑宿群
MOK4-7352	L146-79	2100		箱根畑宿群
MOK4-7353	L146-80	2101		箱根畑宿群
MOK4-7354	L146-81	2103		諏訪星ヶ台群
MOK4-7355	L146-82	2104		箱根畑宿群
MOK4-7356	L146-83	2105		箱根畑宿群
MOK4-7357	L146-84	2106		和田小深沢群
MOK4-7358	L146-85	2109		箱根畑宿群
MOK4-7359	L146-86	2110		諏訪星ヶ台群
MOK4-7360	L146-87	2129		測定不可
MOK4-7361	L146-88	2130		箱根畑宿群
MOK4-7362	L146-89	2146		測定不可
MOK4-7363	L146-90	2147		箱根伽宿群
MOK4-7364	L146-91	2148		測定不可
MOK4-7365	L146-92	2149		測定不可
MOK4-7366	L146-93	2150		測定不可
MOK4-7367	L146-94	2151		測定不可
MOK4-7368	L146-95	2152		測定不可
MOK4-7369	L146-96	2153		測定不可
MOK4-7370	L146-97	2154		測定不可
MOK4-7371	L146-98	2155		測定不可
MOK4-7372	L146-99	2156		測定不可
MOK4-7373	L146-100	2163		測定不可
MOK4-7374	L146-101	2164		測定不可
MOK4-7375	L146-102	2165		箱根畑宿群
MOK4-7376	L146-103	2166		测定不可
MOK4-7377	L146-104	2167		箱根畑宿群
MOK4-7378	L146-105	2158		測定不可
MOK4-7379	L146-106	2159		箱根烟宿群
MOK4-7380	L146-107	2170		箱根畑宿群
MOK4-7381	L146-108	2171	1	測定不可
MOK4-7382	L146-109	2171	2	測定不可
MOK4-7383	L146-110	2172		箱根畑宿群
MOK4-7384	L146-111	2173		箱根畑宿群
MOK4-7385	L146-112	2174		箱根畑宿群
MOK47386	L146-113	2175		箱根畑宿群
MOK47387	L146-114	2176		箱根畑宿群
MOK4-7388	L146115	2177		箱根烟宿群
MOK4-7389	L146-116	2184		箱根畑宿群
MOK4-7390	L146-117	2185		箱根畑宿群
MOK4-7391	L146-118	2186		箱根畑宿群
MOK4-7392	L146-119	2187		測定不可
MOK4-7393	L146-120	2188		箱根畑宿群
MOK4-7394	L146-121	2189		箱根畑宿群
MOK4-7395	L146-122	2190		箱根畑宿群
MOK4-7396	L146-123	2191		箱根畑宿群
MOK4-7397	L146-124	2192		箱根畑宿群
иок4-7398	L146-125	2193		箱根畑宿群
MOK4-7399	L146-126	2194		測定不可
лок4-7400	L146-127	2195		箱根畑宿群
лок4-7401	L146-128	2196		箱根畑宿群
ИОК4-7402	L146-129	2197		箱根畑宿群
AOK4-7403	L146-130	2198		推定不可

			判別	引分析				
判別図	第	1 候補産地	1373	11	第2候補産地			
判別群	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率		
HNHJ	HNHJ	6.06	I	HNKI	137.67	0		
測定不可	測定不可			測定不可				
HNHJ	HNHJ	9.1	1	HNKI	56.98	0		
HNHJ	HNHJ	11.15	1	HNKI	133. 51	0		
HNHJ	HNHJ	14.85	1	HNKI	192. 49	0		
HNHJ	HNHJ	3.21	1	HNKI	111.43	0		
HNHJ	HNHJ	4.44	1	HNKI	105, 47	0		
HNHJ	HNHJ	11.63	1	HNKI	85. 2	0		
SWHD	SWHD	18.32	1	SBIY	104.11	0		
HNHJ	HNHJ	1.37	1	HNKI	109.75	0		
HNHJ	HNHJ	5, 55	1	HNKI	103.6	0		
WDKB	WDKB	7.64	0. 9998	WDTK	23, 07	0.0002		
HNHJ	HNHJ	9. 64	1	HNKI	76.62	(
SWHD	SWHD	4. 37	1	SBIY	111.65	C		
測定不可	測定不可	1.07	1	測定不可	111.00			
HNHJ	HNHJ	5.14	1	HNKI	88. 27	C		
測定不可	測定不可	0.11	1	測定不可	00.21	· ·		
HNHJ	HNHJ	3.4	1	HNKI	89.89	0		
測定不可		3.4	1		09.09	- 0		
	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			則定不可				
測定不可	測定不可			則定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			柳定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			測定不可				
HNHJ	HNHJ	9, 85	1	HNKI	149. 48	0		
测定不可	測定不可	_		測定不可				
HNHJ	HNHJ	8.8	1	HNKI	171.89)		
测定不可	测定不可			测定不可				
HNHJ	HNHJ	10.61	I	HNKI	164.36)		
HNHJ	HNHJ	2. 45	1	HNKI	92.05)		
測定不可	测定不可			測定不可				
測定不可	測定不可			测定不可				
HNHJ	HNHJ	3. 93	1	HNKI	101.9)		
HNHJ	HNHJ	6.69	1	HNKI	112. 21	0		
HNHJ	HNHJ	9.62	1	HNKI	156. 12	0		
HNHJ	HNHJ	9. 22	1	HNKI	63.65	0		
HNHJ	HNHJ	8.61	l	HNKI	154.37	0		
HNHJ	HNHJ	1.16	1	HNKI	100.43	0		
HNHJ	HNHJ	4. 63	1	HNKI	100.95	0		
HNHJ	HNHJ	4.56	1	HNKI	109	0		
HNHJ	HNHJ	4.66	1	HNKI	107.84	0		
測定不可	測定不可			則定不可				
HNHJ	HNHJ	8.01	1	HNKI	155. 62	0		
HNHJ	HNHJ	3. 46	1	HNKI	94.72	0		
HNHJ	HNHJ	4.94	1	HNKI	72. 97	0		
HNHJ	HNHJ	10. 56	1	HNRI	166. 44	0		
HNHJ	HNHJ	14. 09	1	HNKI	79. 64	0		
HNHJ	HNHJ	7. 83	1	HNKI	97. 78	0		
測定不可	測定不可	2.40		測定不可	117 04			
HNHJ	HNHJ	5, 48	1	HNKI	117. 64	0		
HNHJ	HNHJ	2.22	1	HNKI	133. 29	0		
HNHJ	HNHJ	8.961	1	HNKI	149.4	- 0		
推定不可	推定不可			推定不可				

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MOK4-7404	L146-131	2199		箱根畑宿群
MOK4-7405	L146-132	2200		推定不可
MOK4-7406	L146-133	2201		箱根畑宿群
MOK4-7407	L146-134	2202		箱根畑宿群
MOK4-7408	L146-135	2203		箱根畑宿群
MOK4-7409	L146-136	2204		箱根畑宿群
MOK4-7410	L146-137	2205		箱根畑宿群
MOK4-7411	L146-138	2206		箱根畑宿群
MOK4-7412	L146-139	2658		測定不可
MOK4-7413	L146-140	4232		諏訪星ヶ台群
MOK4-7414	L146-141	4233	1	諏訪星ヶ台群
MOK4-7415	L146-142	4233	2	諏訪星ヶ台群
MOK4-7416	L146-143	4233	3	諏訪星ヶ台群
MOK4-7417	L146-144	4233	4	諏訪星ヶ台群
MOK4-7418	L146-145	4233	5	諏訪星ヶ台群
MOK4-7419	L146-146	4233	6	諏訪星ヶ台群
MOK4-7420	L146-147	4233	7	諏訪星ヶ台群
MOK4-7421	L146-I48	18195		諏訪星ヶ台群
MOK4-7422	L146-149	18196		諏訪星ヶ台群
MOK4-7423	L146-150	18875		諏訪星ヶ台群
MOK4-7424	L146-151	19360		諏訪星ヶ台群
MOK4-7425	L146-152	19645		神津島恩馳島群
MOK4-7426	L146-153	19646		神津島恩馳島群
MOK4-7427	L146-154	19647		測定不可
MOK4-7428	L146-155	19648		神津島恩馳島群
MOK4-7429	L146-156	19649		神津島恩馳島群
MOK4-7430	L146-157	19650		神津島恩馳島群
MOK4-7431	L146-158	19651		神津島恩馳島群
MOK4-7432	L146-159	19652	\vdash	神津島恩馳島群
MOK4-7433	L146-160	20033	-	箱根畑宿群
MOK5-39	L144-2-180	1026	-	神津島恩馳島群
MOK5-40	L144-2-181	1163		
				諏訪星ヶ台群
MOK5-41	L144-2-182	1488		神津島恩馳島群
MOK5-42	L144-2-183	1489	-	諏訪星ヶ台群
MOK5-43	L144-2-184	1717		箱根畑宿群
MOK5-44	L144-2-185	2988		推定不可
MOK5-45	L144-2-186	3148		諏訪星ヶ台群
MOK5-46	L146-161	459		天城柏峠群
MOK5-47	L146-162	21060		測定不可
MOK5-48	L146-163	21061		測定不可
MOK5-49	L146-164	21102	\vdash	箱根畑宿群
MOK5-50	L146-165	21422		箱根畑宿群
MOK5-51	L146-166	21424		箱根畑宿群
MOK5-52	L146-167	21425		箱根畑宿群
MOK5-53	L146-168	21549		箱根畑宿群
MOK5-54	L146-169	21557		天城柏峠群
MOK5-55	L146-170	21603		箱根畑宿群
MOK5-56	L146-171	21604		神津島恩馳島群
MOK5-57	L146-172	21884		推定不可
MOK5-58	L146-173	21935		天城柏峠群
MOK5-59	L146-174	21936		箱根畑宿群
MOK5-60	L146-175	21937		箱根畑宿群
MOK5-61	L146-176	21938		蓼科冷山群
MOK5-62	L146-177	21939		箱根畑宿群
MOK5-63	L146-178	21940		推定不可
MOK5-64	L146-179	21941		推定不可
MOK5-65	L146-180	21942		箱根畑宿群
MOK5-66	L146-181	21943		箱根畑宿群

			判別	分析		
判別図	第	候補産地		第	2 候補産地	
+1000P+	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
HNHJ	HNHJ	3.85	1	HNKI	80.6	0
推定不可	推定不可			推定不可		
HNHJ	HNHJ	8. 29	1	HNKI	124.91	0
HNHJ	HNHJ	6.64	1	HNKI	127.96	0
HNHJ	HNHJ	23.61	1	HNKI	221.4	0
HNHJ	HNHJ	14.04	1	HNKI	85. 54	0
HNHJ	HNHJ	12. 1	1	HNKI	85. 67	0
HNHJ	HNHJ	6	1	HNKI	117.79	0
測定不可	測定不可			测定不可		
SWHD	SWHD	2. 46	1	SBIY	72.75	0
SWHD	SWHD	3.94	1	WDTN	117.02	0
SWHD	SWHD	11.94	1	SBIY	88, 02	0
SWHD	SWHD	11.38	1	SBIY	66. 15	0
SWHD	SWHD	4.13	1	SBIY	77.6	0
SWHD	SWHD	11.32	1	SBIY	115. 94	0
SWHD	SWHD	22.31	0.9993	SBIY	33.4	0,0007
		16.38	0.9993			
SWHD	SWHD			SBIY	83. 59)
SWHD	SWHD	11.27	1		115.66	0
SWHD	SWHD	8.39	1	WDTN	131.8	0
SWHD	SWHD	3.52	1	SBIY	95.85	D
SWHD	SWHD	12.39	1	WDTN	91.2	D
KZOB	KZOB	18. 56	1	KZSN	67.77	D
KZOB	KZOB	13.6	1	KZSN	46.47	D
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	11.23	1	KZSN	47.14	0
KZOB	KZOB	15.79	1	KZSN	87.33	0
KZOB	KZOB	8.44	1	KZSN	37.05	0
KZOB	KZOB	3.4	1	KZSN	48. 18	0
KZOB	KZOB	2.6	1	KZSN	48.87	0
HNHJ	HNHJ	2.77	1	HNKI	134. 73	0
KZOB	KZOB	2.19	1	KZSN	66.11	0
SWHD	SWHD	7.3	1	SBIY	106.92	0
KZOB	KZOB	4.11	1	KZSN	66.86	0
SWHD	SWHD	10. 13	1	SBIY	73.07	0
HNHJ	HNHJ	4. 03	1	HNKI	127.16	0
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	10.61	1	SBIY	114.12	0
AGKT	AGKT	6.06	1	HNKT	93.78	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
HNHJ	HNHJ	26.71	1	HNKI	225, 61	0
HNHJ	HNHJ	5. 39	1	HNKI	82.83	0
HNHJ	HNHJ	6. 03	1	HNKI	137.66	0
HNHJ	HNHJ	2. 62	1	HNKI	95. 98	0
			-		81.54	0
HNHJ	HNHJ	2.6	1	HNKI		0
AGKT	AGKT	6.8		HNKT	164. 57	-
HNHJ	HNHJ	4. 36	1	HNKI	94.39	0
KZOB	KZOB	7.73	1	KZSN	29.44	0
推定不可	推定不可			推定不可	107	
AGKT	AGKT	5. 05	1	HNKT	101.49	0
HNHJ	HNHJ	8. 05	1	HNKI	153. 66	0
HNHJ	HNHJ	3. 47	I	HNKI	139. 15	0
TSTY	TSTY	9.06	1	TSHG	30.07	0
HNHJ	HNHJ	2.89	1	HNKI	110.61	0
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
HNHJ	HNHJ	9. 24	1	HNKI	167.15	0
HNHJ	HNHJ	6.54	1	HNKI	110.03	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	枝番号	推定產地
MOK5-67	L146-182	21944		箱根畑宿群
MOK5-68	L146-183	21945		箱根畑宿群
MOK5-69	L146-184	21987		箱根畑宿群
MOK5-70	L146-185	22249		蓼科冷山群
MOK5-71	L146-186	22250		箱根畑宿群
MOK5-72	L146-187	22252		箱根畑宿群
MOK5-73	L146-188	22292		箱根畑宿群
MOK5-74	L146-189	22470		蓼科冷山群
MOK5-75	L146-190	22471		箱根畑宿群
MOK5-76	L146-191	表採225		天城柏峠群
MOK5-77	L146-192	表採247		諏訪星ヶ台群
MOK5-78	L148-1	1120		神津島恩馳島群
MOK5-79	L150-8	2836		諏訪星ヶ台群
MOK5-80	L150-9	2841		諏訪星ヶ台群
MOK5-81	L150-10	2846		諏訪星ヶ台群

			判別	分析	f		, M. C.	
判別図判別群	第	1 候補産地			第	2 候補產地		
130354	判別群	距離	確率		判別群	距離	確率	
HNHJ	HNHJ	8. 62	1		HNKI	73.49	C	
HNHJ	HNHJ	5. 47	1		HNKI	81. 1	C	
HNHJ	HNHJ	9.64	1		HNKI	127. 12	0	
TSTY	TSTY	6.02	1		TSHG	23.74	0	
HNHJ	HNHJ	9. 12	1		HNKI	97.51	0	
HNHJ	HNHJ	9. 45	1		HNKI	161.42	0	
HNHJ	HNHJ	7.66	1		HNKI	65. 26	0	
TSTY	TSTY	6.53	I		TSHG	29. 79	0	
HNHJ	HNHJ	14.43	1		HNKI	164. 13	0	
AGKT	AGKT	7.16	1		HNKT	112.9	0	
SWHD	SWHD	6.42	1		SBIY	95. 6	0	
KZOB	KZOB	3.8	1		KZSN	42.6	0	
SWHD	SWHD	6.04	1		SBIY	102. 03	0	
SWHD	SWHD	12. 05	1		SBIY	126. 73	0	
SWHD	SWHD	14. 75	1		SBIY	134. 87	0	

IAA:加速器分析研究所

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用しています。
- 2) BP 年代値は、1950 年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。 複数回(通常は4回)の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の 統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を 用いています。
- 4) δ ¹³C の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS 測定の場合に同時に測定される δ ¹³C の値を用いることもあります。 δ ¹³C 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表したものです。

$$\delta^{14}C = \left[(^{14}A_S - ^{14}A_R) / ^{14}A_R \right] \times 1000$$
 (1)
$$\delta^{13}C = \left[(^{13}A_S - ^{13}A_{PDB}) / ^{13}A_{PDB} \right] \times 1000$$
 (2)

ここで、 ¹⁴As: 試料炭素の ¹⁴C 濃度: (¹⁴C/¹²C)s または(¹⁴C/¹³C)s ¹⁴AR: 標準現代炭素の ¹⁴C 濃度: (¹⁴C/¹²C)_R または(¹⁴C/¹³C)_R

 δ ¹³C は、質量分析計を用いて試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³A_S = ¹³C/¹²C) を測定し、PDB (白 亜紀のベレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算します。 但し、IAA では加速器により測定中に同時に ¹³C/¹²C も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した δ ¹³C を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また、 Δ ¹⁴C は、試料炭素が δ ¹³C = -25.0 (%) であるとしたときの ¹⁴C 濃度(¹⁴A_N)に換算した上で計算した値です。(1)式の ¹⁴C 濃度を、 δ ¹³C の測定値をもとに次式のように換算します。

 $^{14}A_{N} = ^{14}A_{S} \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^{2}$ ($^{14}A_{S}$ として $^{14}C/^{12}C$ を使用するとき) または $= ^{14}A_{S} \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))$ ($^{14}A_{S}$ として $^{14}C/^{13}C$ を使用するとき)

 $\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - ^{14}A_R) / ^{14}A_R] \times 1000$ (%)

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない δ ¹⁴C に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

 14 C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)がよく使われており、 Δ 14 C との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000$$
 (%)
 $pMC = \Delta^{14}C/10 + 100$ (%)

国際的な取り決めにより、この Δ ¹⁴C あるいは pMC により、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age; yrBP)が次のように計算されます。

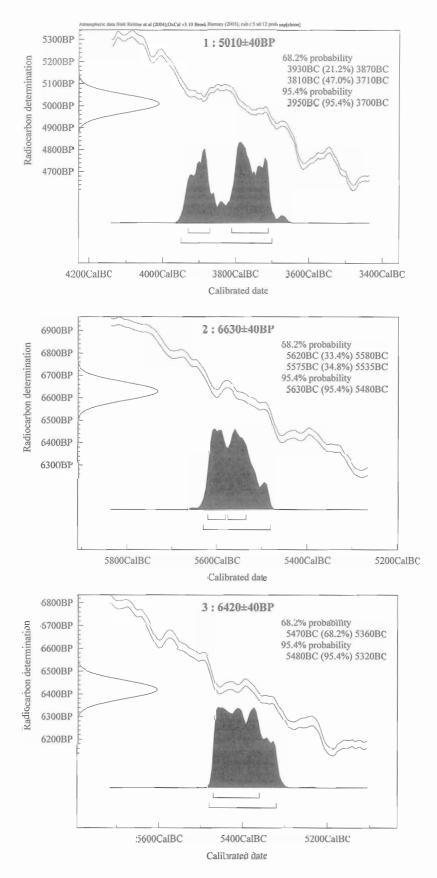
 $T = -8033 \times \ln \left[(\Delta^{14}C/1000) + 1 \right]$ = -8033 × ln (pMC/100)

IAA

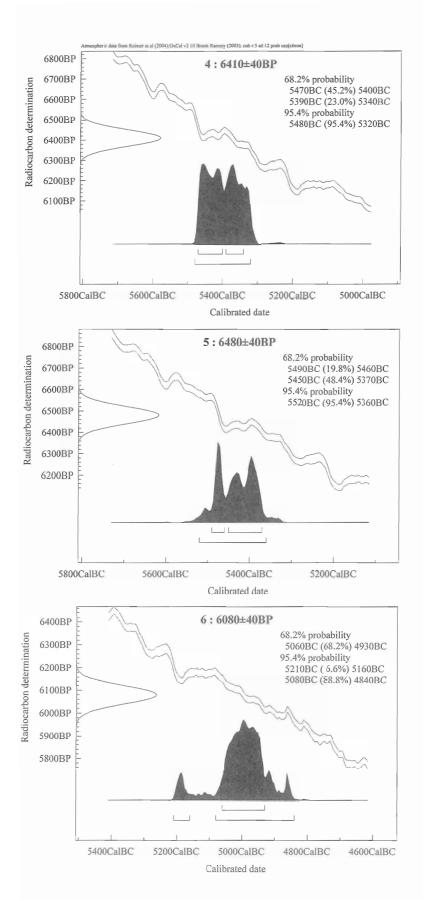
IAA Code No.	試	料	BP年代および炭素		位体比	
		: 第二東名 NO.146 地点遺跡				40
IAAA-51042	四个环以 物 门		Libby Age (yrBP)		5,010 ±	40
	SAMOL TO SAK	(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)		-27.20 ±	
	試料形態:		Δ ¹⁴ C (%)		-463.9 ±	2.6
	試料名(番号)	: 1	pMC(%)		53.61 ±	
	(15 de)	0.12 co - 1-th	δ ¹⁴ C (%)		-466.3 ±	2.4
	(参考)	δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	=	53.37 ±	
#1087-1			Age (yrBP)	:		40
IAAA-51643	試料採取場所	: 第二東名 NO.146 地点遺跡		:		40
		(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)		-25.47 ±	0.78
	試料形態 :	木炭(12号竪穴住居跡床面直上)	Δ ¹⁴ C (‰)	==	-561.8 ±	2.2
	試料名(番号)	: 2	pMC(%)	=	43.82 ±	0.22
			δ 14C (‰)	=	$-562.3 \pm$	2.1
	(参考)	δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	=	$43.77 \pm$	0.21
#1087-2			Age (yrBP)	:	6,640 ±	40
IAAA-51644	試料採取場所	: 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	$6,420 \pm$	40
		(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)	=	$-24.80 \pm$	0.78
	試料形態 :	木炭(15号竪穴住居跡炉覆土)	Δ 14C (%)	=	$^{-550.5}\pm$	2.3
	試料名(番号)	: 3	pMC(%)	=	44.95 ±	0.23
			δ ¹⁴ C (‰)		-550.3 ±	2.2
	(参考)	δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	-	44.97 ±	0.22
#1087-3			Age (yrBP)	:	6,420 ±	40
IAAA-51645	試料採取場所	: 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	6,410 ±	40
		(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)	=	-32.57 ±	0.82
	試料形態 :	木炭(2号竪穴住居跡炉覆土)	Δ ¹⁴ C (‰)		-549.6 ±	2.1
	試料名(番号)	: 4:	pMC(%)		45.04 ±	0.21
			δ 14C (%)	Manager	-556.5±	1.9
	(参考)	δ ¹³ C の補正無し	pMC (%)	=	44.35 ±	0.19
#1087-4			Age (yrBP)	:	6,530 ±	30
IAAA-51646	試料採取場所	: 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	6,480 ±	40
		(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)	Management	-29.77 ±	0.86
	試料形態 :	木炭(8号竪穴住居跡床面直上)	Δ ¹⁴ C (% ₀)		-553.8 ±	2.2
	試料名(番号)		pMC(%)	_		
	e all HVH V		δ ¹⁴ C (%)		-558.2 ±	
	(参考)	δ ¹³ C の補正無し	pMC (%)	=		
#1087-5		0 0 3 1111 112/1110	 Age (yrBP)	:		
111001 0	,I		kigo (hini)		0,000 _	10

IAA

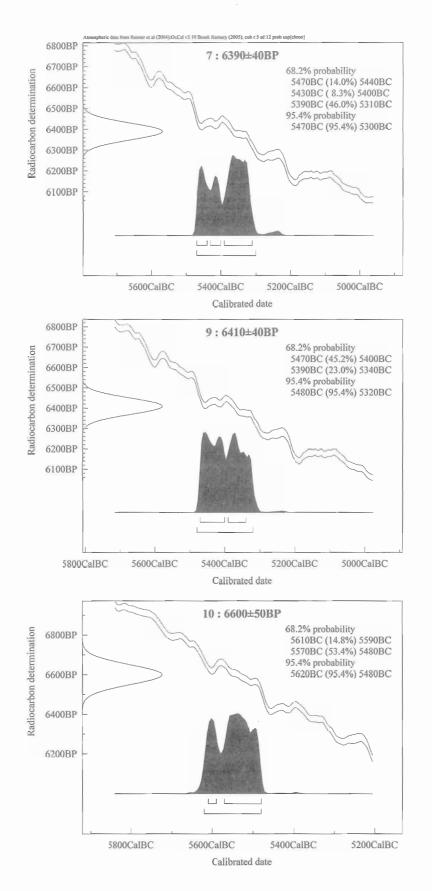
IAAA-51647	試料採取場所 : 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age(yrBP)	:	6,080 ±	40
	(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)		-33.30 ±	0.90
	試料形態 : 木炭 (19号集石)	Δ ¹⁴ C (‰)	=	-530.7 ±	2.0
	試料名(番号):6	pMC(%)	=	46.93 ±	0.20
		δ 14C (‰)	=	-538.7 ±	1.8
	(参考) δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	=	46.13 ±	0.18
#1087-6		Age (yrBP)	:	6,210 ±	30
IAAA-51648	試料採取場所 : 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	6,390 ±	40
	(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)	_	-26.40 ±	0.90
	試料形態 : 木炭 (22号集石)	Δ ¹⁴ C (‰)	=	-548.5 ±	2.1
	試料名(番号):7	pMC(%)	=	45.15 ±	0.21
		δ ¹⁴ C (‰)		-549.8 ±	1.9
	(参考) δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	_	45.02 ±	0.19
#1087-7		Age (yrBP)	:	6,410 ±	30
IAAA-51650	試料採取場所 : 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	6,410 ±	40
	(裾野市大畑)	δ ¹³ C (‰)、(加速器)	===	$-30.51 \pm$	0.92
	試料形態 : 炭化物 (第189図485 石山式土器付着)	Δ ¹⁴ C (‰)	*******	-549.8 ±	2.3
	試料名(番号) : 9	pMC(%)		45.02 ±	0.23
		δ ¹⁴ C (‰)	=	-554.9 ±	2.1
	(参考) δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)	=	44.51 ±	0.21
#1087-9		Age (yrBP)	;	6,500 ±	40
IAAA-51651	試料採取場所 : 第二東名 NO.146 地点遺跡	Libby Age (yrBP)	:	6,600 ±	50
	(裾野市大畑)	δ ¹³ C(‰)、(加速器)	=	$-27.43 \pm$	1.08
	試料形態 : 炭化物 (第172図228 打越式土器付着)	Δ ¹⁴ C (‰)		-560.3 ±	2.6
	試料名(番号) : 10	pMC(%)	=	43.97 ±	0.26
		δ ¹⁴ C (‰)	=	-562.5 ±	2.4
	(参考) δ ¹³ C の補正無し	pMC(%)		43.75 ±	0.24
#1087-10		Age (yrBP)	:	6,640 ±	40



【参考值:曆年補正 Radiocarbon determination】 使プログラム: OxCal v3.10



【参考值:曆年補正 Radiocarbon determination】베フロクラム;0xCal v8.10



【参考値:暦年補正 Radiocarbon determination】使用プログラム:0xCal v3.10

下ノ大窪遺跡(第二東名No.146地点) 出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、縄文時代前期(1点)・早期(7点)と旧石器時代(5点)の遺構から出土した炭化材(合計12点)の樹種同定結果を報告する。縄文時代の炭化材は、土器埋納土坑や住居跡から出土した炭化材である。これらの炭化材は小さな破片であるが、出土遺構との関係から燃料材や建築材であった可能性が高く、当時の当遺跡における樹種利用を知る資料となる。また、旧石器時代の礫群や炭化物集中地点から出土した炭化材は、人為的炭化なのか、山火事に伴う炭化なのか、いまだ成因は不明であり、その解明のためにも樹種調査は基礎的資料蓄積として重要と考えられている。

2. 試料と方法

同定は、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子㈱製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所に保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を表1に示し、表2では時代・遺構ごとに検出樹種を配列した。

旧石器時代

BB0の石器集中地点(ブロック15)から出土した炭化材は、厚み1mmで5mm角ほどの薄い破片で、 樹皮と思われるが、小破片で保存も悪いため断定はできないものであった。

BBIの礫群(64号)からはモクレン属、BBIIの礫群 2 基(2 号・3 号)はそれぞれからサワフタギ節が検出され、BBIIIの炭化物集中地点からはイヌシデ節が検出された。

縄文時代

早期の集石土坑2基からはシキミが共通して検出され、22号からはシキミのほかにアカガシ亜属が検出された。早期末の住居跡2軒における炉覆土出土の2点は、シキミとクスノキ科である。早期末の別の住居跡2軒における床直上出土の2点は、カヤとクリである。

前期の諸磯式土器埋納土坑の覆土から出土した1点は、節部の材で材組織がうねり保存も悪く一部の 管孔配列から、ブナ科のクリ・コナラ節・シイノキ属のいずれかの可能性が高いと思われる。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) カヤ Torreya nucifera Sieb. et Zucc. イチイ科 図版 1 1a-1c (分析番号 8) 仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞をもたない針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかである。

仮道管にらせん肥厚があり、分野壁孔は小さなヒノキ型が主に2個ある。

カヤは本州の宮城県以南・四国・九州の暖帯から温帯下部の山地に生育する常緑高木で、種子は食用となり、油も取れる。材は水湿に強く加工しやすい。

(2) クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版 I 2 a-2 c (分析番号12)

放射組織が集合する部分と2~数個の小型の管孔が放射方向に複合して配列する部分とがある散孔材。 道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織はほぼ同性、1~5細胞幅、大型結晶を含 み、道管との壁孔はやや大きく交互状である。

クマシデ属イヌシデ節は暖帯および温帯の山地に生育する落葉高木または大形低木である。山野に普通のイヌシデとアカシデ、乾いた山稜に生育するイワシデがあるが、材組織から種類は特定できない。

(3) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版 1 3a-3c(分析番号10)

集合放射組織を挟み小型~中型の単独管孔が放射方向に配列する放射孔材。接線状の柔組織が顕著である。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織はほぼ同性、単列のものと広放射組織があり、道管との壁孔は孔口が大きく、柵状・交互状である。

アカガシ亜属は主に常緑性の落葉高木となるいわゆるカシ類で、おもに暖温帯に分布する。山野に普通なアラカシ・アカガシ・シラカシ、関東以南に多いイチイガシ・ツクバネガシ、海岸や乾燥地に多いウバメガシ、寒さに強くプナ帯の下部まで分布するウラジロガシなどがある。材は丈夫で弾性や耐湿性がある。

(4) クリ Castanea-crenata Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 3a-3c (分析番号5)

年輪の始めに中型の管孔が1層配列し、急に径を減じて晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく柵状・交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材 は耐朽性にすぐれている。

(5) ブナ科 Fagaceae 図版2 5a・5b(分析番号1)

保存が悪い上に、節部の材で材組織がうねり管孔配列は不明瞭であるが、単独分布する小型~中型の 管孔と、非常に小型の管孔が火炎状に分布している部分が見られた。放射組織は単列、管孔は単穿孔で ある。このような形質から、クリ、コナラ節、シイノキ属の可能性が考えられるが、特定はできないの で、これらが属するブナ科と同定しておく。

(6) 樹皮? Bark? 図版2 6 (分析番号2)

厚み 1 mm、5 mm角ほどの薄い破片であった。二次木部の材構造は見られず、薄壁の柔細胞から構成されていたので、樹皮ではないかと思われる。針葉樹の樹皮か広葉樹の樹皮であるかの判断もできていない。

(7) モクレン属 Magnolia モクレン属 図版2 7a-7c (分析番号11)

小型の管孔が単独または2~数個が複合して分布する散孔材。道管の壁孔は階段状、穿孔は主に単穿孔である。放射組織は異性、1~2細胞幅、上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きく階段状または対列状~交互状である。

モクレン属は暖帯または温帯に分布する落葉性の高木または小高木である。北海道以南の山地に生育するホオノキ・コブシ、本州と九州に生育するタムシバ、関東北部以西に生育するオオヤマレンゲ、中部地方西南部に生育するシデコブシがある。

(8) シキミ Illicium anisatum L. シキミ科 図版3 8a-8c (分析番号9)

非常に小型の管孔が多数散在し、年輪始めの管孔はやや縦長で大きくて接線状に密に1層並ぶ散孔材。 道管の壁孔はまばらで交互状に配列する部分と階段状に配列する部分があり、穿孔は横棒数が30本前後 の階段穿孔である。放射組織は異性、1~3細胞幅、接線断面で直立細胞は非常に背が高いレンズ状で ある。放射柔細胞の細胞壁は厚く放射断面で数珠状に肥厚しているのが観察される。木繊維にらせん肥 厚がある。放射柔細胞は大きめである。

シキミは本州の宮城県・石川県以西の暖帯の山地に生育する常緑の小高木である。果実はアニサチン を含み有毒で、葉に油点があり香気がある。

(9) クスノキ科 Lauraceae 図版3 9a-9c (分析番号7)

小型の管孔が主に単独で散在している散孔材。節部のようであり、管孔分布や放射組織はやや粗雑な印象である。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性に近い異性、1~4細胞幅、油細胞と思われるやや大型の細胞が見られる。管孔が大きく、油細胞の出現頻度の高いクスノキ以外の樹種であるがこれ以上は区別できなかった。

(10) サワフタギ節 Symplocos sect. palura ハイノキ科 図版3 10a-10c (分析番号3)

小型の管孔が多くは単独で均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状~階段状、穿孔は横棒数が20本前後の階段穿孔である。放射組織は異性、1~2細胞幅、2細胞幅の部分は平伏細胞からなり、その上下端は方形細胞と直立細胞が単列でのびるが、単列部と2細胞幅の幅は同じで直線的な放射組織である。

サワフタギ節は暖帯から温帯の山地や谷間に生育する落葉または常緑の低木または高木である。北海 道から九州に分布するサワフタギ、関東以西のタンナサワフタギ、中部以西のクロミノニシゴリがある。

4. まとめ

旧石器時代の炭化材は、BB0の1点は樹皮?であり、BBIとBBIIの4点からはモクレン属・サワフタギ節・イヌシデ節が検出された。この3分類群は落葉広葉樹材であった。BB(ブラックバンド)は、古土壌が形成された時期であり、その前後層の時期に比べBBはやや温暖期であったと考えられることからも、モクレン属・サワフタギ節・イヌシデ節の落葉広葉樹が生育していたのであろう。

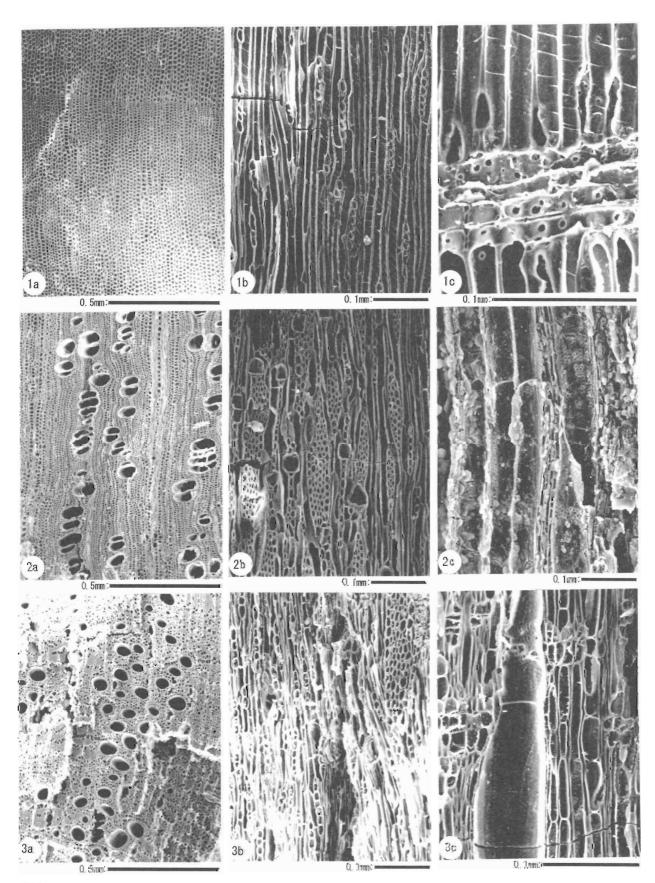
一方、縄文時代早期の集石土坑・炉覆土からは、常緑広葉樹のシキミ・クスノキ科・アカガシ亜属が検出されたことから、後氷期に入り旧石器時代より温暖化が進行して、常緑広葉樹が生育していたことが判った。集石土坑や炉覆土から出土した炭化材は、燃料材として利用された樹木と考えられる。燃料材は、生活域の近辺から入手すると考えられるので、当時の周辺には常緑広葉樹が普通に生育分布していたと考えられる。当遺跡は、愛鷹山東南麓(静岡県裾野市)の標高約250mの痩せ尾根上に立地していることからも、関東地方内陸部より早くに常緑広葉樹が分布拡大し、当時の人々はすでに常緑広葉樹を利用していたことが判った。床面直上から出土した炭化材2点は、建築材の可能性があり、樹種は落葉広葉樹のクリと針葉樹のカヤであった。燃料材と建築材では、樹種選択性が異なるようであった。

表 1 下ノ大窪遺跡 (第二東名No.146地点) 出土炭化材樹種同定結果

分析番号	号 遺物番号 調査区遺構 層位		層位	樹種	時期	備考	
1	1739	7号土坑		ブナ科 (クリ・コナラ節 シイノキ属の可能性あり)	繩文時代前期	諧磯式土器埋納土坑覆土	
2	2095	ブロック15	BB0	樹皮?	旧石器時代	石器集中地点	
3	2207	3号礫群	ВВШ	サワフタギ節	旧石器時代	礫群	
4	2201	2号礫群	ВВШ	サワフタギ節	旧石器時代	礫群	
5	20637	12号竪穴住居跡		クリ	縄文時代早期末	床面直上	
6	20918	15号竪穴住居跡内炉		シキミ	繩文時代早期末:	炉覆土	
7	20991	2号竪穴住居跡内炉		クスノキ科	縄文時代早期末	炉覆土	
8	21081	8号竪穴住居跡内炉		カヤ	縄文時代早期末	床面直上	
9	21355	19号集石		シキミ	縄文時代早期	集石土坑覆土	
10	00007	00日報7		アカガシ亜属	縄文時代早期	## T 1. ## WE I	
10	22237	22号集石		シキミ	縄文時代早期	- 集石土坑覆土	
11	23553	64号礫群	BB I	モクレン属	旧石器時代	礫群	
12	23612	炭化物集中2	ВВШ	イヌシデ節	旧石器時代	炭化物集中地点	

表2 下ノ大窪遺跡 (第二東名No.146地点) 出土炭化材の時期・遺構ごとの検出樹種比較

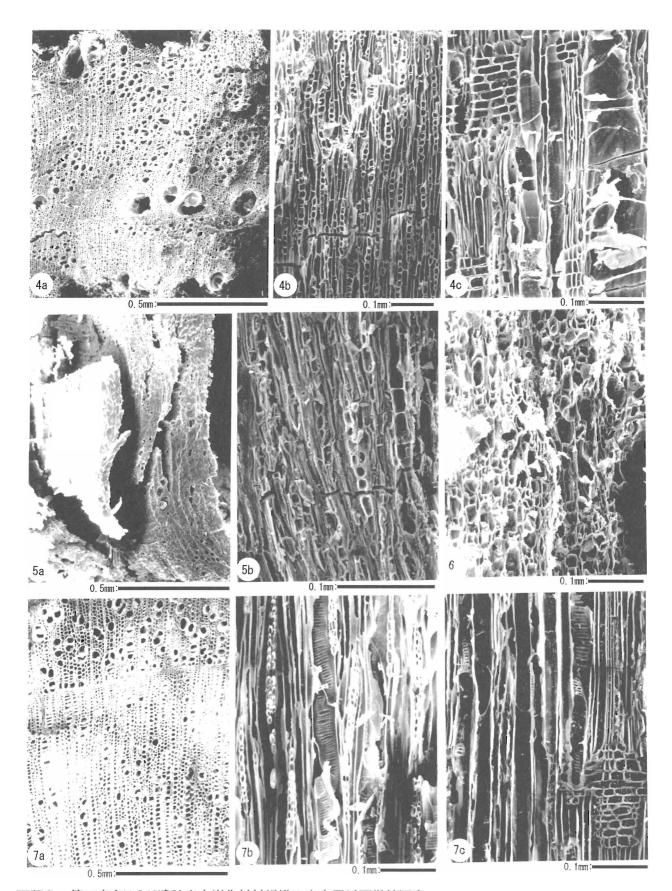
	時期•層位		1	日石器時代	t d		縄文時代						
	时别"/高江	BBIII	BBIII	BBIII	BB I	BB 0	투	期		早期	明末		前期
	遺構	礫群	礫群	炭化物集中	礫群	ブロック	集石	土坑		全居跡		主居跡 i直上	諸磯式 土器埋 納土坑
	樹種	2号	3 号	2	64号	15	19号	22号	2号	15号	8 号	12号	7号
	樹皮?					1							
	モクレン属				1								
	サワフタギ節	1	1										
落葉 広葉樹	イヌシデ節			1									
MAN IN	クリ											1	
	ブナ科												1
	シキミ						1	1		1			
常緑 広葉樹	クスノキ科								1				
	アカガシ亜属							1					
針葉樹	カヤ										1		



図版 1 第二東名 № 146遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真

1a-1c:カヤ(分析番号 8) 2a-2c:イヌシデ節(分析番号 12) 3a-3c:アカガシ亜属(分析番号 10)

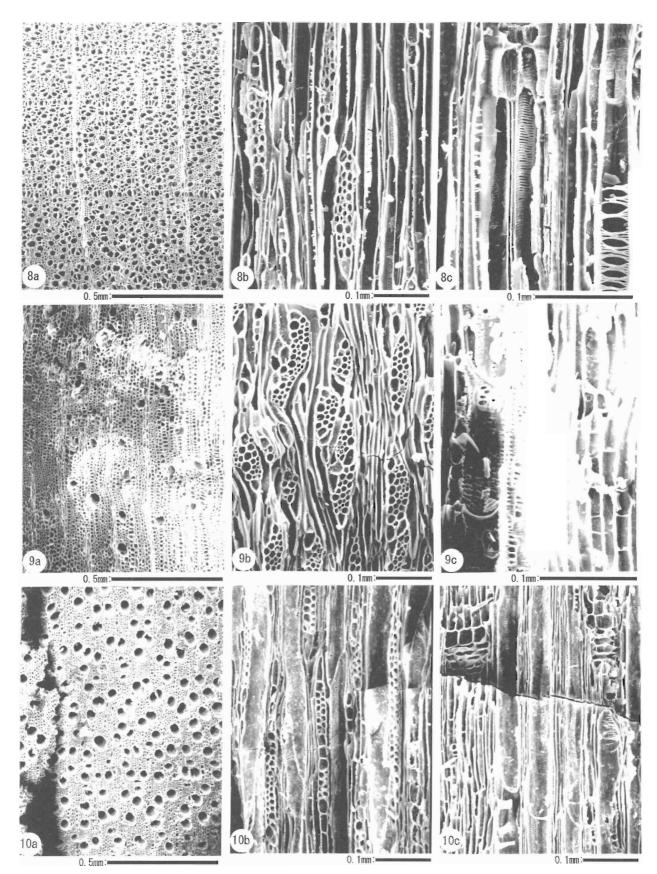
a: 廣斯面 b: 接線斯面 c: 放射跡面



図版2 第二東名No.146遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真

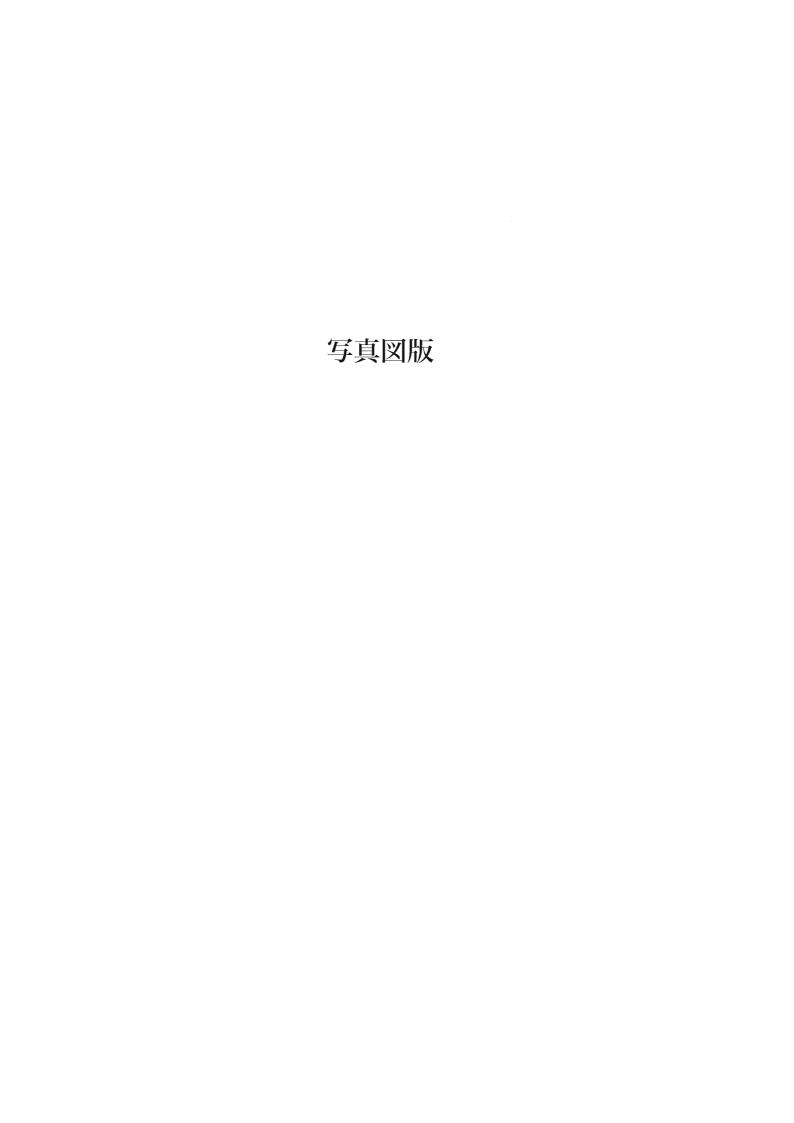
4a-4c:クリ(分析番号5) 5a・5b:ブナ科(分析番号1) 6:樹皮?(分析番号2)

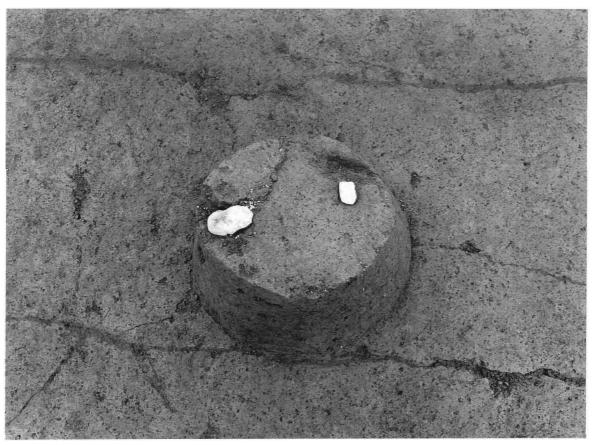
7a-7c:モクレン属(分析番号11) a:横断面 b:接線断面 c:放射断面



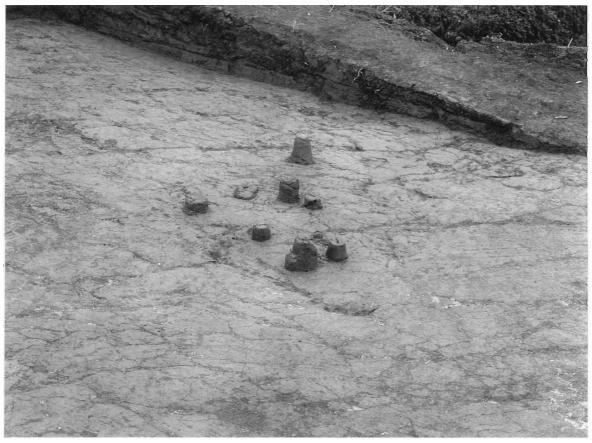
図版3 第二東名No.146遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真

8a-8c:シキミ (分析番号9) 9a-9c:クスノキ科 (分析番号7) 10a-10c:サワフタギ節 (分析番号3) a: 横断面 b:接線断面 c:放射断面





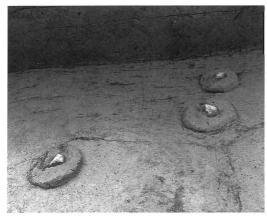
第1文化層 石器検出状況(1)



第1文化層 石器検出状況(2)



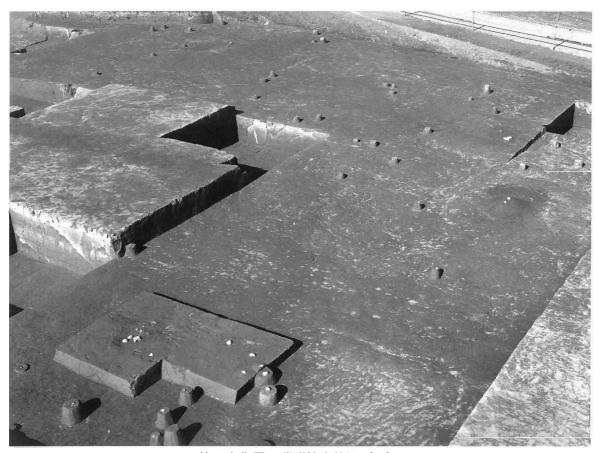
第 I 文化層 石器検出状況 (3)



第1文化層 礫群検出状況(1)



第 I 文化層 礫群検出状況(2)



第Ⅱ文化層 礫群検出状況(1)



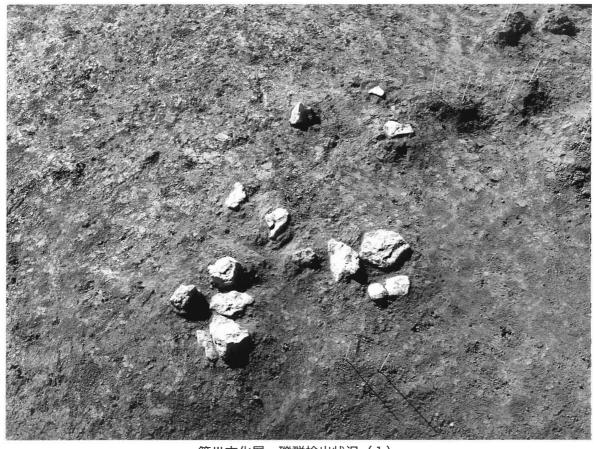
第Ⅱ文化層 礫群検出状況(2)



第Ⅱ文化層 礫群検出状況(3)



第Ⅲ文化層 石器検出状況



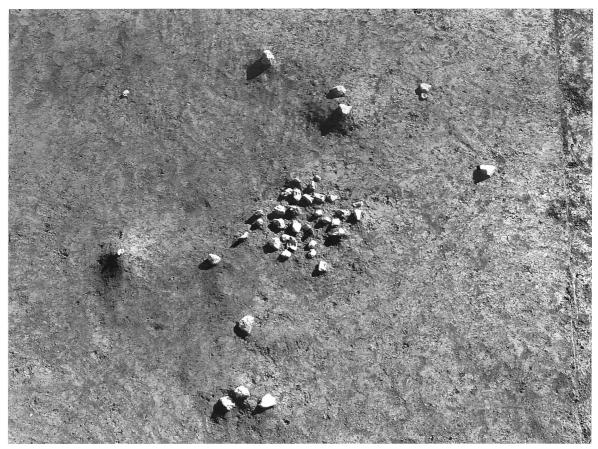
第Ⅲ文化層 礫群検出状況(1)



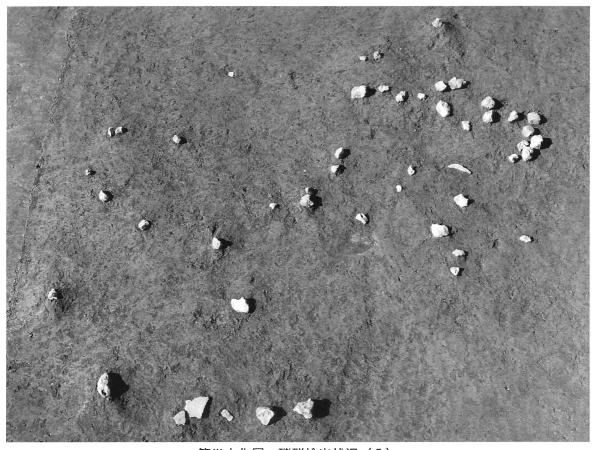
第Ⅲ文化層 礫群検出状況(2)



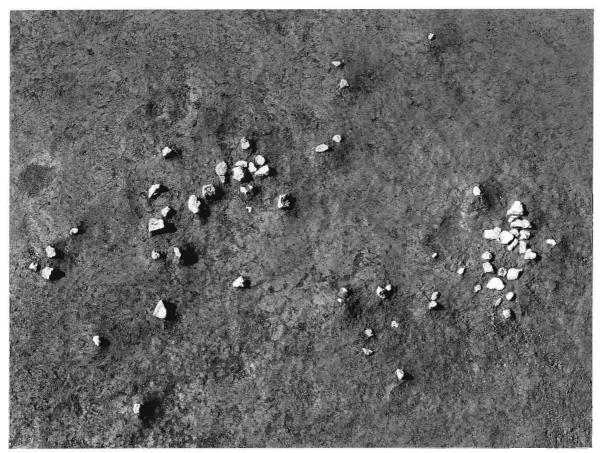
第Ⅲ文化層 礫群検出状況(3)



第Ⅲ文化層 礫群検出状況(4)



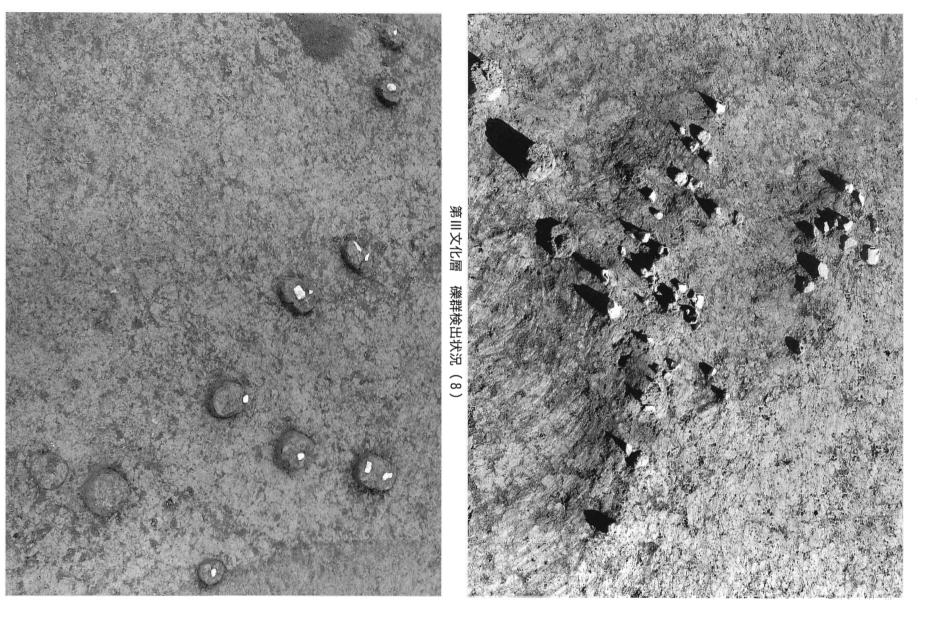
第Ⅲ文化層 礫群検出状況(5)



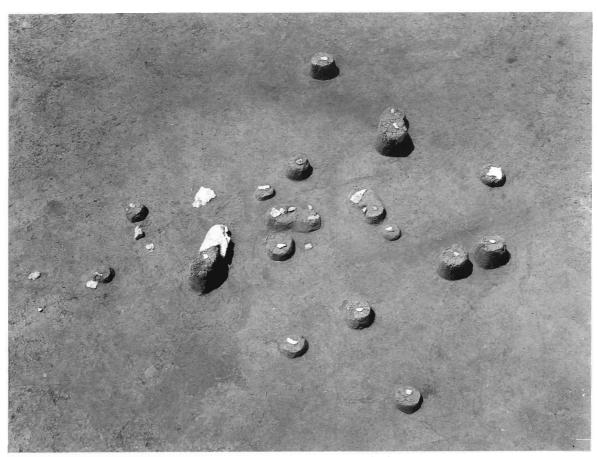
第Ⅲ文化層 礫群検出状況(6)



第Ⅲ文化層 礫群検出状況 (7)



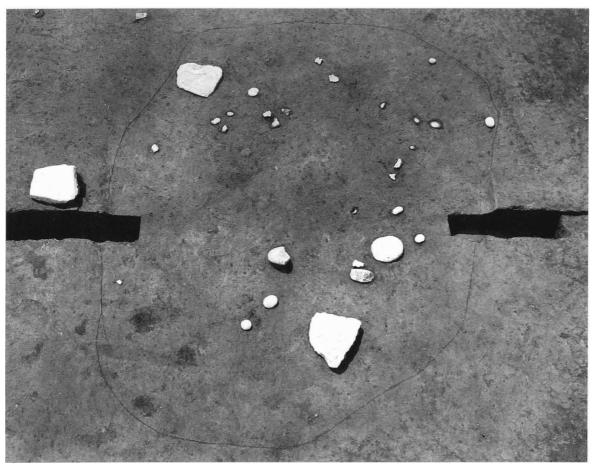
第Ⅲ文化層 礫群検出状況 (9)



第Ⅲ文化層 礫群検出状況 (10)



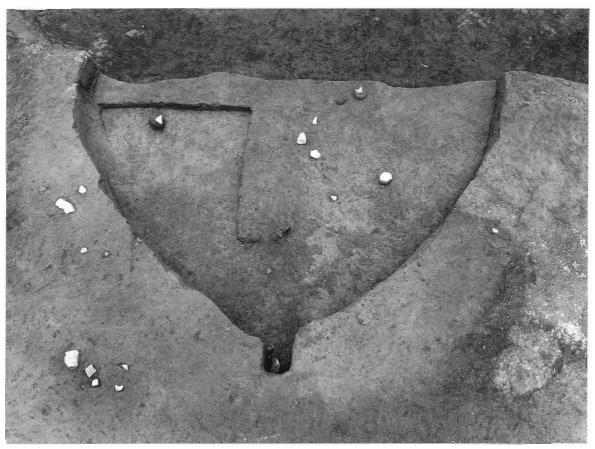
第V文化層 礫群検出状況



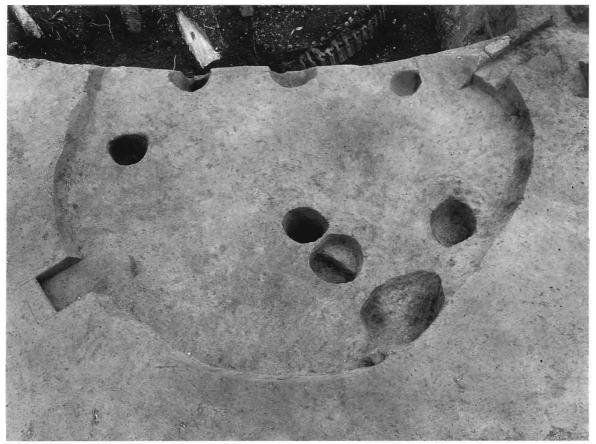
2号竪穴住居跡遺物出土状況



2号竪穴住居跡完掘状況



3 号竪穴住居跡完掘状況



4 号竪穴住居跡完掘状況



6号竪穴住居跡遺物出土状況



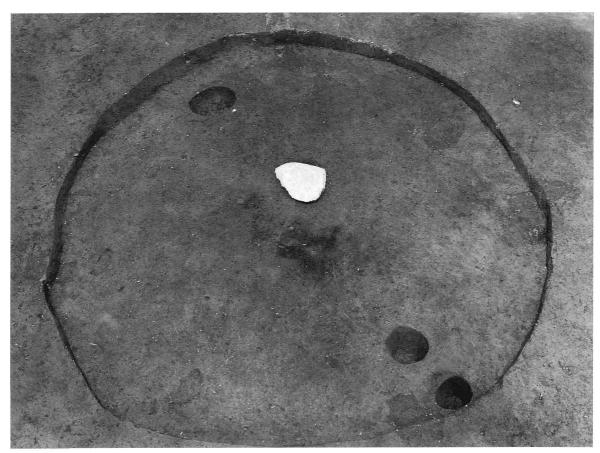
6 号竪穴住居跡完掘状況



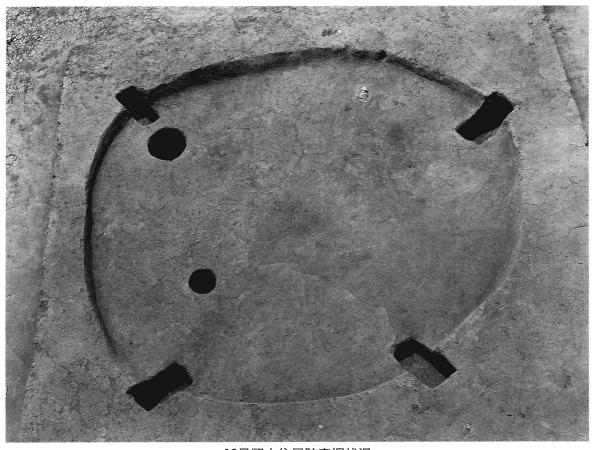
8号竪穴住居跡遺物出土状況



8 号竪穴住居跡完掘状況



10号竪穴住居跡完掘状況



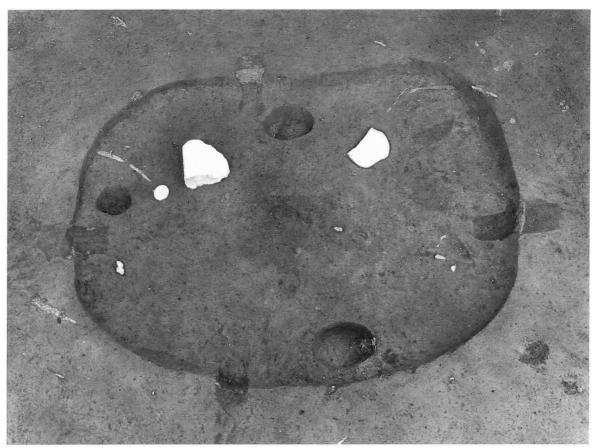
12号竪穴住居跡完掘状況



14号竪穴住居跡遺物出土状況



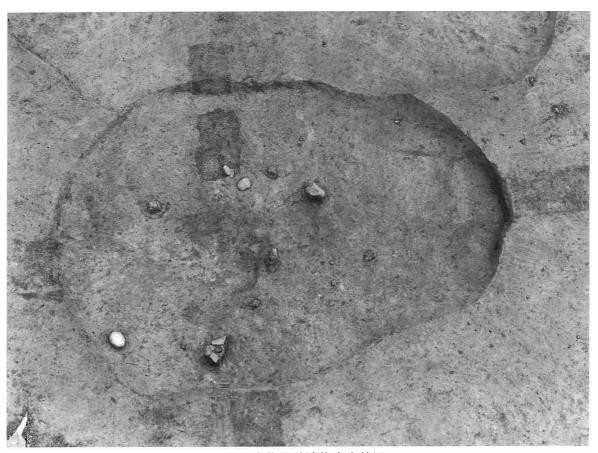
14号竪穴住居跡完掘状況



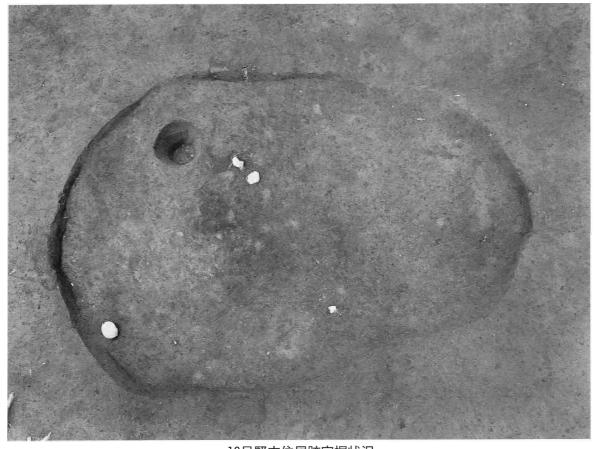
15号竪穴住居跡完掘状況



縄文時代遺構検出状況



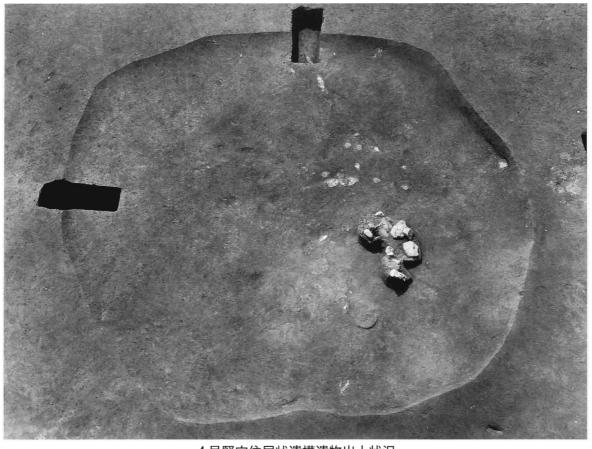
19号竪穴住居跡遺物出土状況



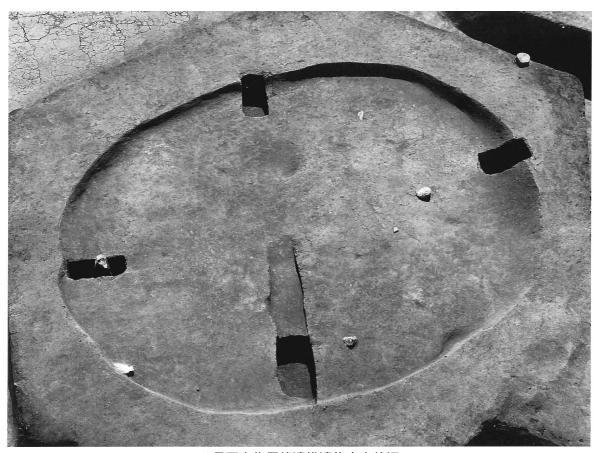
19号竪穴住居跡完掘状況



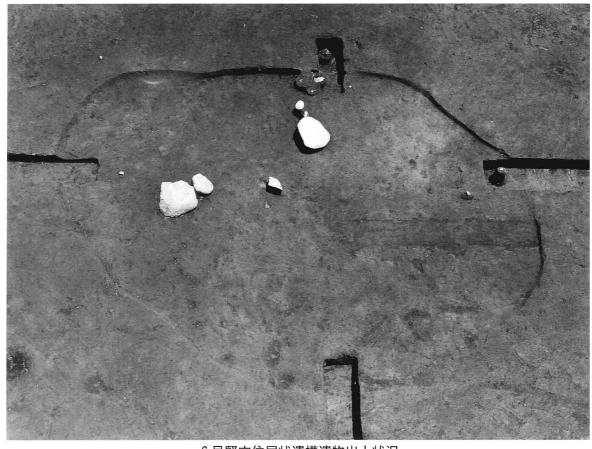
3号竪穴住居状遺構遺物出土状況



4号竪穴住居状遺構遺物出土状況



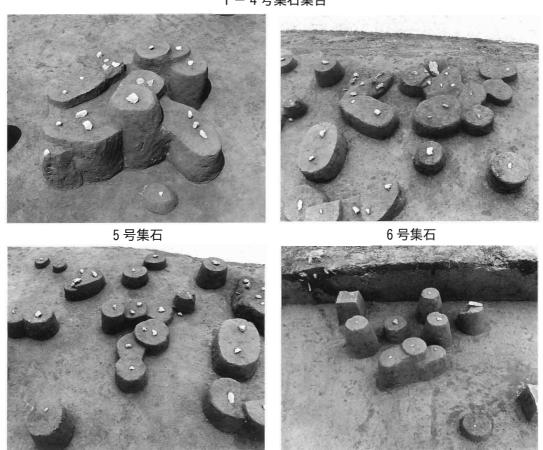
5号竪穴住居状遺構遺物出土状況



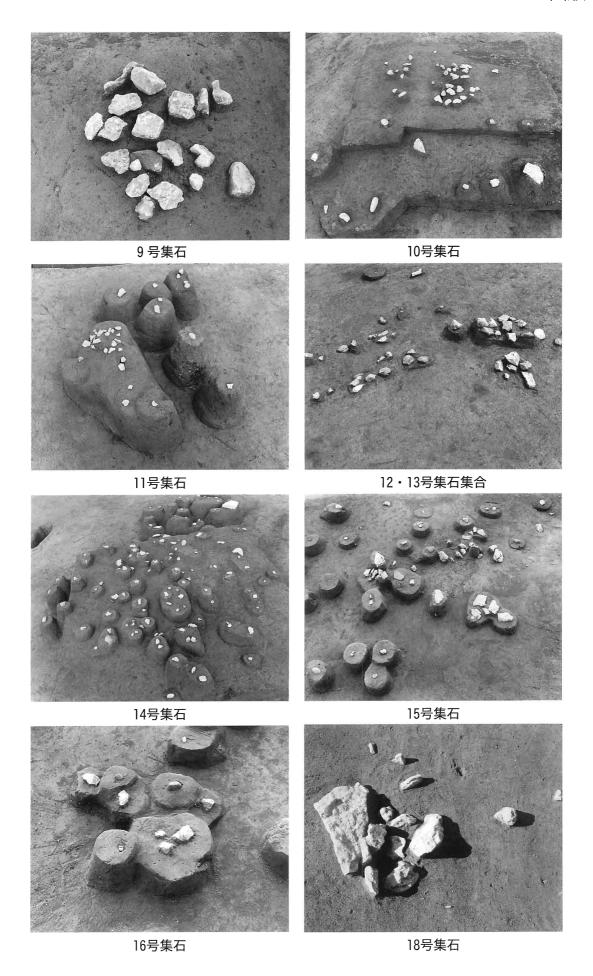
6号竪穴住居状遺構遺物出土状況

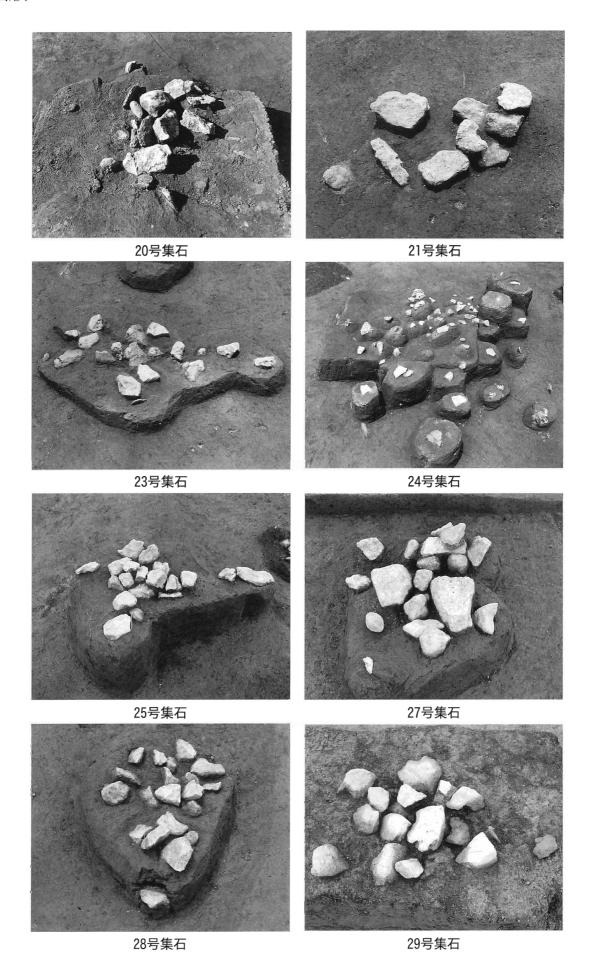


1-4号集石集合



7号集石 8号集石



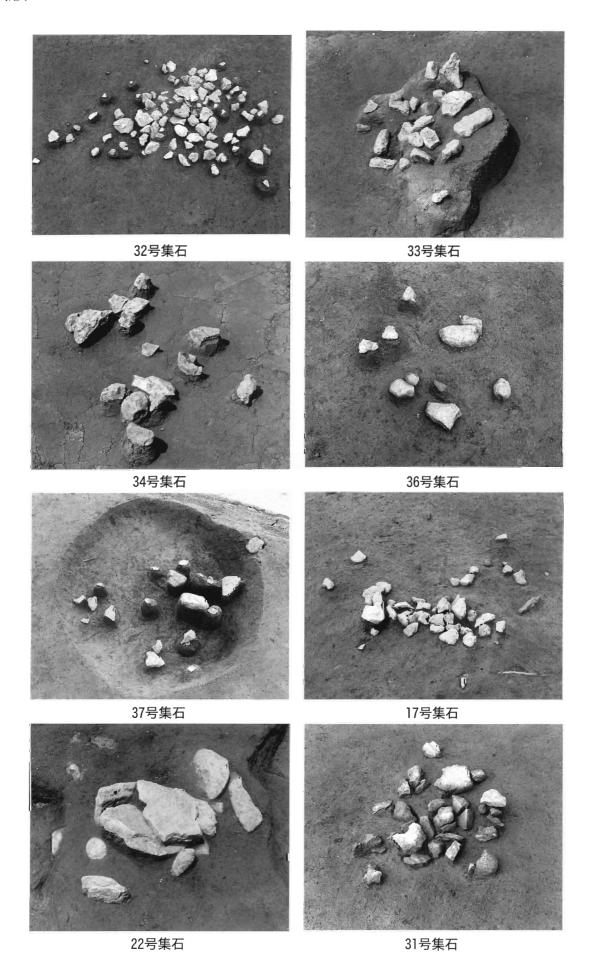


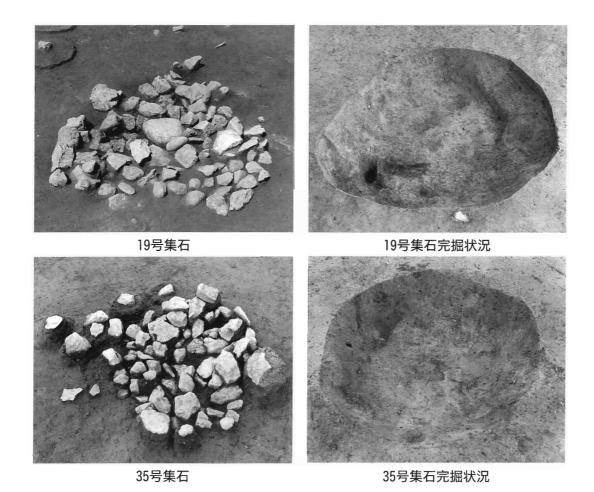


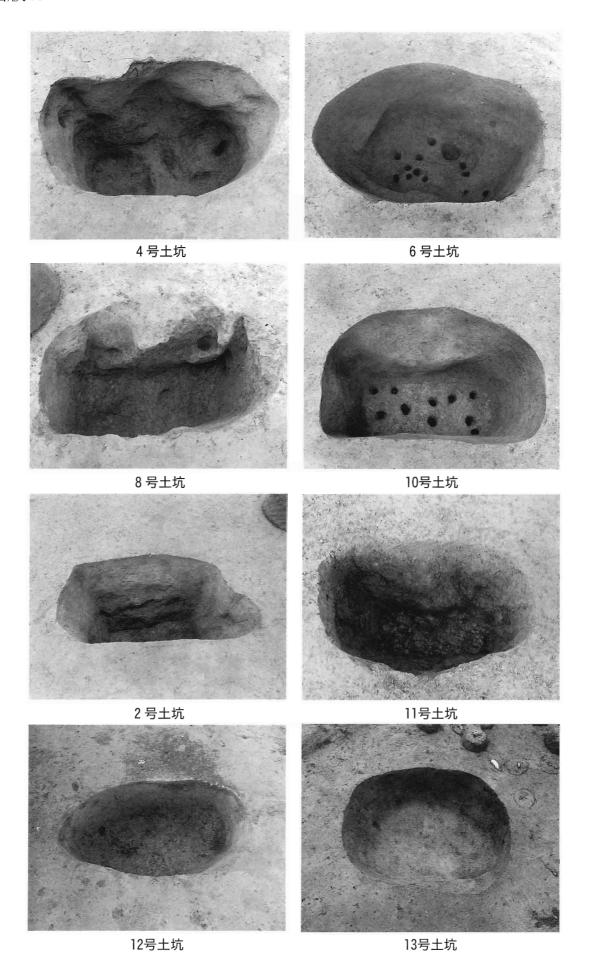
26号集石

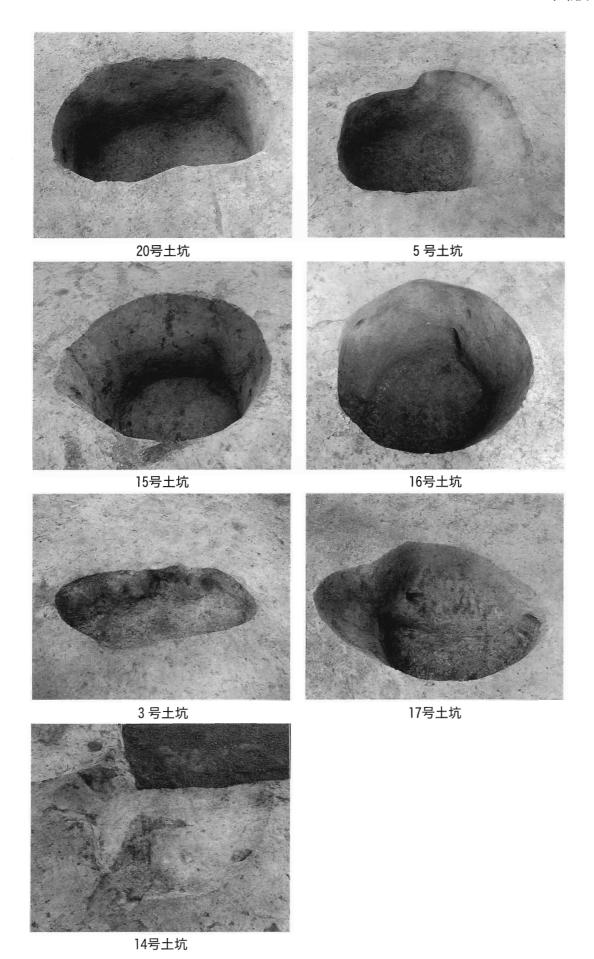


30号集石





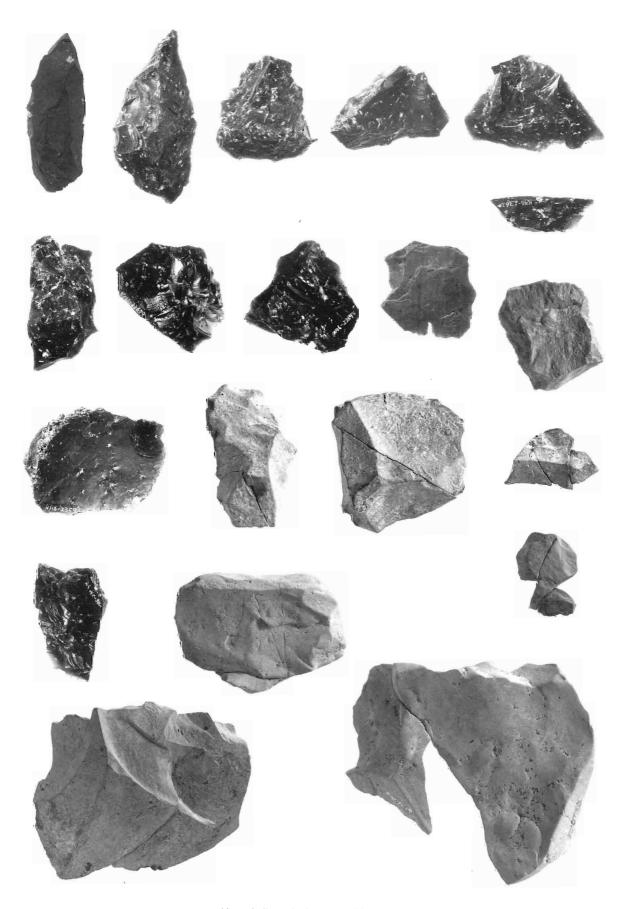




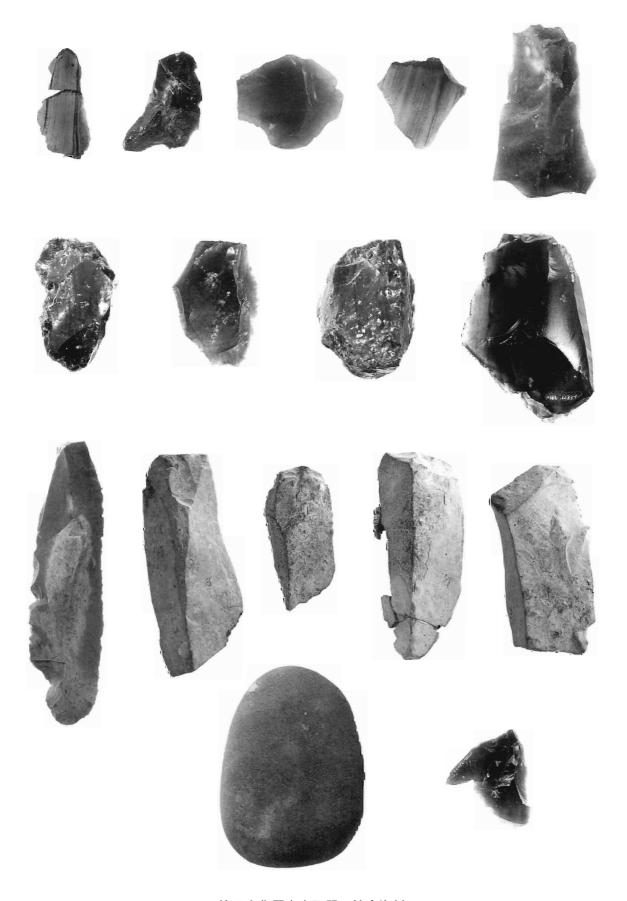




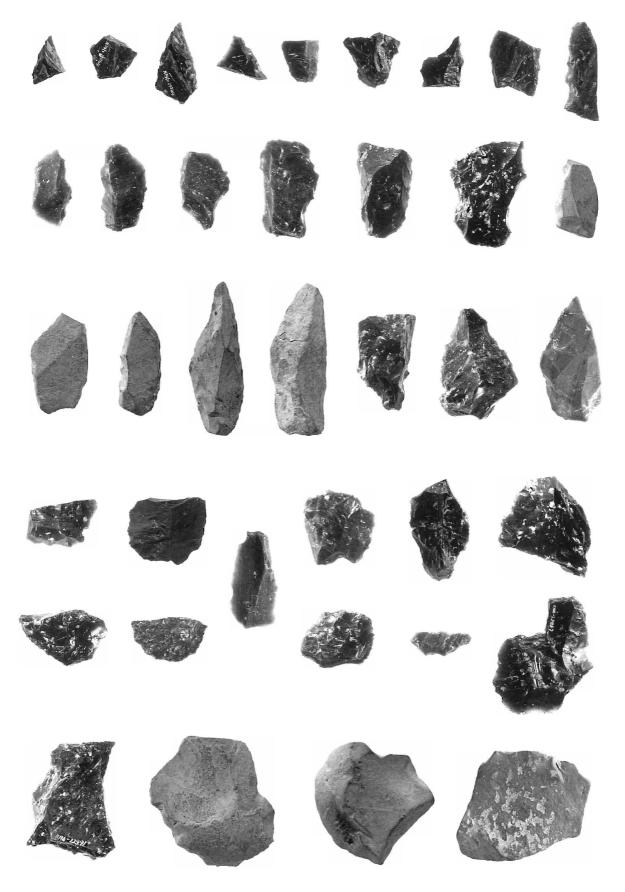
7号土坑遺物出土状況(2)



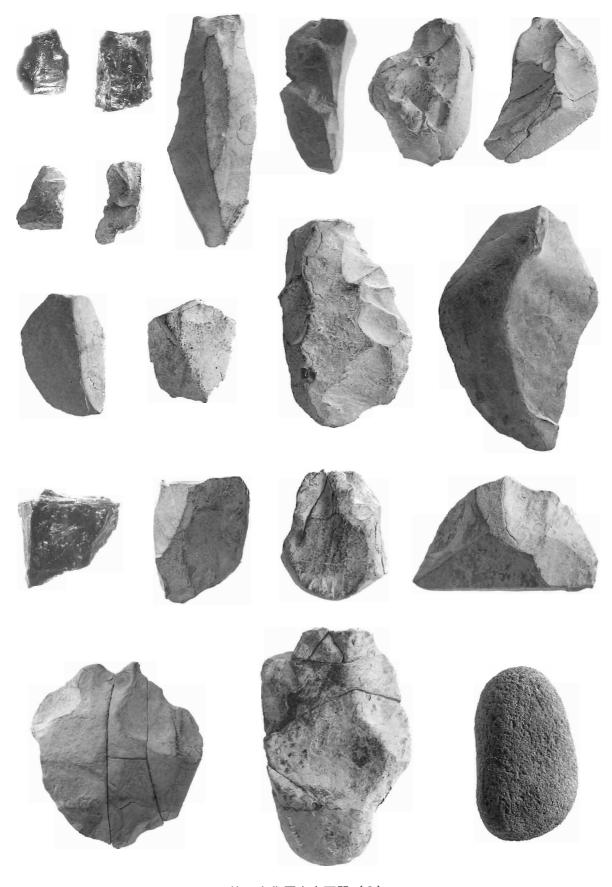
第 | 文化層出土石器・接合資料



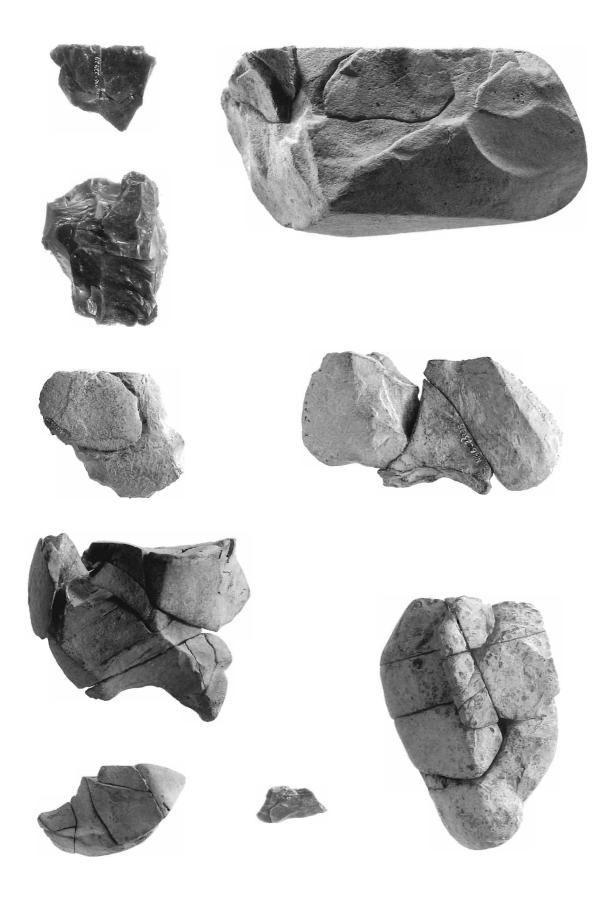
第川文化層出土石器・接合資料



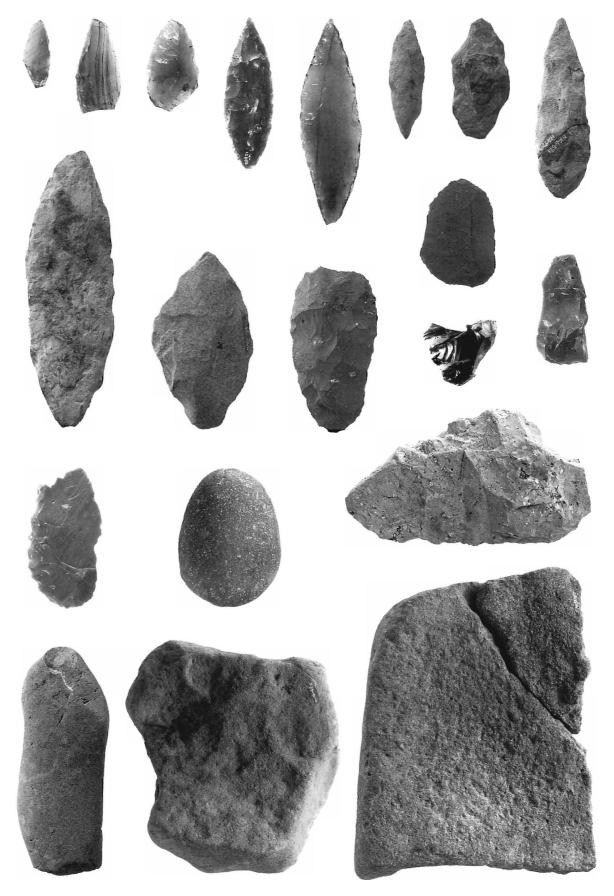
第Ⅲ文化層出土石器(1)



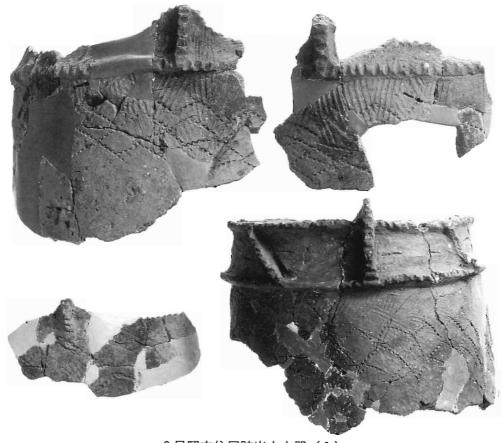
第Ⅲ文化層出土石器(2)



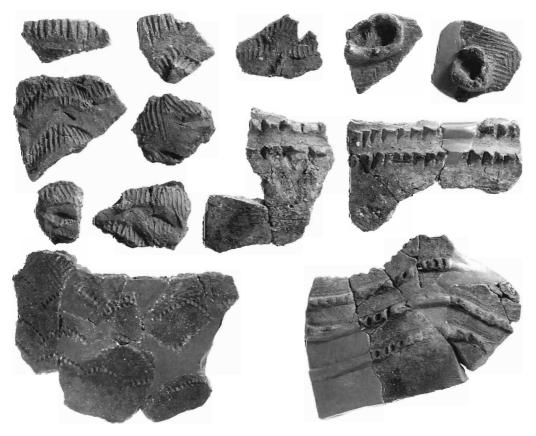
第Ⅲ文化層接合資料



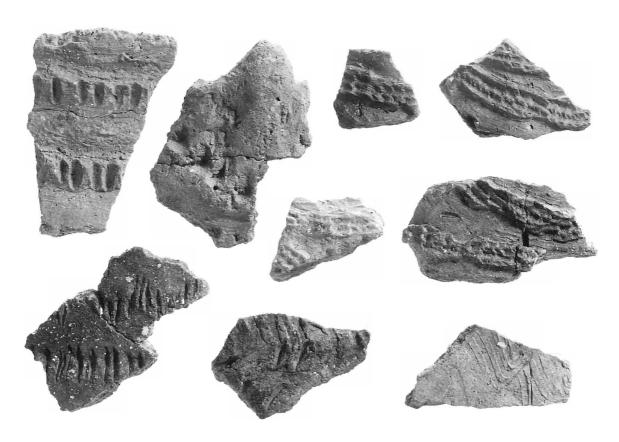
第V文化層出土石器



2号竪穴住居跡出土土器 (1)



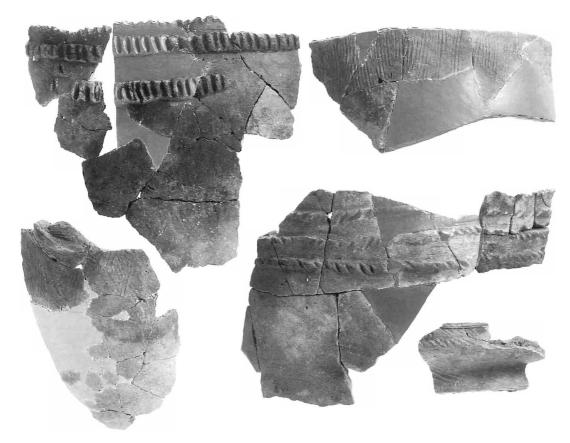
2号竪穴住居跡出土土器(2)



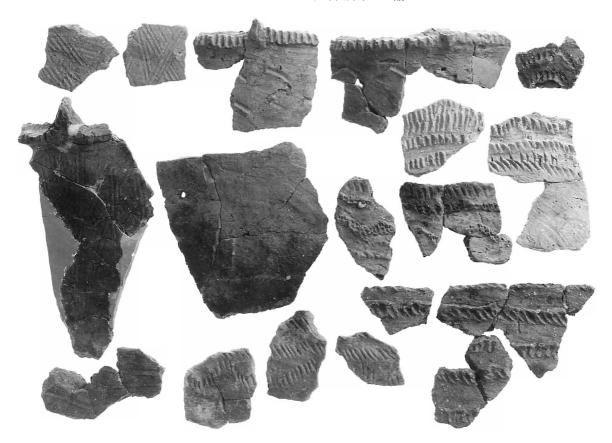
2号竪穴住居跡出土土器 (3)



3号竪穴住居跡出土土器



6・8・10号竪穴住居跡出土土器



14号竪穴住居跡出土土器(1)



14号竪穴住居跡出土土器 (2)



14号竪穴住居跡出土土器 (3)



15号竪穴住居跡出土土器(1)



15号竪穴住居跡出土土器 (2)



19号竪穴住居状遺構出土土器(1)



19号竪穴住居状遺構出土土器 (2)



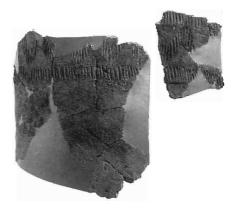
2号竪穴住居状遺構出土土器(1)



4号竪穴住居状遺構出土土器(1)



4号竪穴住居状遺構出土土器(3)



2号竪穴住居状遺構出土土器 (2)



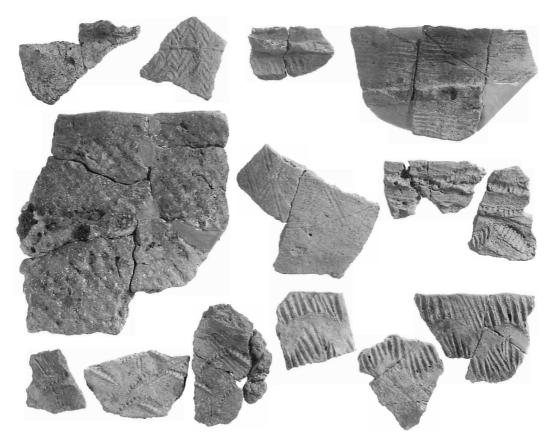
3号竪穴住居状遺構出土土器



4号竪穴住居状遺構出土土器 (2)



14号集石出土土器



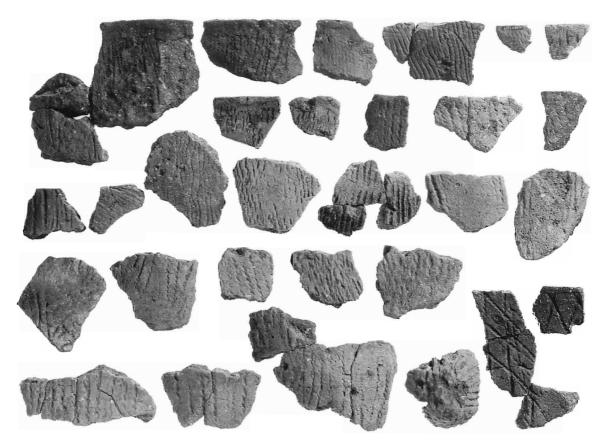
集石出土土器



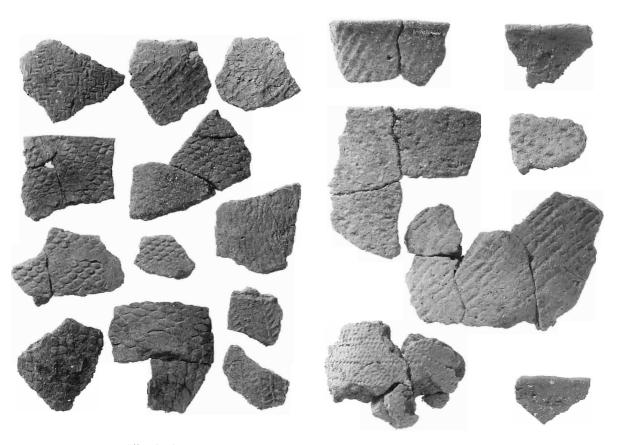
7号土坑埋納土器



7号土坑出土土器

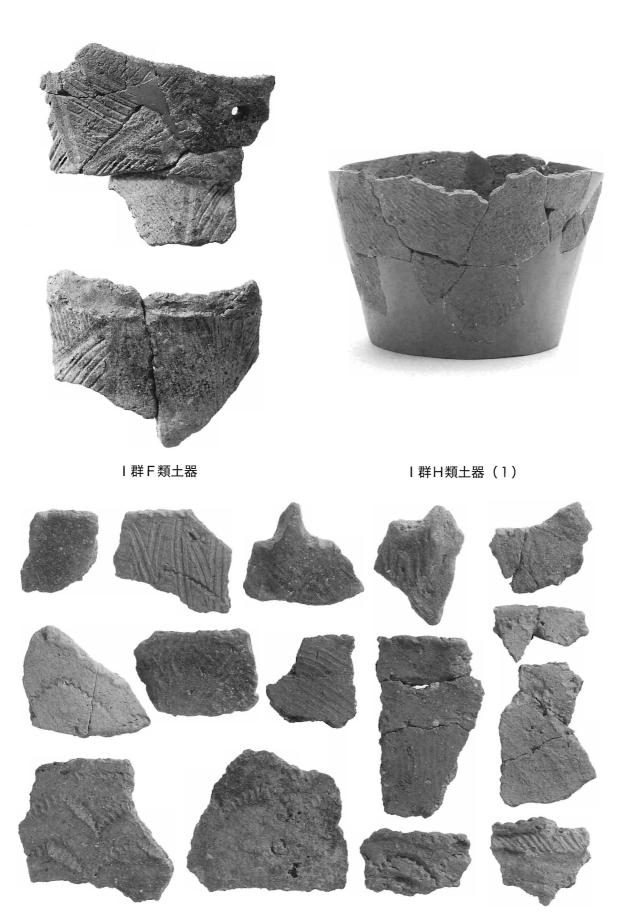


I群A類土器

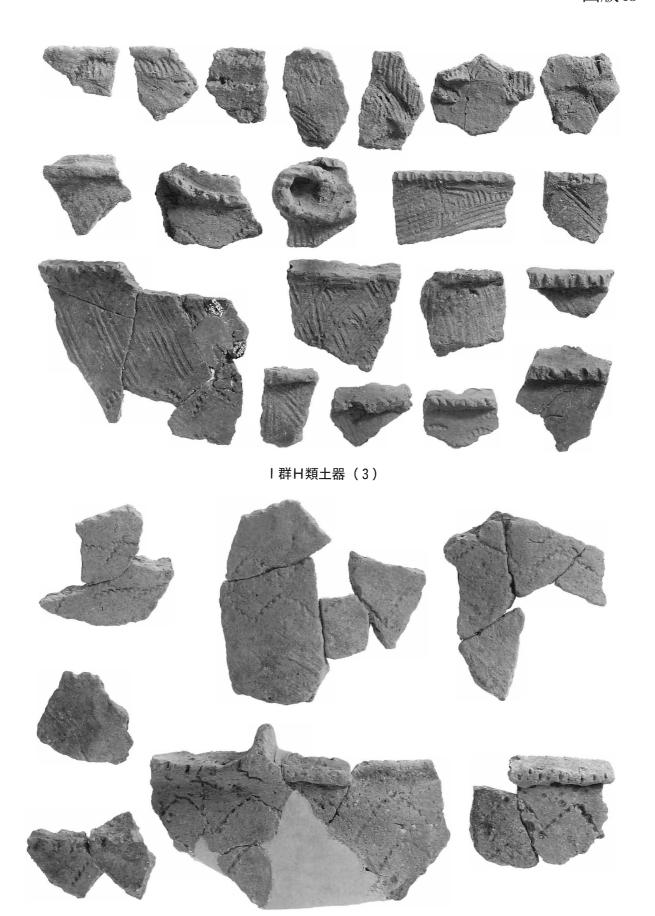


I 群 B 類 土 器

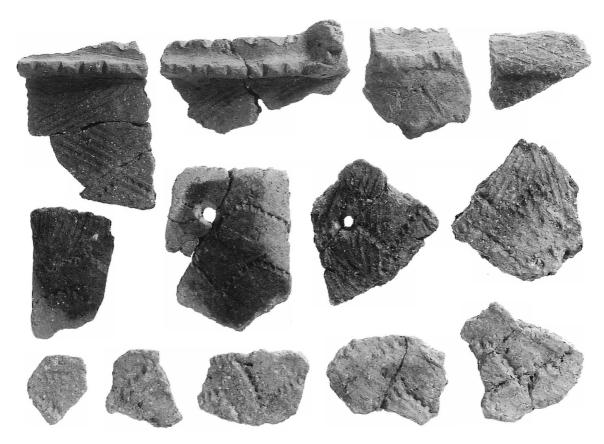
I群C類土器



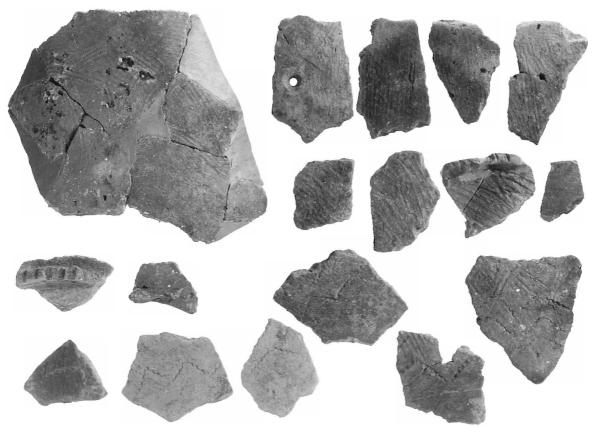
I 群H類土器 (2)



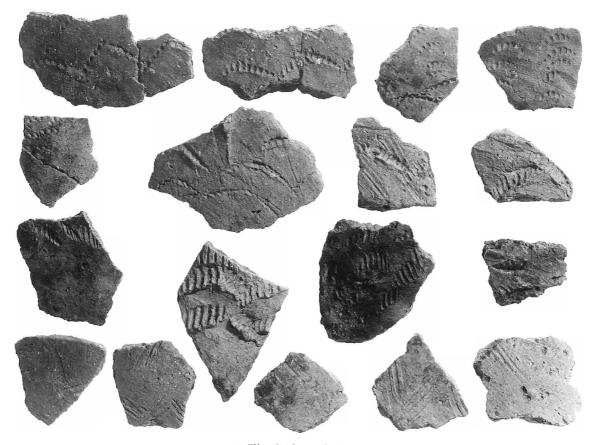
I 群H類土器(4)



I群H類土器(5)



I群H類土器(6)



I 群H類土器 (7)

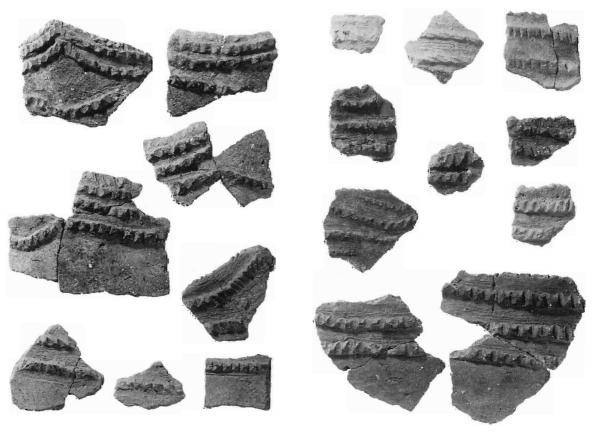


|群|類土器

Ⅰ群J類2種-1土器(1)

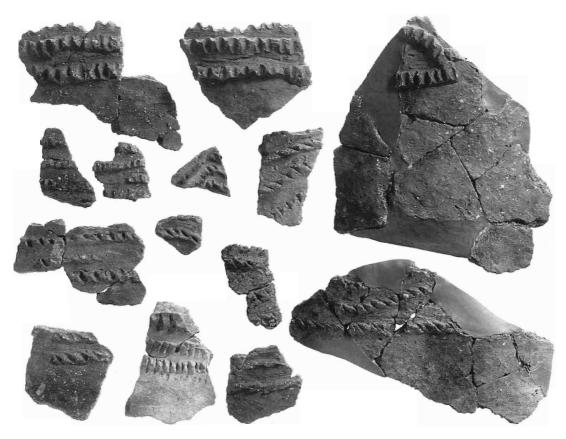


Ⅰ群J類2種-1土器(2)

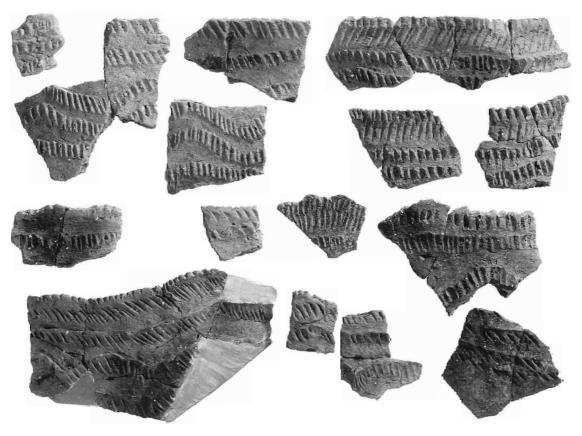


I群J類2種-1土器(3)

Ⅰ群J類2種-2土器(1)



Ⅰ群J類2種-2土器(2)



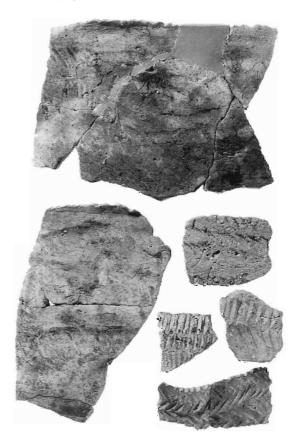
I群J類3種-1土器(1)



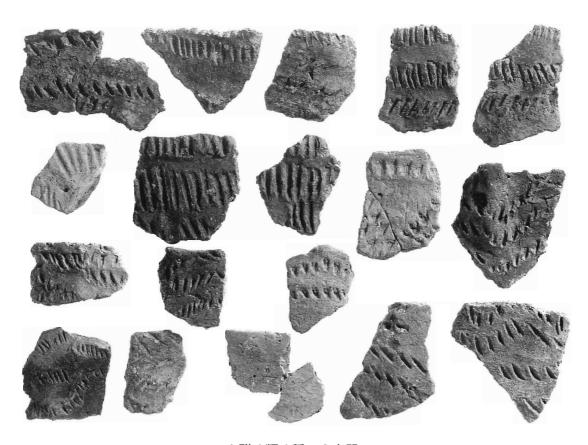
Ⅰ群J類3種-1土器(2)



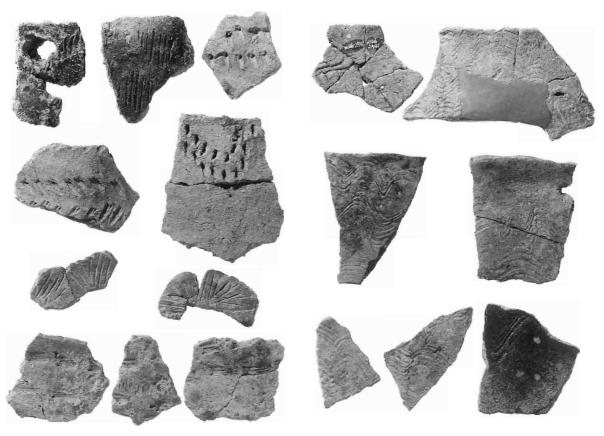




Ⅰ群J類4種-1土器



I群J類4種-2土器

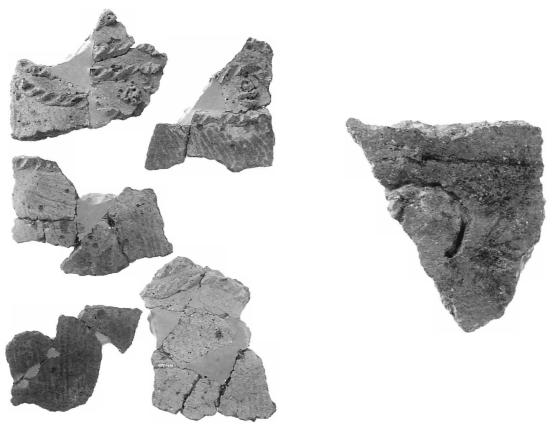


l群J類4種-2・3土器

I群J類5・6種土器



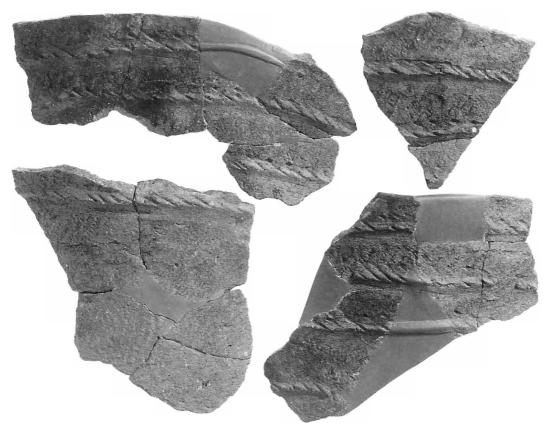
I群K・L類土器



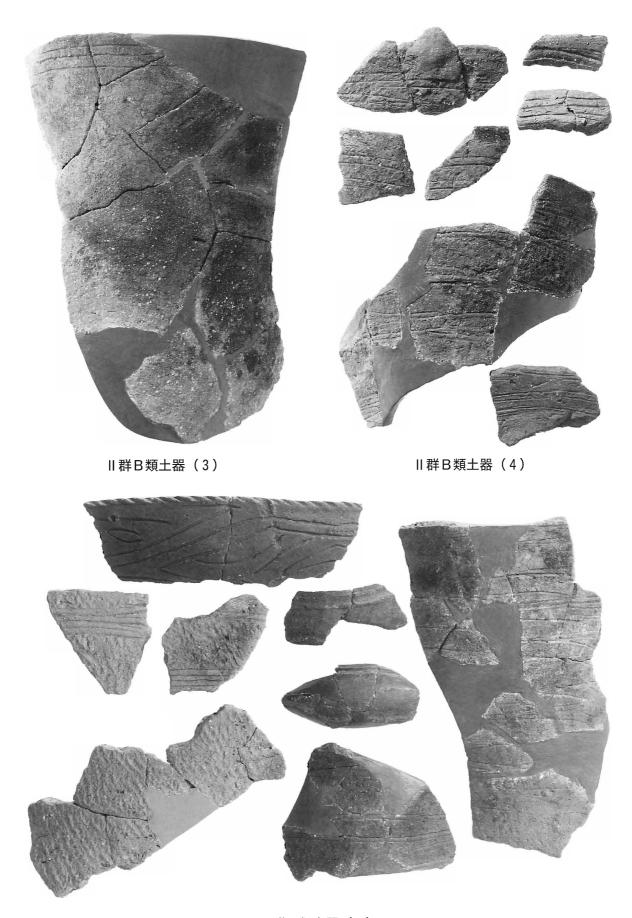
Ⅰ群K類土器 Ⅱ群A類土器



Ⅱ群B類土器(1)



Ⅱ群B類土器(2)



Ⅱ群B類土器(5)



Ⅱ群B類土器(6)



Ⅱ群B類土器 (7)



土師器(表採資料)



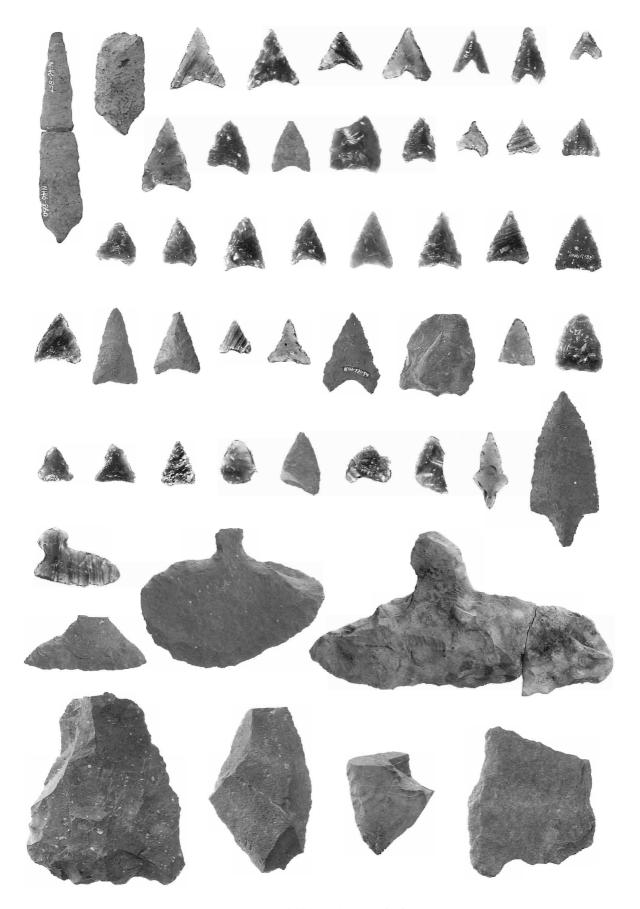
垂飾



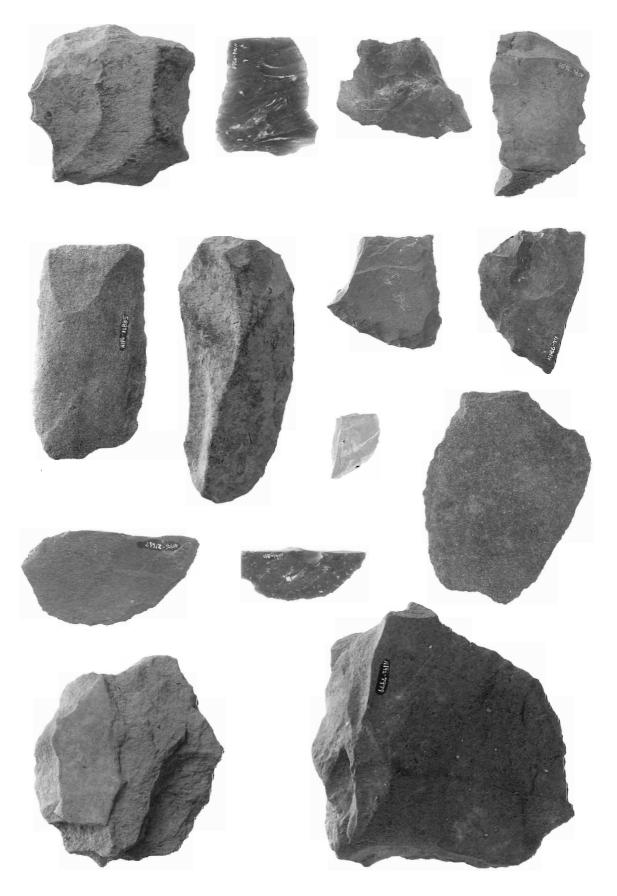
Ⅲ群土器



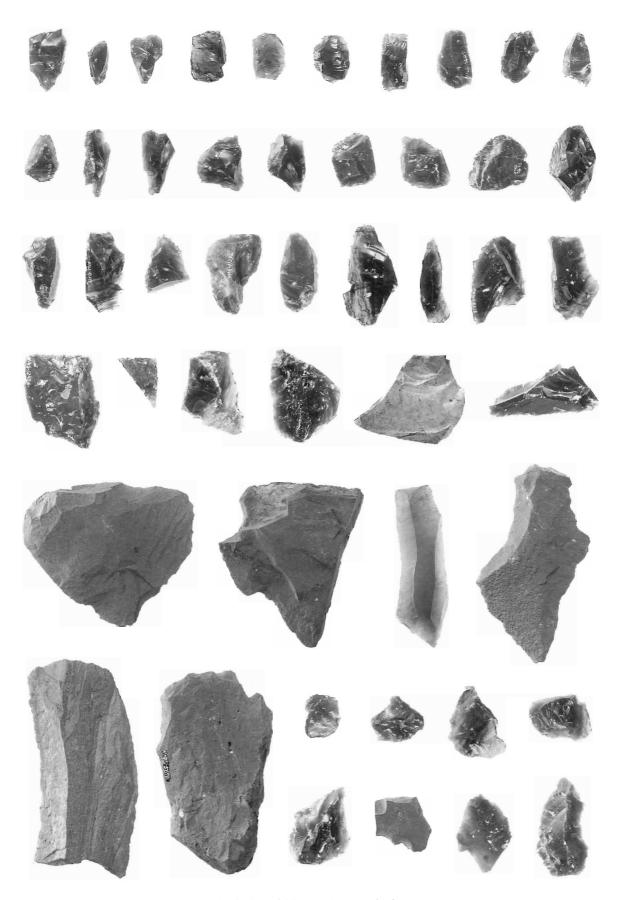
縄文時代遺構出土石器



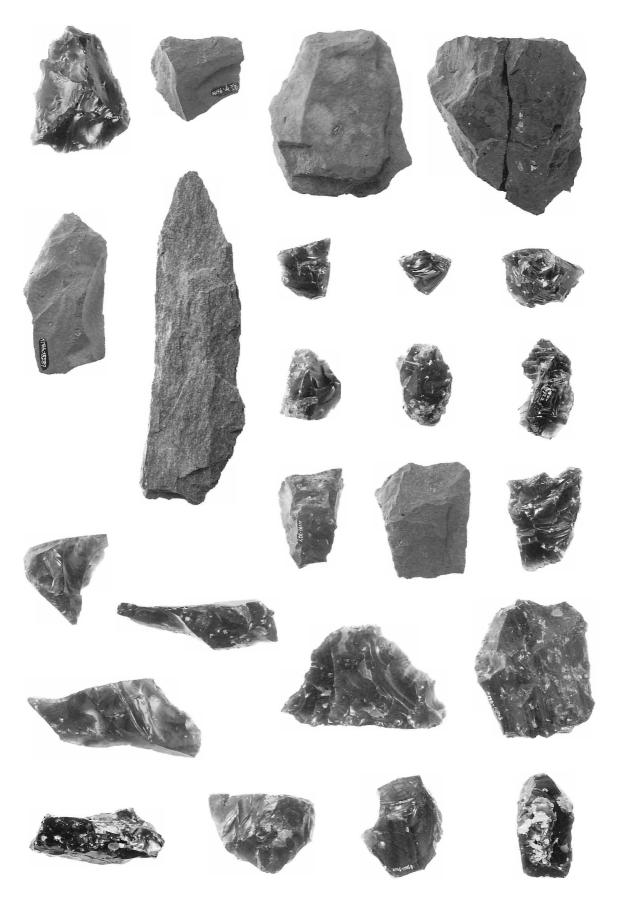
縄文時代遺構外出土石器(1)



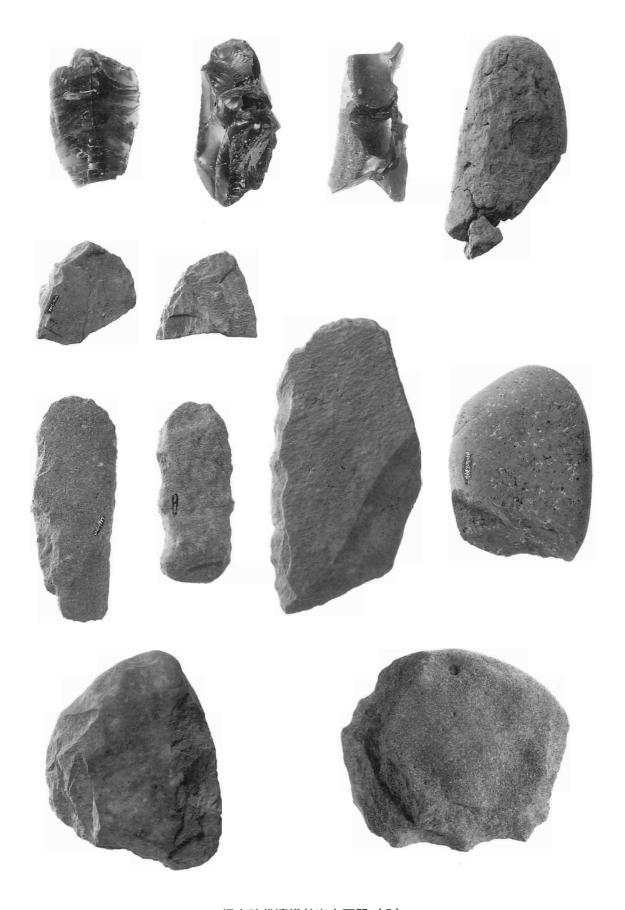
縄文時代遺構外出土石器 (2)



縄文時代遺構外出土石器 (3)



縄文時代遺構外出土石器(4)



縄文時代遺構外出土石器 (5)

報告書抄録

ふりがな	しものおおくぼいせき								
書 名	下ノ大窪遺跡								
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次	裾野市-2								
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告								
シリーズ番号	第190集								
編著者名	阿部敬・岩崎しのぶ								
編集機関	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所								
所 在 地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL054-262-4261 (代)								
発行年月日	西暦2008年3月31日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査	調査	調査	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	III FFT N	7011-7	期間	面積	原因	
しもの おおくぼ いせき 下ノ大窪遺跡	まさのしままはた 裾野市大畑 まざしものままくぼ 字下ノ大鑑 他	22220		世界》	則地系 	2003.4	12. 200	第二東名建設	
				35°11'08"	138°53' 33"				
				日本測地系		2005.3	m [†]	事業	
				35°11'20"	138°53' 22"				
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
しもの おおくぼ いせき 下ノ大窪遺跡	散布地	旧石器時 代 BBIII BB I BB 0 -YLL YLU	礫群21基 石器集中 17箇所	石器・敲石・台石・使用痕剥の石			の石器製	後期旧石器時代 の石器製作址の 重層遺跡	
	集落散布地	縄文時代 草創期 早期 前期 中期 後期	竪穴住居 跡11軒 竪穴住居 跡状遺構 5 基 集石37基 土坑16基	土器、石器(有舌尖頭器・石 鏃・掻器・削器・石匙・錐・打 製石斧・礫器・敲石・磨石・凹 石・石皿・台石・使用痕剥片・ 二次加工剥片・剥片・砕片・石 核・楔形石器、滑石製垂飾)			縄文時代早期末 打越式期の集落 跡 入海Ⅱ式土 器が共伴		

要約

旧石器時代はAT下位で1枚の文化層、上位で3枚の文化層を確認。点数は少ないが、弧状一側縁加工ナイフ形石器(第I文化層)、信州産黒曜石製石刃石器群(第II文化層)、角錐状石器(第II文化層)、尖頭器石器群(第V文化層)など、層位とよく合致する典型的な石器群が検出された。縄文時代は、早期末の竪穴住居跡11軒、神津島産黒曜石製の石鏃約80点、礫石器類700点余りを確認した。竪穴住居の利用は必ずしも継続的とはいえないが、生業内容の安定性を窺わせる内容。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第190集

下ノ大窪遺跡

第二東名No.146地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年3月31日発行

編集・発行 財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20

TEL 054-262-4261(代)

FAX 054-262-4266

印 刷 所 松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡2210

TEL 0548-32-0851(代)

